

可児市
市民意識アンケート調査
調査結果報告書

令和元年9月

可 児 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	全世代	2
(1)	回答者属性	2
(2)	可児市への居住理由について	12
(3)	施策の重要度と満足度について	19
(4)	可児市のイメージについて	82
(5)	子育て環境について	104
(6)	運動の推進について	110
(7)	防災への取組みについて	115
(8)	教育や学習に関する施策について	116
2	若年層	202
(1)	回答者属性	202
(2)	可児市への居住理由について	210
(3)	施策の重要度と満足度について	216
(4)	可児市のイメージについて	282
(5)	子育て環境について	305
(6)	運動の推進について	312
(7)	防災への取組みについて	316
(8)	教育や学習に関する施策について	317

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 27 年 10 月に策定した「可児市総合戦略」の施策の評価のための指標とするとともに、市政に対しての市民の皆さんの考えをお聞かせいただくために実施するものです。

2 調査対象

可児市在住の 16 歳以上を無作為抽出

3 調査期間

平成 31 年 4 月 18 日から令和元年 5 月 7 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
①16 歳以上の市民	2,000 通	776 通	38.8%
②①以外の 16 歳～39 歳までの市民	1,000 通	221 通	22.1%

※本文中の若年層は、①のうちの 16 歳～39 歳（115 通）と②を合算して分析しています。

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

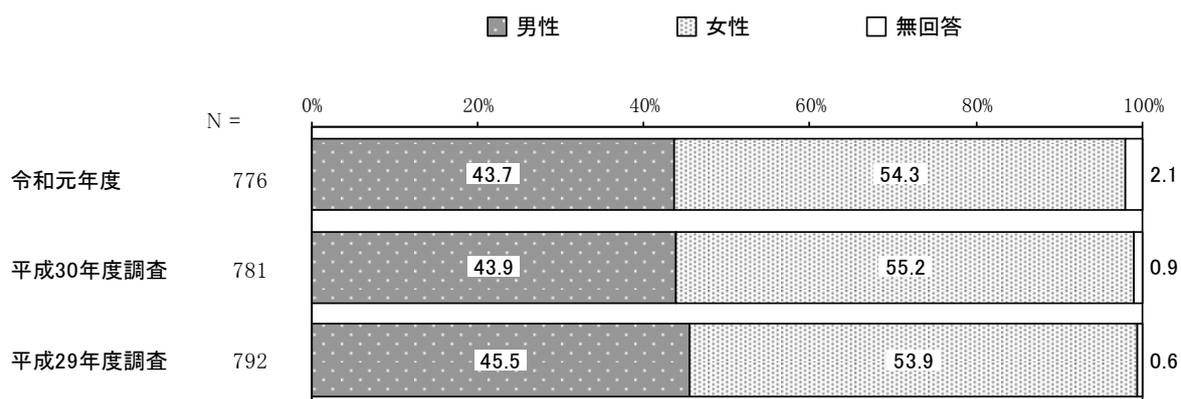
II 調査結果

1 全世代

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つだけ)

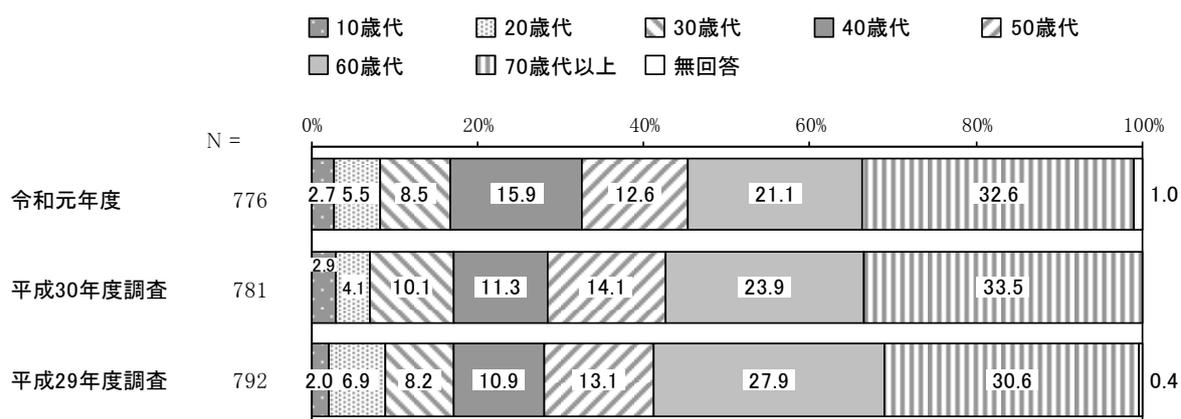
「男性」の割合が43.7%、「女性」の割合が54.3%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

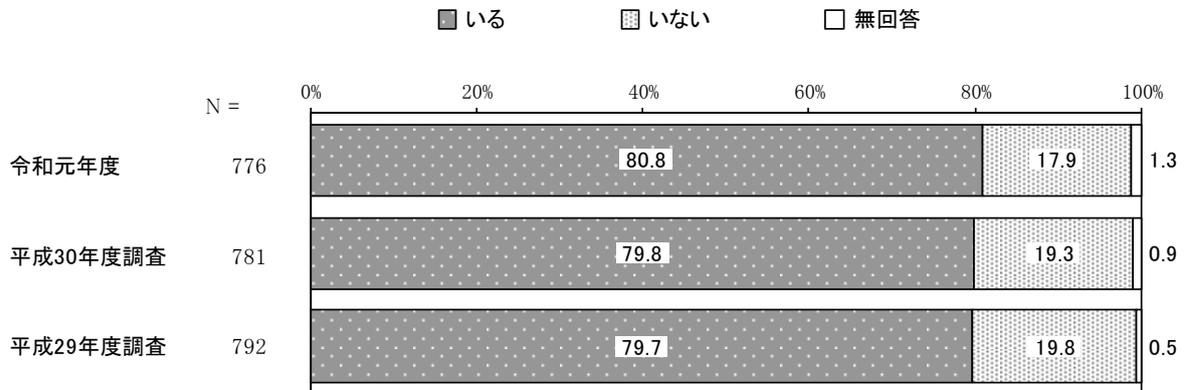
「70歳代以上」の割合が32.6%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が21.1%、「40歳代」の割合が15.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「40歳代以上」の割合が増加し、「60歳代」の割合が減少しています。



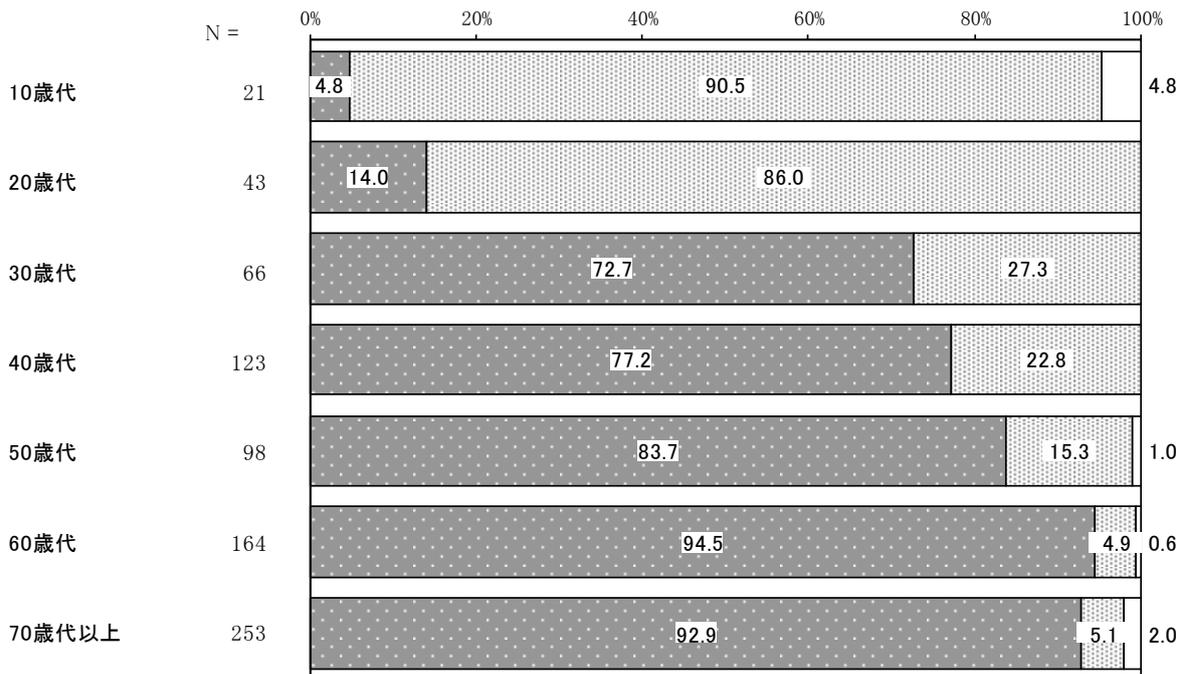
問3 あなたには、子どもはいますか。(いる場合は子どもの世代も選択して下さい。)

「いる」の割合が80.8%、「いない」の割合が17.9%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年代別】

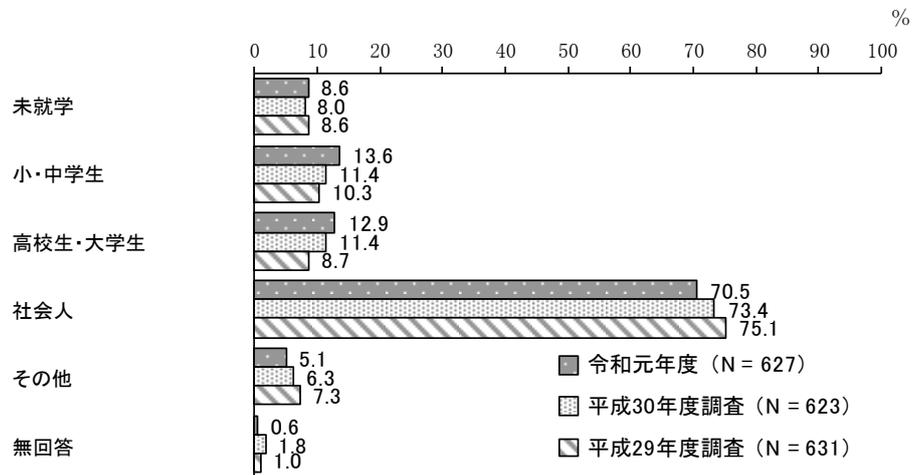
年代別でみると、60歳代以下で年代が高くなるにつれ「いる」の割合が高くなっており、60歳代で9割台半ばとなっています。



子どもの世代

「社会人」の割合が70.5%と最も高く、次いで「小・中学生」の割合が13.6%、「高校生・大学生」の割合が12.9%となっています。

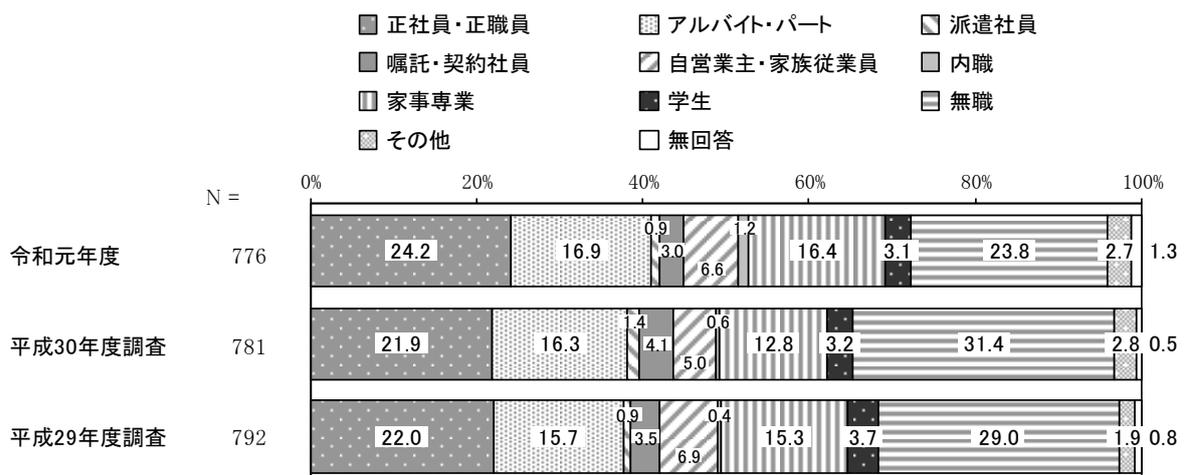
平成29年度調査と比較すると、「社会人」の割合が減少しています。



問4 あなたの職業は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

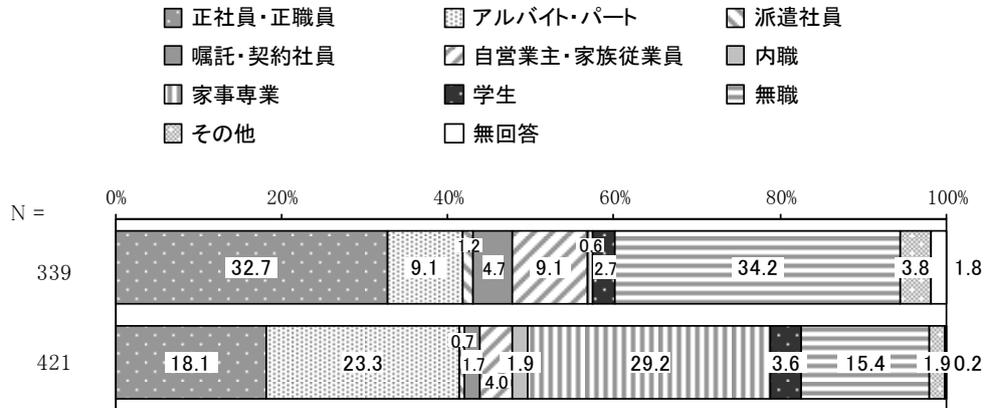
「正社員・正職員」の割合が24.2%と最も高く、次いで「無職」の割合が23.8%、「アルバイト・パート」の割合が16.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「無職」の割合が減少し、「家事専業」の割合が増加しています。



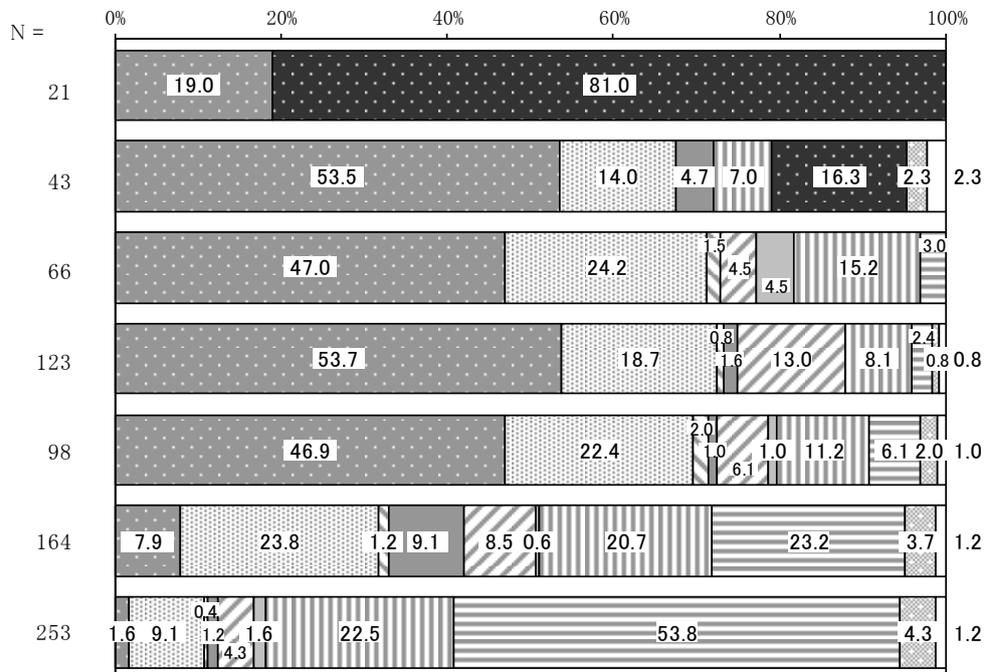
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「正社員・正職員」「自営業主・家族従業員」「無職」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「アルバイト・パート」「家事専業」の割合が高くなっています。



【年代別】

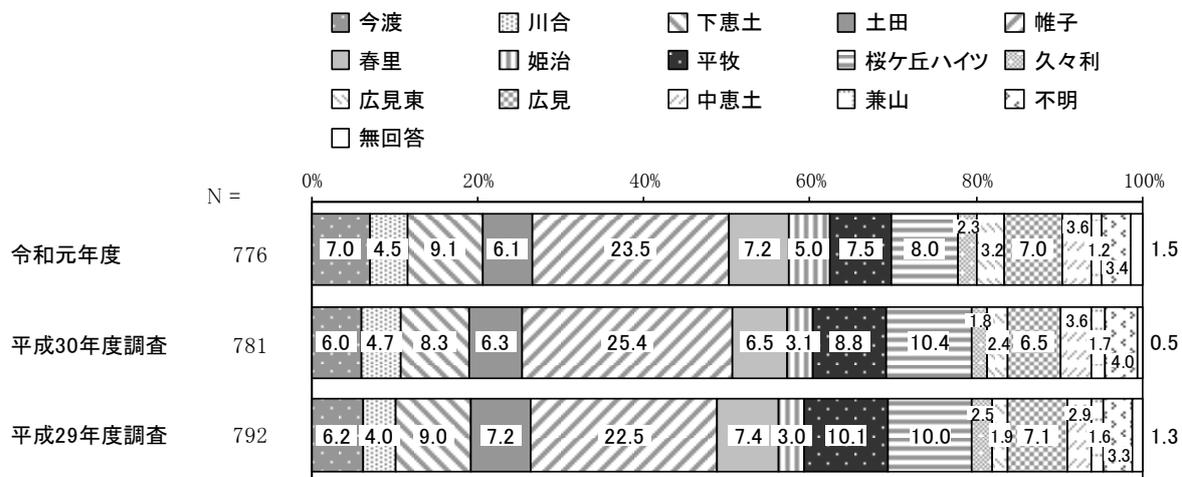
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代から50歳代で「正社員・正職員」の割合が高く、特に20歳代、40歳代で約5割となっています。また、70歳代以上で「無職」の割合が、30歳代、50歳代で「アルバイト・パート」の割合が高くなっています。



問5 あなたは、どちらにお住まいですか。(自治連合会単位)

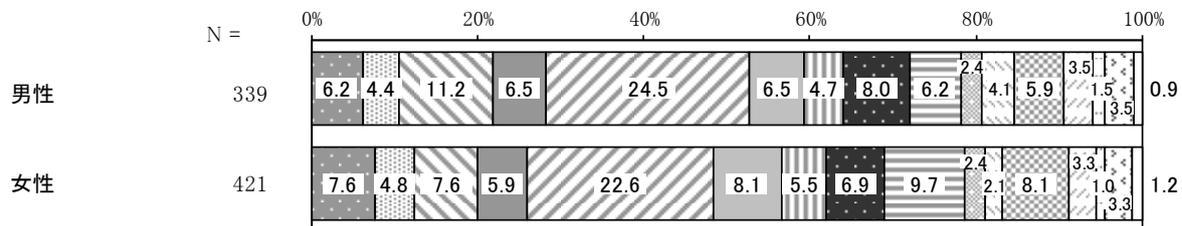
「帷子」の割合が23.5%と最も高くなっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



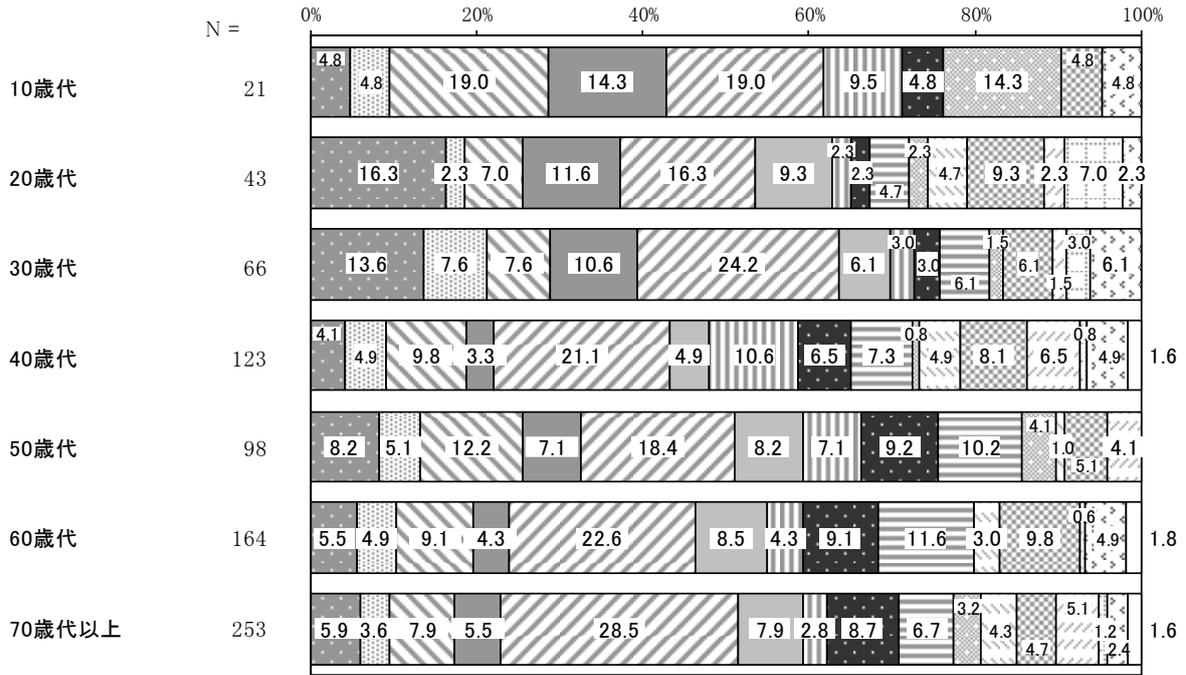
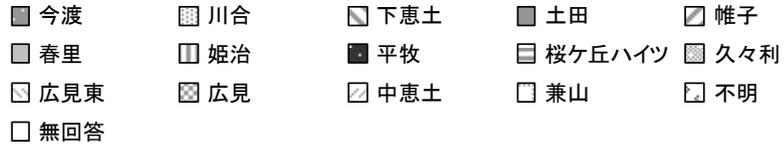
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



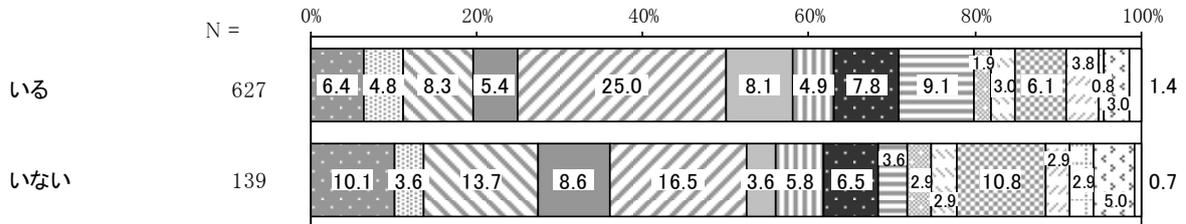
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で「久々利」の割合が、20歳代、30歳代で「今渡」の割合が高くなっています。



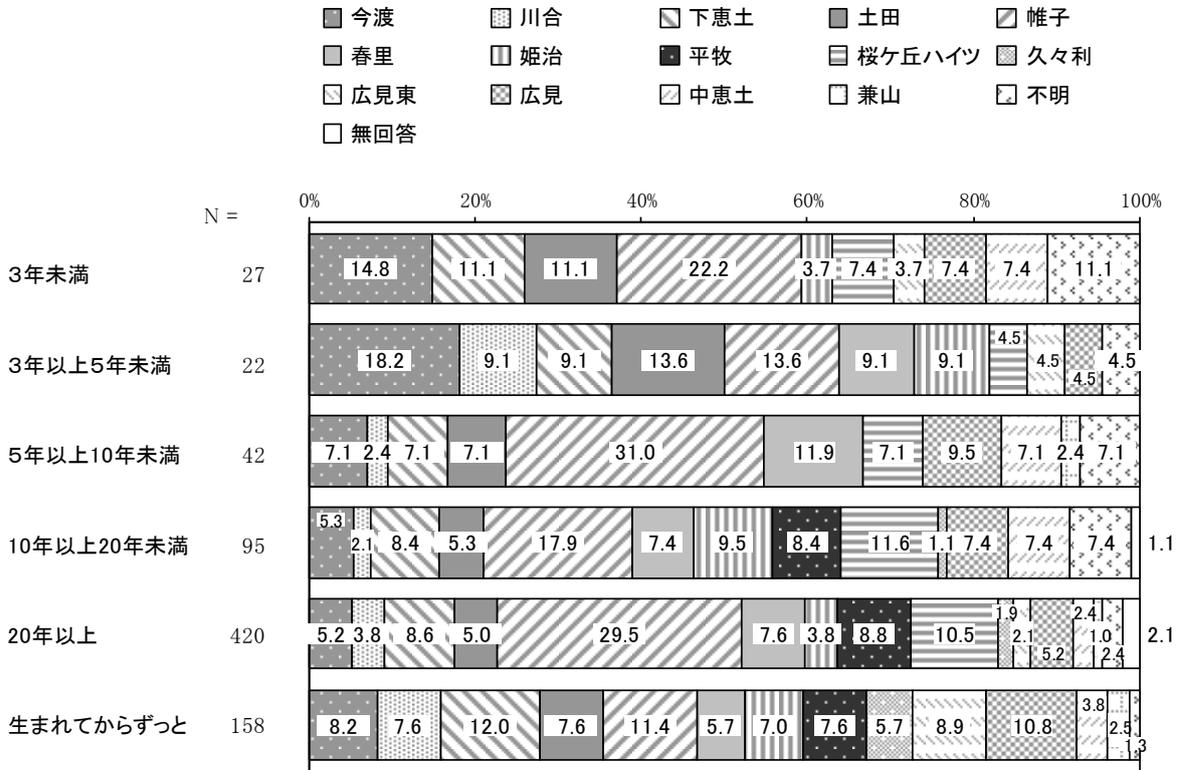
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「帷子」「桜ヶ丘ハイツ」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「下恵土」の割合が高くなっています。



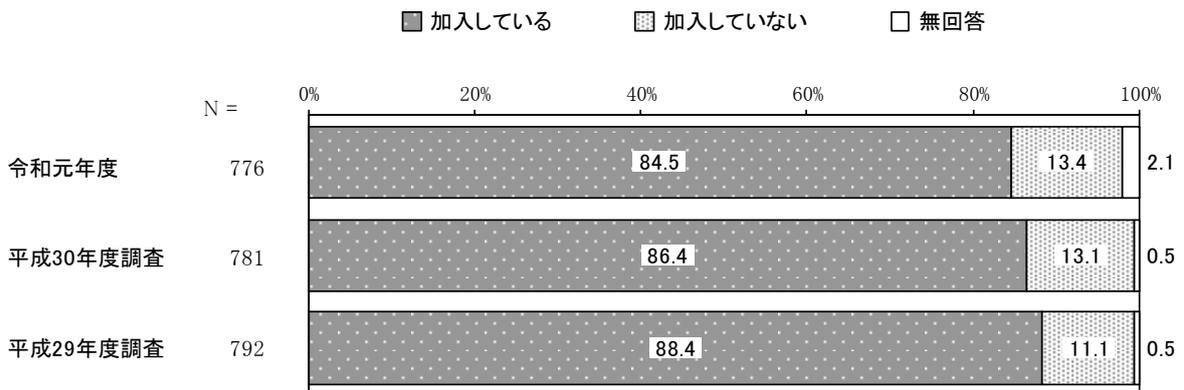
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で「今渡」の割合が高くなっています。また、5年以上10年未満、20年以上で「帷子」の割合が高くなっています。



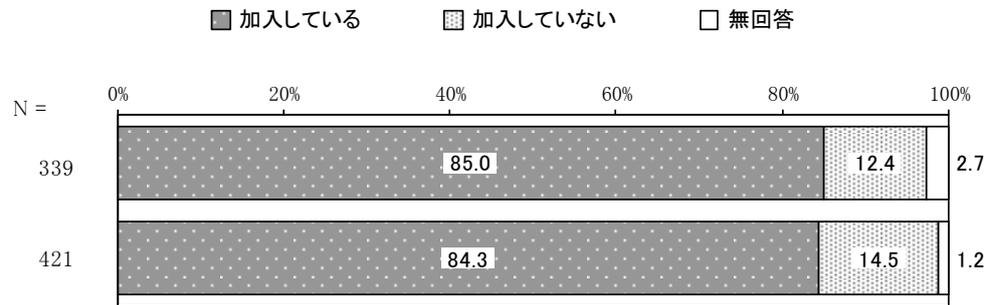
問6 あなたは、お住まいの地区の自治会に加入していますか。

「加入している」の割合が84.5%、「加入していない」の割合が13.4%となっています。平成29年度調査と比較すると、「加入している」の割合が減少しています。



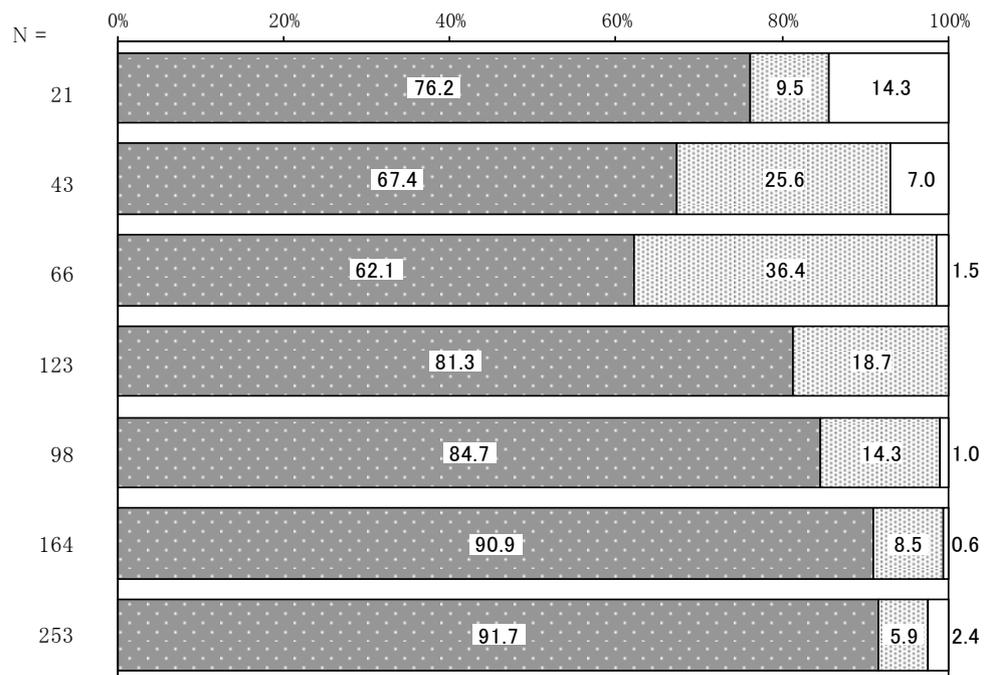
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



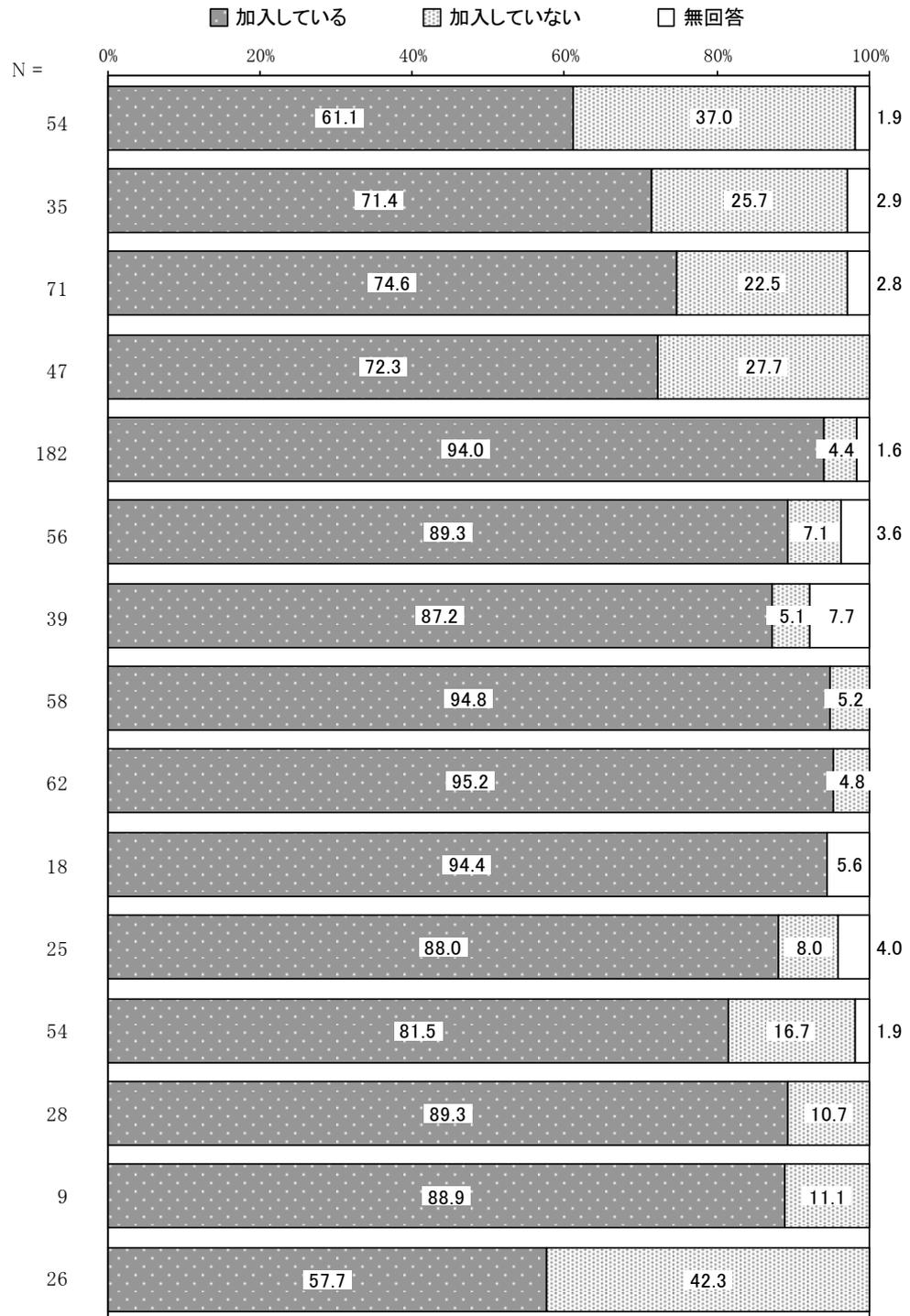
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、60歳代以上で「加入している」の割合が高く、約9割となっています。また、30歳代で「加入していない」の割合が高く、3割台半ばとなっています。



【居住地区別】

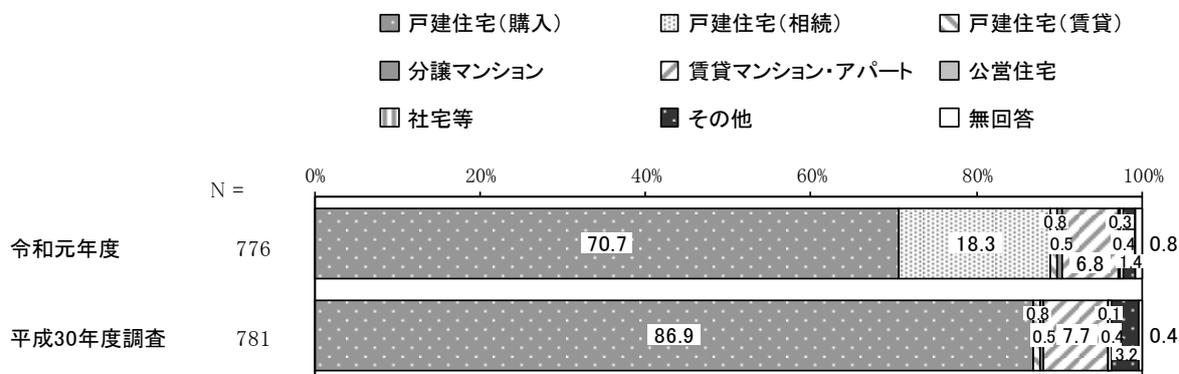
居住地区別で見ると、他の地区に比べ、帷子、平牧、桜ヶ丘ハイツ、久々利で「加入している」の割合が高く、9割を超えています。また、今渡で「加入していない」の割合が高く、約4割となっています。



問7 お住まいの形態は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

「戸建住宅（購入）」の割合が70.7%と最も高く、次いで「戸建住宅（相続）」の割合が18.3%となっています。

平成30年度調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。

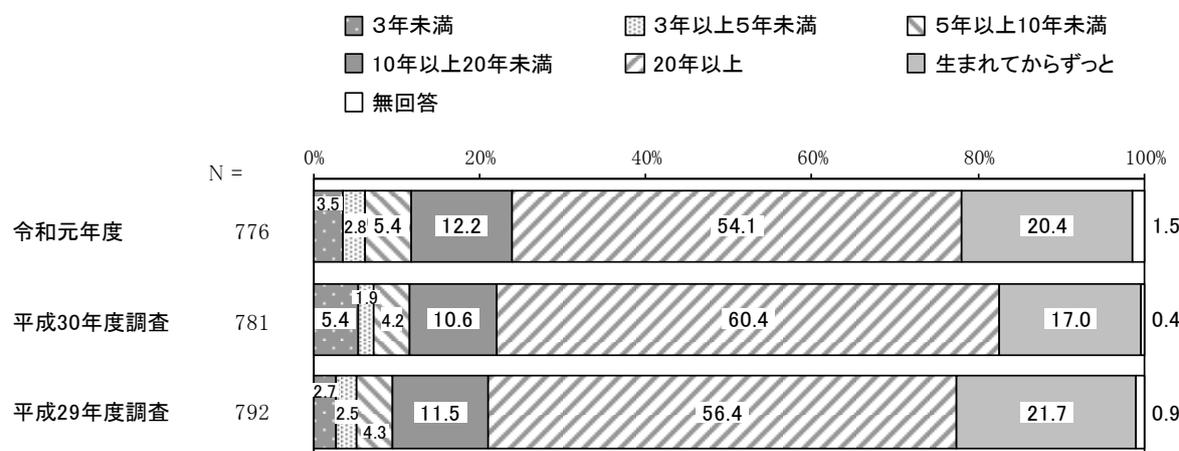


※平成30年度調査には「戸建住宅（相続）」の選択肢はありませんでした。

問8 あなたは、可児市(合併前の兼山町を含む)にお住まいになって何年ですか。

「20年以上」の割合が54.1%と最も高く、次いで「生まれてからずっと」の割合が20.4%、「10年以上20年未満」の割合が12.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「20年以上」の割合が減少しています。



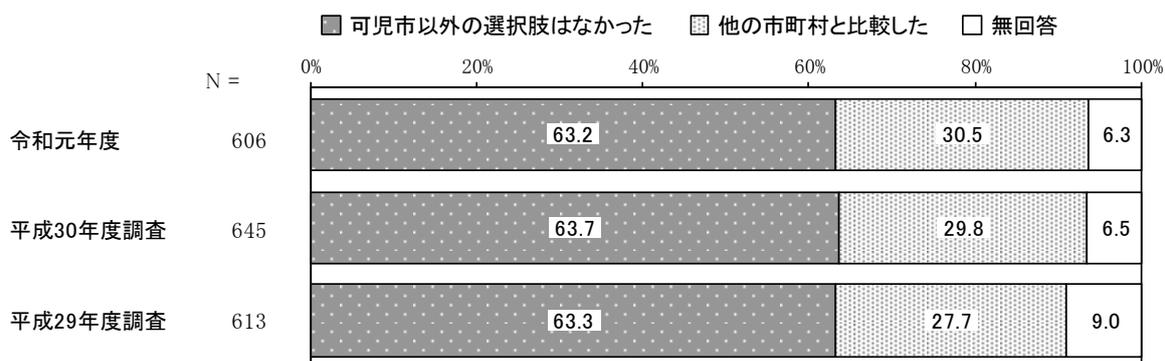
(2) 可児市への居住理由について

【問8で「3年未満」～「20年以上」を選択された方に伺います】

問9 どのように可児市を転居先に選ばれましたか。(〇は1つだけ)

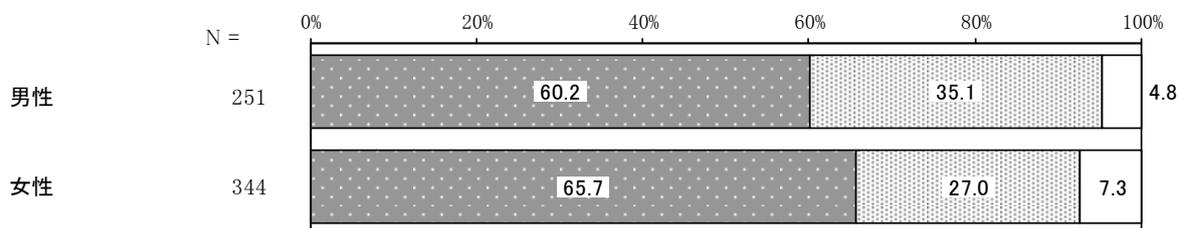
「可児市以外の選択肢はなかった」の割合が63.2%、「他の市町村と比較した」の割合が30.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



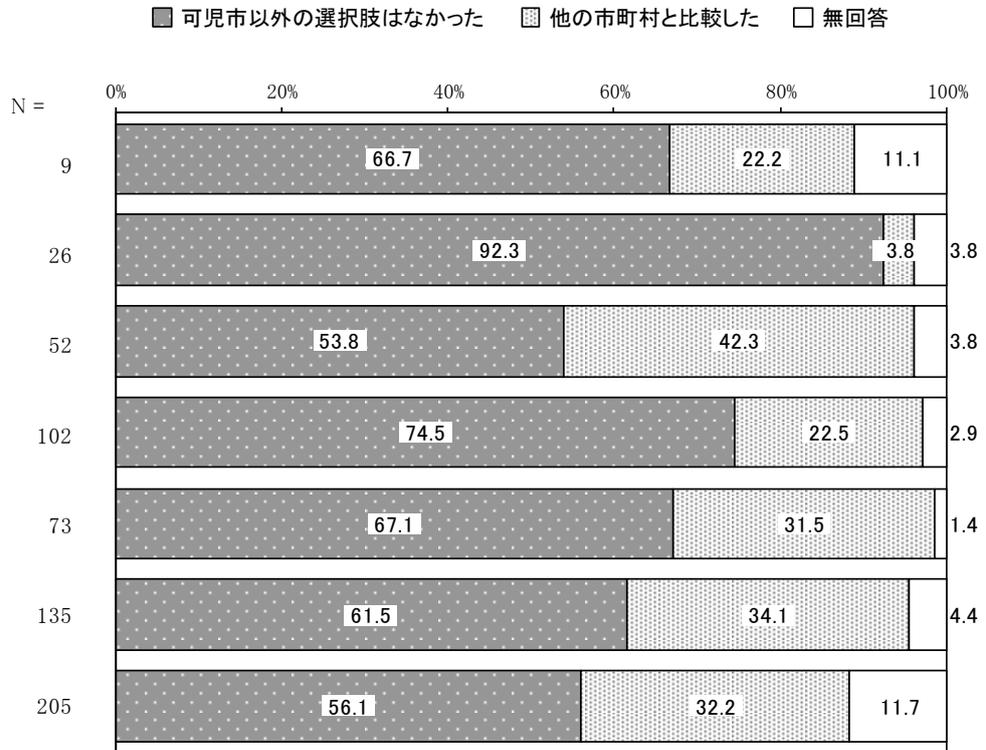
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「他の市町村と比較した」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「可児市以外の選択肢はなかった」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「可児市以外の選択肢はなかった」の割合が高く、約9割となっています。また、30歳代で「他の市町村と比較した」の割合が高く、約4割となっています。



<比較した市町村>

多治見市 (53 件)
 名古屋市 (29 件)
 各務原市 (15 件)
 可児市 (5 件)
 関市 (4 件)
 扶桑町 (3 件)
 岩倉市 (2 件)
 大口町 (2 件)
 長久手市 (2 件)
 稲沢市 (1 件)
 四日市市 (1 件)
 知立市 (1 件)
 八百津町 (1 件)
 清須市 (1 件)
 みよし市 (1 件)

犬山市 (50 件)
 小牧市 (26 件)
 江南市 (9 件)
 瑞浪市 (5 件)
 知多市 (4 件)
 豊田市 (3 件)
 御嵩 (2 件)
 大府市 (2 件)
 愛知県内 (1 件)
 岐阜市 (1 件)
 常滑市 (1 件)
 中津川市 (1 件)
 半田市 (1 件)
 豊橋市 (1 件)

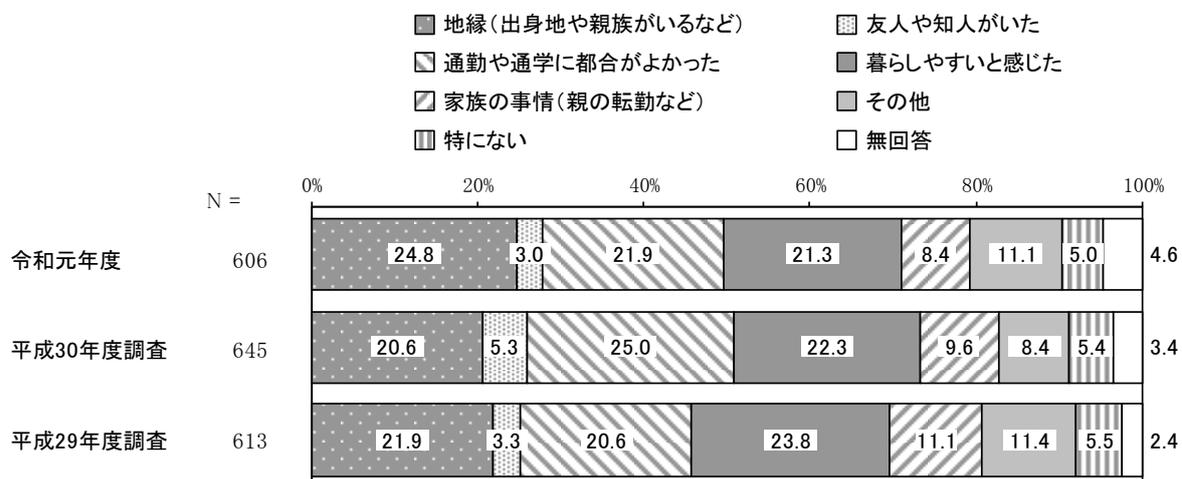
春日井市 (37 件)
 美濃加茂市 (26 件)
 桑名市 (7 件)
 土岐市 (5 件)
 岡崎市 (3 件)
 北名古屋市 (3 件)
 瀬戸市 (2 件)
 丹羽郡 (2 件)
 一宮市 (1 件)
 御嵩町 (1 件)
 大垣市 (1 件)
 津島市 (1 件)
 飯田市 (1 件)
 東郷町 (1 件)

【問8で「3年未満」～「20年以上」を選択された方に伺います】

問10 可児市を選んだ理由は何ですか。(〇は1つだけ)

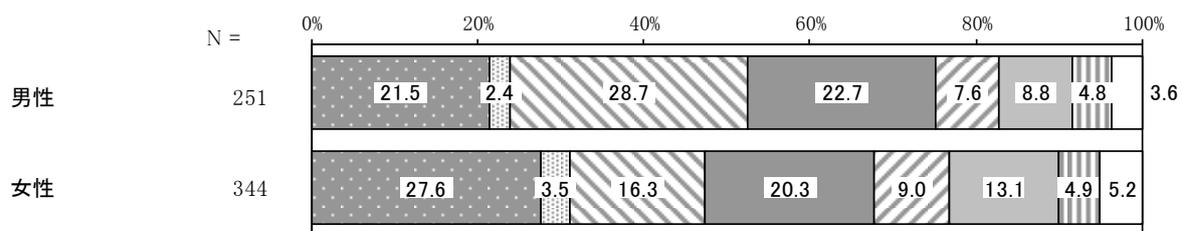
「地縁（出身地や親族がいるなど）」の割合が24.8%と最も高く、次いで「通勤や通学に都合がよかった」の割合が21.9%、「暮らしやすいと感じた」の割合が21.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



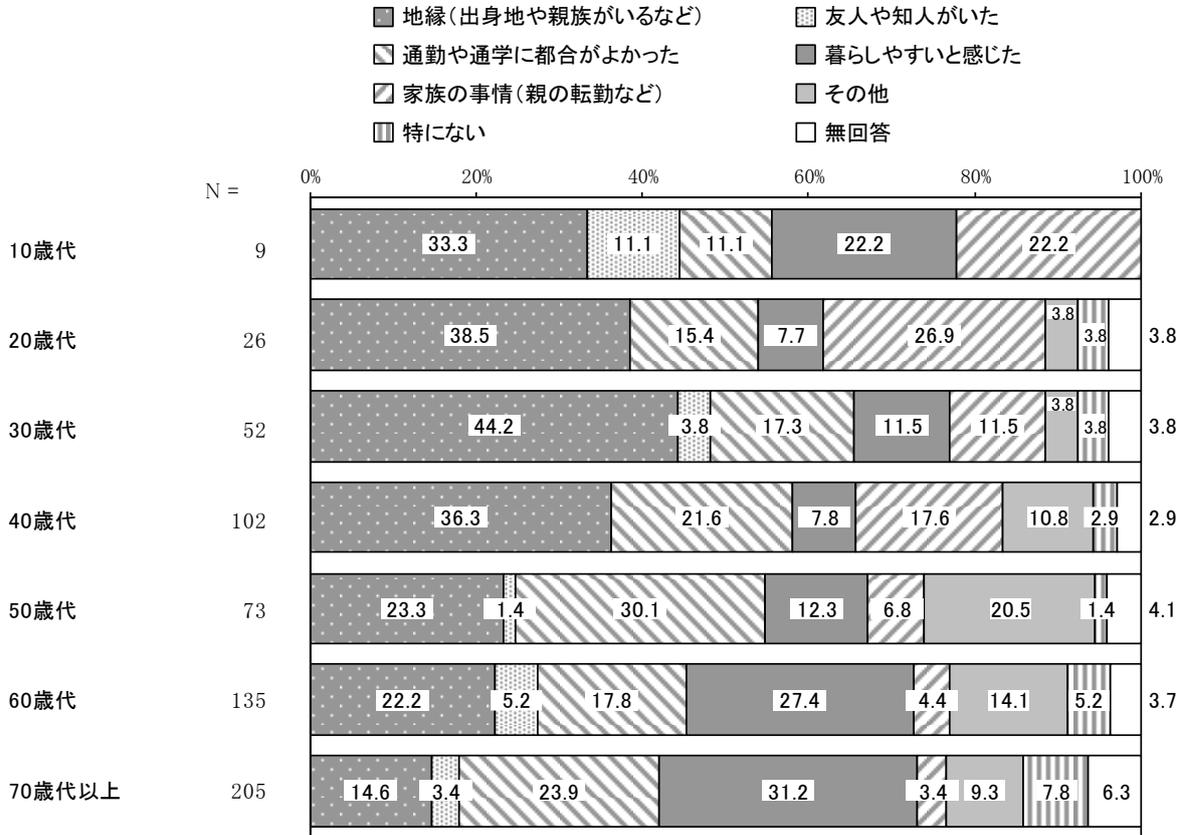
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「通勤や通学に都合がよかった」の割合が高く、約3割となっています。男性に比べ、女性で「地縁（出身地や親族がいるなど）」の割合が高く、約3割となっています。



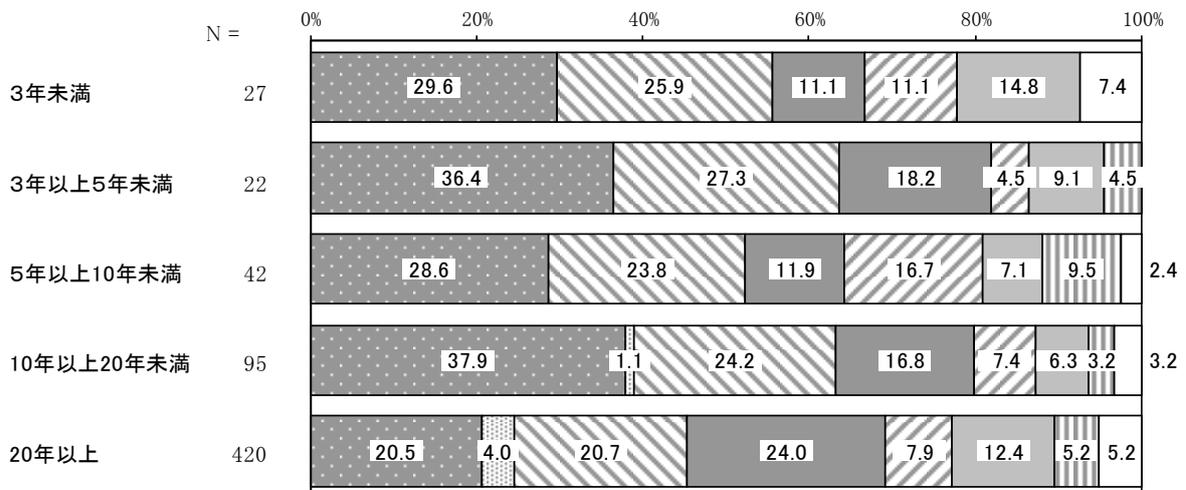
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「地縁（出身地や親族がいるなど）」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、60歳代以上で「暮らしやすいと感じた」の割合が高く、約3割となっています。



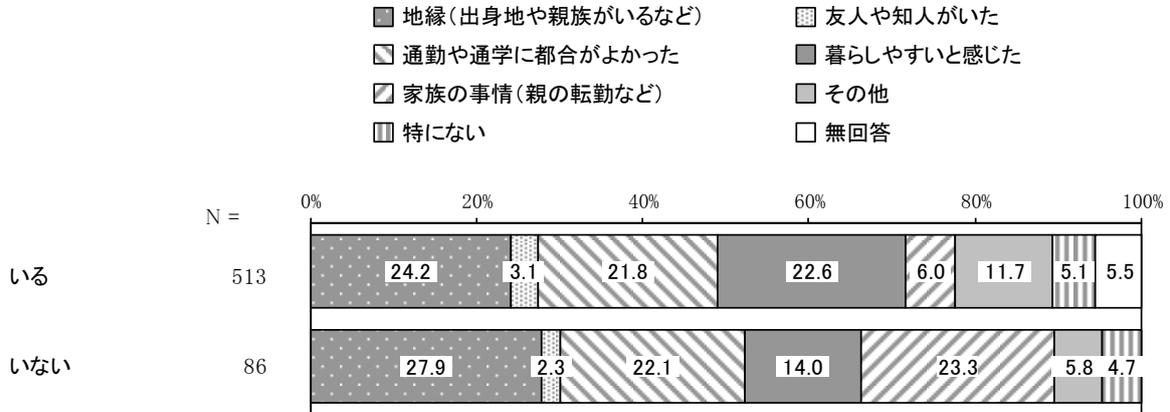
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、10年以上20年未満で「地縁（出身地や親族がいるなど）」の割合が高く、約4割となっています。



【子どもの有無別】

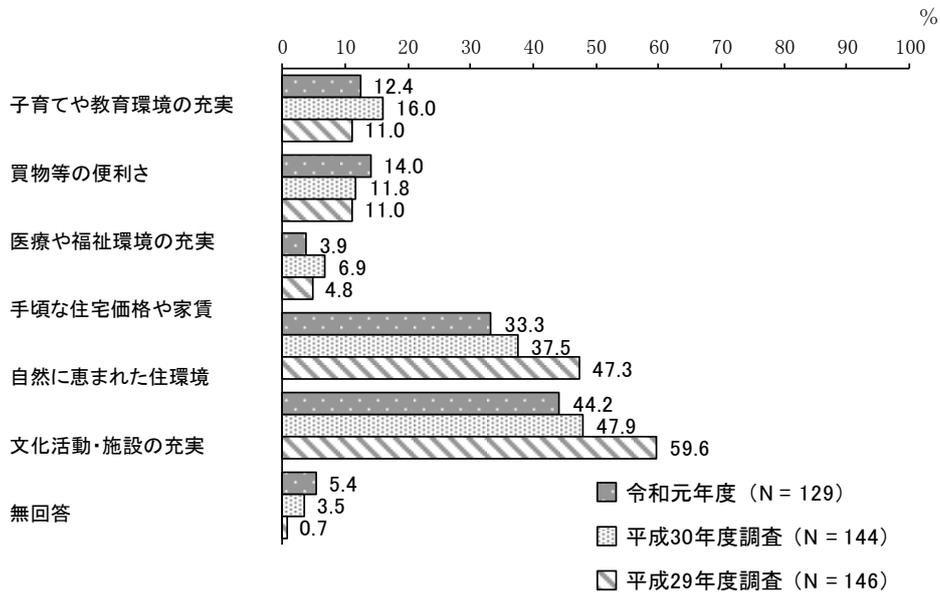
子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「暮らしやすいと感じた」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「家族の事情（親の転勤など）」の割合が高くなっています。



暮らしやすいと感じた理由

「自然に恵まれた住環境」の割合が44.2%と最も高く、次いで「手頃な住宅価格や家賃」の割合が33.3%、「買物等の便利さ」の割合が14.0%となっています。

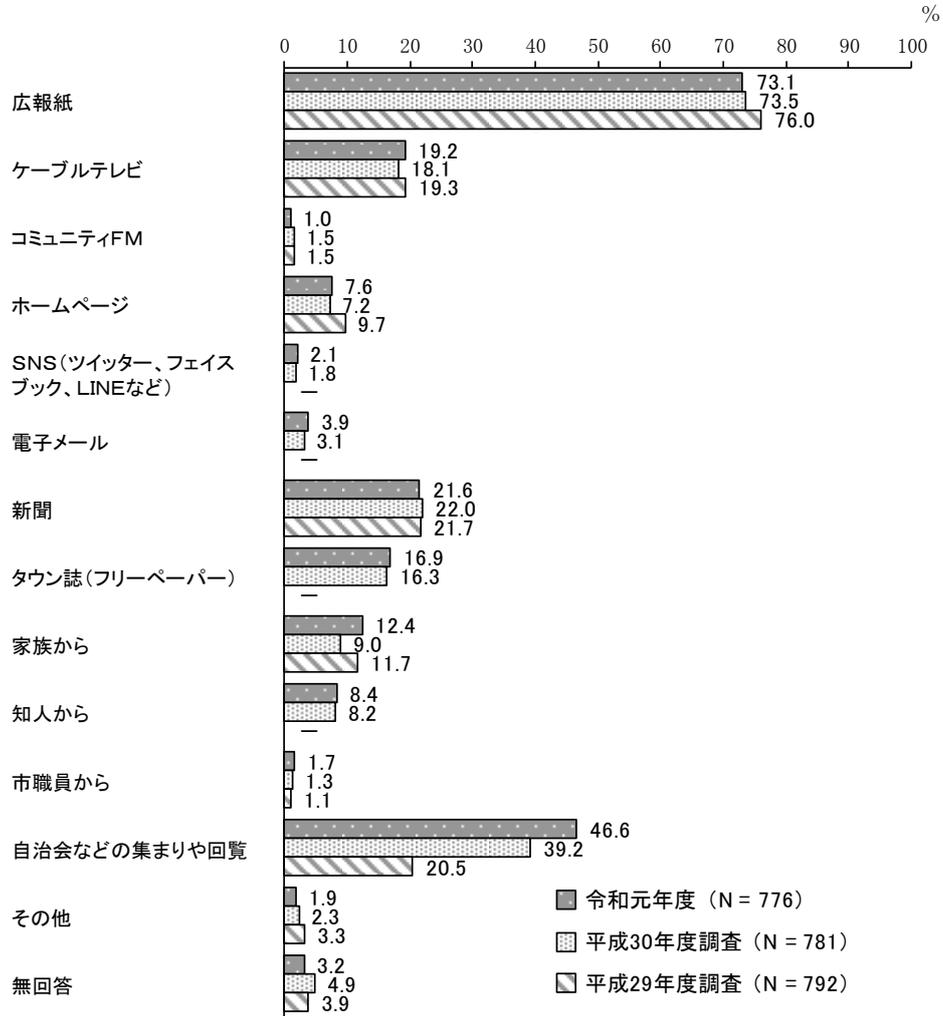
平成30年度調査、平成29年度調査と比較すると、「手頃な住宅価格や家賃」「自然に恵まれた住環境」が減少しています。



問11 あなたは日頃、市の情報をどのように収集していますか。

「広報紙」の割合が73.1%と最も高く、次いで「自治会などの集まりや回覧」の割合が46.6%、「新聞」の割合が21.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「自治会などの集まりや回覧」の割合が増加しています。



※平成29年度調査には「SNS(ツイッター、フェイスブック、LINEなど)」「電子メール」「タウン誌(フリーペーパー)」「知人から」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「新聞」「自治会などの集まりや回覧」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「タウン誌（フリーペーパー）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	広報紙	ケーブルテレビ	コミュニティFM	ホームページ	SNS（ツイッター、フェイスブック、LINEなど）	電子メール	新聞	タウン誌（フリーペーパー）	家族から	知人から	市職員から	回覧 自治会などの集まりや	その他	無回答
男性	339	71.7	20.1	1.5	8.8	2.4	4.4	26.5	11.5	10.3	6.2	2.4	51.0	2.9	3.5
女性	421	74.6	18.3	0.5	6.9	1.9	3.6	18.3	21.4	14.5	10.5	1.2	43.5	1.2	2.9

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「広報紙」「自治会などの集まりや回覧」の割合が高くなる傾向がみられます。また、年代が低くなるにつれ「家族から」の割合が高くなっています。

単位：％

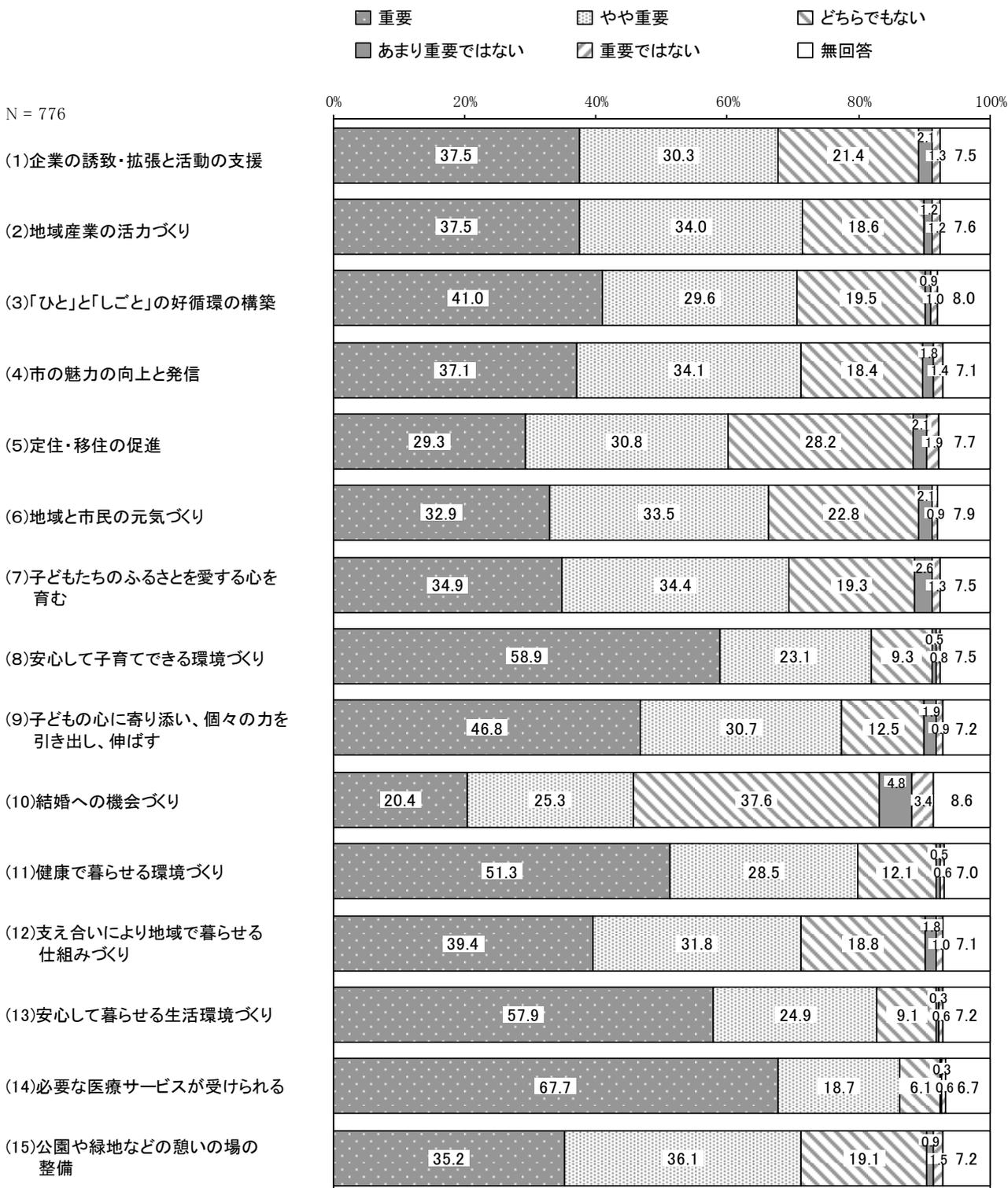
区分	有効回答数（件）	広報紙	ケーブルテレビ	コミュニティFM	ホームページ	SNS（ツイッター、フェイスブック、LINEなど）	電子メール	新聞	タウン誌（フリーペーパー）	家族から	知人から	市職員から	回覧 自治会などの集まりや	その他	無回答
10歳代	21	42.9	9.5	—	—	4.8	—	9.5	14.3	52.4	4.8	—	9.5	4.8	4.8
20歳代	43	34.9	16.3	—	14.0	2.3	4.7	—	14.0	32.6	11.6	—	11.6	4.7	4.7
30歳代	66	59.1	9.1	1.5	12.1	4.5	6.1	3.0	25.8	30.3	19.7	1.5	24.2	1.5	3.0
40歳代	123	71.5	16.3	0.8	11.4	4.1	6.5	18.7	26.0	11.4	10.6	0.8	46.3	1.6	1.6
50歳代	98	80.6	15.3	2.0	13.3	4.1	7.1	16.3	30.6	7.1	5.1	3.1	49.0	2.0	1.0
60歳代	164	83.5	22.0	1.8	5.5	0.6	3.7	22.6	15.2	5.5	4.3	1.2	51.2	1.2	2.4
70歳代以上	253	77.1	24.9	0.4	3.6	0.4	1.2	34.4	6.3	8.3	8.3	2.4	58.1	2.0	5.1

(3) 施策の重要度と満足度について

問 12 可児市総合戦略の各施策について、「重要度」と「満足度」をおたずねします。
5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

① 重要度

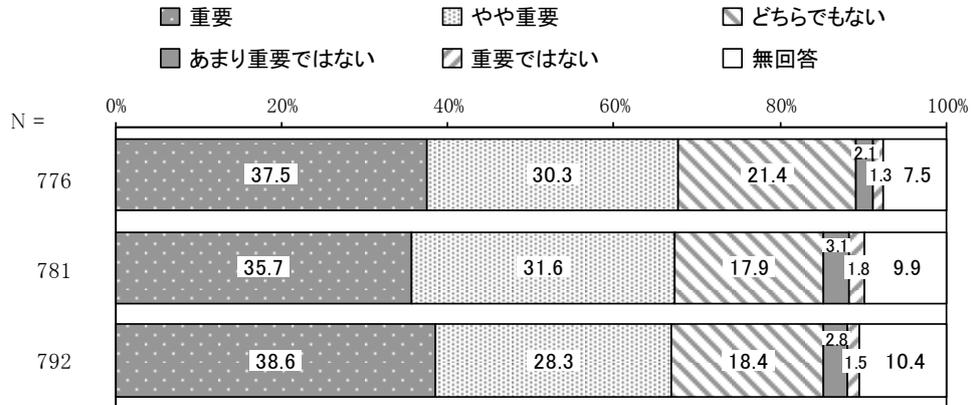
『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(11)健康で暮らせる環境づくり』『(13)安心して暮らせる生活環境づくり』『(14)必要な医療サービスが受けられる』で「重要」と「やや重要」をあわせた“重要”の割合が高くなっています。



(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援

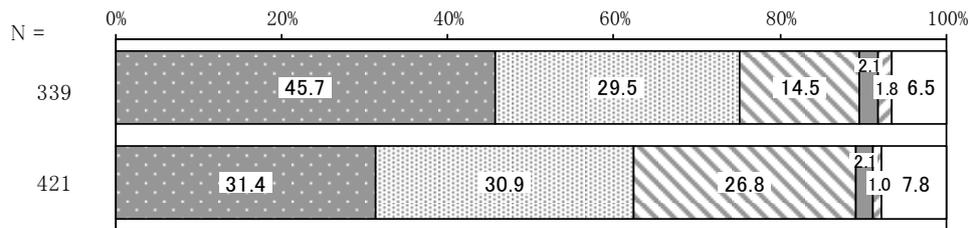
“重要”の割合が67.8%、「あまり重要ではない」と「重要ではない」をあわせた“重要ではない”の割合が3.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません



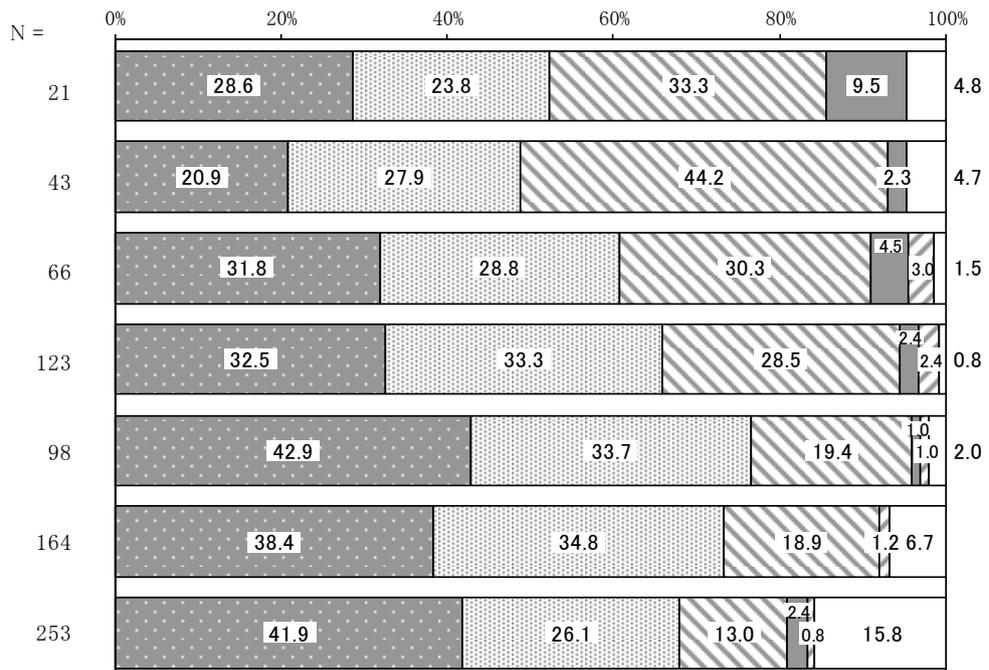
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



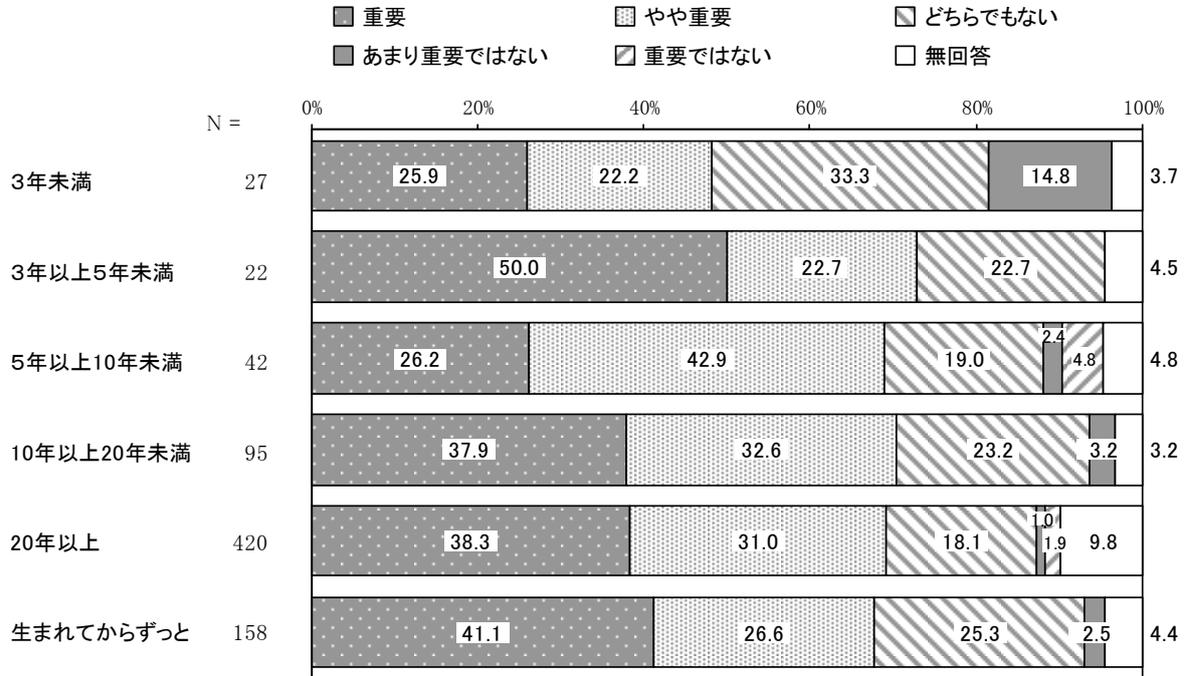
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代、60歳代で“重要”の割合が高く、7割を超えています。



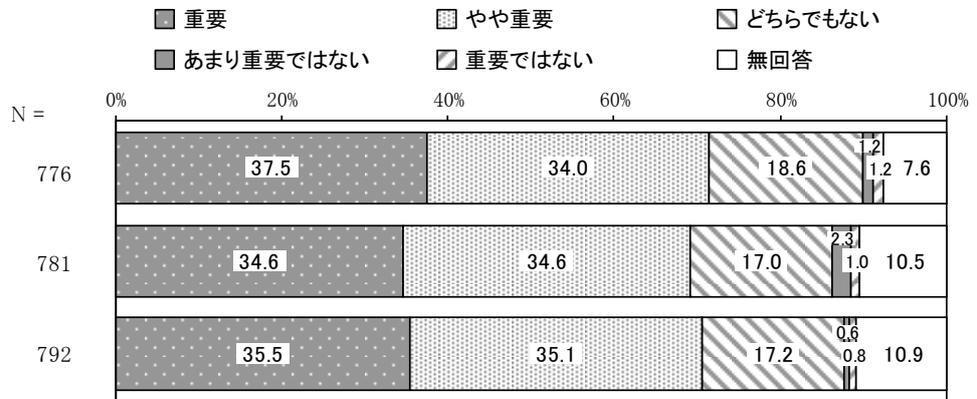
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年未満で“重要ではない”の割合が高くなっています。また、3年以上5年未満で「重要」の割合が高く、5割となっています。



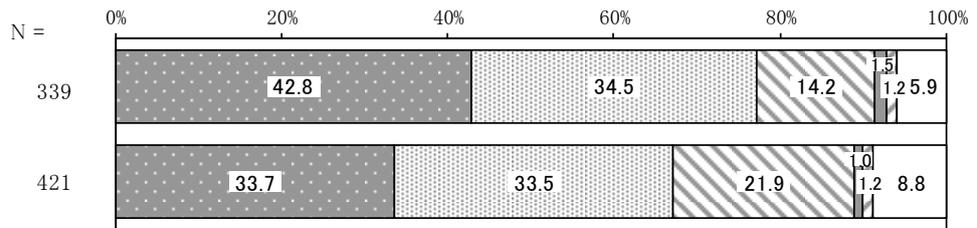
(2) 地域産業の活力づくり

“重要”の割合が71.5%、“重要ではない”の割合が2.4%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



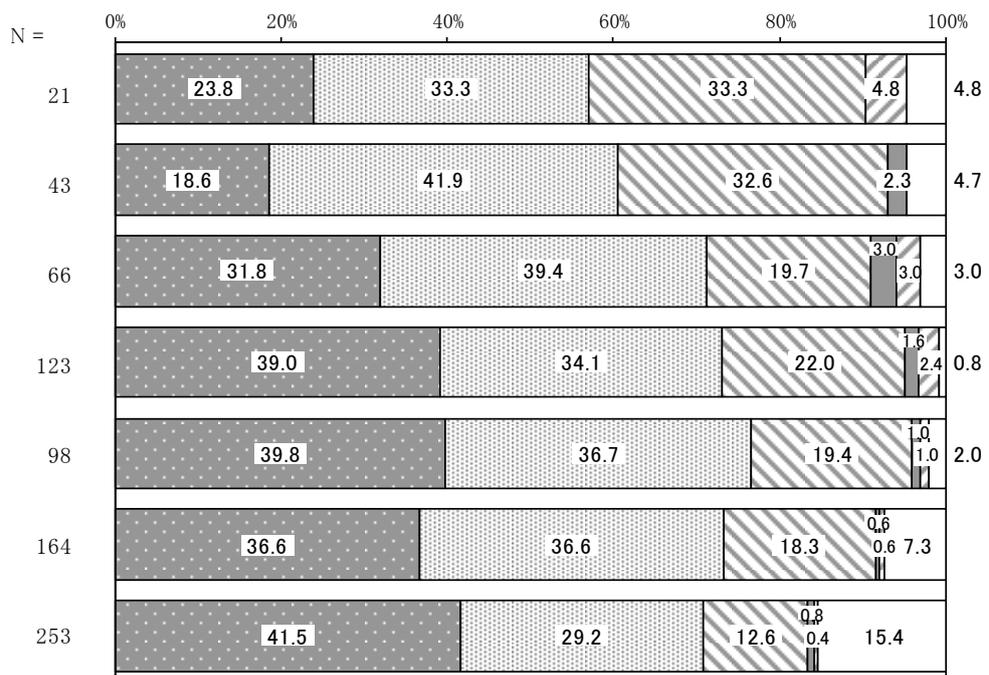
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



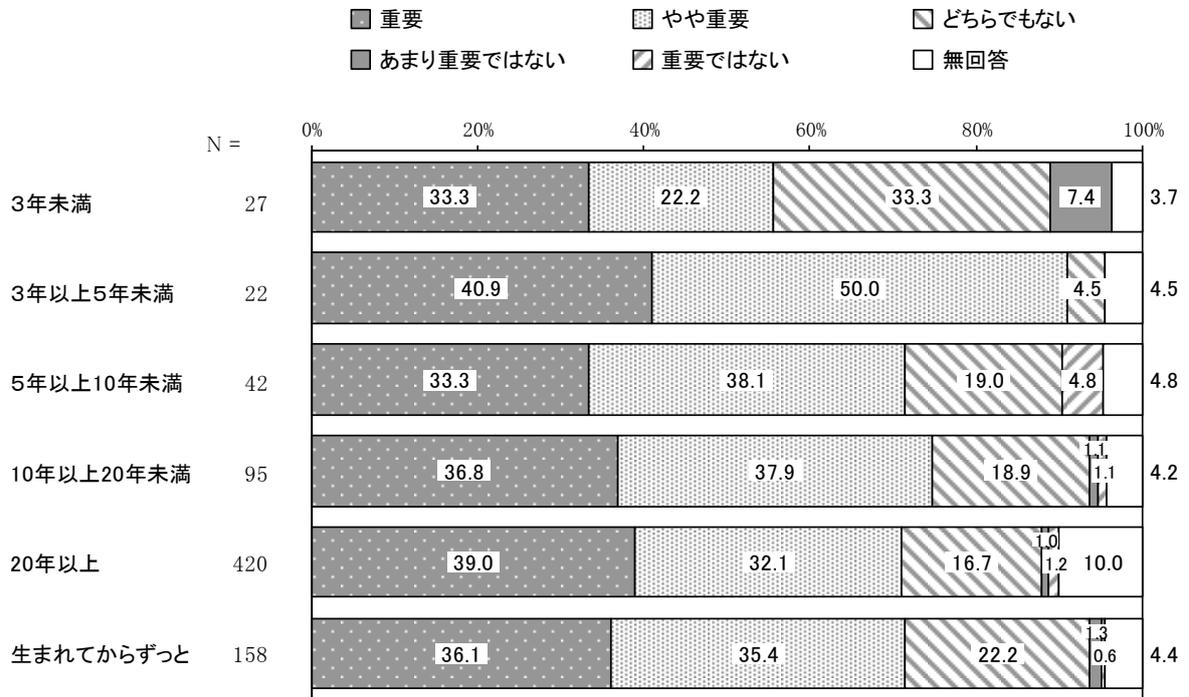
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代以下に比べ、30歳代以上で“重要”の割合が高く、7割を超えています。



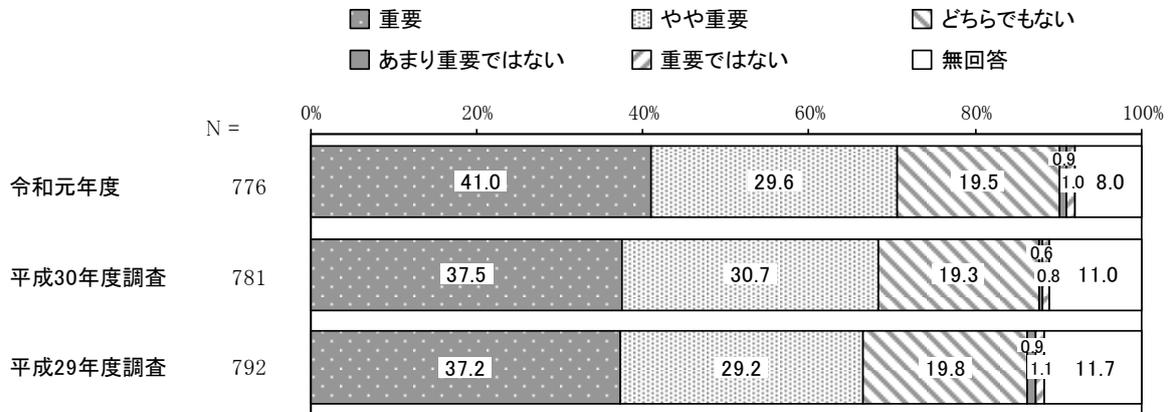
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



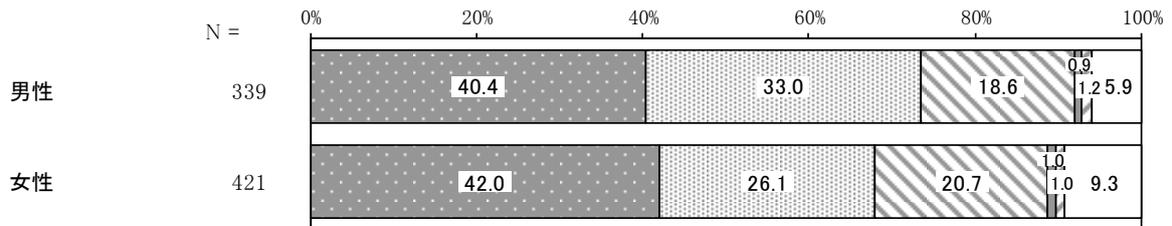
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築

“重要”の割合が70.6%、“重要ではない”の割合が1.9%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、“重要”の割合が増加しています。



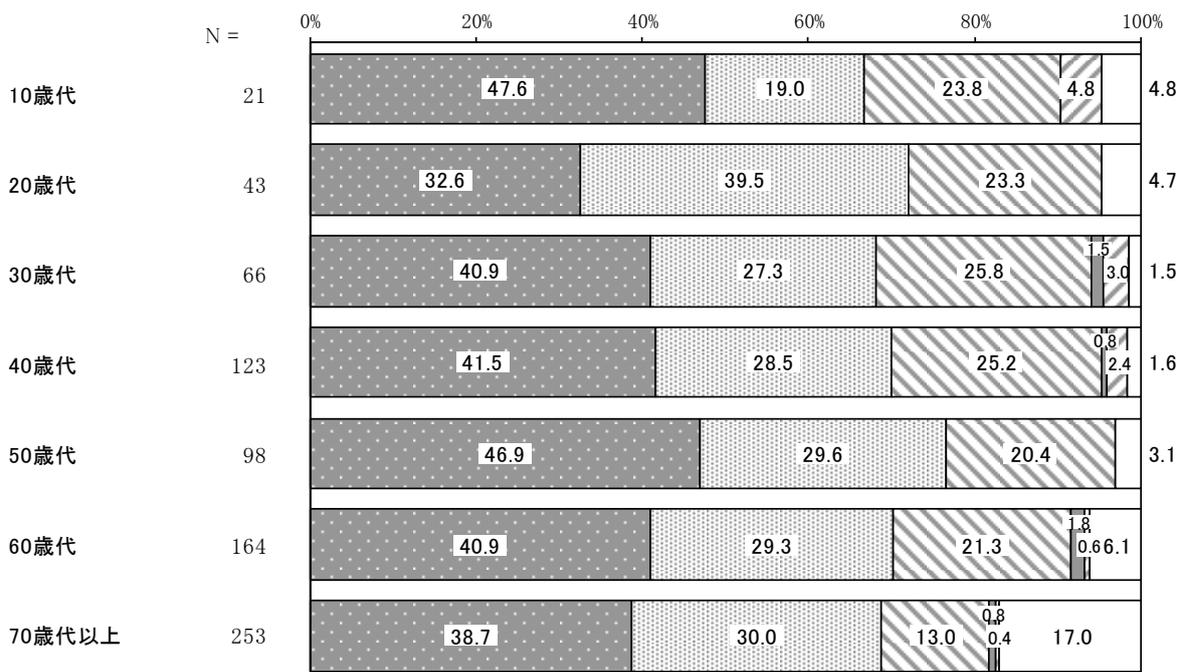
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



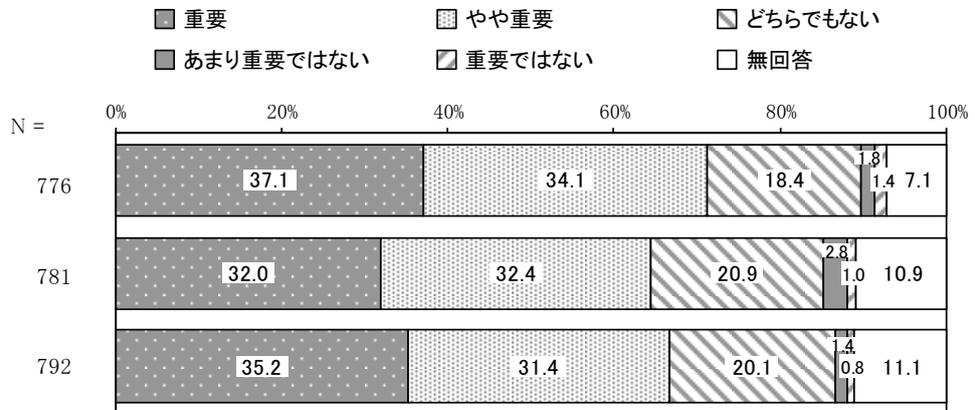
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



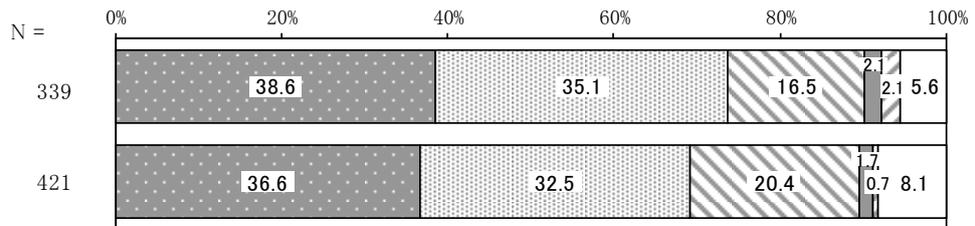
(4) 市の魅力の向上と発信

“重要”の割合が71.2%、“重要ではない”の割合が3.2%となっています。
平成30年度調査と比較すると、“重要”の割合が増加しています。



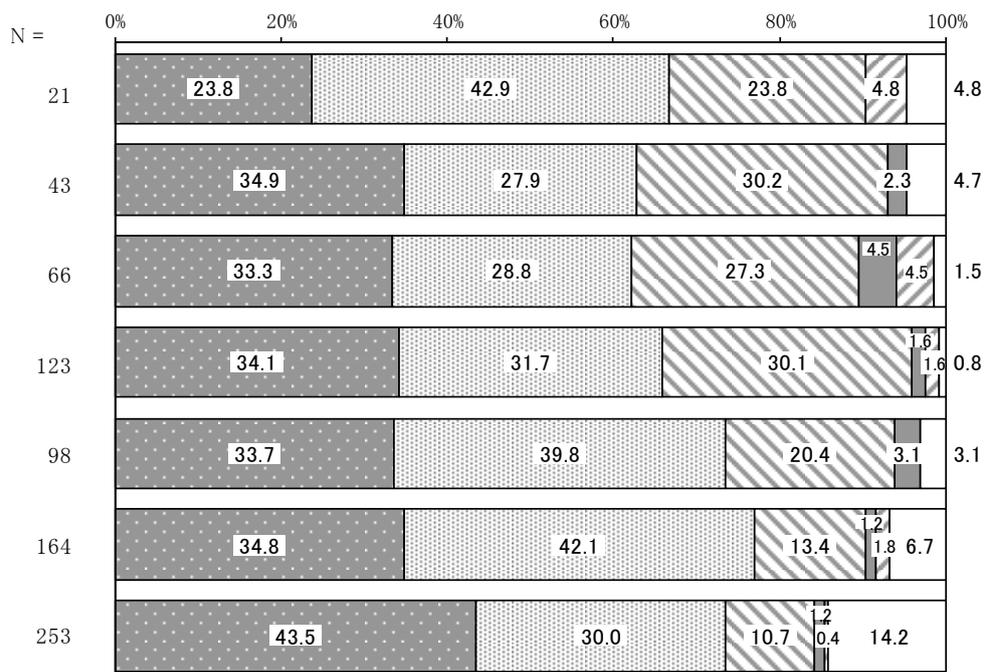
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



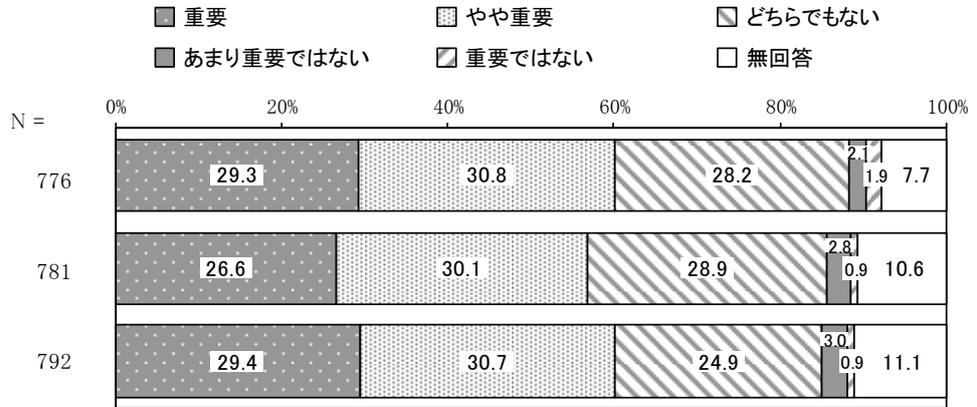
【年代別】

年代でみると、40歳代以下に比べ、50歳代以上で“重要”の割合が高く、7割を超えています。



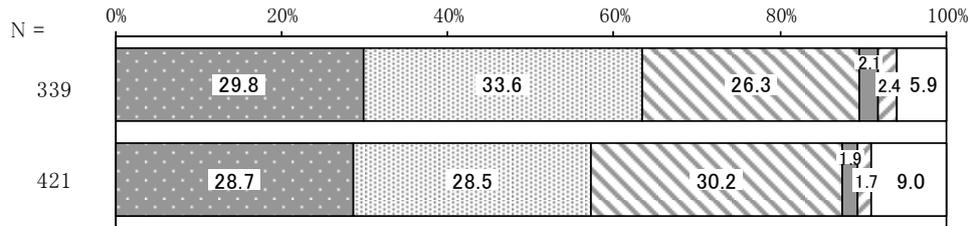
(5) 定住・移住の促進

“重要”の割合が60.1%、“重要ではない”の割合が4.0%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



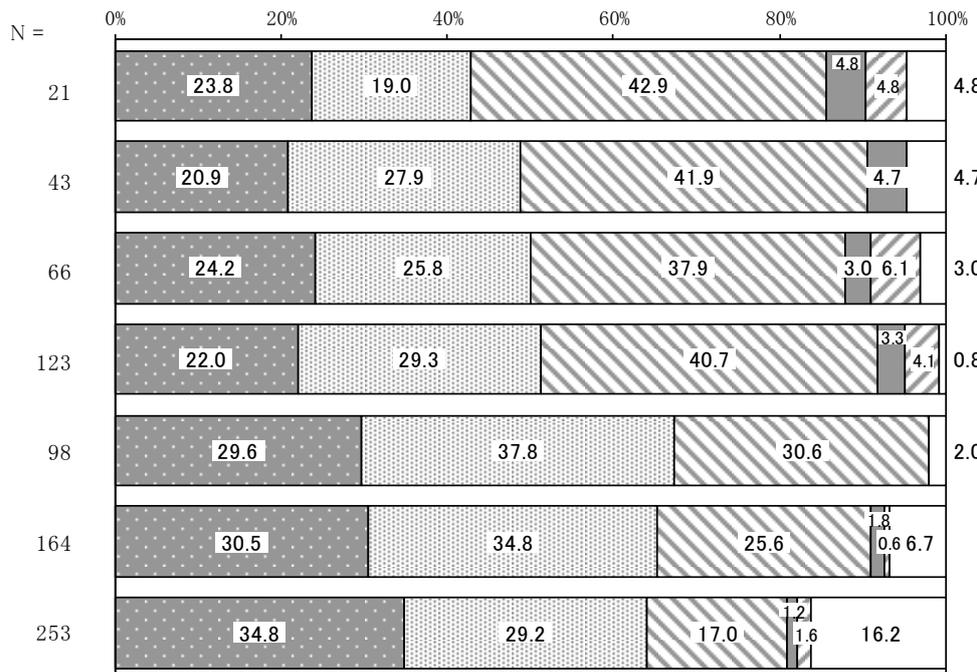
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、6割を超えています。



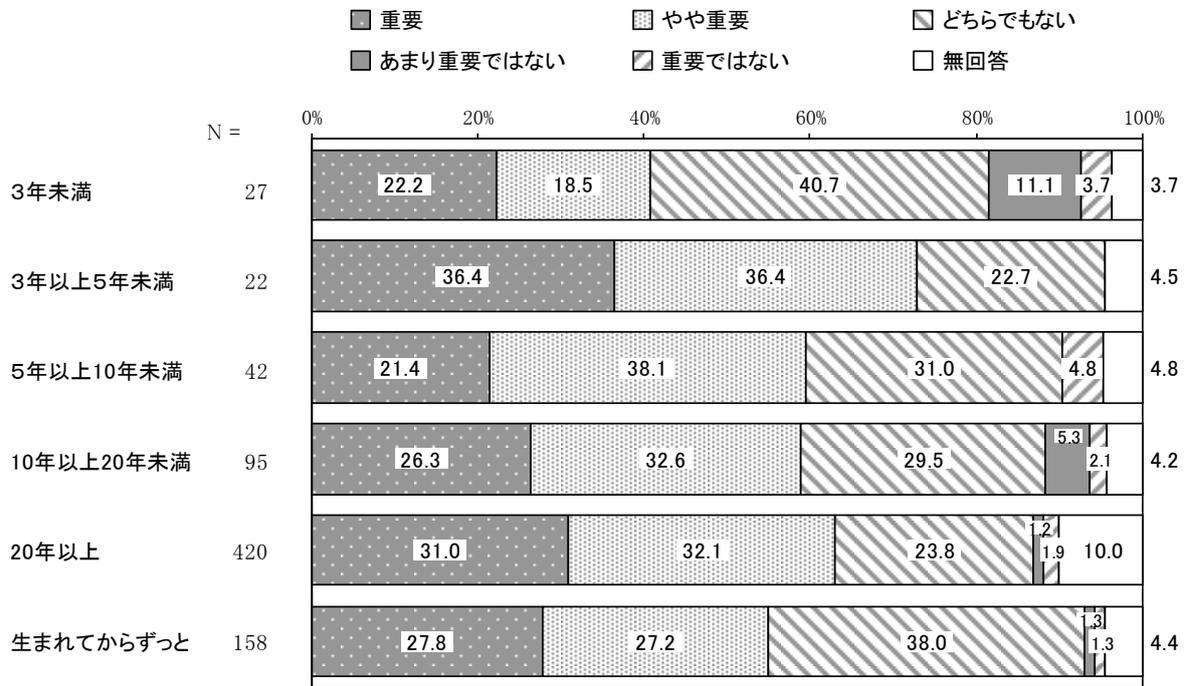
【年代別】

年代別でみると、40歳代以下に比べ、50歳代以上で“重要”の割合が高く、6割を超えています。



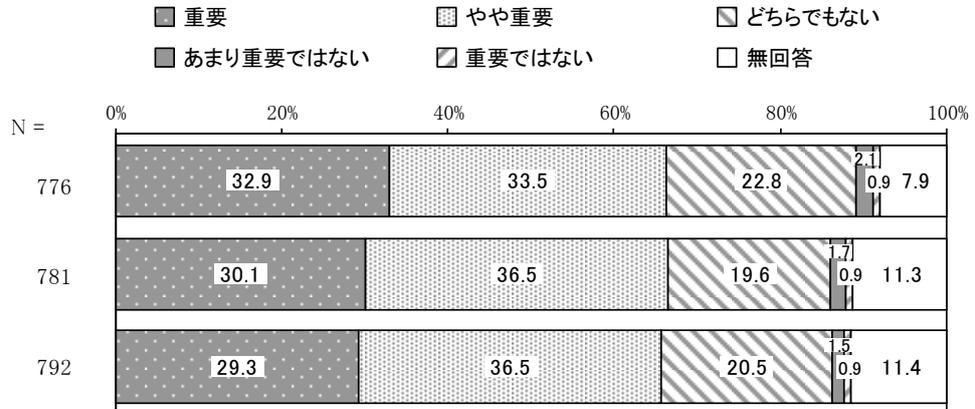
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



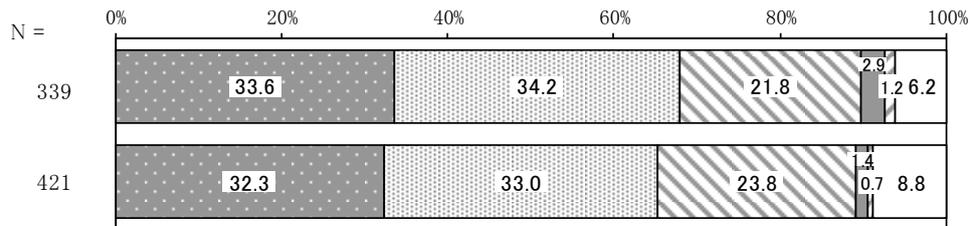
(6) 地域と市民の元気づくり

“重要”の割合が66.4%、“重要ではない”の割合が3.0%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



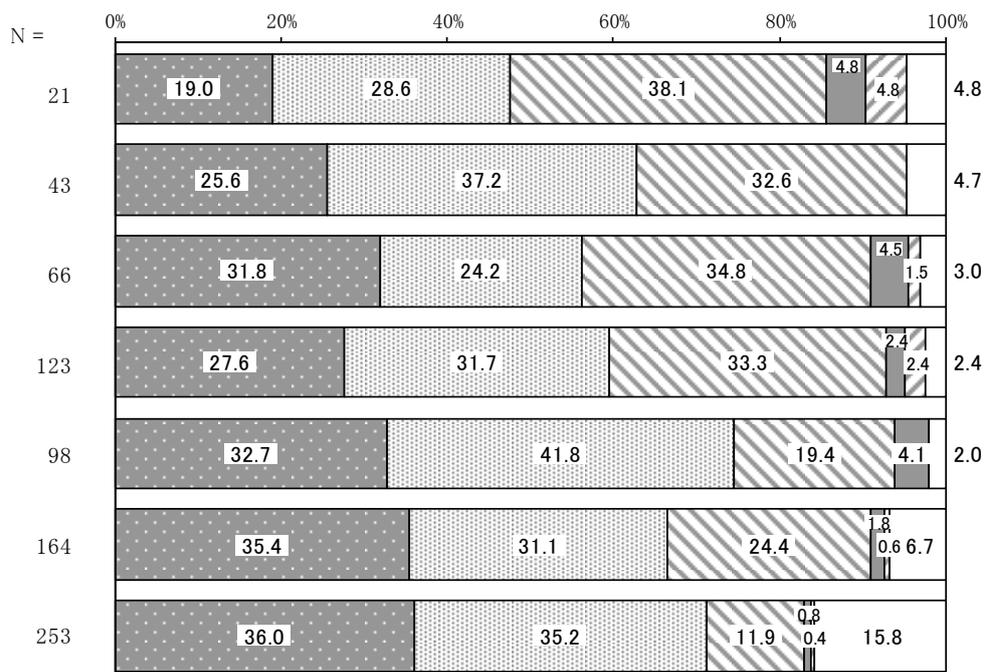
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません



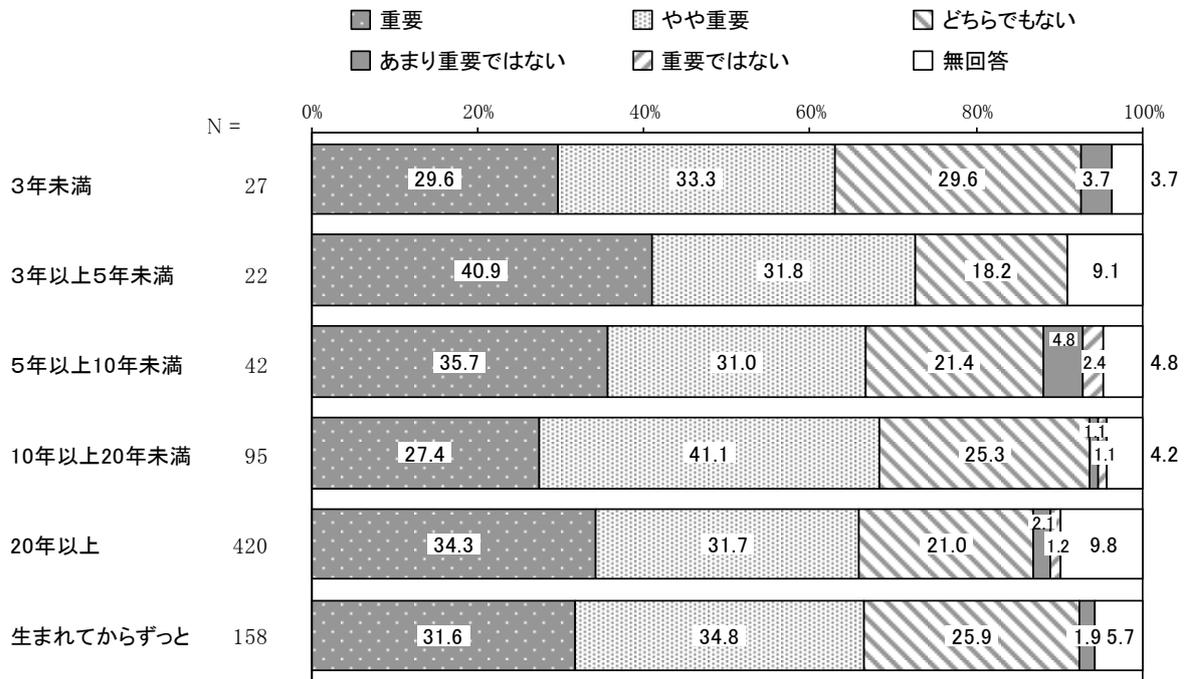
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代、70歳代以上で“重要”の割合が高く、7割を超えています。



【居住年数別】

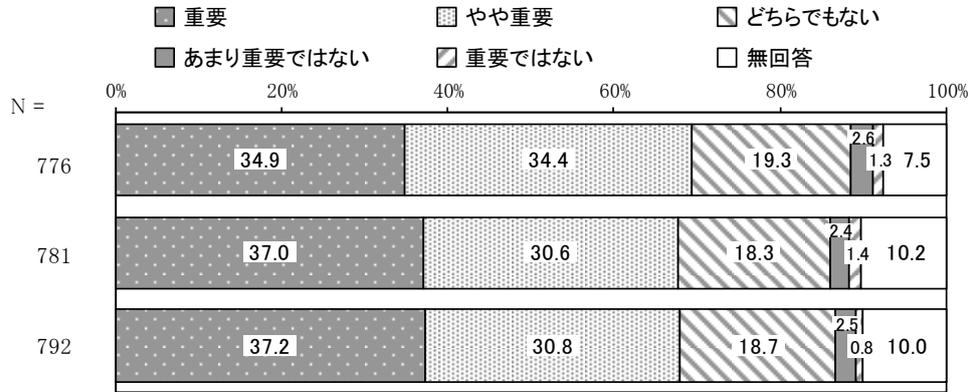
居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む

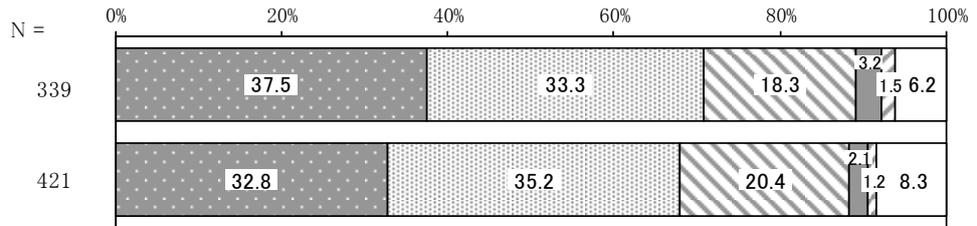
“重要”の割合が69.3%、“重要ではない”の割合が3.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



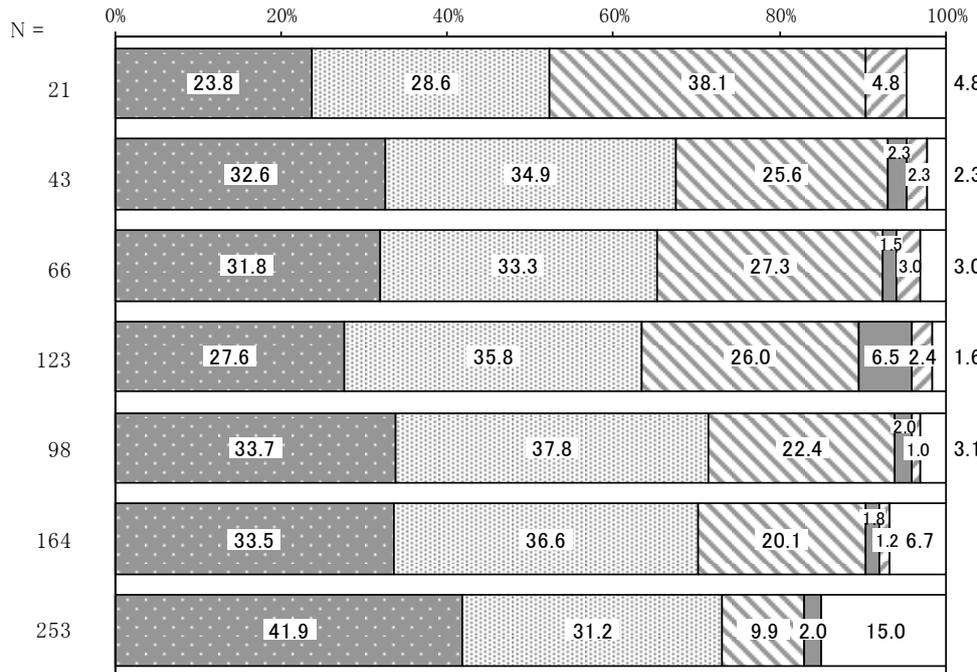
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



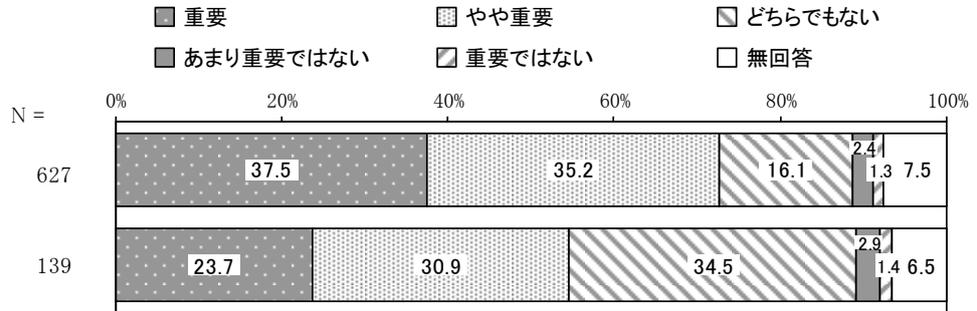
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなる傾向がみられます。



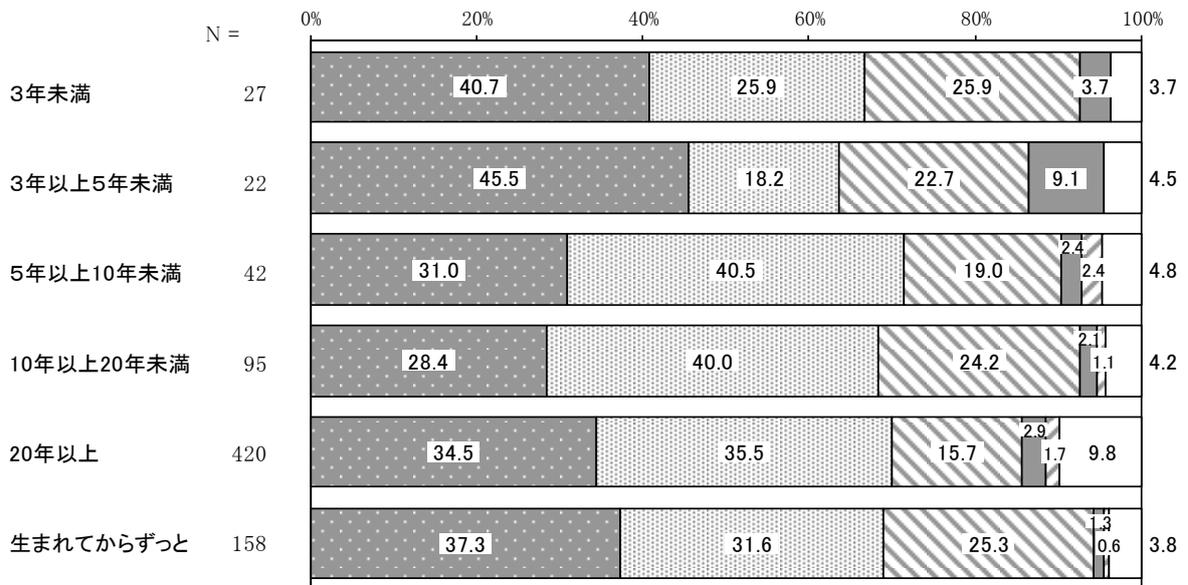
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



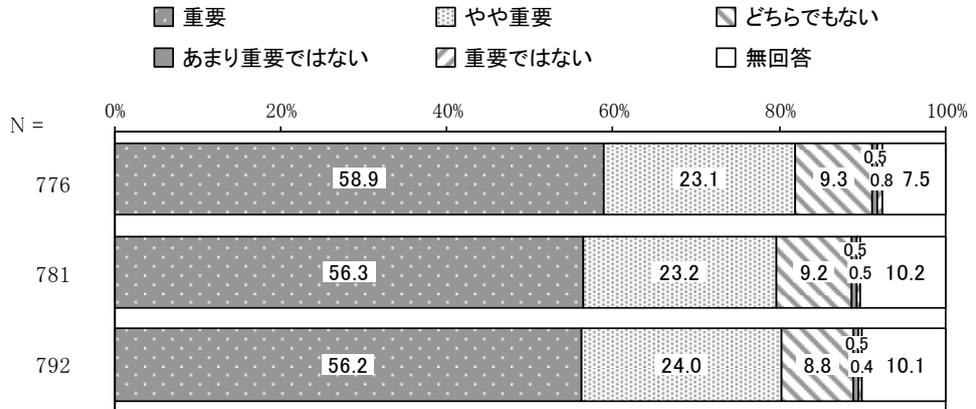
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で「あまり重要ではない」の割合が高く、約1割となっています。



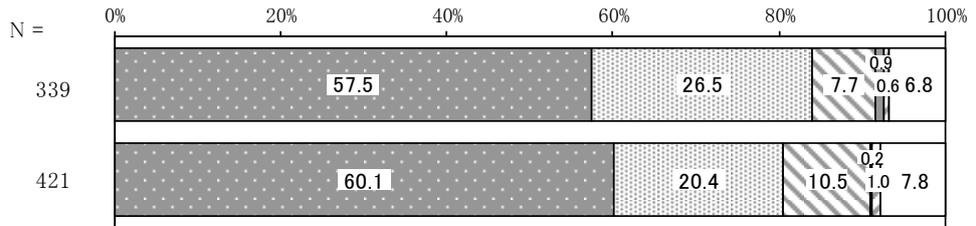
(8) 安心して子育てできる環境づくり

“重要”の割合が82.0%、“重要ではない”の割合が1.3%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



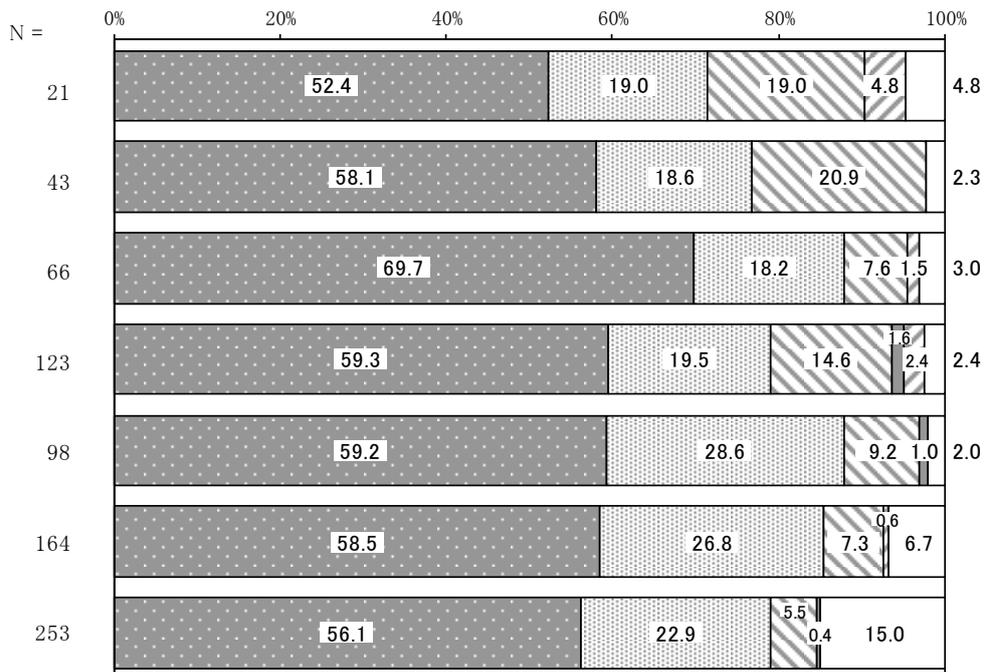
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



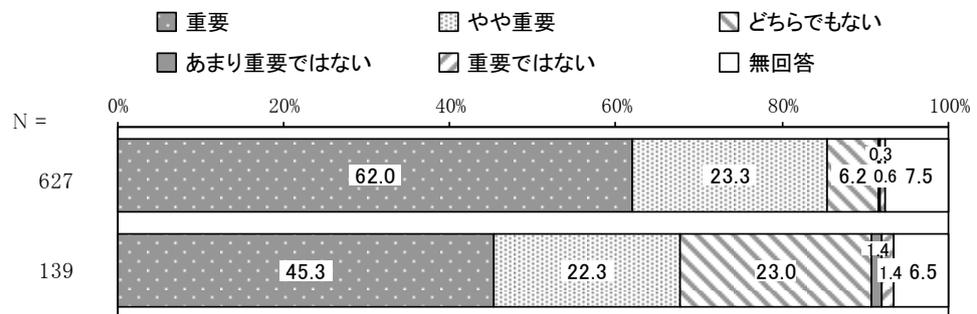
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代、50歳代で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



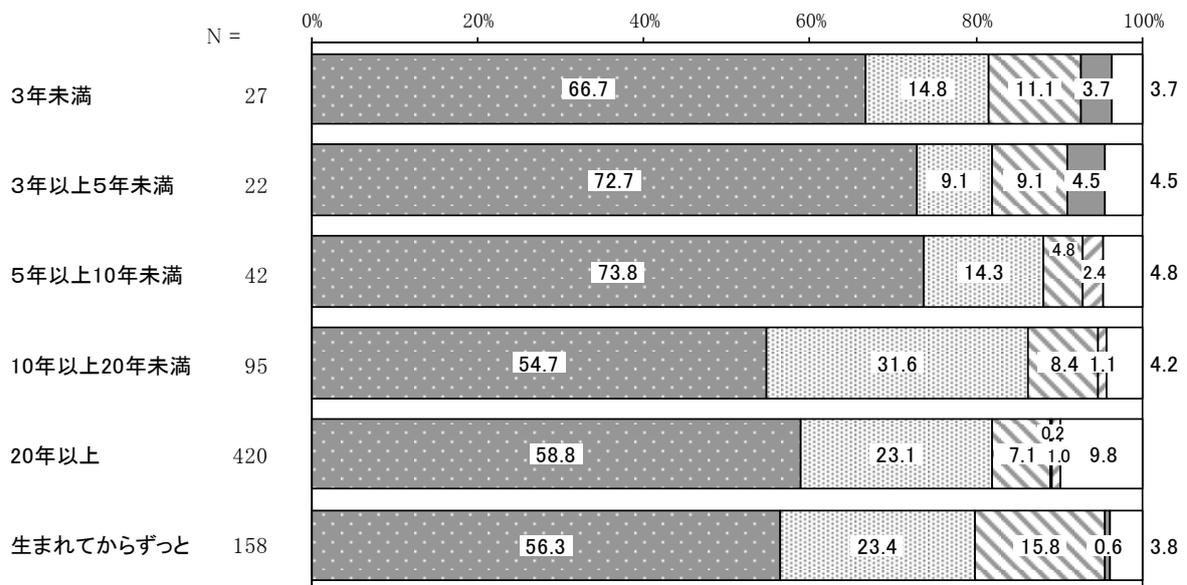
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



【居住年数別】

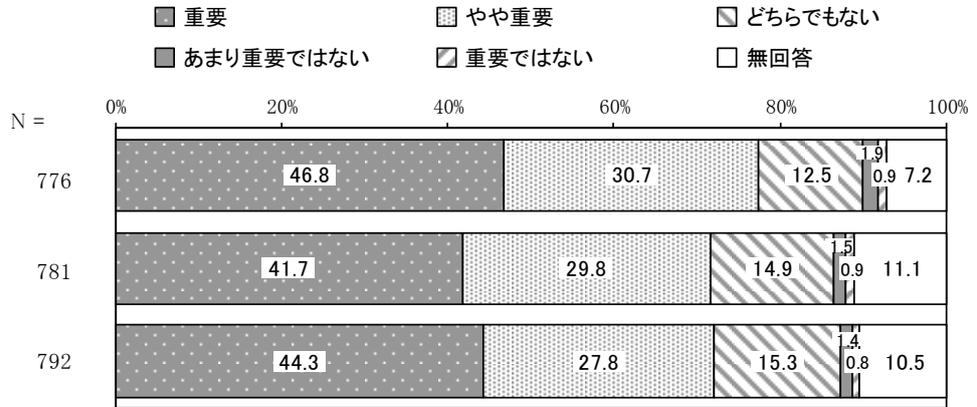
居住年数別で見ると、他に比べ、5年以上10年未満、10年以上20年未満で“重要”の割合が高く、8割半ばとなっています。



(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす

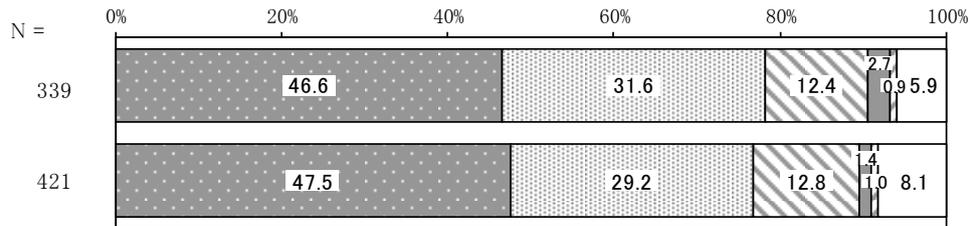
“重要”の割合が77.5%、“重要ではない”の割合が2.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、“重要”の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



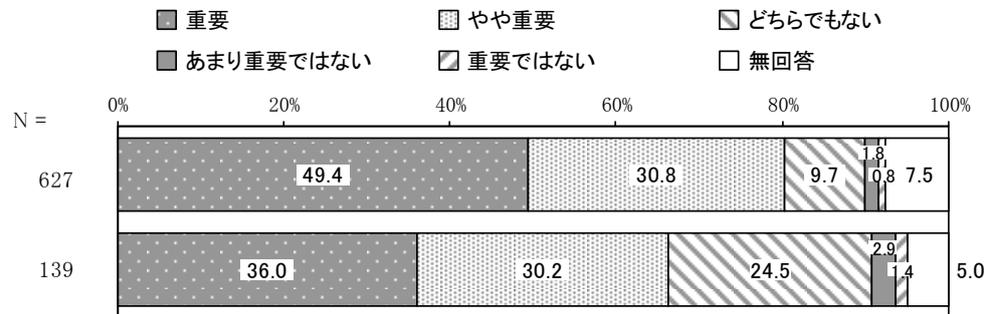
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代、50歳代で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



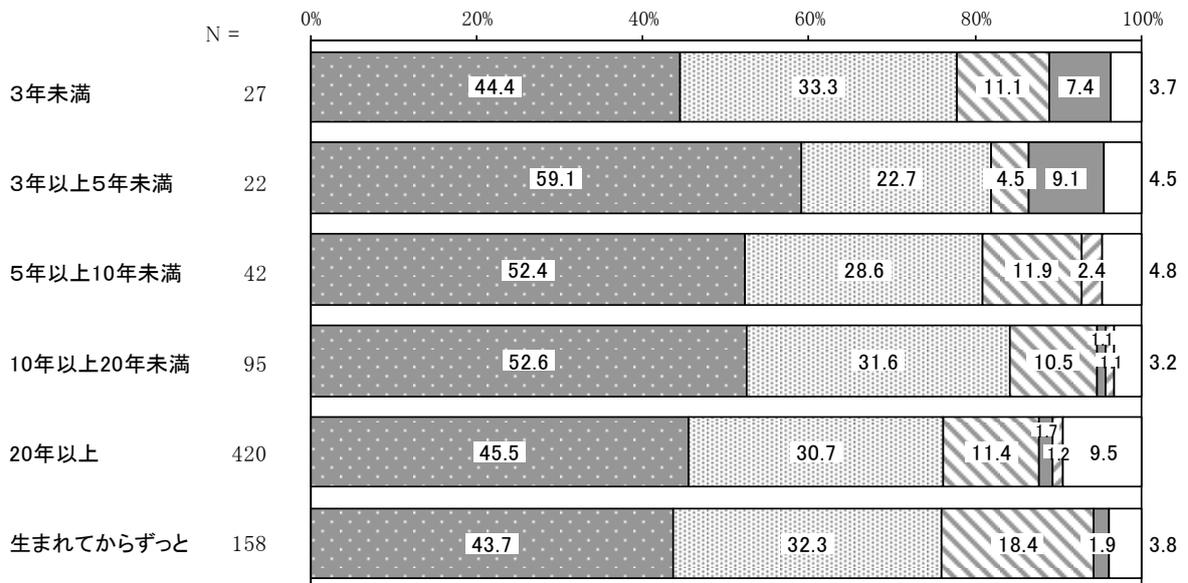
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



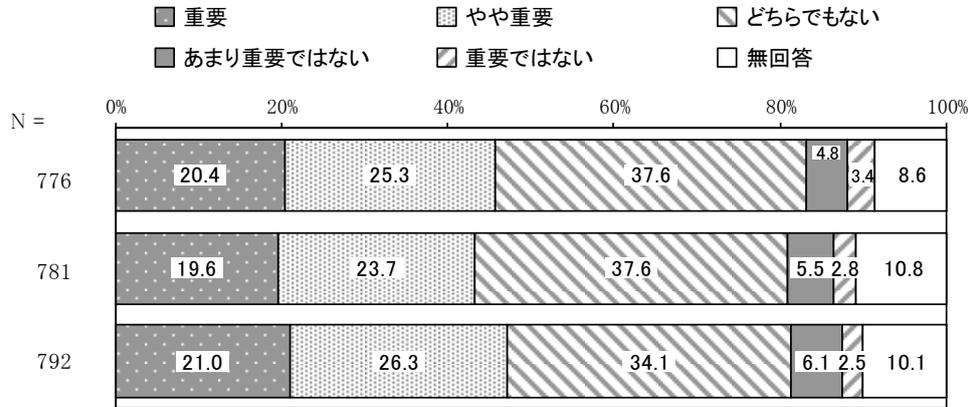
【居住年数別】

居住年数別で見ると、3年未満、3年以上5年未満で「あまり重要ではない」の割合が高く、約1割となっています。



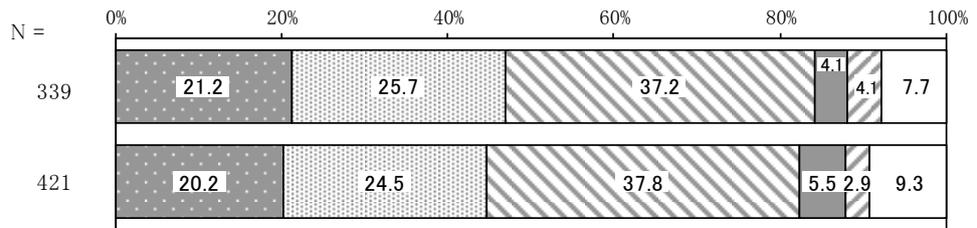
(10) 結婚への機会づくり

“重要”の割合が45.7%、“重要ではない”の割合が8.2%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



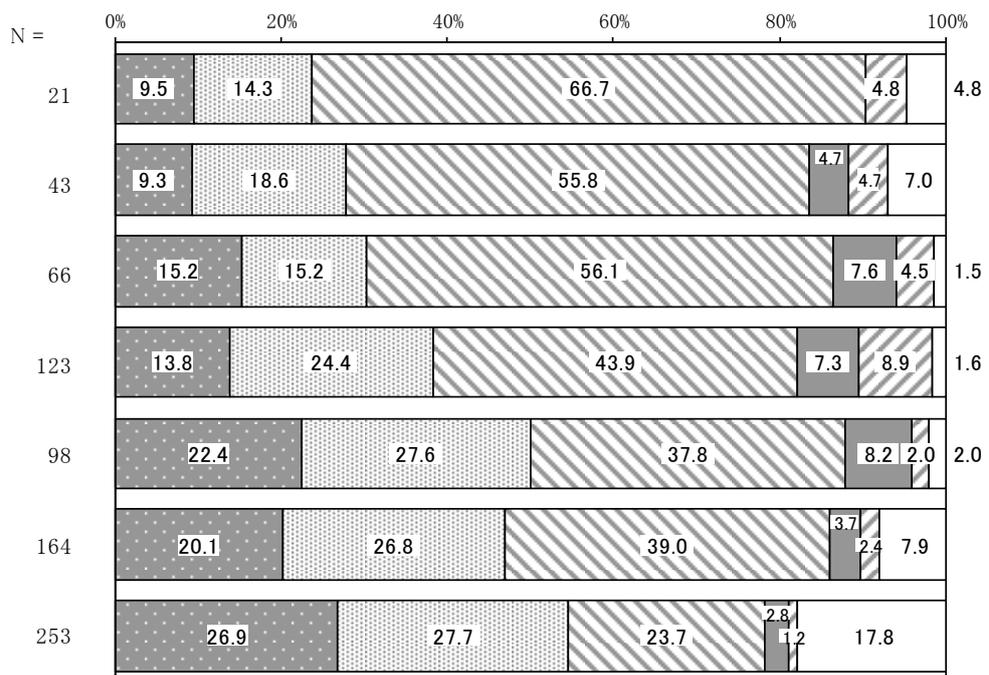
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



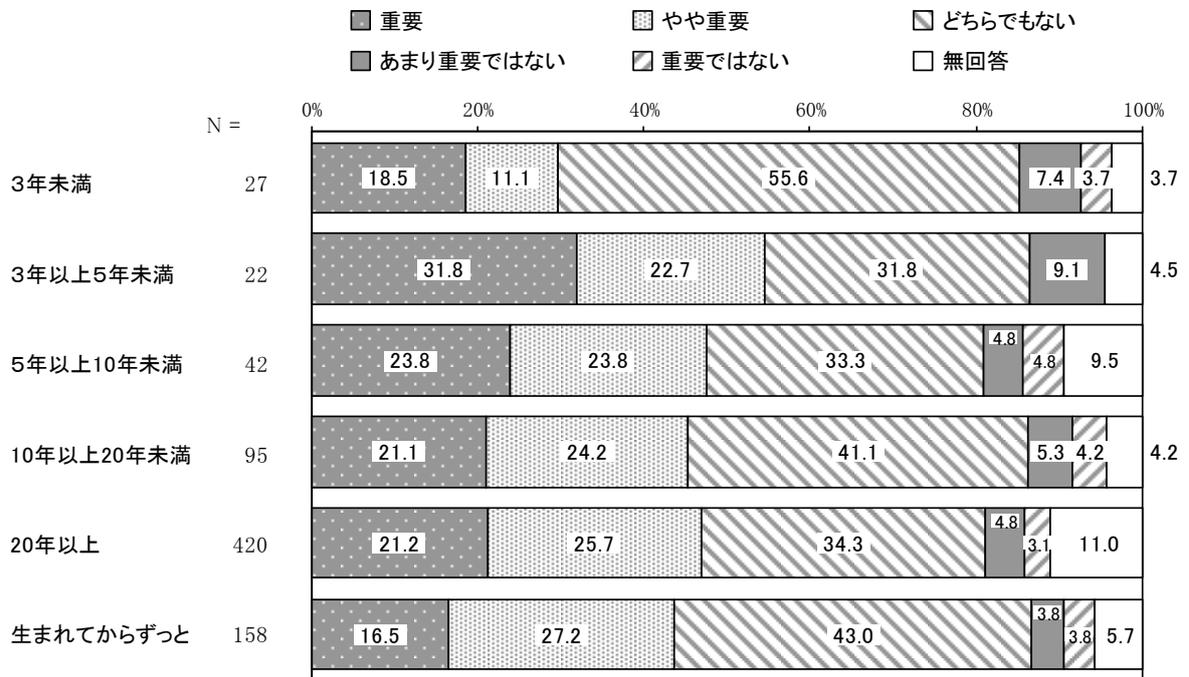
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなる傾向がみられ、70歳代以上で5割台半ばとなっています。



【居住年数別】

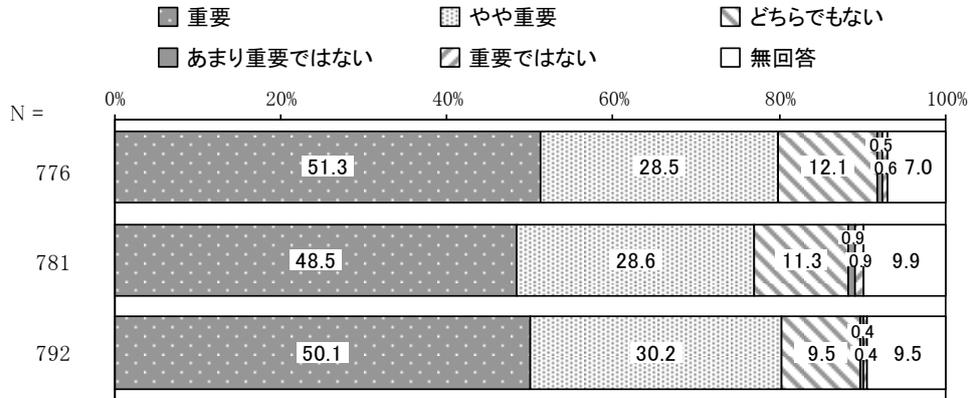
居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、5割台半ばとなっています。



(11) 健康で暮らせる環境づくり

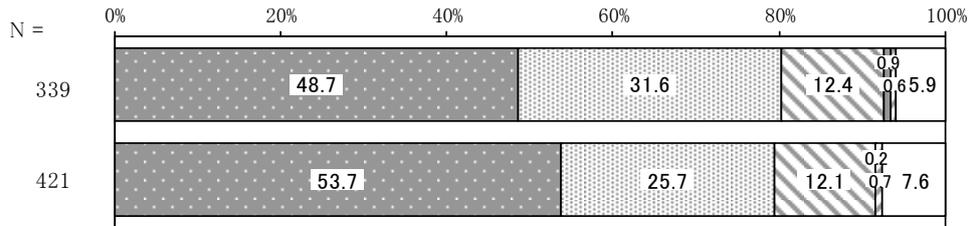
“重要”の割合が79.8%、“重要ではない”の割合が1.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



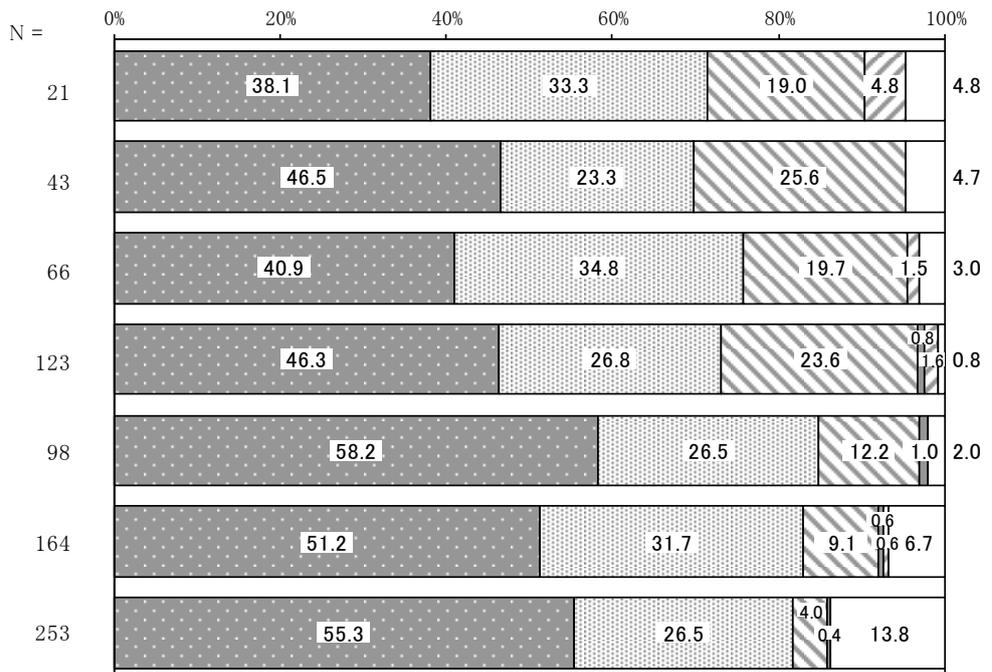
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



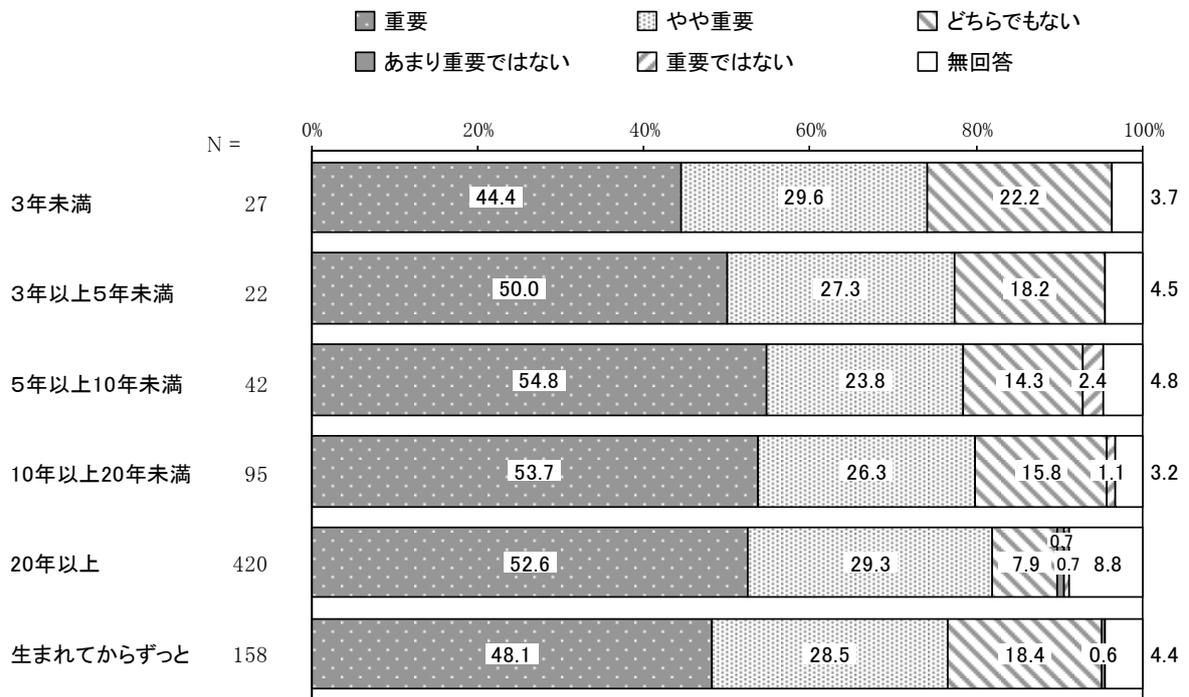
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代以下に比べ、50歳代以上で“重要”の割合が高く、8割を超えています。



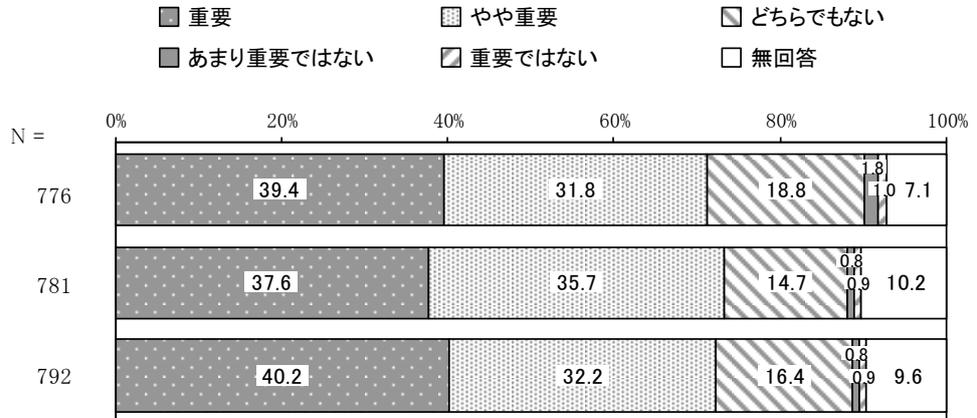
【居住年数別】

居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれ“重要”の割合が高くなっています。



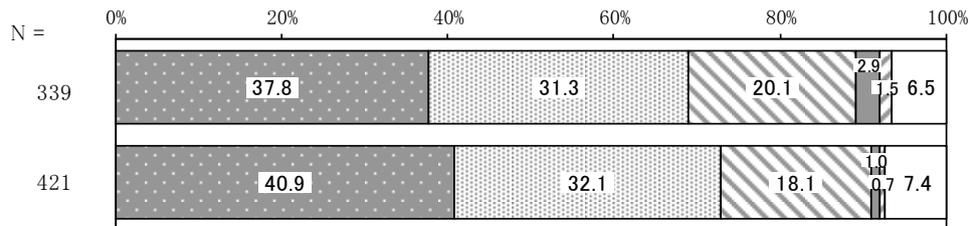
(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり

“重要”の割合が71.2%、“重要ではない”の割合が2.8%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



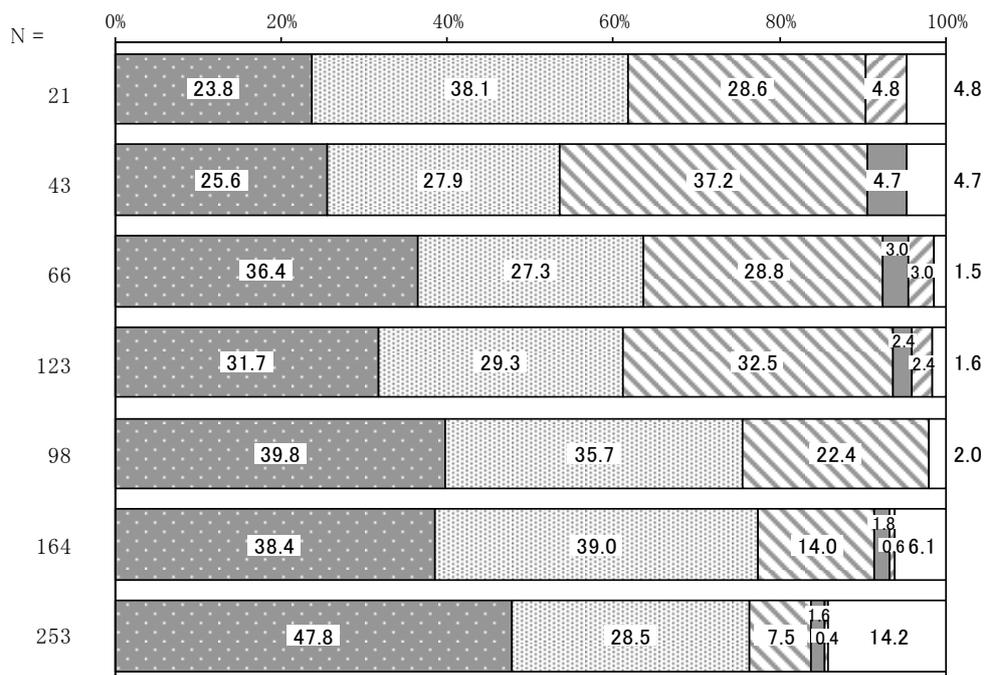
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高くなっています。



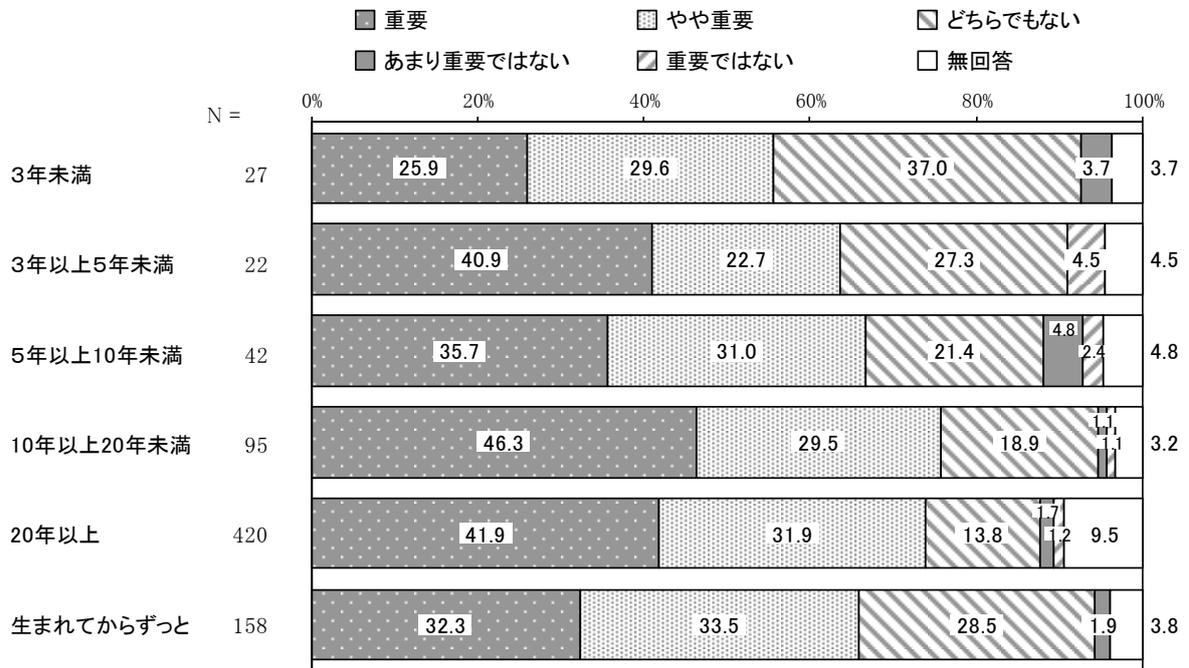
【年代別】

年代別でみると、40歳代に比べ、50歳代以上で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



【居住年数別】

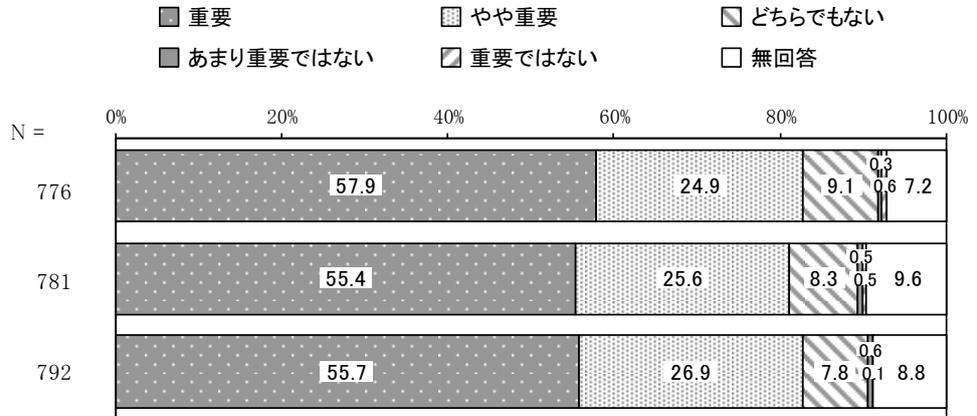
居住年数別で見ると、他に比べ、『10年以上20年未満』『20年以上』をあわせた“10年以上”で“重要”の割合が高く、7割を超えています。



(13) 安心して暮らせる生活環境づくり

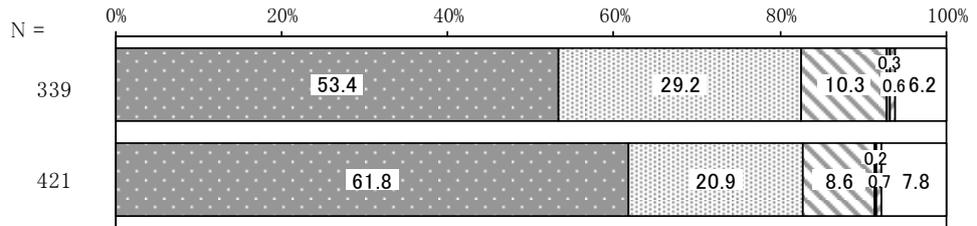
“重要”の割合が82.8%、“重要ではない”の割合が0.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



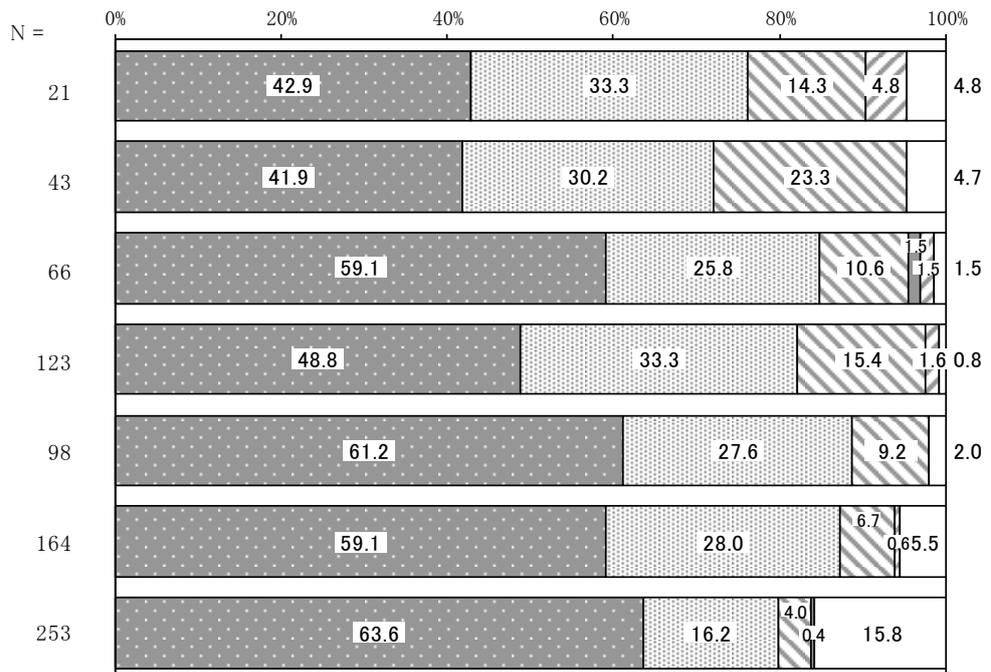
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「重要」の割合が高く、約6割となっています。



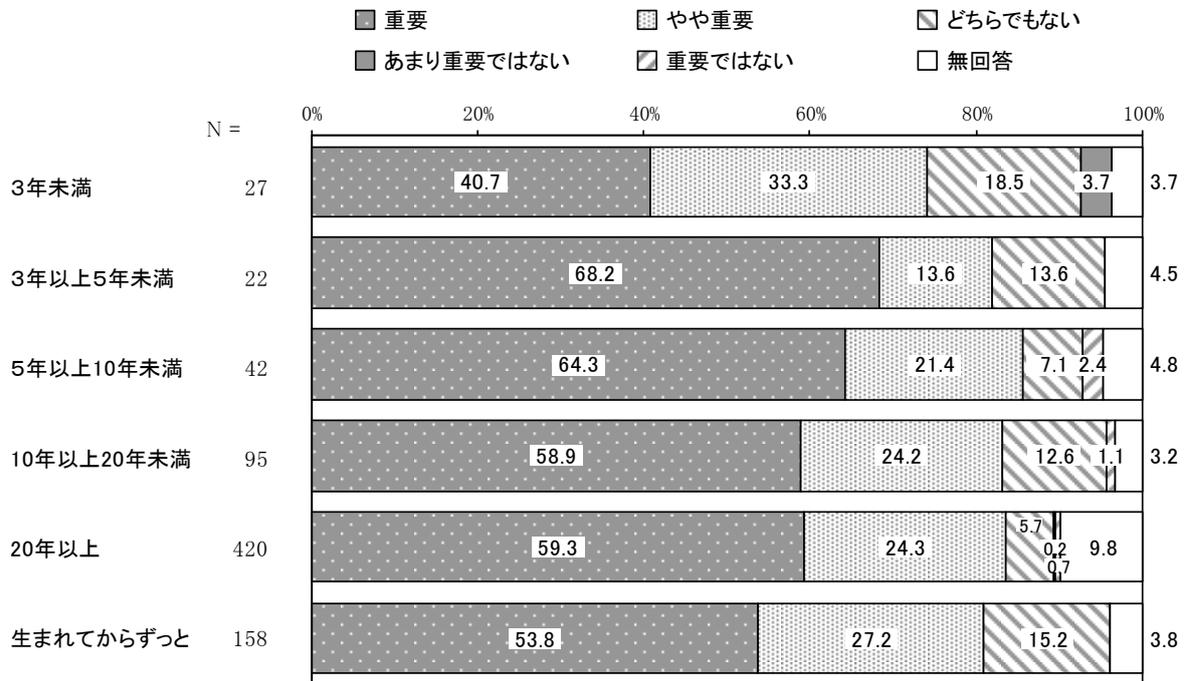
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代、60歳代で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



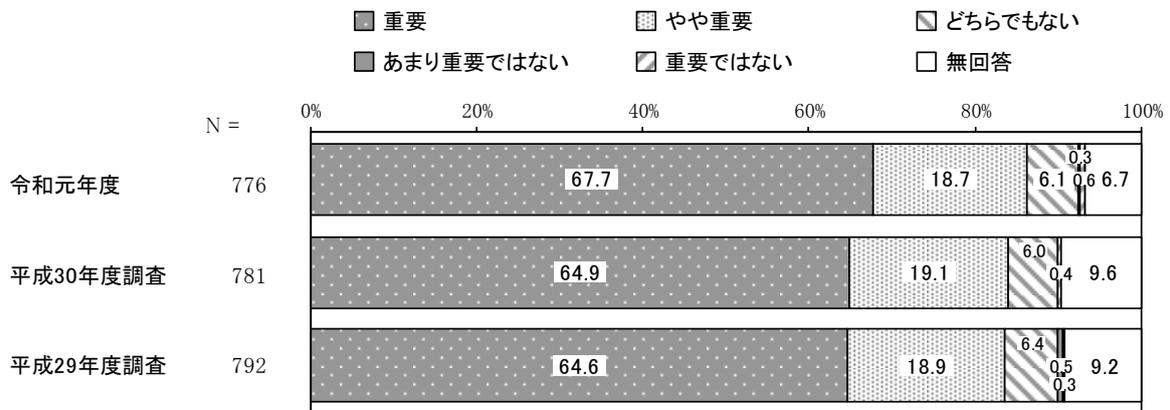
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年未満、で“重要”の割合が低く、7割台半ばとなっています。



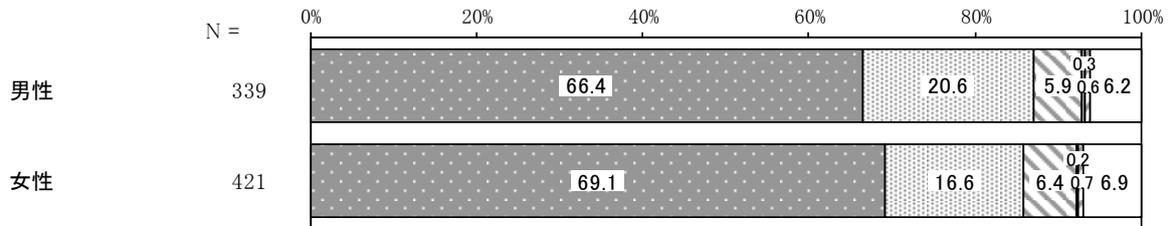
(14) 必要な医療サービスが受けられる

“重要”の割合が86.4%、“重要ではない”の割合が0.9%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



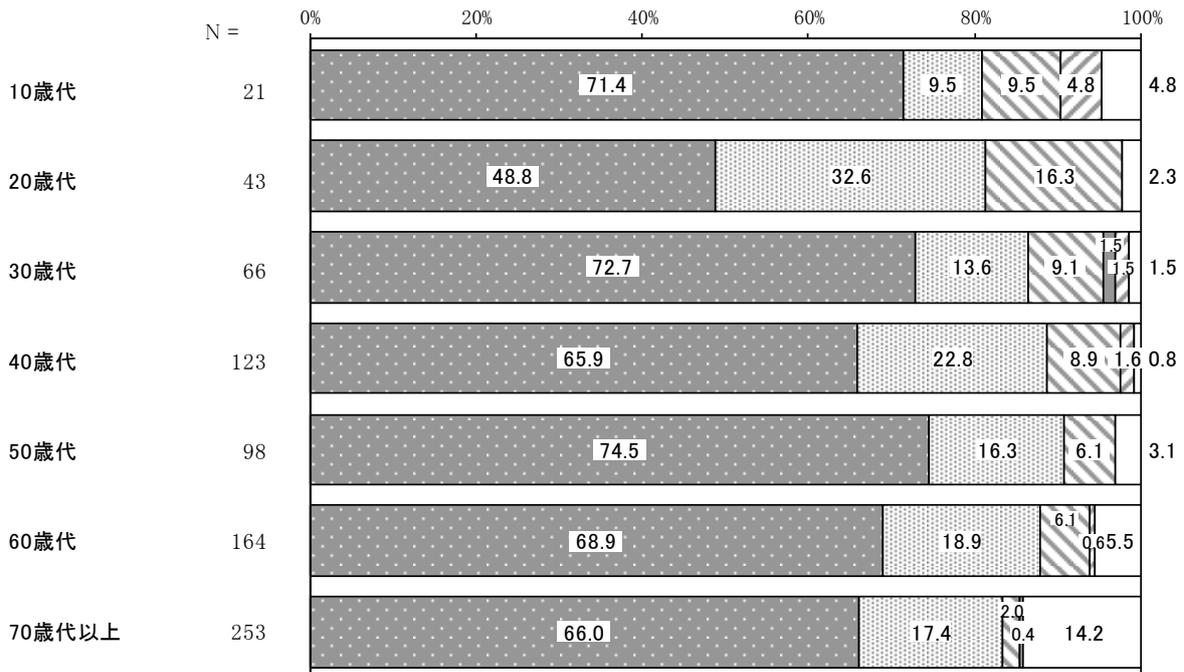
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



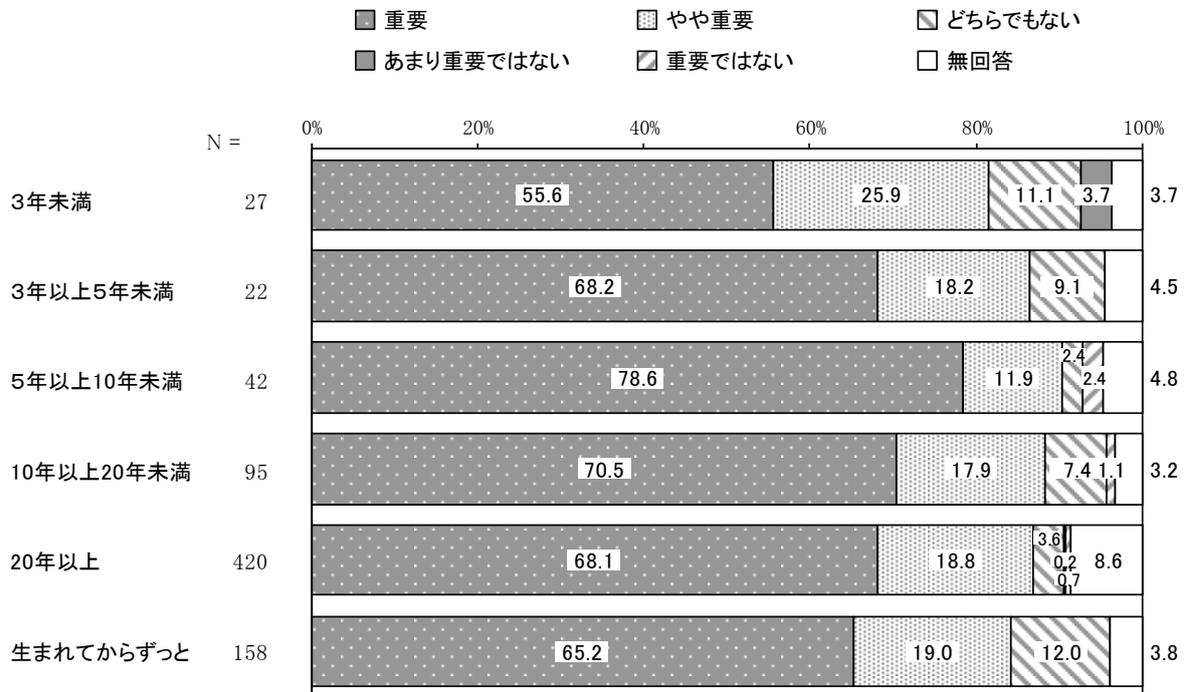
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代から60歳代で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



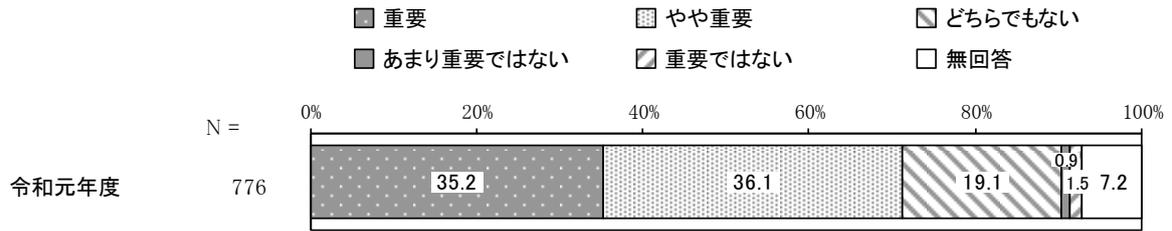
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、『5年以上10年未満』『10年以上20年未満』をあわせた“5年以上20年未満”で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



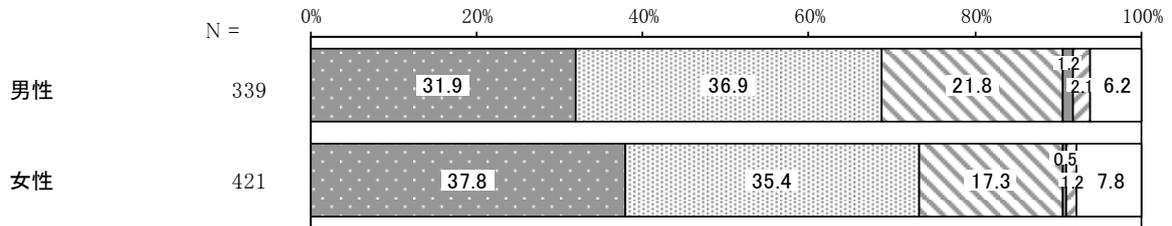
(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備

“重要”の割合が71.3%、“重要ではない”の割合が2.4%となっています。



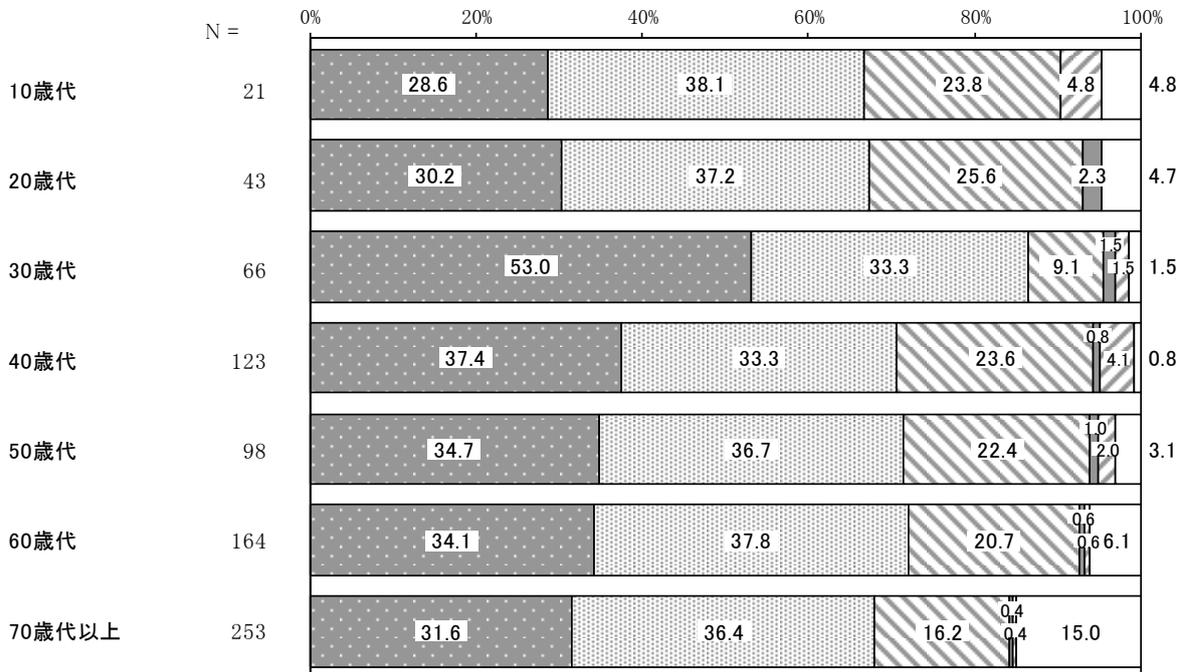
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、7割を超えています。



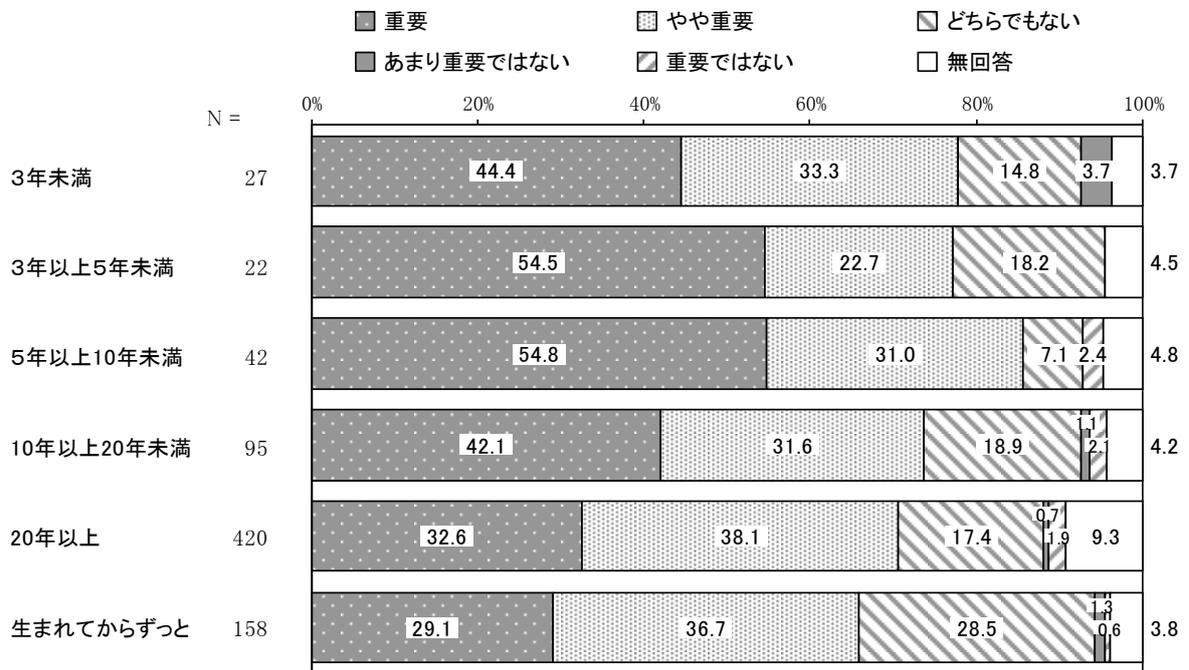
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



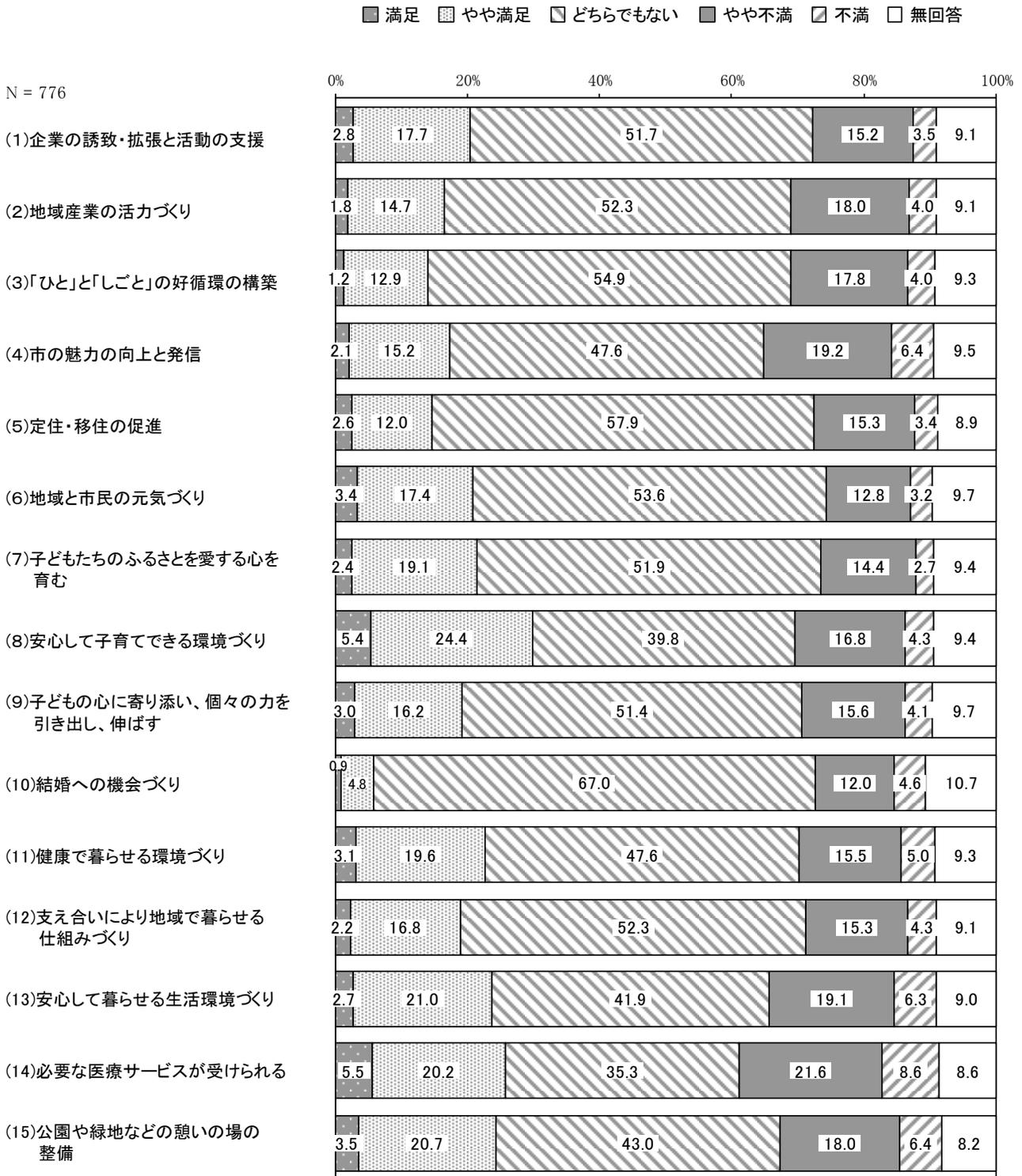
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、5年以上10年未満で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



② 満足度

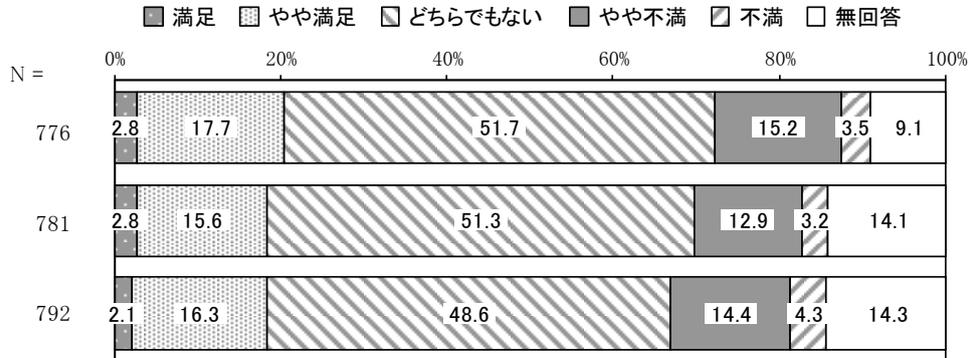
『(8)安心して子育てできる環境づくり』で「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、『(14)必要な医療サービスが受けられる』で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が高く、約3割となっています。



(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援

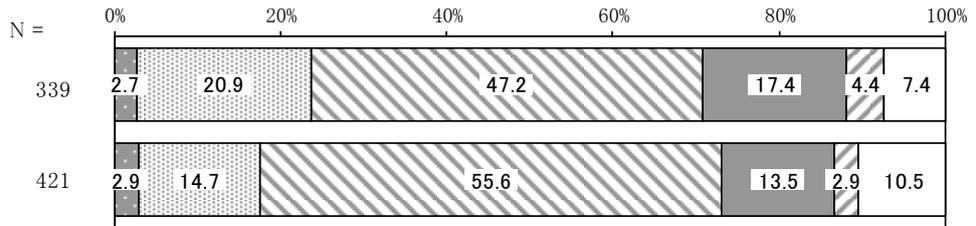
“満足”の割合が20.5%、「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が18.7%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



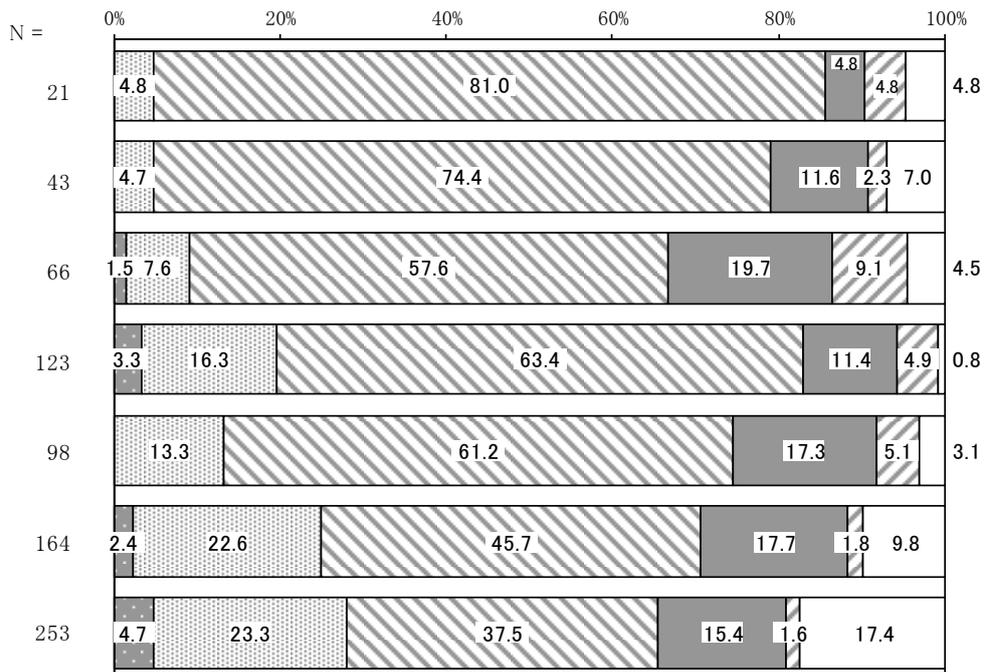
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“満足”“不満”の割合がともに高くなっています。



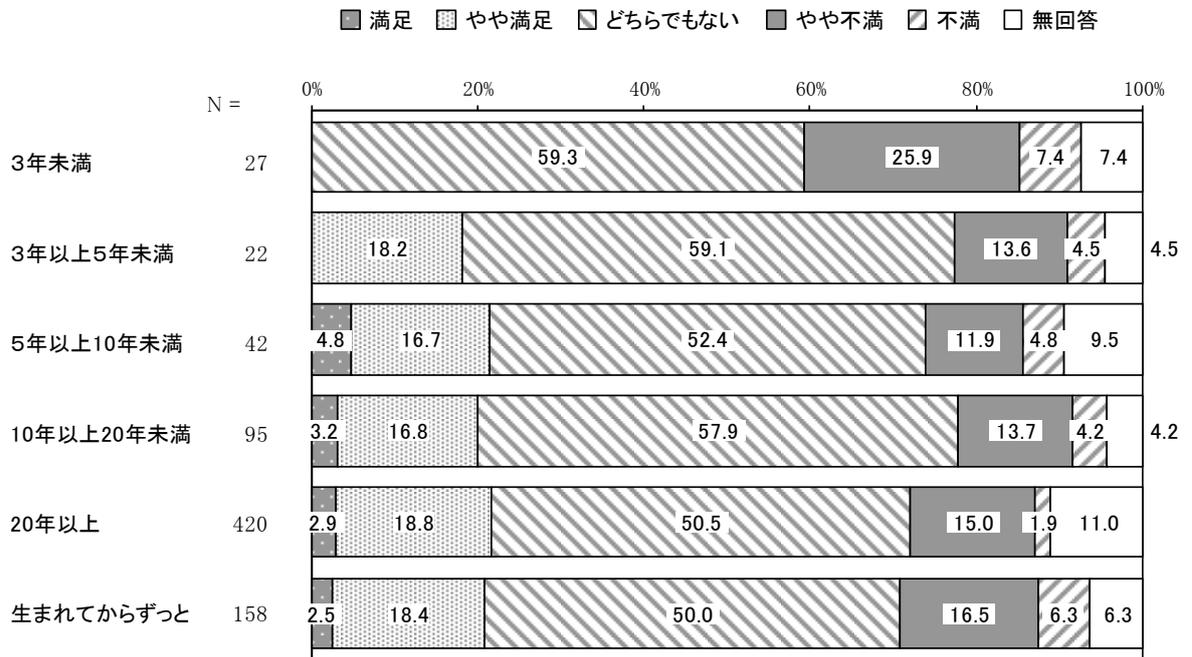
【年代別】

年代別で見ると、年代が高くなるにつれ“満足”の割合が高くなる傾向がみられ、70歳代以上で約3割となっています。



【居住年数別】

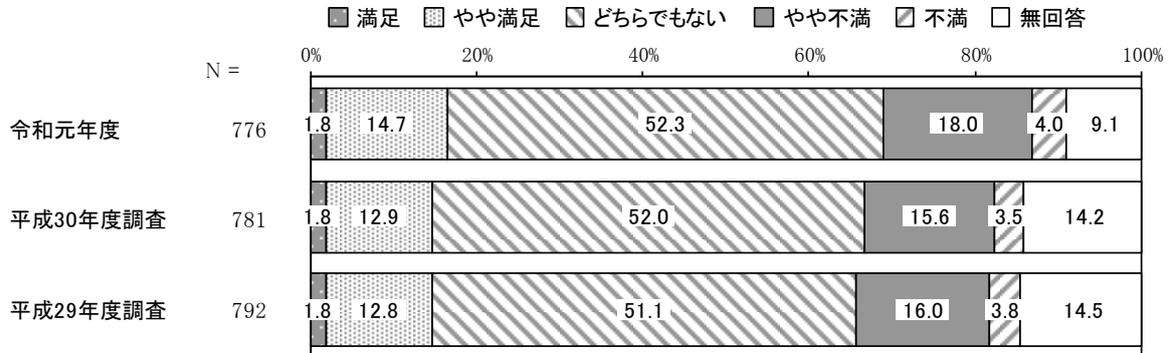
居住年数別でみると、他に比べ、3年未満で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



(2) 地域産業の活力づくり

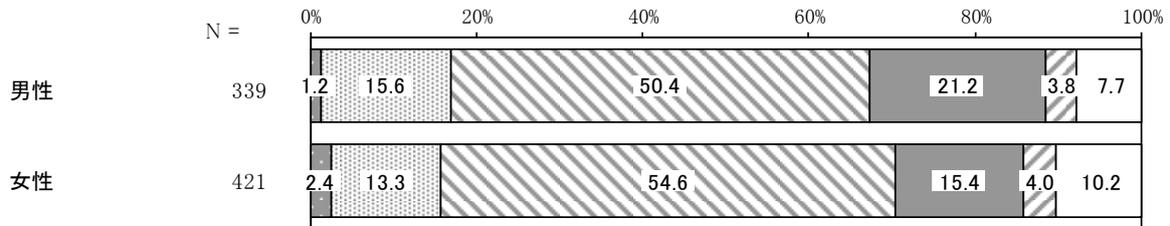
“満足”の割合が16.5%、“不満”の割合が22.0%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



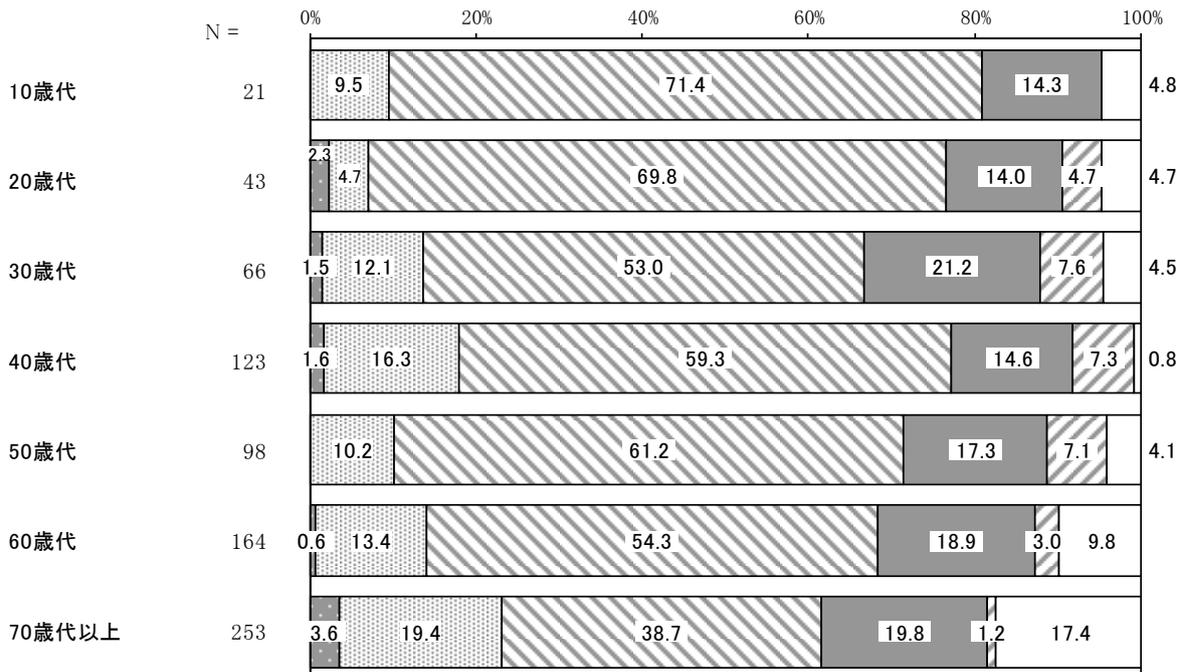
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



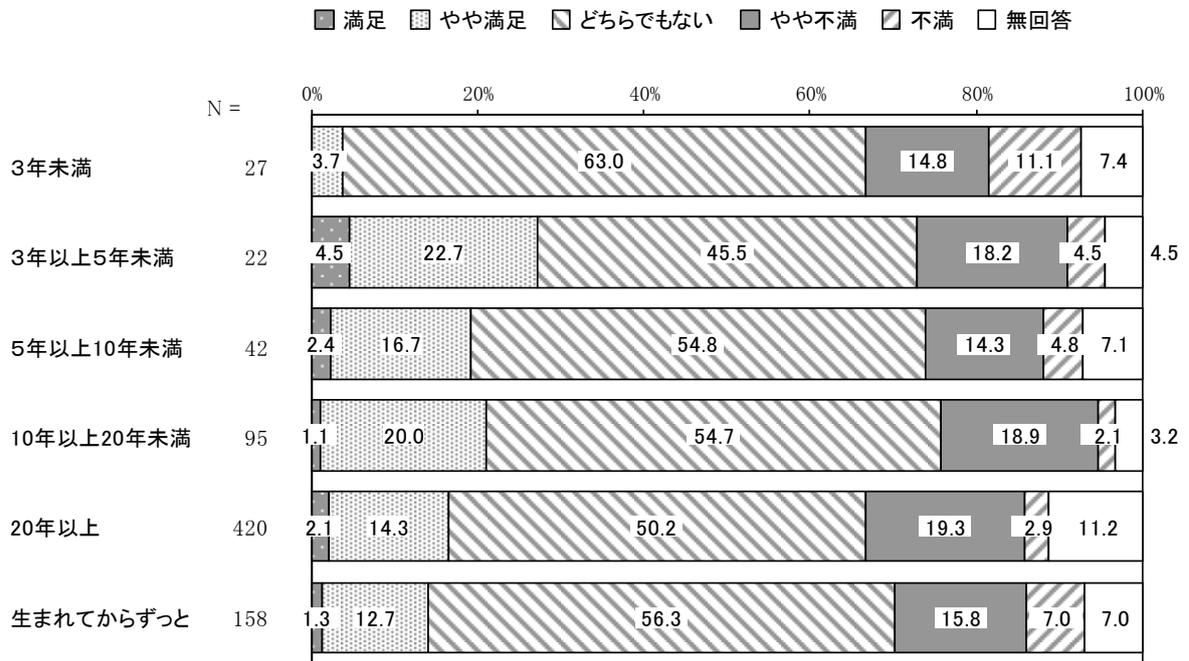
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“満足”の割合が高く、約2割となっています。一方、30歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



【居住年数別】

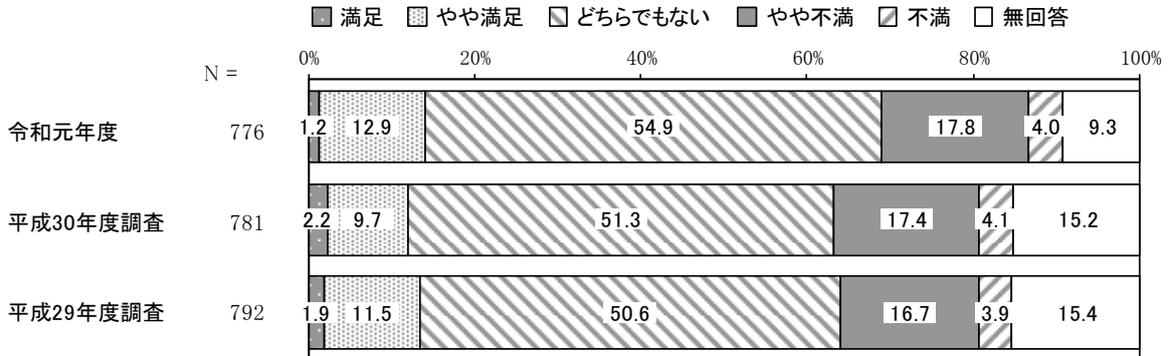
居住年数別でみると、3年以上5年未満で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築

“満足”の割合が14.1%、“不満”の割合が21.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



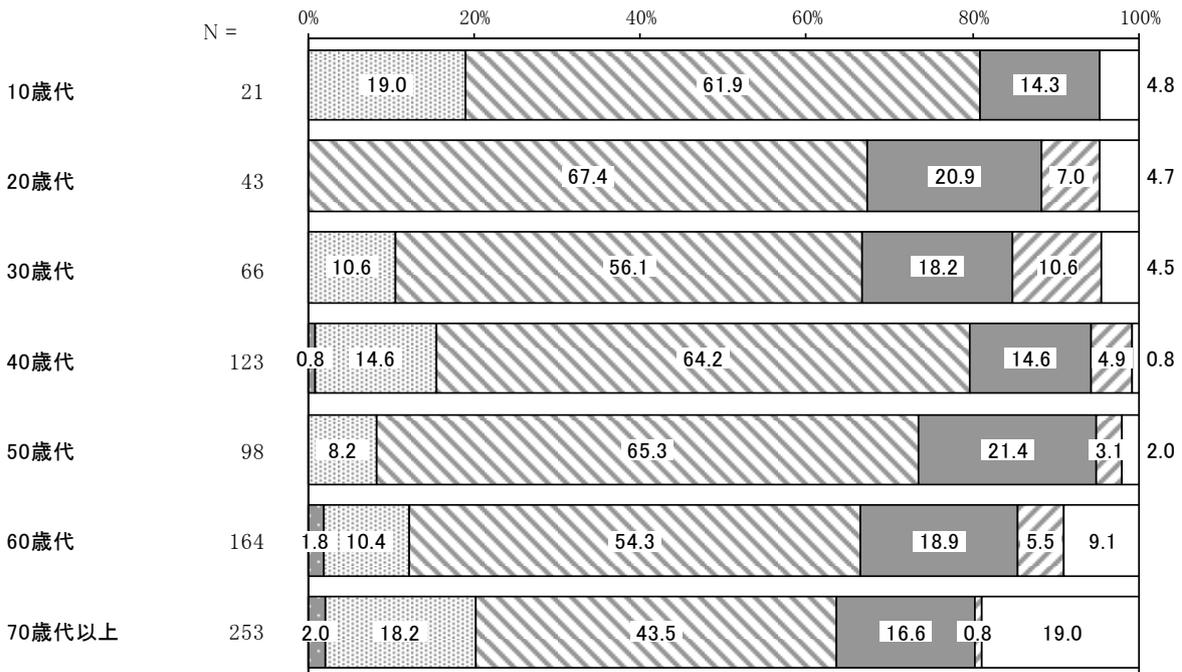
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



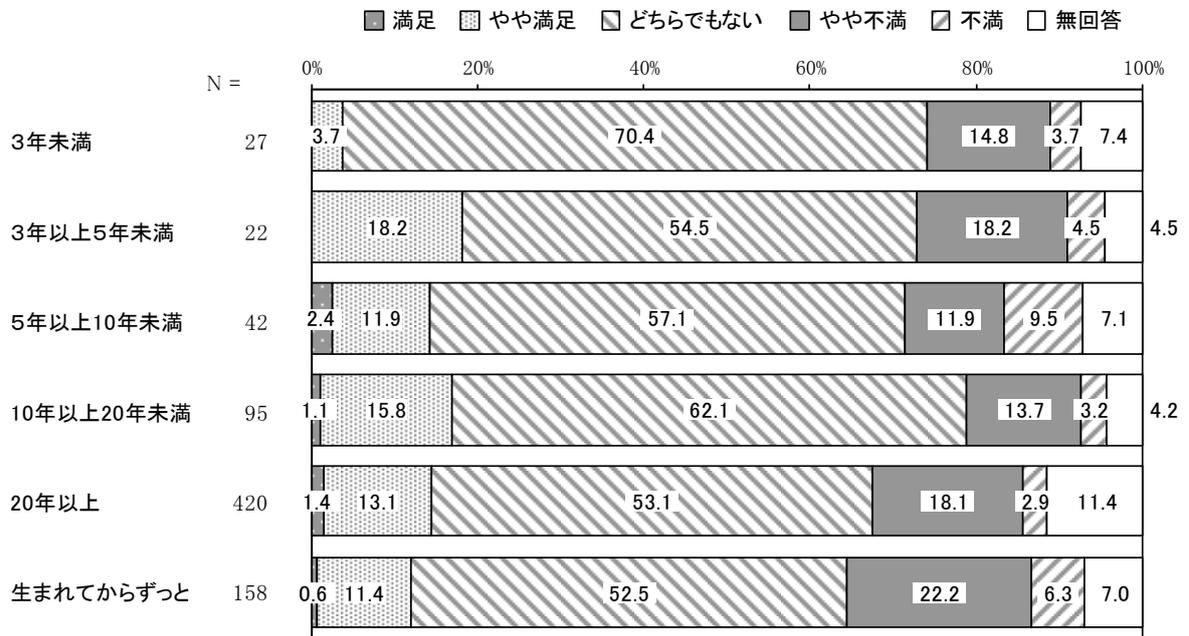
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、70歳代以上で“満足”の割合が高く、約2割となっています。一方、20歳代、30歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



【居住年数別】

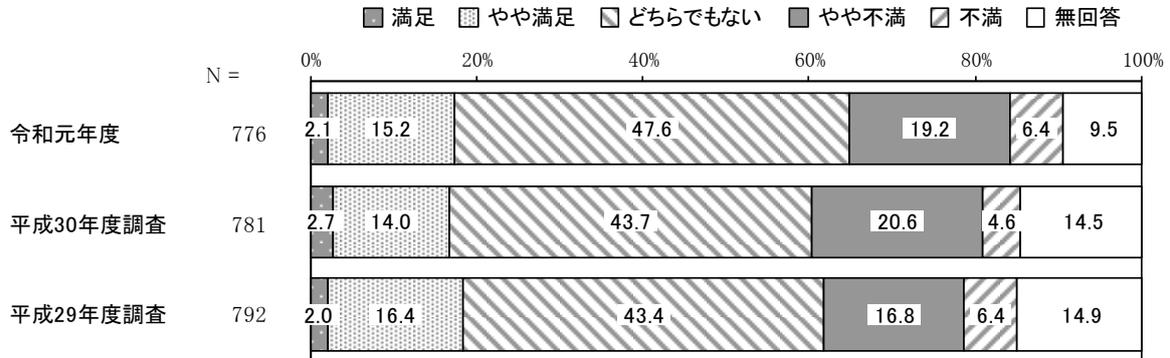
居住年数別で見ると、他に比べ、生まれてからずっとで“不満”の割合が高く、約3割となっています。



(4) 市の魅力の向上と発信

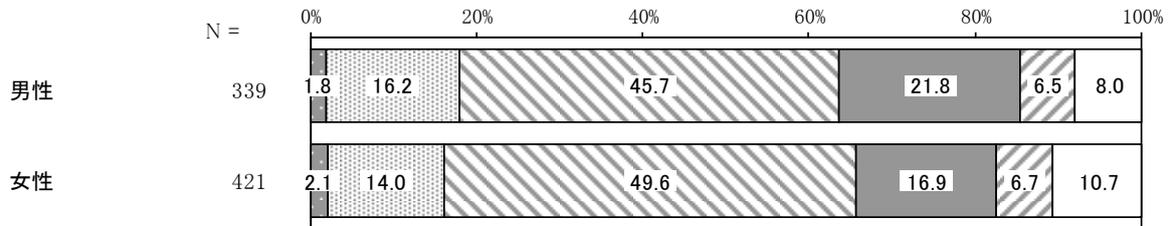
“満足”の割合が17.3%、“不満”の割合が25.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



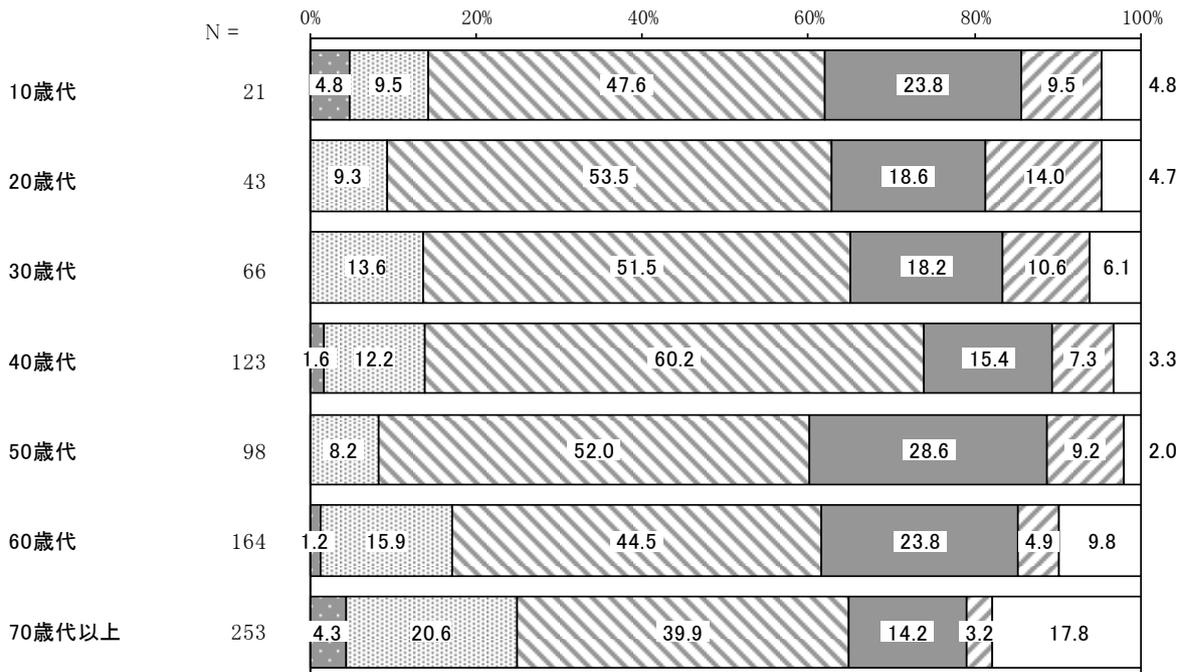
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



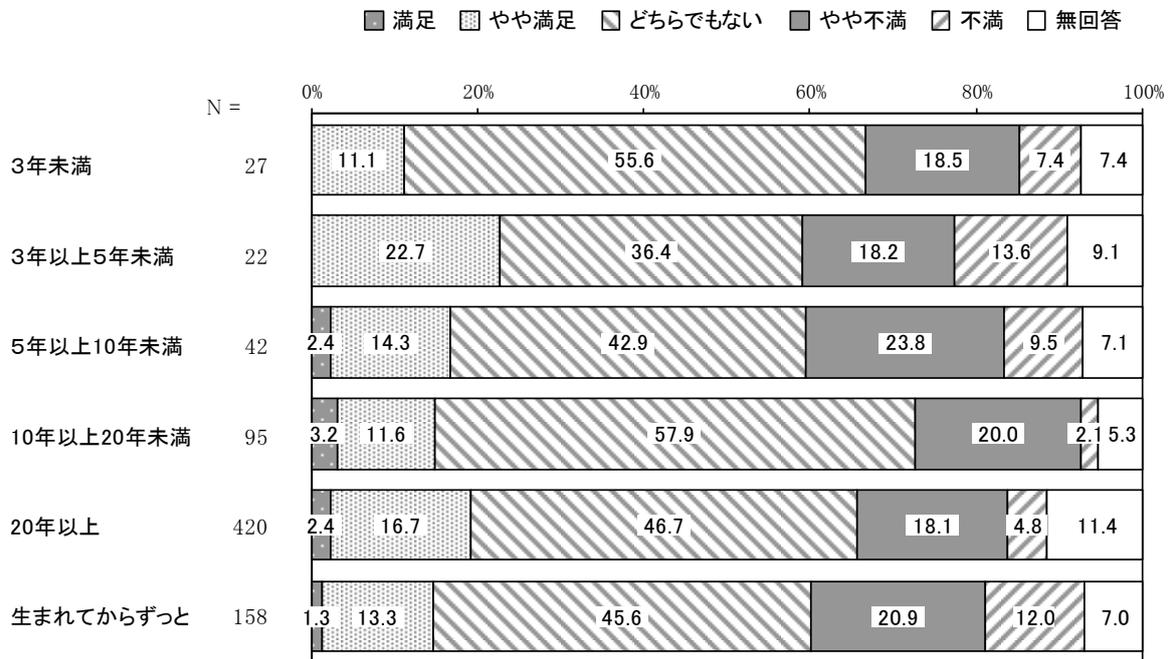
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。一方、50歳代で“不満”の割合が高く、約4割となっています。



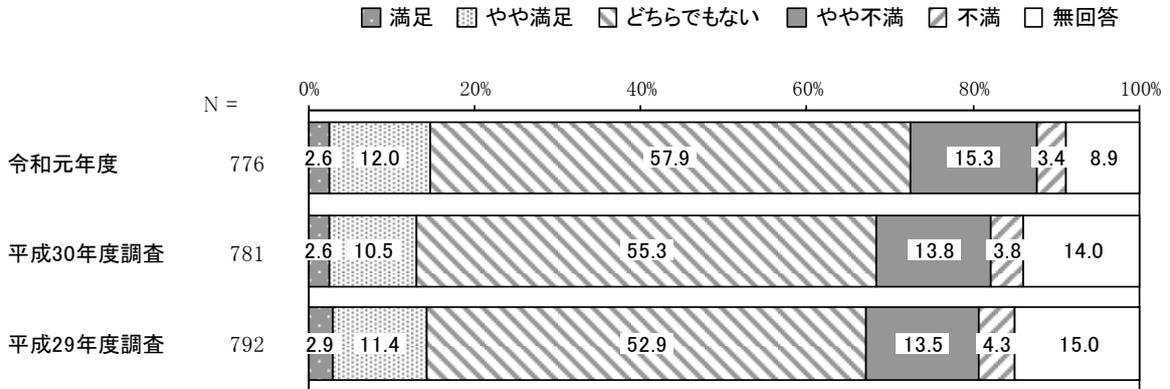
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満、5年以上10年未満、生まれてからずっとで“不満”の割合が高く、約3割となっています。



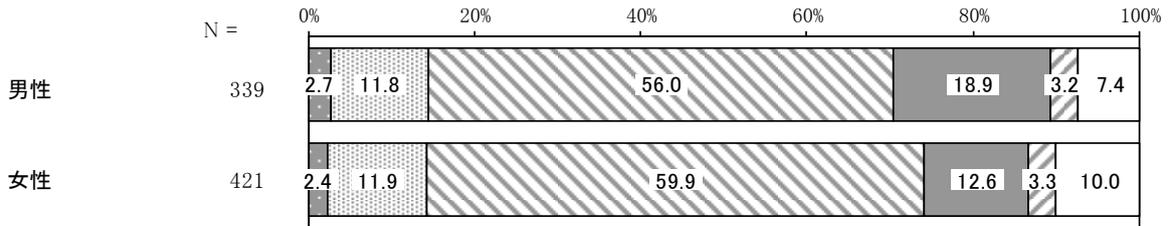
(5) 定住・移住の促進

“満足”の割合が14.6%、“不満”の割合が18.7%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



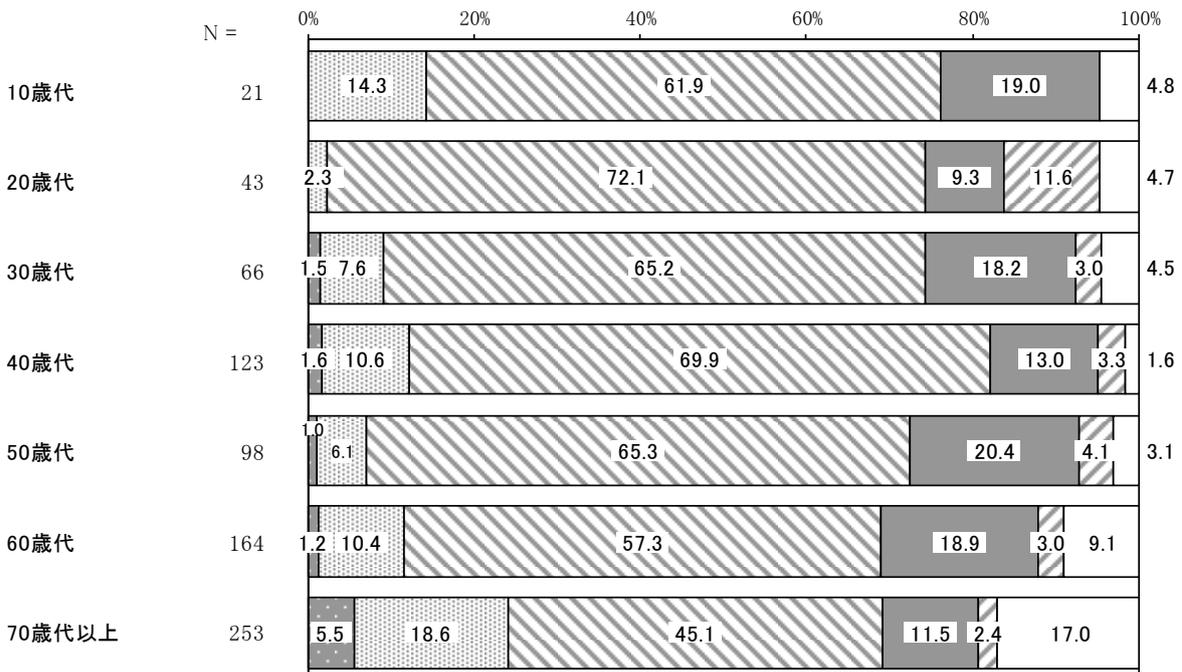
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



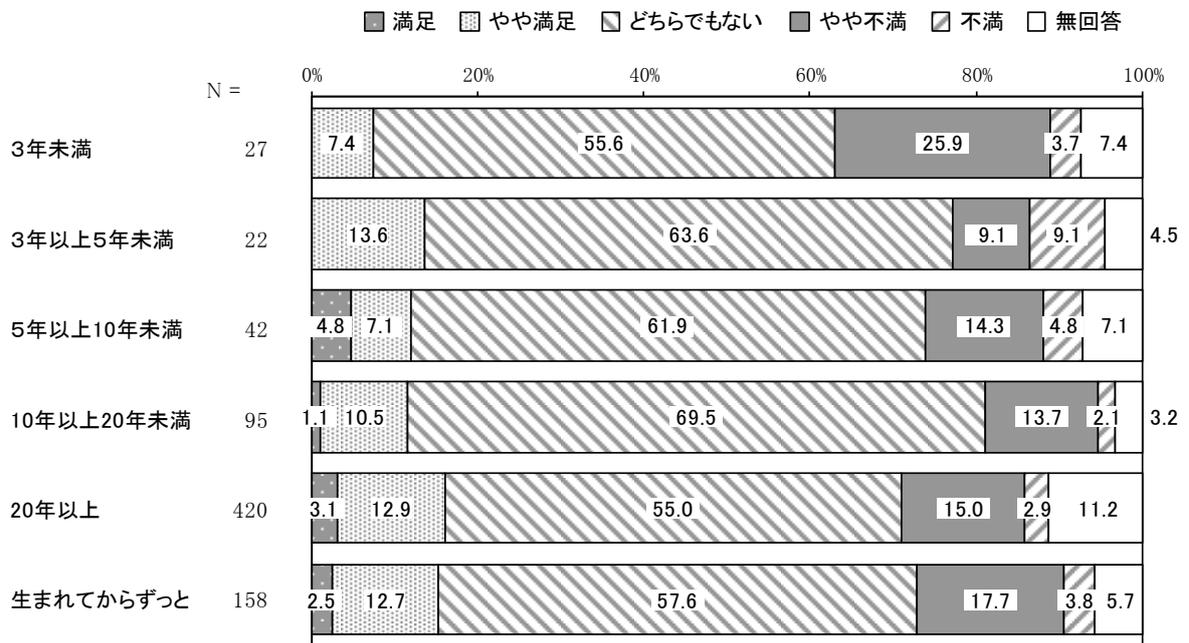
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。一方、50歳代で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



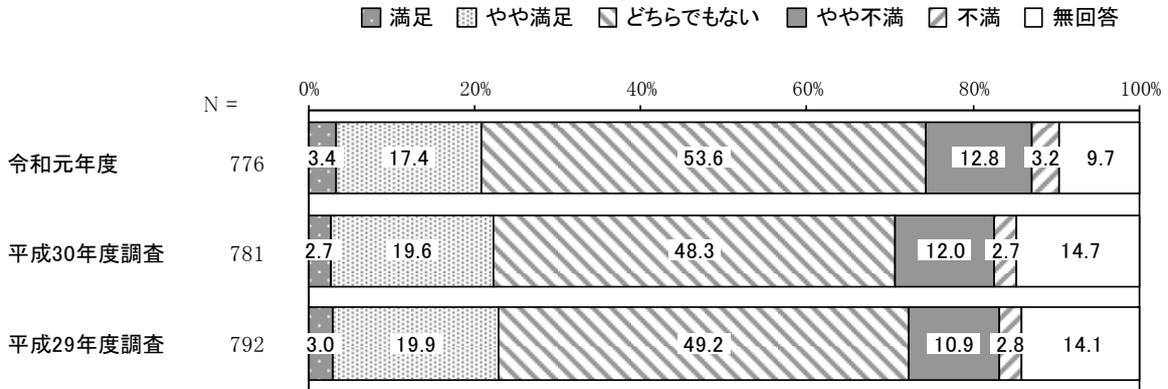
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年未満で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



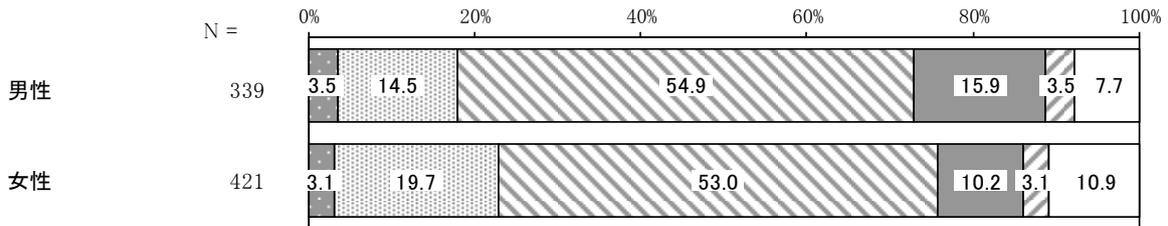
(6) 地域と市民の元気づくり

“満足”の割合が20.8%、“不満”の割合が16.0%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



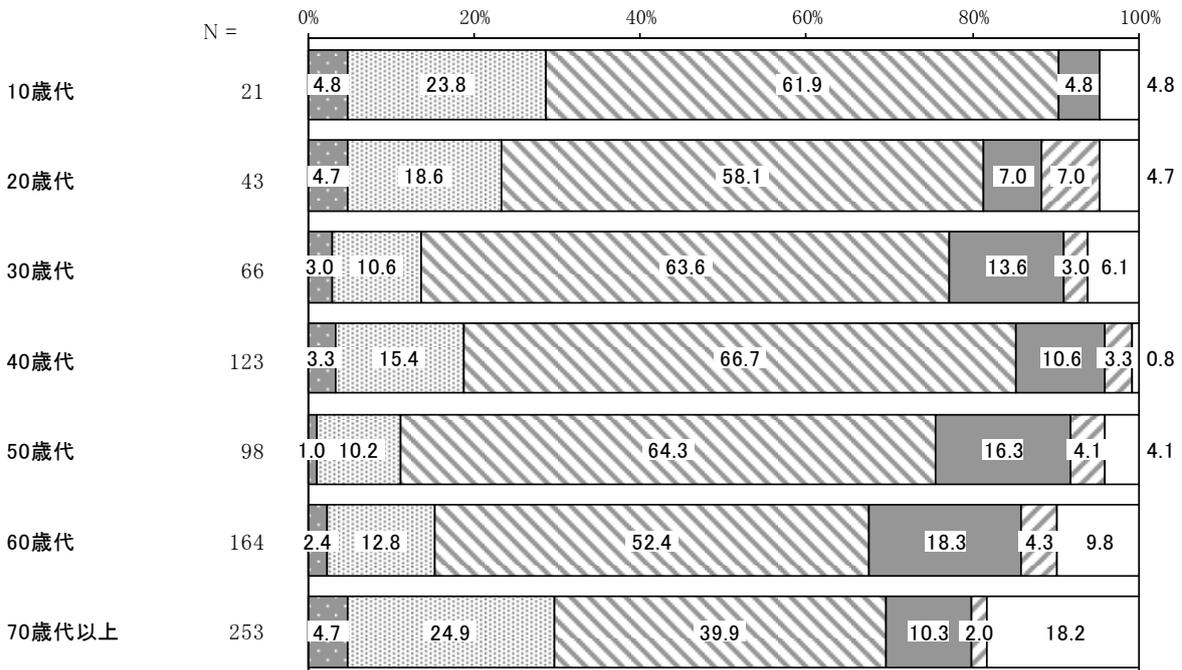
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。また、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、2割を超えています。



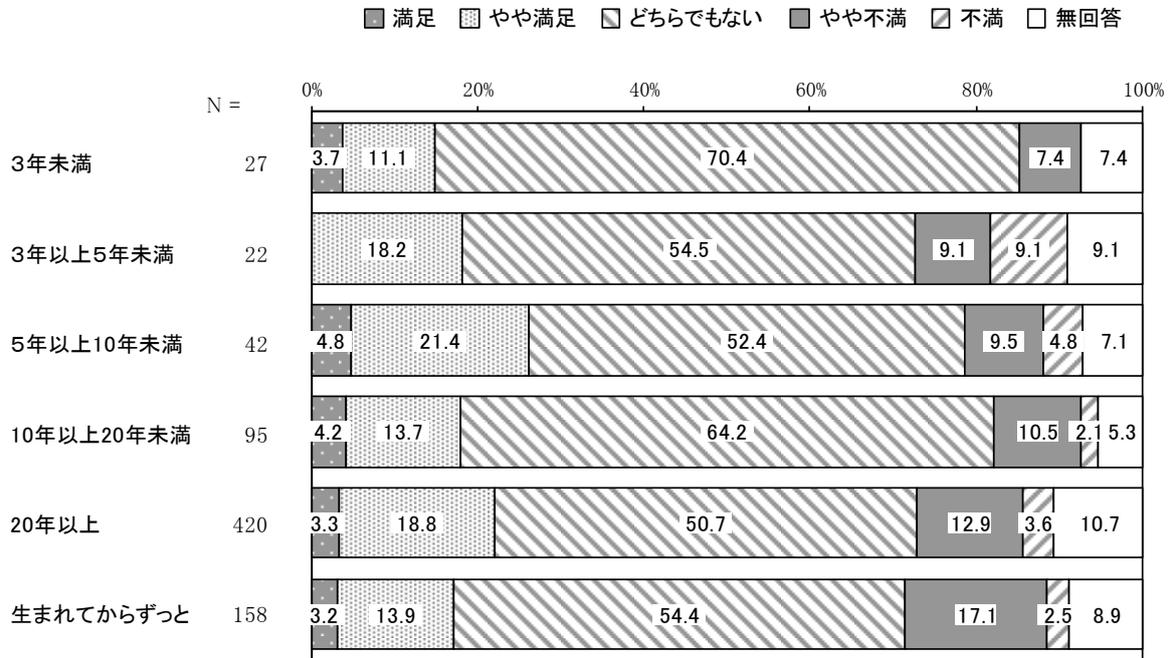
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、70歳代以上で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、50歳代、60歳代で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



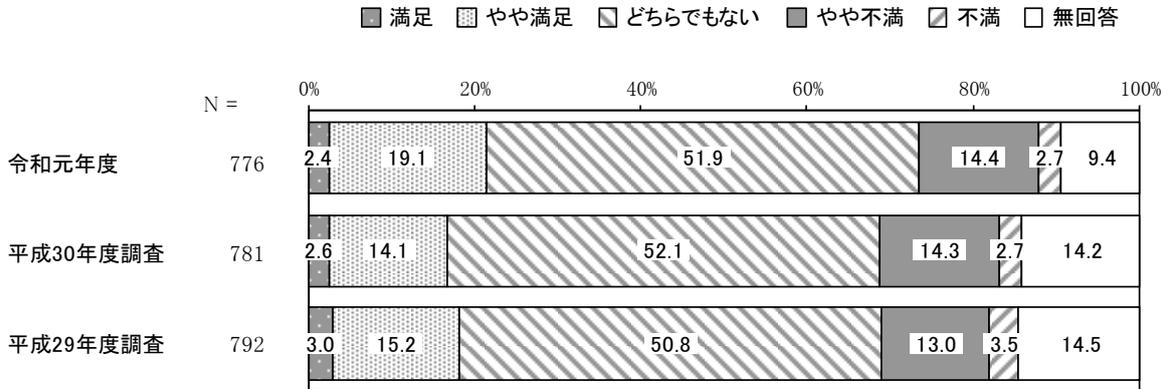
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、5年以上10年未満で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、3年以上5年未満、生まれてからずっとで”不満“の割合が高く、約2割となっています。



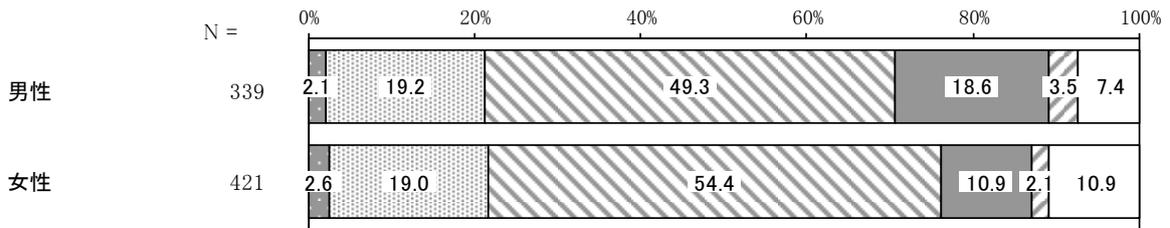
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む

“満足”の割合が21.5%、“不満”の割合が17.1%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、“満足”の割合が増加しています。



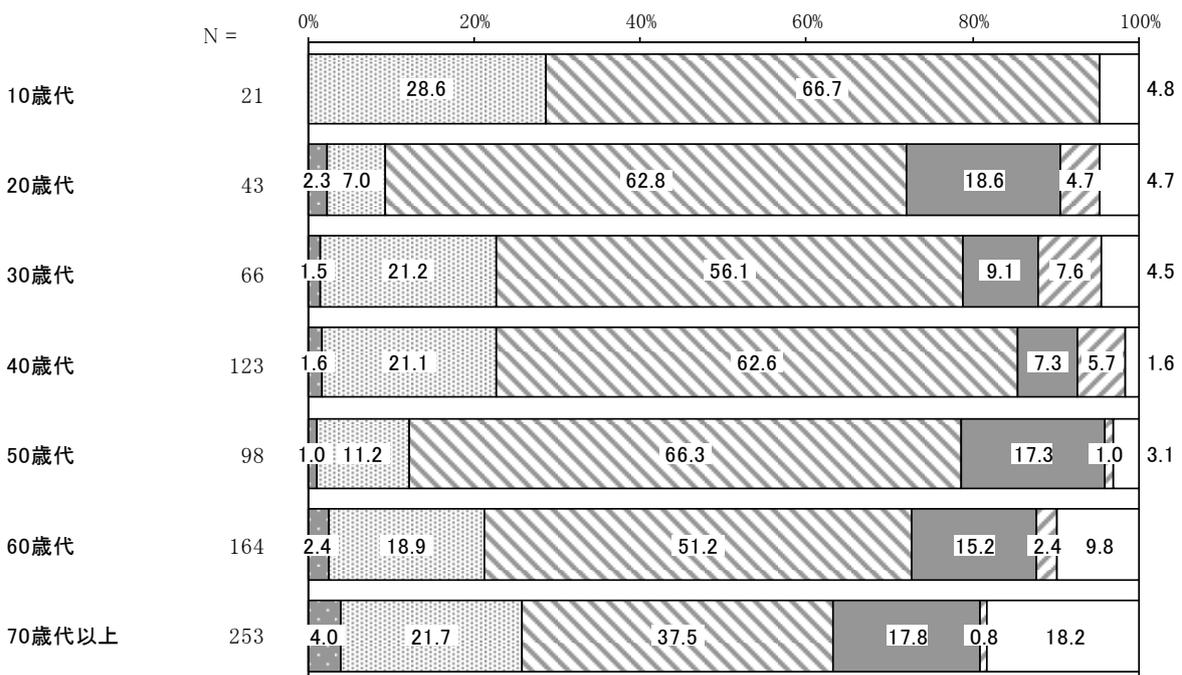
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



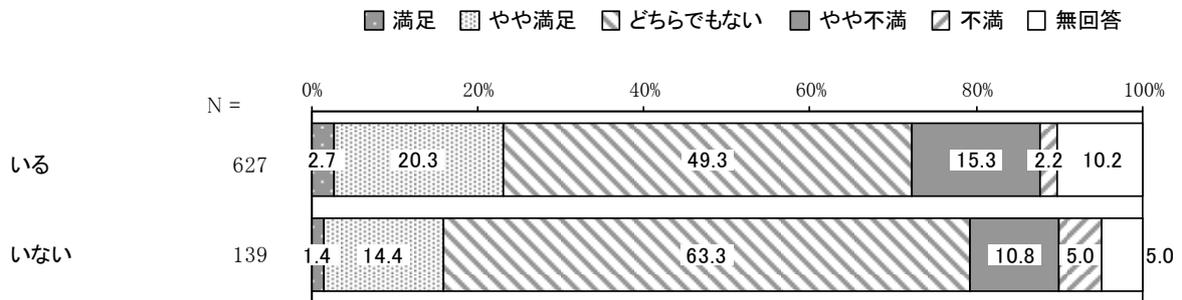
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。
 また、20歳代で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



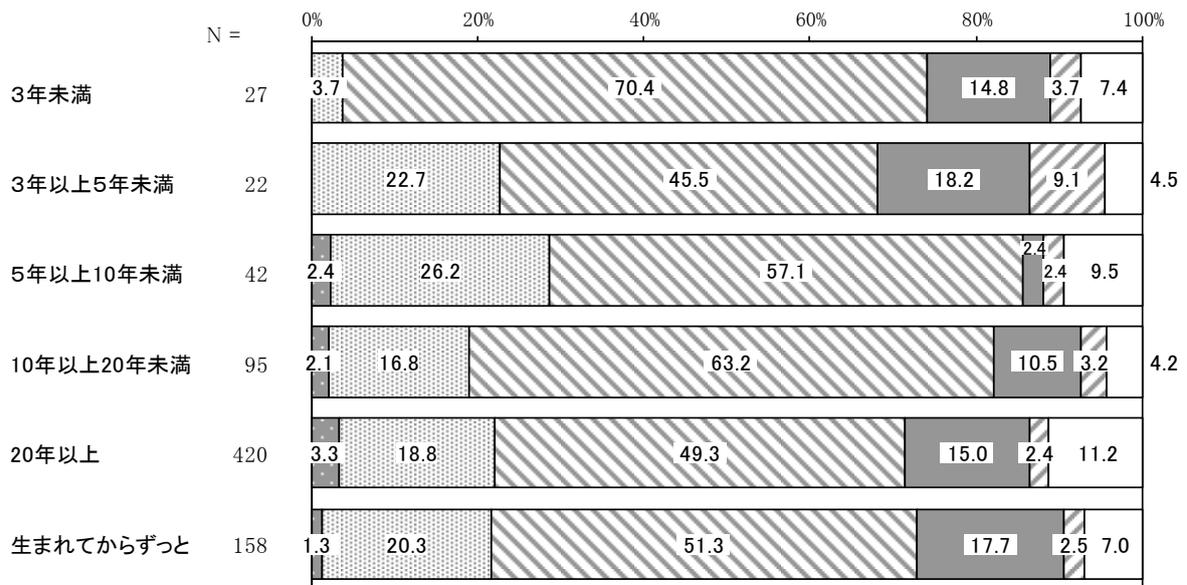
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“不満”の割合が高く、約2割となっているとともに、“満足”の割合が高く、約2割となっています。



【居住年数別】

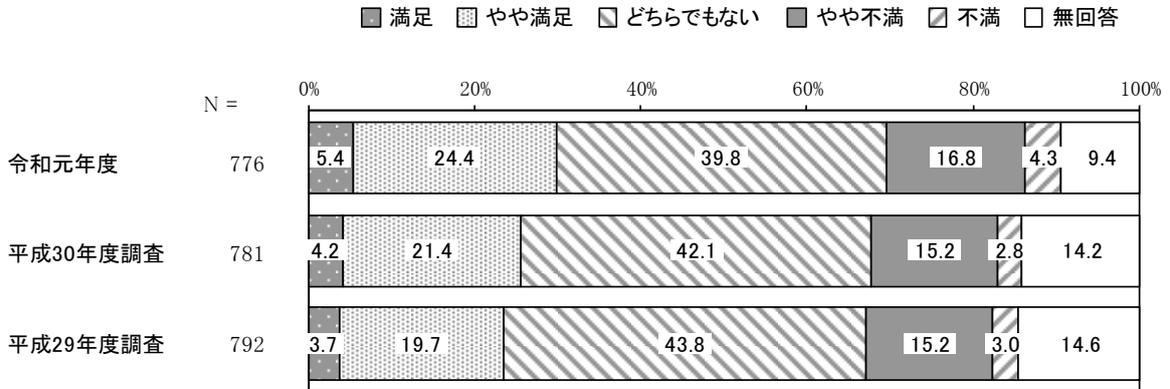
居住年数別で見ると、『5年以上10年未満』で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、『3年以上5年未満』で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



(8) 安心して子育てできる環境づくり

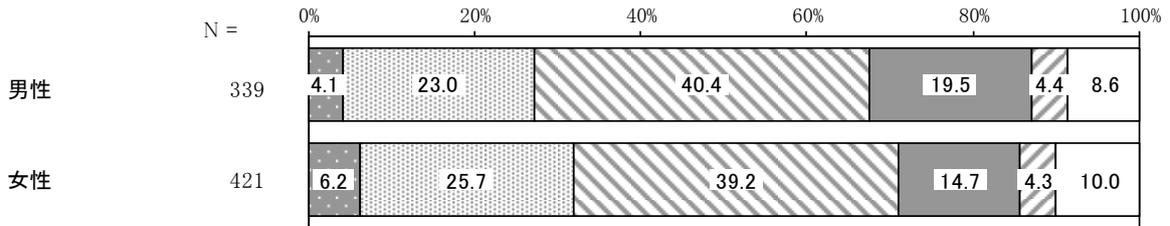
“満足”の割合が29.8%、“不満”の割合が21.1%となっています。

平成29年度調査、平成30年度調査と比較すると、“満足”の割合が増加しています。



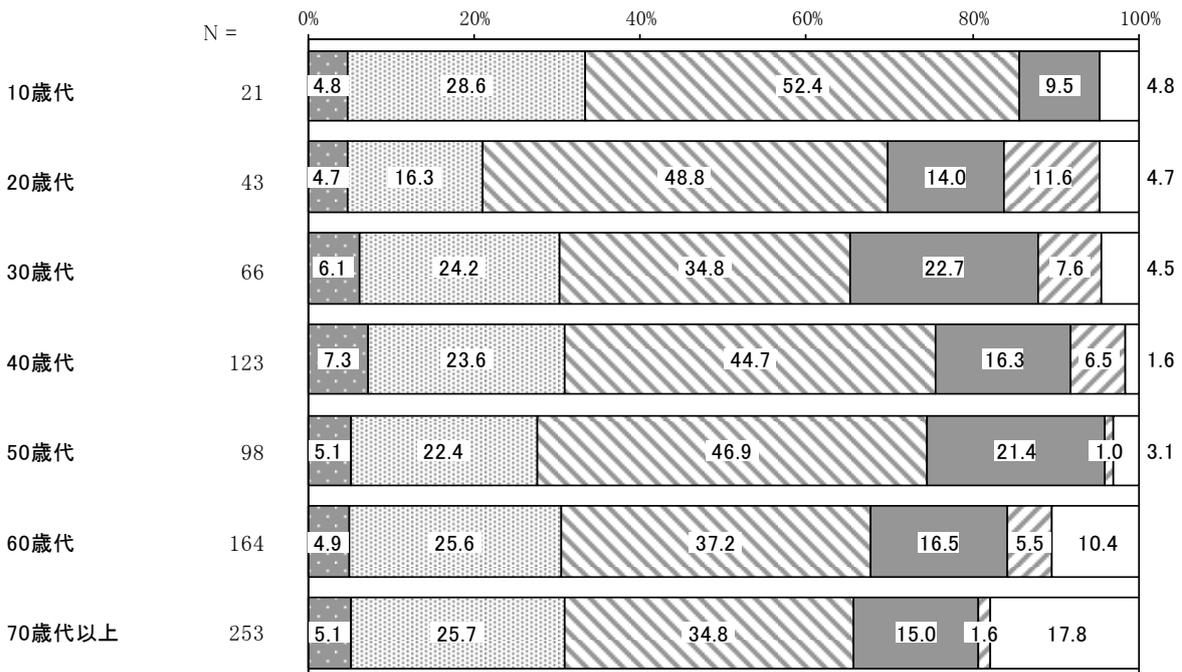
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、2割を超えています。



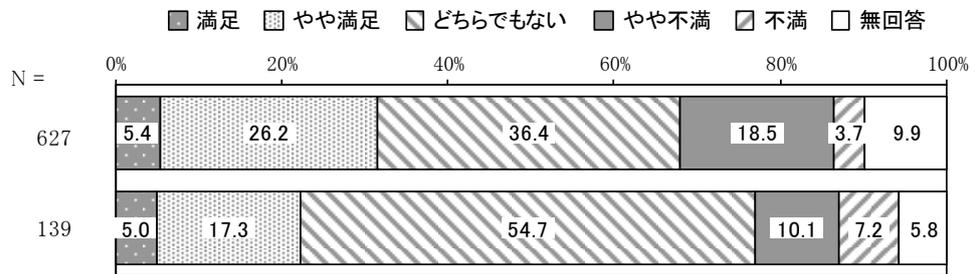
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で“満足”の割合が低く、約2割となっています。また、30歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



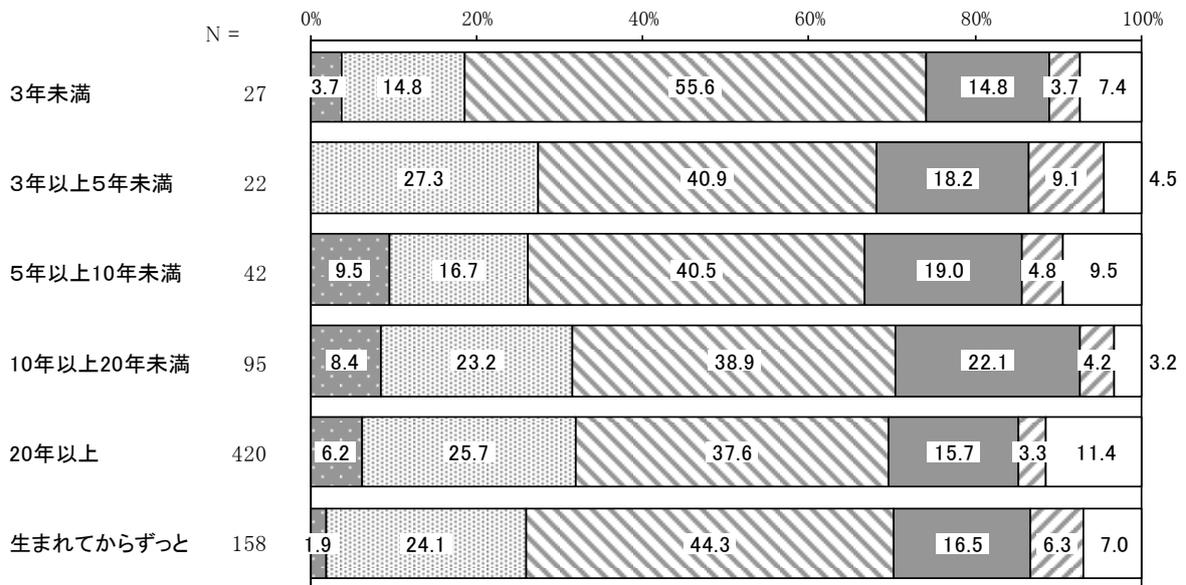
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どものいない人に比べ、子どものいる人で“満足”の割合、“不満”の割合ともに高くなっています。



【居住年数別】

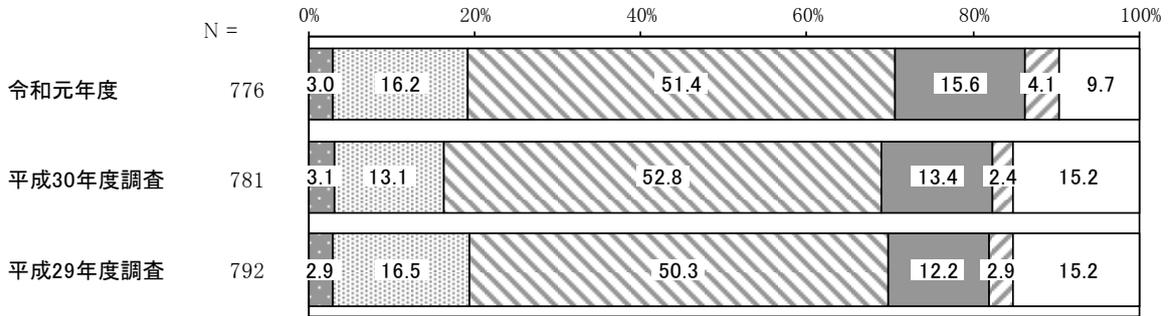
居住年数別で見ると、他に比べ、10年以上20年未満と20年以上をあわせた“10年以上”で“満足”の割合が高く、3割を超えています。また、3年未満と20年以上を除く項目で“不満”の割合が高くなっています。



(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす

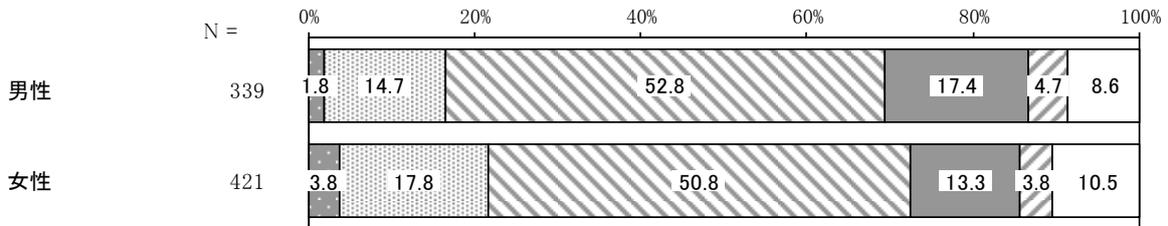
“満足”の割合が19.2%、“不満”の割合が19.7%となっています。

平成30年度調査と比較すると、“不満”の割合が増加しています。



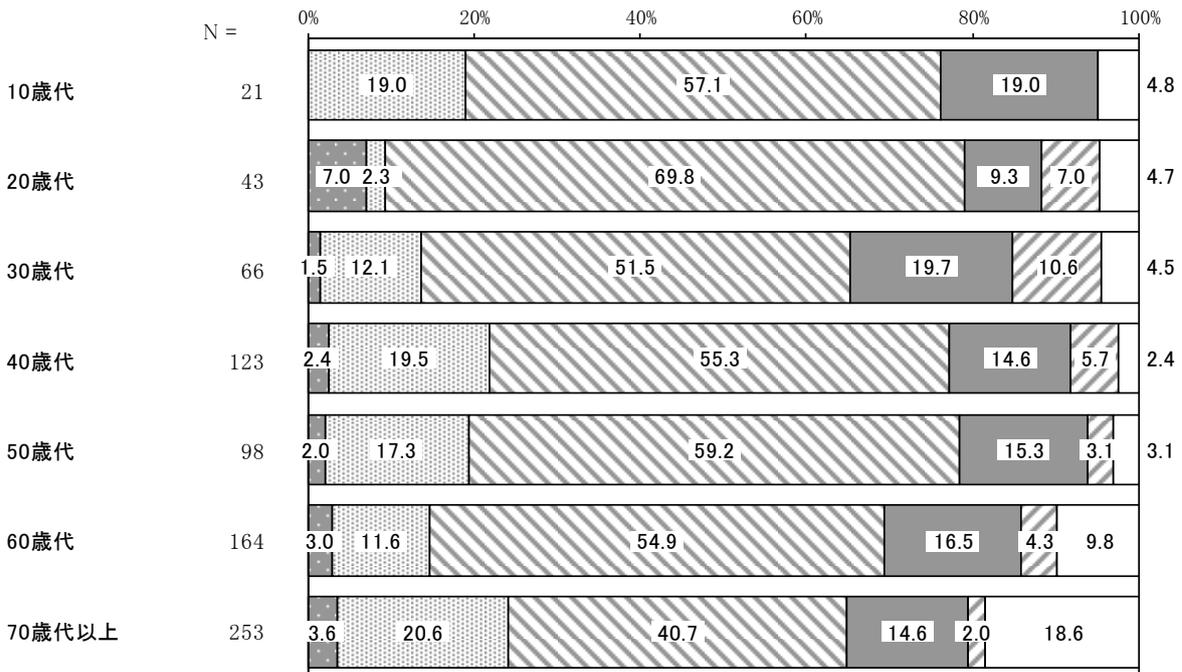
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、“不満”の割合が低くなっています。



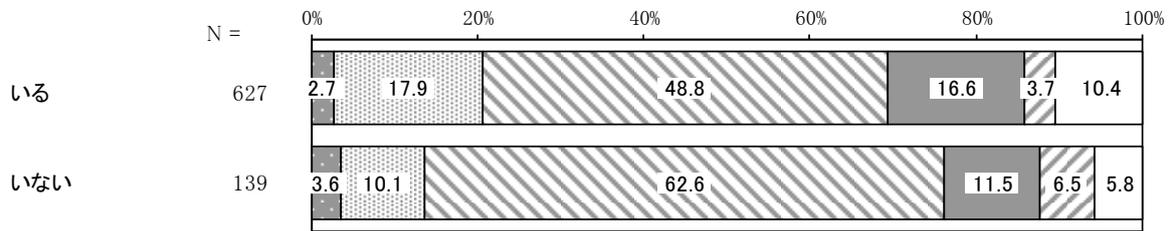
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、30歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



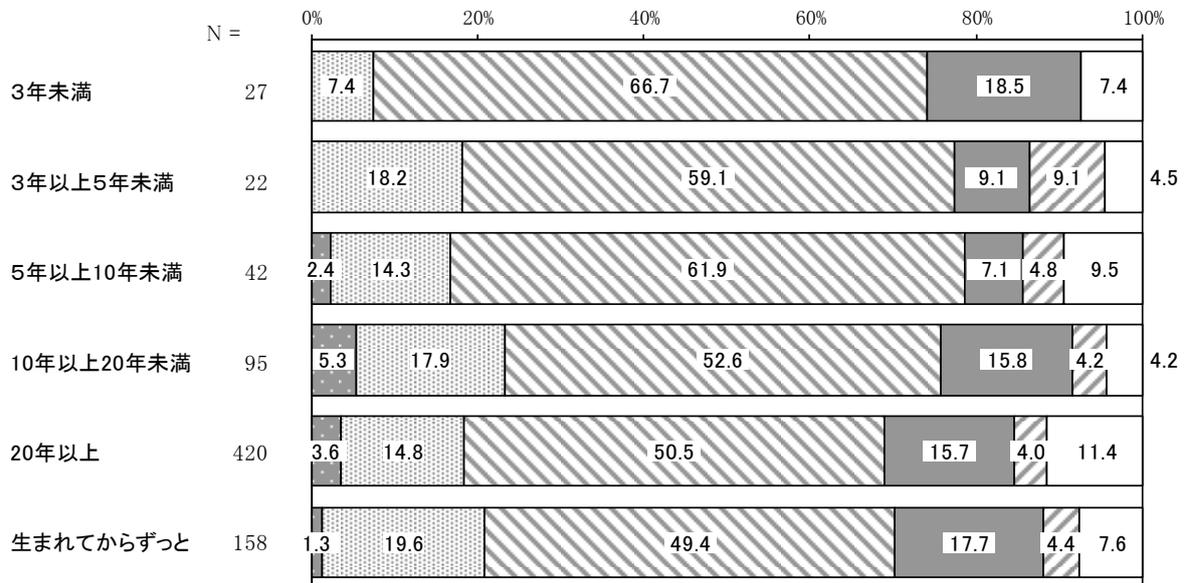
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



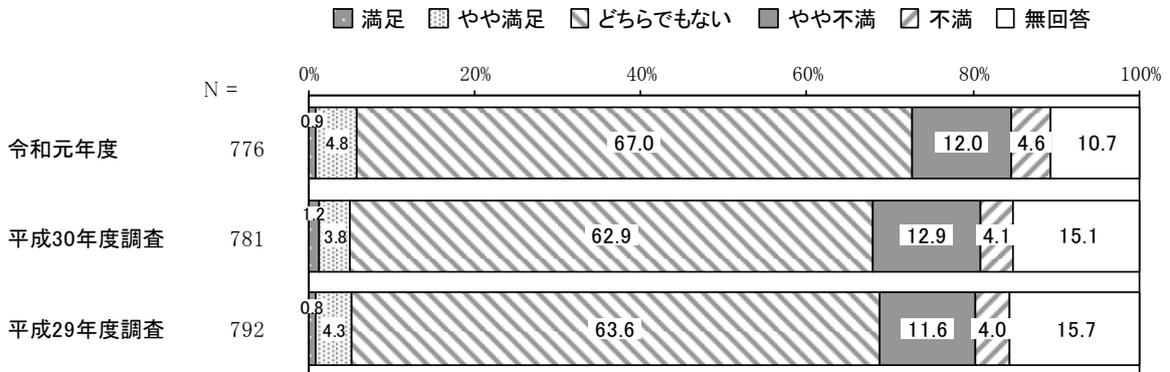
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、10年以上20年未満で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



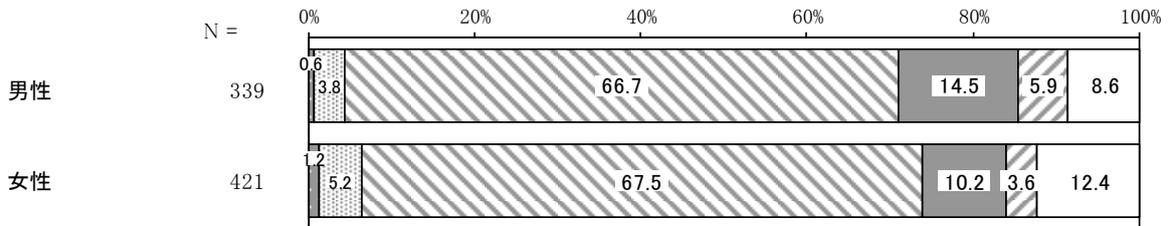
(10) 結婚への機会づくり

“満足”の割合が5.7%、“不満”の割合が16.6%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



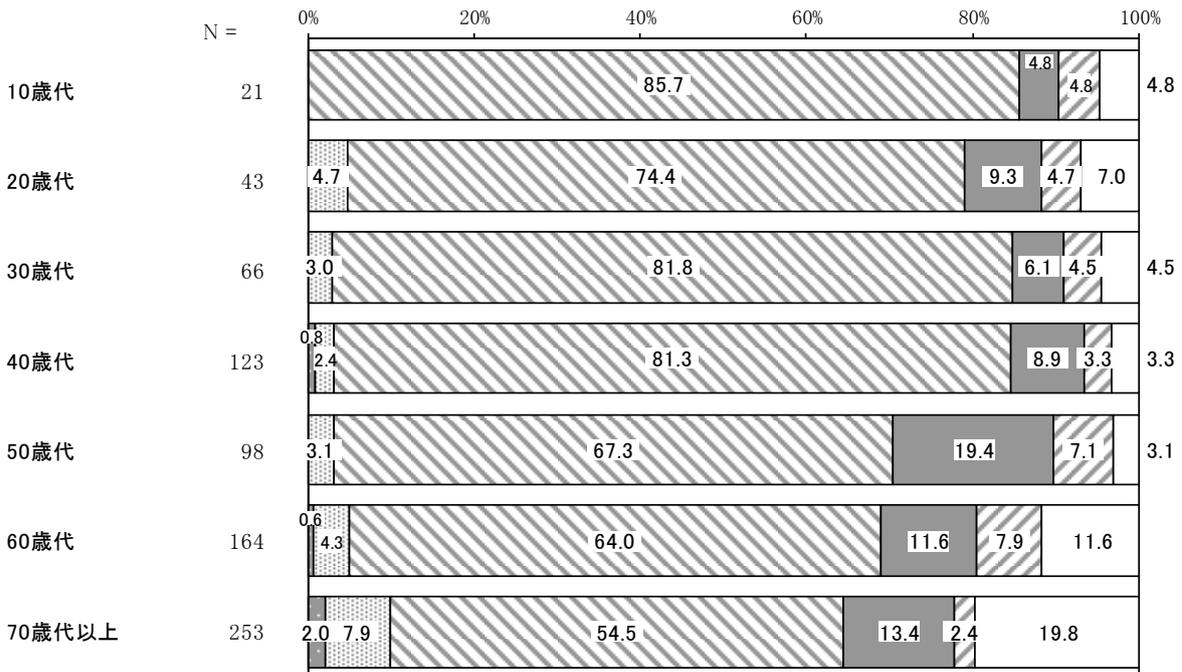
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



【居住年数別】

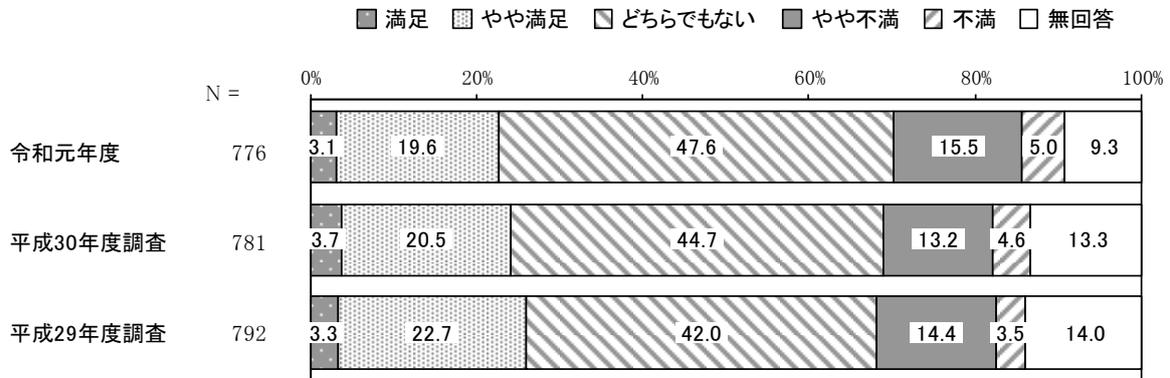
居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満、生まれてからずっとで“不満”の割合が高く、約2割となっています。



(11) 健康で暮らせる環境づくり

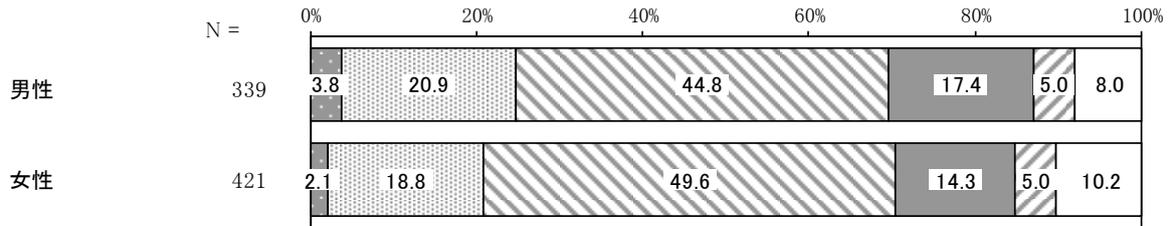
“満足”の割合が22.7%、“不満”の割合が20.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

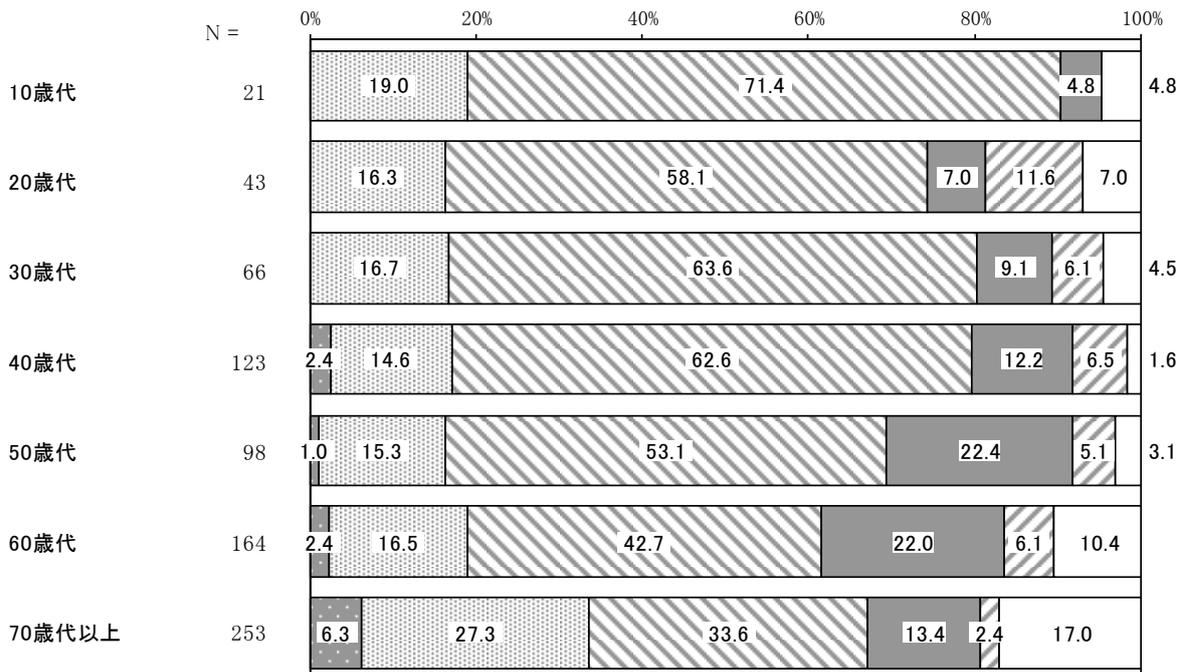
性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

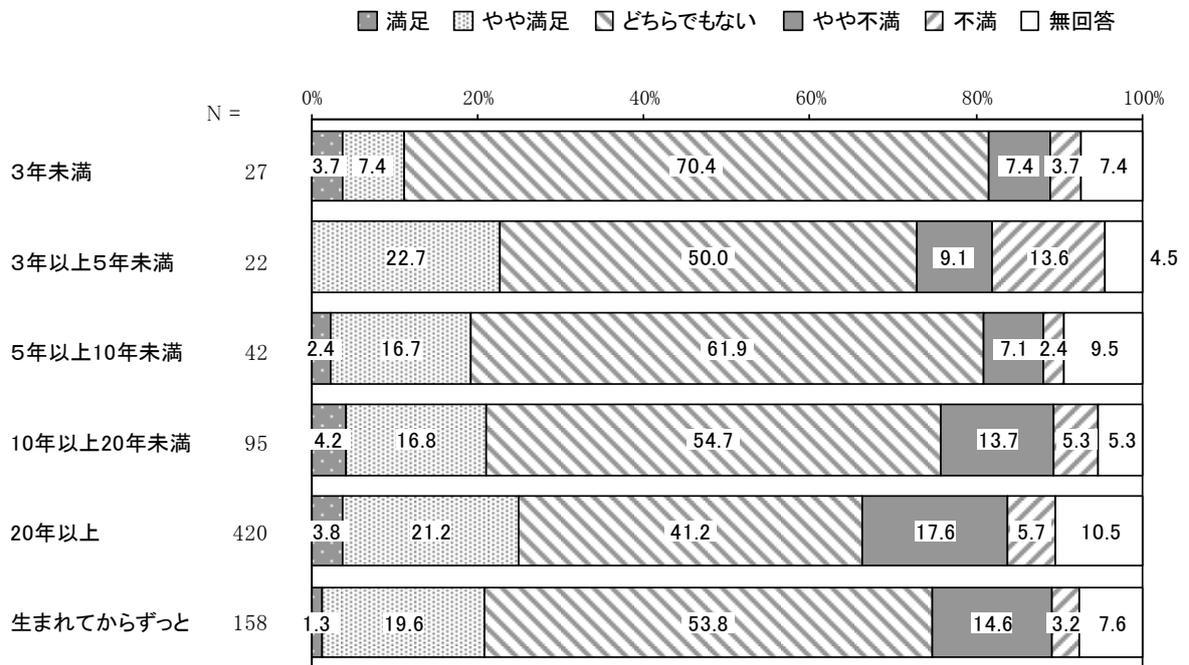
年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“満足”の割合が高く、3割を超えています。

また、50歳代、60歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



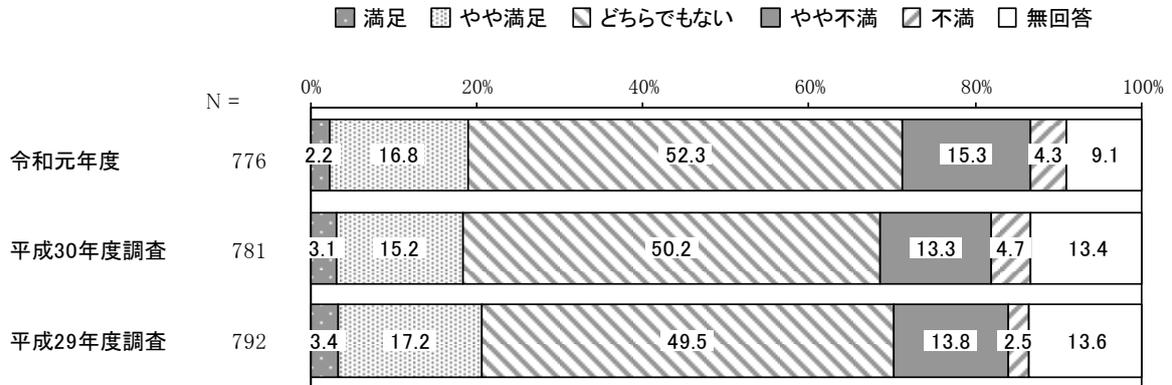
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、20年以上で“満足”の割合が高くなっています。また、3年以上5年未満、20年以上で“不満”の割合が高く、2割を超えています。



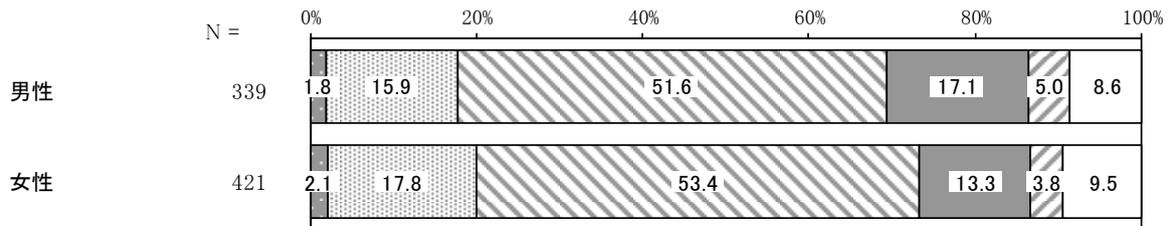
(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり

“満足”の割合が19.0%、“不満”の割合が19.6%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



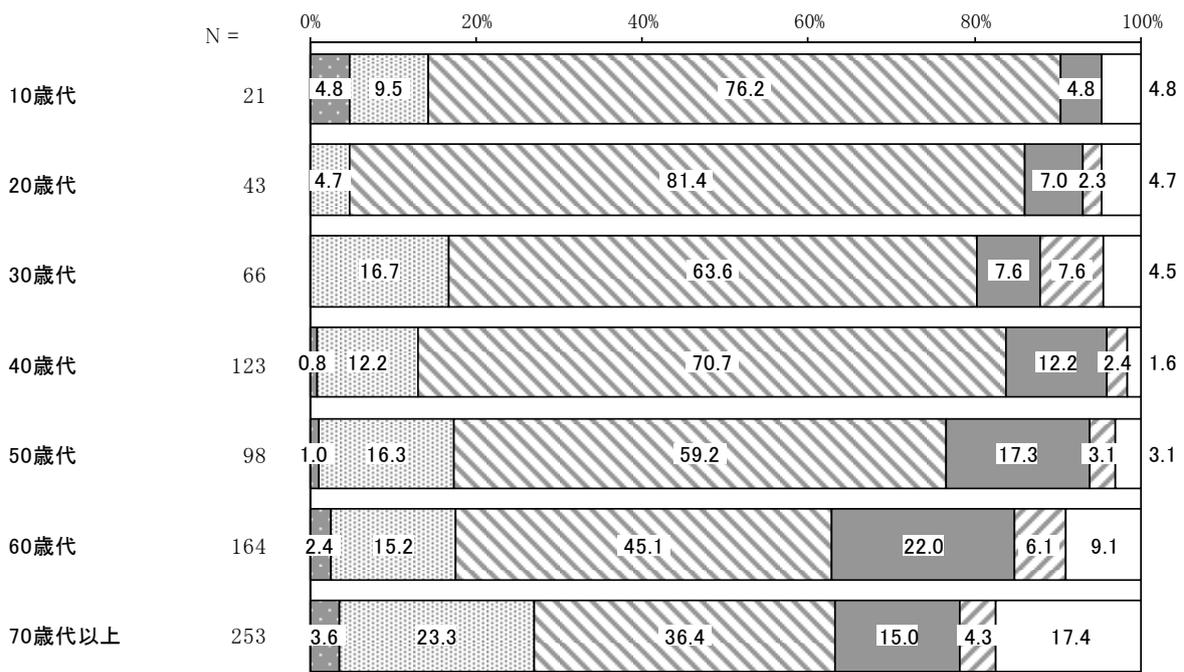
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、2割を超えています。



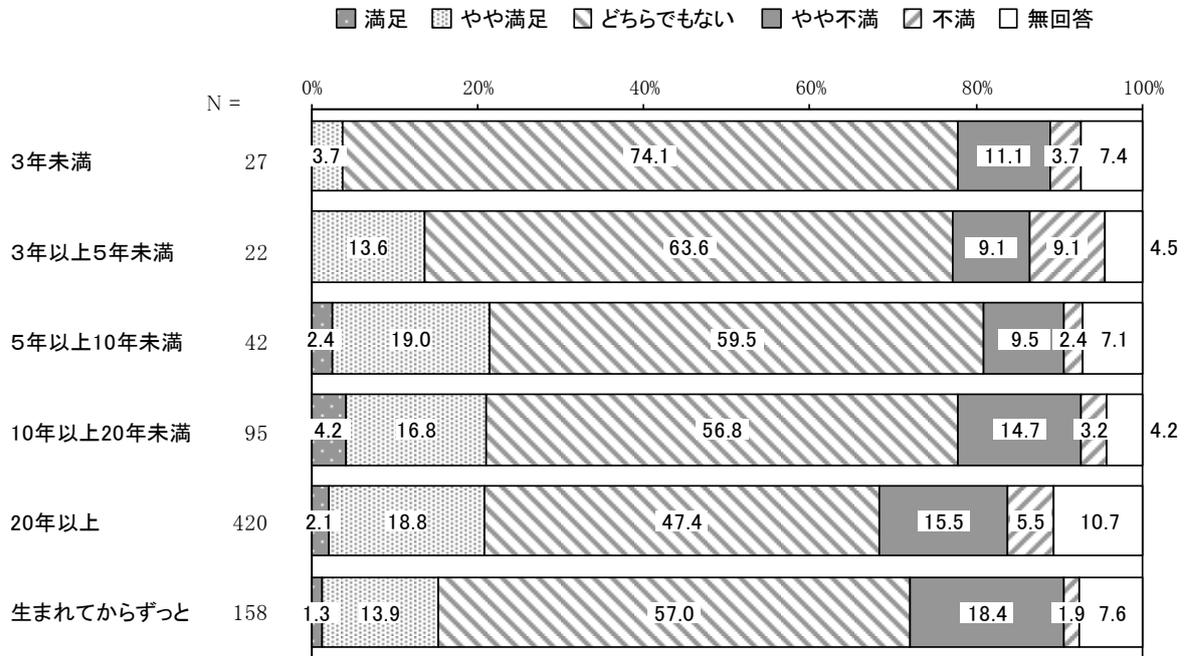
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、60歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



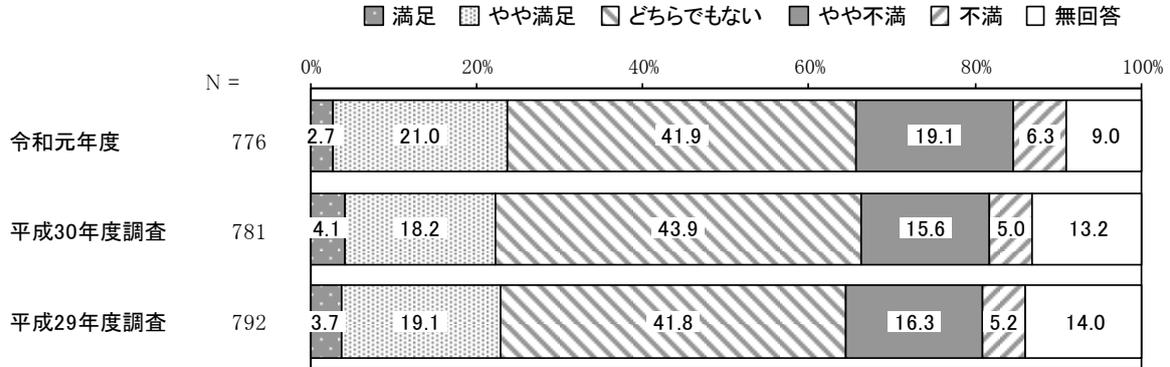
【居住年数別】

居住年数別でみると、5年以上10年未満と10年以上20年未満と20年以上をあわせた“5年以上”で“満足”の割合が高く、約2割となっています。また、10年以上20年未満と20年以上と生まれてからずっとをあわせた“10年以上”で“不満”の割合が高くなっています。



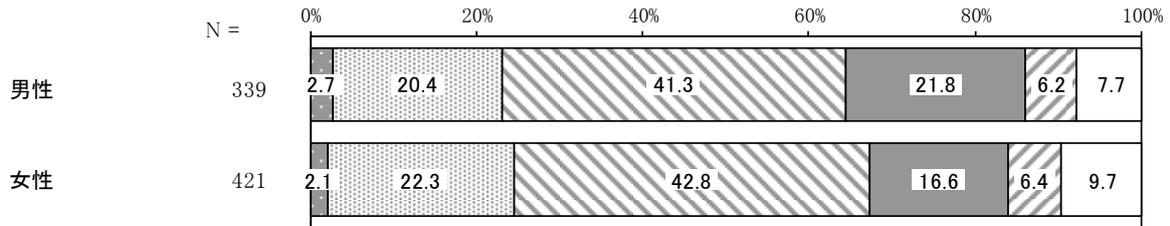
(13) 安心して暮らせる生活環境づくり

“満足”の割合が23.7%、“不満”の割合が25.4%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、“不満”の割合が増加しています。



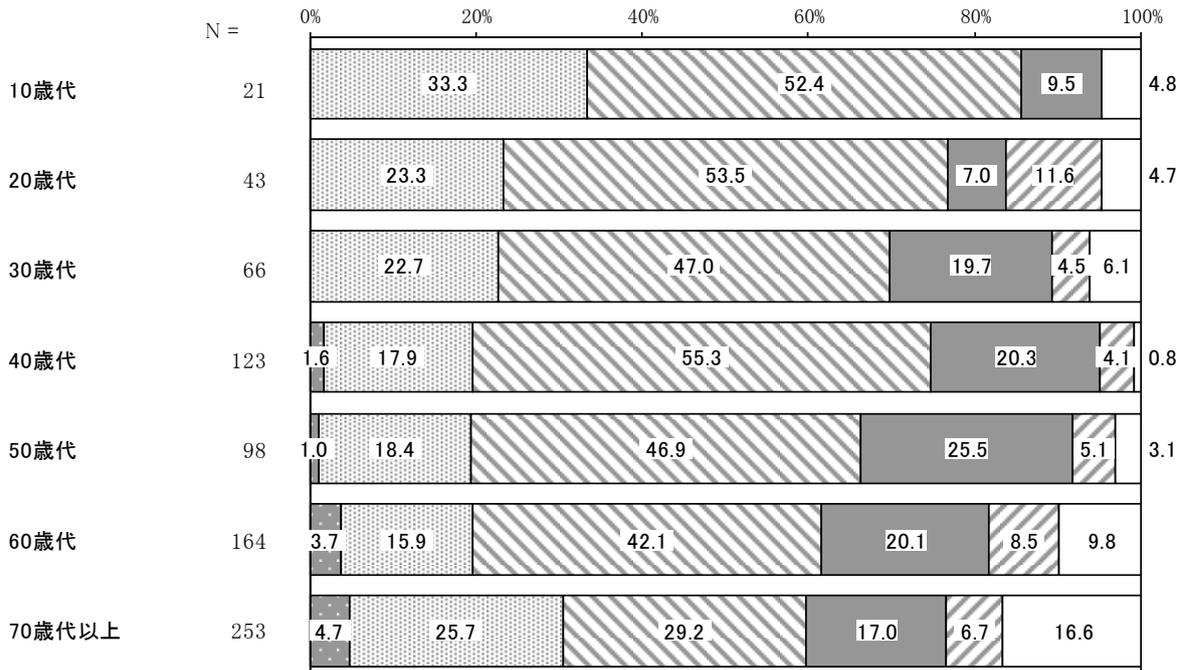
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



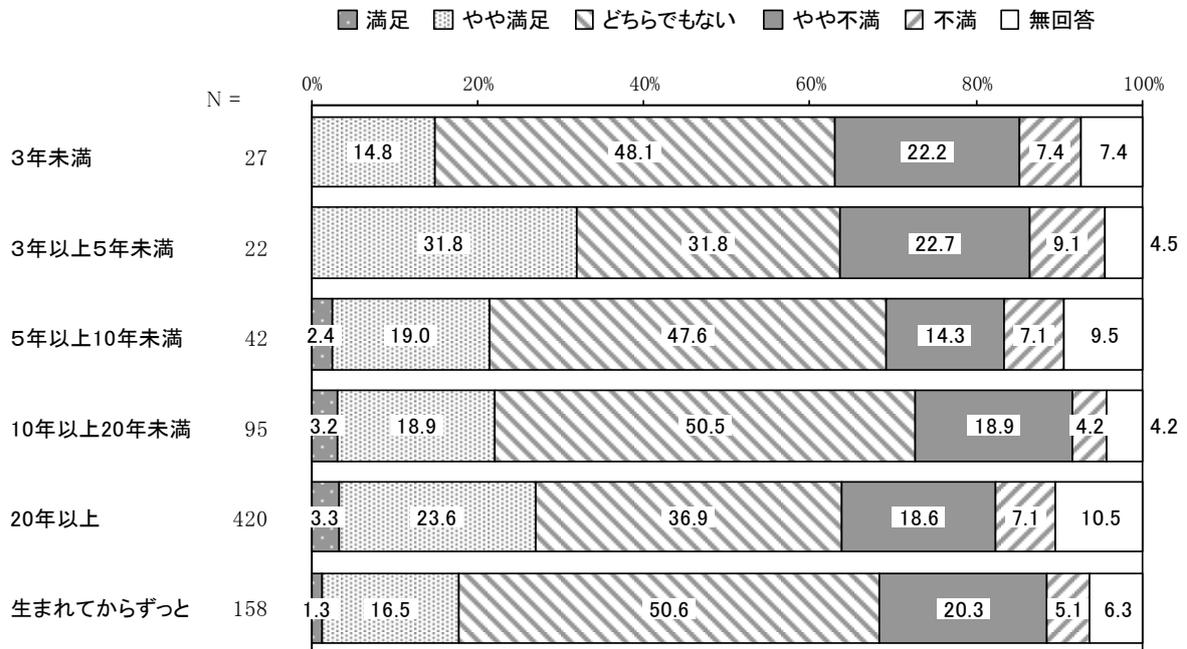
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、70歳代以上で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、50歳代、60歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



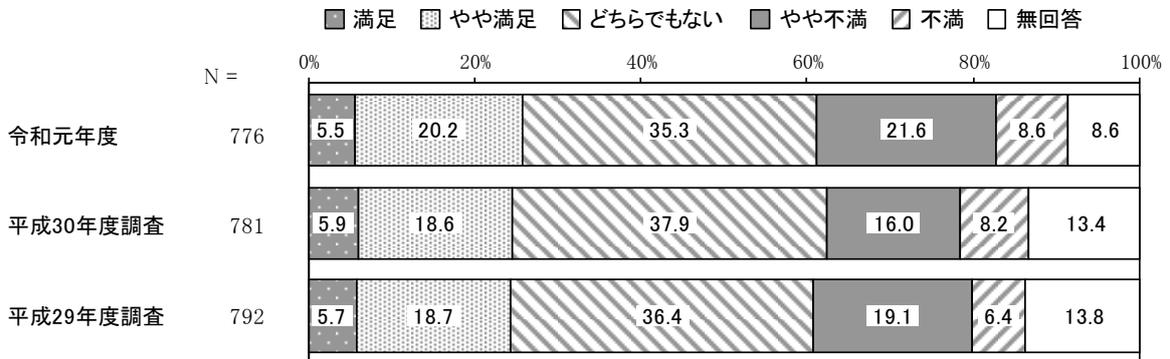
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、『3年未満』『3年以上5年未満』をあわせた“5年未満”で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



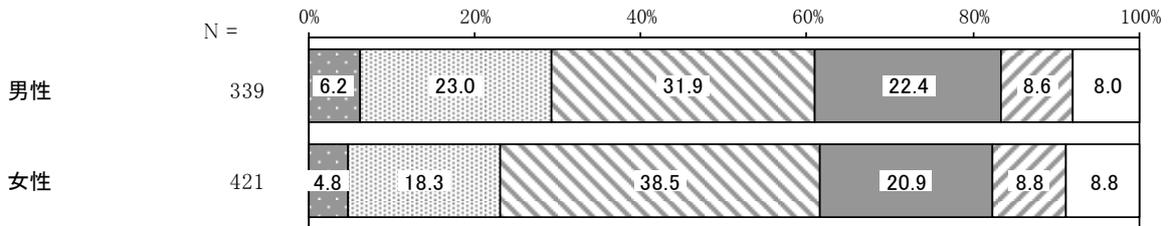
(14) 必要な医療サービスが受けられる

“満足”の割合が25.7%、“不満”の割合が30.2%となっています。
平成30年度調査と比較すると、“不満”の割合が増加しています。



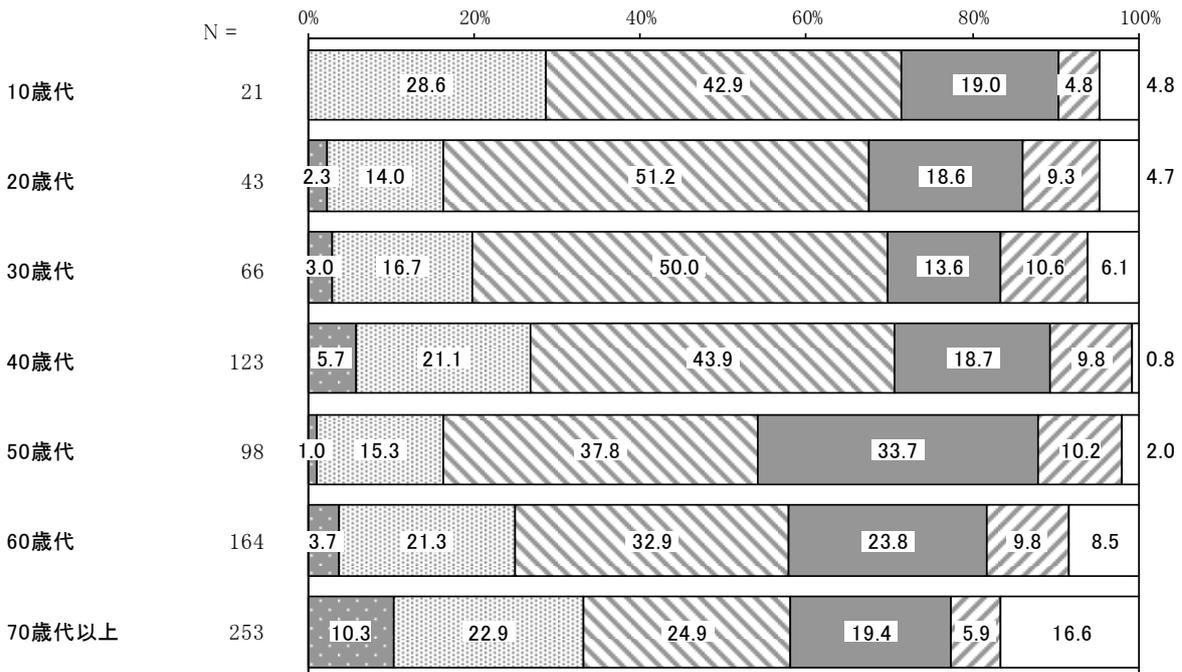
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



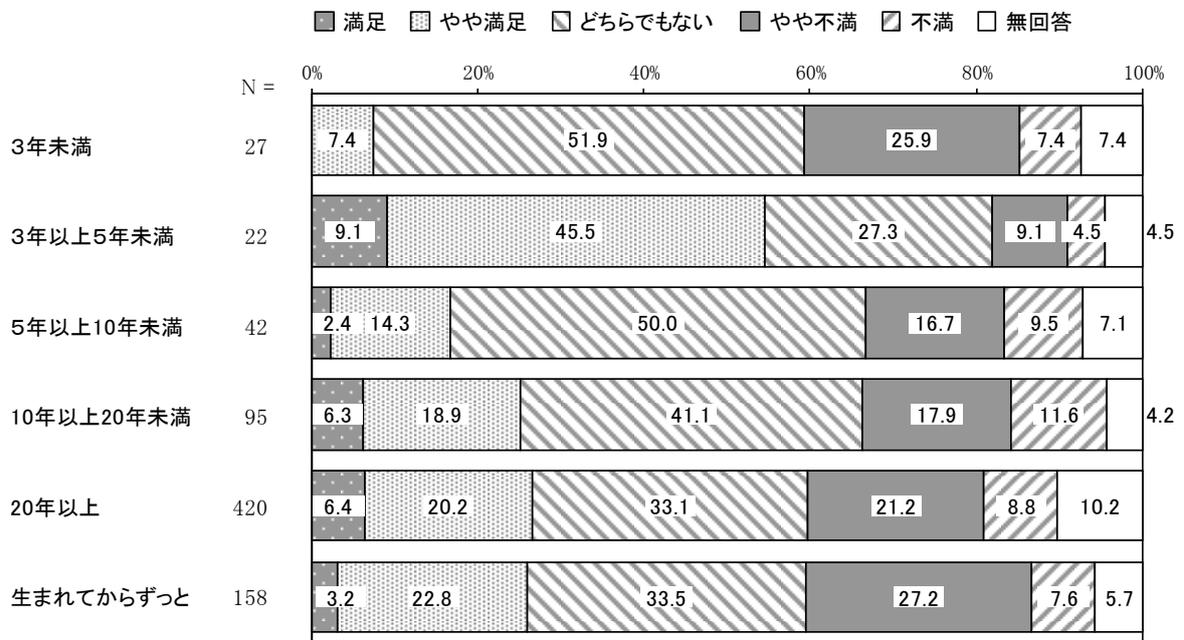
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、70歳代以上で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、50歳代で“不満”の割合が高く、約4割となっています。



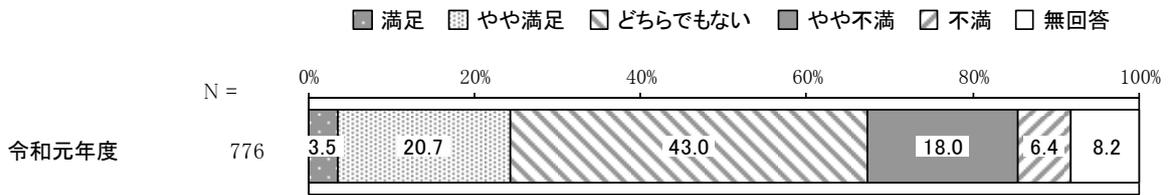
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“満足”の割合が高く、5割台半ばとなっています。一方、3年未満で“満足”の割合が低く、1割未満となっています。



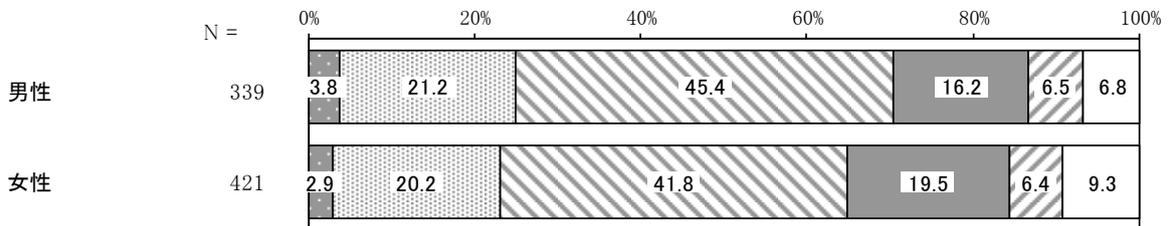
(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備

“満足”の割合が24.2%、“不満”の割合が24.4%となっています。



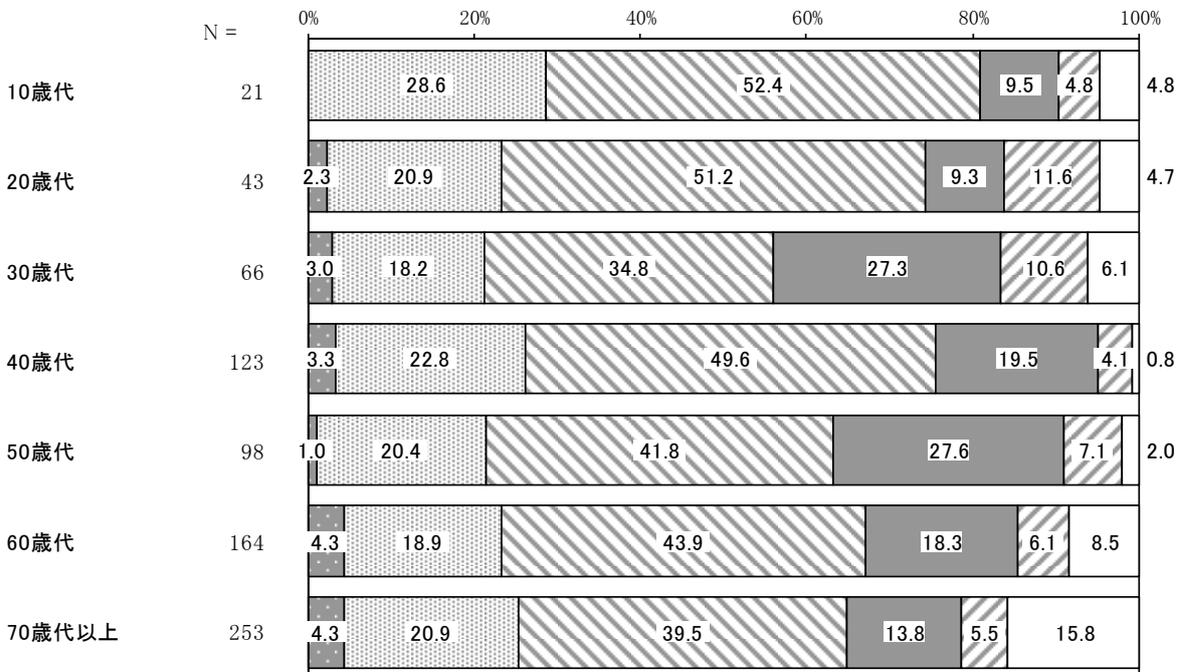
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



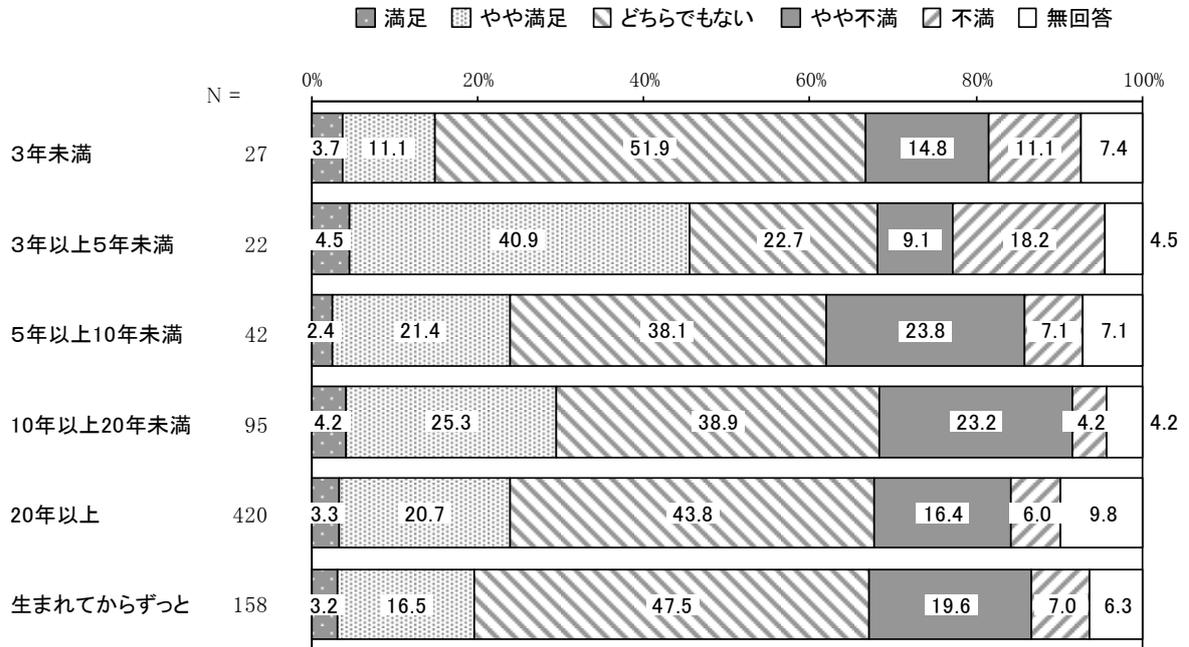
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、30歳代で“不満”の割合が高く、約4割となっています。



【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“満足”の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、5年以上10年未満で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



【ポートフォリオによる分析】

(1) 満足度・今後の重要性の得点化

15項目の質問項目について、「満足度」と「重要度」を5つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■満足度・今後の重要性の得点化の手順■

満足度	→	得点	重要度	→	得点
不満	→	-2点	重要ではない	→	-2点
やや不満	→	-1点	あまり重要ではない	→	-1点
どちらでもない	→	0点	どちらでもない	→	0点
やや満足	→	1点	やや重要	→	1点
満足	→	2点	重要	→	2点
無回答	→	計算対象外	無回答	→	計算対象外

■得点の算出式■

2点×「満足(重要)」の回答数

+1点×「やや満足(やや重要)」の回答数

+0点×「どちらでもない」の回答数

-1点×「やや不満(あまり重要ではない)」の回答数

-2点×「不満(重要ではない)」の回答数／無回答を除く回答数

算出された満足度・重要度の得点をもとに、各施策の満足度・重要度別に順位付けを行いました。

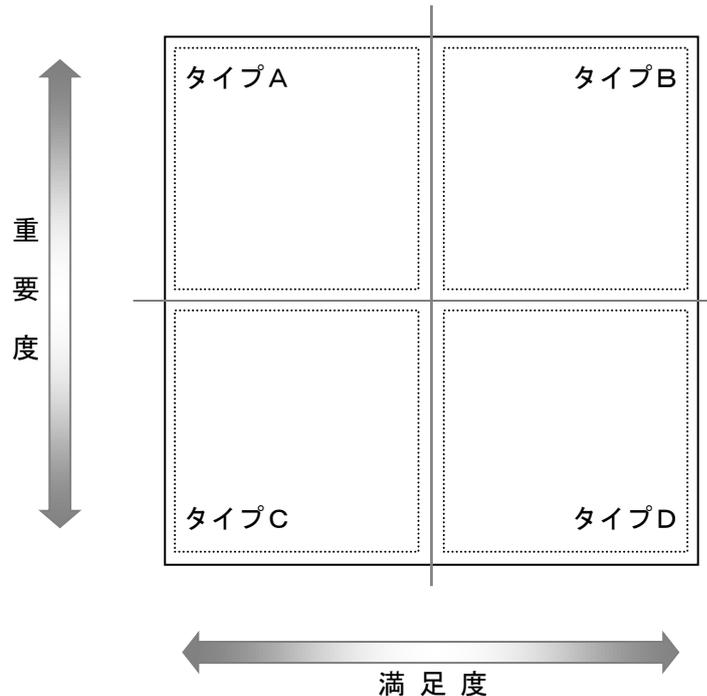
■満足度・重要度のベスト3とワースト3■

満足度	得点	順位	得点	重要度
施策名				施策名
(8)安心して子育てできる環境づくり	0.11	第1位	1.63	(14)必要な医療サービスが受けられる
(6)地域と市民の元気づくり	0.05	第2位	1.50	(8)安心して子育てできる環境づくり
(7)子どもたちのふるさとを愛する心を育む				(13)安心して暮らせる生活環境づくり
(3)「ひと」と「しごと」の好循環の構築	-0.12	第13位	1.03	(6)地域と市民の元気づくり
(4)市の魅力の向上と発信	-0.14	第14位	0.90	(5)定住・移住の促進
(10)結婚への機会づくり	-0.16	最下位	0.60	(10)結婚への機会づくり

(2) ポートフォリオ分析による満足度・重要度の評価

各項目の満足度・重要度の得点の関係について、満足度・重要度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。

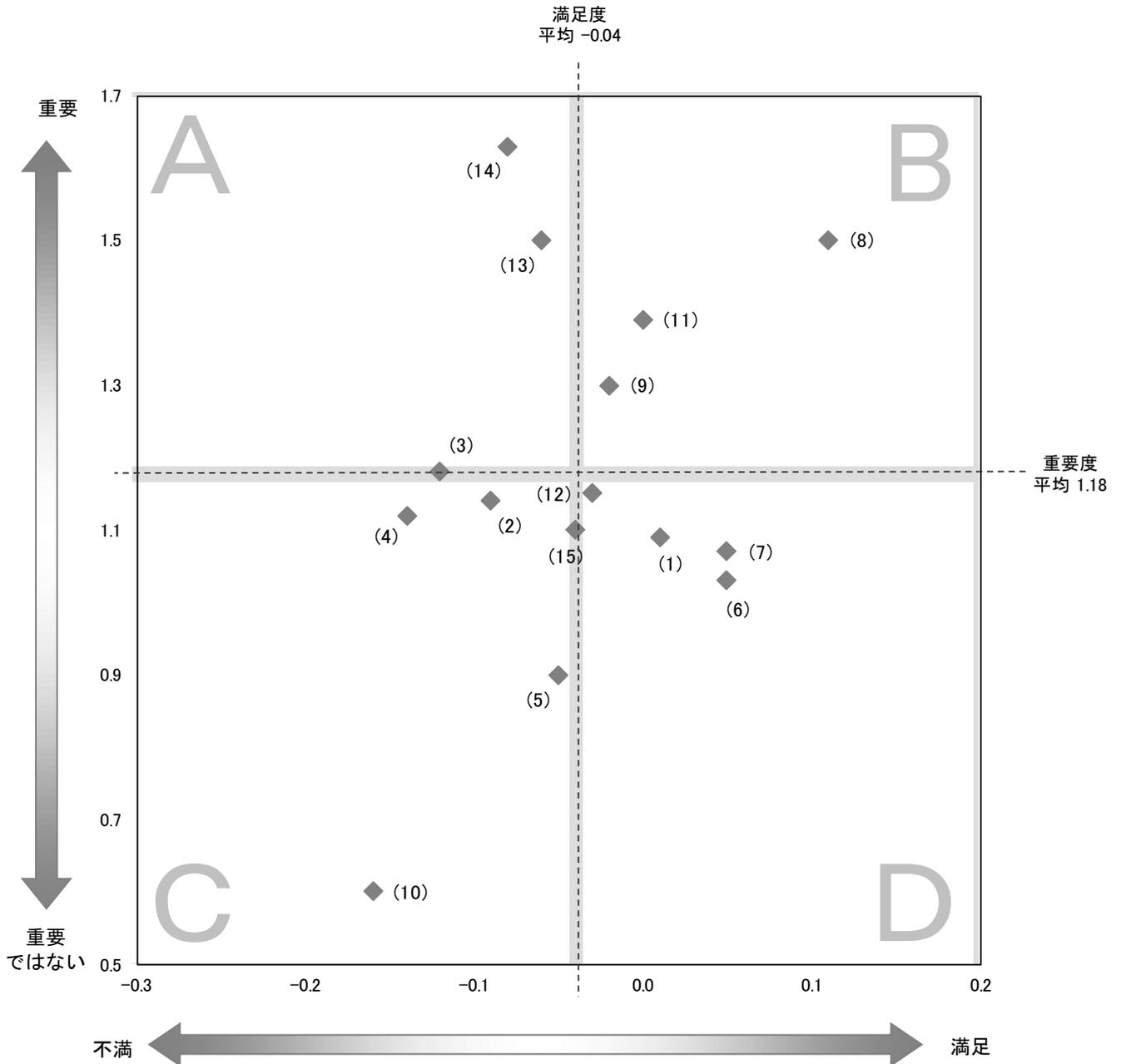
施策は、全体的に満足度が低く、重要度が高い傾向があり、その中でも重要度および満足度が高い理由についての検証が必要なタイプBに特に分布しています。



- ◆タイプA **満足度は低いが、重要度は高い**
→ 今後の重点課題として検討が必要なタイプ。
- ◆タイプB **満足度は高く、重要度も高い**
→ 事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプ。
- ◆タイプC **満足度は低く、重要度も低い**
→ 全体に比べ、重要度および満足度が低い理由についての検証が必要なタイプ。施策の縮小や廃止などを含めた検討が必要。
- ◆タイプD **満足度は高いが、重要度は低い**
→ これまでの施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられるタイプ。ただし、施策が過剰になっていないか検討が必要。

●施策のポートフォリオ分析 (N = 776)

満足度が高く、重要度も高い施策(タイプB)は、『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす』『(11)健康で暮らせる環境づくり』となっています。

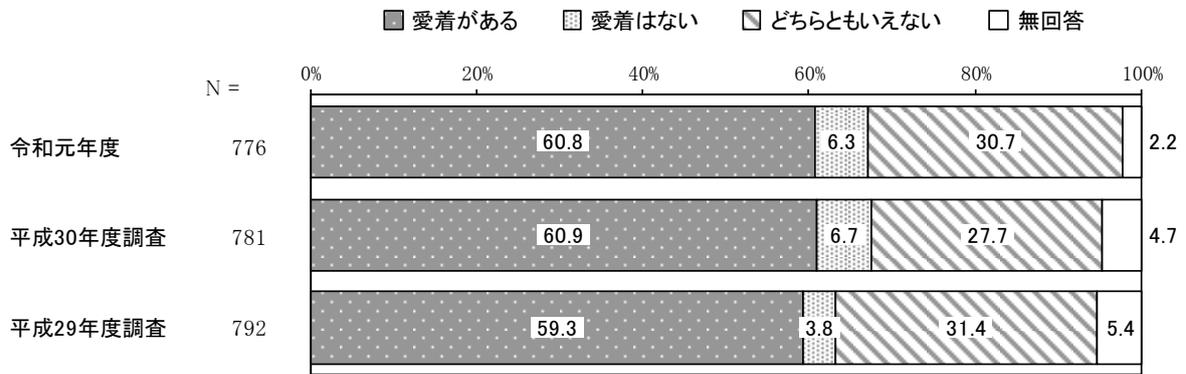


項目	
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援	(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす
(2) 地域産業の活力づくり	(10) 結婚への機会づくり
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築	(11) 健康で暮らせる環境づくり
(4) 市の魅力の向上と発信	(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり
(5) 定住・移住の促進	(13) 安心して暮らせる生活環境づくり
(6) 地域と市民の元気づくり	(14) 必要な医療サービスが受けられる
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む	(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備
(8) 安心して子育てできる環境づくり	

(4) 可児市のイメージについて

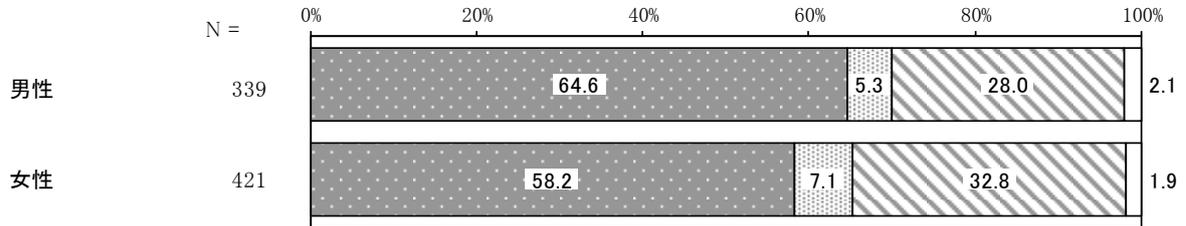
問 13 可児市に愛着はありますか。

「愛着がある」の割合が 60.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 30.7%、
 「愛着はない」の割合が 6.3%となっています。
 平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



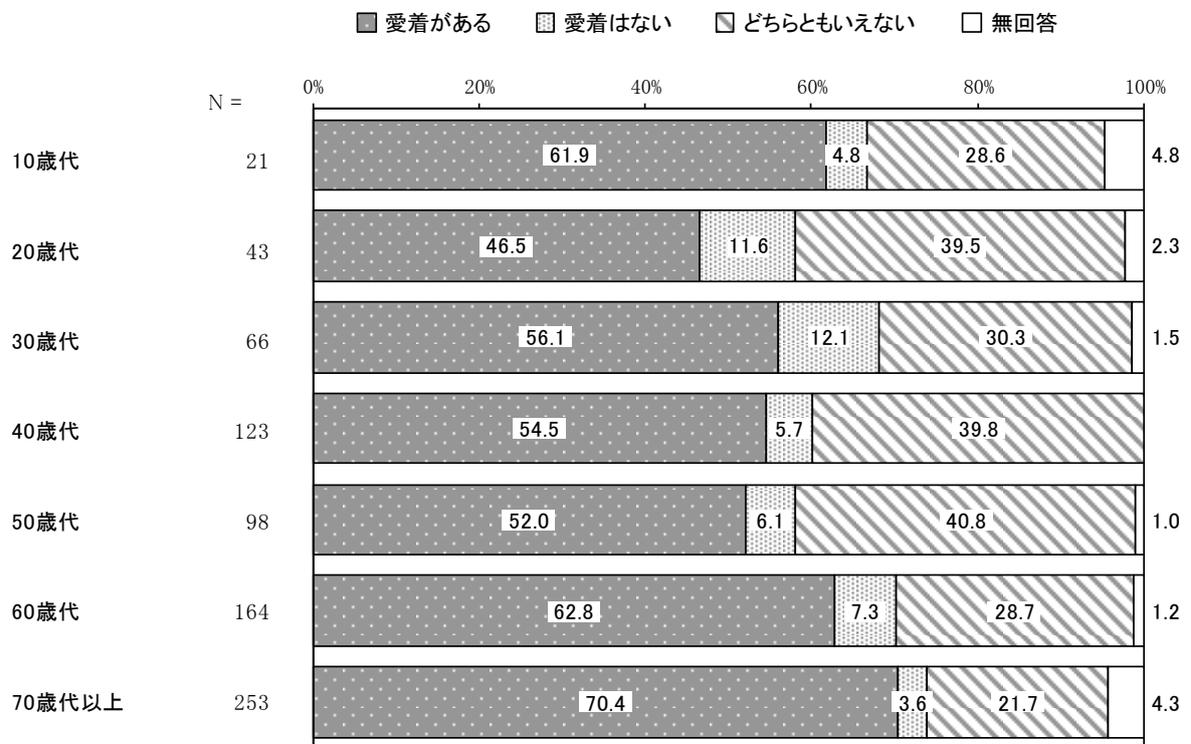
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「愛着がある」の割合が高く、6割台半ばとなっています。



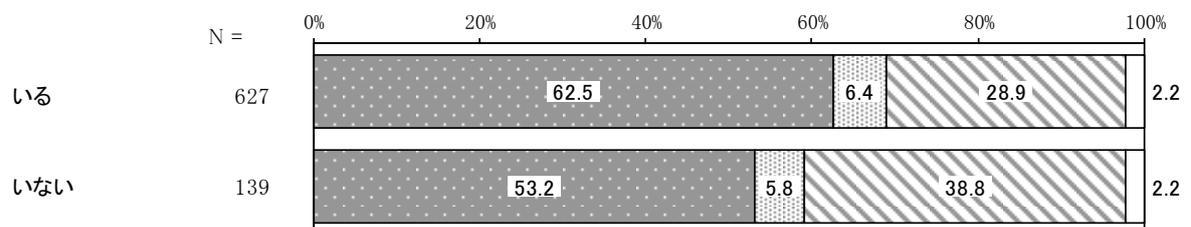
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で「愛着がある」の割合が高く、約7割となっています。



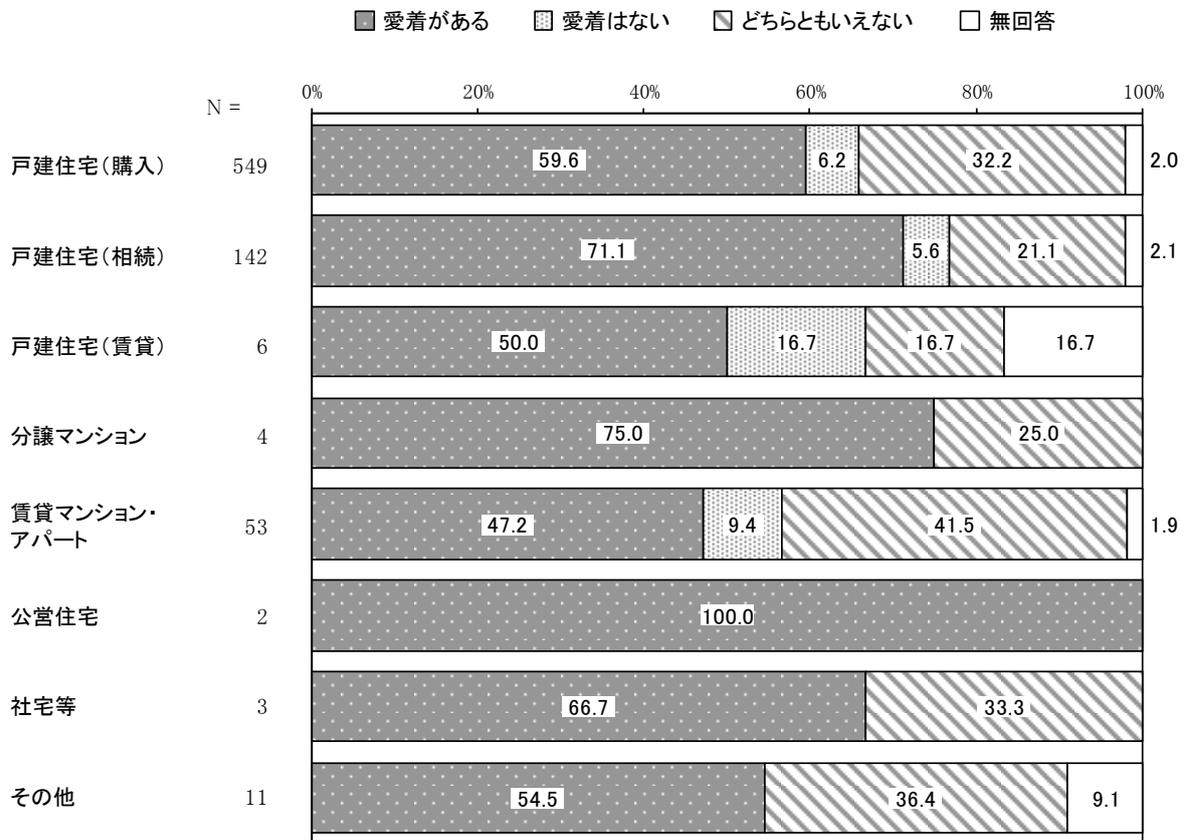
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「愛着がある」の割合が高く、約6割となっています。



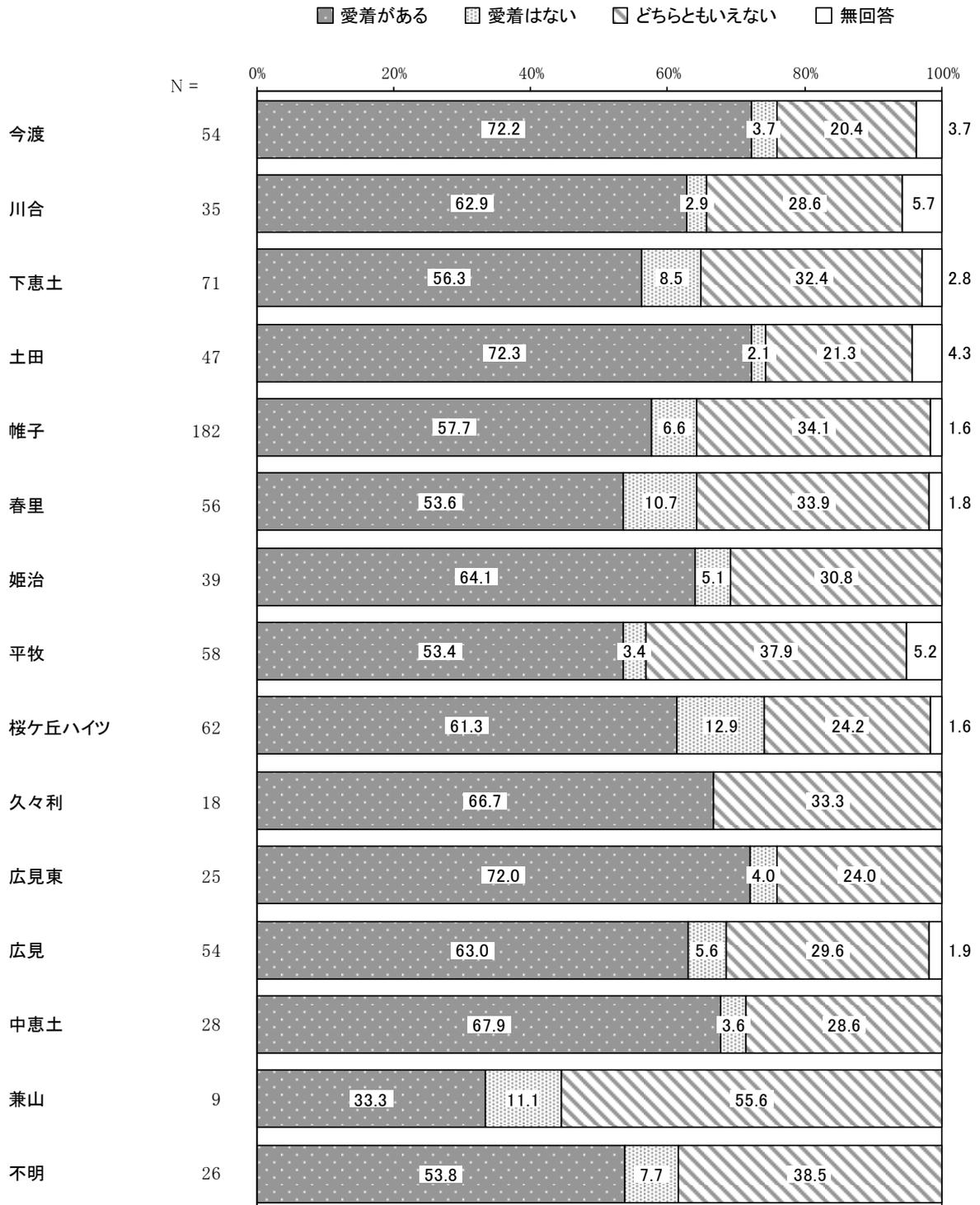
【住まいの形態別】

住まいの形態別で見ると、戸建住宅（購入）、賃貸マンション・アパートに比べ、戸建住宅（相続）で「愛着がある」の割合が高く、約7割となっています。



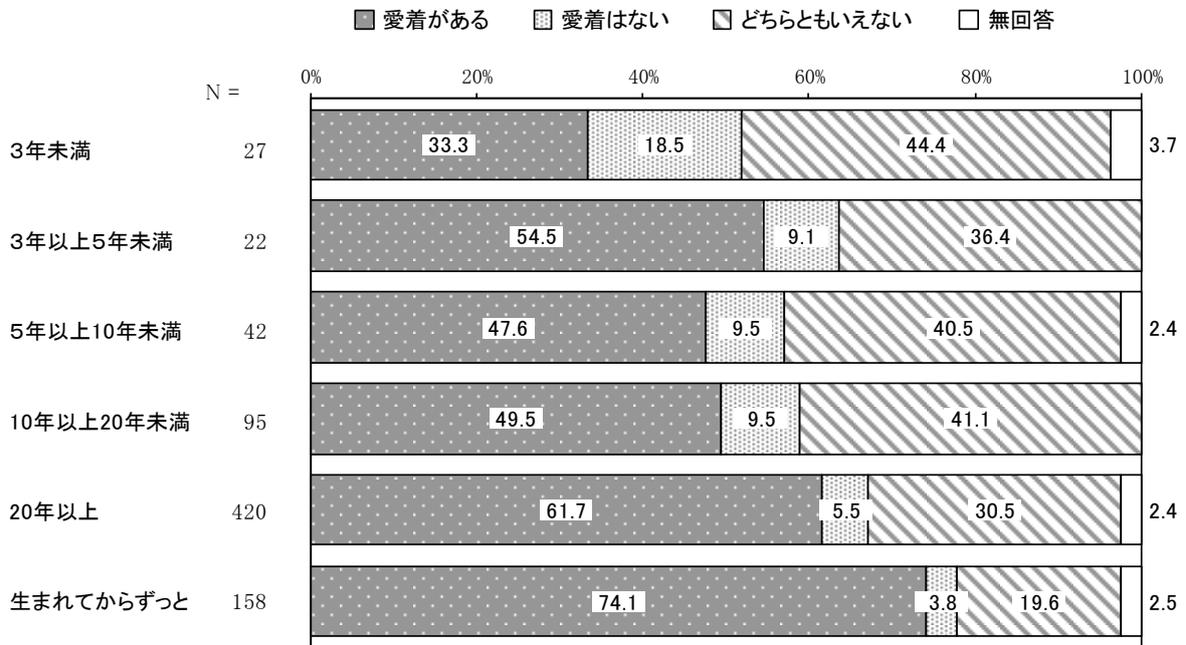
【居住地区別】

居住地区別で見ると、他の地区に比べ、今渡、土田、広見東で「愛着がある」の割合が高く、約7割となっています。



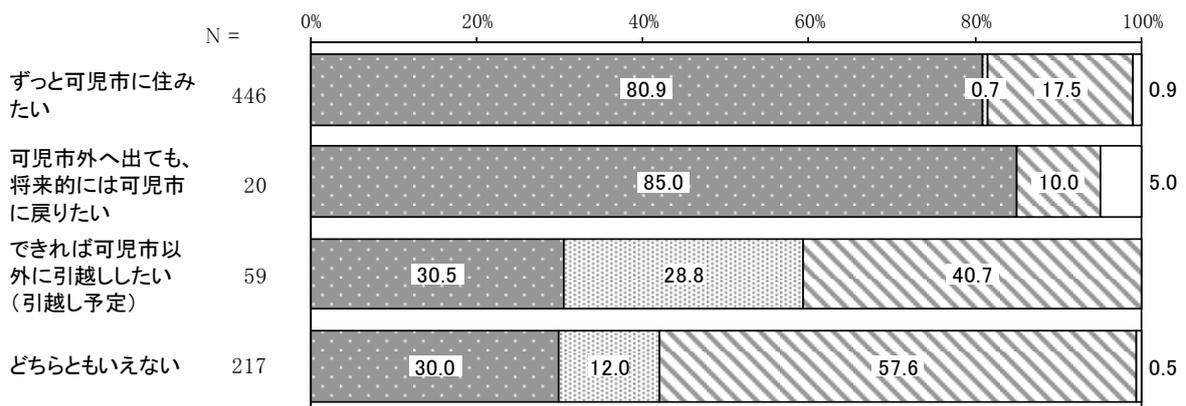
【居住年数別】

居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれ「愛着がある」の割合が高くなる傾向がみられ、特に生まれてからずっとで7割台半ばとなっています。一方、3年未満で「愛着はない」の割合が高く、約2割となっています。



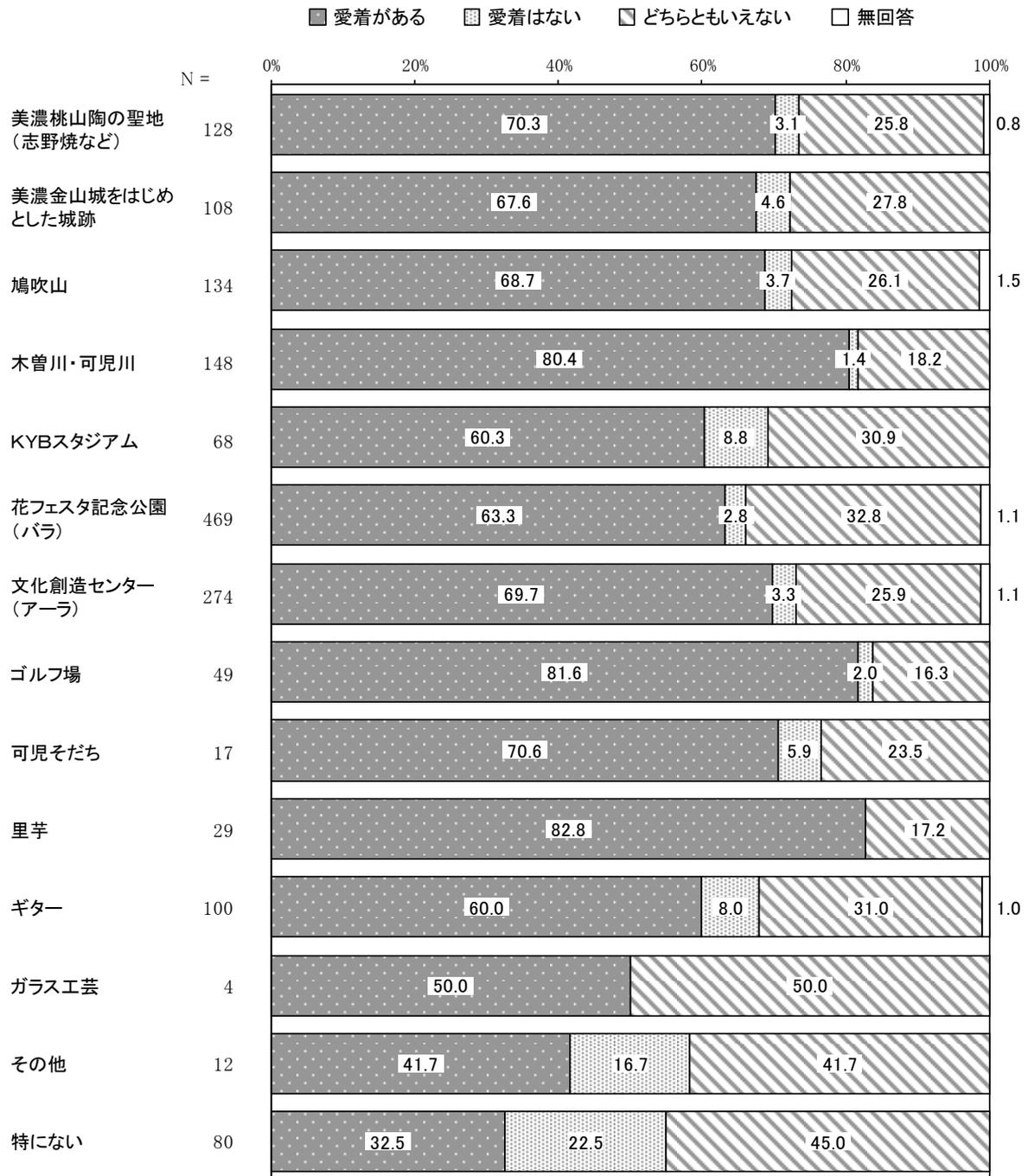
【可児市への定住意向別】

可児市への定住意向別でみると、他に比べ、ずっと可児市に住みたい、可児市外へ出ても、将来的には可児市へ戻りたいで「愛着がある」の割合が高く、特に可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたいで8割台半ばとなっています。一方、できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）で「愛着はない」の割合が高く、約3割となっています。



【自慢できる観光資源別】

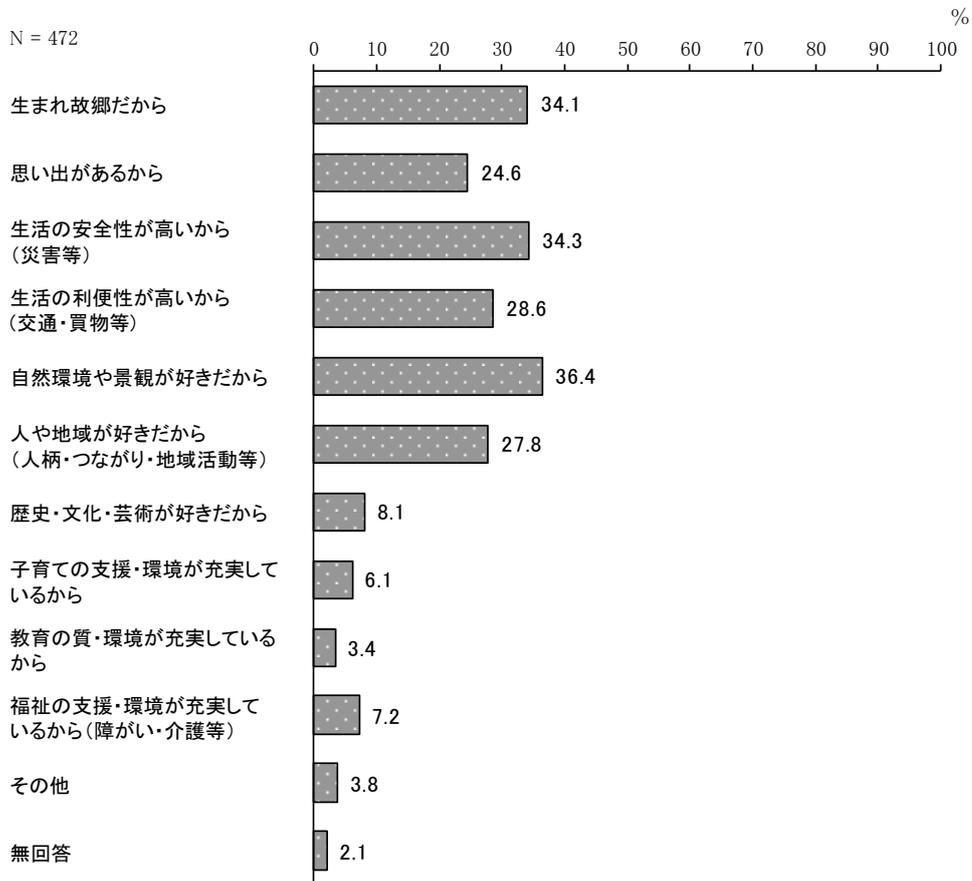
自慢できる観光資源別でみると、他に比べ、木曽川・可児川、ゴルフ場、里芋で「愛着がある」の割合が高く、約8割となっています。一方、特になしで「愛着はない」の割合が高く、約2割となっています。



【問 13 で 1 (愛着がある) を選択された方に伺います】

問 14 その理由は何ですか。(〇は3つまで)

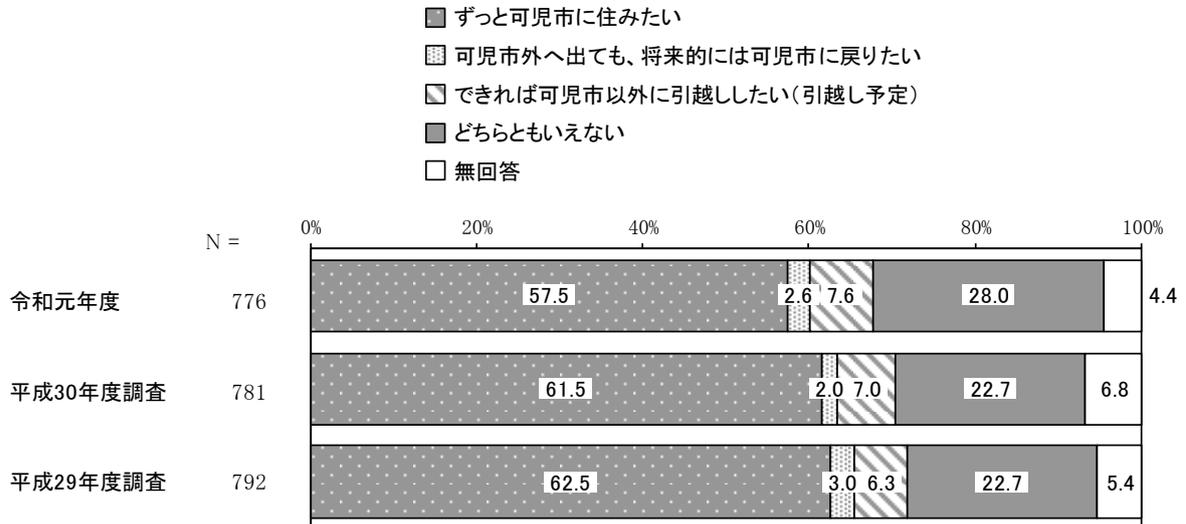
「自然環境や景観が好きだから」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「生活の安全性が高いから (災害等)」の割合が 34.3%、「生まれ故郷だから」の割合が 34.1%となっています。



問 15 あなたは、可児市に今後も住み続けようと思いますか。(○は1つだけ)

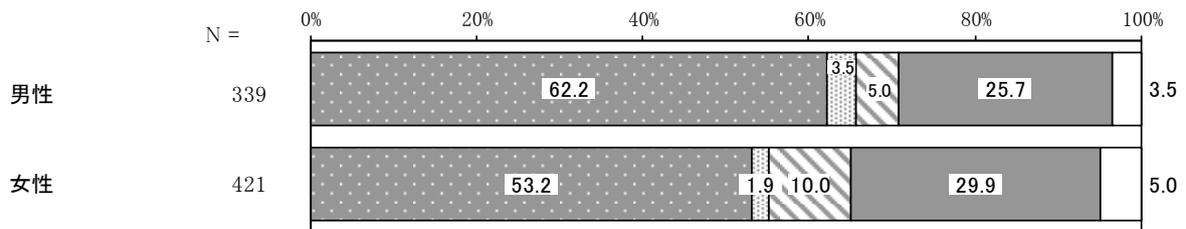
「ずっと可児市に住みたい」の割合が57.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が28.0%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「ずっと可児市に住みたい」の割合が減少しています。



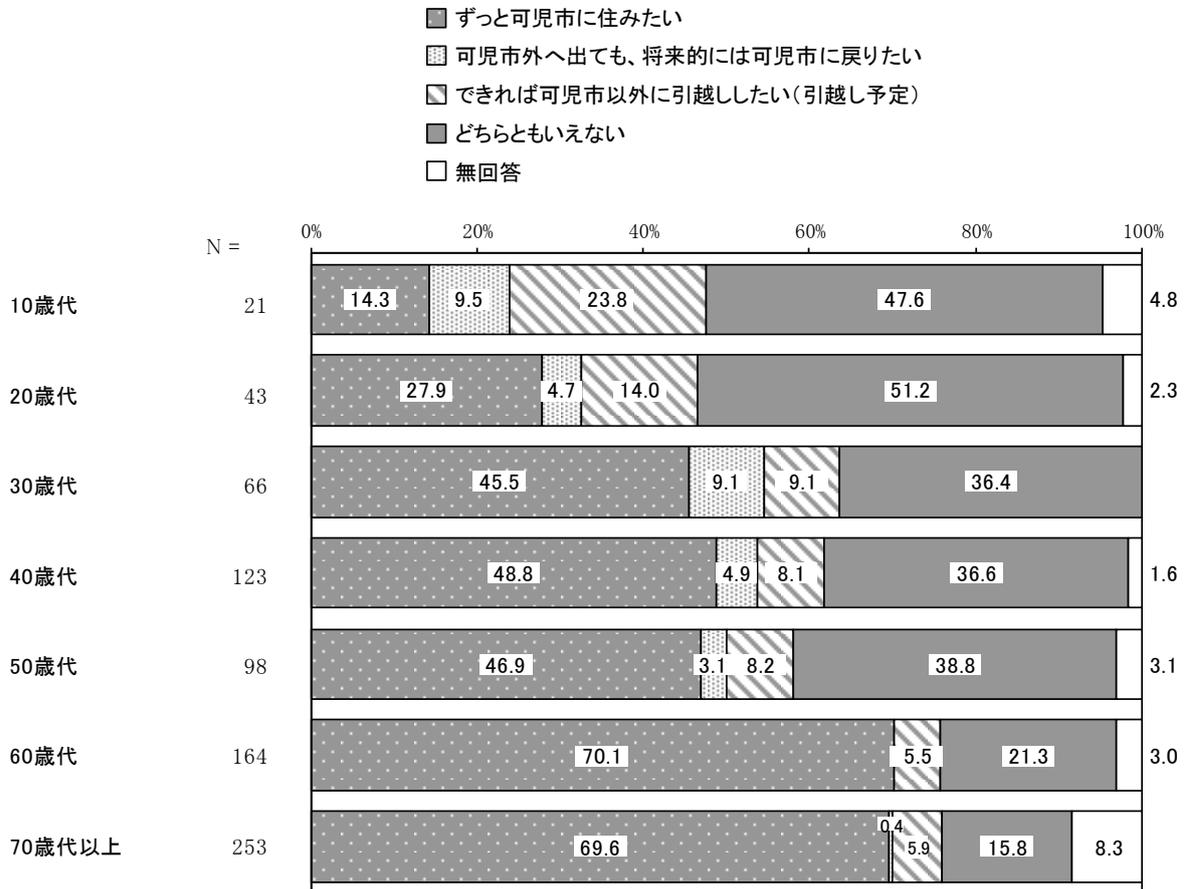
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、約6割となっています。また、男性に比べ、女性で「できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)」の割合が高く、1割となっています。



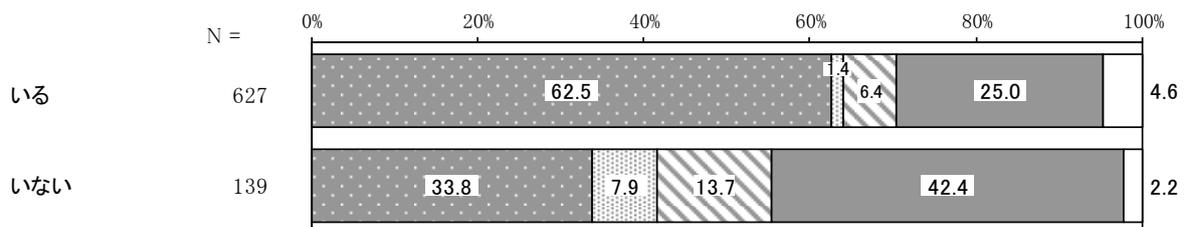
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「ずっと可児市に住みたい」の割合が高くなる傾向がみられ、60歳代、70歳代以上で約7割となっています。一方、10歳代で「できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）」の割合が高く、約2割となっています。



【子どもの有無別】

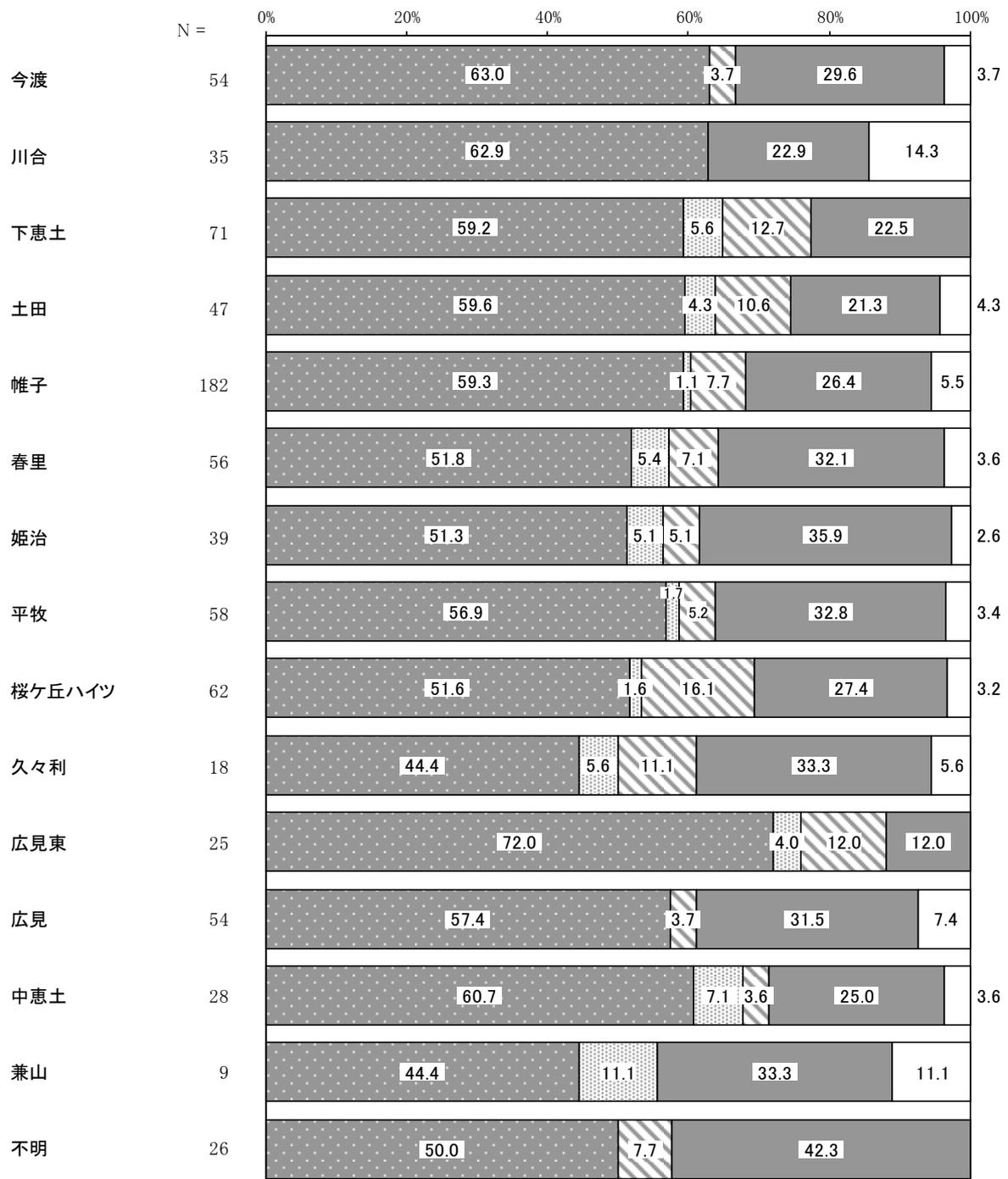
子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、約6割となっています。一方、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「可児市外へ出ても、将来的には可児市へ戻りたい」「できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

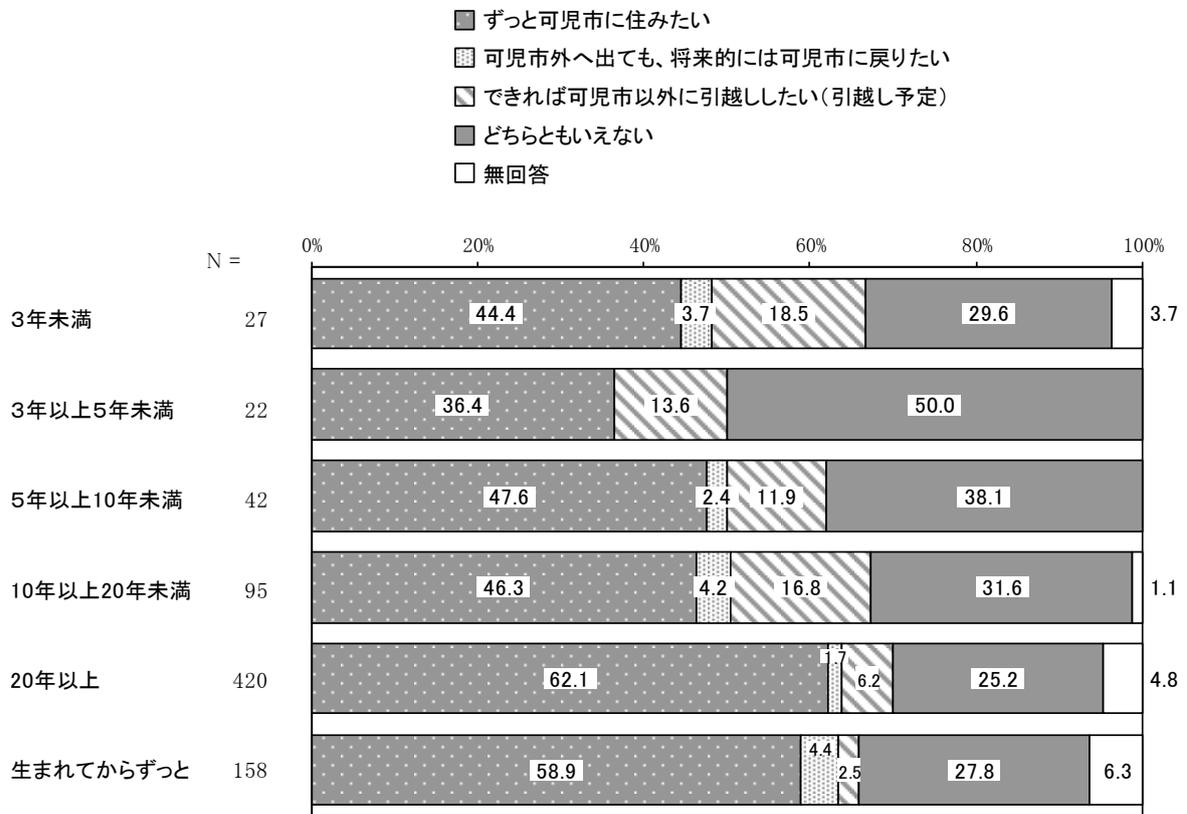
居住地区別で見ると、他の地区に比べ、広見東で「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、約7割となっています。また、桜ヶ丘ハイツで「できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）」の割合が高くなっています。

- ずっと可児市に住みたい
- ▨ 可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい
- ▧ できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)
- どちらともいえない
- 無回答



【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、20年以上、生まれてからずっとで「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、約6割となっています。また、3年未満、10年以上20年未満で「できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）」の割合が高く、約2割となっています。

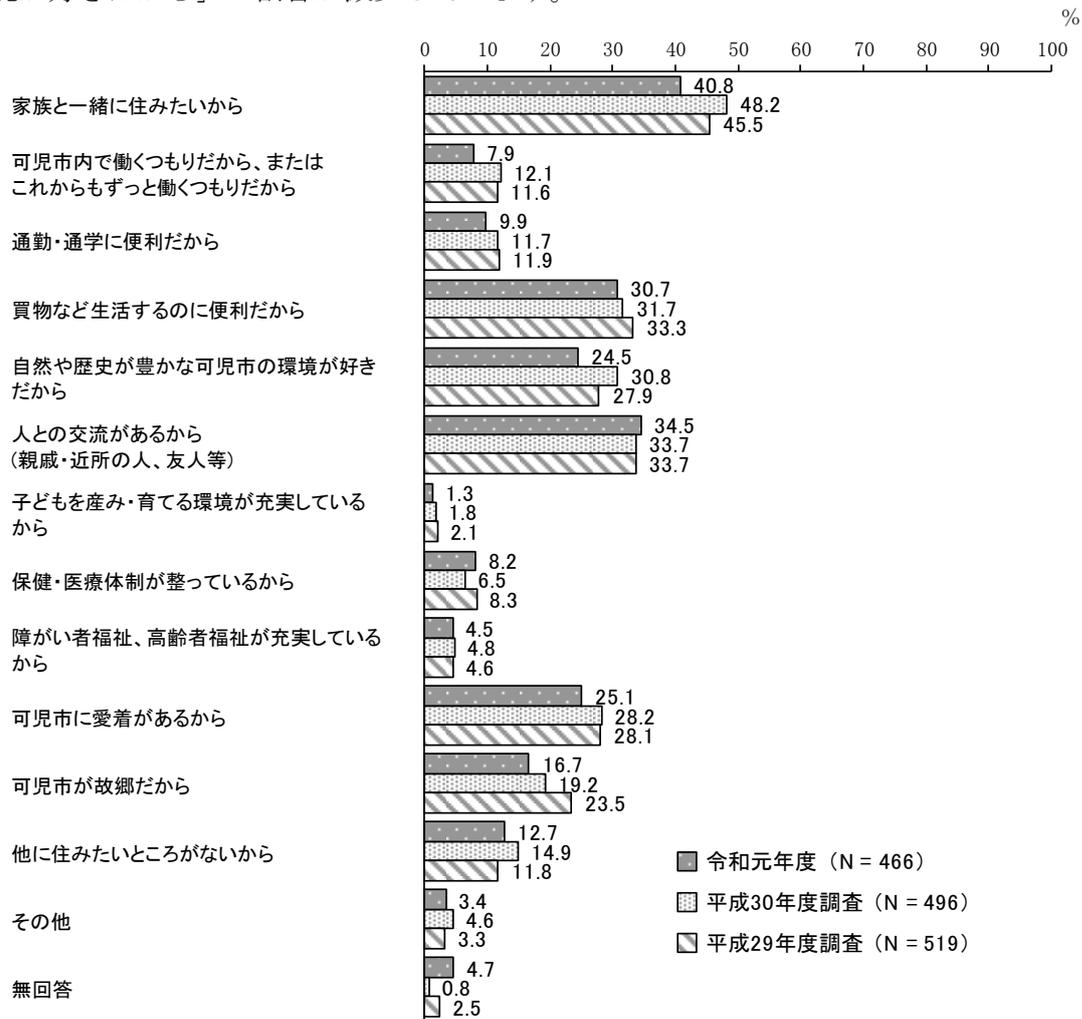


【問 15 で 1 または 2 (ずっと可児市に住みたい・可児市外へ出て、将来的には可児市に戻りたい) を選択された方に伺います】

問 16 その理由は何ですか。(○は3つまで)

「家族と一緒に住みたいから」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)」の割合が 34.5%、「買物など生活するのに便利だから」の割合が 30.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「家族と一緒に住みたいから」「自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから」「保健・医療体制が整っているから」「可児市に愛着があるから」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族と一緒に住みたいから」「人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
男性	223	38.1	8.1	9.9	31.4	27.8	30.9	0.4	11.7	5.4	27.8	18.4	13.0	4.0	3.1
女性	232	44.0	8.2	10.3	29.7	21.1	38.4	1.7	4.7	3.4	22.8	15.1	12.5	3.0	6.0

【年代別】

年代別でみると、年齢が高くなるにつれ「自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、30歳代で「家族と一緒に住みたいから」の割合が、60歳代以上で「人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
10歳代	5	40.0	—	—	—	—	40.0	—	—	—	40.0	60.0	20.0	—	—
20歳代	14	42.9	—	21.4	7.1	7.1	28.6	7.1	—	—	14.3	21.4	14.3	—	—
30歳代	36	66.7	22.2	27.8	13.9	11.1	27.8	5.6	—	2.8	16.7	13.9	8.3	8.3	5.6
40歳代	66	56.1	13.6	19.7	31.8	16.7	25.8	1.5	1.5	3.0	21.2	15.2	12.1	1.5	3.0
50歳代	49	49.0	14.3	14.3	18.4	14.3	24.5	—	2.0	—	28.6	22.4	16.3	4.1	4.1
60歳代	115	33.9	4.3	7.0	40.9	25.2	40.0	0.9	7.0	7.8	28.7	17.4	12.2	5.2	2.6
70歳代以上	177	31.6	4.5	2.3	32.8	34.5	39.5	0.6	15.8	5.1	26.0	14.7	12.4	2.3	6.8

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「買物など生活するのに便利だから」「自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから」「人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)」「保健・医療体制が整っているから」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「通勤・通学に便利だから」「可児市が故郷だから」「他に住みたいところがないから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
いる	401	40.9	7.5	8.7	32.2	25.7	35.7	1.0	8.7	4.5	25.7	16.2	12.2	3.5	5.2
いない	58	41.4	12.1	19.0	22.4	17.2	25.9	3.4	1.7	3.4	22.4	22.4	17.2	3.4	1.7

【居住地区別】

居住地区別でみると、他の地区に比べ、中恵土で「買物など生活するのに便利だから」の割合が高く、約6割となっています。また、川合で「可児市が故郷だから」の割合が、姫治で「家族と一緒に住みたいから」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

単位：%

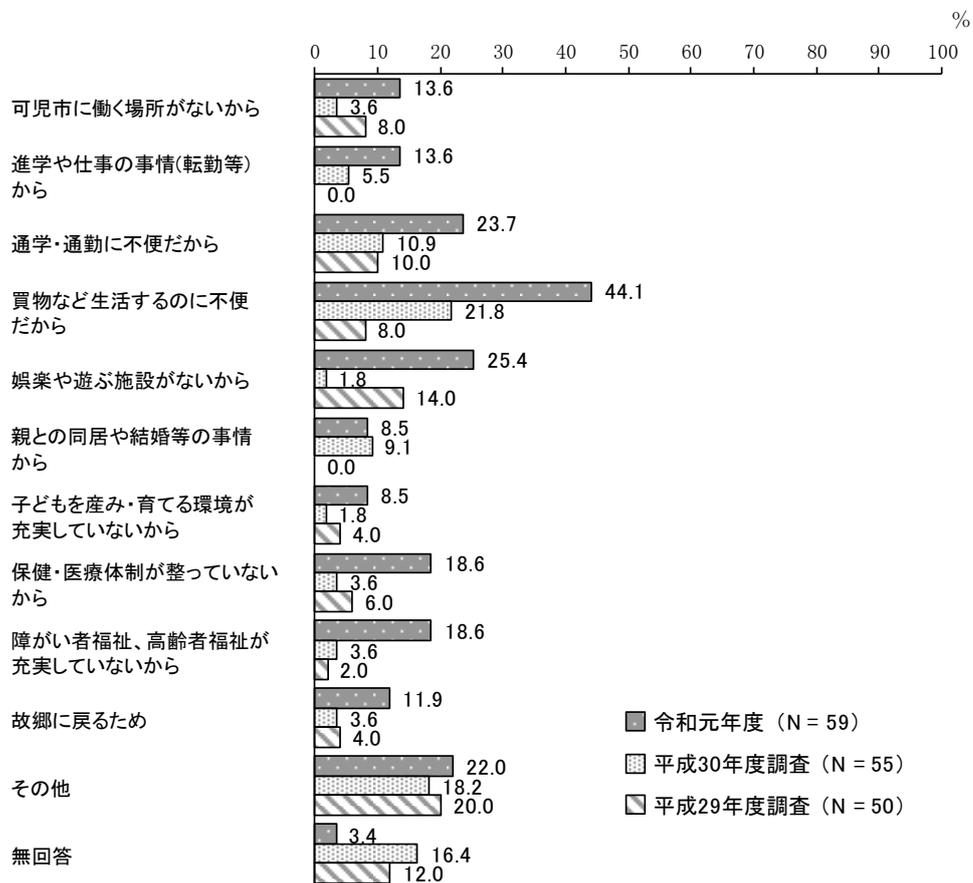
区分	有効回答数(件)	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
今渡	34	44.1	11.8	5.9	41.2	14.7	35.3	5.9	—	14.7	17.6	17.6	8.8	—	5.9
川合	22	31.8	18.2	18.2	31.8	9.1	31.8	—	—	4.5	18.2	54.5	18.2	—	—
下恵土	46	50.0	8.7	13.0	39.1	8.7	28.3	—	8.7	4.3	37.0	19.6	17.4	2.2	2.2
土田	30	43.3	13.3	6.7	26.7	16.7	43.3	3.3	6.7	3.3	23.3	16.7	16.7	3.3	6.7
帷子	110	39.1	2.7	8.2	25.5	30.0	35.5	0.9	10.9	4.5	27.3	11.8	13.6	5.5	5.5
春里	32	31.3	9.4	9.4	25.0	25.0	37.5	—	6.3	—	34.4	18.8	6.3	—	6.3
姫治	22	54.5	4.5	9.1	27.3	22.7	27.3	—	—	—	22.7	22.7	18.2	9.1	—
平牧	34	38.2	5.9	—	32.4	41.2	47.1	—	11.8	—	20.6	23.5	8.8	2.9	2.9
桜ヶ丘ハイツ	33	12.1	9.1	12.1	15.2	45.5	45.5	—	9.1	12.1	36.4	6.1	12.1	6.1	—
久々利	9	22.2	11.1	—	—	11.1	33.3	—	11.1	—	44.4	11.1	44.4	11.1	—
広見東	19	52.6	10.5	10.5	36.8	15.8	42.1	—	5.3	5.3	21.1	21.1	—	—	15.8
広見	31	48.4	6.5	16.1	41.9	19.4	29.0	3.2	12.9	—	12.9	12.9	12.9	—	9.7
中恵土	19	47.4	10.5	21.1	63.2	21.1	21.1	—	5.3	5.3	10.5	10.5	5.3	5.3	5.3
兼山	5	60.0	20.0	—	—	60.0	—	—	40.0	20.0	—	20.0	—	—	—
不明	13	76.9	7.7	23.1	38.5	30.8	15.4	—	15.4	—	30.8	—	7.7	7.7	—

【問 15 で 3（できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)）を選択された方に伺います】

問 17 その理由は何ですか。(〇は3つまで)

「買物など生活するのに不便だから」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「娯楽や遊ぶ施設がないから」の割合が 25.4%、「通学・通勤に不便だから」の割合が 23.7%となっています。

平成 30 年度調査、平成 29 年度調査では単数回答であったため、参考とします。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「可児市に働く場所がないから」「進学や仕事の事情(転勤等)から」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「通学・通勤に不便だから」「買物など生活するのに不便だから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情(転勤等)から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み・育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
男性	17	17.6	23.5	11.8	29.4	23.5	5.9	11.8	17.6	17.6	11.8	41.2	—
女性	42	11.9	9.5	28.6	50.0	26.2	9.5	7.1	19.0	19.0	11.9	14.3	4.8

【年代別】

年代別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情(転勤等)から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み・育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
10歳代	5	20.0	20.0	60.0	20.0	40.0	—	—	—	—	40.0	—	—
20歳代	6	33.3	33.3	16.7	50.0	33.3	33.3	33.3	—	—	33.3	—	—
30歳代	6	—	16.7	16.7	33.3	33.3	—	33.3	—	—	—	33.3	16.7
40歳代	10	30.0	40.0	40.0	20.0	—	20.0	—	10.0	—	20.0	10.0	—
50歳代	8	—	—	12.5	62.5	12.5	—	12.5	50.0	12.5	12.5	37.5	—
60歳代	9	—	—	11.1	55.6	33.3	11.1	—	22.2	33.3	—	44.4	—
70歳代以上	15	13.3	—	20.0	53.3	33.3	—	—	26.7	46.7	—	20.0	6.7

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「買物など生活するのに不便だから」「保健・医療体制が整っていないから」「障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「可児市に働く場所がないから」「進学や仕事の事情(転勤等)から」「通学・通勤に不便だから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情(転勤等)から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み・育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
いる	40	7.5	7.5	15.0	47.5	25.0	7.5	10.0	22.5	22.5	10.0	25.0	5.0
いない	19	26.3	26.3	42.1	36.8	26.3	10.5	5.3	10.5	10.5	15.8	15.8	—

【居住地区別】

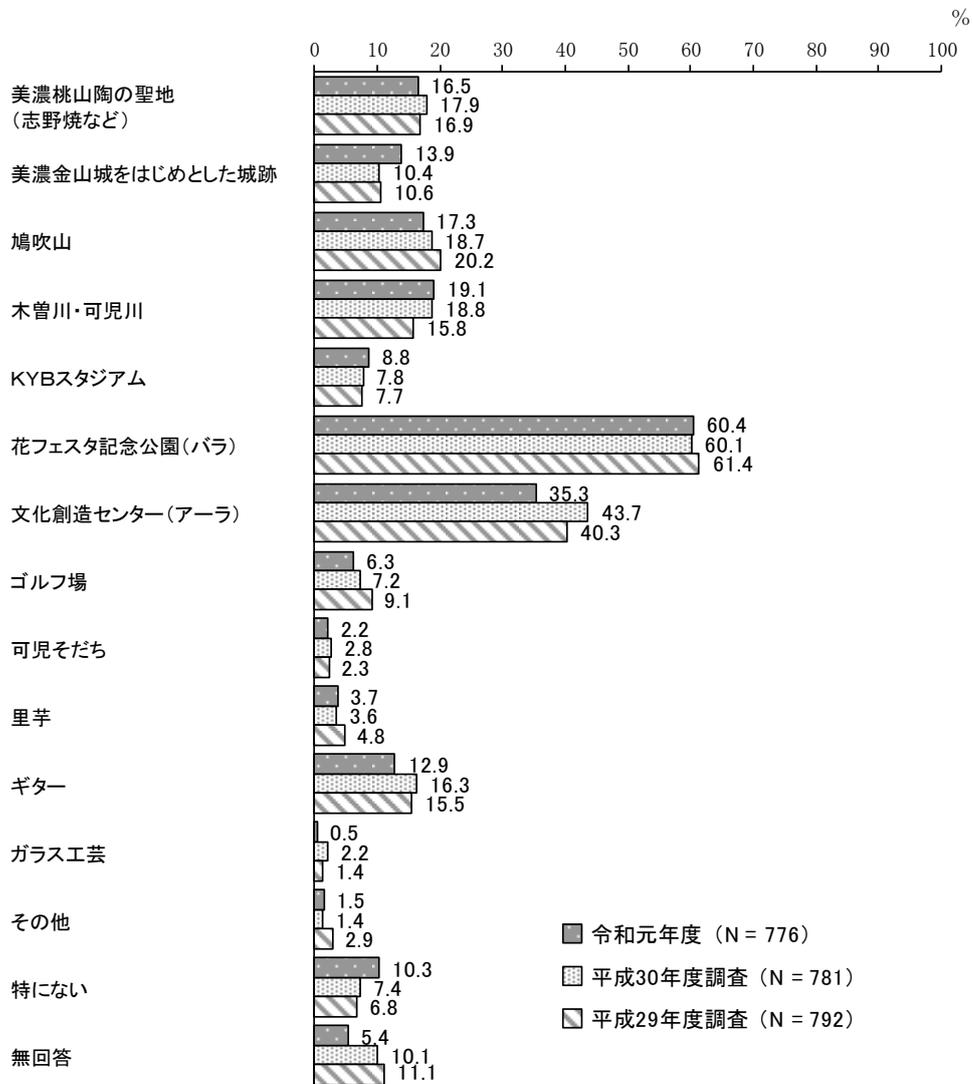
居住地区別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情(転勤等)から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み・育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
今渡	2	—	—	—	50.0	50.0	—	50.0	—	—	—	50.0	—
川合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下恵土	9	11.1	22.2	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	—	22.2	11.1
土田	5	20.0	20.0	60.0	60.0	—	—	—	40.0	20.0	—	20.0	—
帷子	14	7.1	14.3	14.3	42.9	14.3	—	7.1	14.3	14.3	28.6	35.7	—
春里	4	25.0	—	25.0	100.0	50.0	—	25.0	—	25.0	—	50.0	—
姫治	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—
平牧	3	33.3	—	33.3	66.7	33.3	—	—	66.7	66.7	—	—	—
桜ヶ丘ハイツ	10	—	—	20.0	50.0	10.0	20.0	—	10.0	20.0	20.0	10.0	—
久々利	2	50.0	—	50.0	50.0	50.0	—	—	50.0	50.0	—	—	—
広見東	3	—	33.3	33.3	—	33.3	33.3	—	33.3	—	33.3	33.3	—
広見	2	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	50.0
中恵土	1	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—
兼山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不明	2	50.0	50.0	—	100.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—

問 18 可児市の自慢できる地域資源（観光施設・特産品など）はどれだと思いますか。
（〇は3つまで）

「花フェスタ記念公園（バラ）」の割合が60.4%と最も高く、次いで「文化創造センター（ア－ラ）」の割合が35.3%、「木曽川・可児川」の割合が19.1%となっています。
平成30年度調査と比較すると、「文化創造センター（ア－ラ）」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「木曾川・可児川」「ゴルフ場」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	美濃桃山陶の聖地(志野焼など)	美濃金山城をはじめとした城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園(バラ)	文化創造センター(アール)	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特にない	無回答
男性	339	17.4	14.7	18.3	23.0	8.6	57.5	34.2	9.4	2.7	3.5	13.3	0.6	1.8	10.9	5.9
女性	421	14.7	13.3	16.4	16.2	8.8	62.9	36.6	3.8	1.7	3.8	12.8	0.5	1.2	10.0	5.0

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「美濃桃山陶の聖地(志野焼など)」「木曾川・可児川」の割合が高くなる傾向がみられます。また、20歳代で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	美濃桃山陶の聖地(志野焼など)	美濃金山城をはじめとした城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園(バラ)	文化創造センター(アール)	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特にない	無回答
10歳代	21	9.5	—	14.3	14.3	14.3	57.1	42.9	—	—	—	14.3	—	4.8	14.3	—
20歳代	43	—	14.0	9.3	14.0	7.0	53.5	16.3	4.7	—	—	11.6	—	7.0	25.6	2.3
30歳代	66	4.5	10.6	13.6	16.7	1.5	57.6	19.7	4.5	3.0	4.5	16.7	1.5	—	16.7	6.1
40歳代	123	9.8	15.4	17.1	12.2	17.9	60.2	38.2	4.1	1.6	3.3	17.1	—	3.3	12.2	3.3
50歳代	98	15.3	10.2	19.4	14.3	11.2	60.2	33.7	5.1	1.0	4.1	20.4	—	—	10.2	5.1
60歳代	164	24.4	15.9	16.5	21.3	4.3	65.9	33.5	11.0	2.4	3.0	10.4	1.8	0.6	11.0	3.7
70歳代以上	253	20.9	15.4	19.8	24.9	8.3	59.7	41.9	6.3	3.2	5.1	8.3	—	1.2	4.3	8.7

【居住地区別】

居住地区別でみると、他の地区に比べ、広見東で「花フェスタ記念公園（バラ）」の割合が高く、8割となっています。また、下恵土で「文化創造センター（アーラ）」の割合が、土田で「鳩吹山」「木曾川・可児川」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	美濃桃山陶の聖地（志野焼など）	美濃金山城をはじめとした城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園（バラ）	文化創造センター（アーラ）	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特にない	無回答
今渡	54	3.7	7.4	16.7	33.3	3.7	55.6	33.3	7.4	—	3.7	11.1	—	1.9	13.0	3.7
川合	35	8.6	14.3	8.6	25.7	8.6	71.4	42.9	5.7	2.9	8.6	5.7	—	2.9	8.6	5.7
下恵土	71	21.1	16.9	11.3	14.1	8.5	60.6	56.3	9.9	—	5.6	21.1	—	—	8.5	1.4
土田	47	8.5	6.4	48.9	36.2	8.5	40.4	31.9	4.3	2.1	8.5	10.6	—	2.1	2.1	6.4
帷子	182	14.3	10.4	28.6	17.6	9.9	59.3	31.3	7.1	1.6	3.3	12.6	1.1	1.6	9.3	6.0
春里	56	8.9	10.7	12.5	19.6	21.4	60.7	35.7	—	7.1	1.8	8.9	3.6	1.8	8.9	8.9
姫治	39	15.4	17.9	10.3	17.9	7.7	64.1	25.6	5.1	5.1	—	25.6	—	2.6	15.4	2.6
平牧	58	29.3	15.5	13.8	8.6	6.9	69.0	36.2	1.7	—	1.7	8.6	—	—	10.3	6.9
桜ヶ丘ハイツ	62	25.8	9.7	4.8	14.5	3.2	72.6	32.3	6.5	3.2	6.5	14.5	—	1.6	14.5	4.8
久々利	18	27.8	22.2	11.1	11.1	—	61.1	38.9	11.1	—	—	22.2	—	—	16.7	—
広見東	25	12.0	20.0	8.0	20.0	16.0	80.0	36.0	12.0	8.0	—	12.0	—	—	4.0	8.0
広見	54	22.2	16.7	5.6	11.1	7.4	46.3	25.9	11.1	—	5.6	11.1	—	3.7	14.8	7.4
中恵土	28	17.9	14.3	10.7	14.3	10.7	60.7	42.9	—	3.6	3.6	14.3	—	3.6	10.7	7.1
兼山	9	11.1	88.9	—	—	—	66.7	11.1	—	—	—	11.1	—	—	—	11.1
不明	26	23.1	15.4	19.2	38.5	7.7	65.4	38.5	3.8	3.8	—	3.8	—	—	11.5	—

【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で「花フェスタ記念公園（バラ）」の割合が、3年以上5年未満、10年以上20年未満で「文化創造センター（アーラ）」の割合が、20年以上、生まれてからずっとで「美濃桃山陶の聖地（志野焼など）」の割合が高くなっています。一方、3年未満で「特になし」の割合が高く、2割台半ばとなっています。

単位：％

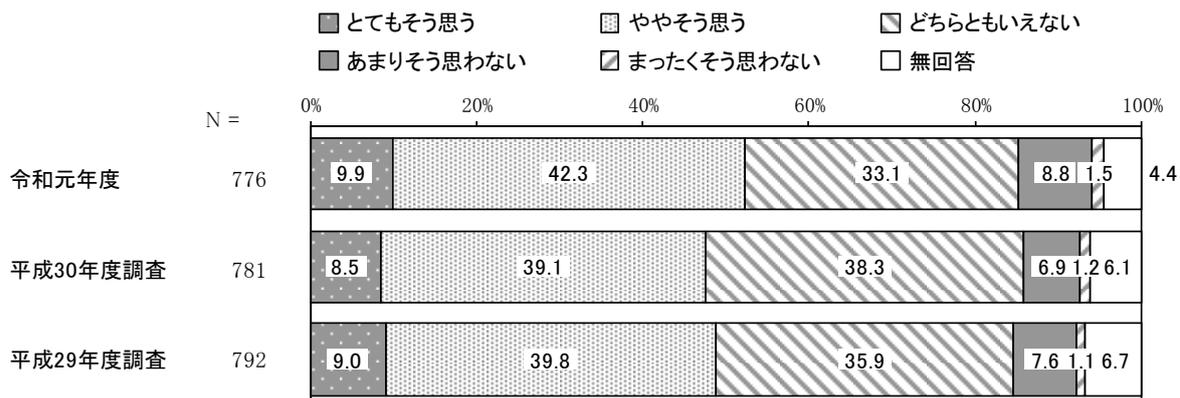
区分	有効回答数（件）	美濃桃山陶の聖地（志野焼など）	美濃金山城をはじめとした城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園（バラ）	文化創造センター（アーラ）	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特になし	無回答
3年未満	27	3.7	7.4	3.7	18.5	3.7	37.0	11.1	3.7	—	—	3.7	—	11.1	25.9	7.4
3年以上5年未満	22	—	13.6	18.2	13.6	4.5	86.4	45.5	4.5	4.5	—	13.6	—	—	13.6	—
5年以上10年未満	42	9.5	11.9	21.4	11.9	4.8	66.7	19.0	2.4	2.4	2.4	9.5	2.4	—	14.3	7.1
10年以上20年未満	95	14.7	12.6	13.7	14.7	25.3	63.2	46.3	1.1	1.1	5.3	17.9	—	1.1	8.4	3.2
20年以上	420	18.8	13.6	17.9	19.0	8.6	62.9	35.5	6.9	2.1	3.8	13.3	0.7	1.7	7.9	6.2
生まれてからずっと	158	17.7	15.8	18.4	25.3	2.5	50.6	34.8	10.1	3.2	4.4	10.8	—	0.6	13.3	5.1

(5) 子育て環境について

問 19 可児市は、子育てしやすい環境だと思いますか。(○は1つだけ)

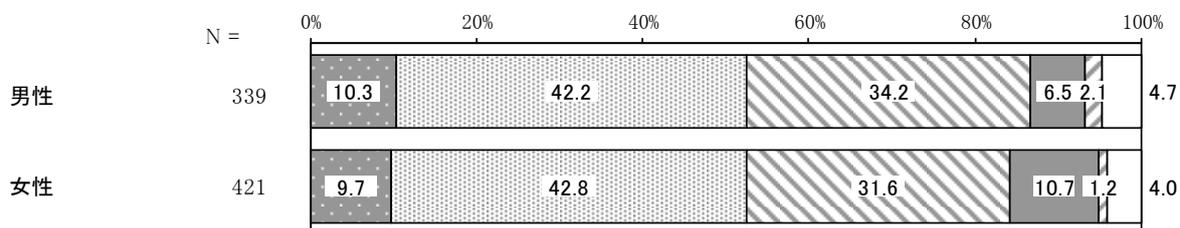
「とてもそう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が 52.2%、「どちらともいえない」の割合が 33.1%、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 10.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。



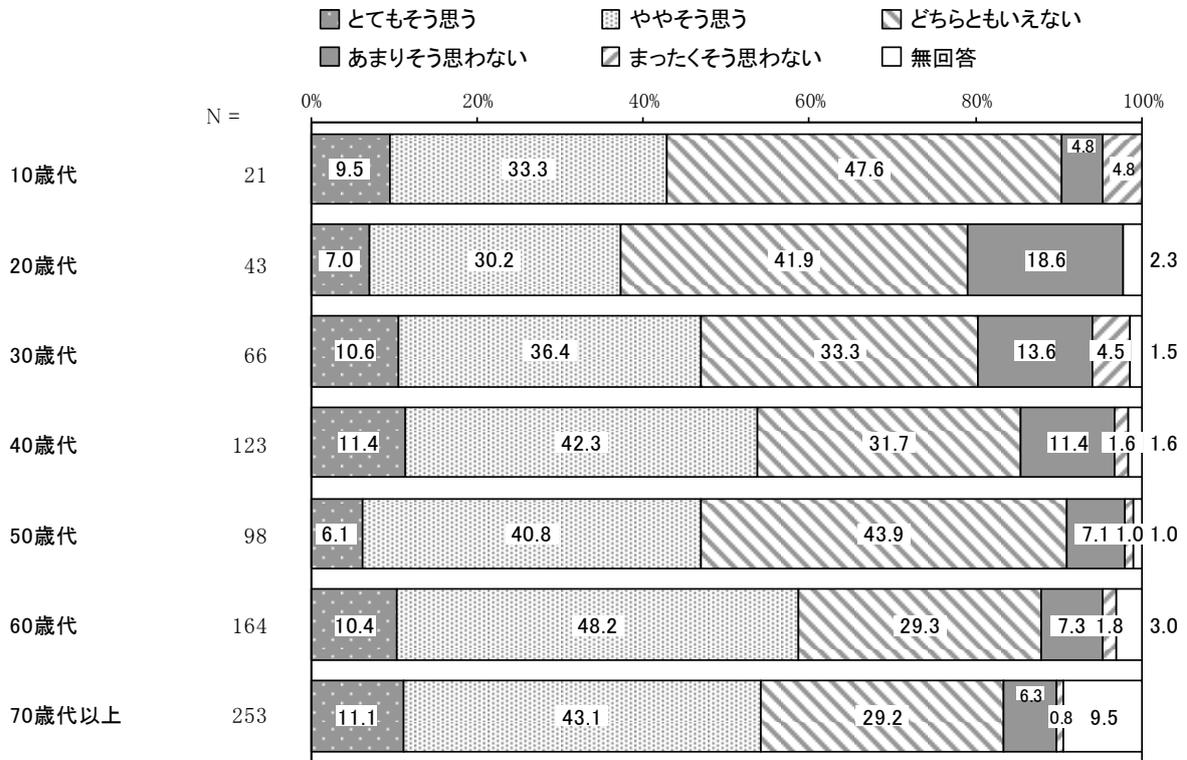
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



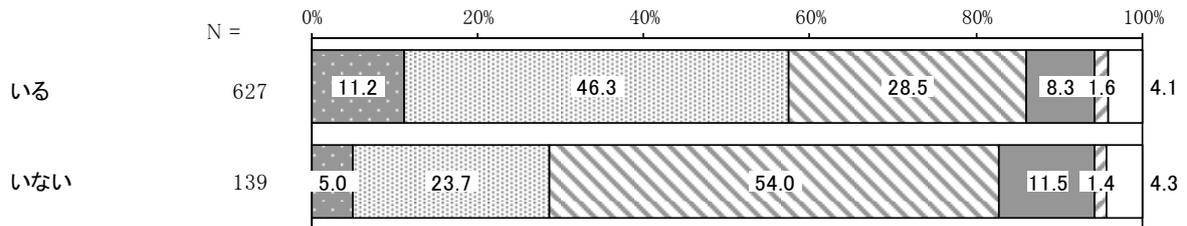
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、60歳代で“そう思う”の割合が高く、約6割となっています。また、20歳代、30歳代で“そう思わない”の割合が高く、約2割となっています。



【子どもの有無別】

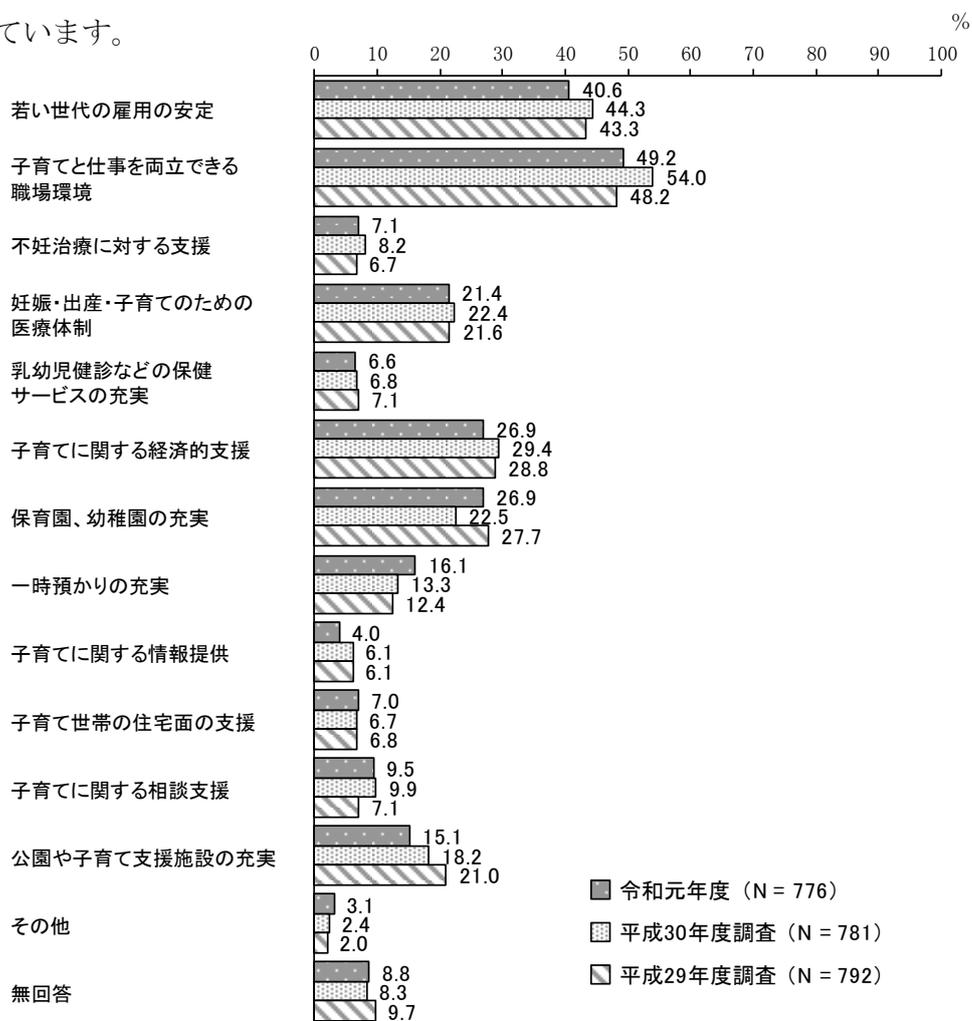
子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“そう思う”の割合が高く、約6割となっています。



問20 妊娠・出産・子育てのために、市は今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「子育てと仕事を両立できる職場環境」の割合が49.2%と最も高く、次いで「若い世代の雇用の安定」の割合が40.6%、「子育てに関する経済的支援」、「保育園、幼稚園の充実」の割合が26.9%となっています。

平成29年度調査、平成30年度調査と比較すると、「公園や子育て支援施設の充実」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「若い世代の雇用の安定」「妊娠・出産・子育てのための医療体制」「子育てに関する経済的支援」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「不妊治療に対する支援」「一時預かりの充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
男性	339	49.0	48.7	3.8	24.5	5.9	31.3	27.7	13.3	2.4	8.8	8.8	13.0	4.4	5.6
女性	421	34.0	50.8	9.7	19.5	7.1	23.0	27.3	18.8	5.0	5.5	10.5	15.9	2.1	10.5

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「子育てに関する情報提供」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、50歳代で「子育てと仕事を両立できる職場環境」の割合が高く、約6割となっています。また、10歳代、60歳代以上で「若い世代の雇用の安定」の割合が、30歳代で「子育てに関する経済的支援」「子育て世帯の住宅面の支援」「公園や子育て支援施設の充実」の割合が、20歳代で「子育てに関する相談支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
10歳代	21	52.4	42.9	4.8	19.0	—	33.3	9.5	4.8	9.5	14.3	4.8	—	4.8	14.3
20歳代	43	20.9	34.9	9.3	18.6	14.0	37.2	37.2	14.0	9.3	2.3	20.9	18.6	7.0	7.0
30歳代	66	18.2	54.5	16.7	18.2	9.1	42.4	19.7	15.2	6.1	16.7	3.0	24.2	4.5	6.1
40歳代	123	28.5	48.8	13.0	28.5	6.5	35.0	26.0	22.8	5.7	7.3	8.9	18.7	3.3	2.4
50歳代	98	40.8	58.2	9.2	27.6	5.1	17.3	25.5	15.3	2.0	5.1	14.3	12.2	3.1	3.1
60歳代	164	47.0	56.1	4.9	19.5	4.3	26.8	31.7	21.3	1.8	8.5	9.1	15.2	1.8	6.1
70歳代以上	253	50.2	44.7	2.0	18.2	7.5	20.2	26.1	11.1	3.6	4.3	8.3	11.9	2.8	16.2

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「子育てと仕事を両立できる職場環境」「子育てに関する経済的支援」「公園や子育て支援施設の充実」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「不妊治療に対する支援」「保育園、幼稚園の充実」「子育てに関する相談支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
いる	627	41.3	50.6	6.5	22.2	6.5	28.2	25.5	16.7	4.1	7.2	8.9	16.6	2.6	8.8
いない	139	38.1	44.6	10.1	18.0	6.5	22.3	34.5	13.7	3.6	6.5	12.9	7.9	5.8	6.5

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、嘱託・契約社員で「子育てと仕事を両立できる職場環境」の割合が高く、約6割となっています。また、学生で「若い世代の雇用の安定」の割合が、正社員・正職員で「妊娠・出産・子育てのための医療体制」の割合が高くなっています。

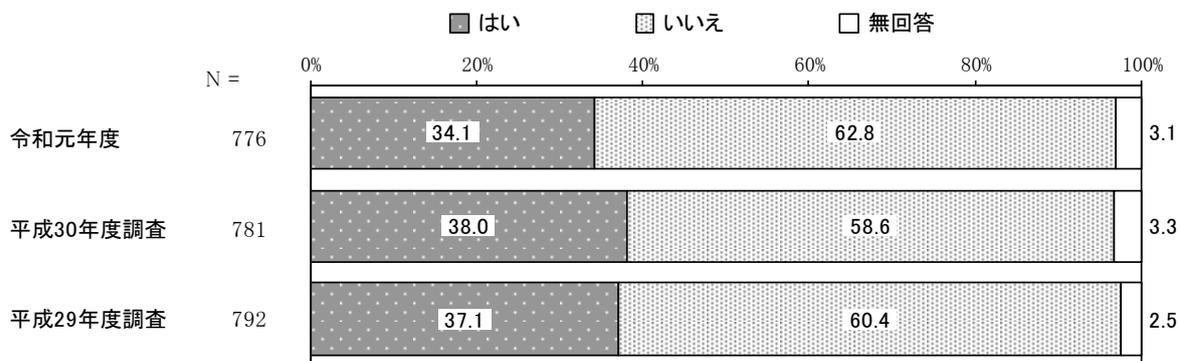
単位：％

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
正社員・正職員	188	31.4	47.9	10.1	31.9	8.0	33.0	29.3	16.0	1.6	7.4	8.0	14.4	4.8	4.3
アルバイト・パート	131	45.0	53.4	6.1	18.3	5.3	32.1	30.5	17.6	2.3	6.9	9.9	23.7	1.5	4.6
派遣社員	7	57.1	85.7	—	42.9	—	—	—	14.3	—	14.3	28.6	14.3	—	14.3
嘱託・契約社員	23	52.2	60.9	4.3	8.7	8.7	21.7	30.4	26.1	8.7	4.3	26.1	26.1	4.3	—
自営業主・家族従業員	51	29.4	49.0	9.8	7.8	—	27.5	21.6	25.5	2.0	5.9	3.9	7.8	7.8	19.6
内職	9	11.1	33.3	11.1	33.3	—	22.2	22.2	44.4	22.2	11.1	—	11.1	—	22.2
家事専業	127	42.5	47.2	10.2	19.7	7.1	19.7	22.8	19.7	7.1	4.7	11.8	17.3	0.8	11.8
学生	24	54.2	37.5	4.2	16.7	4.2	33.3	16.7	12.5	12.5	8.3	16.7	8.3	8.3	4.2
無職	185	43.2	47.0	3.2	18.4	9.2	24.3	28.6	9.2	3.8	7.0	7.6	10.3	1.6	13.0
その他	21	52.4	61.9	4.8	19.0	—	14.3	33.3	14.3	—	14.3	9.5	14.3	9.5	—

(6) 運動の推進について

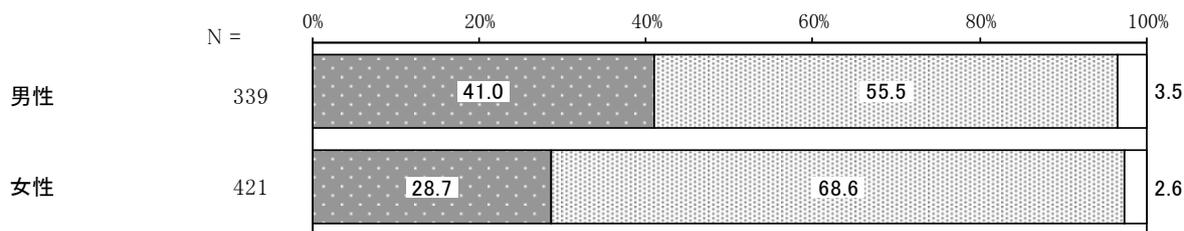
問 21 可児市では、1回30分週2回のウォーキングを推奨する歩こう可児302運動や1人の市民が少なくとも1つのスポーツに親しむ一市民スポーツを推進しています。あなたは、30分以上の運動を週2回以上、1年以上続けていますか。

「はい」の割合が34.1%、「いいえ」の割合が62.8%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



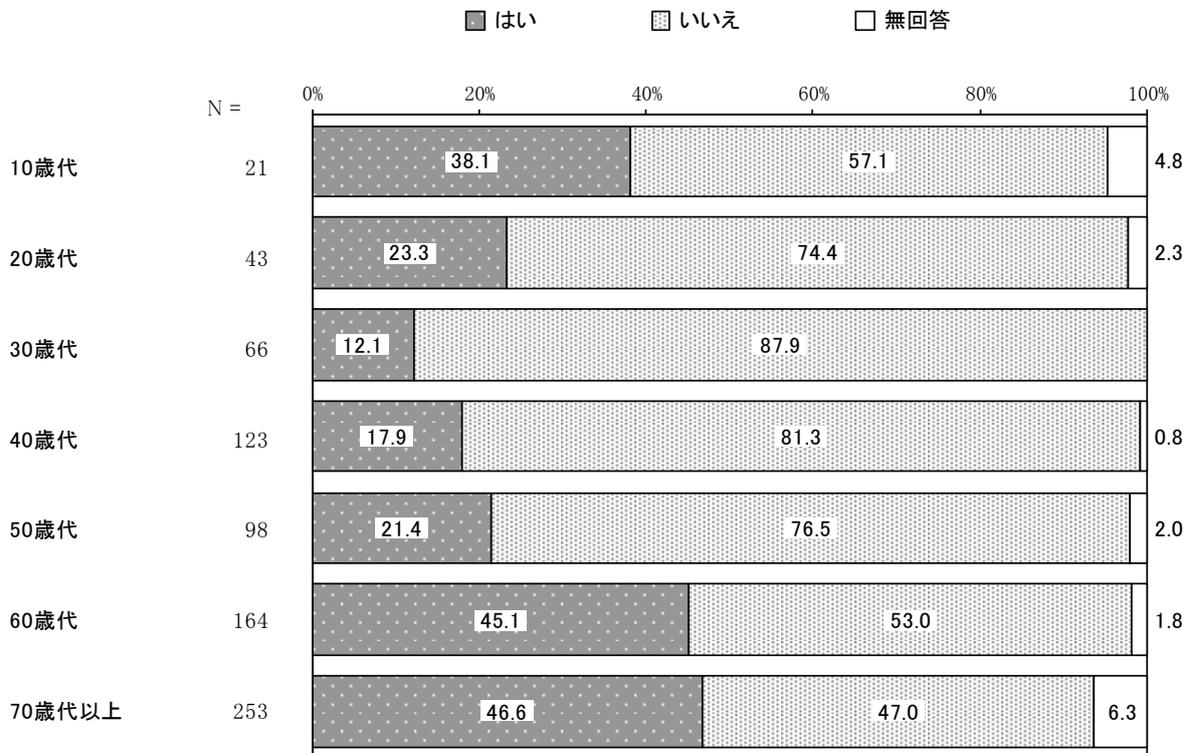
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「はい」の割合が高くなっています。



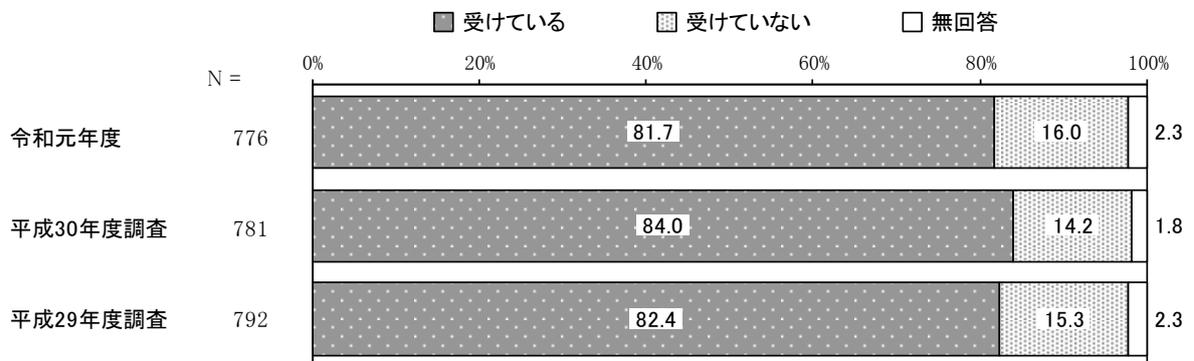
【年代別】

年代別でみると、30歳代以上で、年代が高くなるにつれ「はい」の割合が高くなっており、60歳代以上で4割台半ばとなっています。



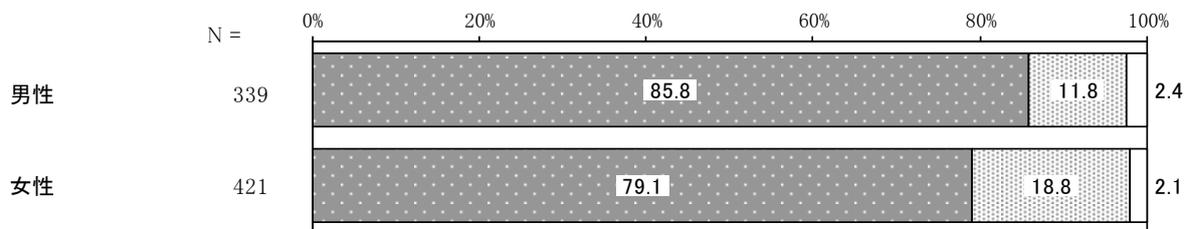
問 22 あなたは、定期的に健康診査を受けていますか。

「受けている」の割合が81.7%、「受けていない」の割合が16.0%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



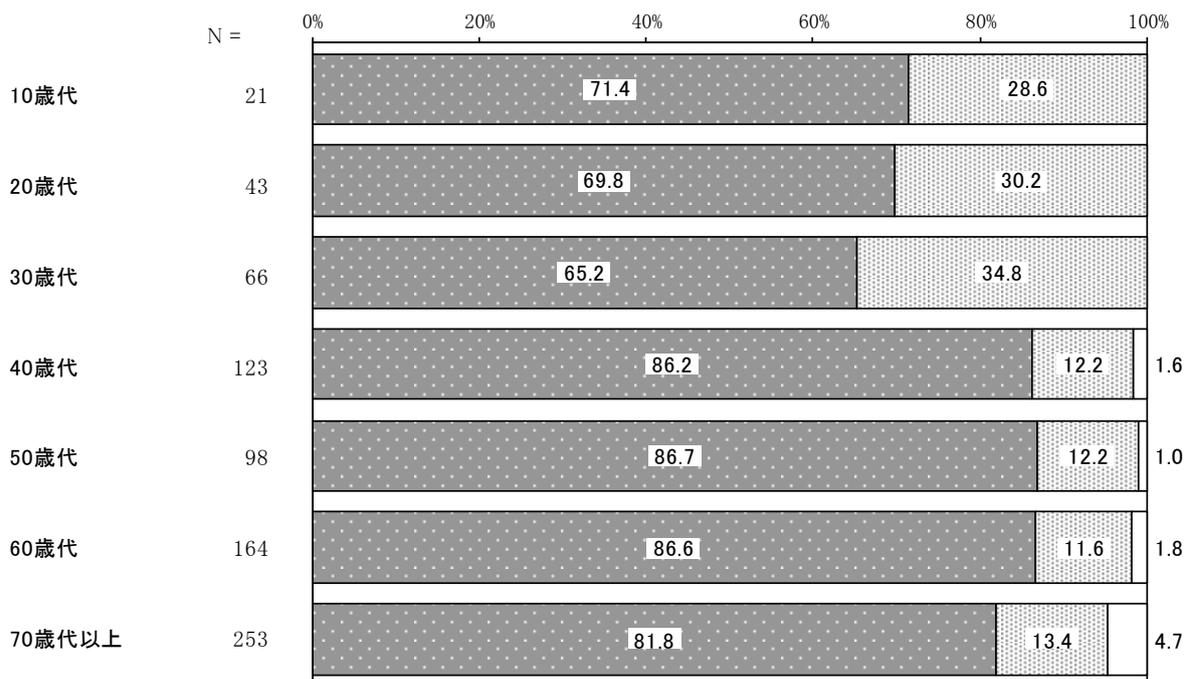
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「受けている」の割合が高く、8割台半ばとなっています。



【年代別】

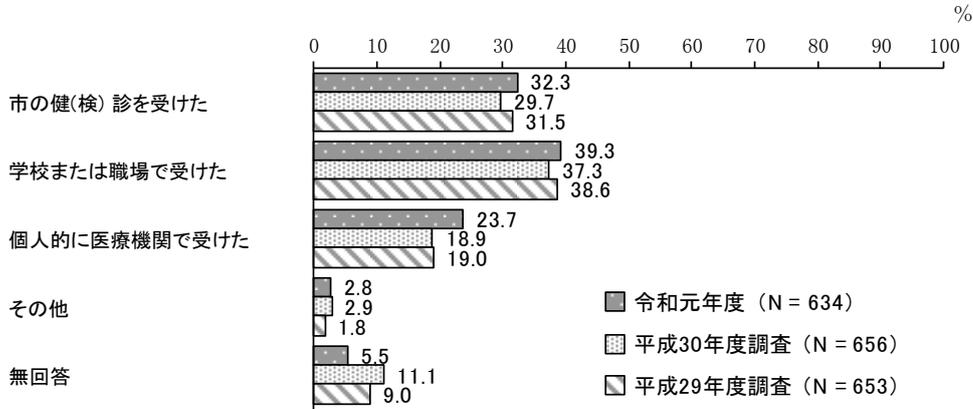
年代別で見ると、30歳代以下に比べ、40歳代以上で「受けている」の割合が高く、8割を超えています。



受診場所

「学校または職場で受けた」の割合が39.3%と最も高く、次いで「市の健(検)診を受けた」の割合が32.3%、「個人的に医療機関で受けた」の割合が23.7%となっています。

平成30年度調査との比較は、回答数が異なるため参考とします。



※平成29年度調査、30年度調査では単数回答でした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学校または職場で受けた」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「市の健(検)診を受けた」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	市の健(検)診を受けた	学校または職場で受けた	個人的に医療機関で受けた	その他	無回答
男性	291	27.1	45.7	24.4	1.4	4.1
女性	333	36.9	33.9	23.1	4.2	6.3

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「市の健(検)診を受けた」「個人的に医療機関で受けた」の割合が、年代が低くなるにつれ「学校または職場で受けた」の割合が高くなる傾向がみられます。

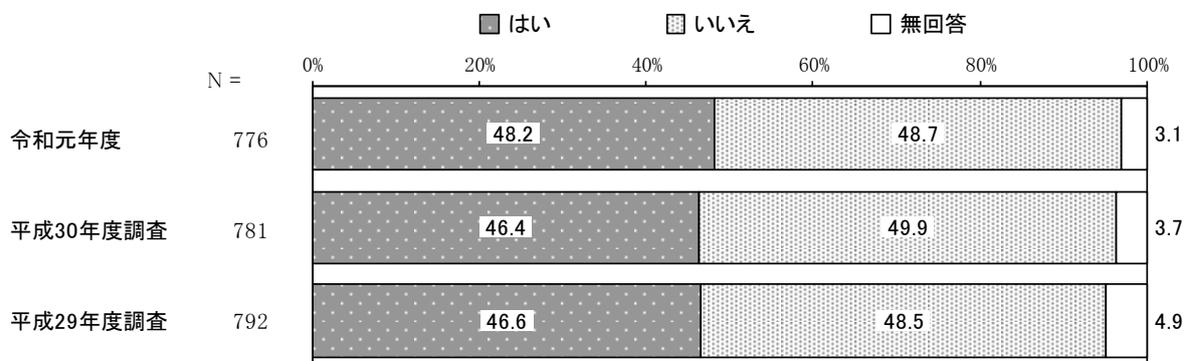
単位：％

区分	有効回答数 (件)	市の健(検)診を 受けた	学校または職場で 受けた	個人的に医療機関 で受けた	その他	無回答
10 歳代	15	6.7	93.3	—	—	6.7
20 歳代	30	6.7	83.3	3.3	—	6.7
30 歳代	43	9.3	67.4	14.0	2.3	7.0
40 歳代	106	15.1	71.7	11.3	2.8	3.8
50 歳代	85	20.0	61.2	12.9	4.7	3.5
60 歳代	142	45.1	28.9	22.5	2.8	2.8
70 歳代以上	207	47.3	5.3	41.1	2.9	8.7

(7) 防災への取組みについて

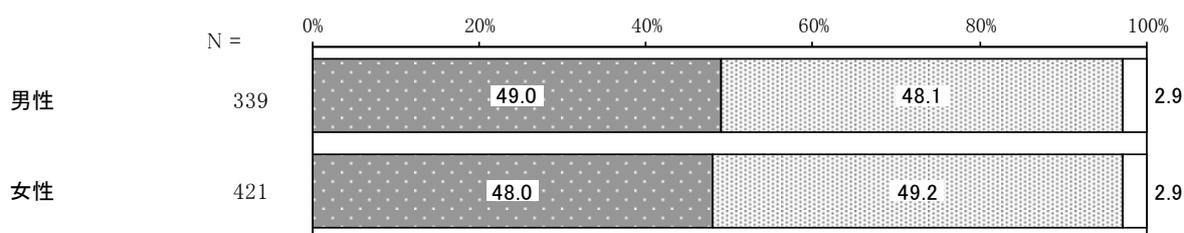
問 23 家庭で防災に関する取組みをしていますか。

「はい」の割合が48.2%、「いいえ」の割合が48.7%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



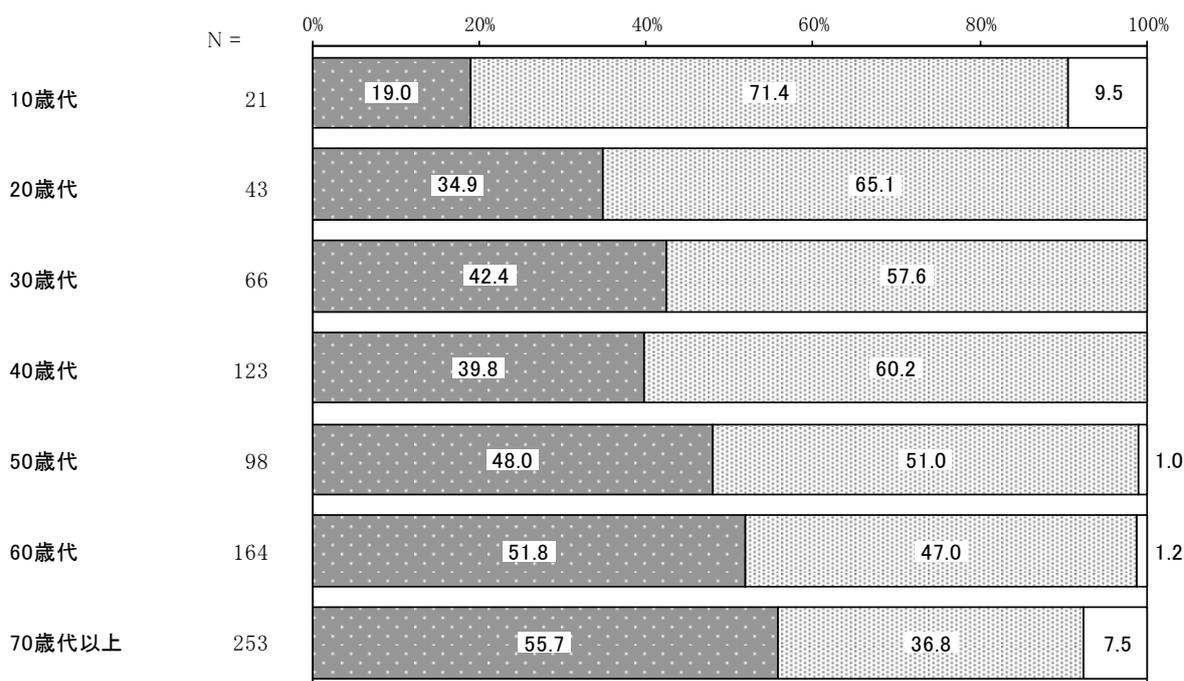
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「はい」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳代以上で5割台半ばとなっています。

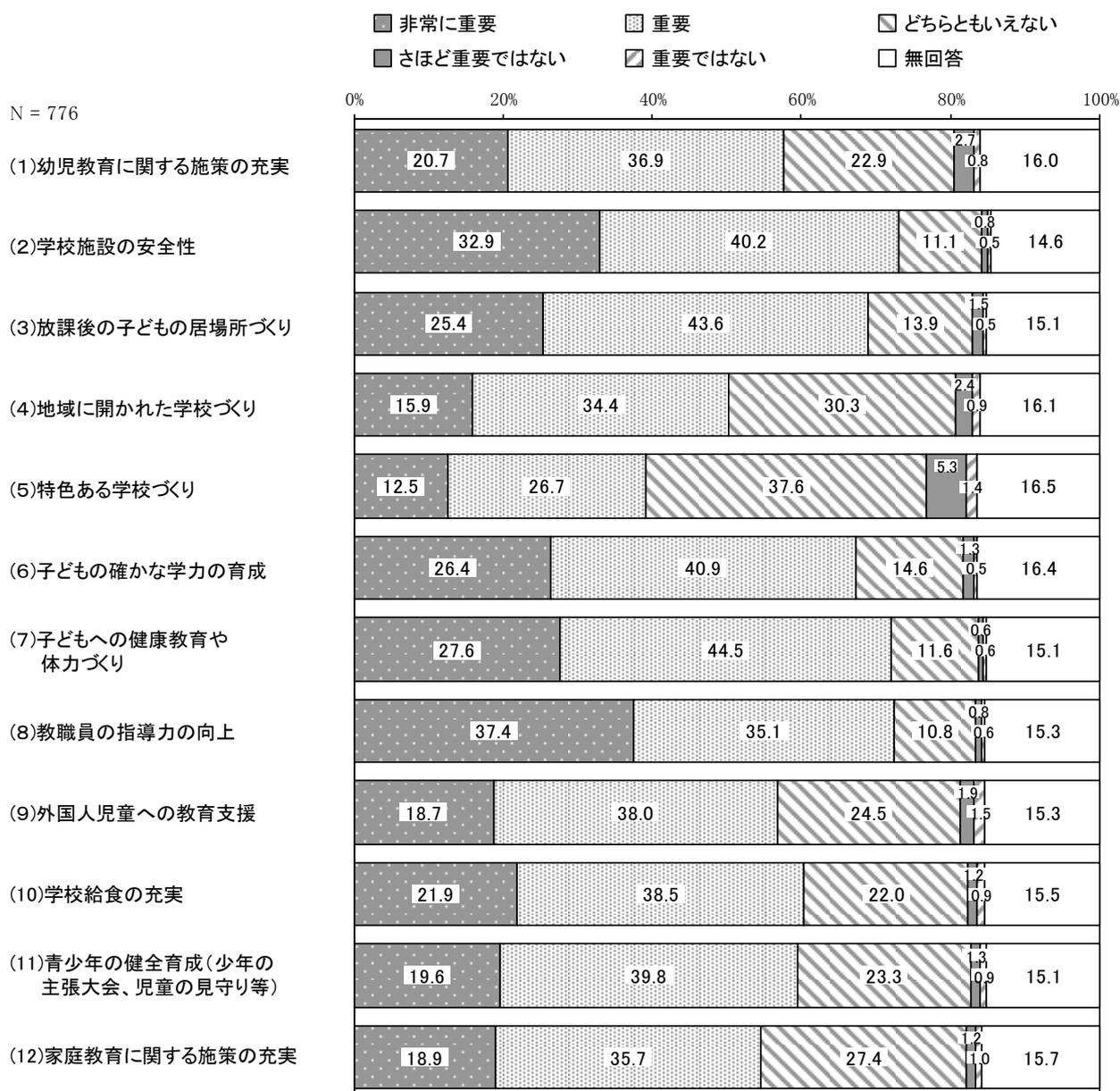


(8) 教育や学習に関する施策について

問 24 可児市の教育や学習に関する施策の「重要度」と「満足度」をおたずねします。
5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

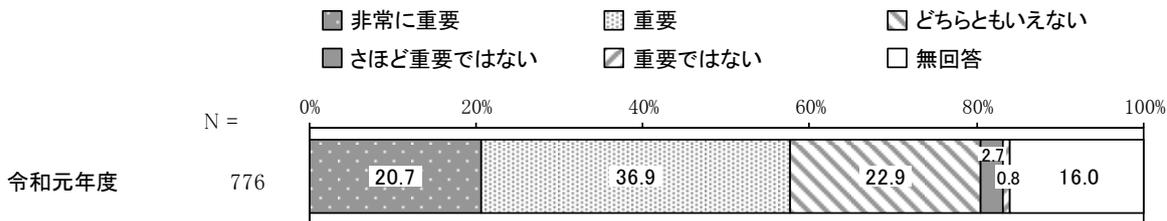
①重要度

『(2)学校施設の安全性』『(7)子どもへの健康教育や体力づくり』『(8)教職員の指導力の向上』で「非常に重要」と「重要」をあわせた“重要”の割合が高く、7割を超えています。



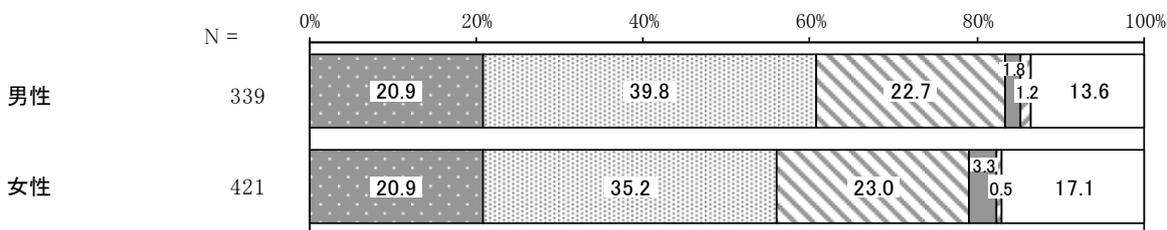
(1) 幼児教育に関する施策の充実

“重要”の割合が57.6%、“重要ではない”の割合が3.5%となっています。



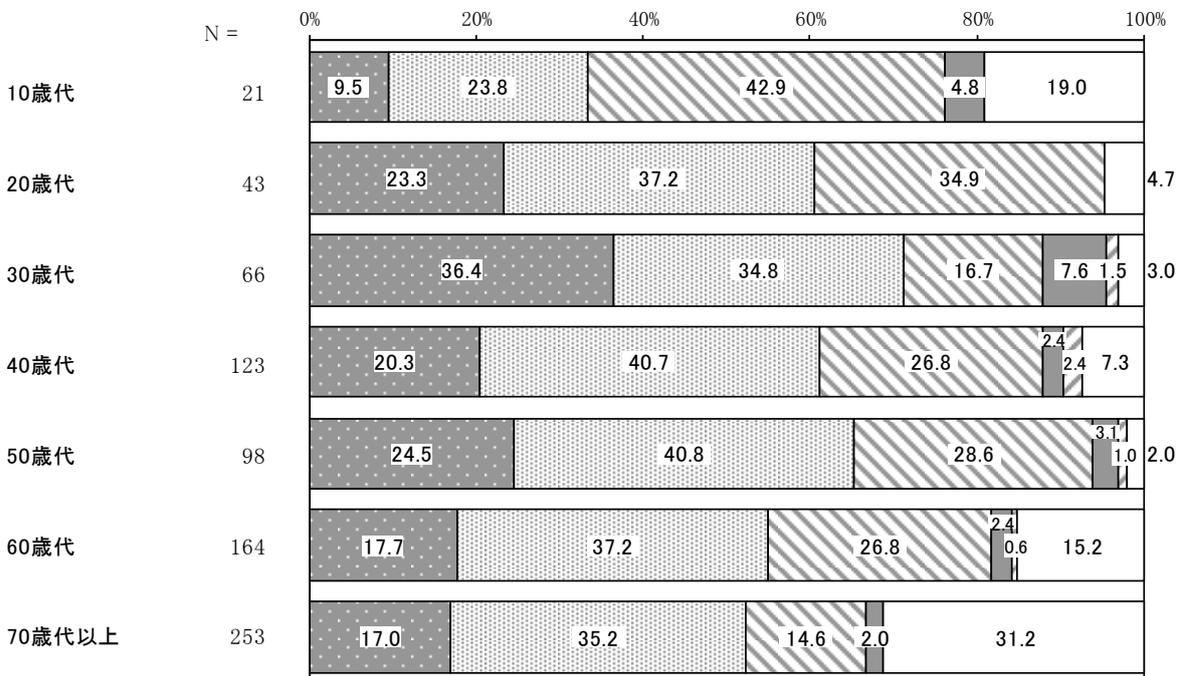
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



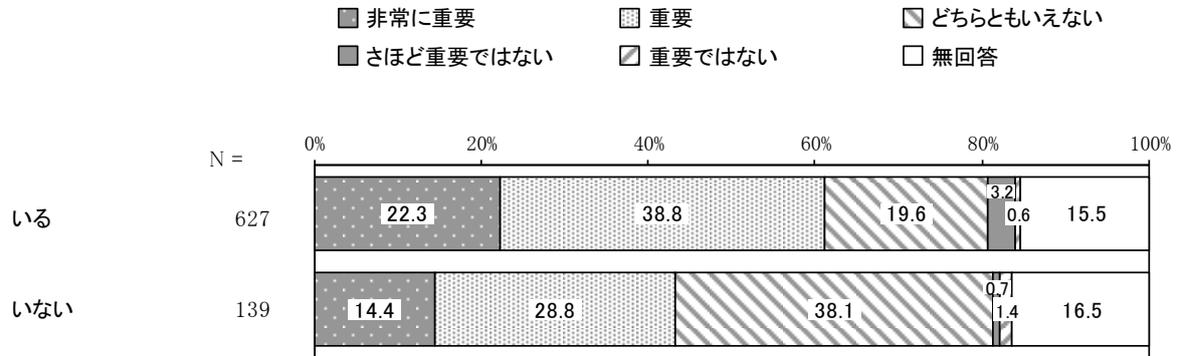
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



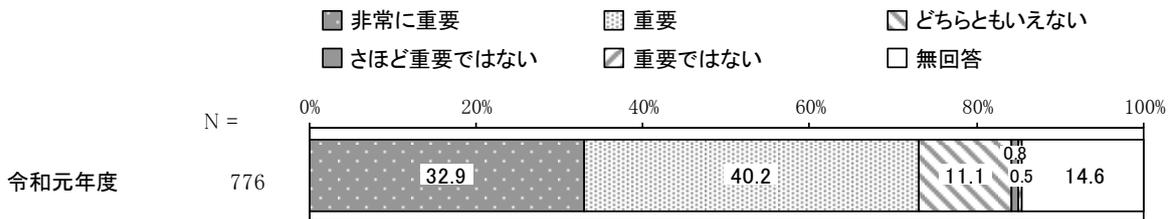
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約6割となっています。



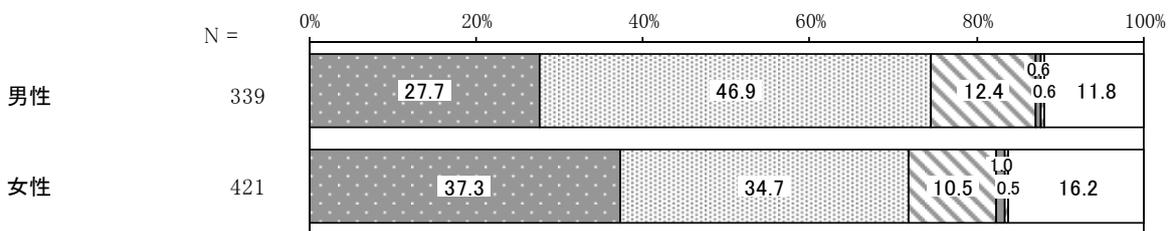
(2) 学校施設の安全性

“重要”の割合が73.1%、“重要ではない”の割合が1.3%となっています。



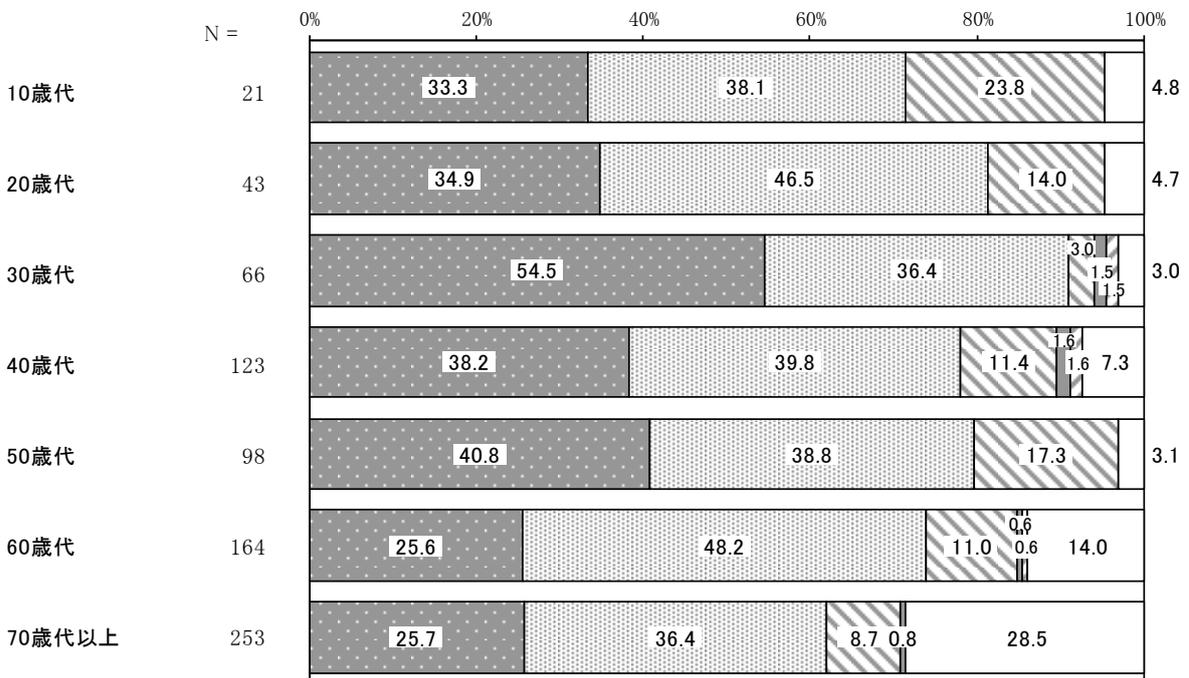
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「非常に重要」の割合が高く、約4割となっています。



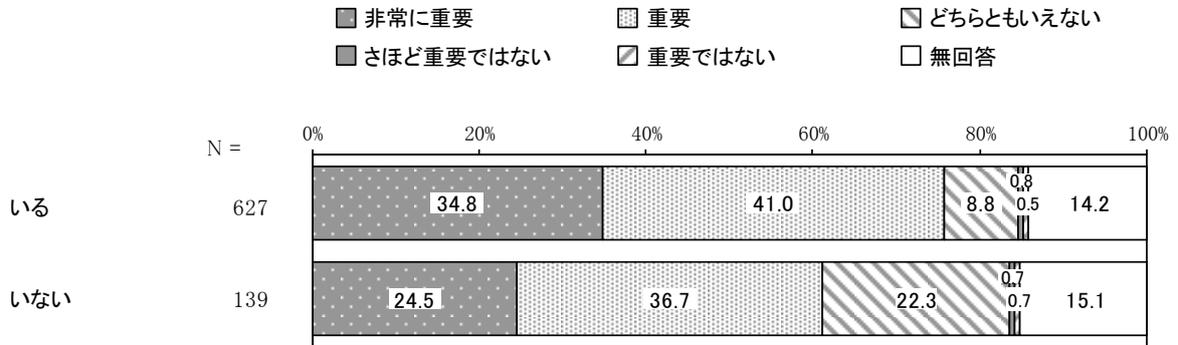
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



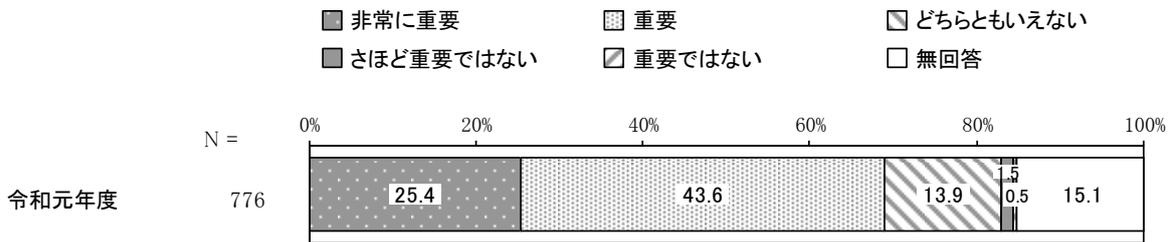
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



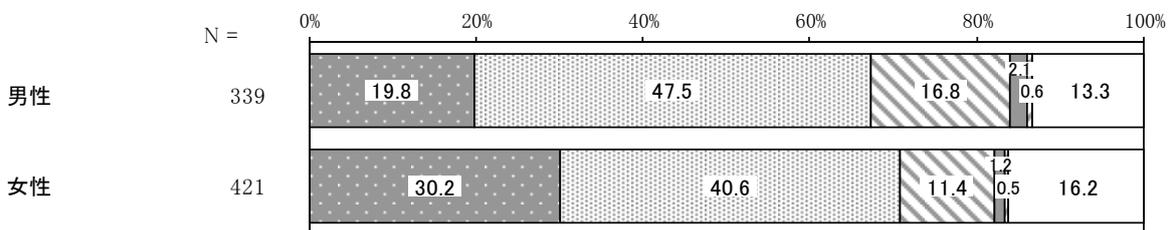
(3) 放課後の子どもの居場所づくり

“重要”の割合が69.0%、“重要ではない”の割合が2.0%となっています。



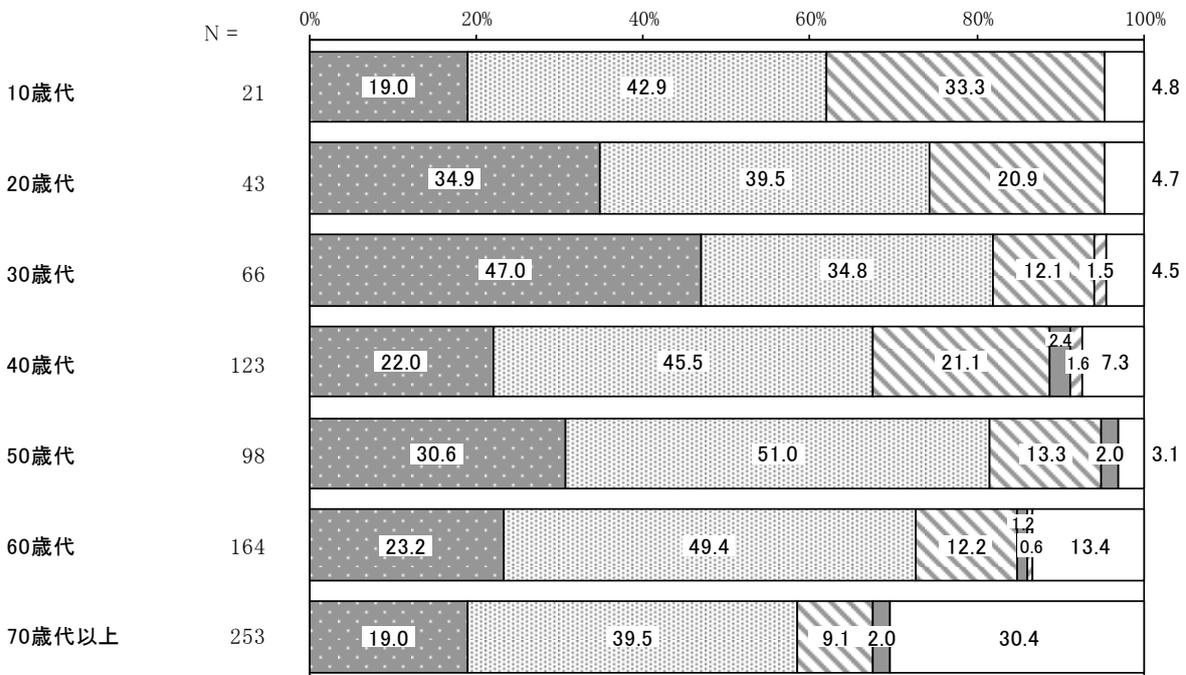
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「非常に重要」の割合が高く、約3割となっています。



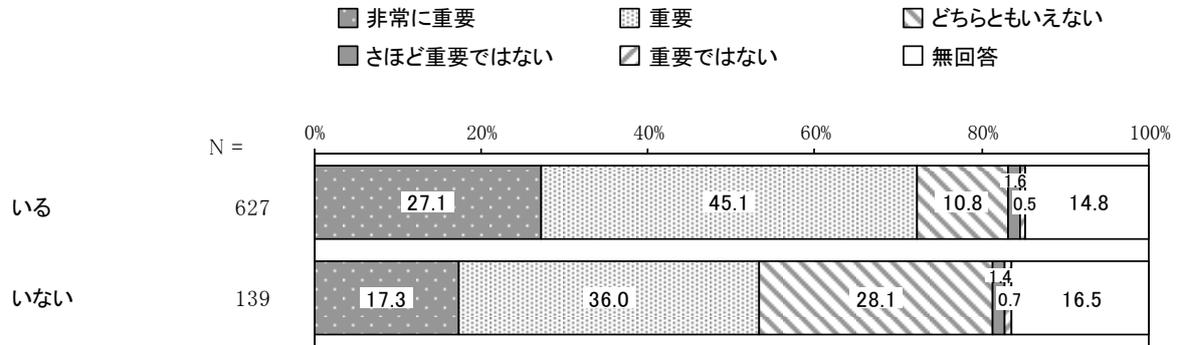
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代、50歳代で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



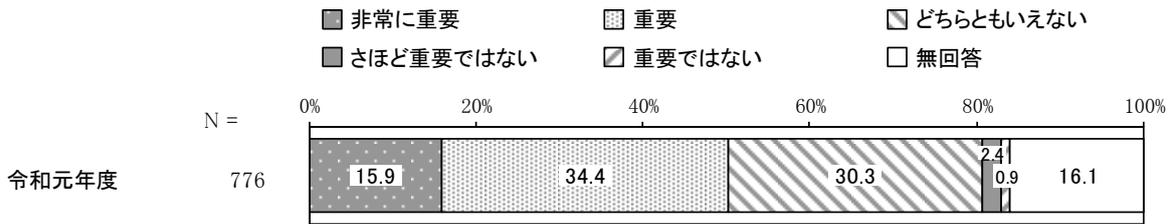
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



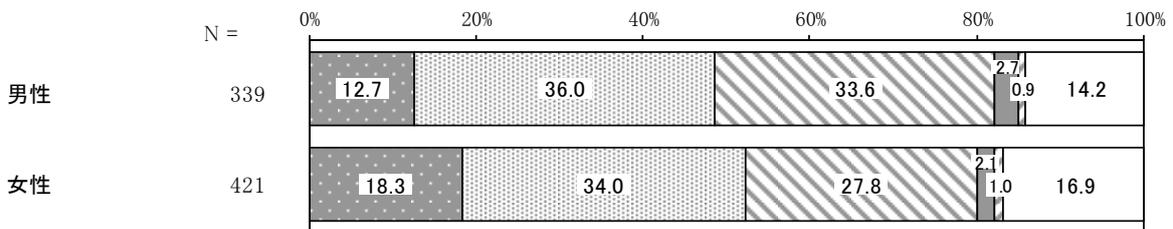
(4) 地域に開かれた学校づくり

“重要”の割合が50.3%、“重要ではない”の割合が3.3%となっています。



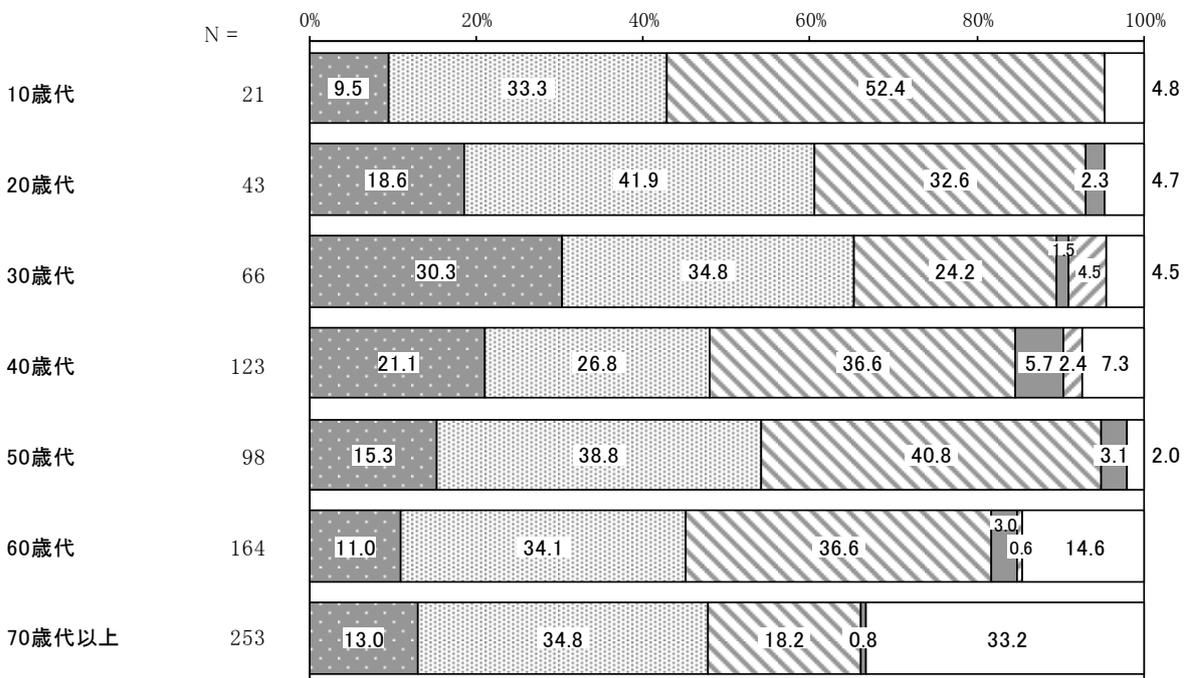
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「非常に重要」の割合が高く、約2割となっています。



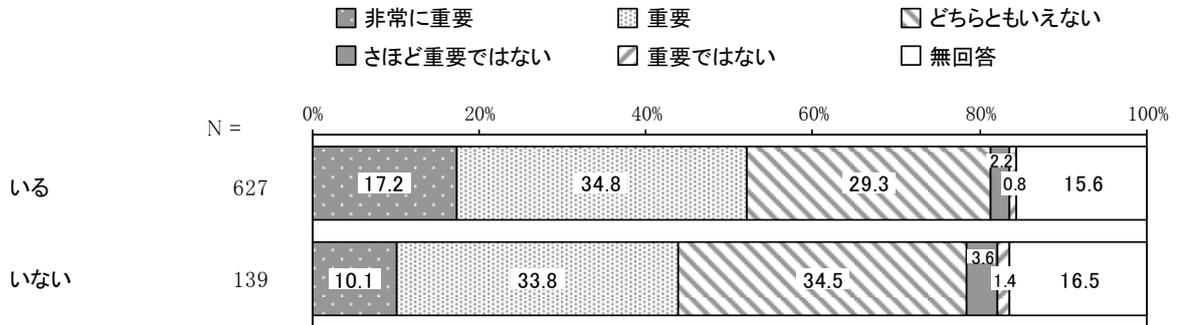
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、6割台半ばとなっています。



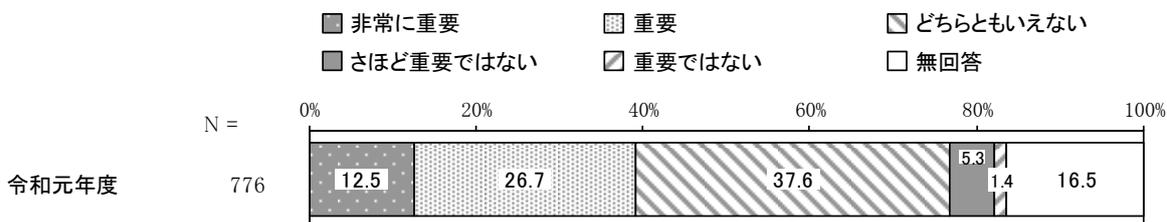
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約5割となっています。



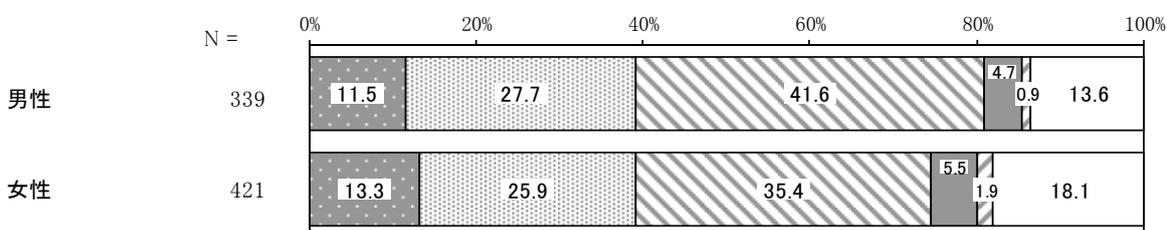
(5) 特色ある学校づくり

“重要”の割合が39.2%、“重要ではない”の割合が6.7%となっています。



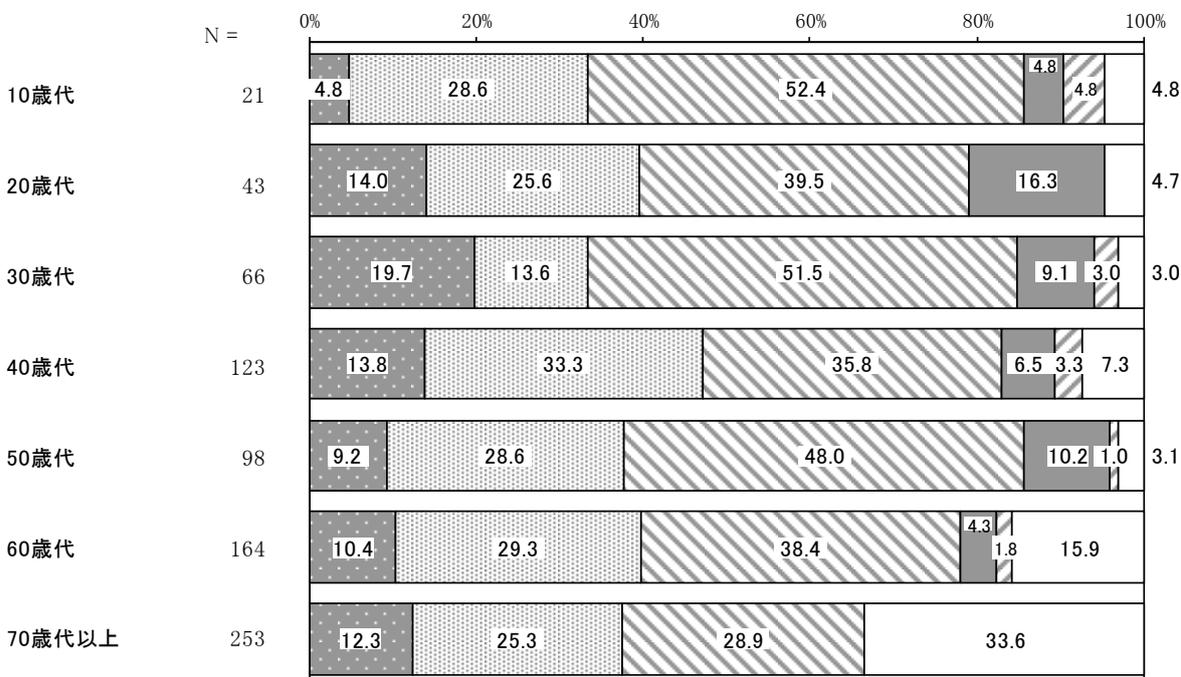
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



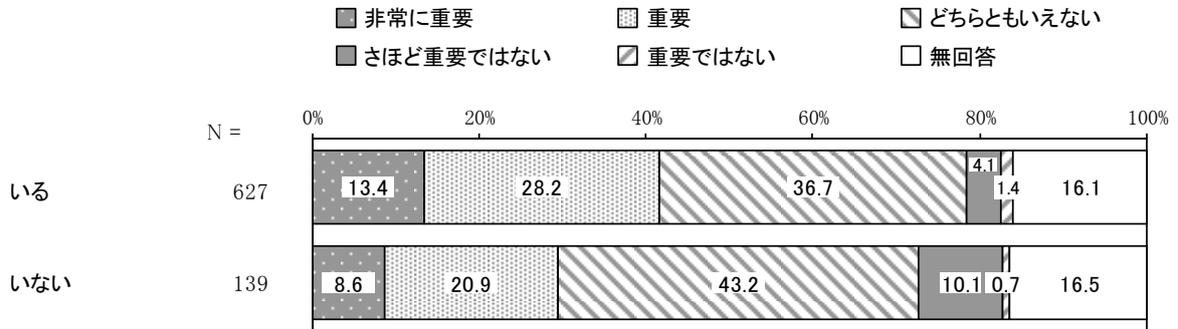
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で“重要”の割合が高く、約5割となっています。



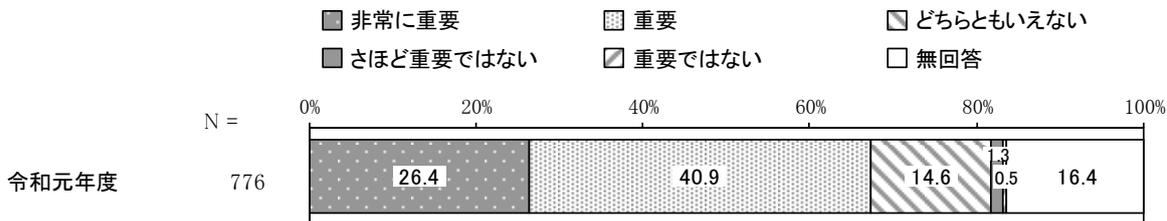
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約4割となっています。



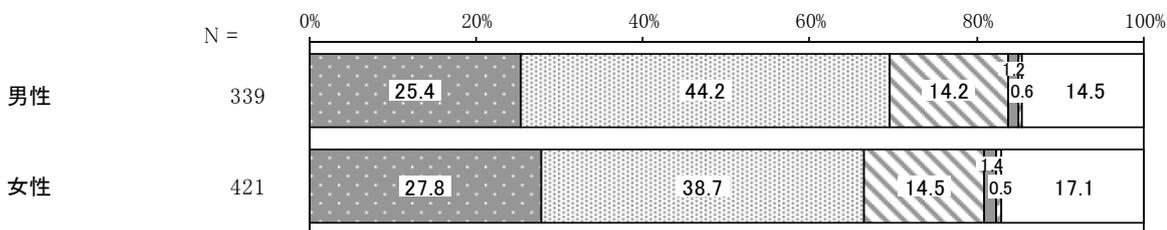
(6)子どもの確かな学力の育成

“重要”の割合が67.3%、“重要ではない”の割合が1.8%となっています。



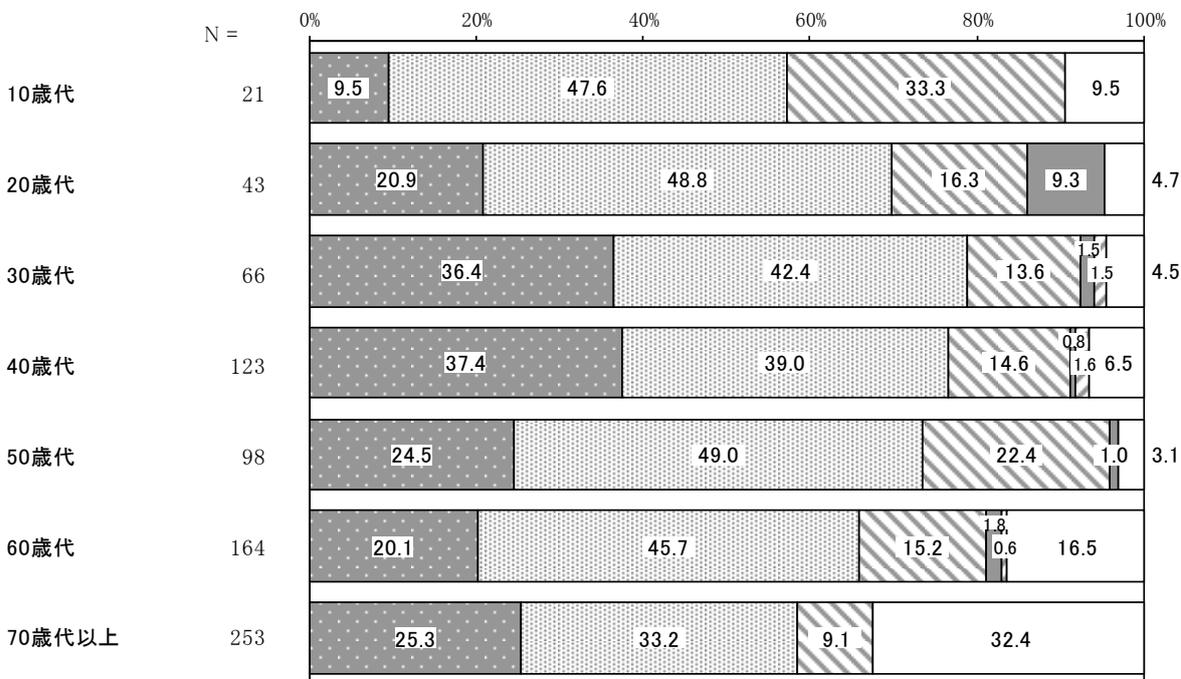
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



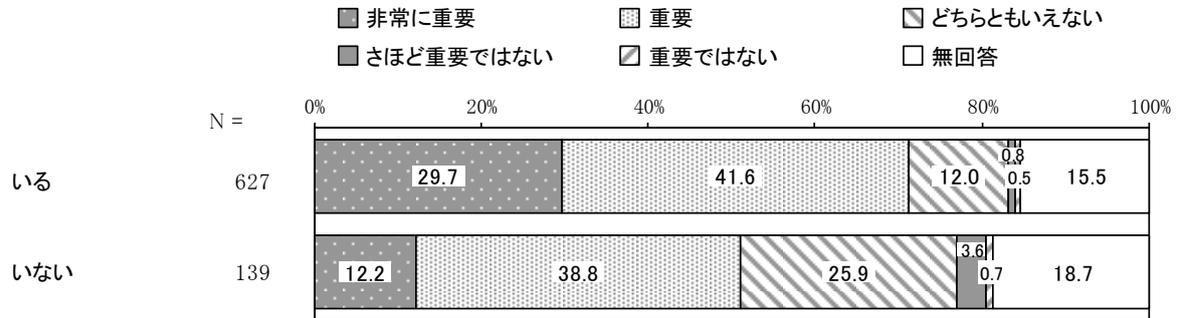
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



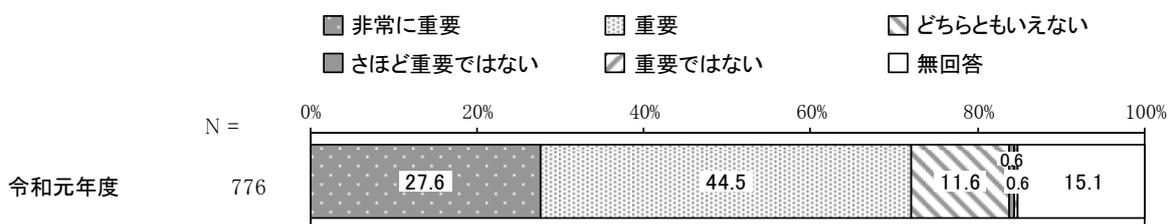
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



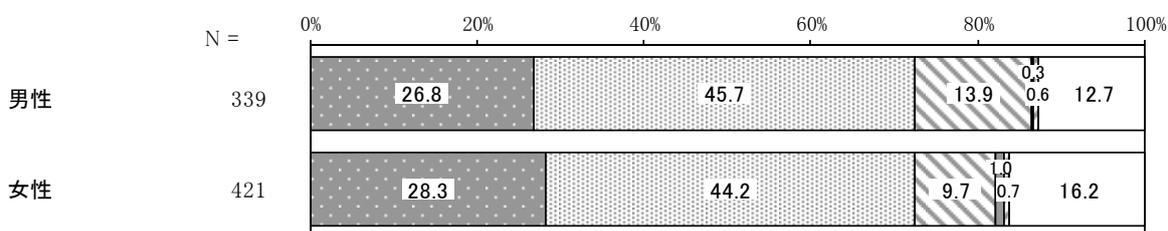
(7)子どもへの健康教育や体づくり

“重要”の割合が72.1%、“重要ではない”の割合が1.2%となっています。



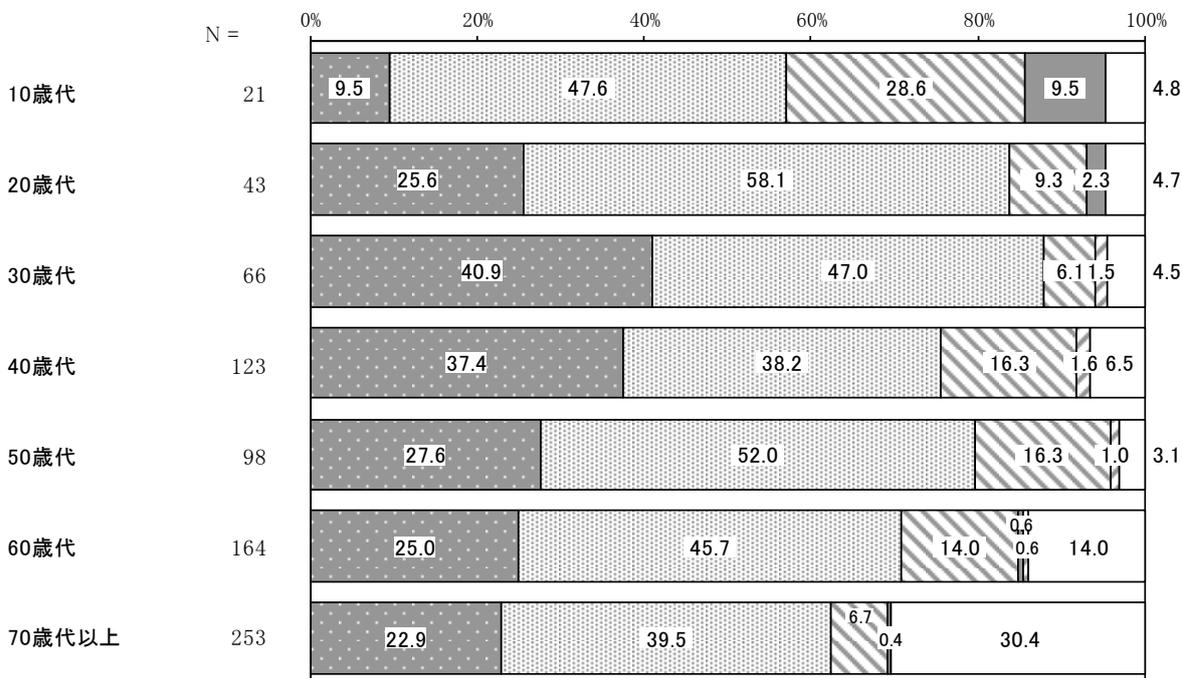
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



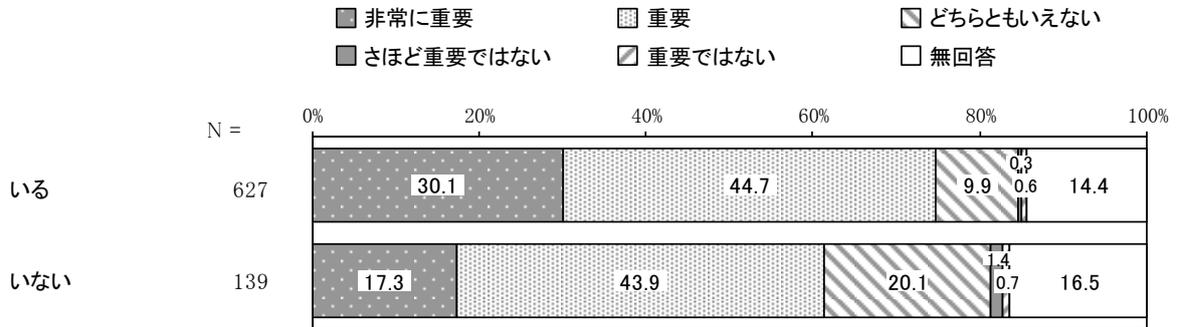
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



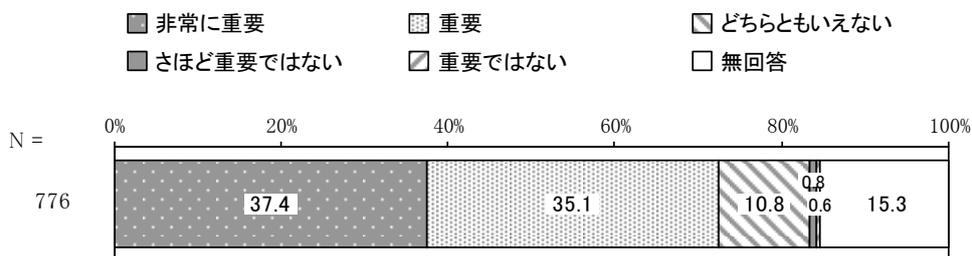
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



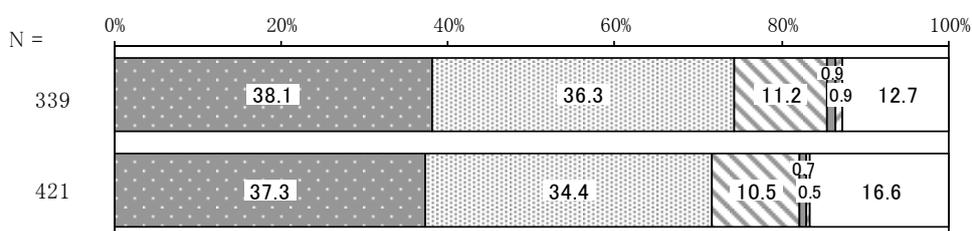
(8) 教職員の指導力の向上

“重要”の割合が72.5%、“重要ではない”の割合が1.4%となっています。



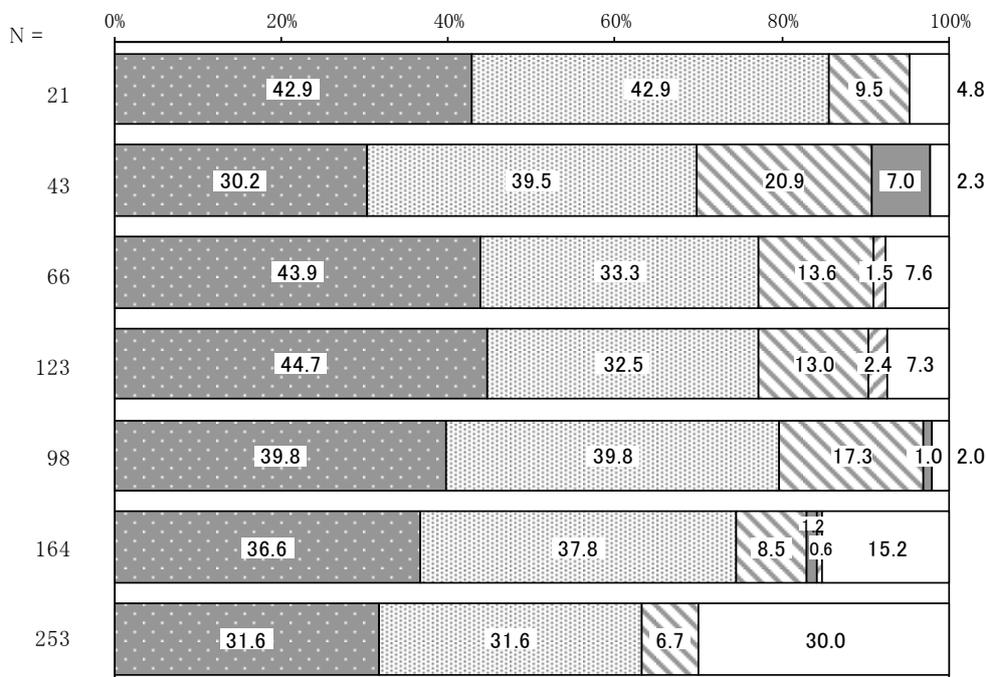
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



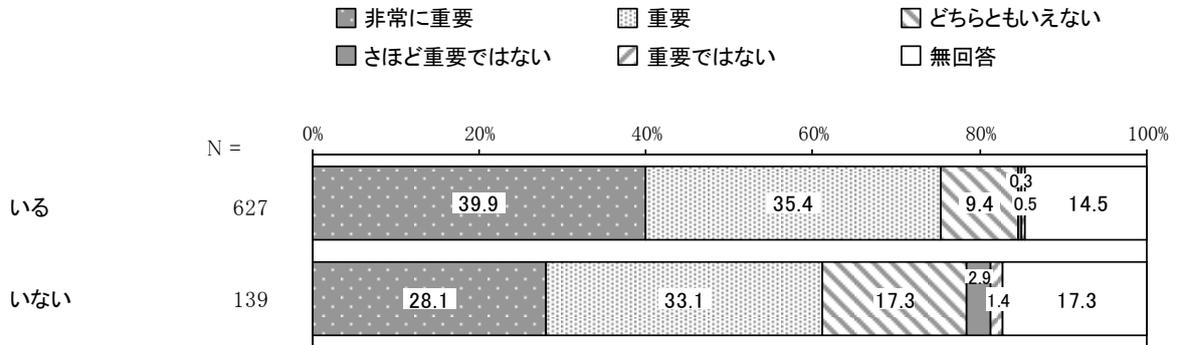
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、10歳代で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



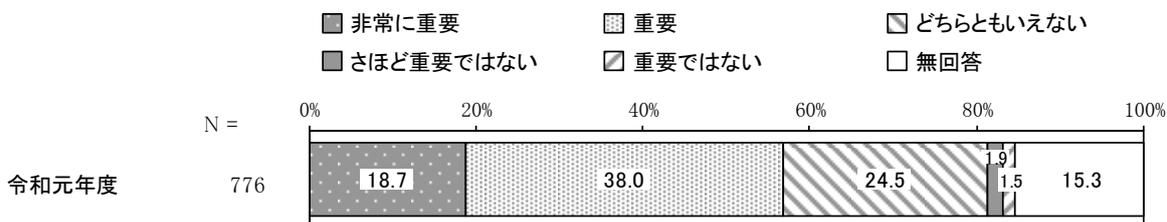
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



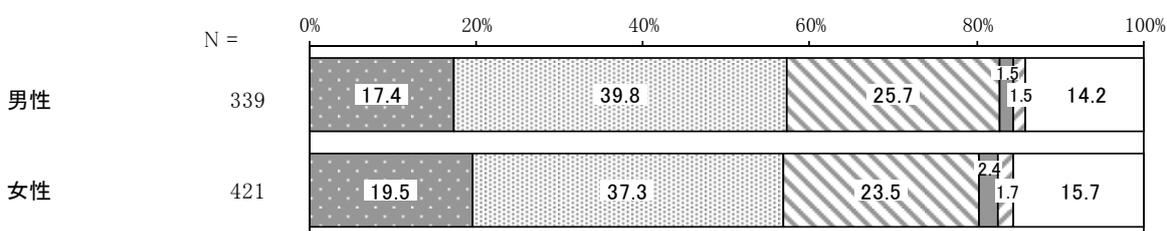
(9)外国人児童への教育支援

“重要”の割合が56.7%、“重要ではない”の割合が3.4%となっています。



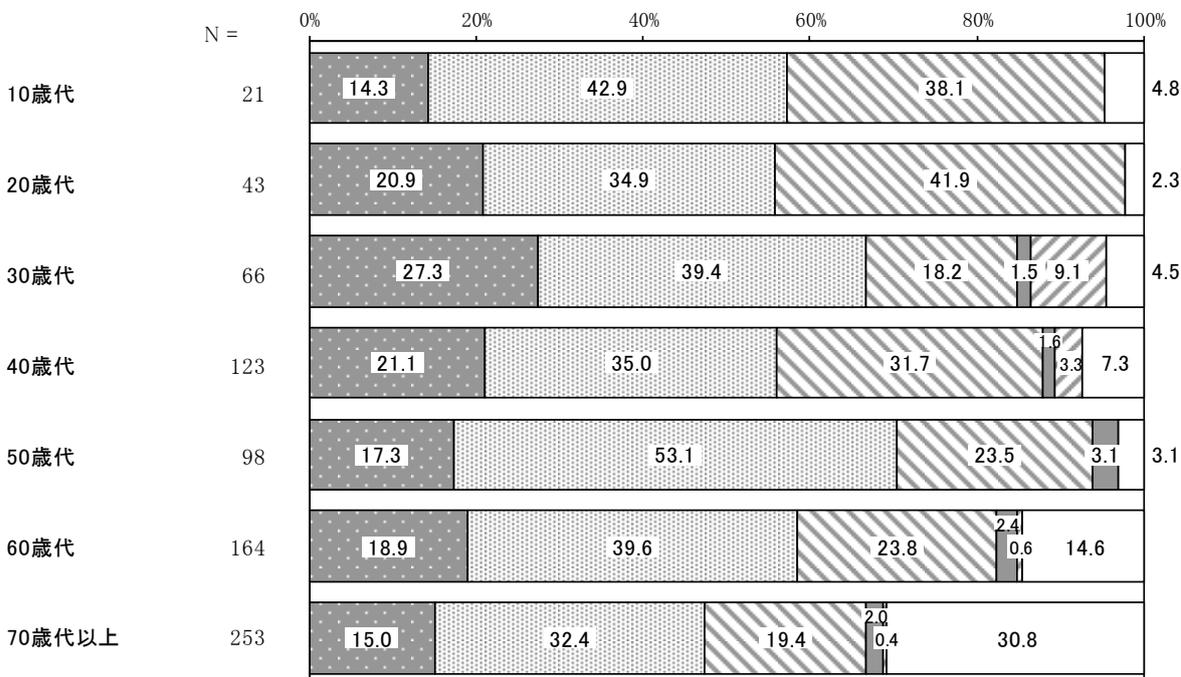
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



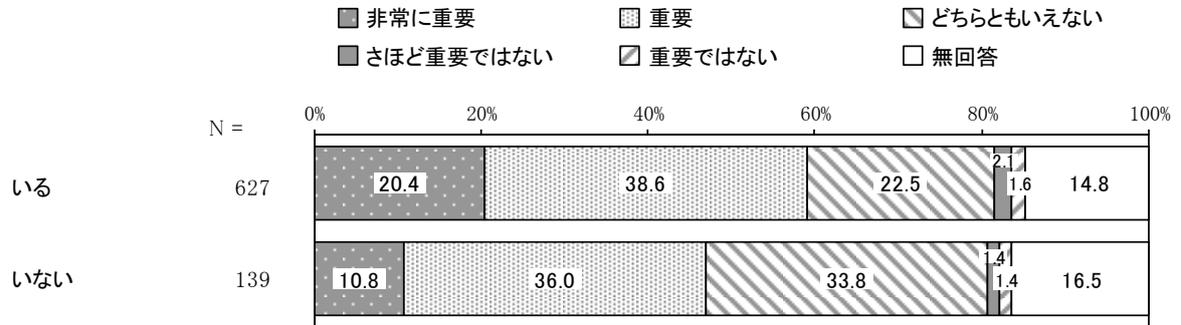
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



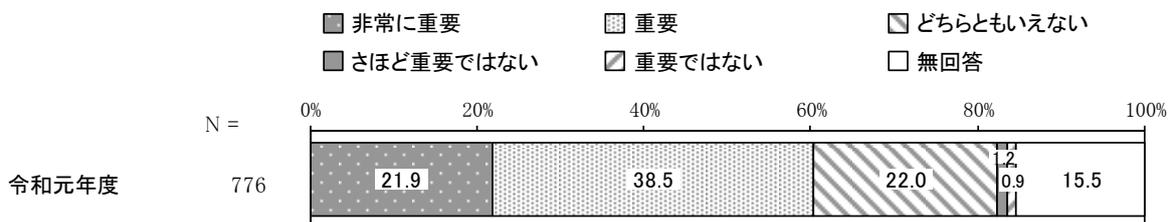
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約6割となっています。



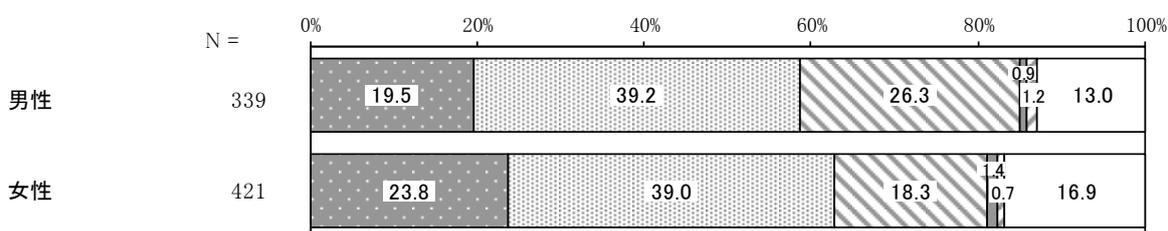
(10) 学校給食の充実

“重要”の割合が60.4%、“重要ではない”の割合が2.1%となっています。



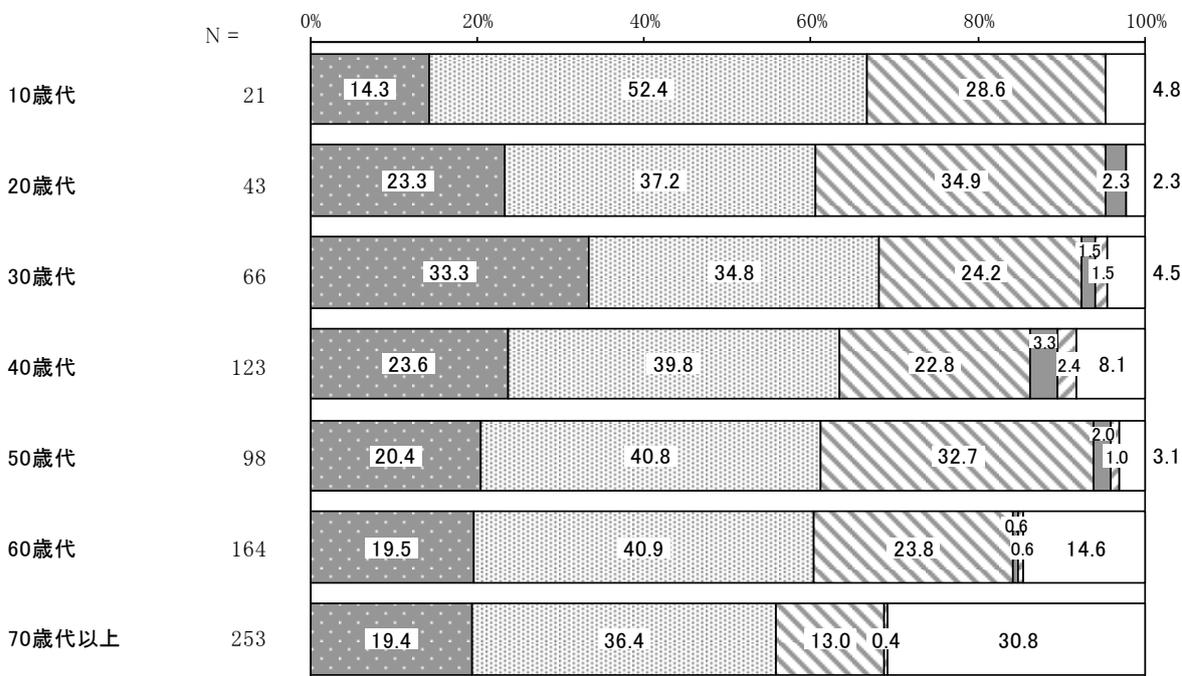
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



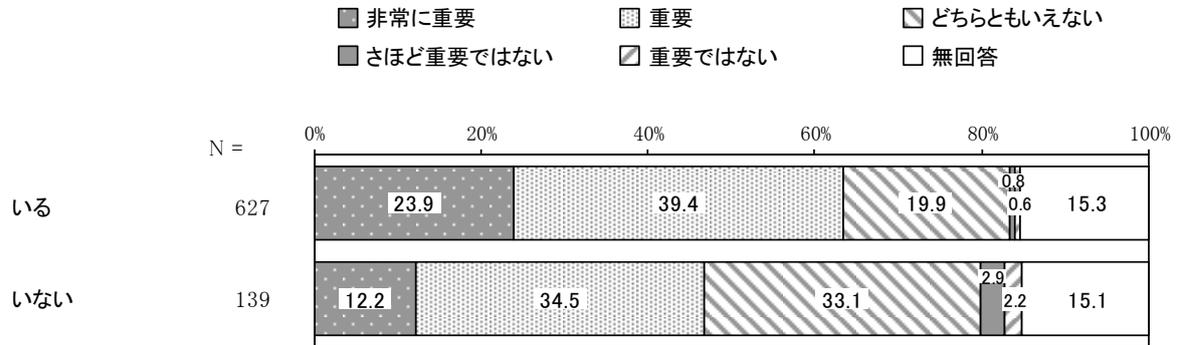
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



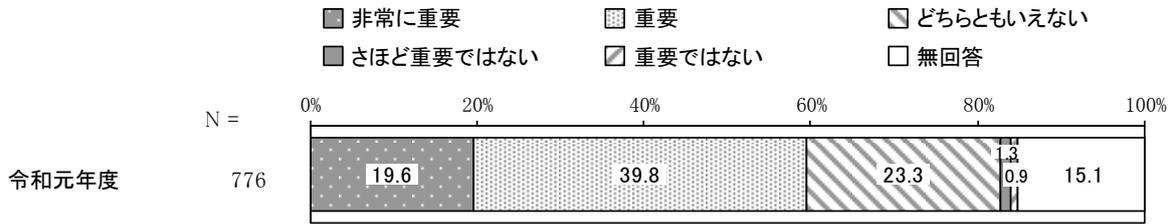
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約6割となっています。



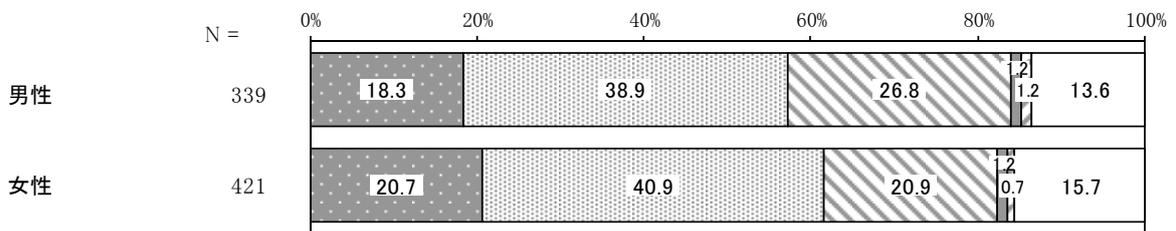
(11) 青少年の健全育成

“重要”の割合が59.4%、“重要ではない”の割合が2.2%となっています。



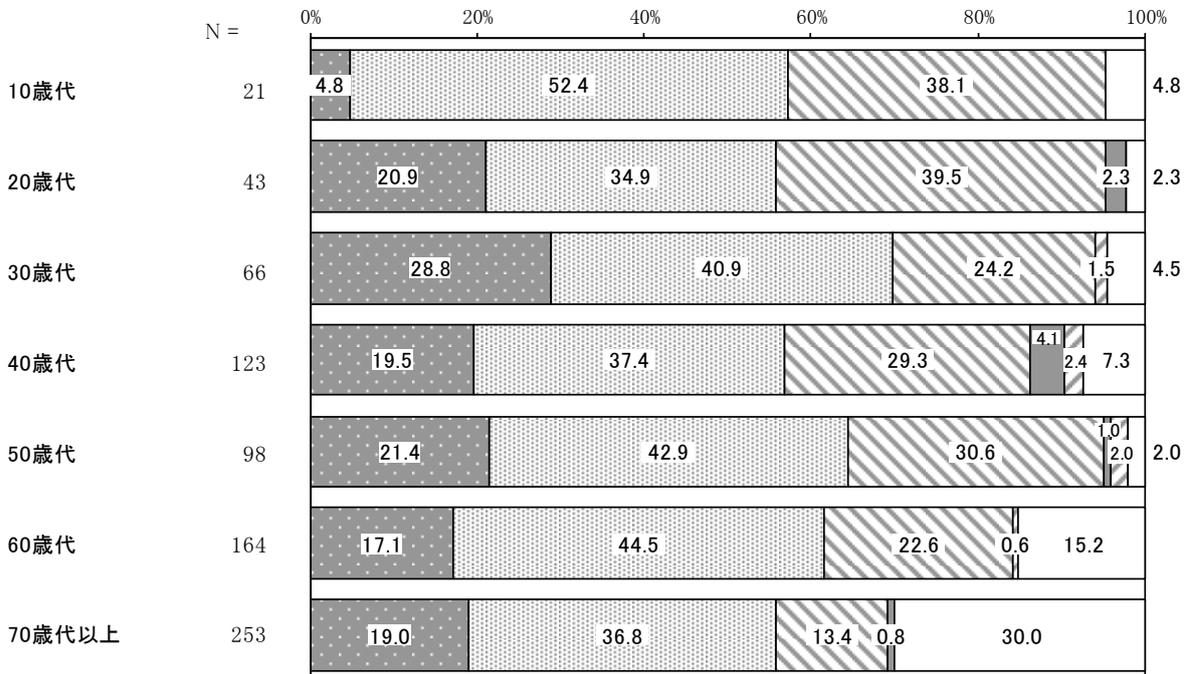
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



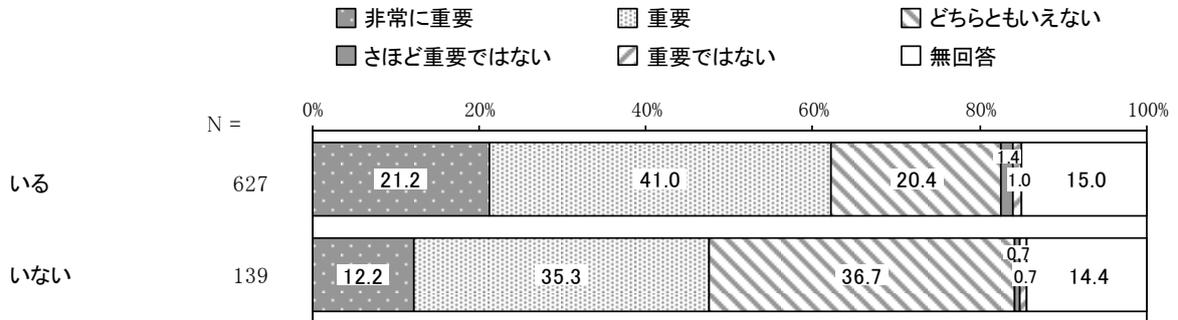
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



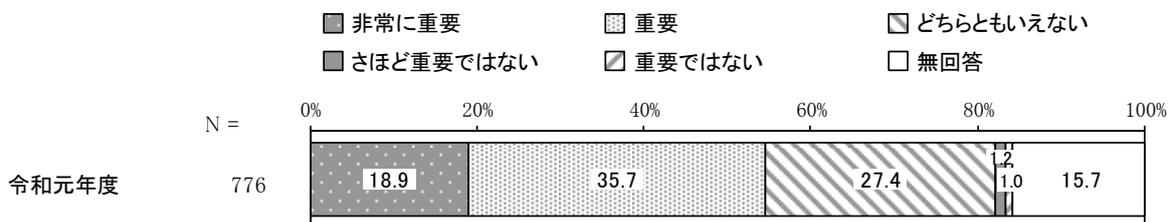
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約6割となっています。



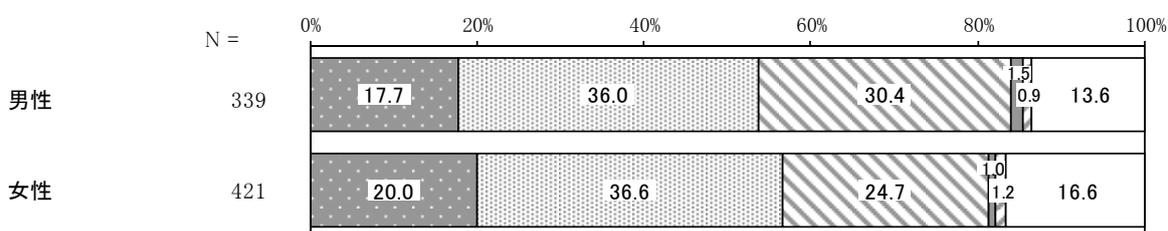
(12) 家庭教育に関する施策の充実

“重要”の割合が54.6%、“重要ではない”の割合が2.2%となっています。



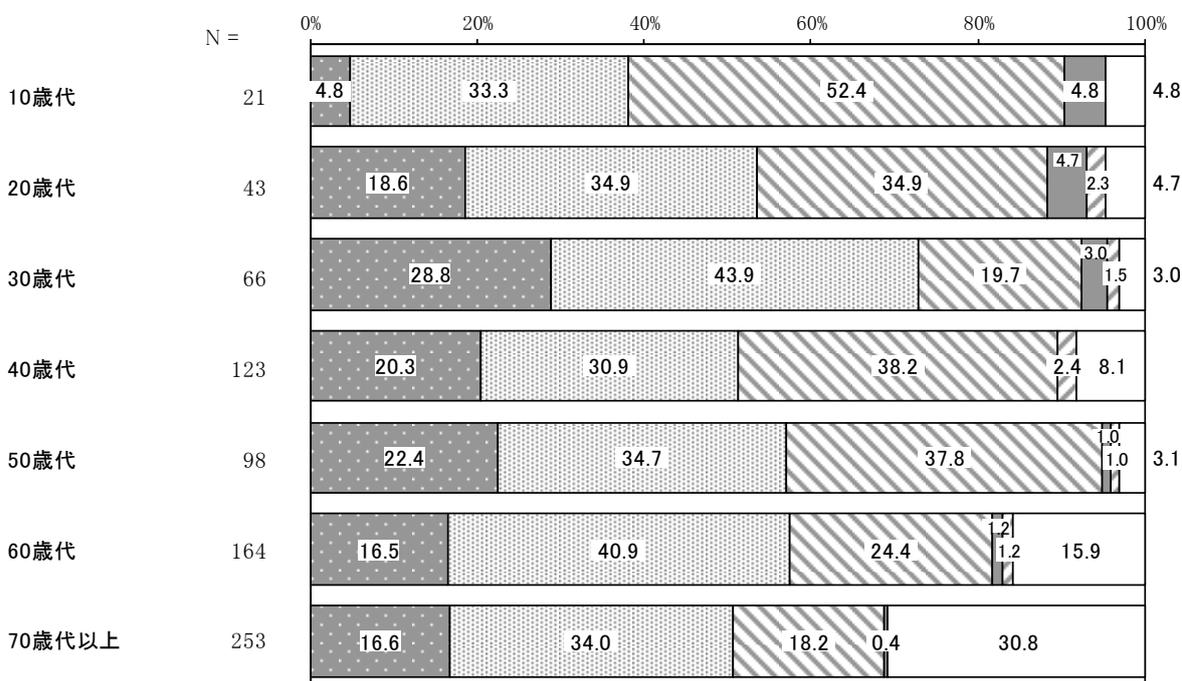
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



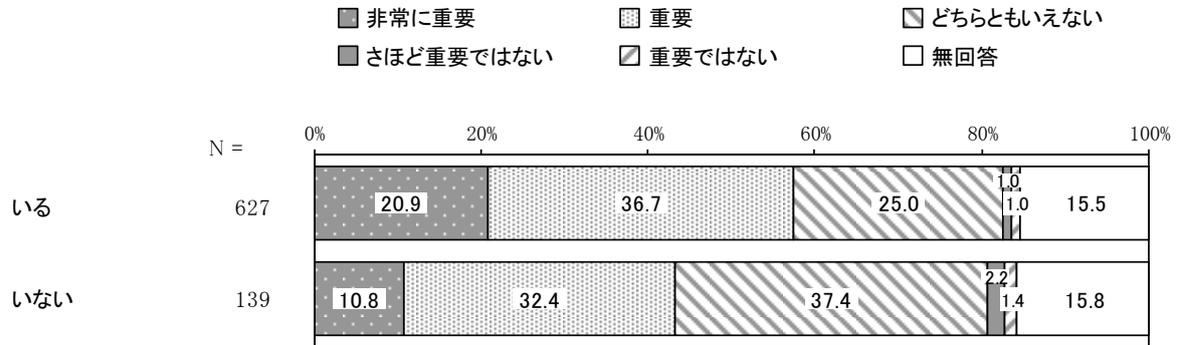
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



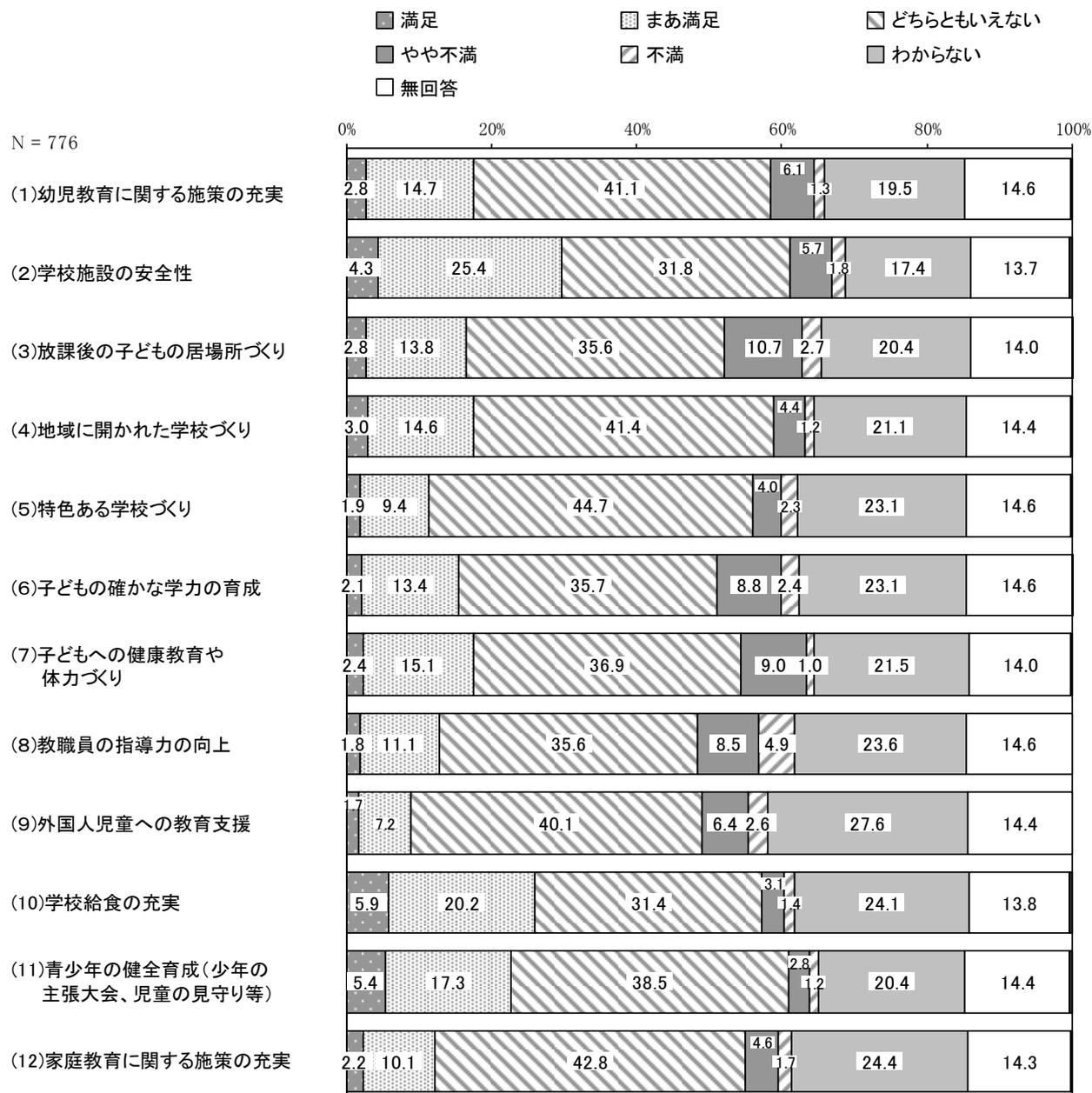
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約6割となっています。



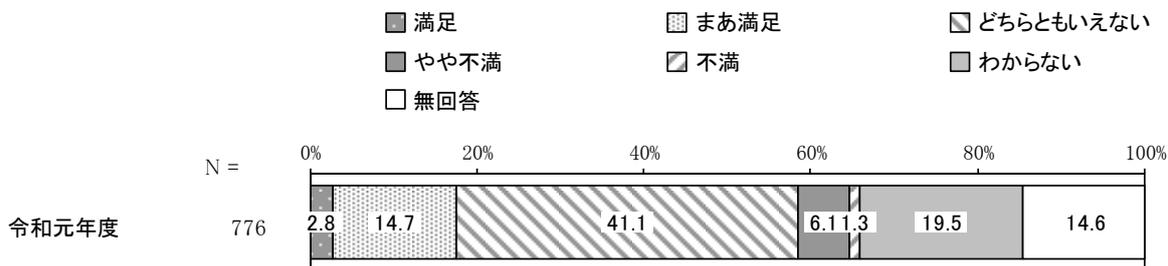
②満足度

『(2)学校施設の安全性』で「満足」と「まあ満足」をあわせた“満足”の割合が高く、約3割となっています。



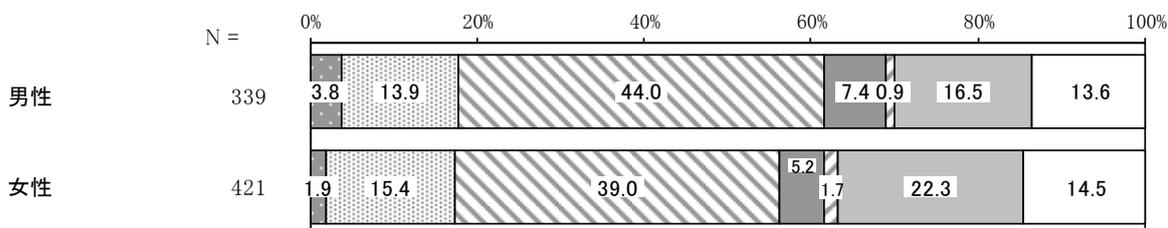
(1) 幼児教育に関する施策の充実

“満足”の割合が17.5%、“不満”の割合が7.4%となっています。



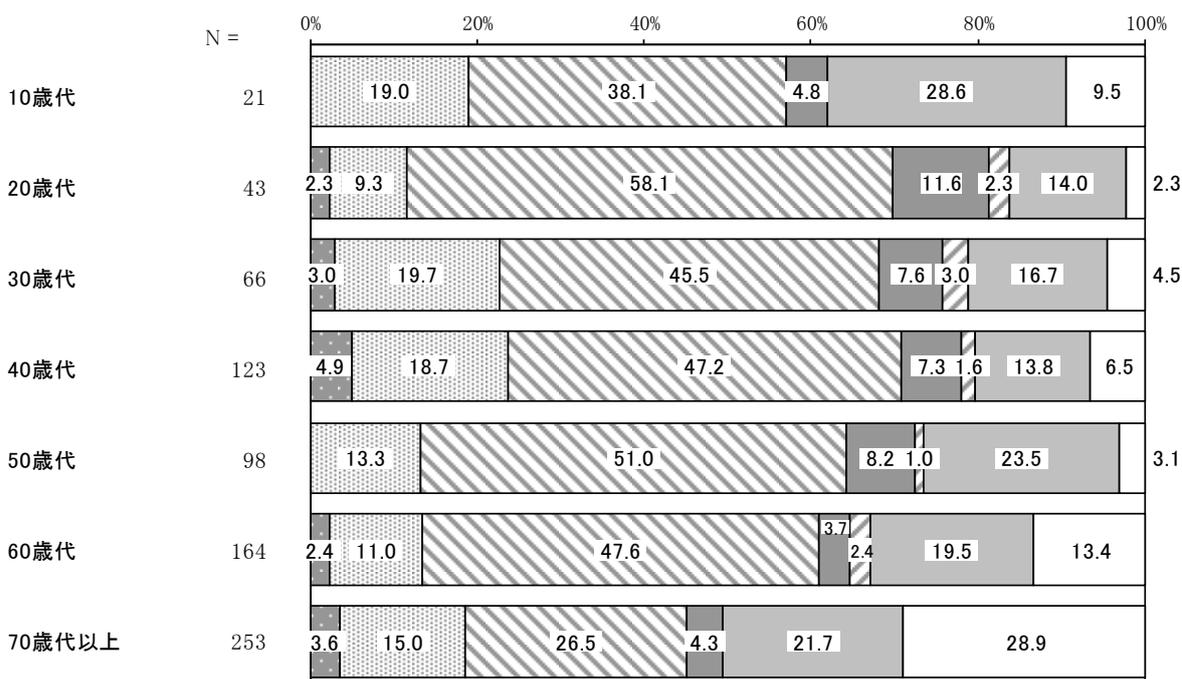
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



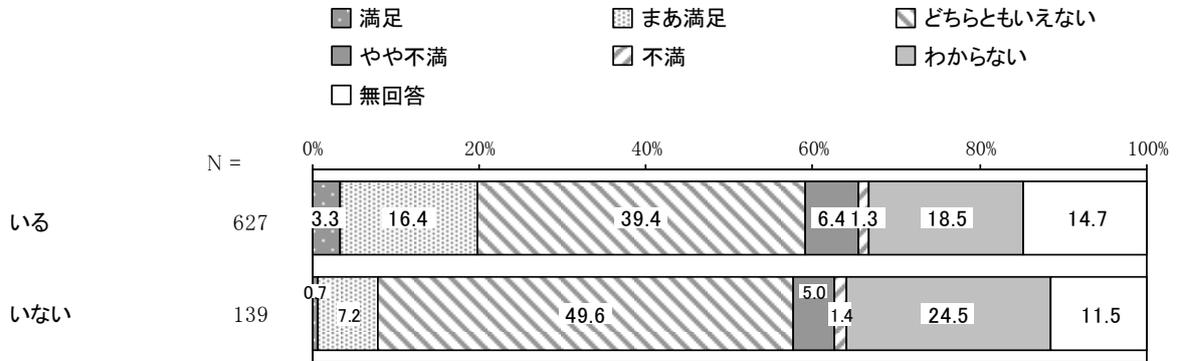
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代、40歳代で“満足”の割合が高く、2割を超えています。



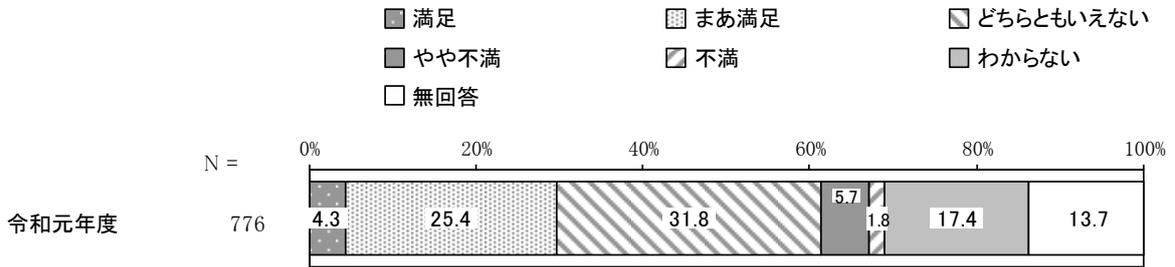
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



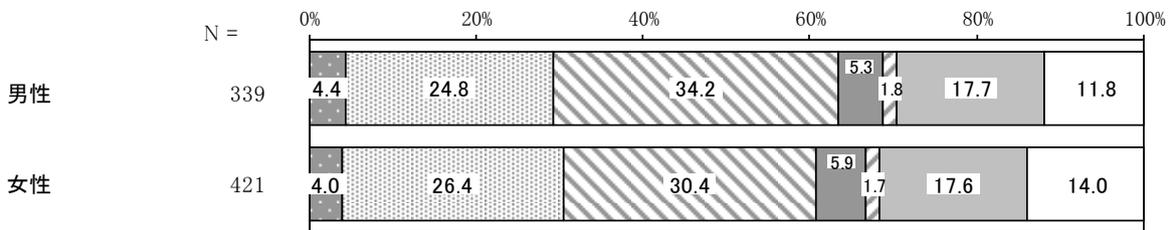
(2) 学校施設の安全性

“満足”の割合が29.7%、“不満”の割合が7.5%となっています。



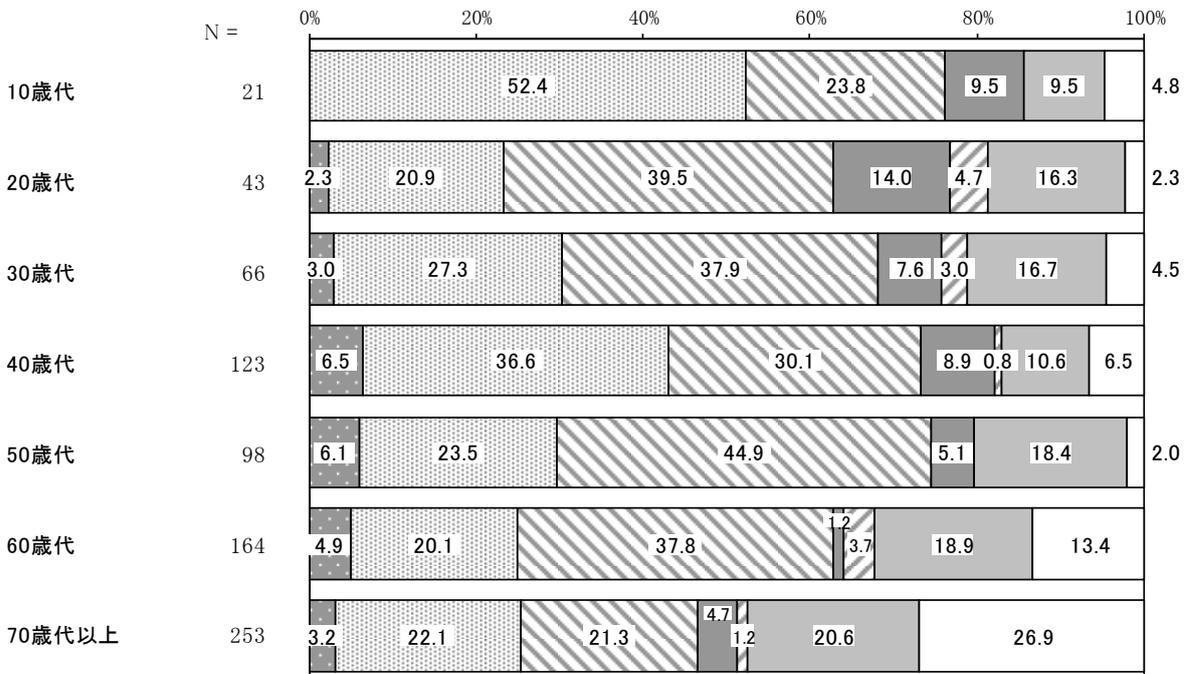
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



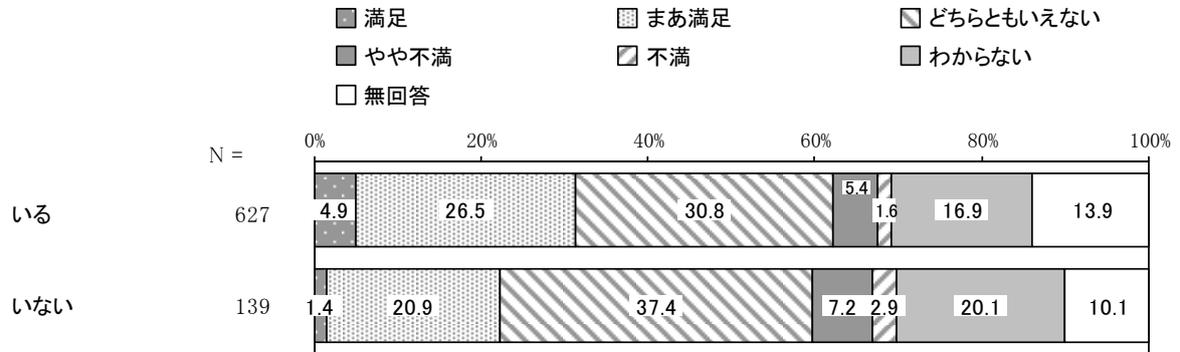
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約5割となっています。一方、20歳代で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



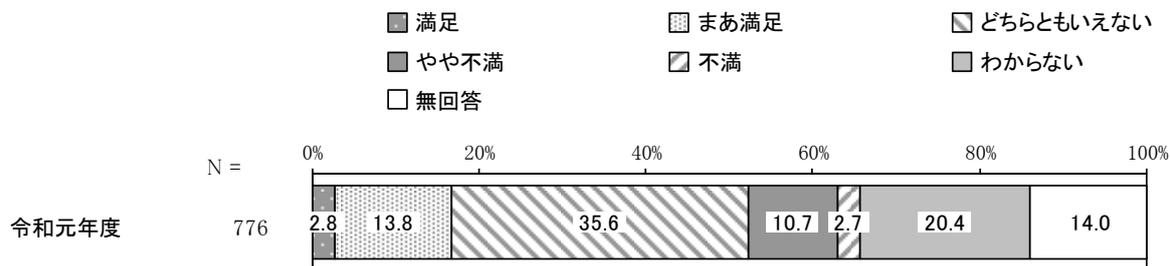
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



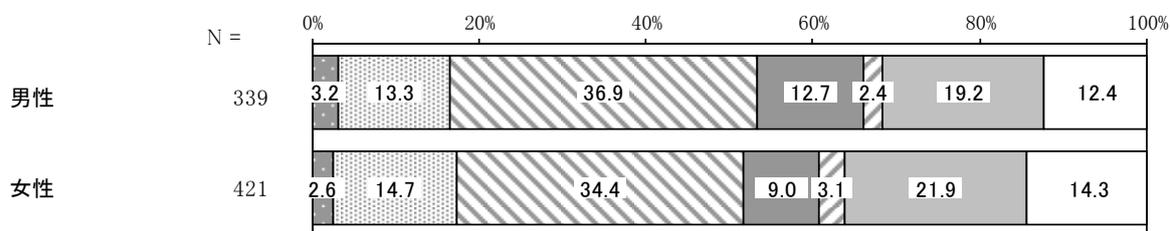
(3) 放課後の子どもの居場所づくり

“満足”の割合が16.6%、“不満”の割合が13.4%となっています。



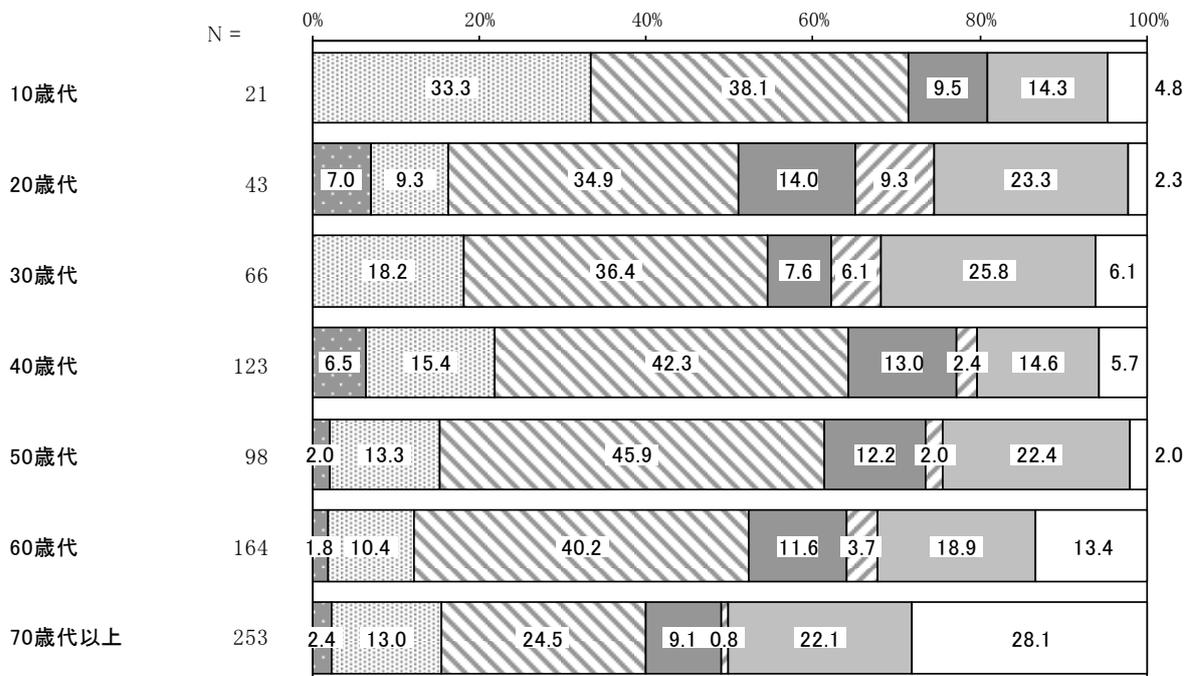
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



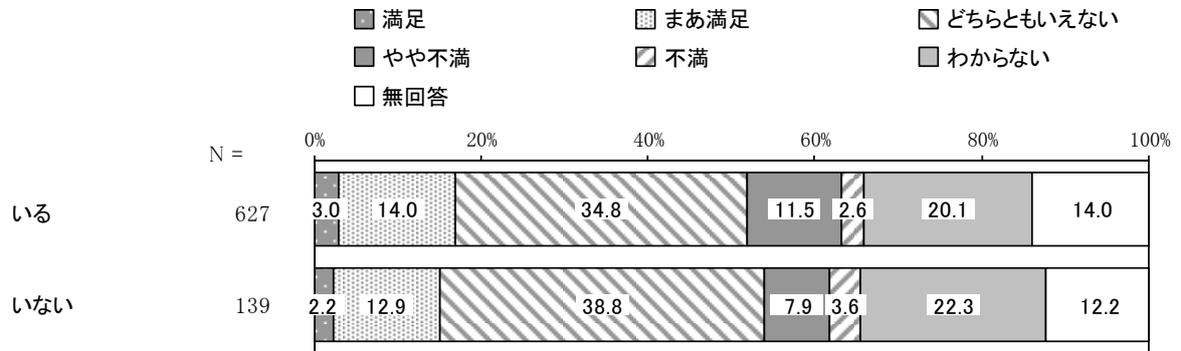
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、20歳代で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



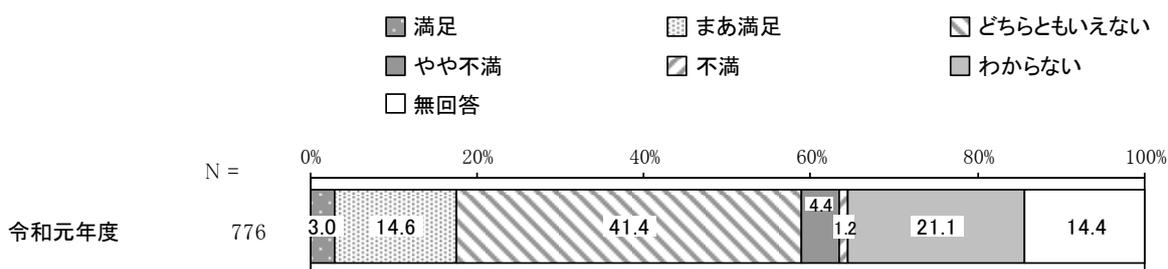
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、大きな差異はみられません。



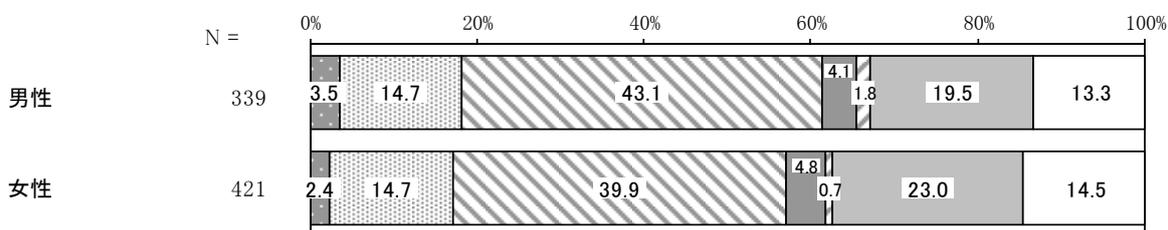
(4) 地域に開かれた学校づくり

“満足”の割合が17.6%、“不満”の割合が5.6%となっています。



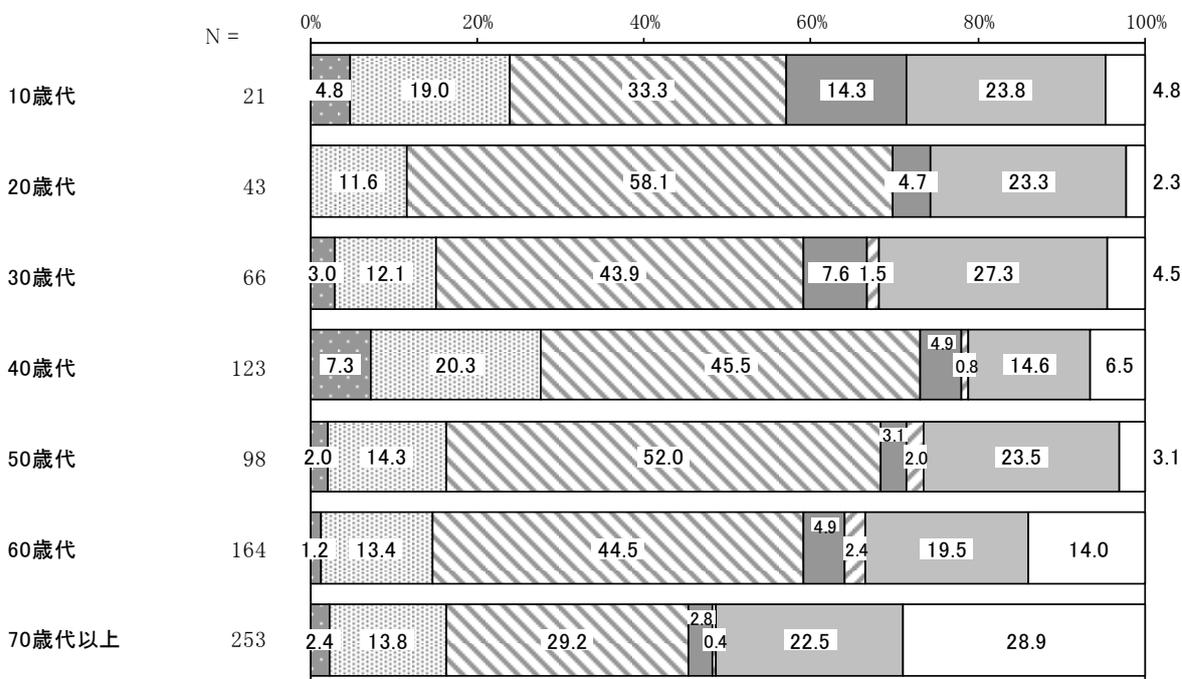
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



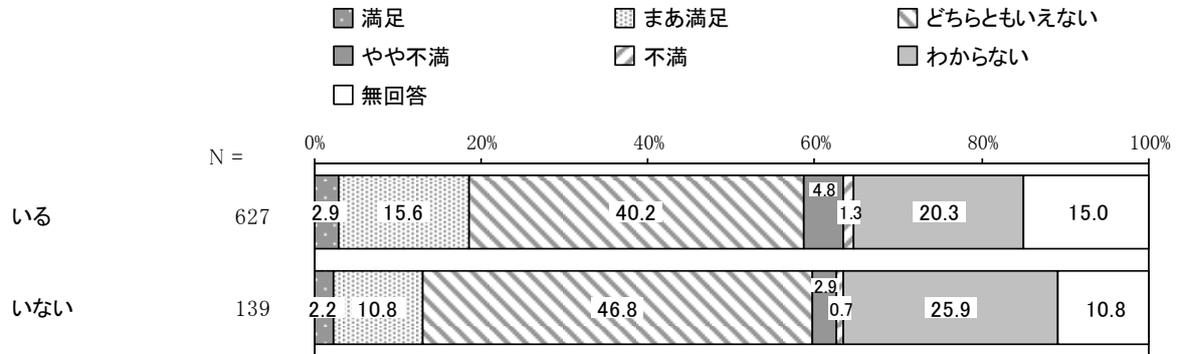
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、10歳代で“不満”の割合が高くなっています。



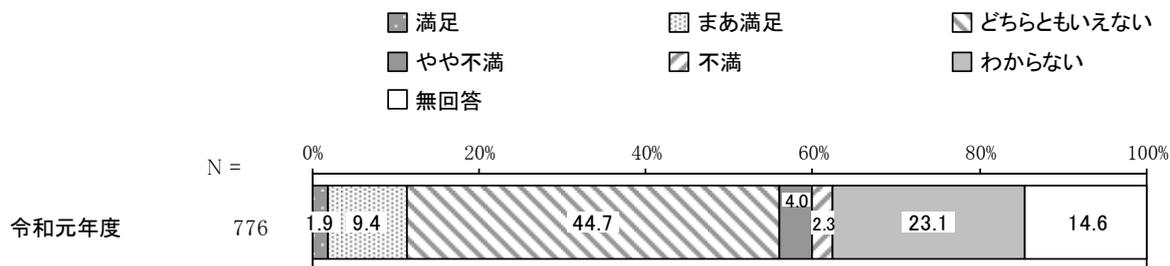
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



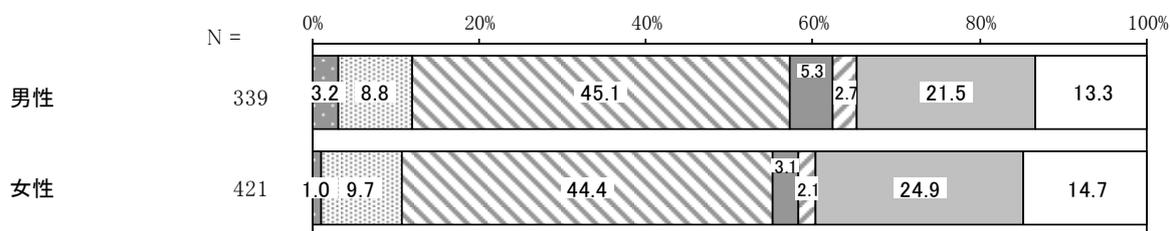
(5) 特色ある学校づくり

“満足”の割合が11.3%、“不満”の割合が6.3%となっています。



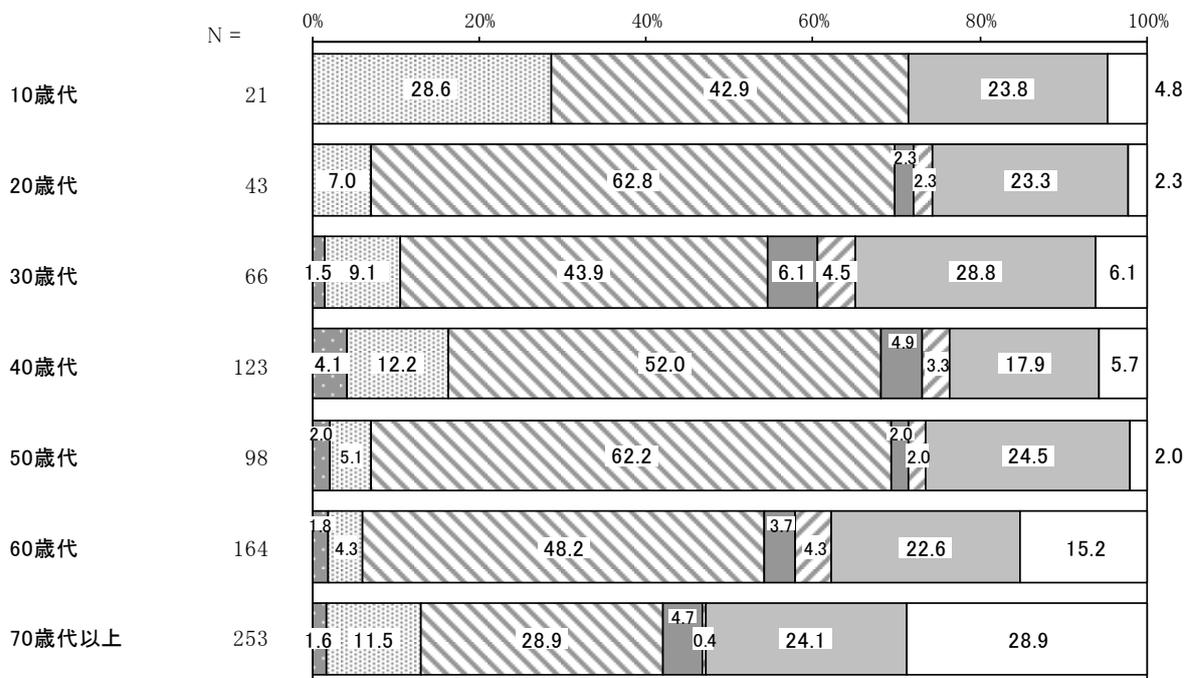
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



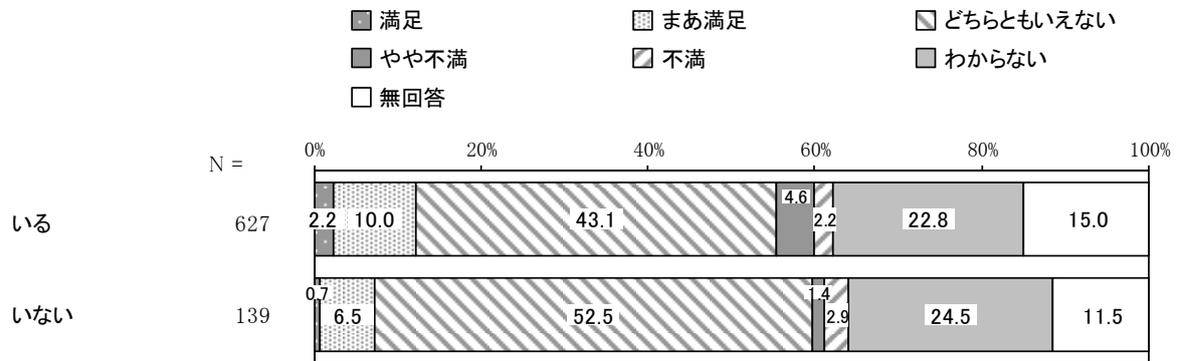
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



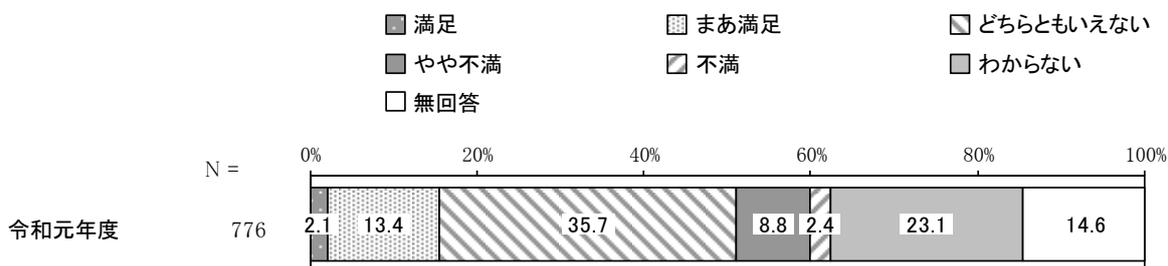
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高くなっています。



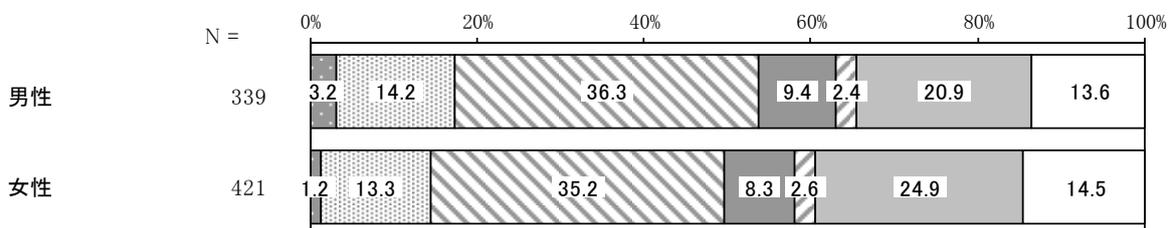
(6) 子どもの確かな学力の育成

“満足”の割合が15.5%、“不満”の割合が11.2%となっています。



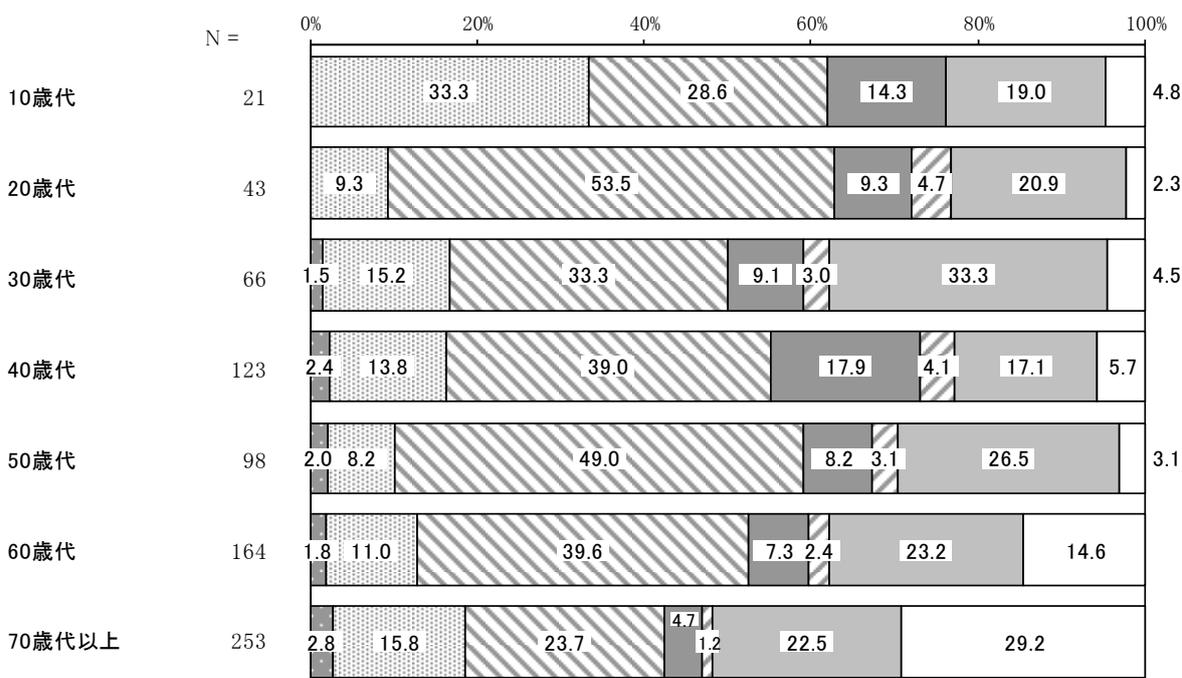
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



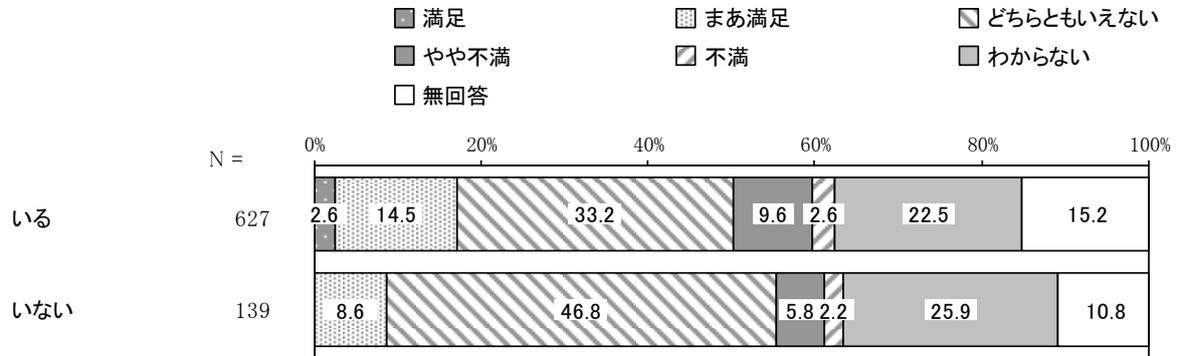
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、40歳代で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



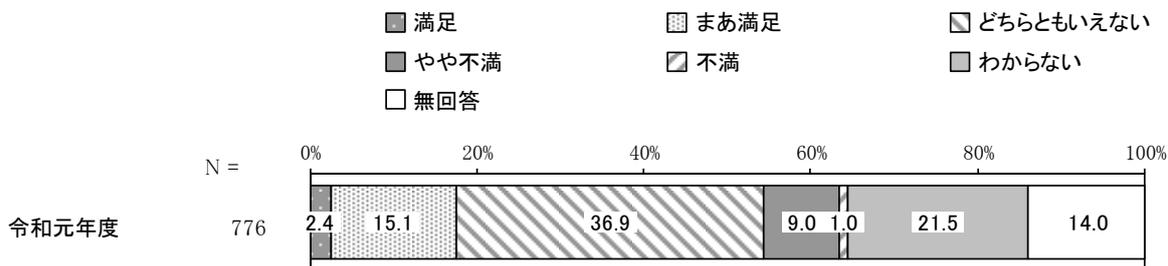
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



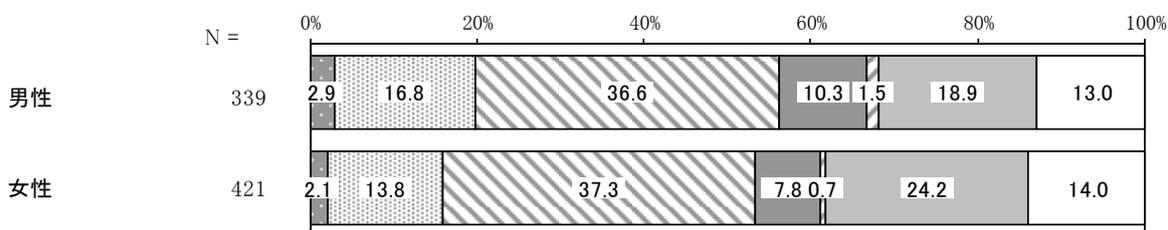
(7) 子どもへの健康教育や体づくり

“満足”の割合が17.5%、“不満”の割合が10.0%となっています。



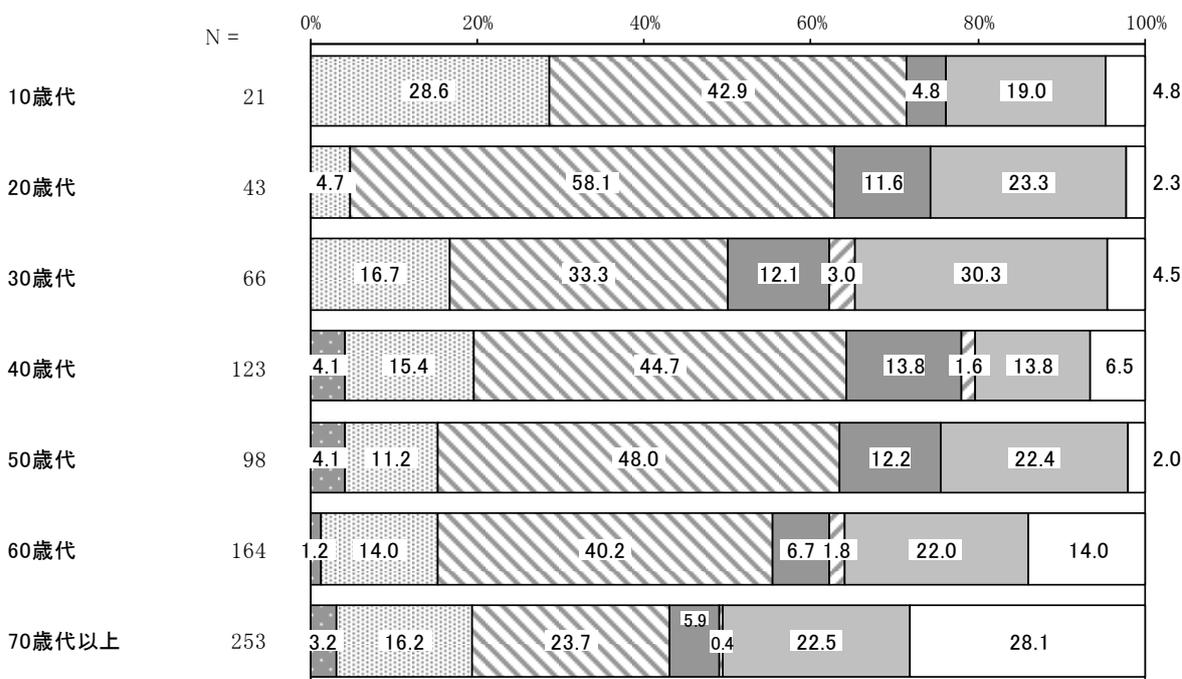
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



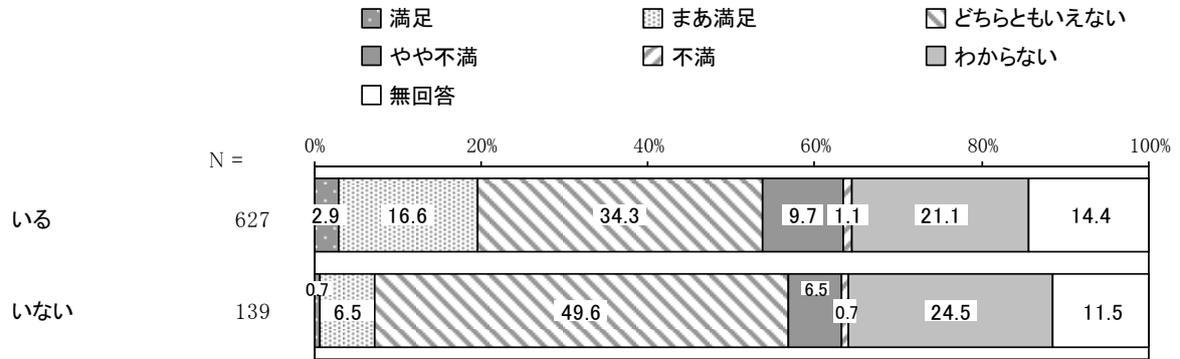
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、30歳代、40歳代で“不満”の割合が高く、1割台半ばとなっています。



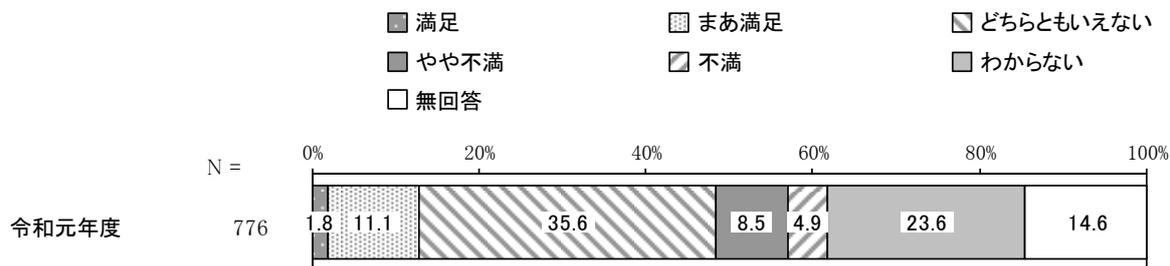
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



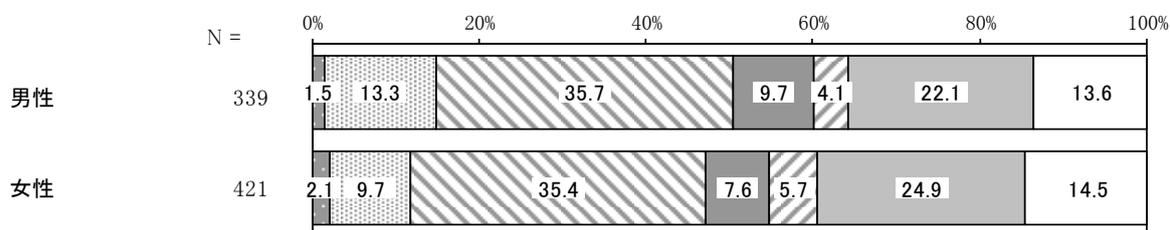
(8) 教職員の指導力の向上

“満足”の割合が12.9%、“不満”の割合が13.4%となっています。



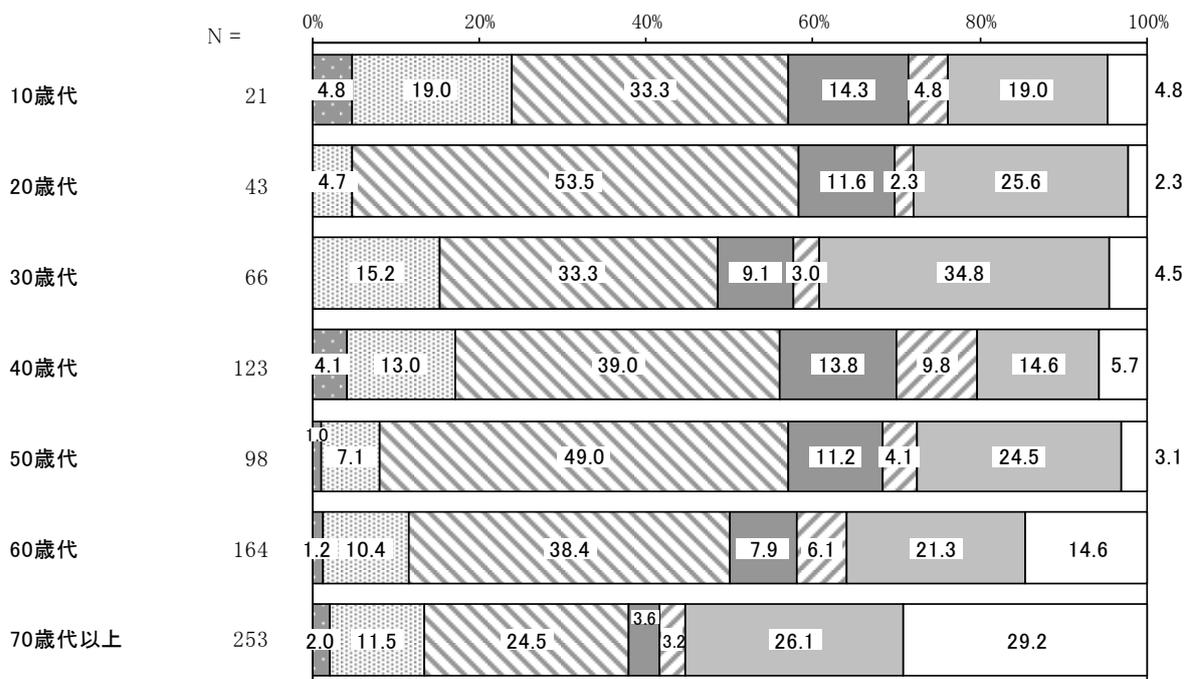
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



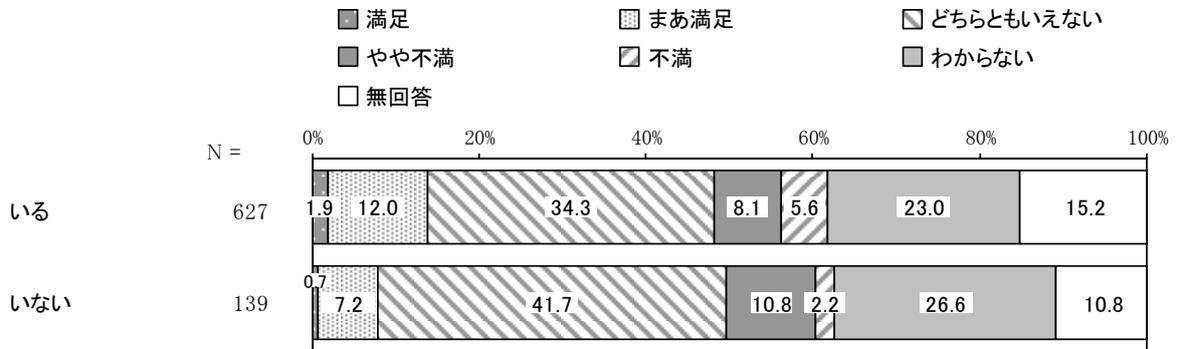
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約2割となっています。一方、10歳代、40歳代で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



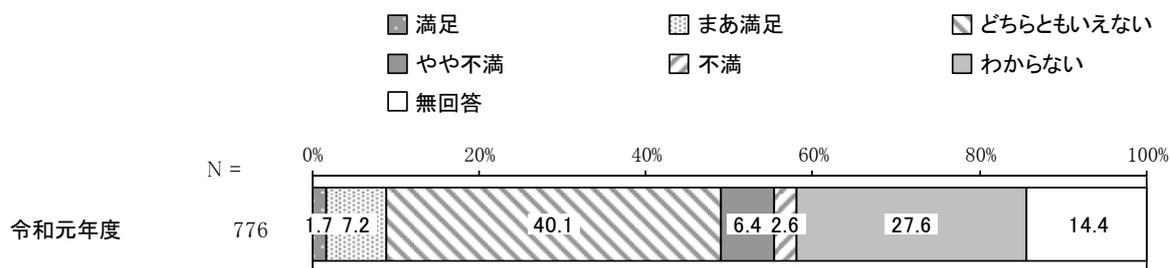
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高くなっています。



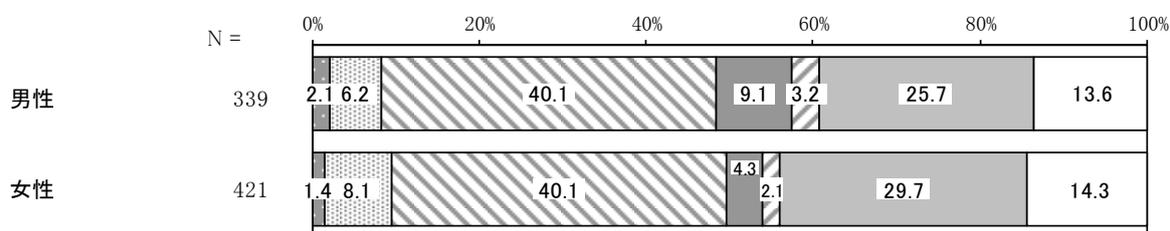
(9) 外国人児童への教育支援

“満足”の割合が8.9%、“不満”の割合が9.0%となっています。



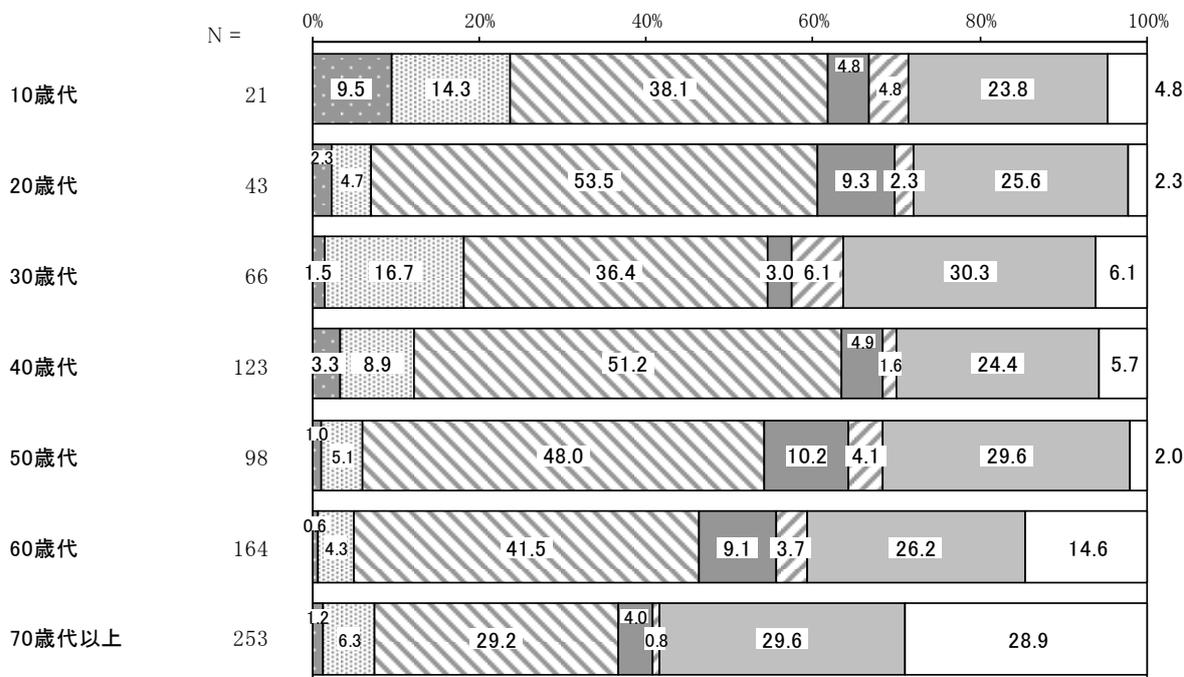
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約1割となっています。



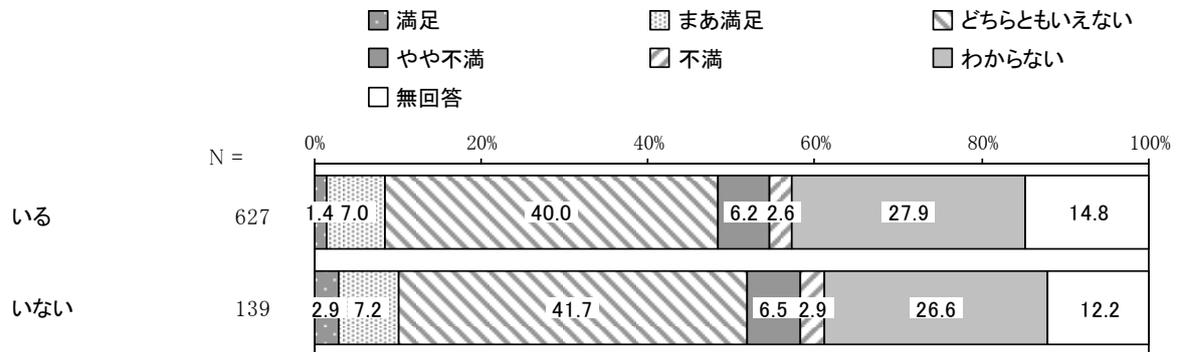
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、30歳代で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



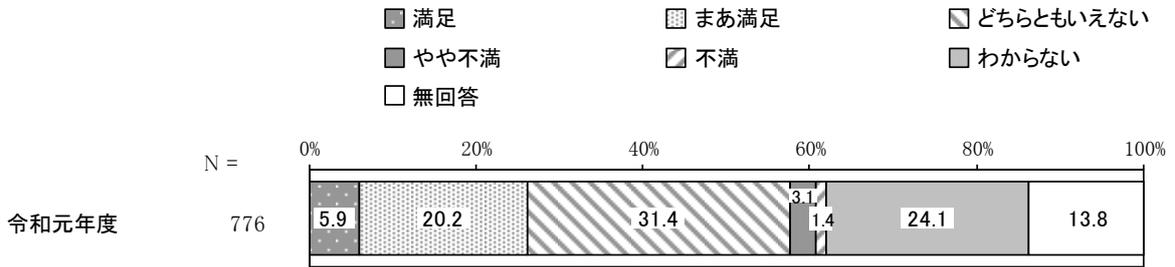
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、大きな差異はみられません。



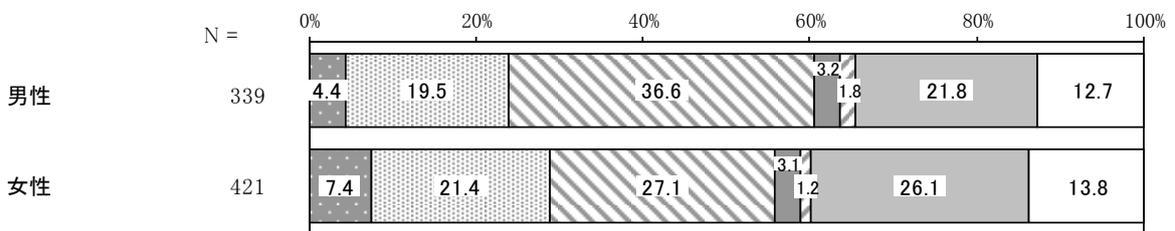
(10) 学校給食の充実

“満足”の割合が26.1%、“不満”の割合が4.5%となっています。



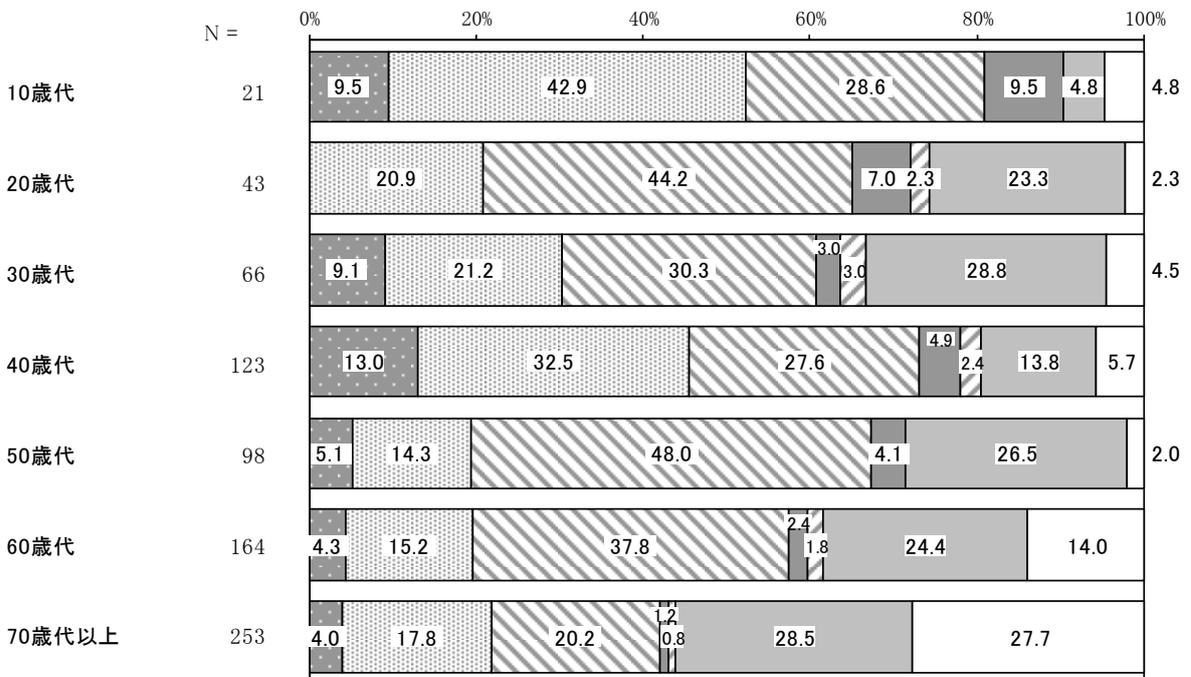
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



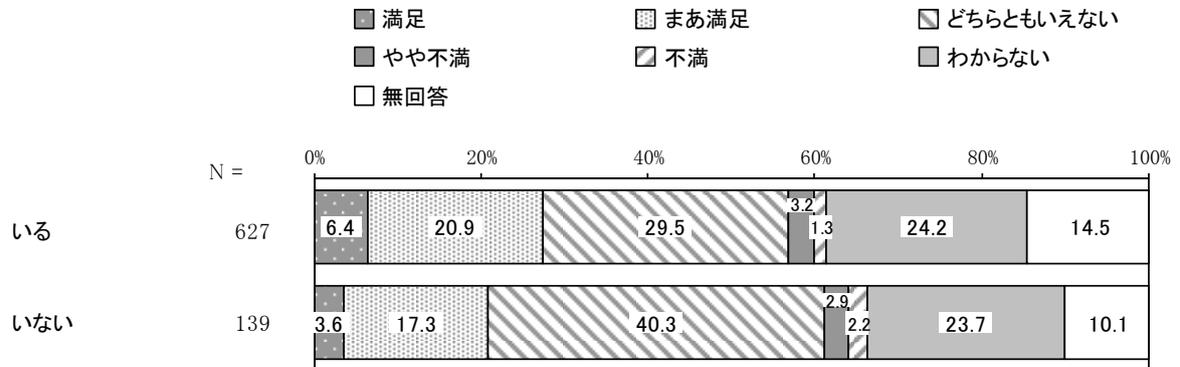
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、40歳代で“満足”の割合が高く、4割半ばとなっています。



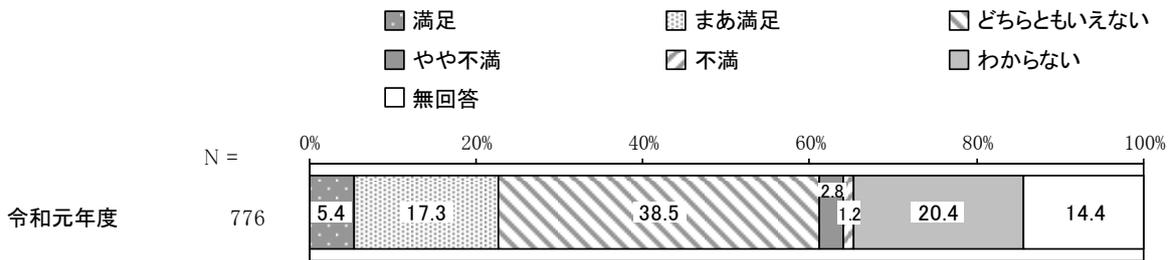
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



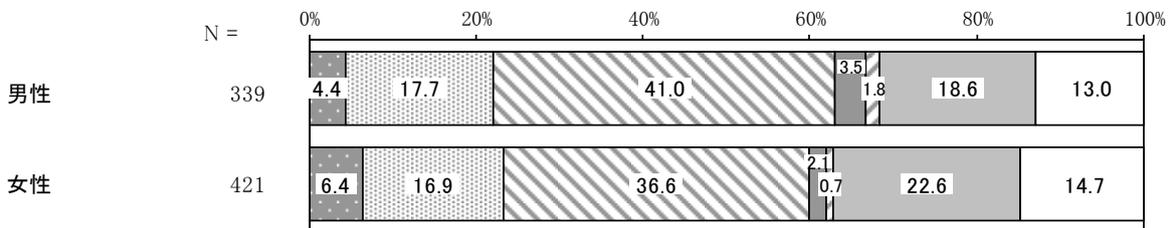
(11) 青少年の健全育成

“満足”の割合が22.7%、“不満”の割合が4.0%となっています。



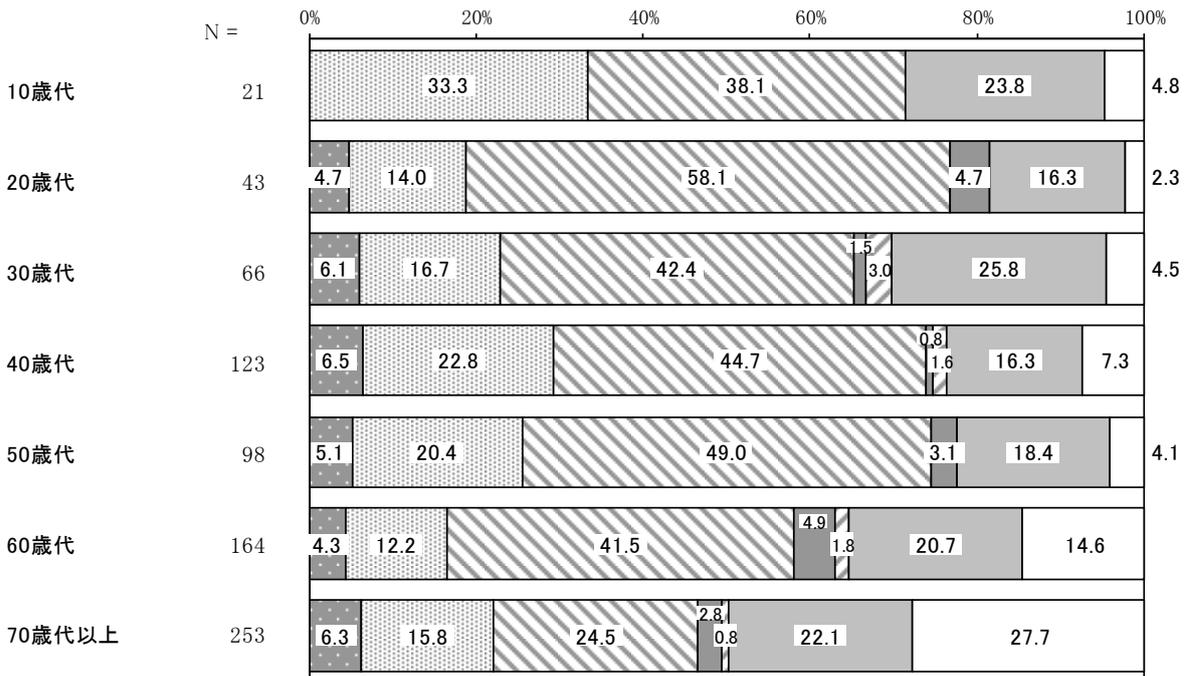
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



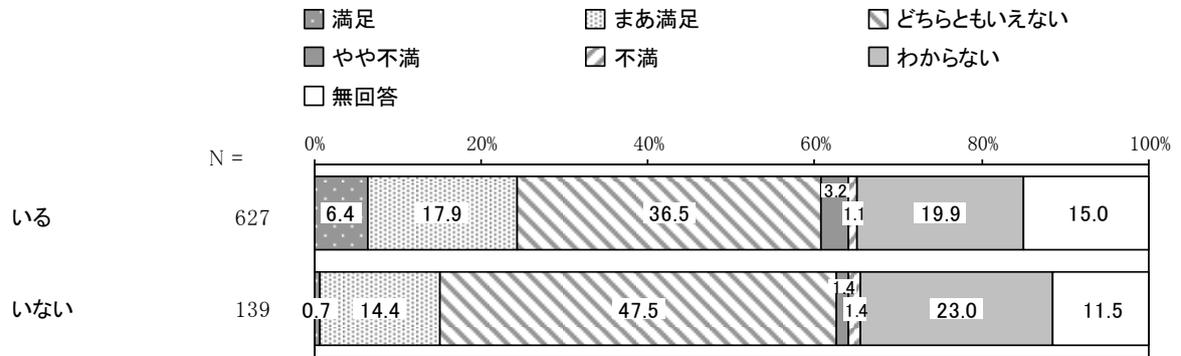
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、40歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



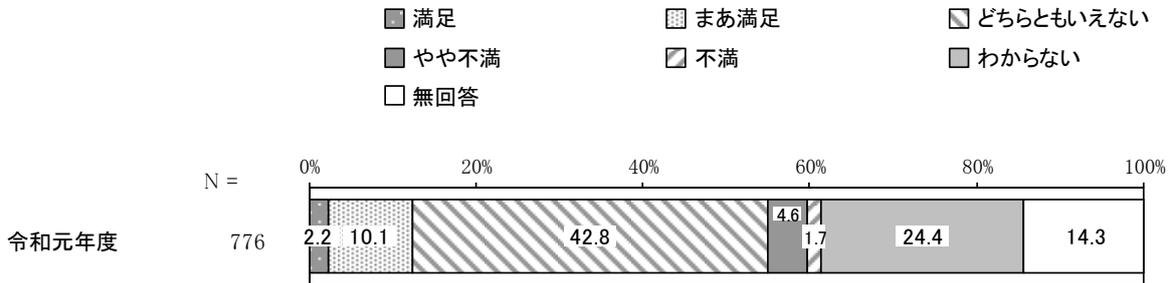
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



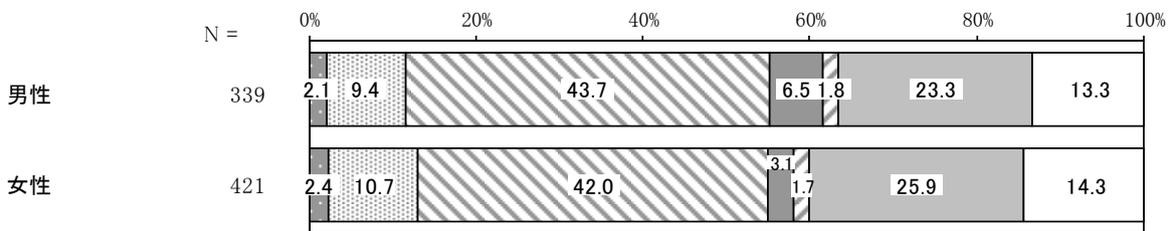
(12) 家庭教育に関する施策の充実

“満足”の割合が12.3%、“不満”の割合が6.3%となっています。



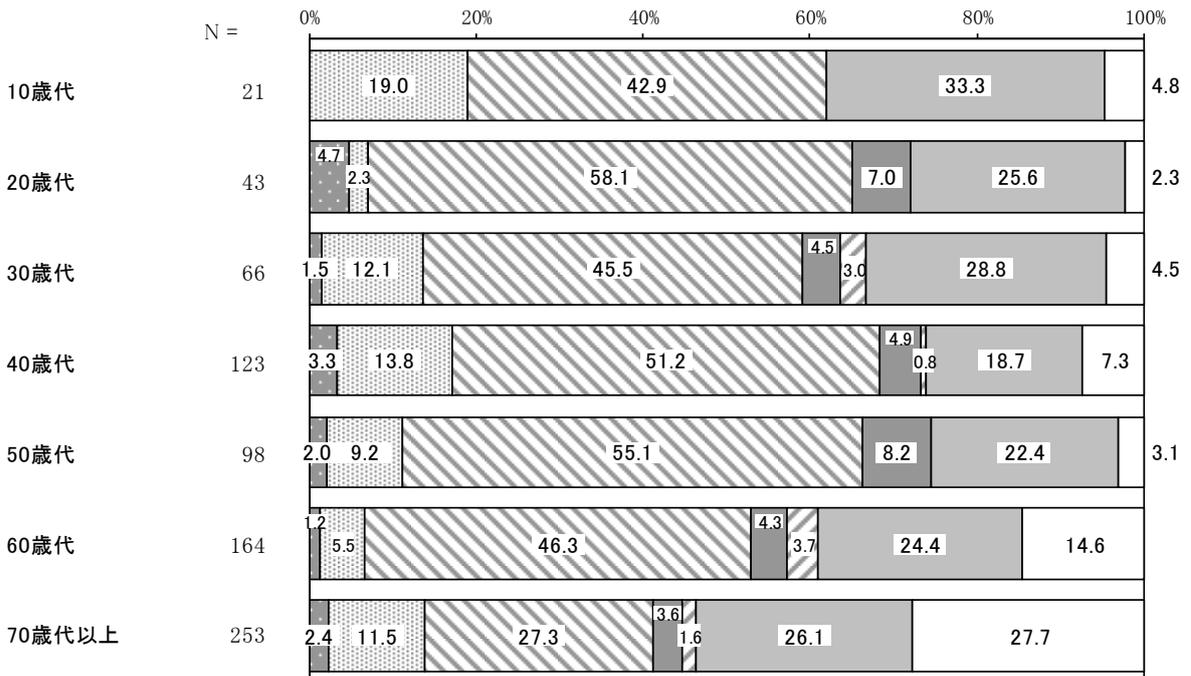
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



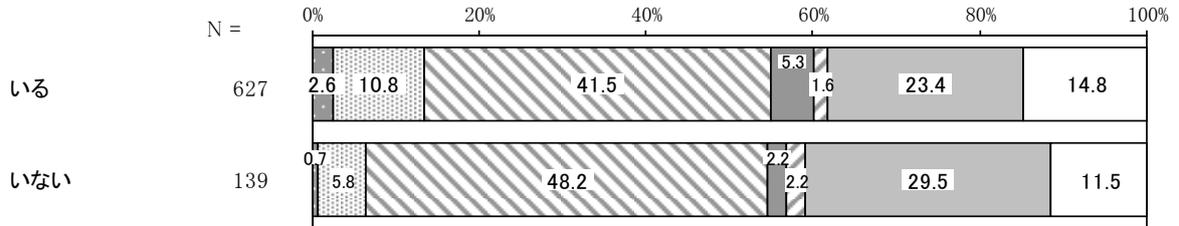
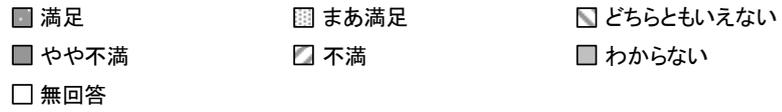
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、40歳代で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高くなっています。



【ポートフォリオによる分析】

(1) 満足度・今後の重要性の得点化

12項目の質問項目について、「満足度」と「重要度」を5つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■満足度・今後の重要性の得点化の手順■

満足度	→	得点	重要度	→	得点
不満	→	-2点	重要ではない	→	-2点
やや不満	→	-1点	さほど重要ではない	→	-1点
どちらともいえない	→	0点	どちらともいえない	→	0点
まあ満足	→	1点	重要	→	1点
満足	→	2点	非常に重要	→	2点
わからない	→	計算対象外	無回答	→	計算対象外
無回答	→	計算対象外			

■得点の算出式■

$2 \text{点} \times \text{「満足(非常に重要)」の回答数}$
 $+ 1 \text{点} \times \text{「まあ満足(重要)」の回答数}$
 $+ 0 \text{点} \times \text{「どちらともいえない」の回答数}$
 $- 1 \text{点} \times \text{「やや不満(さほど重要ではない)」の回答数}$
 $- 2 \text{点} \times \text{「不満(重要ではない)」の回答数} / \text{無回答を除く回答数}$

算出された満足度・重要度の得点をもとに、各施策の満足度・重要度別に順位付けを行いました。

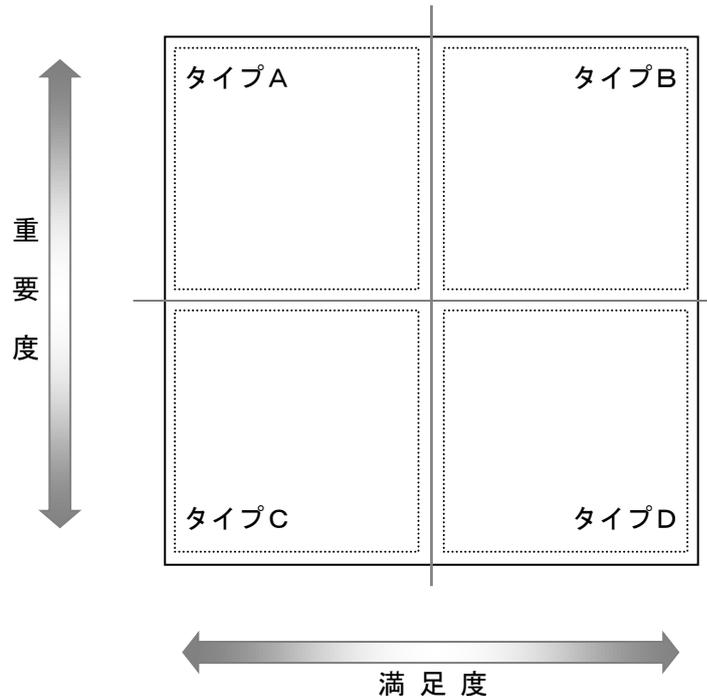
■満足度・重要度のベスト3とワースト3■

満足度	得点	順位	得点	重要度
施策名				施策名
(10) 学校給食の充実	0.42	第1位	1.27	(8) 教職員の指導力の向上
(2) 学校施設の安全性	0.36	第2位	1.22	(2) 学校施設の安全性
(11) 青少年の健全育成 (少年の主張大会、 児童の見守り等)	0.35	第3位	1.15	(7) 子どもへの健康教育 や体力づくり
(3) 放課後の子どもの 居場所づくり	0.05	第10位	0.83	(12) 家庭教育に関する 施策の充実
(9) 外国人児童への教育 支援	-0.02	第11位	0.74	(4) 地域に開かれた 学校づくり
(8) 教職員の指導力の 向上	-0.06	第12位	0.52	(5) 特色ある学校づくり

(2) ポートフォリオ分析による満足度・重要度の評価

各項目の満足度・重要度の得点の関係について、満足度・重要度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。

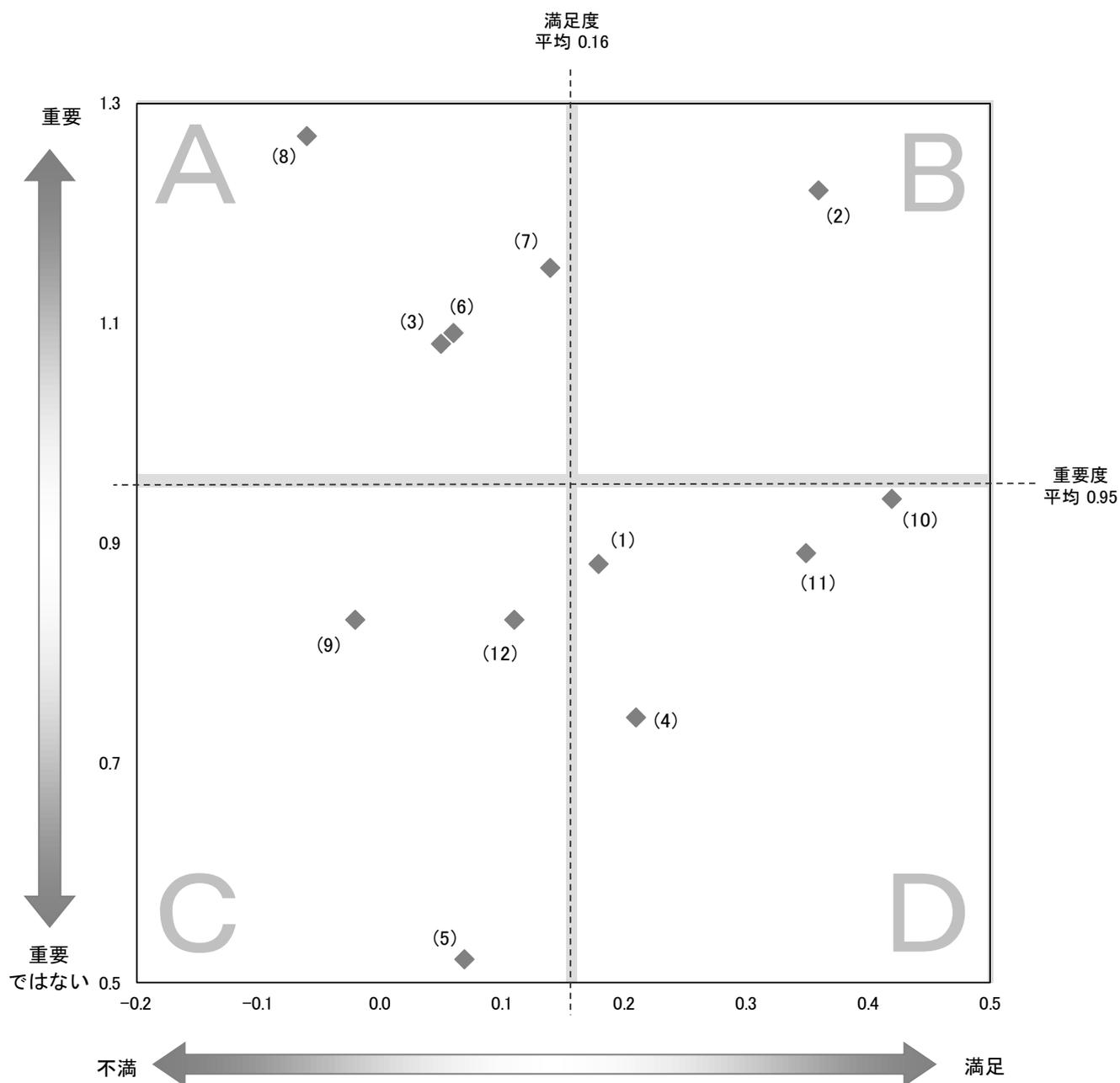
施策は、全体的に満足度が低く、重要度が高い傾向があり、その中でも重要度および満足度が高い理由についての検証が必要なタイプBに特に分布しています。



- ◆タイプA **満足度は低いが、重要度は高い**
→ 今後の重点課題として検討が必要なタイプ。
- ◆タイプB **満足度は高く、重要度も高い**
→ 事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプ。
- ◆タイプC **満足度は低く、重要度も低い**
→ 全体に比べ、重要度および満足度が低い理由についての検証が必要なタイプ。施策の縮小や廃止などを含めた検討が必要。
- ◆タイプD **満足度は高いが、重要度は低い**
→ これまでの施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられるタイプ。ただし、施策が過剰になっていないか検討が必要。

●施策のポートフォリオ分析 (N = 776)

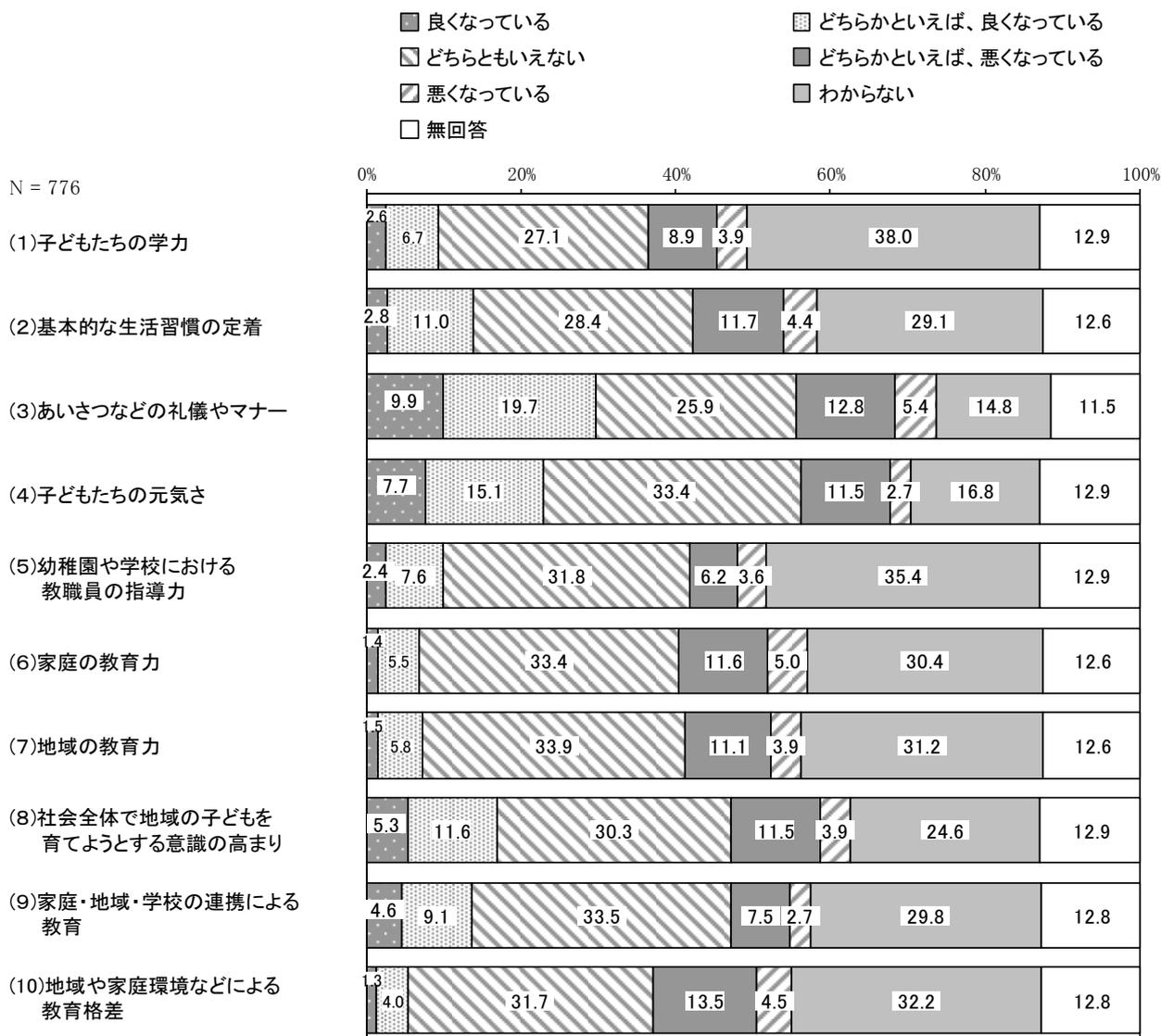
満足度が高く、重要度も高い施策(タイプB)は、『(2)学校施設の安全性』となっています。



項目	
(1) 幼児教育に関する施策の充実	(7) 子どもへの健康教育や体力づくり
(2) 学校施設の安全性	(8) 教職員の指導力の向上
(3) 放課後の子どもの居場所づくり	(9) 外国人児童への教育支援
(4) 地域に開かれた学校づくり	(10) 学校給食の充実
(5) 特色ある学校づくり	(11) 青少年の健全育成(少年の主張大会、児童の見守り等)
(6) 子どもの確かな学力の育成	(12) 家庭教育に関する施策の充実

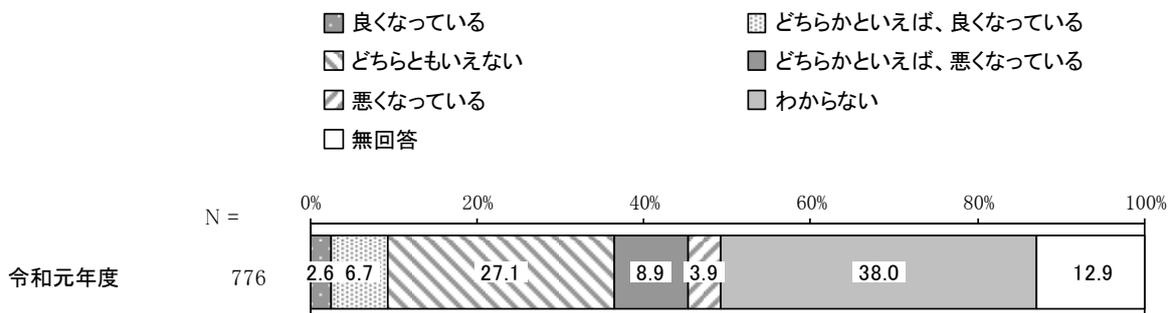
問25 子どもたちを見て、ここ10年くらいの間に可児市の教育はどのようになったと感じますか。5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

『(3)あいさつなどの礼儀やマナー』で「良くなっている」と「どちらかといえば、良くなっている」をあわせた“良くなっている”の割合が高く、約3割となっています。一方、『(3)あいさつなどの礼儀やマナー』『(10)地域や家庭環境などによる教育格差』で「どちらかといえば、悪くなっている」と「悪くなっている」をあわせた“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



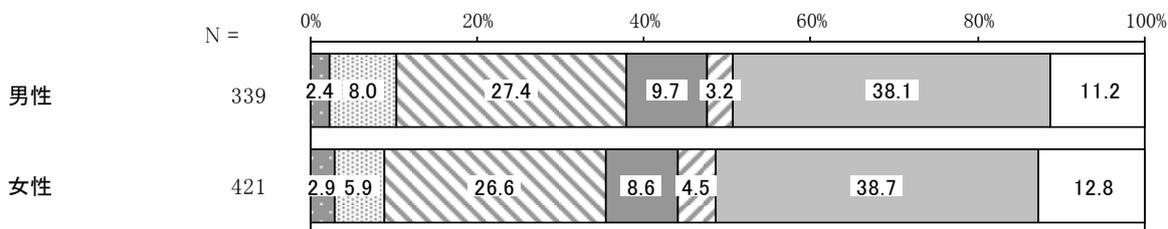
(1)子どもたちの学力

“良くなっている”の割合が9.3%、“悪くなっている”の割合が12.8%となっています。



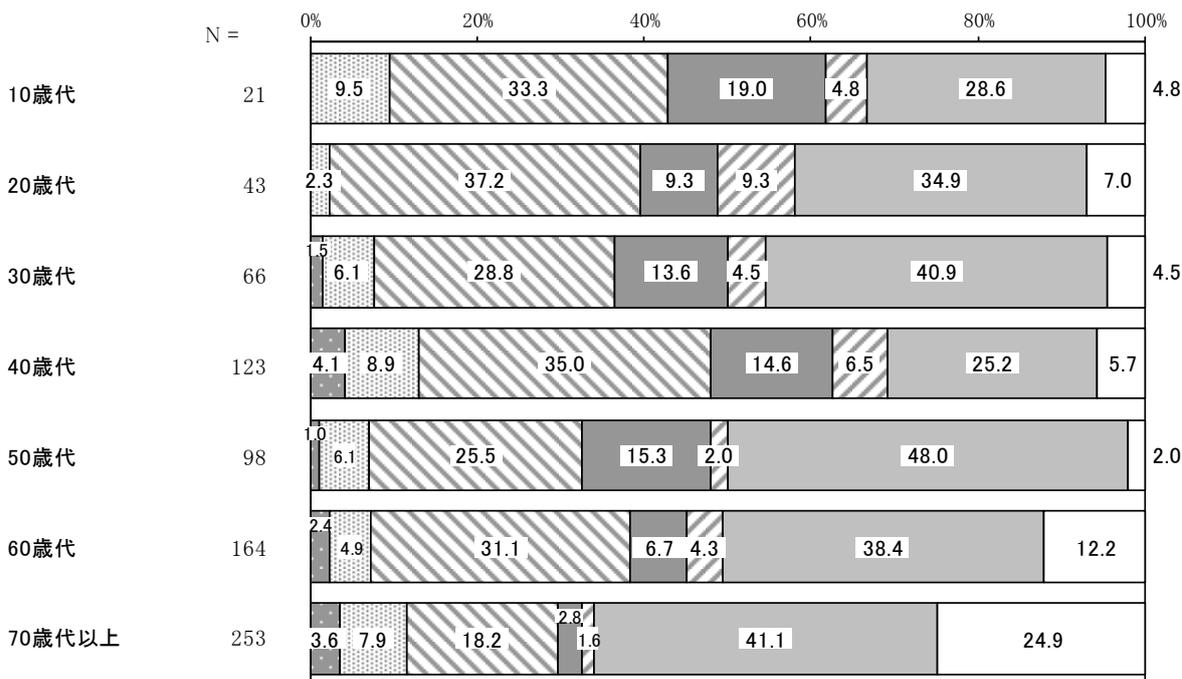
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



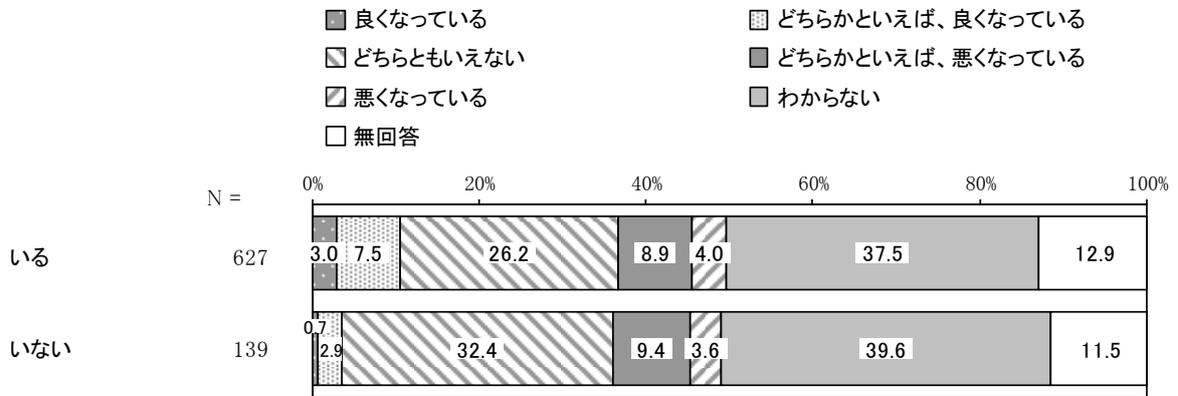
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、40歳代で“悪くなっている”の割合が高く、2割を超えています。



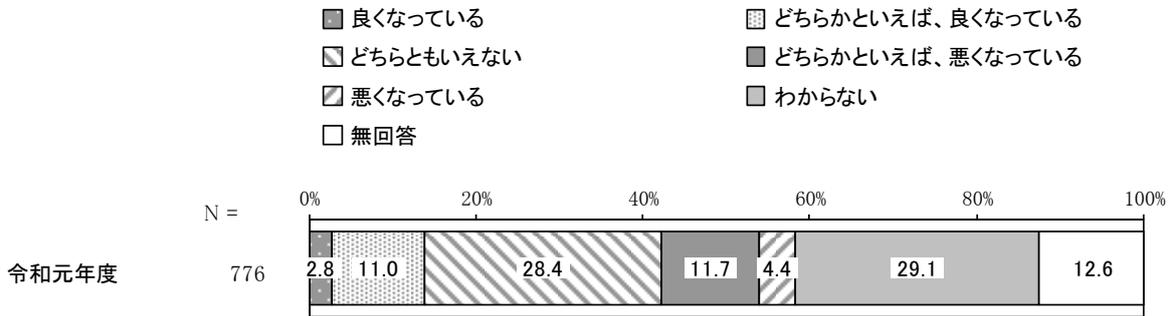
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、約1割となっています。



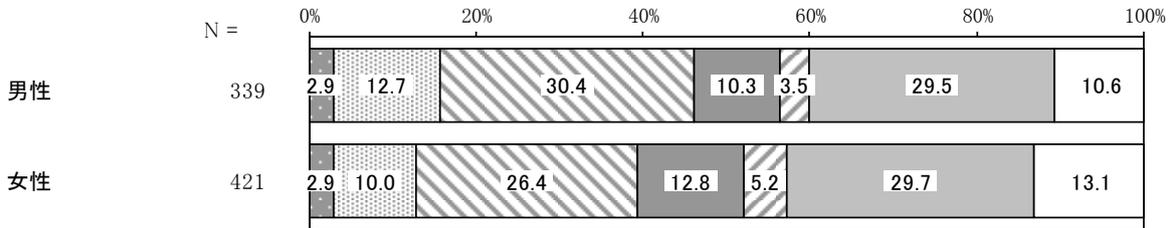
(2) 基本的な生活習慣の定着

“良くなっている”の割合が13.8%、“悪くなっている”の割合が16.1%となっています。



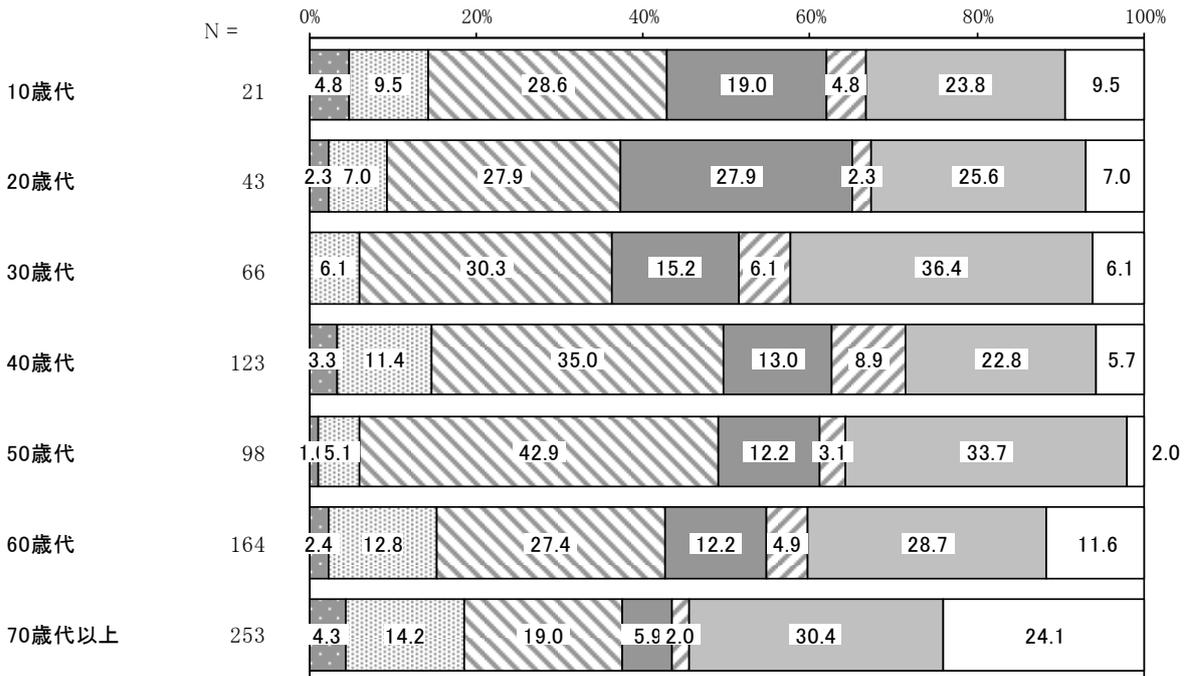
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



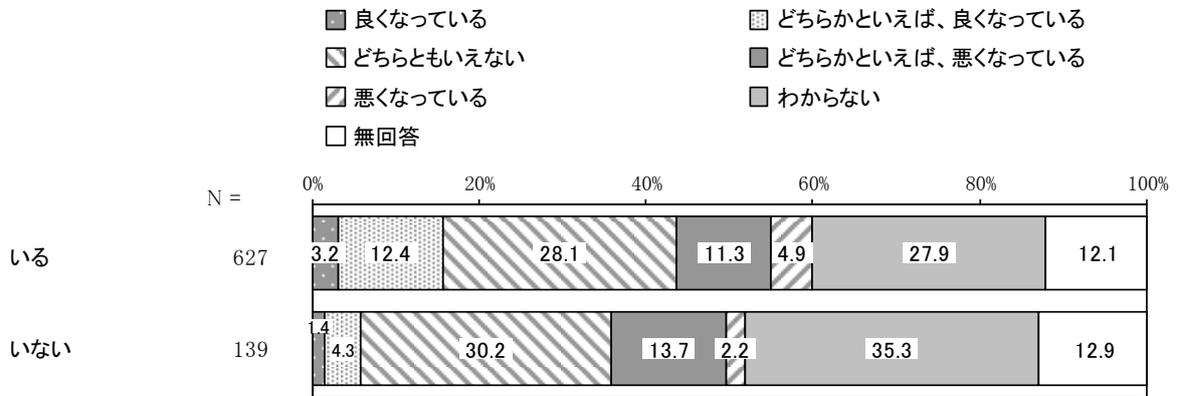
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“良くなっている”の割合が高く、約2割となっています。一方、20歳代で“悪くなっている”の割合が高く、約3割となっています。



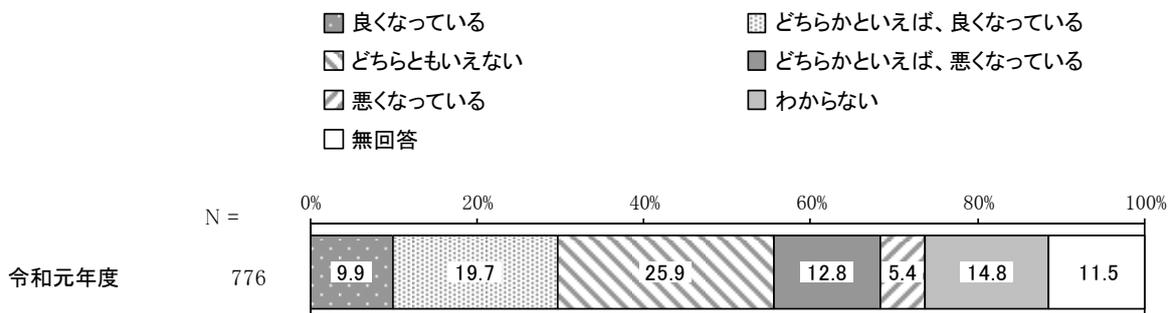
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、1割台半ばとなっています。



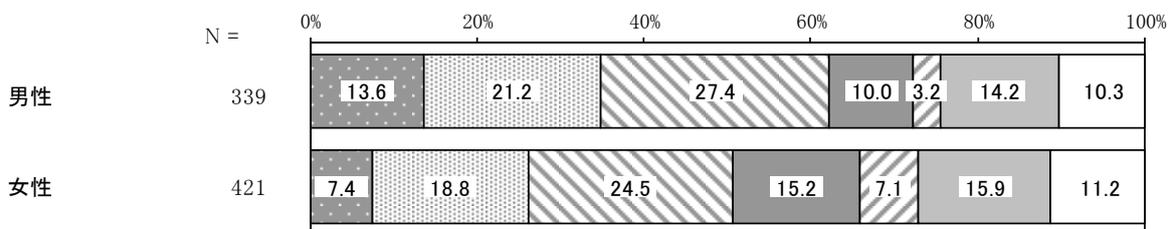
(3) あいさつなどの礼儀やマナー

“良くなっている”の割合が29.6%、“悪くなっている”の割合が18.2%となっています。



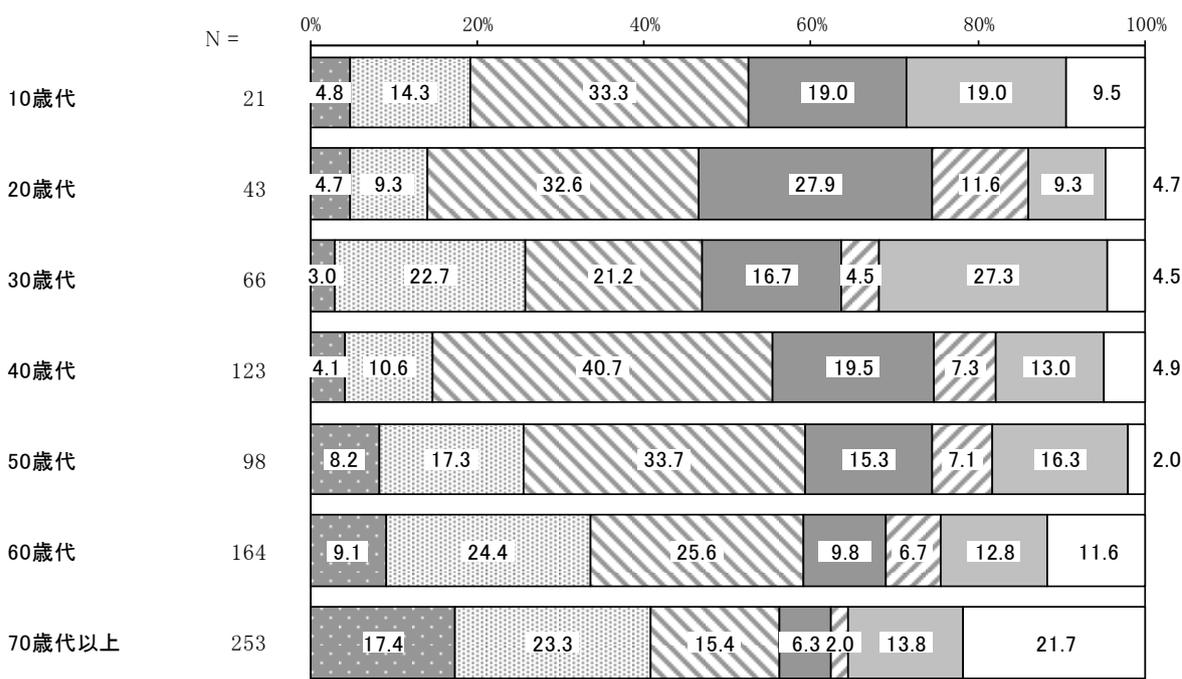
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“良くなっている”の割合が高く、3割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



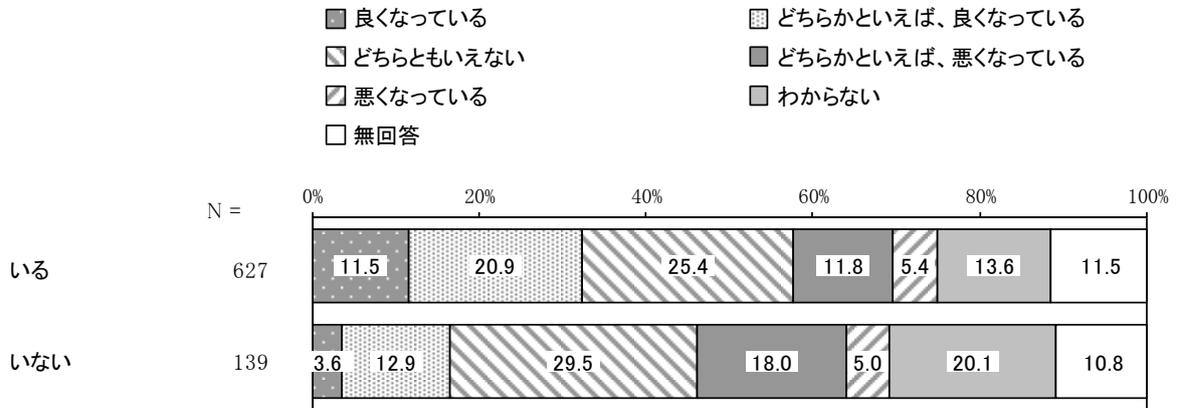
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳代以上で“良くなっている”の割合が高く、約4割となっています。一方、20歳代で“悪くなっている”の割合が高く、約4割となっています。



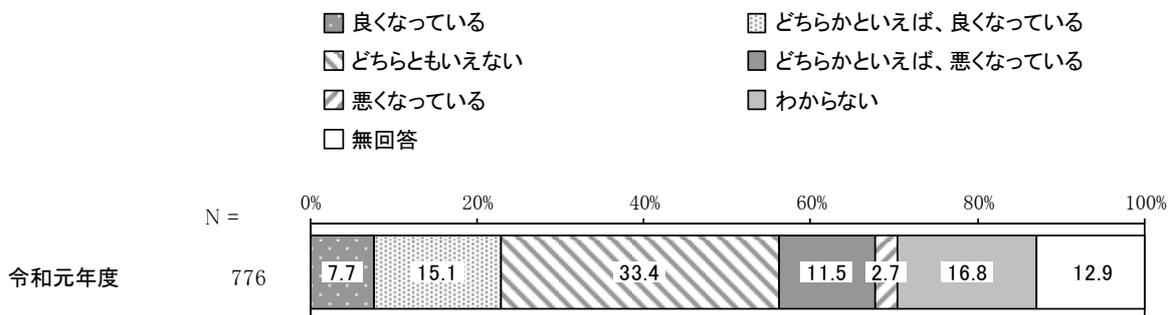
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、約3割となっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で“悪くなっている”の割合が高く、2割を超えています。



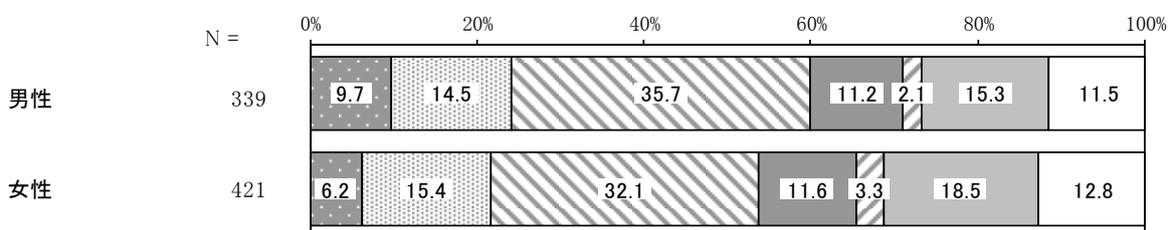
(4) 子どもたちの元気さ

“良くなっている”の割合が22.8%、“悪くなっている”の割合が14.2%となっています。



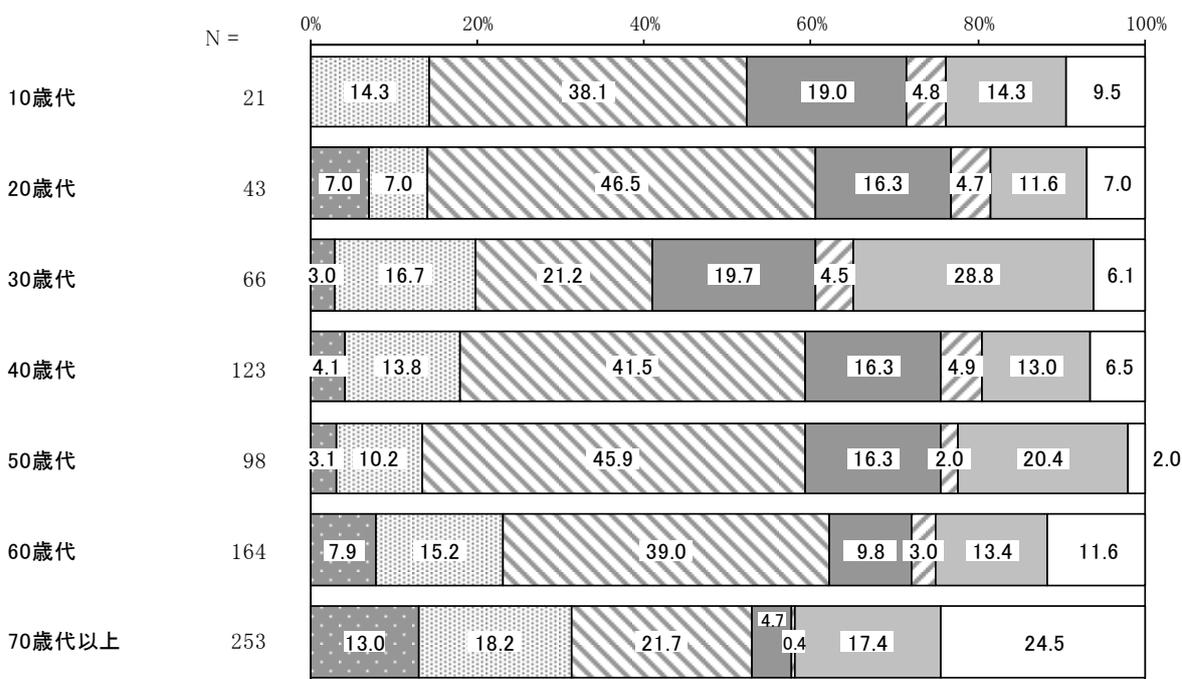
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



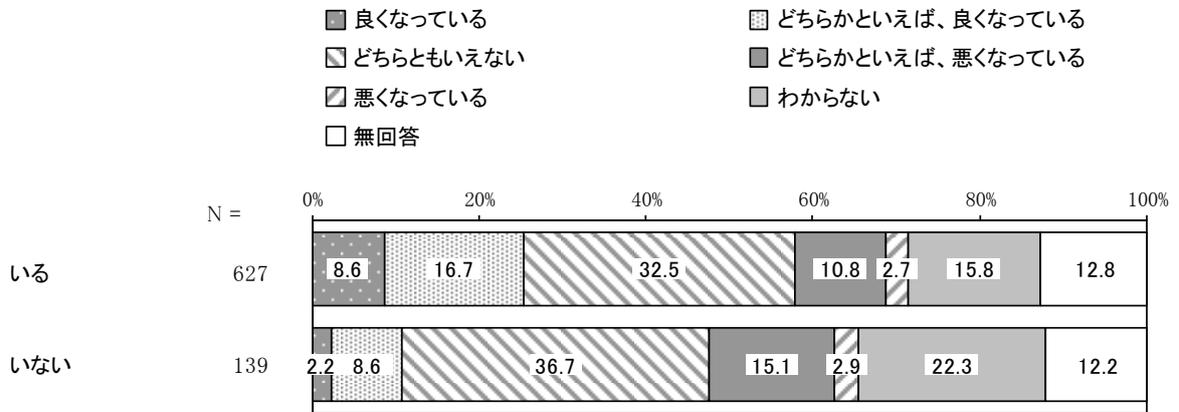
【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、70歳代以上で“良くなっている”の割合が高く、約3割となっています。



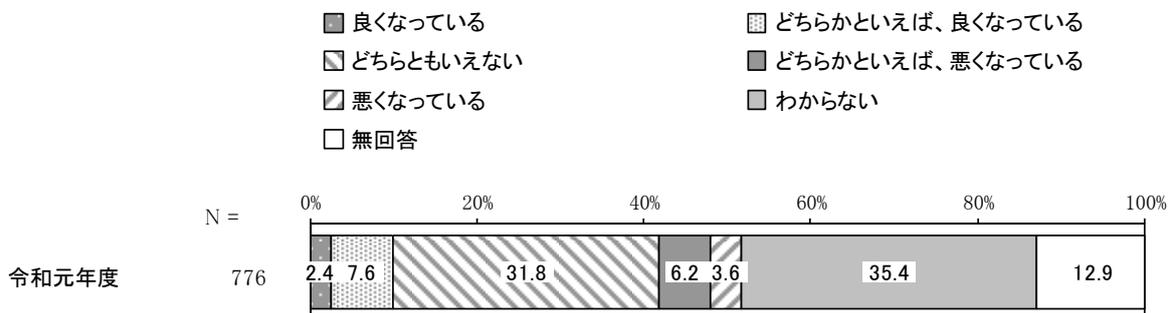
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



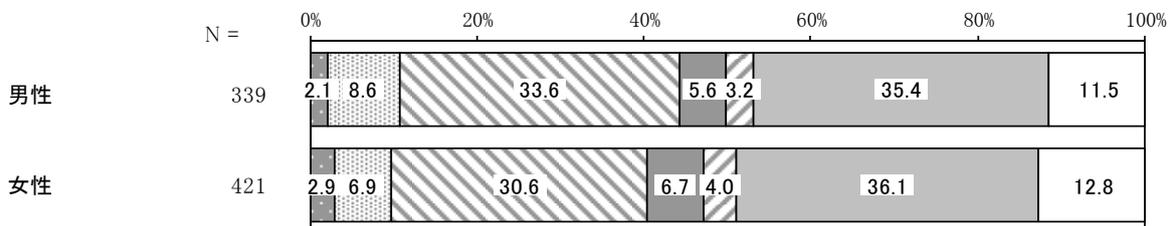
(5) 幼稚園や学校における教職員の指導力

“良くなっている”の割合が10.0%、“悪くなっている”の割合が9.8%となっています。



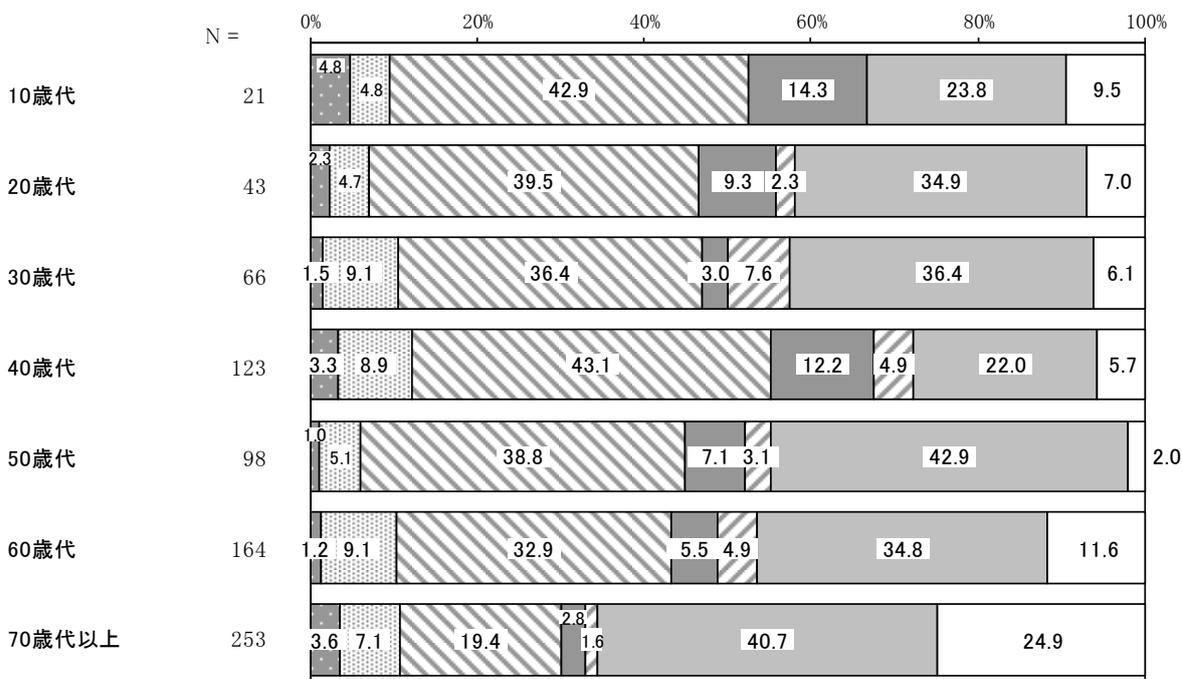
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



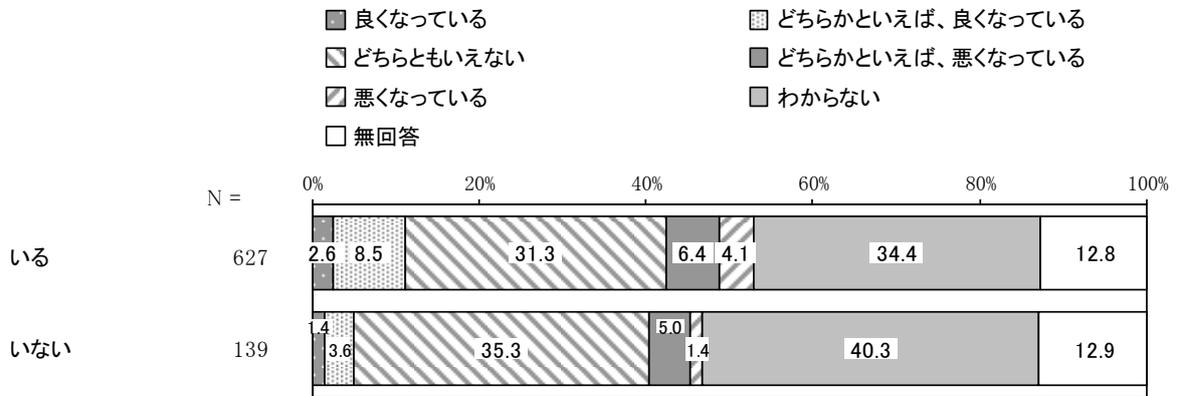
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



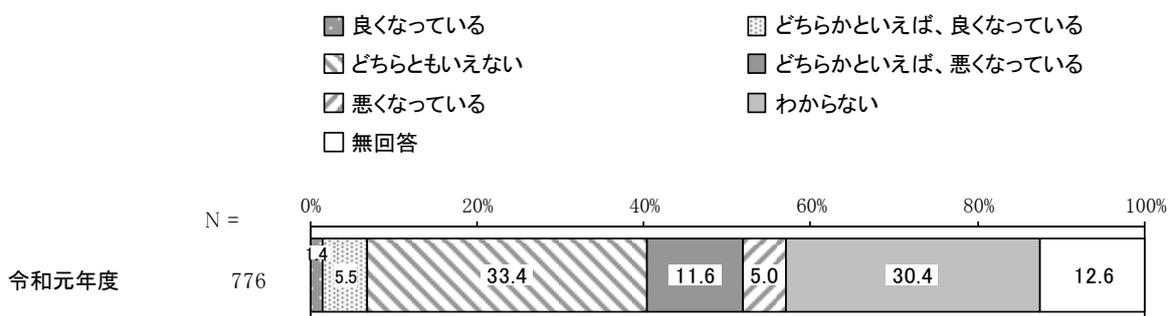
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、約1割となっています。



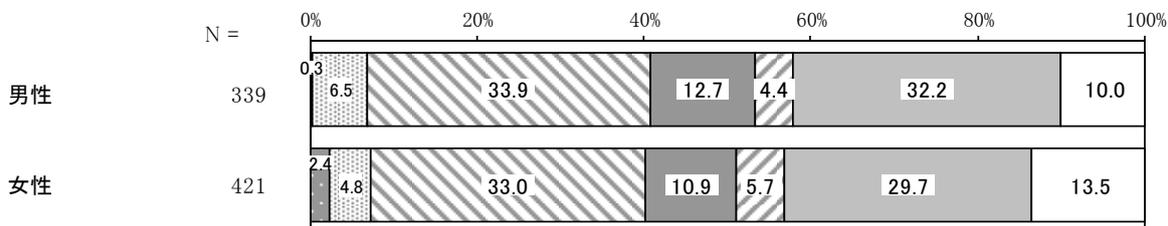
(6) 家庭の教育力

“良くなっている”の割合が6.9%、“悪くなっている”の割合が16.6%となっています。



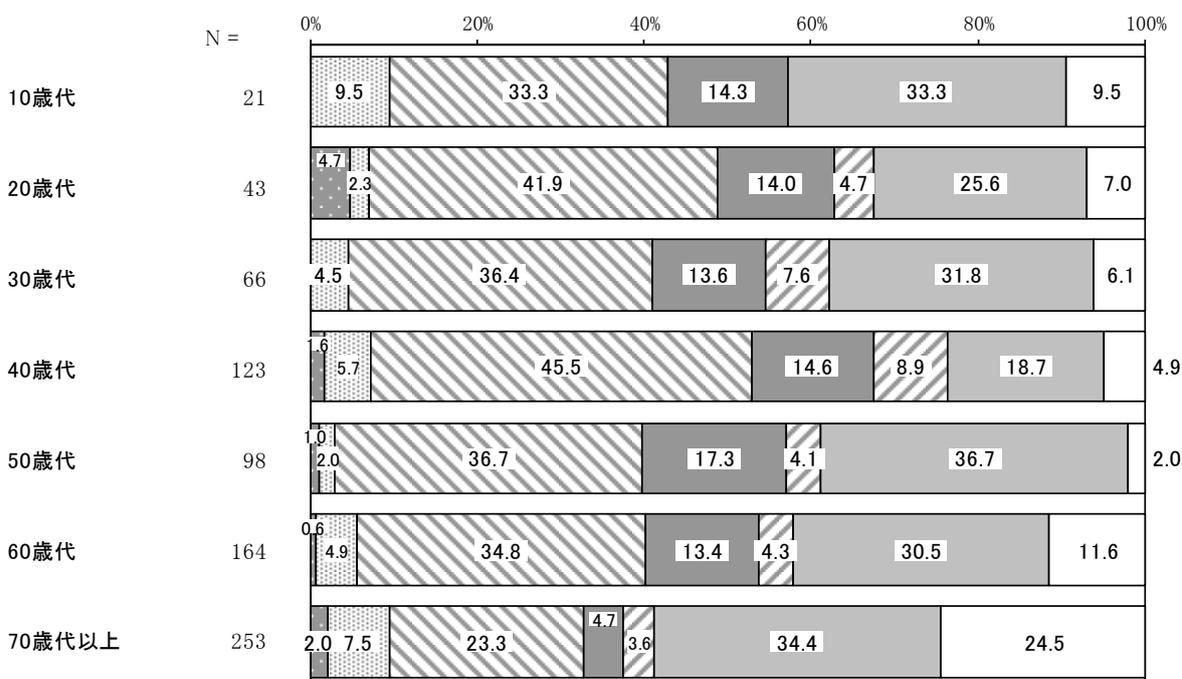
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



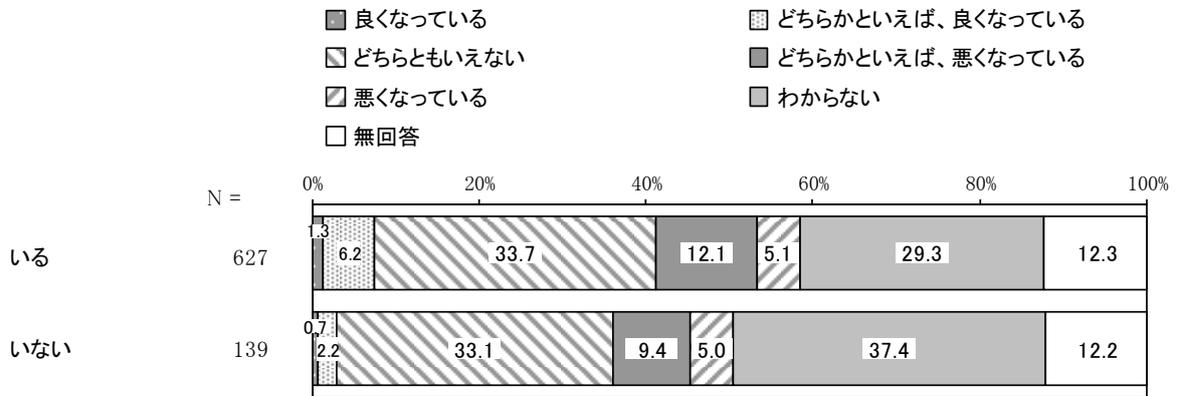
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50歳代で“良くなっている”の割合が低くなっています。また、70歳代以上で“悪くなっている”の割合が低くなっています。



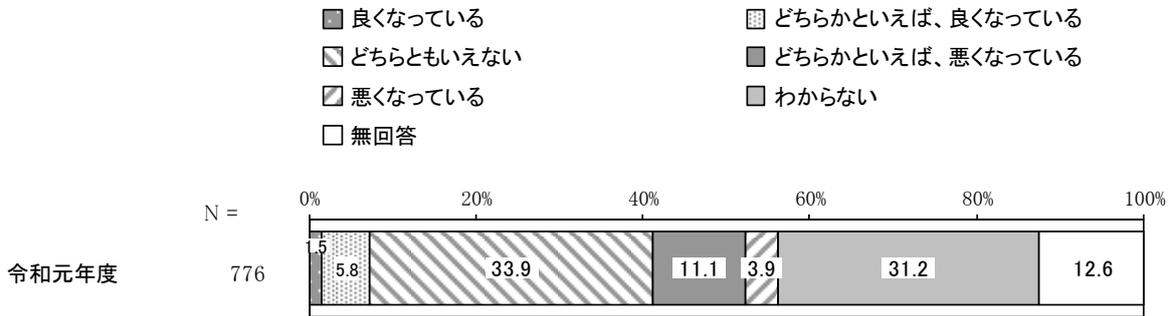
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高くなっています。



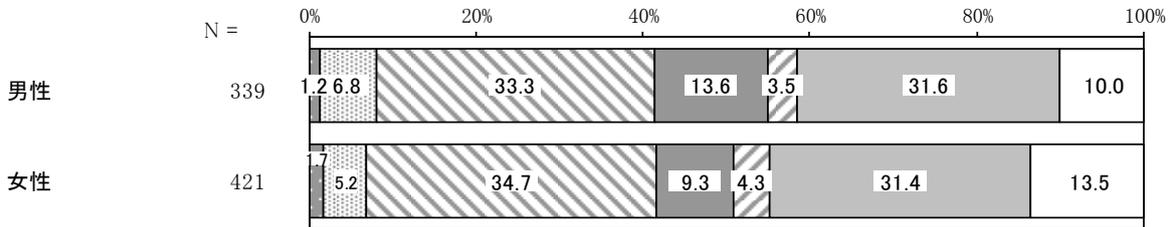
(7)地域の教育力

“良くなっている”の割合が7.3%、“悪くなっている”の割合が15.0%となっています。



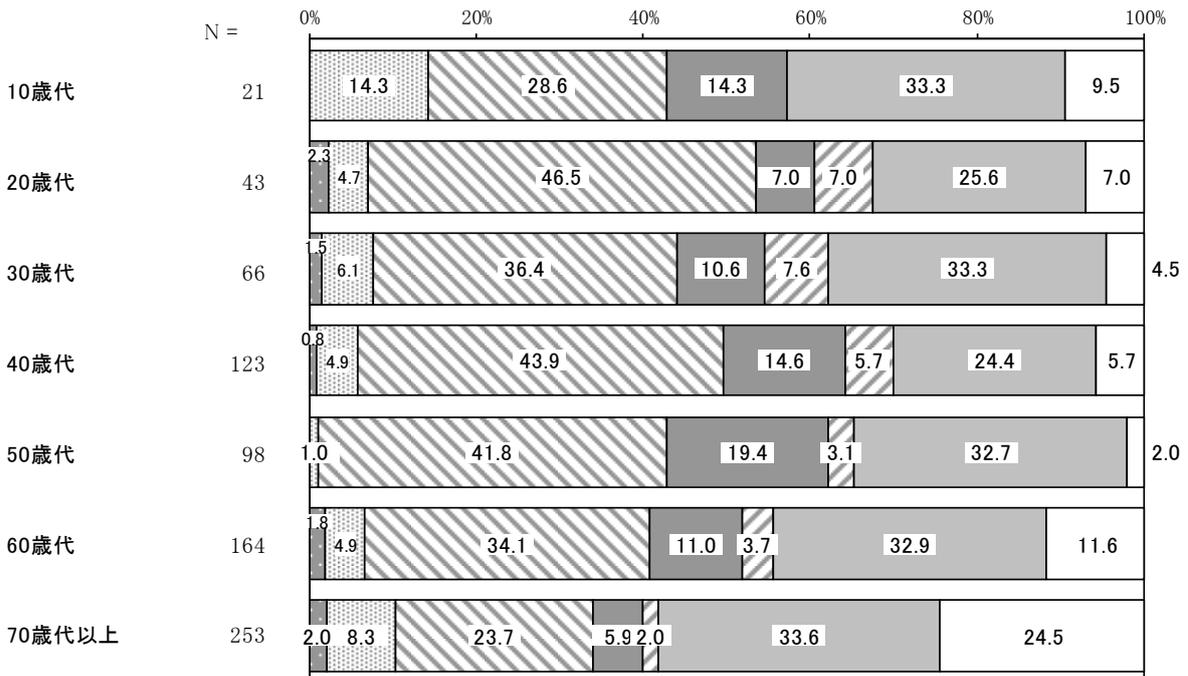
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



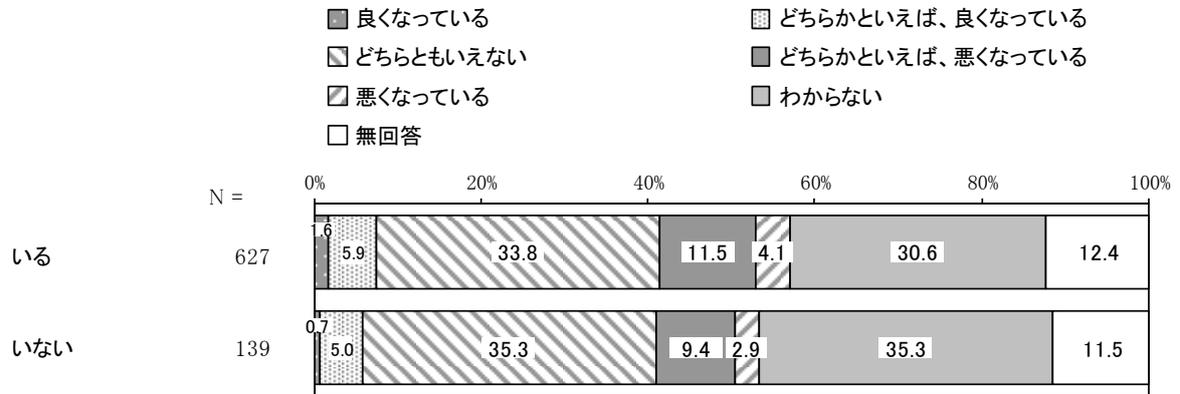
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で“で”良くなっている“の割合が高く、1割台半ばとなっています。一方、30歳代から50歳代で”悪くなっている“の割合が高く、約2割となっています。



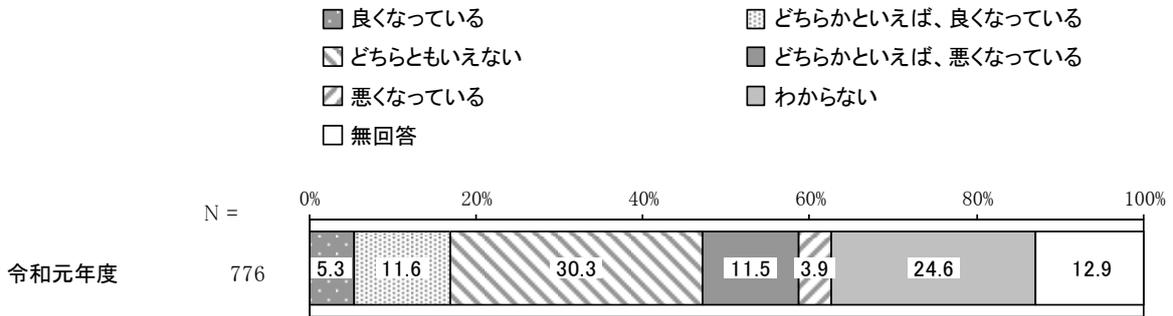
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、大きな差異はみられません。



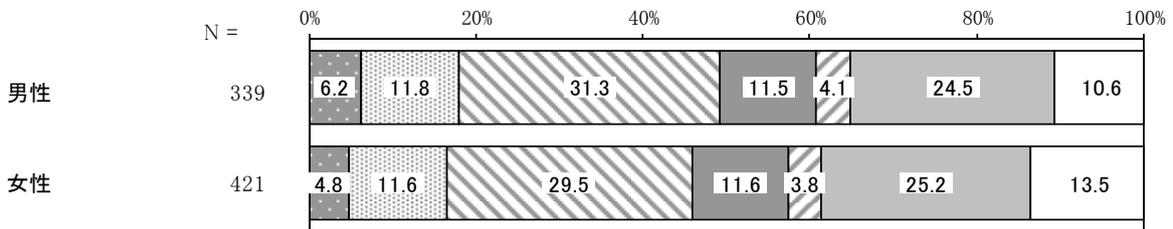
(8) 社会全体で地域の子どもを育てようとする意識の高まり

“良くなっている”の割合が16.9%、“悪くなっている”の割合が15.4%となっています。



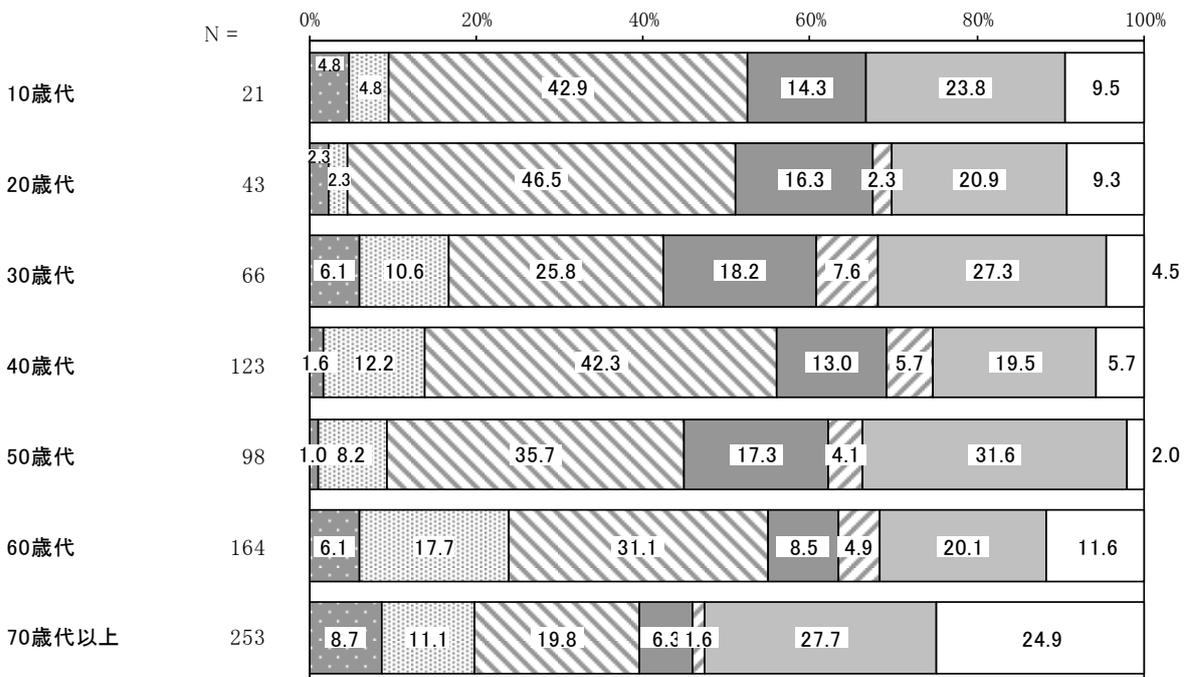
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



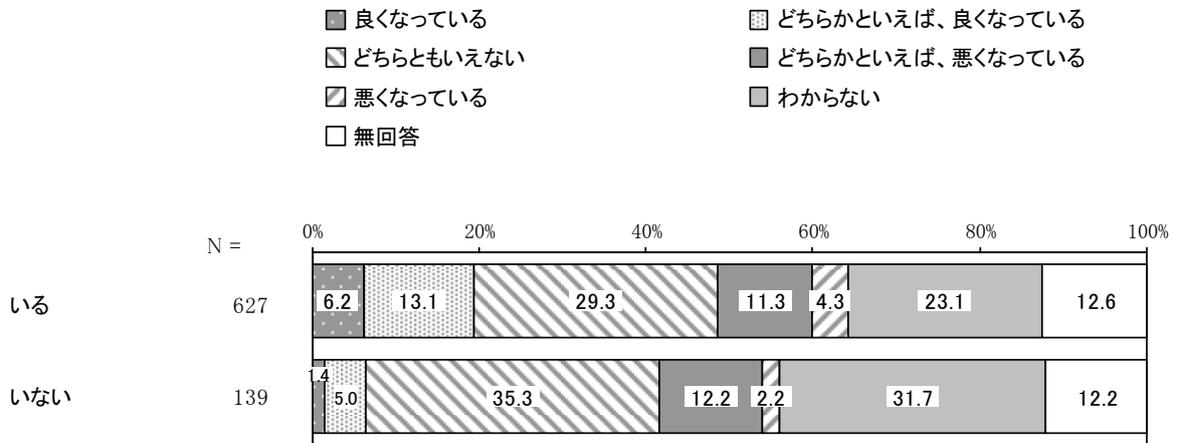
【年代別】

年代別でみると、50歳代以下に比べ、60歳代以上で“良くなっている”の割合が高く、約2割となっています。一方、30歳代で“悪くなっている”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



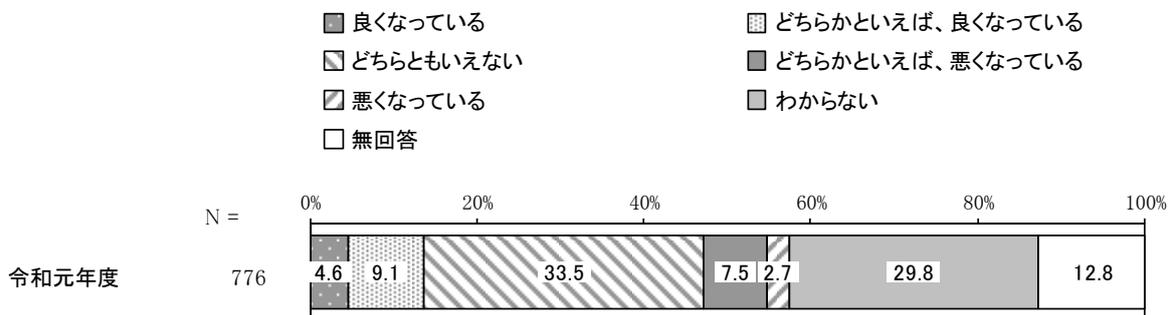
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



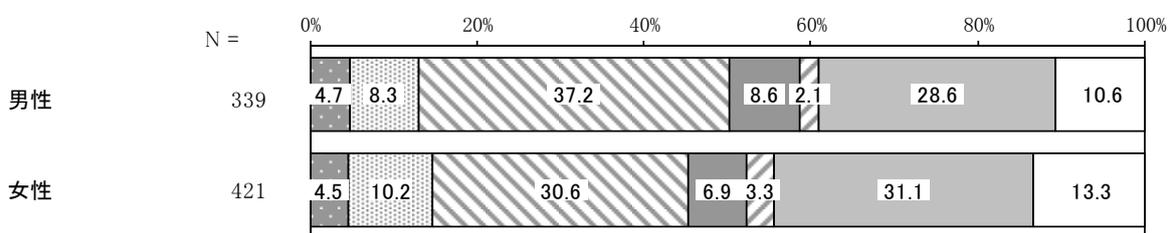
(9) 家庭・地域・学校の連携による教育

“良くなっている”の割合が13.7%、“悪くなっている”の割合が10.2%となっています。



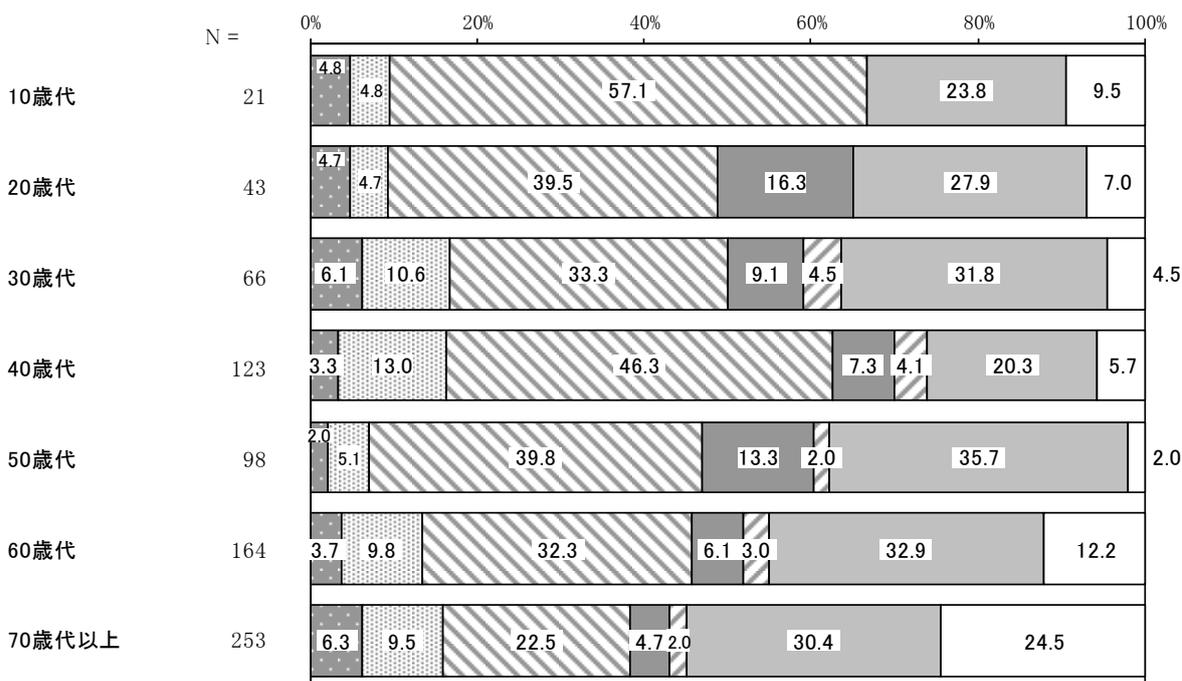
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



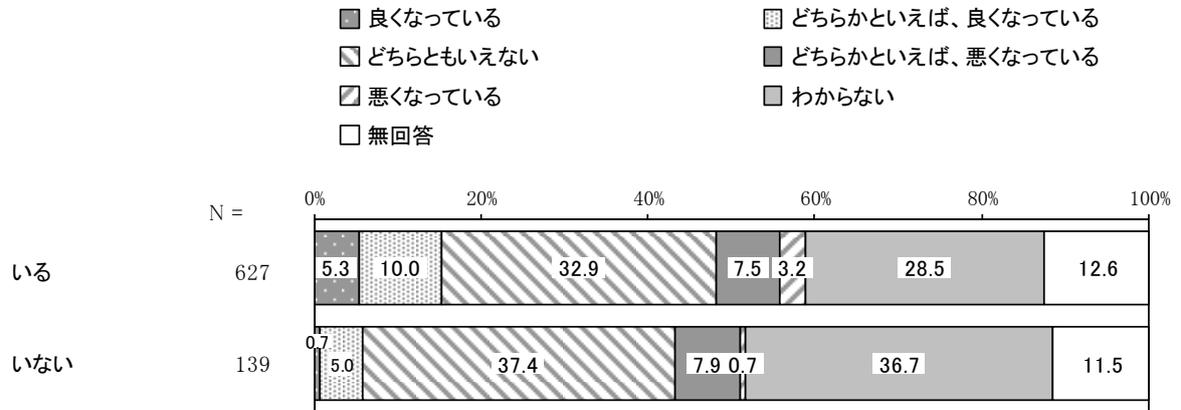
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代、40歳代、70歳代以上で“良くなっている”の割合が高く、1割台半ばとなっています。また、20歳代、30歳代、50歳代で“悪くなっている”の割合が高く、1割半ばとなっています。



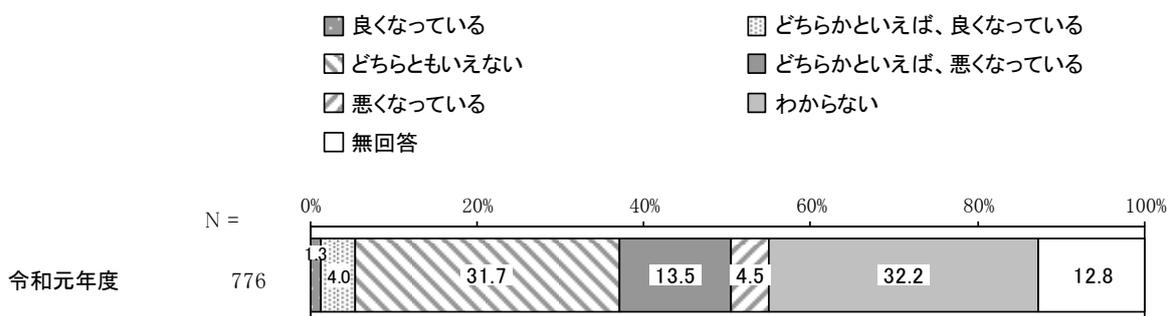
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、1割台半ばとなっています。



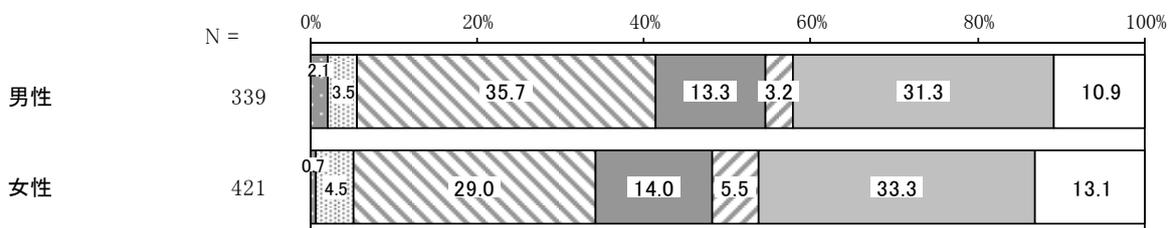
(10) 地域や家庭環境などによる教育格差

“良くなっている”の割合が5.3%、“悪くなっている”の割合が18.0%となっています。



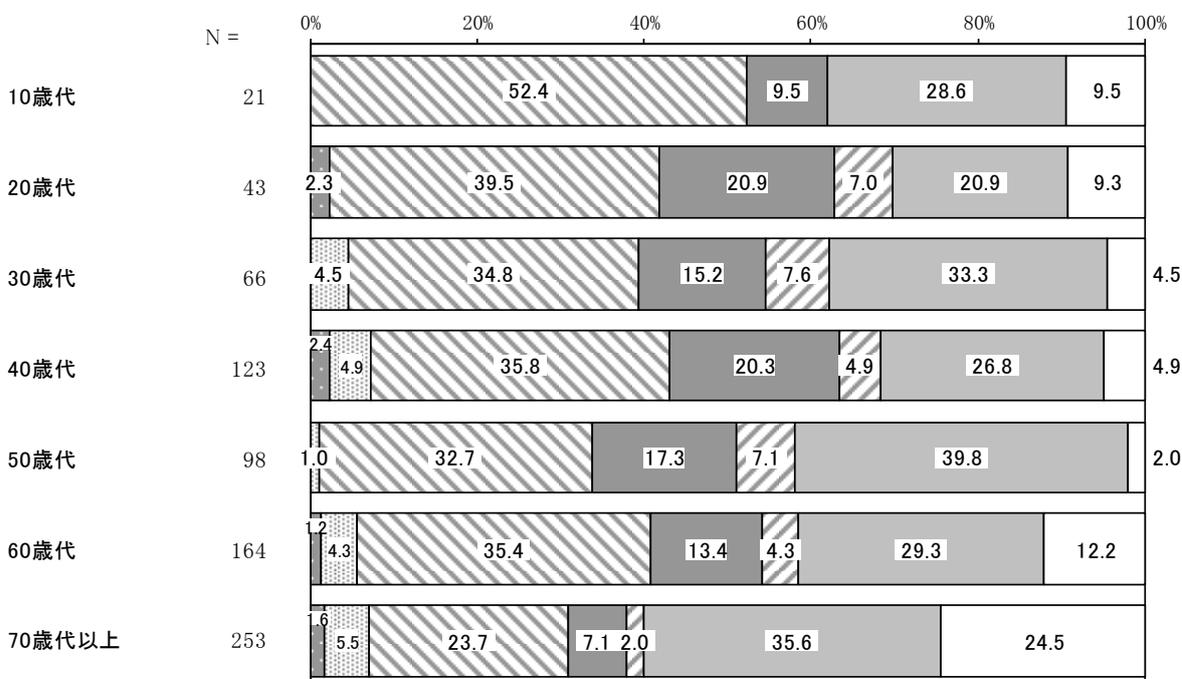
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



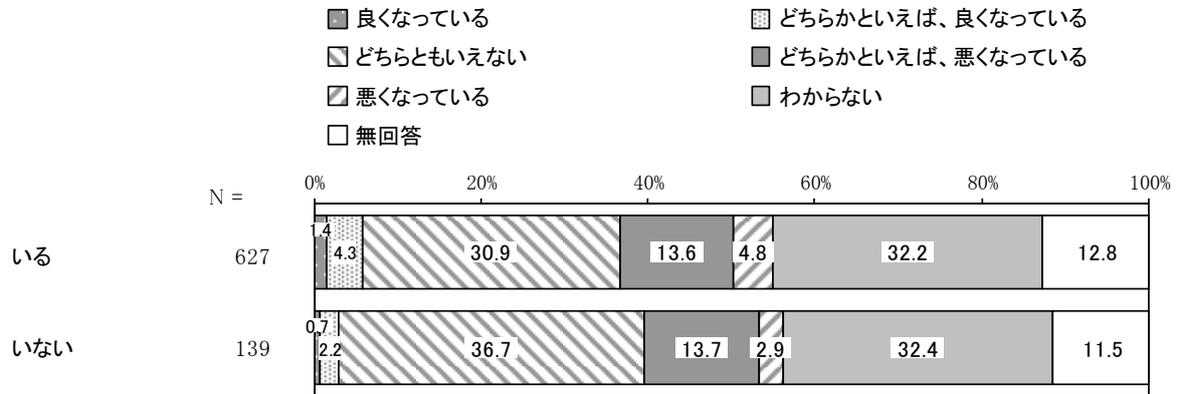
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で“悪くなっている”の割合が高く、約3割となっています。



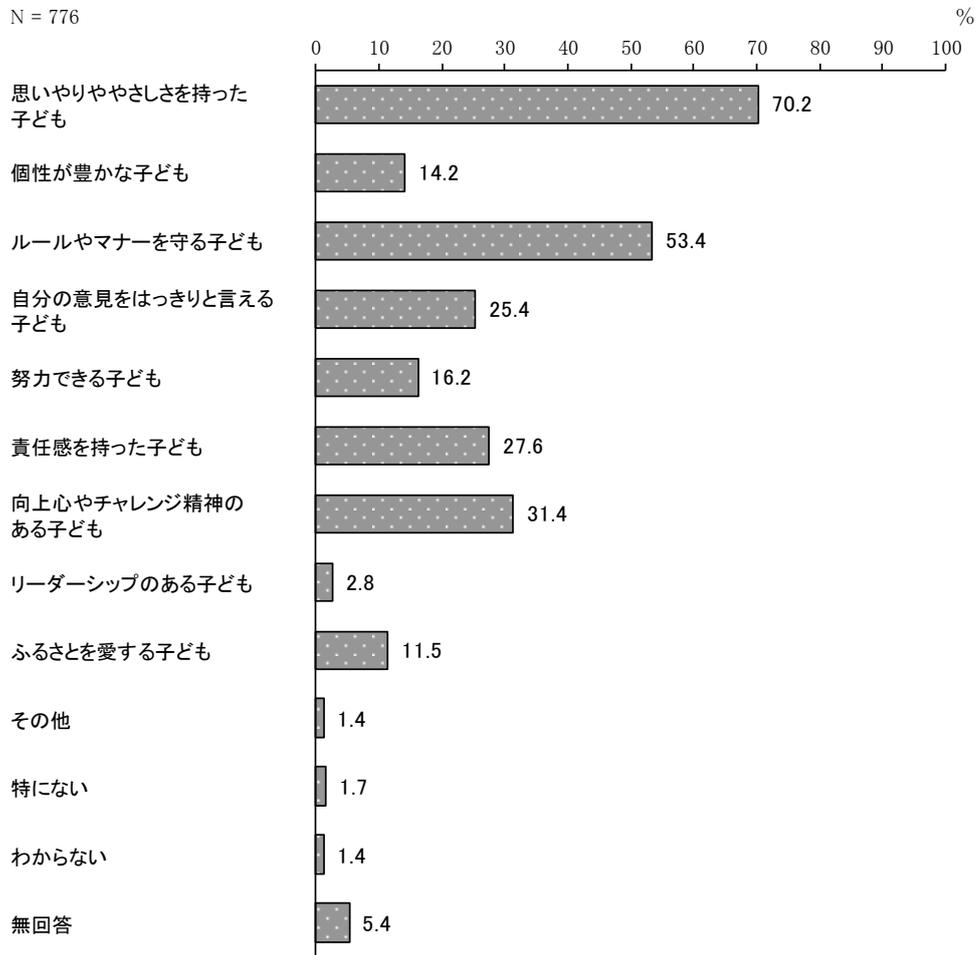
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、大きな差異はみられません。



問 26 あなた、可児市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。(〇は3つまで)

「思いやりやさしさをを持った子ども」の割合が70.2%と最も高く、次いで「ルールやマナーを守る子ども」の割合が53.4%、「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の割合が31.4%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「思いやりやさしさを持った子ども」の割合が高く、7割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	思いやりやさしさを持った子ども	個性が豊かな子ども	ルールやマナーを守る子ども	自分の意見をはっきりと伝える子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	向上心やチャレンジ精神のある子ども	リーダーシップのある子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にない	わからない	無回答
男性	339	64.9	15.3	52.2	23.9	16.8	30.1	32.4	2.9	13.9	1.5	2.1	1.2	5.6
女性	421	74.6	12.6	54.2	27.1	15.9	25.9	31.1	2.9	9.7	1.4	1.2	1.4	5.2

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で「思いやりやさしさを持った子ども」の割合が高く、約8割となっています。また、30歳代、40歳代で「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の割合が、10歳代で「個性が豊かな子ども」「ルールやマナーを守る子ども」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	思いやりやさしさを持った子ども	個性が豊かな子ども	ルールやマナーを守る子ども	自分の意見をはっきりと伝える子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	向上心やチャレンジ精神のある子ども	リーダーシップのある子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にない	わからない	無回答
10歳代	21	61.9	33.3	66.7	19.0	19.0	14.3	19.0	—	9.5	—	9.5	4.8	—
20歳代	43	65.1	18.6	58.1	27.9	20.9	16.3	18.6	4.7	4.7	4.7	—	2.3	4.7
30歳代	66	72.7	13.6	51.5	27.3	19.7	25.8	39.4	4.5	9.1	—	—	1.5	1.5
40歳代	123	72.4	9.8	52.8	18.7	22.0	22.8	42.3	2.4	13.0	4.1	2.4	0.8	1.6
50歳代	98	79.6	13.3	57.1	16.3	20.4	30.6	30.6	3.1	9.2	—	3.1	1.0	1.0
60歳代	164	75.0	17.1	57.9	29.3	14.0	24.4	33.5	1.2	14.0	1.2	1.2	0.6	1.8
70歳代以上	253	63.6	11.9	47.4	29.6	11.1	34.0	25.7	3.6	12.3	0.8	1.2	2.0	13.0

【子どもの有無別】

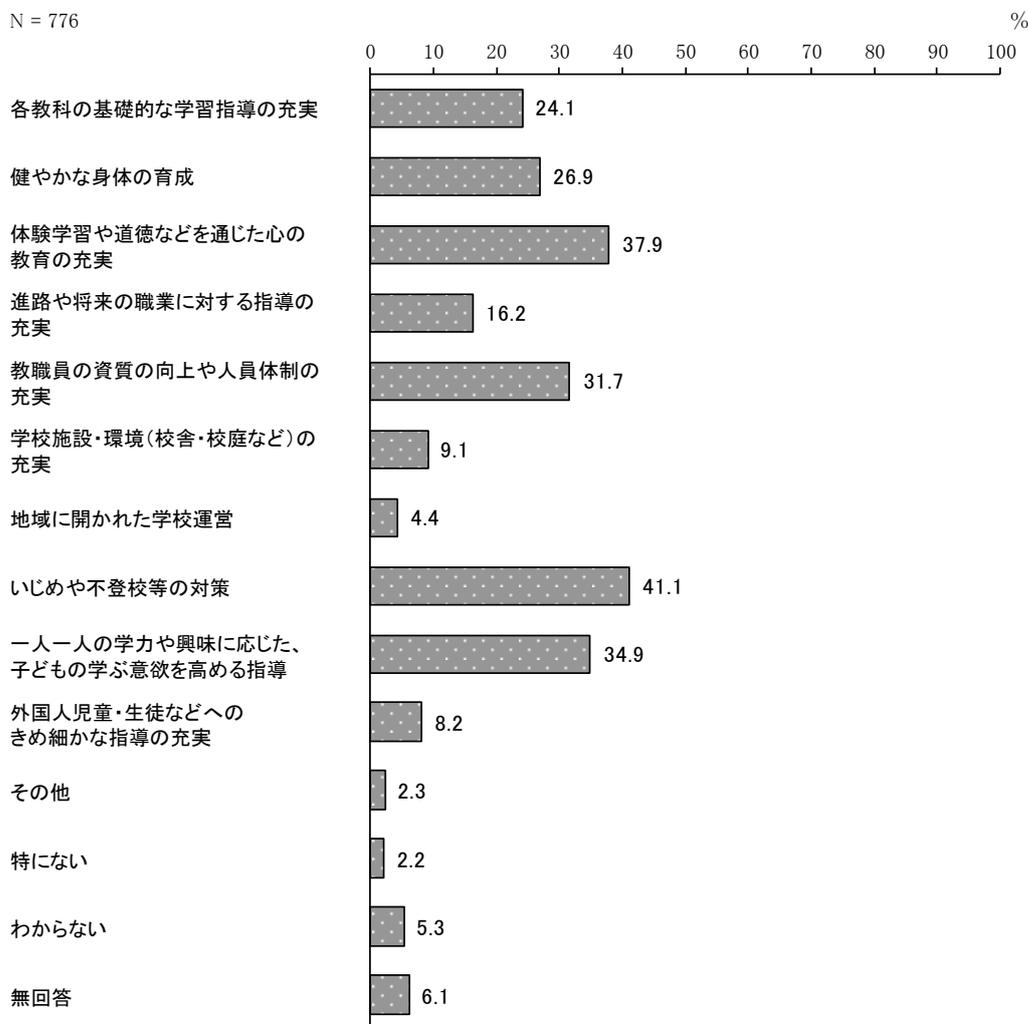
子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「自分の意見をはっきりと言える子ども」「責任感を持った子ども」「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	思いやりやさしさを 持った子ども	個性が豊かな子ども	ルールやマナーを守る 子ども	自分の意見をはっきりと 言える子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	向上心やチャレンジ 精神のある子ども	リーダーシップのある 子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にな い	わからない	無回答
いる	627	70.7	14.2	52.3	27.0	17.1	28.9	33.3	2.9	12.0	1.1	1.4	1.1	5.6
いない	139	66.9	13.7	57.6	19.4	12.2	22.3	23.0	2.2	10.1	2.9	2.9	2.9	5.0

問 27 あなたは、可児市の学校教育の充実のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「いじめや不登校等の対策」の割合が41.1%と最も高く、次いで「体験学習や道德などを通じた心の教育の充実」の割合が37.9%、「一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」の割合が34.9%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「進路や将来の職業に対する指導の充実」の割合が高く、約2割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	各教科の基礎的な学習指導の充実	健やかな身体の育成	体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	進路や将来の職業に対する指導の充実	教職員の資質の向上や人員体制の充実	学校施設・環境(校舎・校庭など)の充実	地域に開かれた学校運営
男性	339	23.0	28.9	39.5	20.1	30.4	9.1	4.7
女性	421	24.5	25.9	36.3	13.5	33.0	9.5	3.8

区分	いじめや不登校等の対策	一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	その他	特になし	わからない	無回答
男性	38.3	33.0	9.4	2.9	2.7	4.7	5.0
女性	43.2	36.8	7.4	1.9	1.9	5.5	6.7

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「健やかな身体の育成」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳代以上で3割台半ばとなっています。また、他の年代に比べ、30歳代で「一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」の割合が、40歳代で「体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	各教科の基礎的な学習 指導の充実	健やかな身体の育成	体験学習や道徳などを 通じた心の教育の充実	進路や将来の職業に 対する指導の充実	教職員の資質の向上や 人身体制の充実	学校施設・環境(校舎・ 校庭など)の充実	地域に開かれた学校運営
10歳代	21	33.3	14.3	33.3	28.6	38.1	9.5	9.5
20歳代	43	20.9	20.9	39.5	18.6	16.3	23.3	2.3
30歳代	66	28.8	21.2	36.4	22.7	22.7	15.2	3.0
40歳代	123	22.0	14.6	44.7	24.4	37.4	9.8	6.5
50歳代	98	25.5	27.6	33.7	18.4	40.8	9.2	4.1
60歳代	164	23.8	27.4	39.0	9.8	36.6	7.9	4.3
70歳代以上	253	23.3	36.0	36.0	11.9	26.1	5.9	4.0

区分	いじめや不登校等の対策	一人一人の学力や興味に 応じた、子どもの学ぶ意欲 を高める指導	外国人児童・生徒などへの きめ細かな指導の充実	その他	特にな い	わから ない	無回 答
10歳代	38.1	42.9	14.3	4.8	4.8	—	—
20歳代	37.2	34.9	4.7	2.3	—	4.7	7.0
30歳代	43.9	50.0	6.1	4.5	—	4.5	—
40歳代	35.0	38.2	8.9	4.9	4.9	3.3	3.3
50歳代	45.9	28.6	9.2	3.1	3.1	4.1	1.0
60歳代	47.0	37.2	9.1	1.2	1.8	6.1	3.0
70歳代以上	38.3	28.9	7.5	0.8	1.6	7.1	13.4

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「各教科の基礎的な学習指導の充実」「健やかな身体の育成」「体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実」「教職員の資質の向上や人員体制の充実」「いじめや不登校等の対策」「一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」の割合が高くなっています。

単位：％

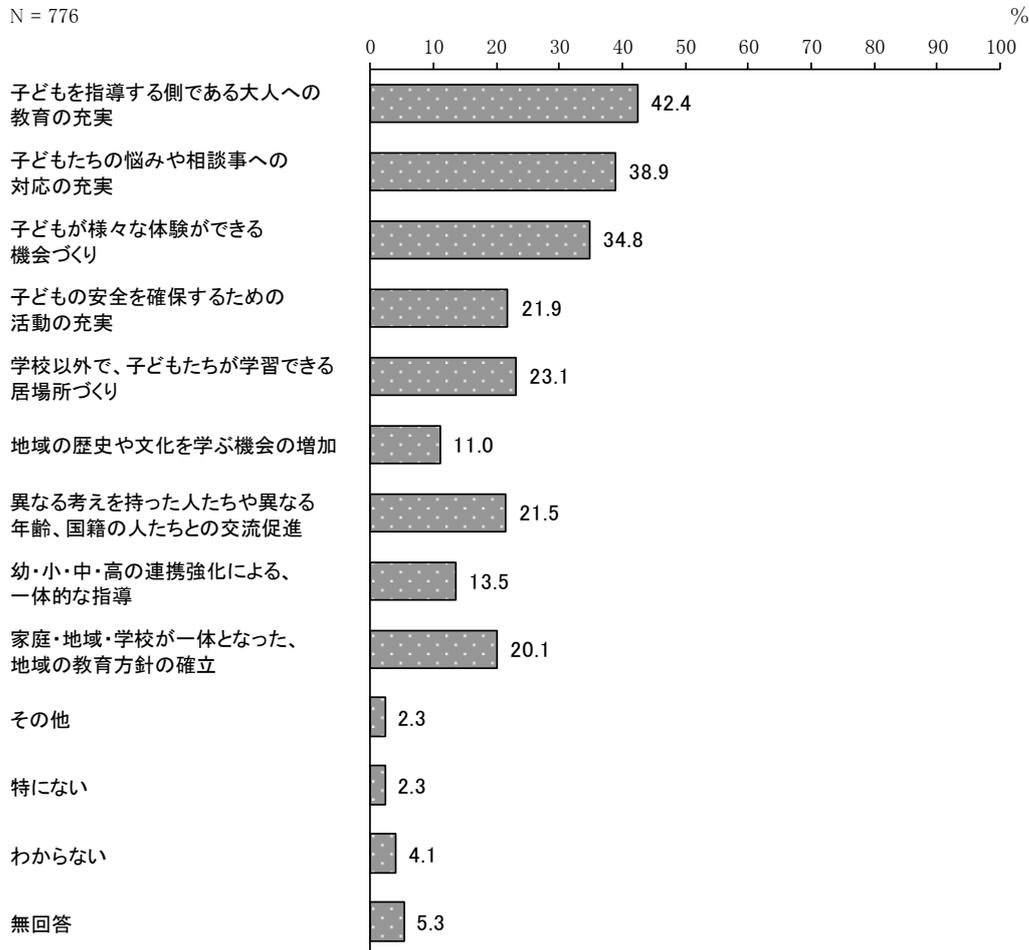
区分	有効回答数（件）	各教科の基礎的な学習指導の充実	健やかな身体の育成	体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	進路や将来の職業に対する指導の充実	教職員の資質の向上や人員体制の充実	学校施設・環境（校舎・校庭など）の充実	地域に開かれた学校運営
いる	627	24.7	28.5	39.9	16.4	33.3	8.5	4.0
いない	139	18.7	20.9	29.5	15.8	25.2	12.2	6.5

区分	いじめや不登校等の対策	一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	その他	特にない	わからない	無回答
いる	42.9	36.0	8.3	1.9	1.8	4.5	6.1
いない	33.8	30.2	8.6	4.3	4.3	8.6	5.8

問 28 可児市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことにか
を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「子どもを指導する側である大人への教育の充実」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」の割合が 38.9%、「子どもが様々な体験ができる機会づくり」の割合が 34.8%となっています。

N = 776



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進」の割合が高く、2割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもを指導する側である大人への教育の充実	子どもたちの悩みや相談事への対応の充実	子どもが様々な体験ができる機会づくり	子どもの安全を確保するための活動の充実	学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり	地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加
男性	339	42.2	37.8	35.4	23.9	22.7	10.0
女性	421	43.2	40.1	34.4	20.7	23.3	11.9

区分	異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進	幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導	家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立	その他	特になし	わからない	無回答
男性	25.4	12.4	20.6	2.7	2.1	4.7	4.1
女性	18.3	14.7	20.0	2.1	2.1	3.6	5.9

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「子どもが様々な体験ができる機会づくり」の割合が高く、約6割となっています。また、10歳代で「子どもを指導する側である大人への教育の充実」の割合が、50歳代で「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」の割合が高く、約5割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもを指導する側である大人への教育の充実	子どもたちの悩みや相談事への対応の充実	子どもが様々な体験ができる機会づくり	子どもの安全を確保するための活動の充実	学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり	地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加
10歳代	21	52.4	33.3	33.3	23.8	14.3	4.8
20歳代	43	44.2	37.2	32.6	25.6	11.6	14.0
30歳代	66	39.4	31.8	57.6	25.8	27.3	10.6
40歳代	123	47.2	31.7	38.2	19.5	26.0	7.3
50歳代	98	43.9	50.0	27.6	18.4	20.4	8.2
60歳代	164	40.9	45.1	34.1	22.6	32.3	9.8
70歳代以上	253	40.7	36.8	30.8	22.5	17.8	14.6

区分	異なる考えを持った人たちとの交流促進	幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導	家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立	その他	特にない	わからない	無回答
10歳代	19.0	23.8	9.5	—	4.8	9.5	4.8
20歳代	4.7	16.3	16.3	4.7	2.3	2.3	4.7
30歳代	24.2	10.6	13.6	6.1	—	4.5	1.5
40歳代	22.8	22.0	17.1	3.3	2.4	3.3	3.3
50歳代	25.5	13.3	19.4	2.0	3.1	4.1	2.0
60歳代	28.0	2.4	19.5	2.4	1.8	3.0	5.5
70歳代以上	17.0	16.2	25.7	0.8	2.4	5.1	8.3

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」「子どもが様々な体験ができる機会づくり」「学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり」「異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進」「家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立」の割合が高くなっています。

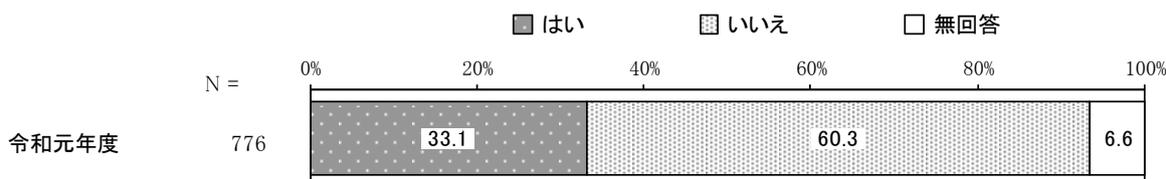
単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもを指導する側である大人への教育の充実	子どもたちの悩みや相談事への対応の充実	子どもが様々な体験ができる機会づくり	子どもの安全を確保するための活動の充実	学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり	地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加
いる	627	42.3	40.4	36.5	22.6	24.2	10.5
いない	139	44.6	33.1	29.5	19.4	18.0	12.2

区分	異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進	幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導	家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立	その他	特になし	わからない	無回答
いる	23.0	13.7	22.5	2.2	1.9	3.0	4.9
いない	14.4	12.9	10.8	2.9	3.6	9.4	5.0

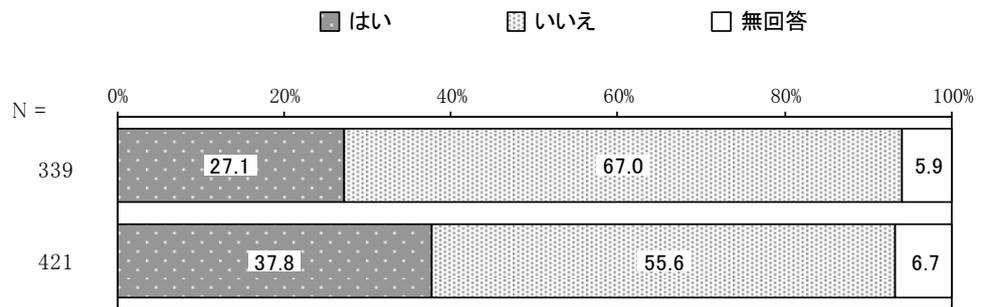
問 29 可児市では、子どものいじめの防止やいじめ問題の解消に重点的に取り組んでいます。
あなたは、学校以外にも子どものいじめに関して相談することができる次のような市の窓口があることを知っていますか。

「はい」の割合が 33.1%、「いいえ」の割合が 60.3%となっています。



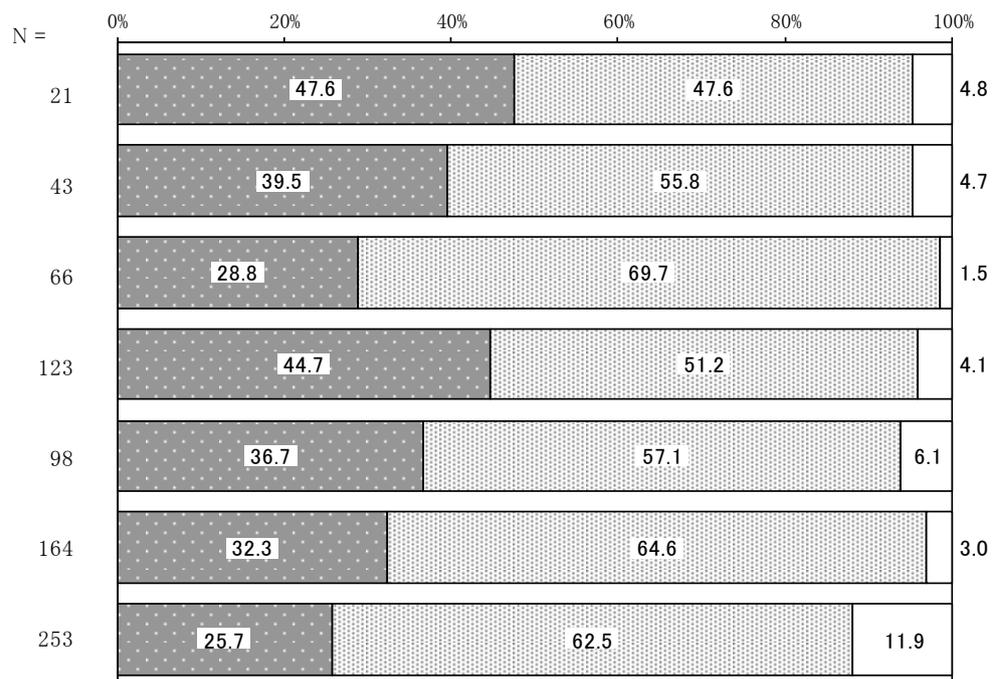
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「はい」の割合が高く、約4割となっています。



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代、40歳代で「はい」の割合が高く、4割を超えています。一方、30歳代で「いいえ」の割合が高く、約7割となっています。

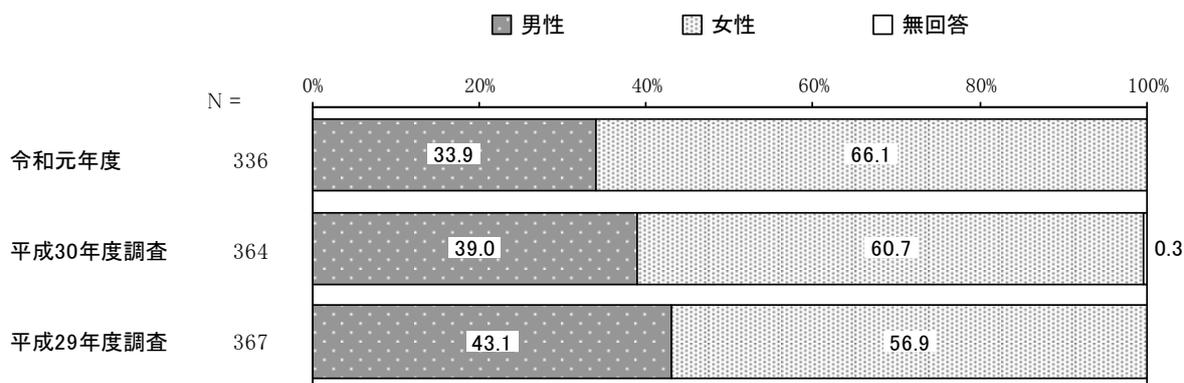


2 若年層

(1) 回答者属性

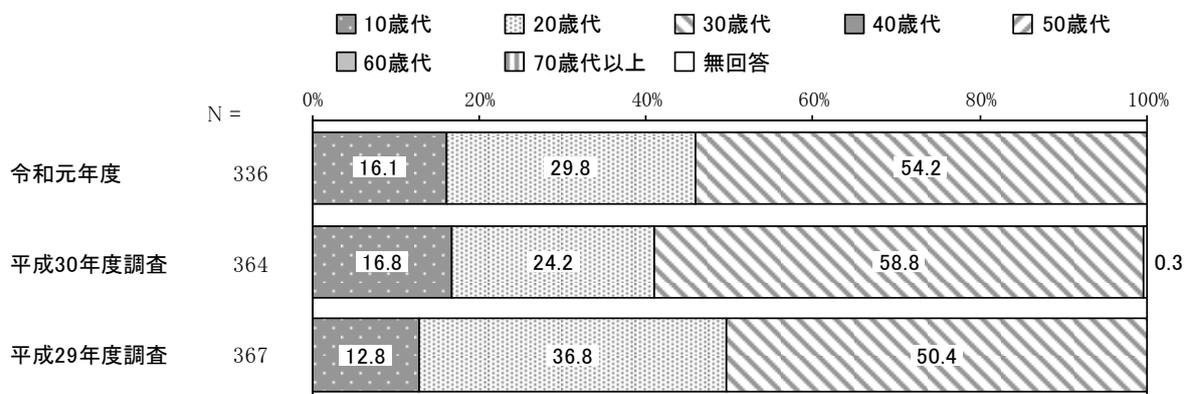
問1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つだけ)

「男性」の割合が33.9%、「女性」の割合が66.1%となっています。
平成30年度調査と比較すると、「女性」の割合が増加しています。



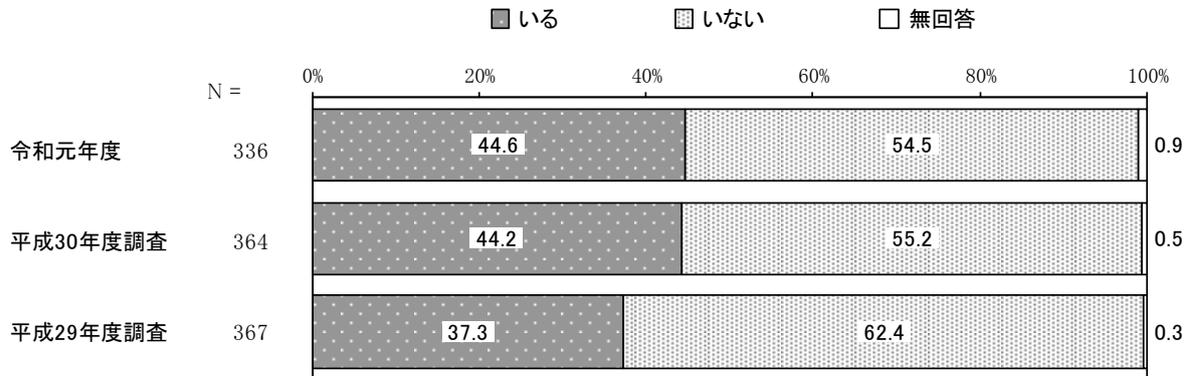
問2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

「30歳代」の割合が54.2%と最も高く、次いで「20歳代」の割合が29.8%、「10歳代」の割合が16.1%となっています。
平成30年度調査と比較すると、「20歳代」の割合が増加しています。



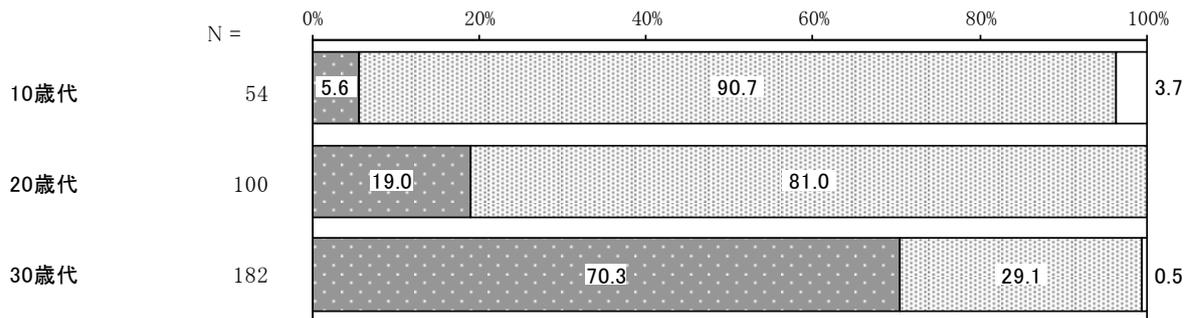
問3 あなたには、子どもはいますか。(いる場合は子どもの世代も選択して下さい。)

「いる」の割合が44.6%、「いない」の割合が54.5%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年代別】

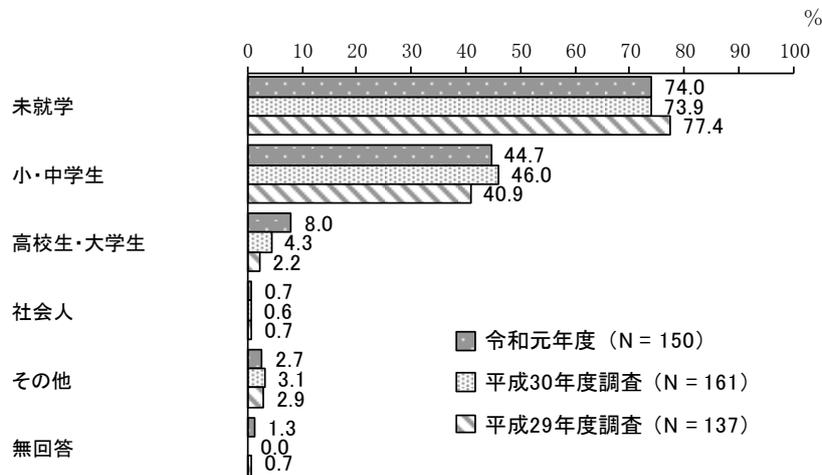
年代別でみると、年代が高くなるにつれ「いる」の割合が高く、30歳代で約7割となっています。



子どもの世代

「未就学」の割合が74.0%と最も高く、次いで「小・中学生」の割合が44.7%となっています。

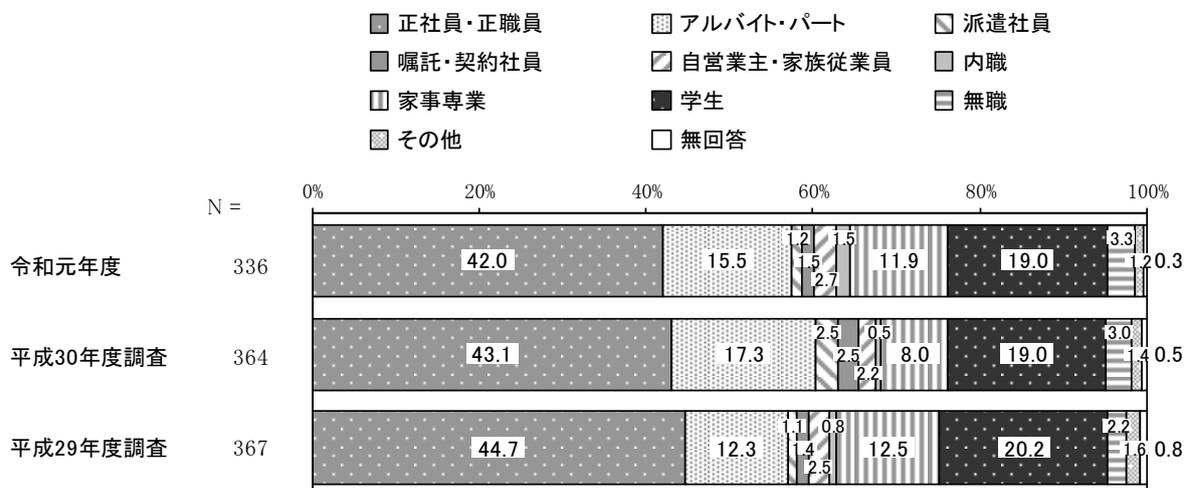
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 あなたの職業は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

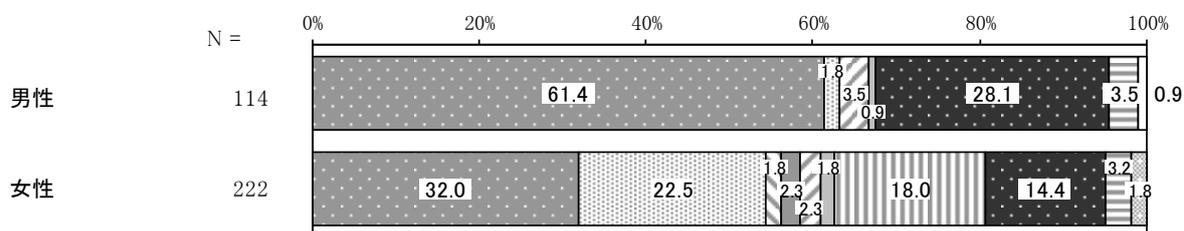
「正社員・正職員」の割合が42.0%と最も高く、次いで「学生」の割合が19.0%、「アルバイト・パート」の割合が15.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



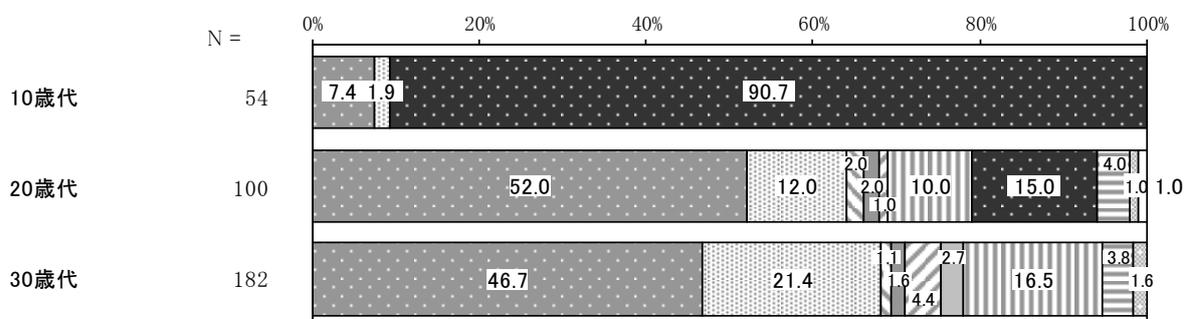
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「正社員・正職員」「学生」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「アルバイト・パート」「家事専業」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「アルバイト・パート」「家事専業」の割合が高く、年代が低くなるにつれ「学生」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、20歳代で「正社員・正職員」の割合が高く、約6割となっています。

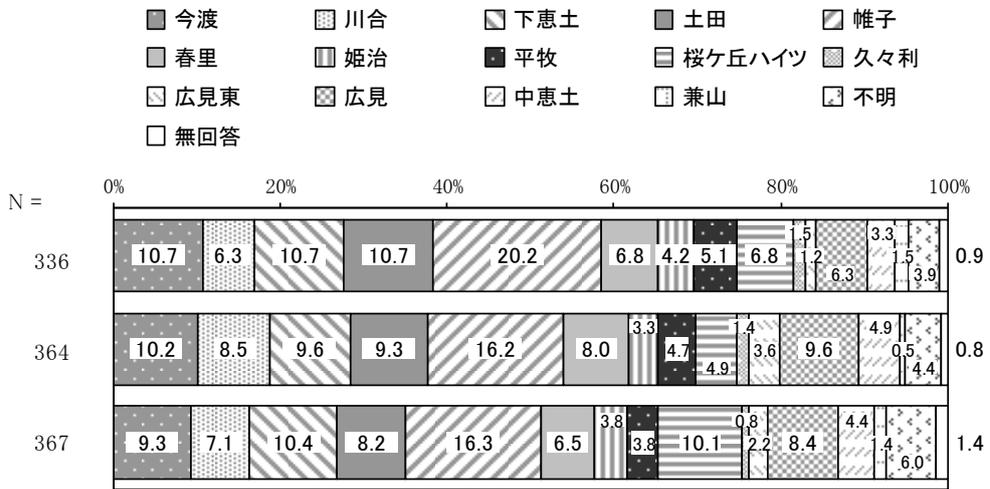


問5 あなたは、どちらにお住まいですか。(自治連合会単位)

「帷子」の割合が20.2%と最も高く、次いで「今渡」、「下恵土」、「土田」の割合が10.7%となっています。

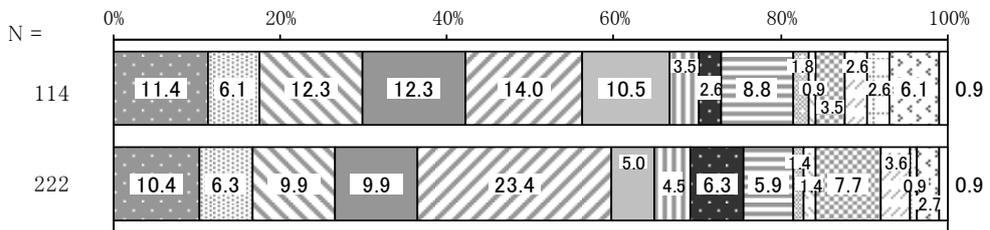
平成29年度調査と比較すると、「帷子」の割合が増加しています。

c



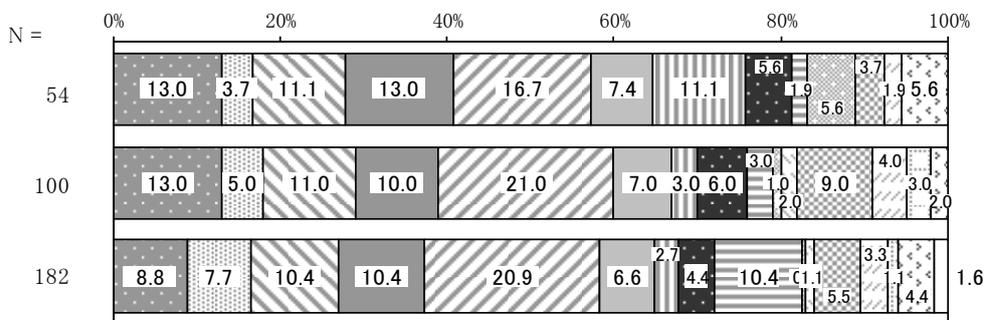
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「春里」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「帷子」の割合が高くなっています。



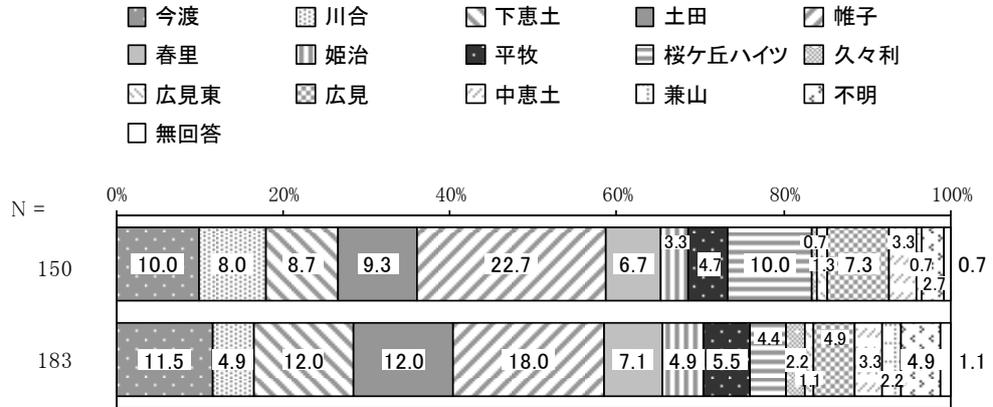
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、10歳代で「姫治」の割合が高くなっています。また、30歳代で「桜ヶ丘ハイツ」の割合が高くなっています。



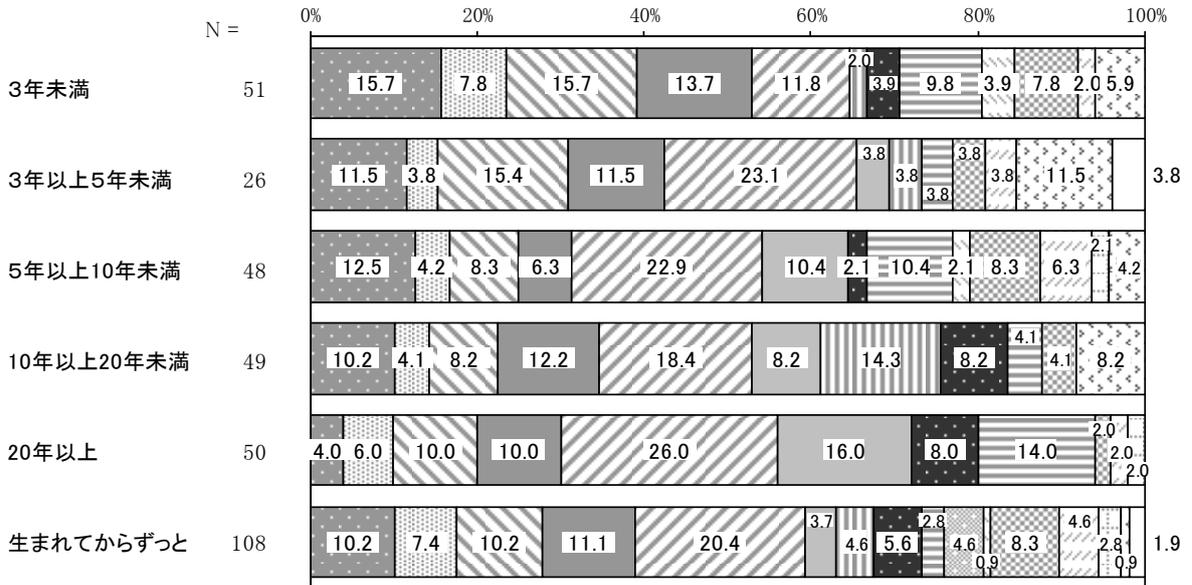
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「桜ヶ丘ハイツ」の割合が高くなっています。



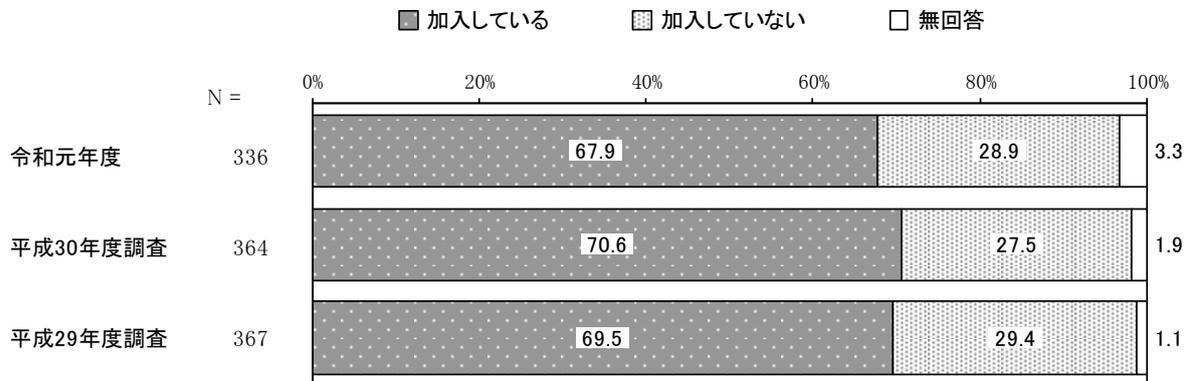
【居住年数別】

居住年数別でみると、居住年数が短くなるにつれ「今渡」の割合が高くなっています。また、他に比べ、『3年未満』『3年以上5年未満』をあわせた“5年未満”で「下恵土」の割合が高く、1割台半ばとなっています。



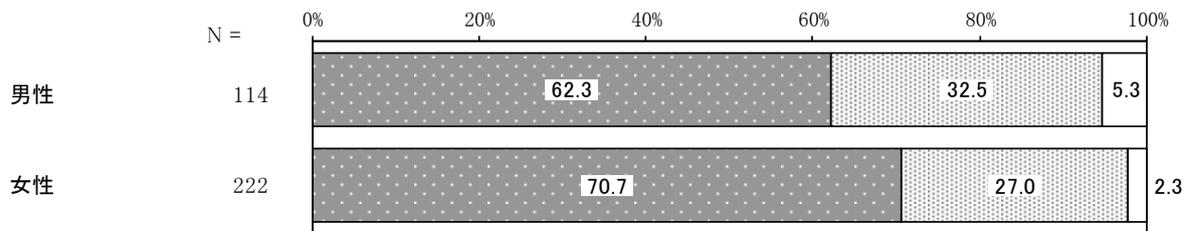
問6 あなたは、お住まいの地区の自治会に加入していますか。

「加入している」の割合が67.9%、「加入していない」の割合が28.9%となっています。平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



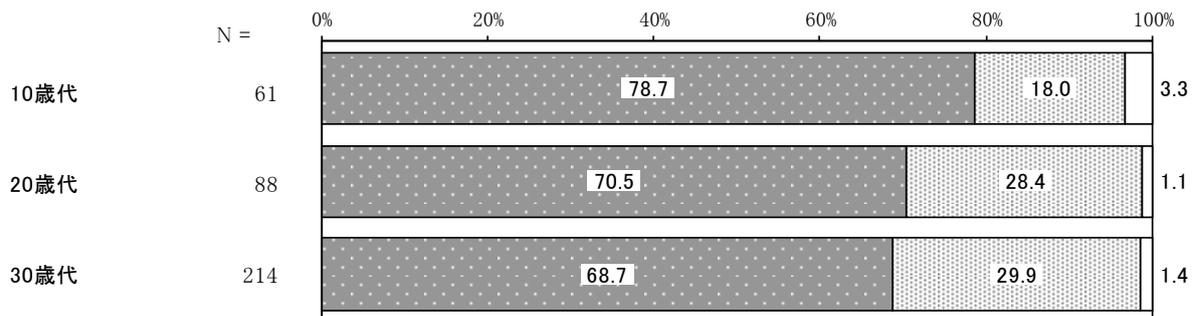
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「加入している」の割合が高く、約7割となっています。



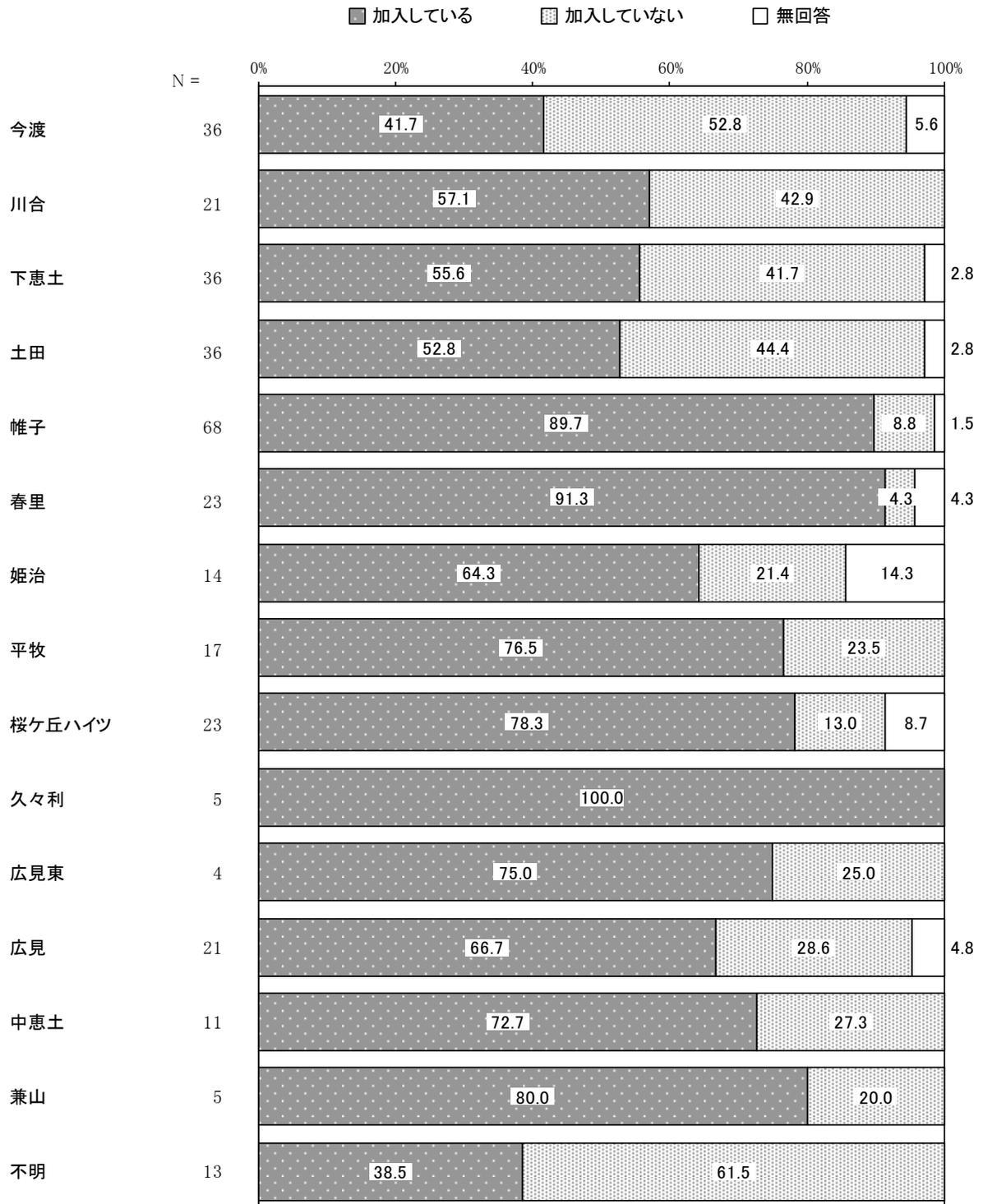
【年代別】

年代別で見ると、年代が高くなるにつれ「加入していない」の割合が高くなっています。



【居住地区別】

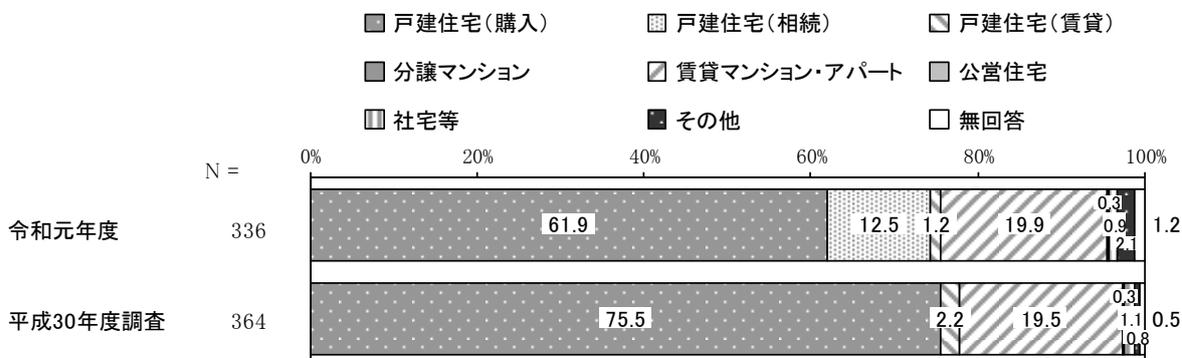
居住地区別で見ると、他の地区に比べ、帷子、春里で「加入している」の割合が高く、約9割となっています。また、今渡で「加入していない」の割合が高く、約5割となっています。



問7 お住まいの形態は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

「戸建住宅（購入）」の割合が61.9%と最も高く、次いで「賃貸マンション・アパート」の割合が19.9%、「戸建住宅（相続）」の割合が12.5%となっています。

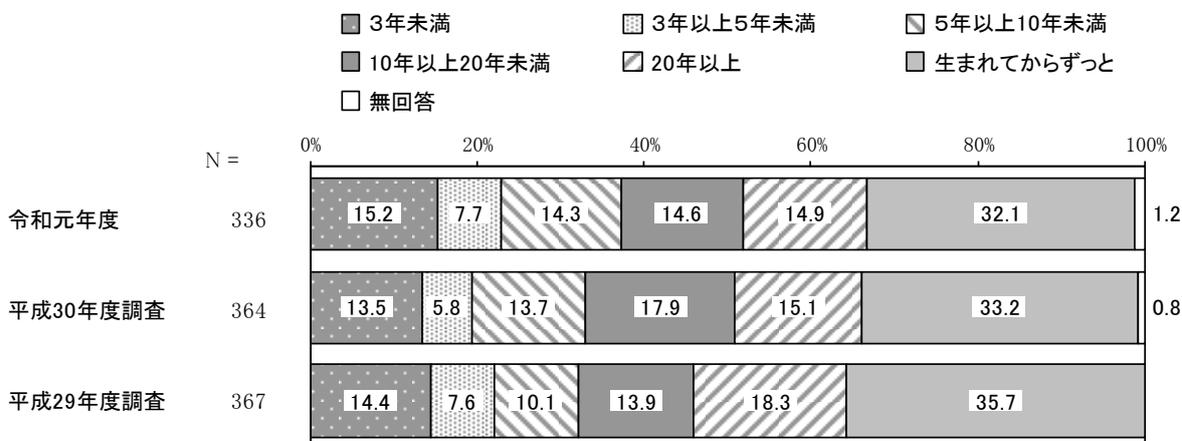
平成30年度調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



問8 あなたは、可児市(合併前の兼山町を含む)にお住まいになって何年ですか。

「生まれてからずっと」の割合が32.1%と最も高く、次いで「3年未満」の割合が15.2%、「20年以上」の割合が14.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「5年以上10年未満」の割合が増加し、「20年以上」「生まれてからずっと」の割合が減少しています。



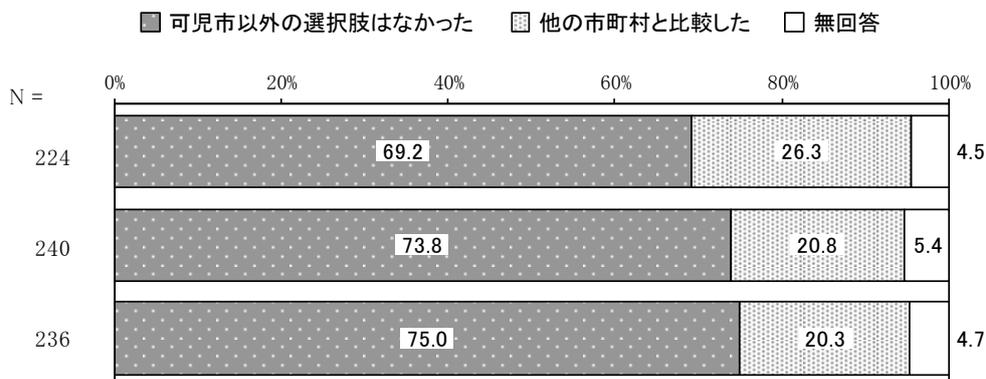
(2) 可児市への居住理由について

【問8で「3年未満」～「20年以上」を選択された方に伺います】

問9 どのように可児市を転居先には選ばれましたか。(〇は1つだけ)

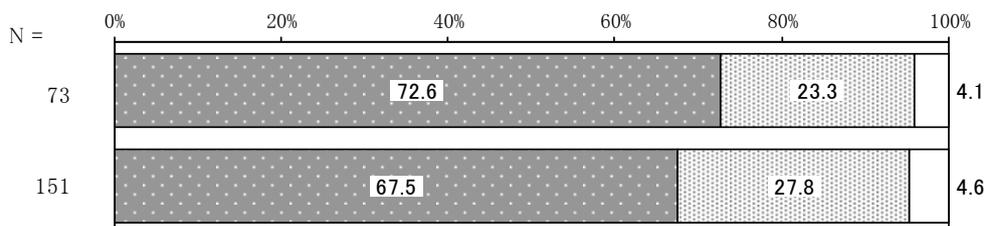
「可児市以外の選択肢はなかった」の割合が69.2%、「他の市町村と比較した」の割合が26.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「他の市町村と比較した」の割合が増加しています。



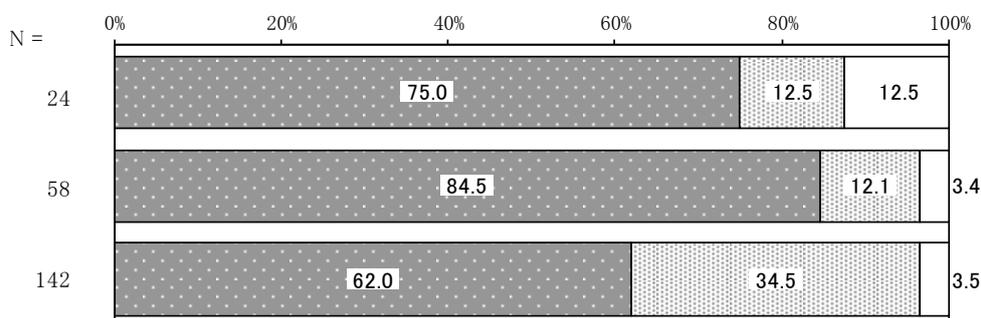
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「他の市町村と比較した」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別で見ると、20歳代以下に比べ、30歳代で「他の市町村と比較した」の割合が高くなっています。



<比較した市町村>

多治見市 (26 件)
春日井市 (10 件)
御嵩町 (4 件)
豊田市 (1 件)
丹羽郡 (1 件)
江南市 (1 件)
刈谷市 (1 件)

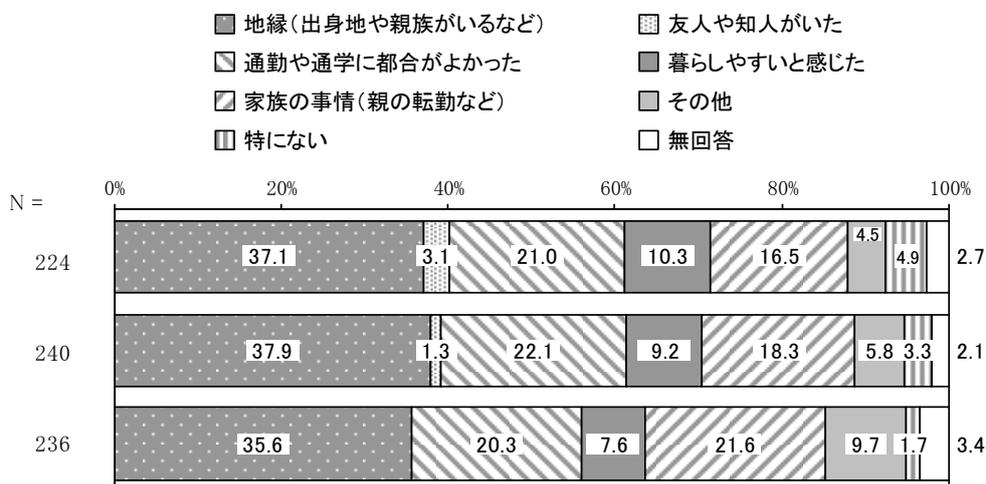
美濃加茂市 (20 件)
土岐市 (5 件)
名古屋市 (3 件)
扶桑町 (1 件)
大口町 (1 件)
岐阜市 (1 件)
設楽町 (1 件)

犬山市 (14 件)
各務原市 (5 件)
小牧市 (3 件)
長久手市 (1 件)
坂祝町 (1 件)
関市 (1 件)

【問8で「3年未満」～「20年以上」を選択された方に伺います】

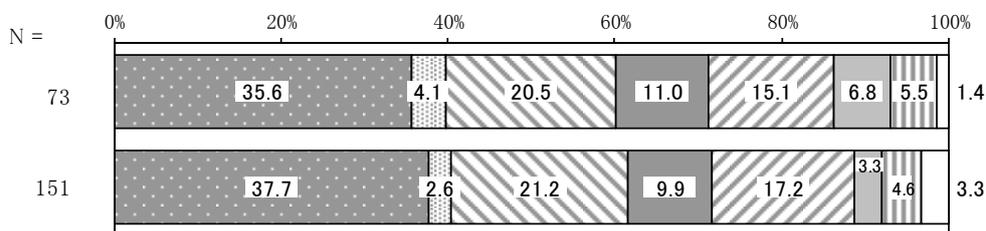
問10 可児市を選んだ理由は何ですか。(〇は1つだけ)

「地縁（出身地や親族がいるなど）」の割合が37.1%と最も高く、次いで「通勤や通学に都合がよかった」の割合が21.0%、「家族の事情（親の転勤など）」の割合が16.5%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「家族の事情（親の転勤など）」の割合が減少しています。



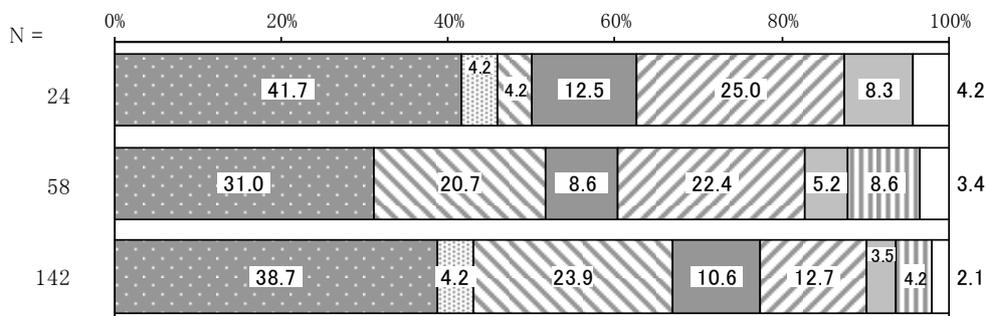
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



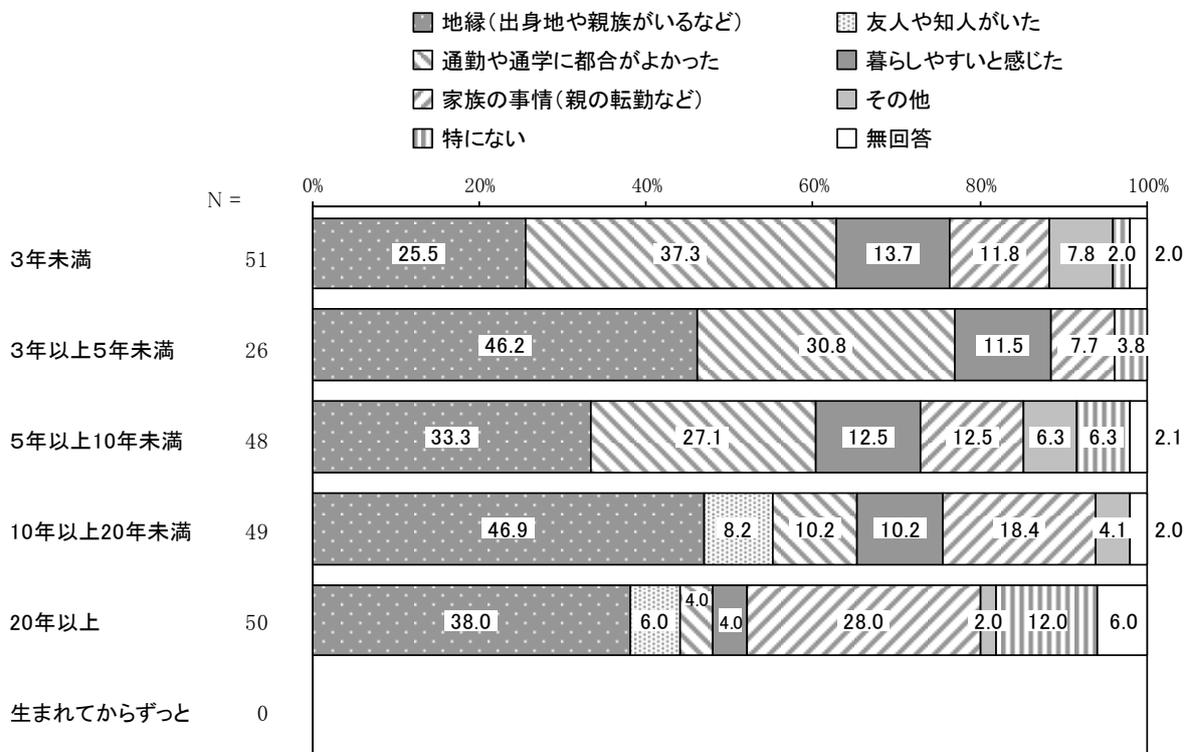
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「通勤や通学に都合がよかった」の割合が、年代が低くなるにつれ「家族の事情（親の転勤など）」の割合が高くなっています。



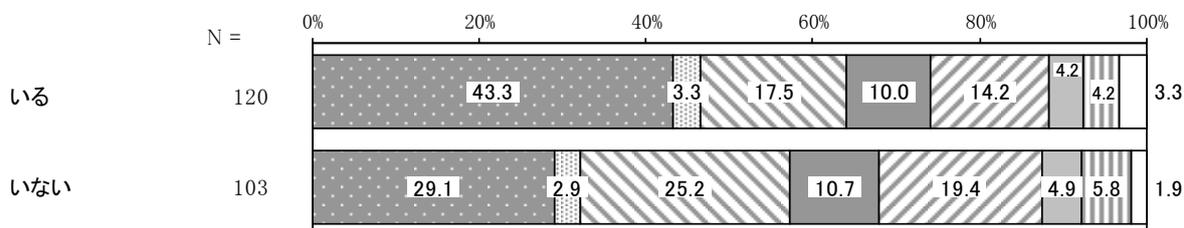
【居住年数別】

居住年数別でみると、年数が短くなるにつれ「通勤や通学に都合がよかった」の割合が高くなっており、3年未満で約4割となっています。また、他に比べ、20年以上で「家族の事情（親の転勤など）」の割合が高くなっています。



【子どもの有無別】

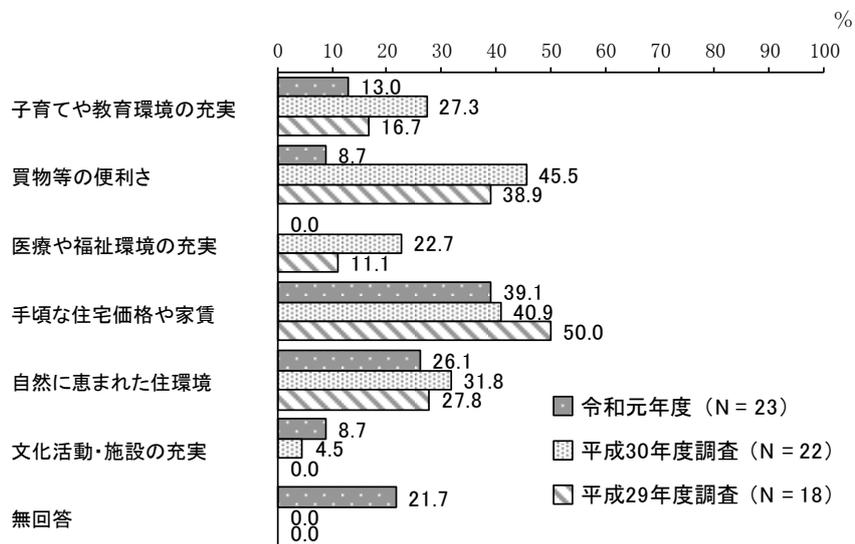
子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「地縁（出身地や親族がいるなど）」の割合が高く、約4割となっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「通勤や通学に都合がよかった」「家族の事情（親の転勤など）」の割合が高くなっています。



暮らしやすいと感じた理由

「手頃な住宅価格や家賃」の割合が39.1%と最も高く、次いで「自然に恵まれた住環境」の割合が26.1%、「子育てや教育環境の充実」の割合が13.0%となっています。

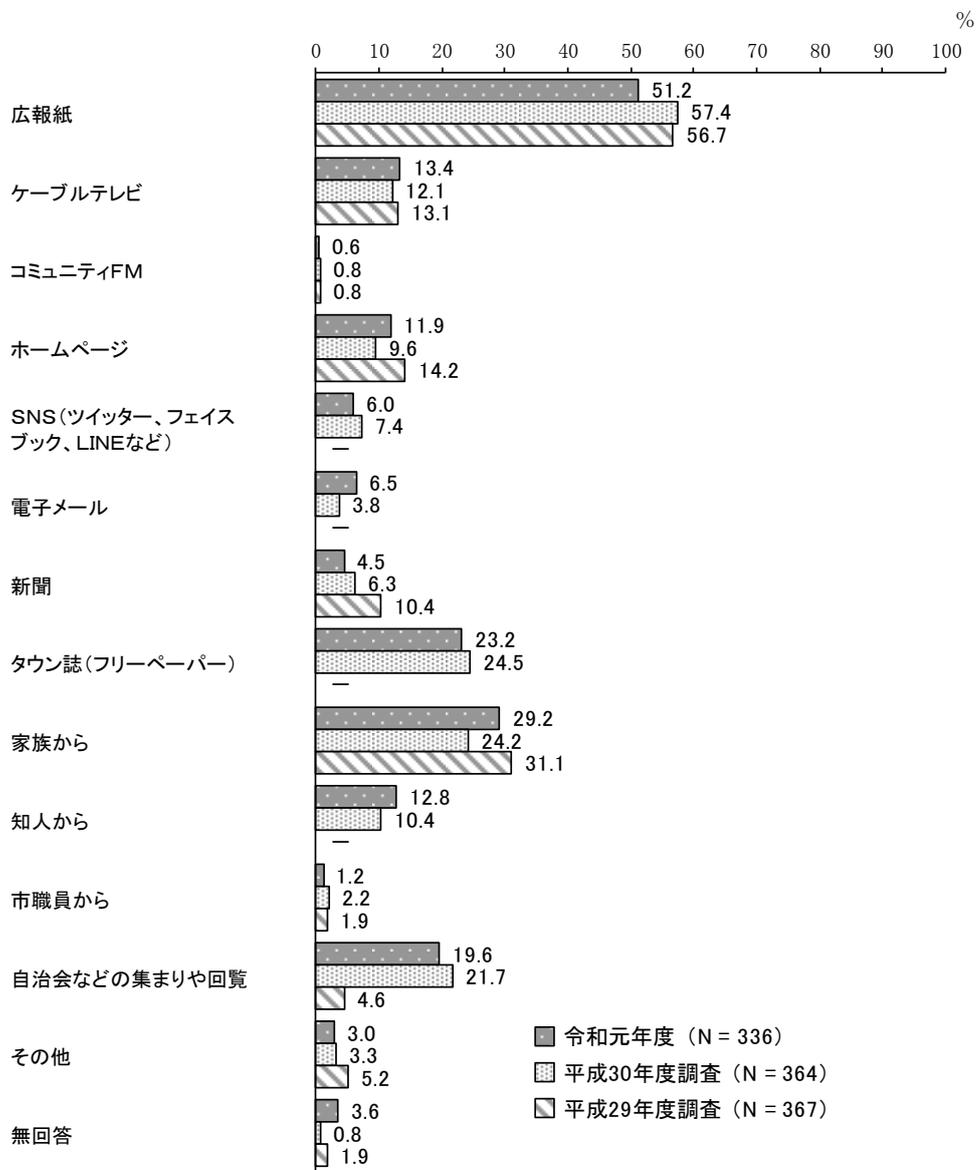
平成30年度調査と比較すると、「子育てや教育環境の充実」「買物等の便利さ」「医療や福祉環境の充実」「自然に恵まれた住環境」の割合が減少しています。



問11 あなたは日頃、市の情報をどのように収集していますか。

「広報紙」の割合が51.2%と最も高く、次いで「家族から」の割合が29.2%、「タウン誌（フリーペーパー）」の割合が23.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「家族から」の割合が増加し、「広報紙」の割合が減少しています。



※平成29年度調査には「SNS（ツイッター、フェイスブック、LINEなど）」「電子メール」「タウン誌（フリーペーパー）」「知人から」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「新聞」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「タウン誌(フリーペーパー)」「自治会などの集まりや回覧」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	広報紙	ケーブルテレビ	コミュニティFM	ホームページ	SNS(ツイッター、フェイスブック、LINEなど)	電子メール	新聞	タウン誌(フリーペーパー)	家族から	知人から	市職員から	自治会などの集まりや回覧	その他	無回答
男性	114	48.2	12.3	0.9	8.8	4.4	5.3	8.8	19.3	30.7	11.4	0.9	12.3	5.3	5.3
女性	222	52.7	14.0	0.5	13.5	6.8	7.2	2.3	25.2	28.4	13.5	1.4	23.4	1.8	2.7

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「広報紙」「ホームページ」「電子メール」「知人から」「自治会などの集まりや回覧」の割合が高くなっています。また、年代が低くなるにつれ「ケーブルテレビ」「家族から」の割合が高くなっています。

単位：%

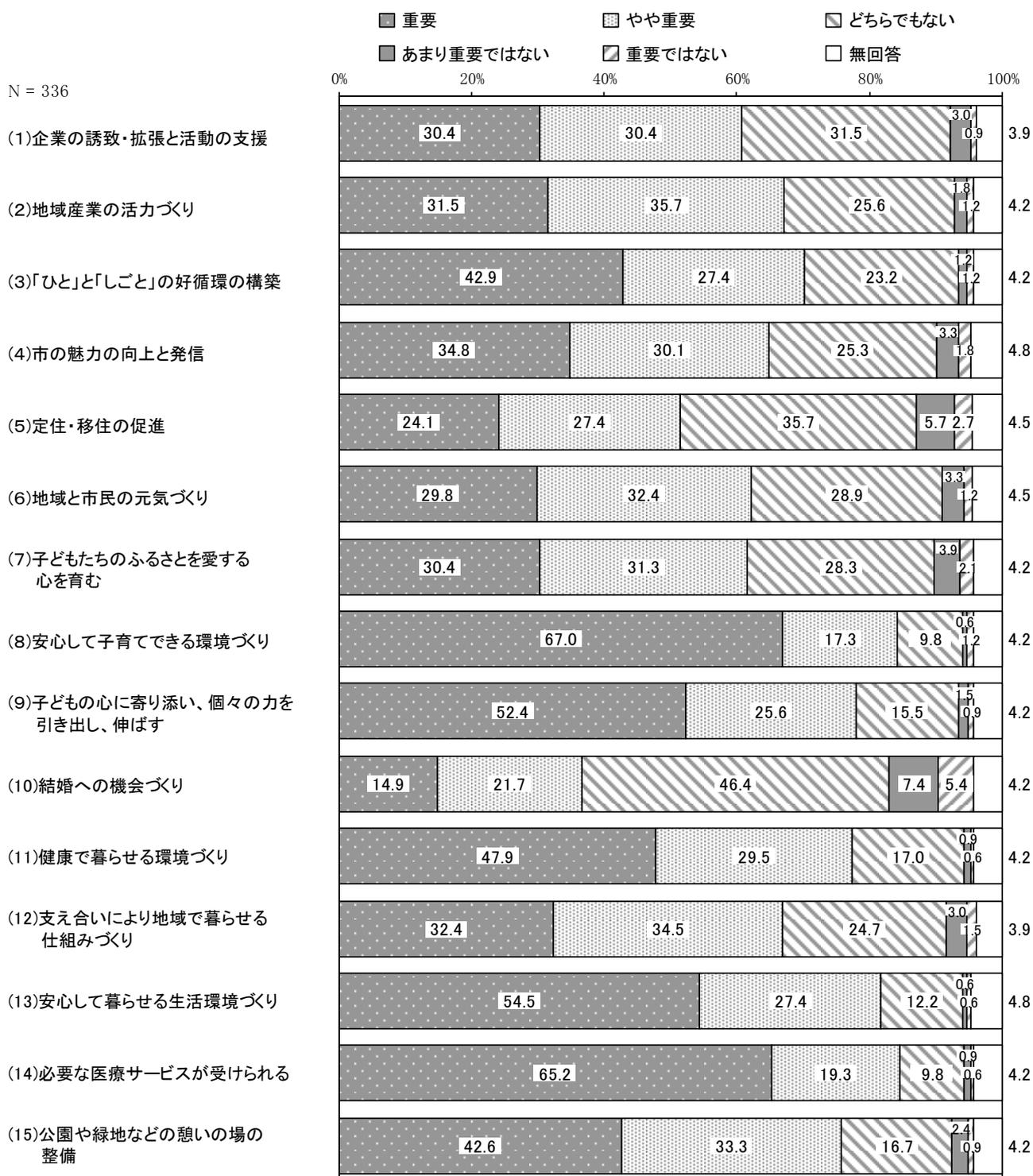
区分	有効回答数(件)	広報紙	ケーブルテレビ	コミュニティFM	ホームページ	SNS(ツイッター、フェイスブック、LINEなど)	電子メール	新聞	タウン誌(フリーペーパー)	家族から	知人から	市職員から	自治会などの集まりや回覧	その他	無回答
10歳代	54	33.3	18.5	—	3.7	3.7	1.9	7.4	13.0	44.4	7.4	—	5.6	1.9	3.7
20歳代	100	39.0	15.0	—	9.0	7.0	5.0	4.0	24.0	32.0	11.0	—	11.0	4.0	5.0
30歳代	182	63.2	11.0	1.1	15.9	6.0	8.8	3.8	25.8	23.1	15.4	2.2	28.6	2.7	2.7

(3) 施策の重要度と満足度について

問 12 可児市総合戦略の各施策について、「重要度」と「満足度」をおたずねします。
5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

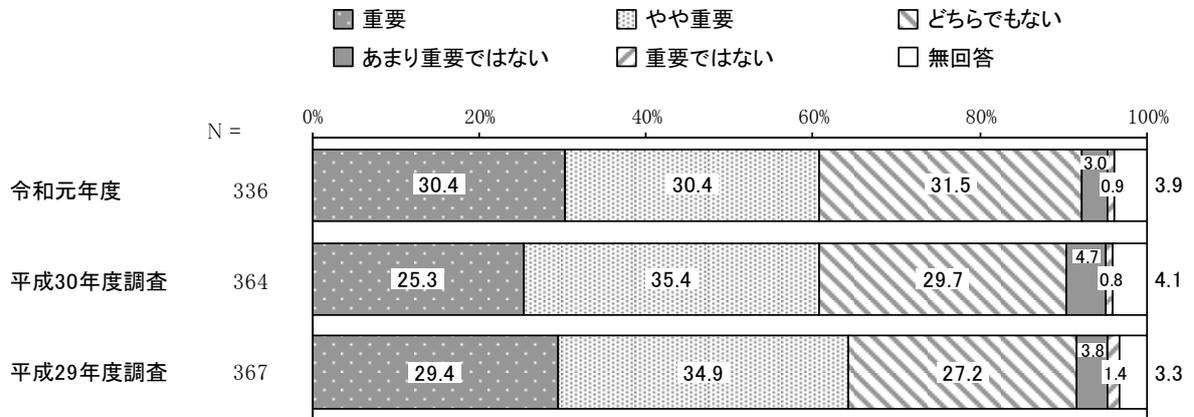
① 重要度

『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(14)必要な医療サービスが受けられる』で「重要」と「やや重要」をあわせた“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。一方、『(10)結婚への機会づくり』で「あまり重要ではない」と「重要ではない」をあわせた“重要ではない”の割合が高くなっています。



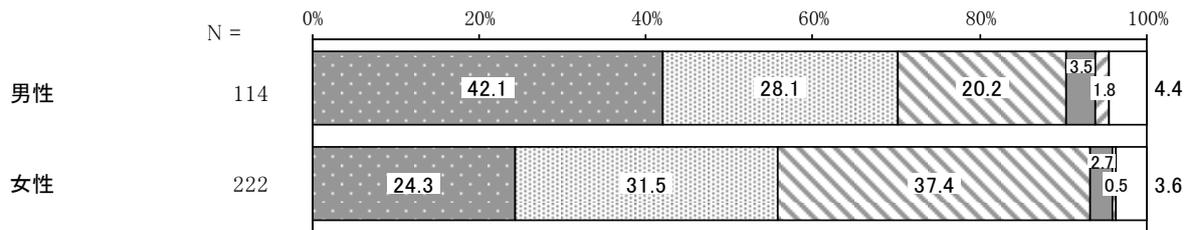
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援

“重要”の割合が60.8%、“重要ではない”の割合が3.9%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



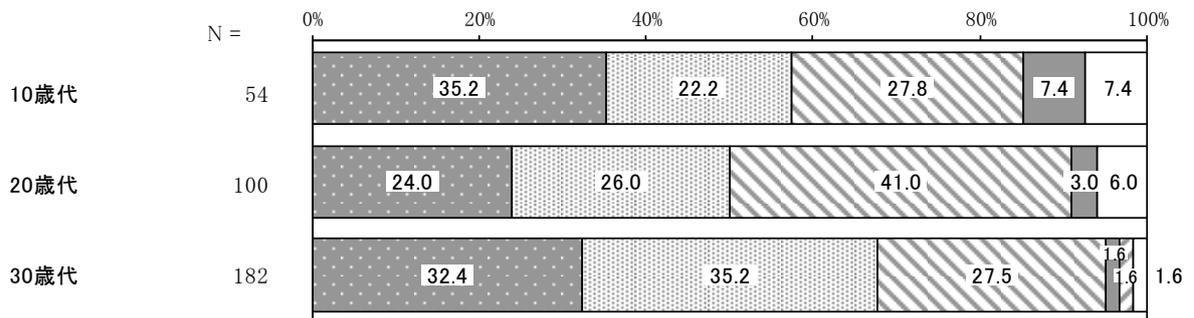
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



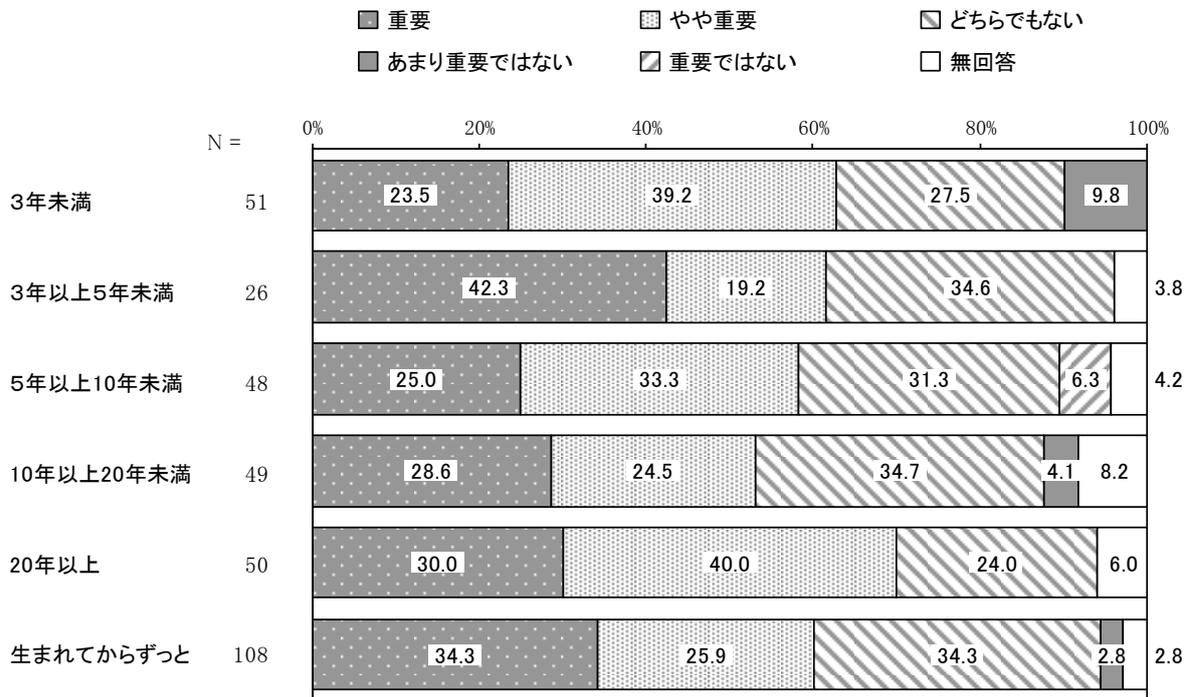
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



【居住年数別】

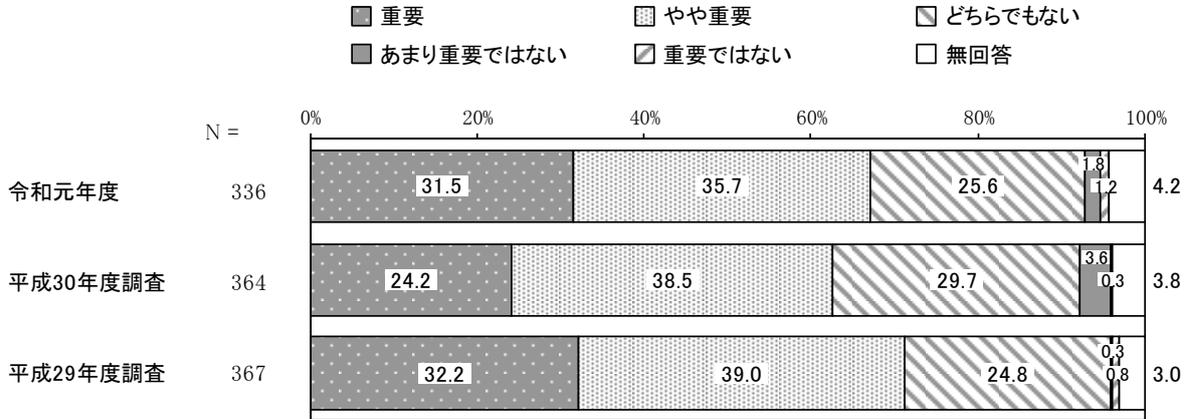
居住年数別でみると、他に比べ、20年以上で“重要”の割合が高く、7割となっています。



(2) 地域産業の活力づくり

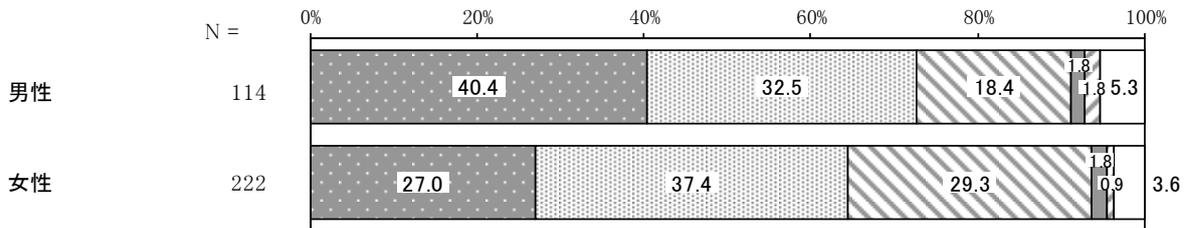
“重要”の割合が67.2%、“重要ではない”の割合が3.0%となっています。

平成29年度調査、平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



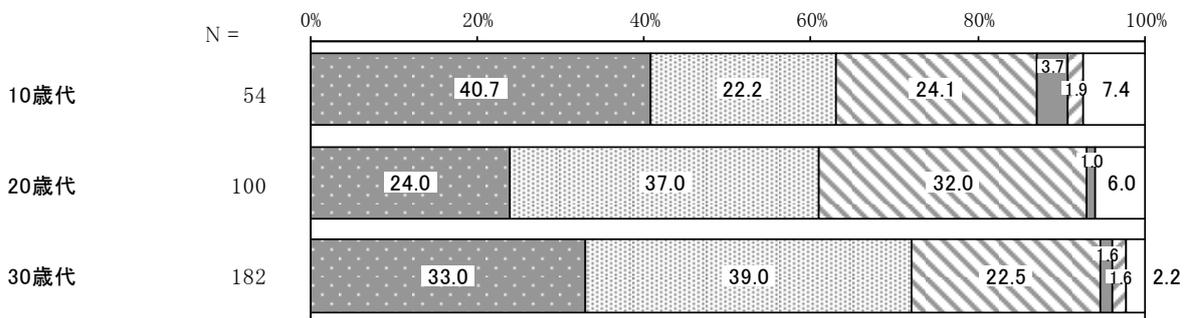
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



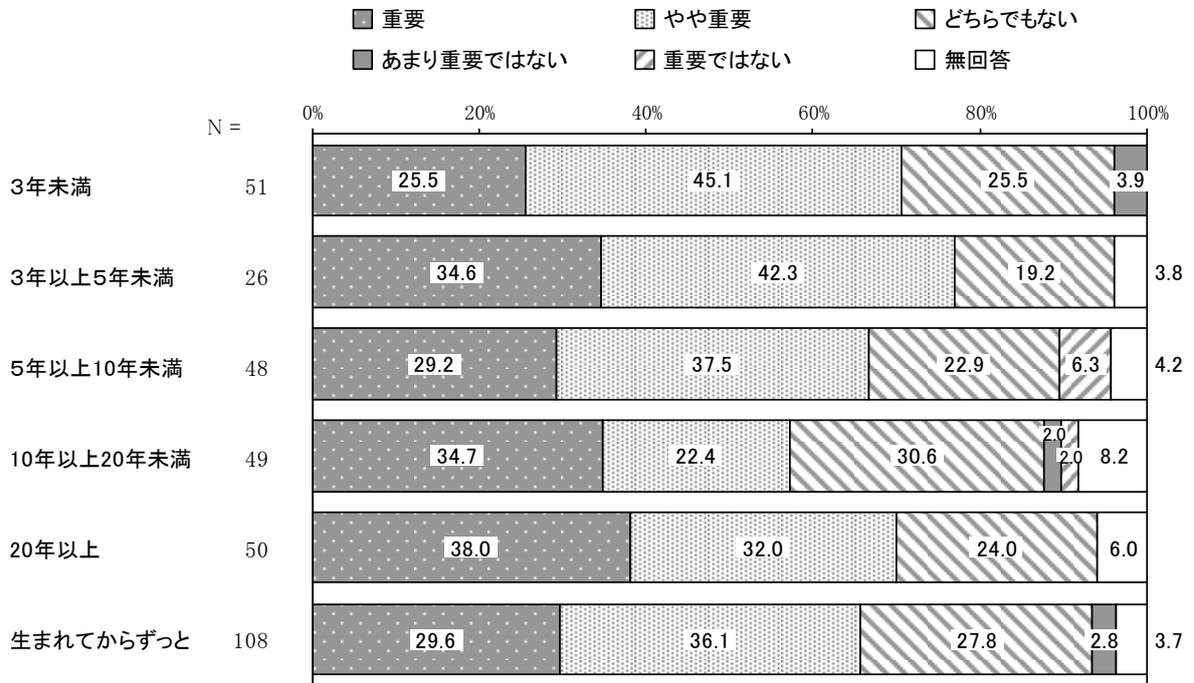
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



【居住年数別】

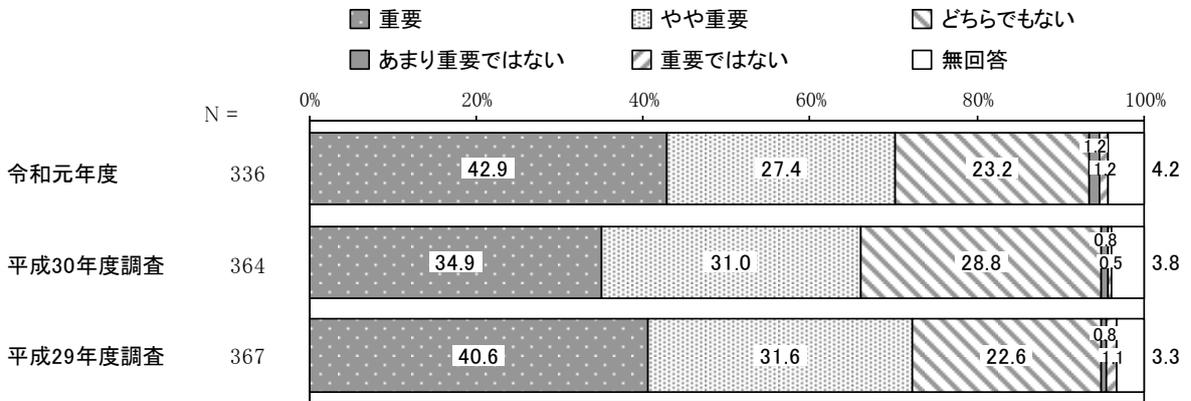
居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築

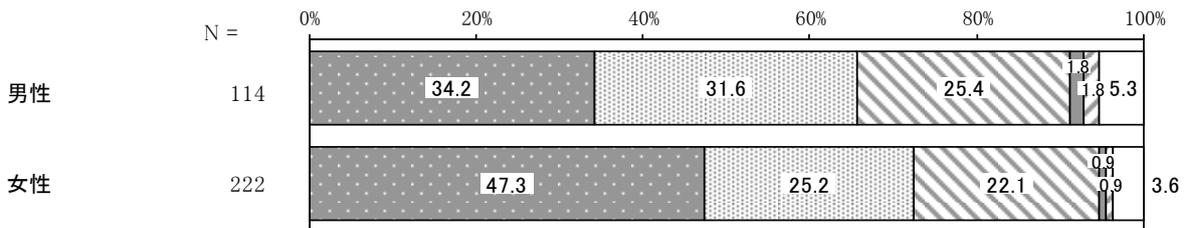
“重要”の割合が70.7%、“重要ではない”の割合が2.4%となっています。

平成29年度調査、平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



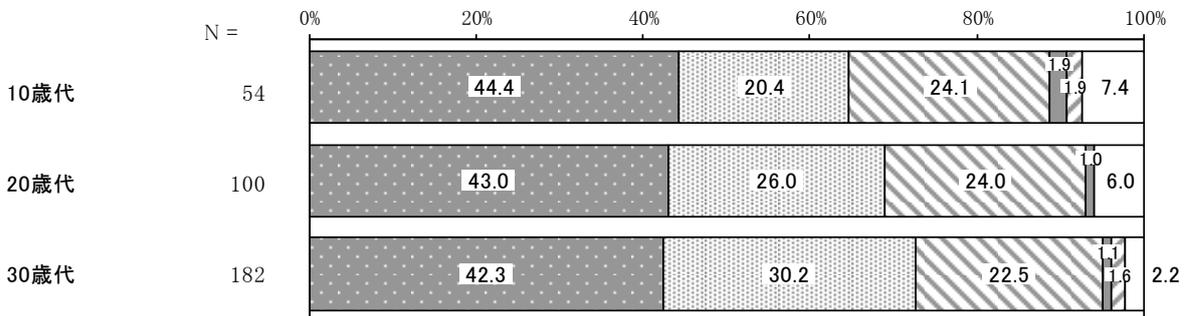
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



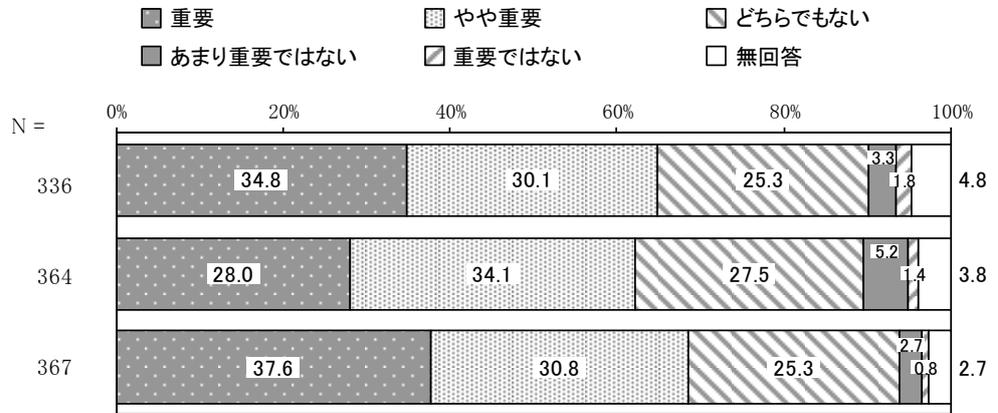
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で7割を超えています。



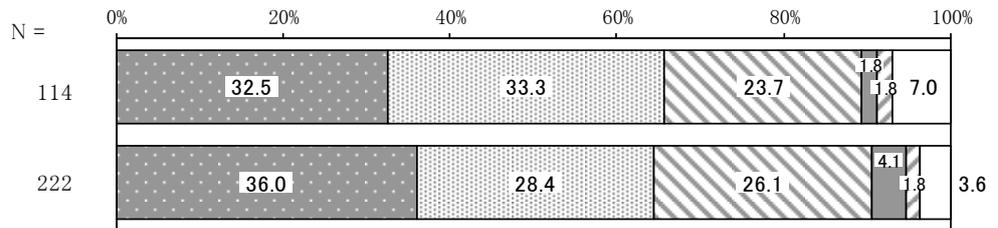
(4) 市の魅力の向上と発信

“重要”の割合が64.9%、“重要ではない”の割合が5.1%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



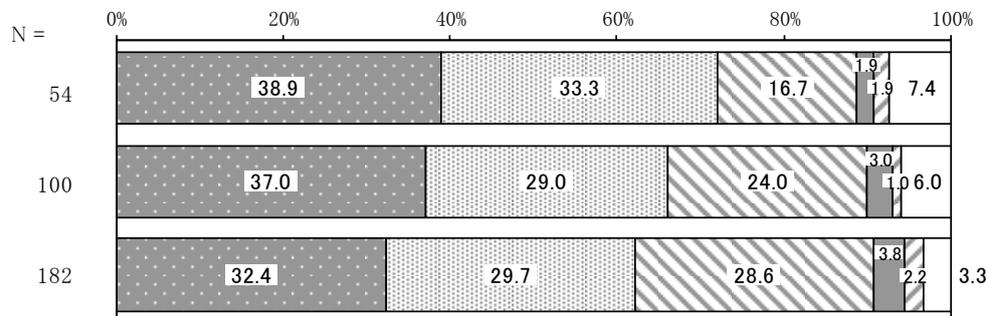
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



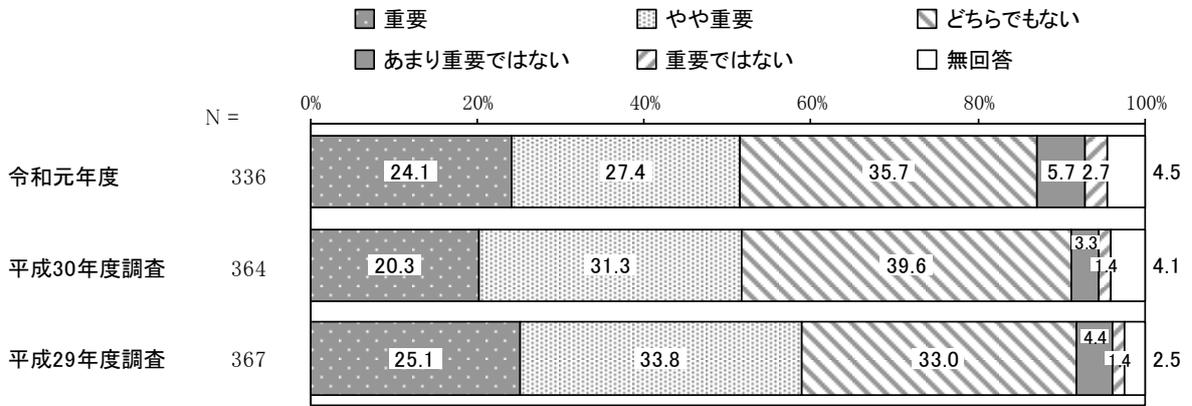
【年代別】

年代でみると、年代が低くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、10歳代で約7割となっています。



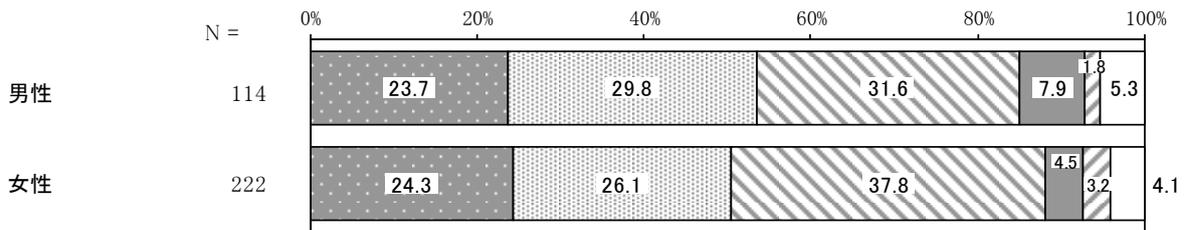
(5) 定住・移住の促進

“重要”の割合が51.5%、“重要ではない”の割合が8.4%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、“重要”の割合が減少しています。



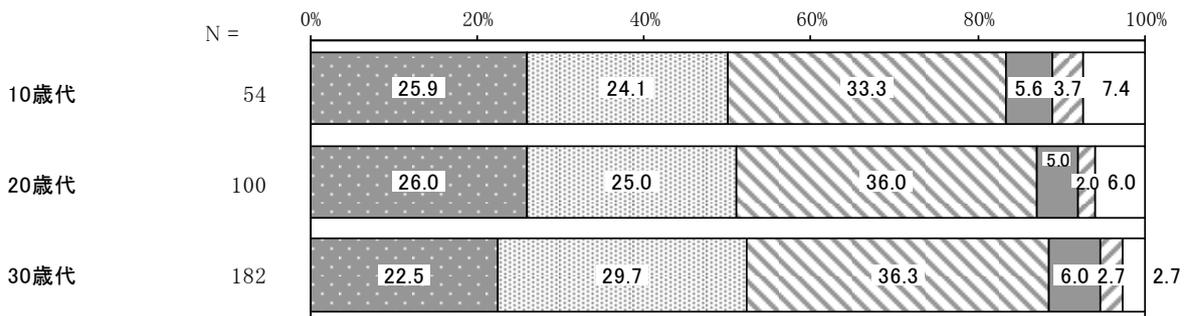
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



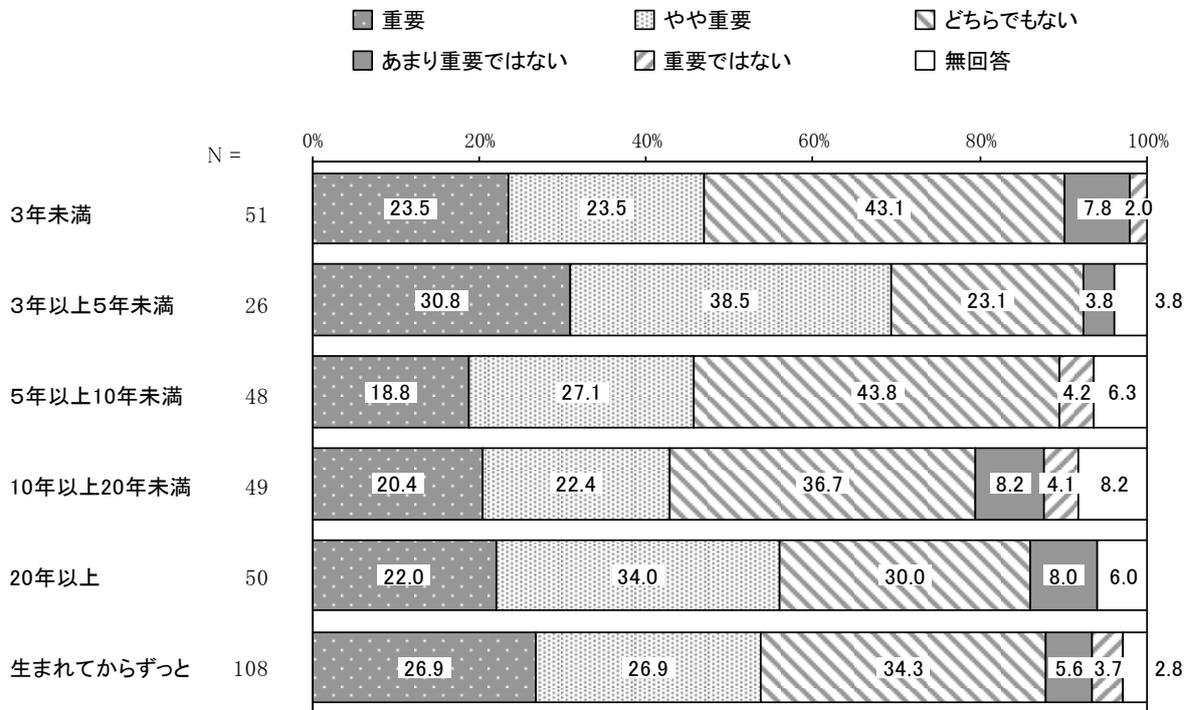
【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。



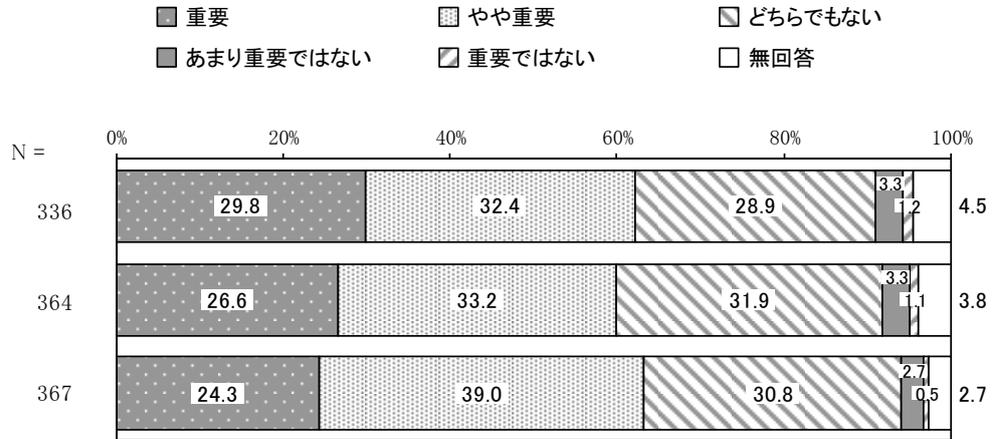
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



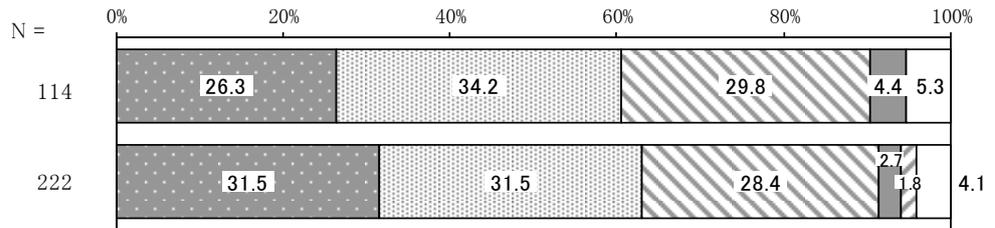
(6) 地域と市民の元気づくり

“重要”の割合が62.2%、“重要ではない”の割合が4.5%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



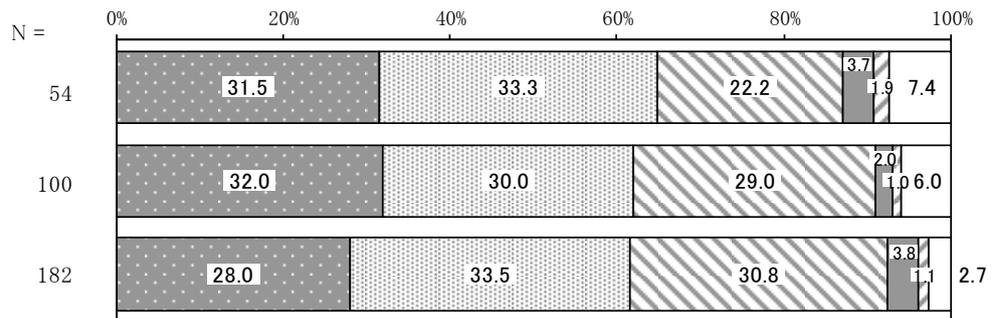
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



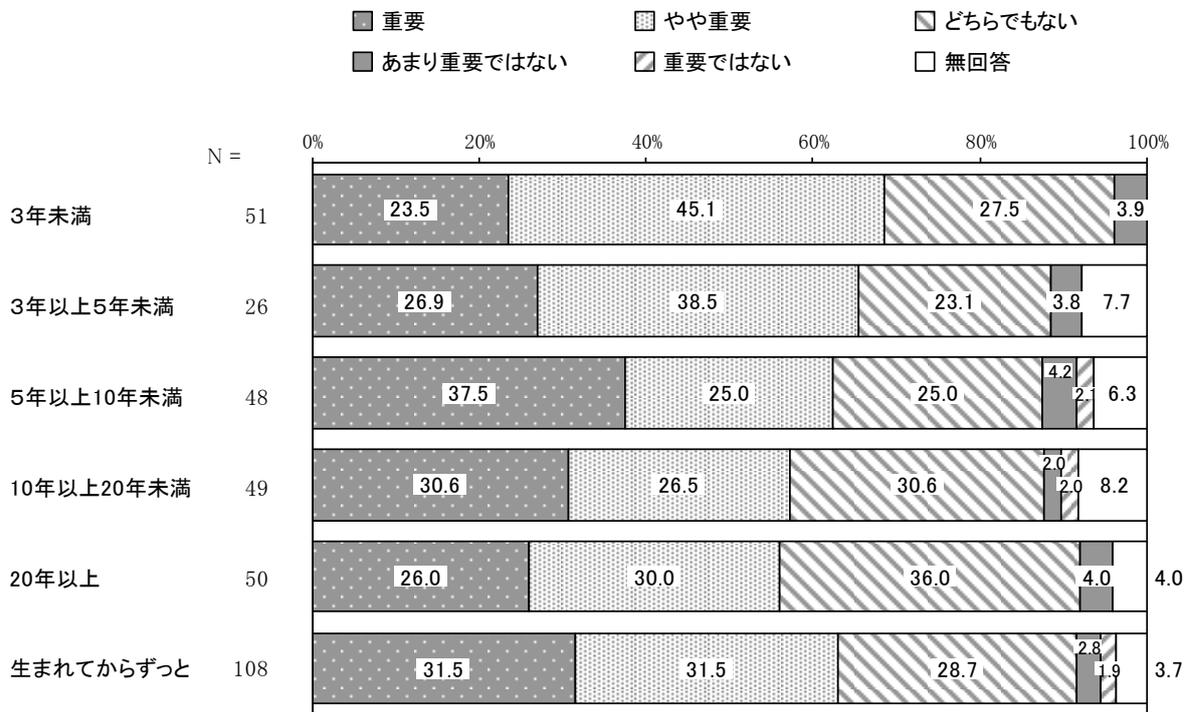
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“重要”の割合が高くなっています。



【居住年数別】

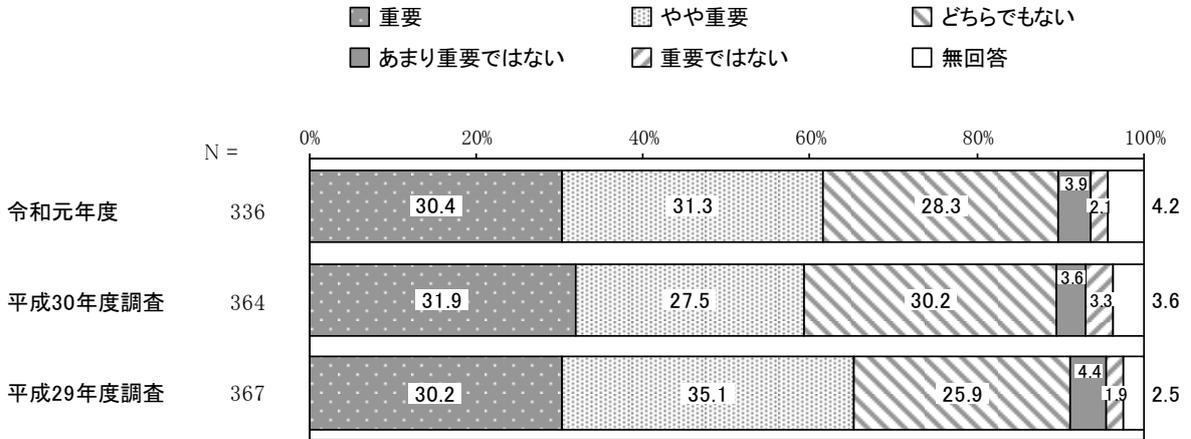
居住年数別でみると、他に比べ、3年未満で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む

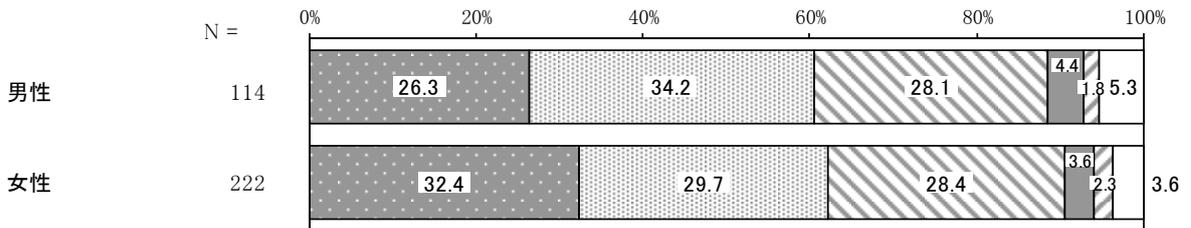
“重要”の割合が61.7%、“重要ではない”の割合が6.0%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



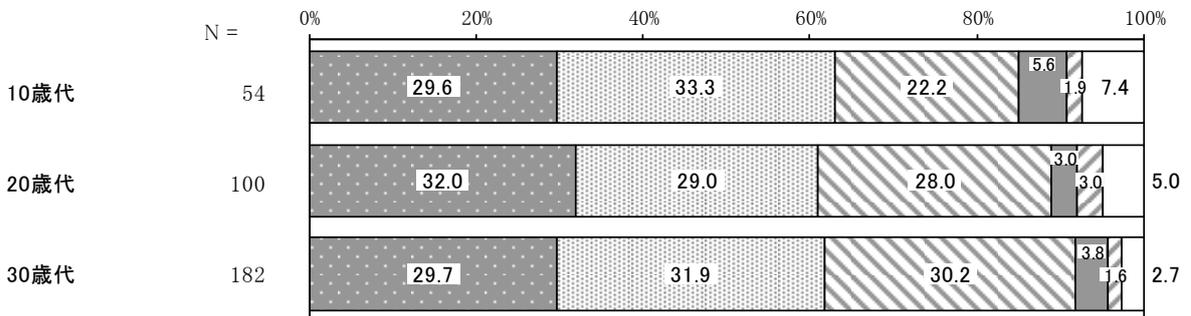
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



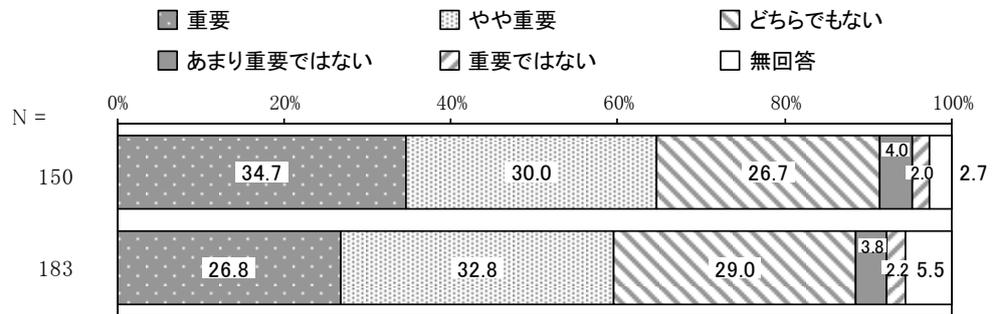
【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。



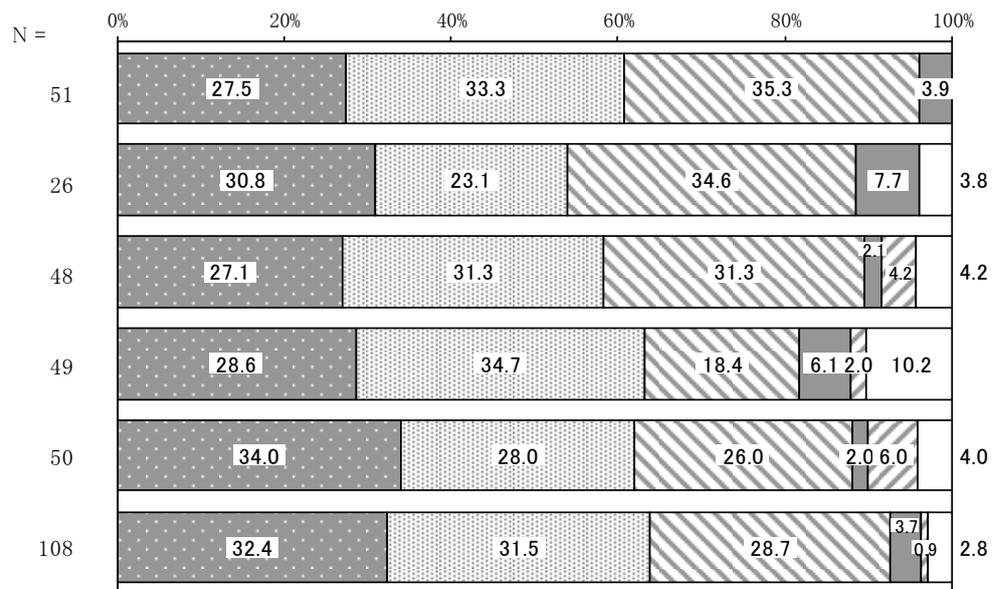
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、6割台半ばとなっています。



【居住年数別】

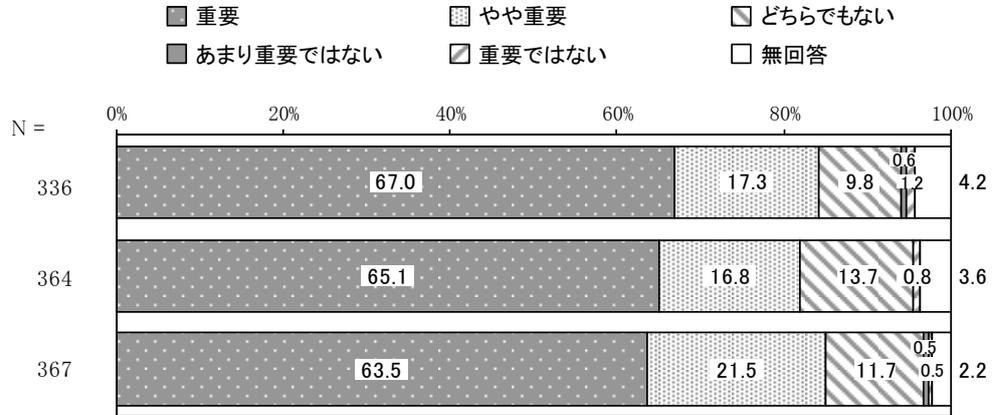
居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が低く、約5割となっています。



(8) 安心して子育てできる環境づくり

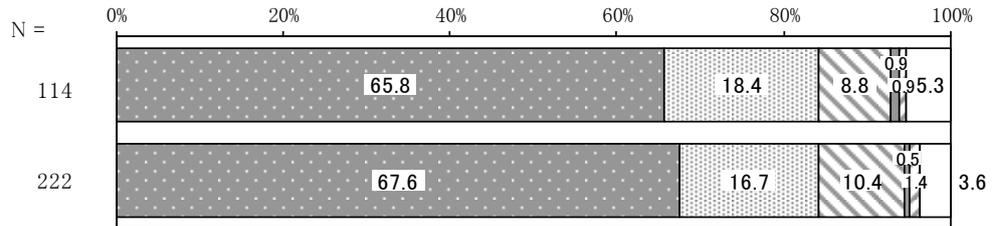
“重要”の割合が84.3%、“重要ではない”の割合が1.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



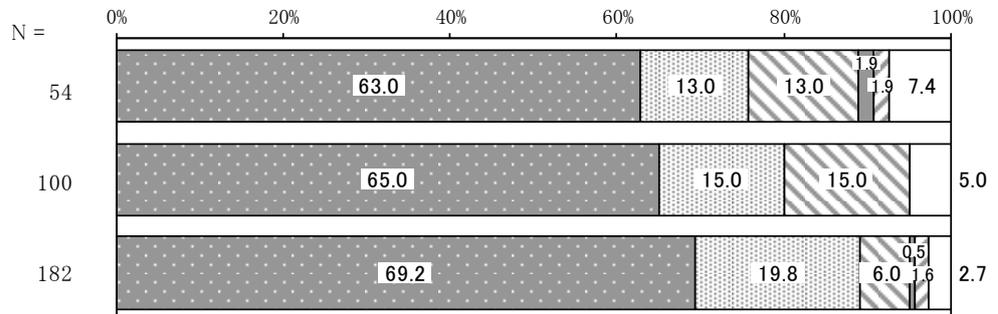
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



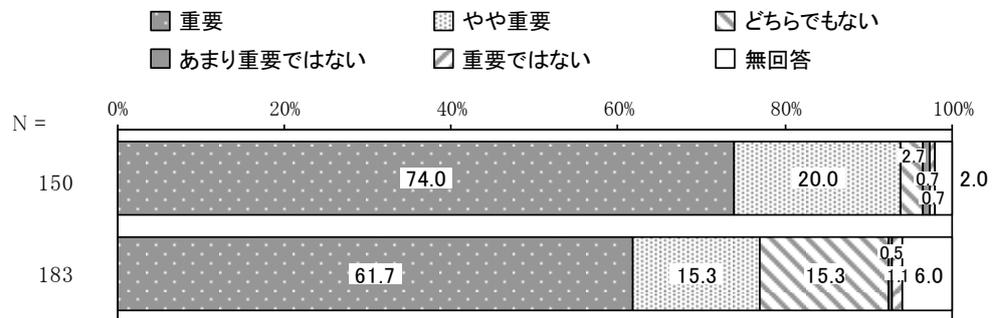
【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



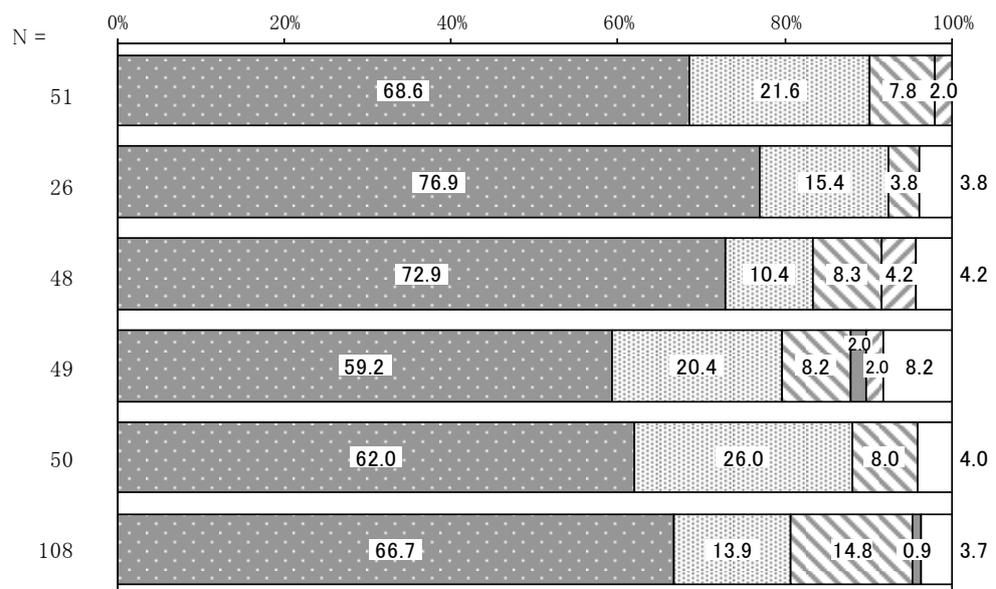
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、9割台半ばとなっています。



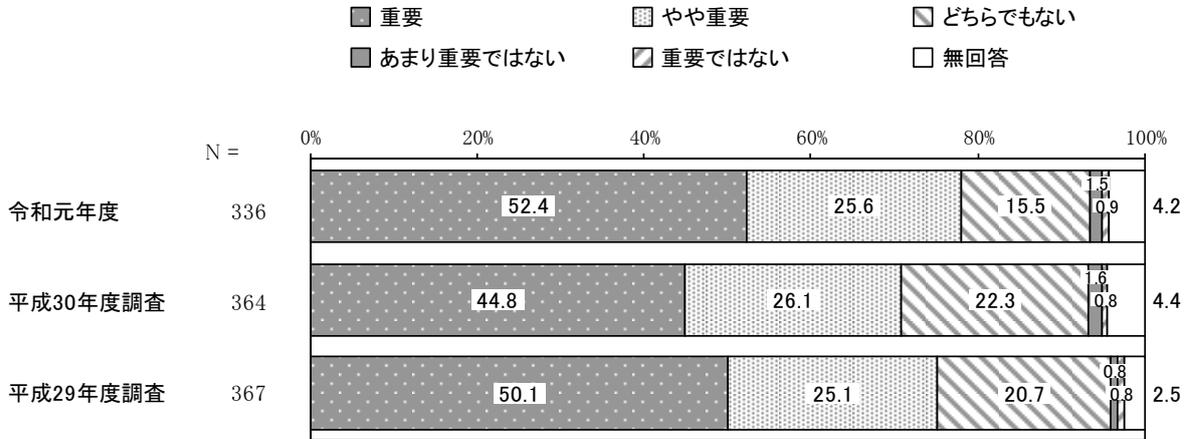
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、『3年未満』と『3年以上5年未満』をあわせた“5年未満”、20年以上で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



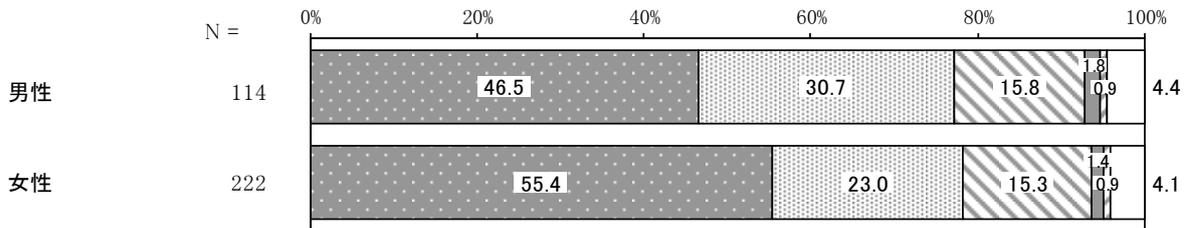
(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす

“重要”の割合が78.0%、“重要ではない”の割合が2.4%となっています。
平成30年度調査と比較すると、“重要”の割合が増加しています。



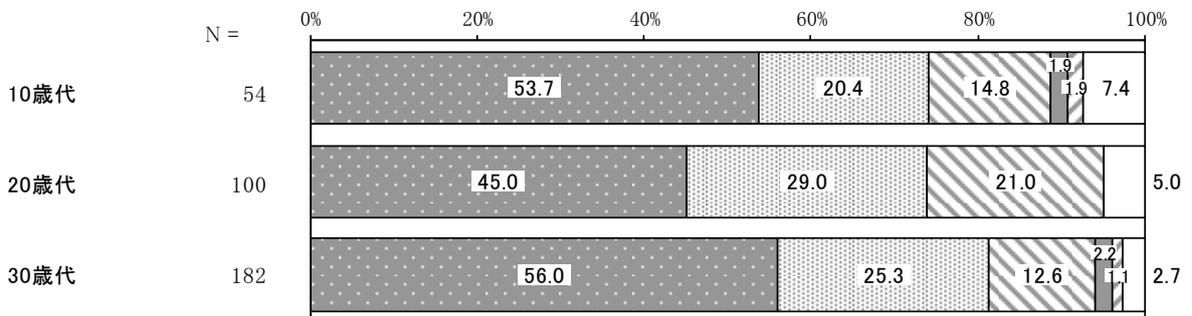
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「重要」の割合が高く、5割台半ばとなっています。



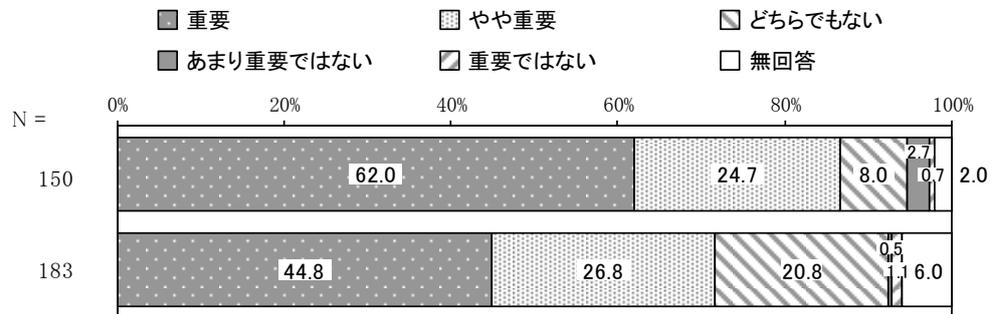
【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



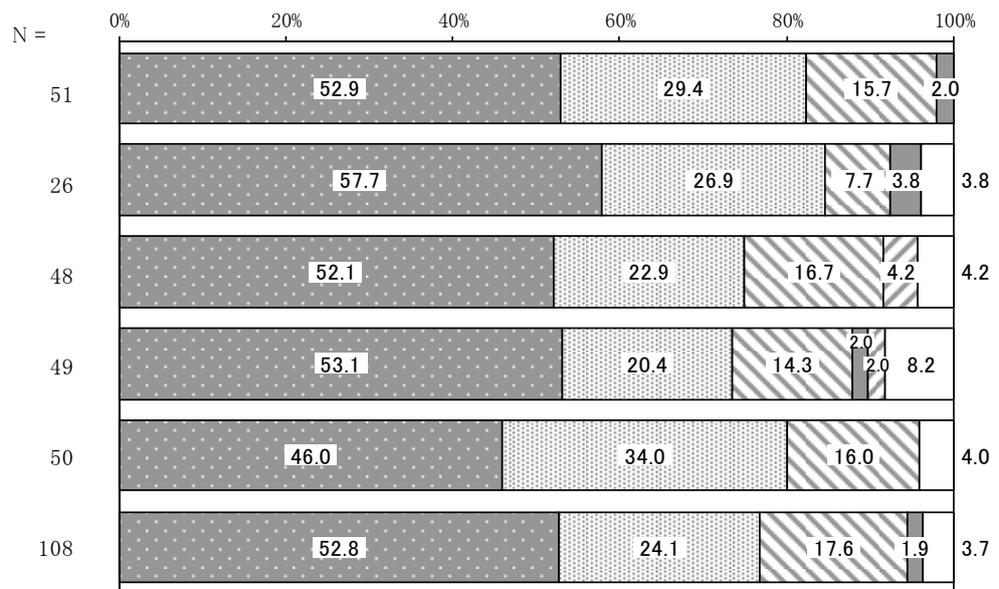
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



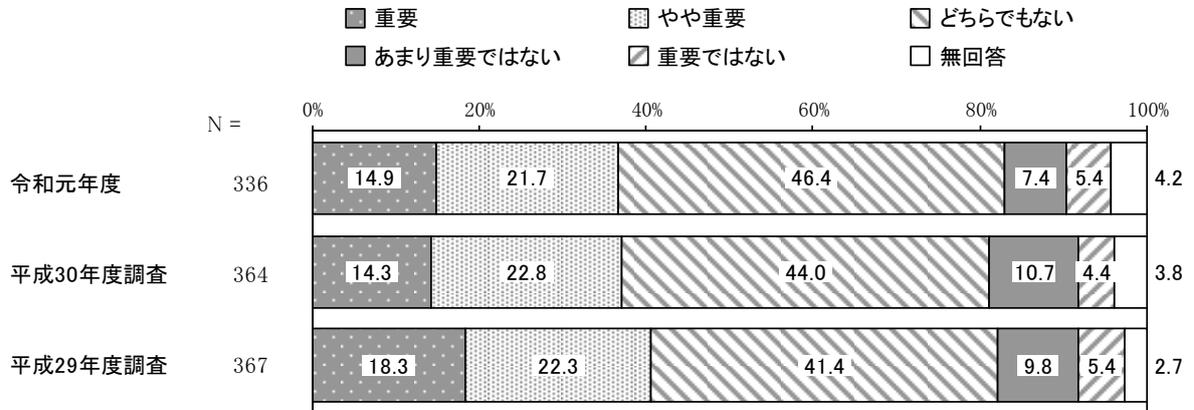
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



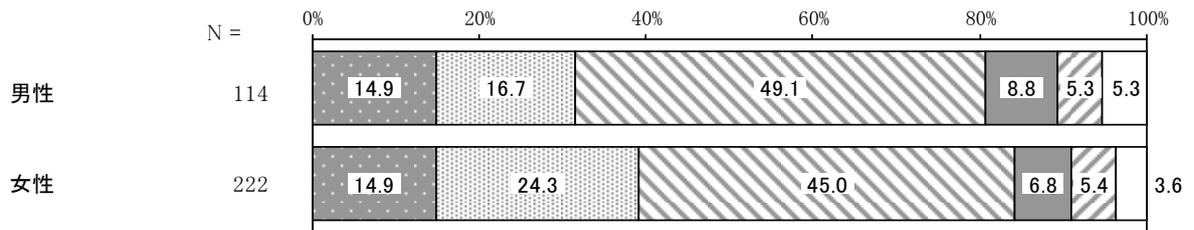
(10) 結婚への機会づくり

“重要”の割合が36.6%、“重要ではない”の割合が12.8%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



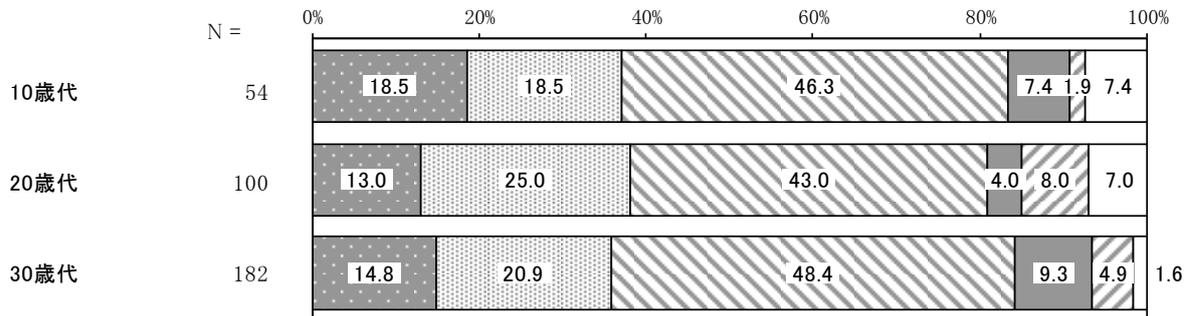
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約4割となっています。



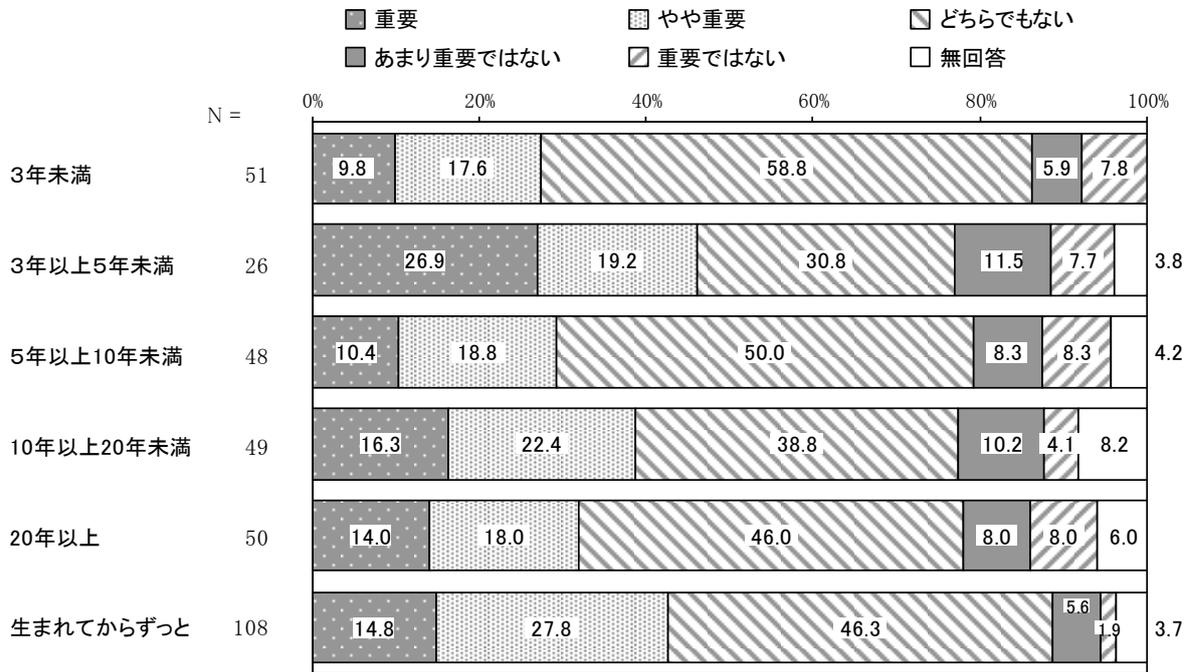
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要ではない”の割合が高くなっています。



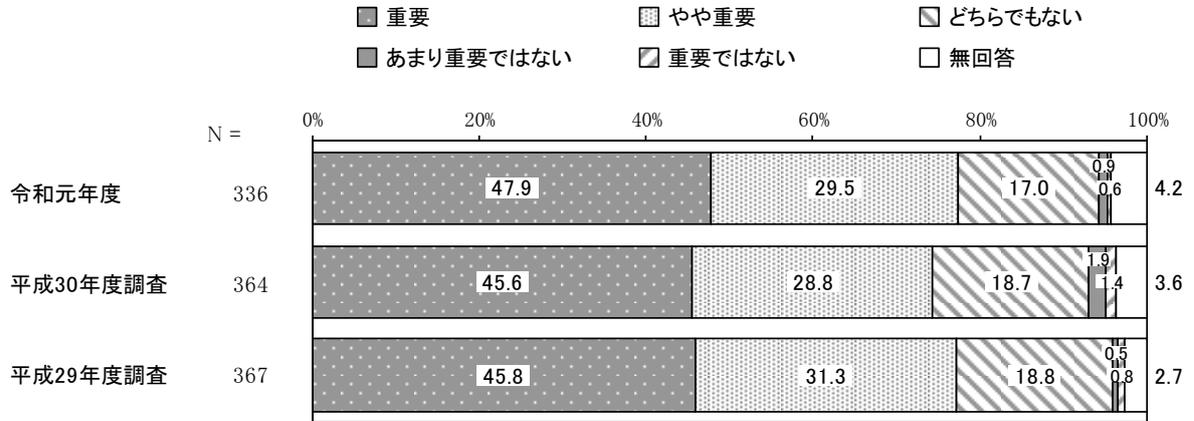
【居住年数別】

居住年数別でみると、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、4割台半ばとなっています。



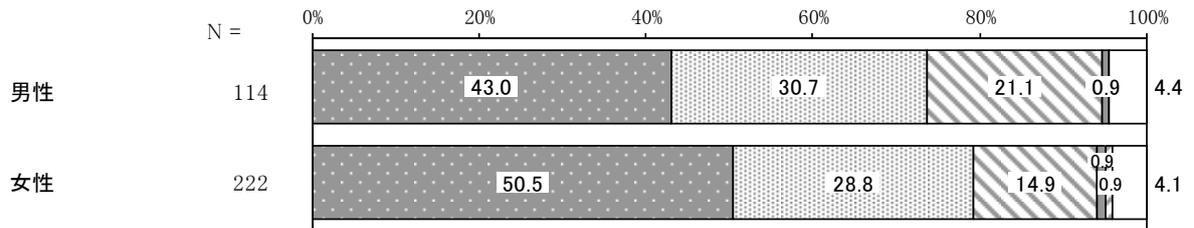
(11) 健康で暮らせる環境づくり

“重要”の割合が77.4%、“重要ではない”の割合が1.5%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



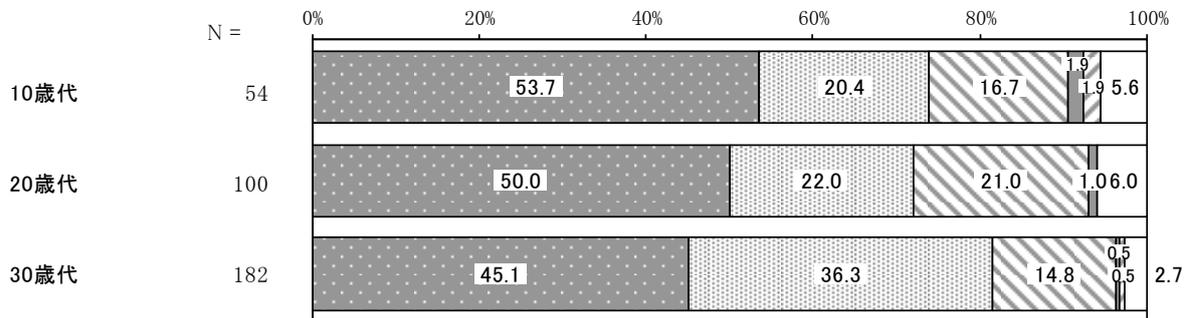
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



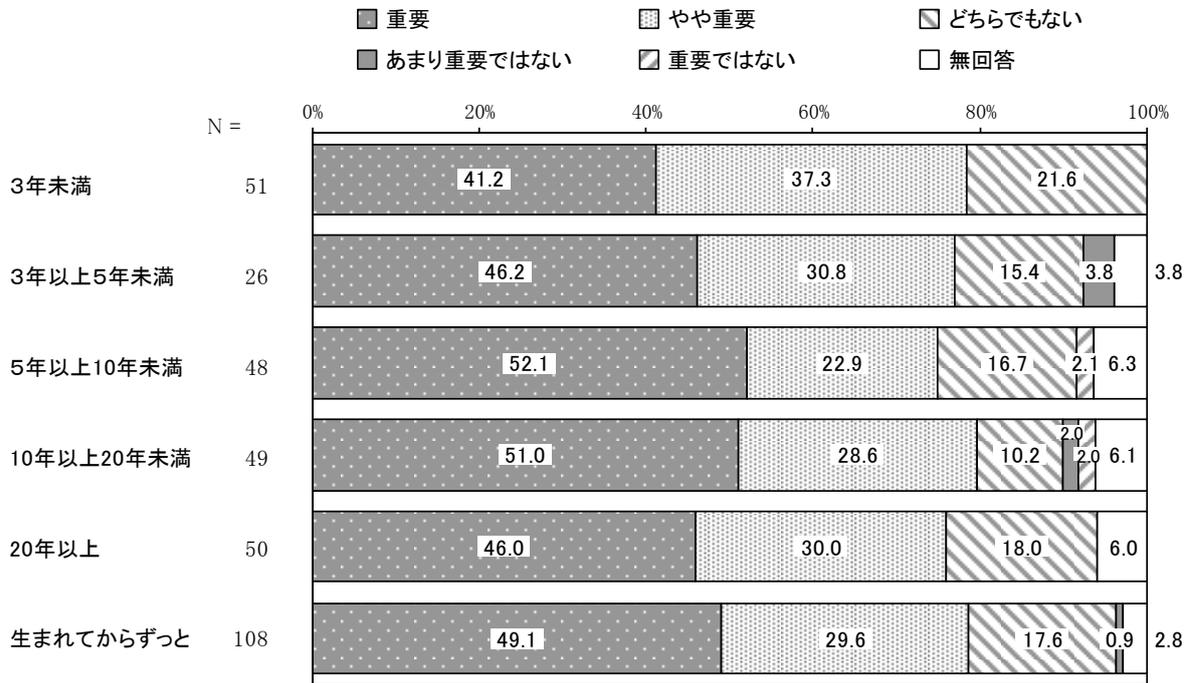
【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



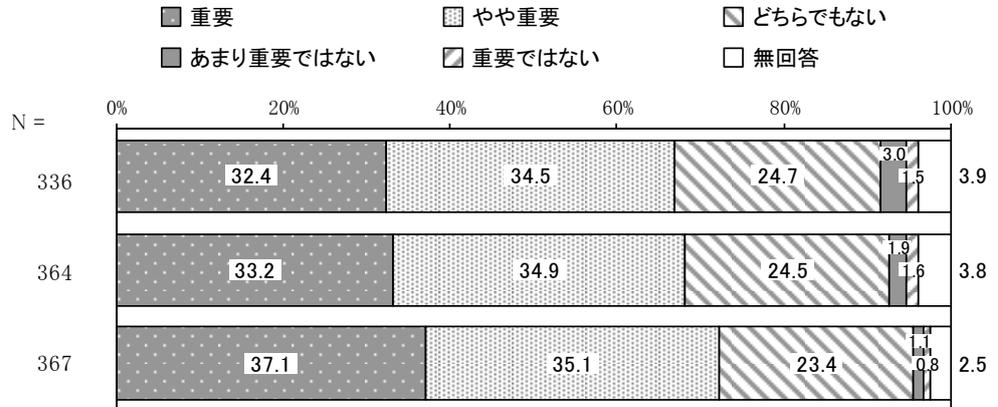
【居住年数別】

居住年数別でみると、大きな差異はみられません。



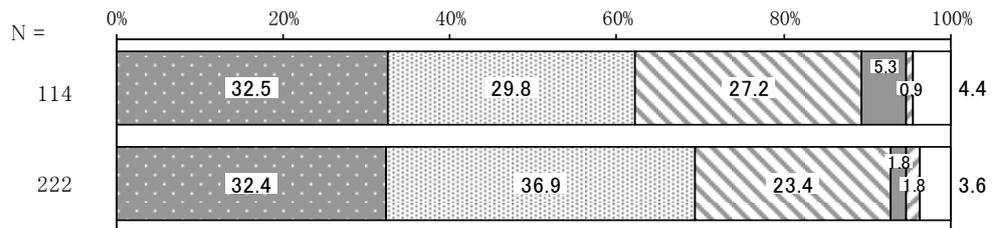
(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり

“重要”の割合が66.9%、“重要ではない”の割合が4.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、“重要”の割合が減少しています。



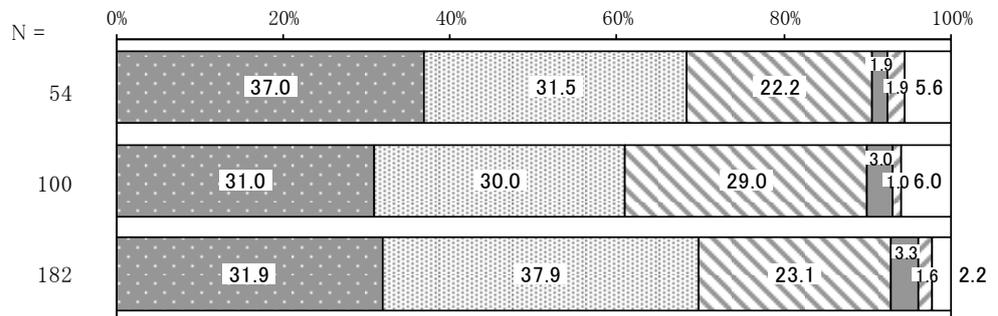
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



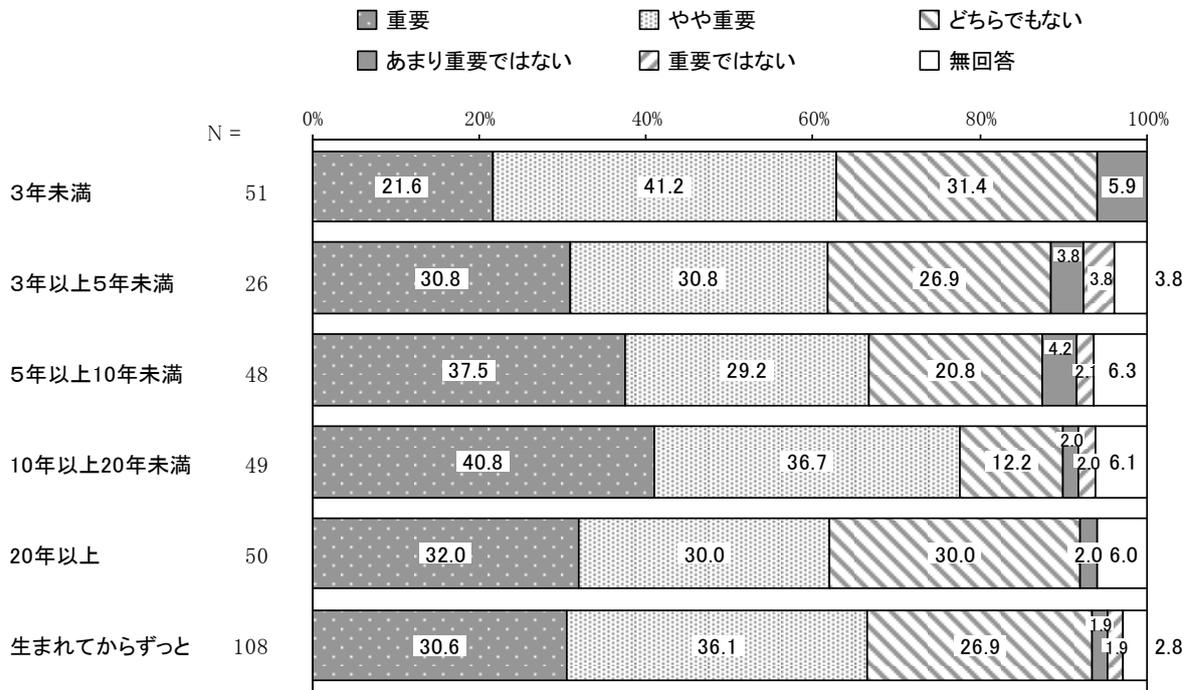
【年代別】

年代別でみると、10歳代、30歳代に比べ、20歳代で“重要”の割合が低く、約6割となっています。



【居住年数別】

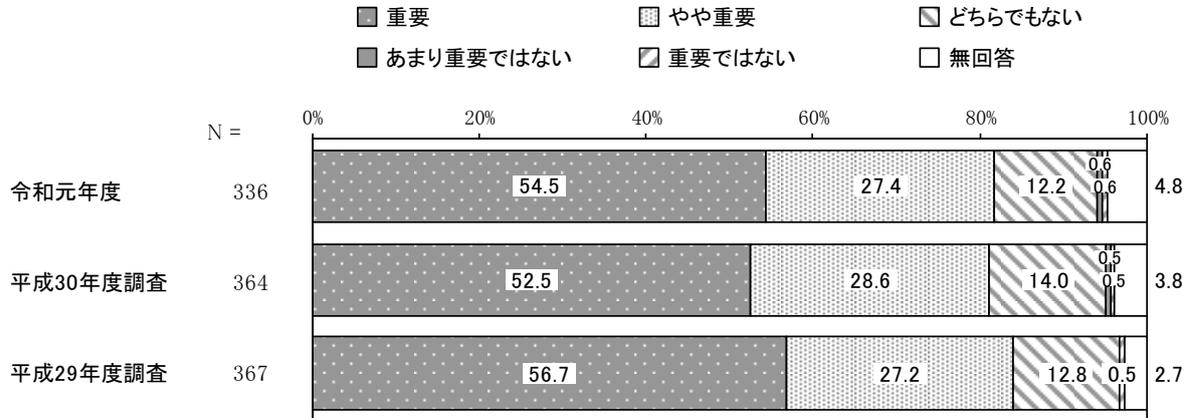
居住年数別で見ると、他に比べ、10年以上20年未満で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



(13) 安心して暮らせる生活環境づくり

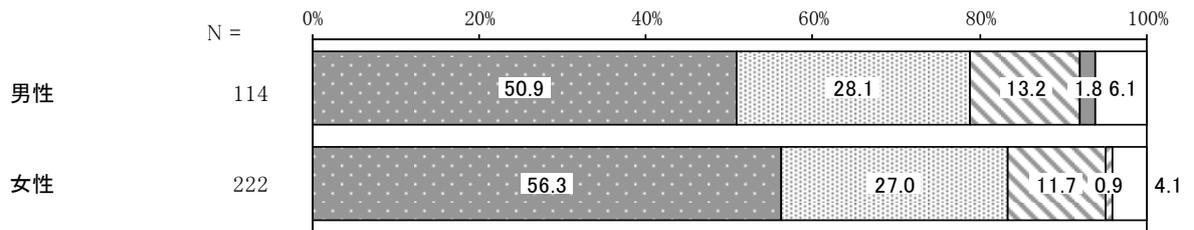
“重要”の割合が81.9%、“重要ではない”の割合が1.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



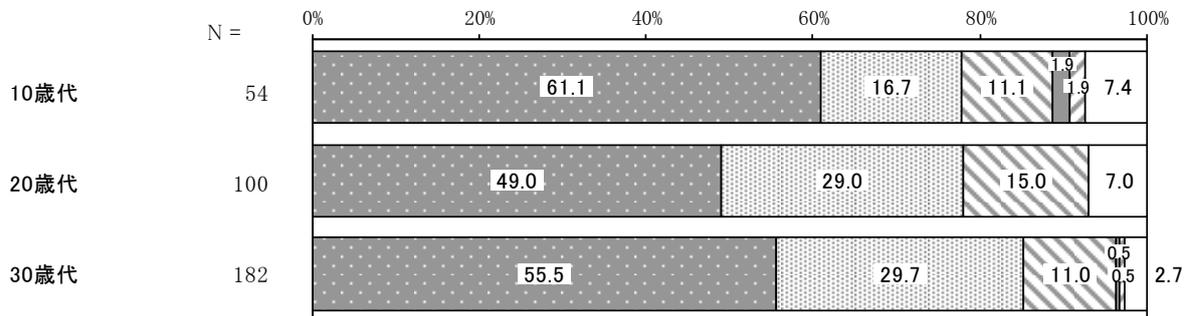
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



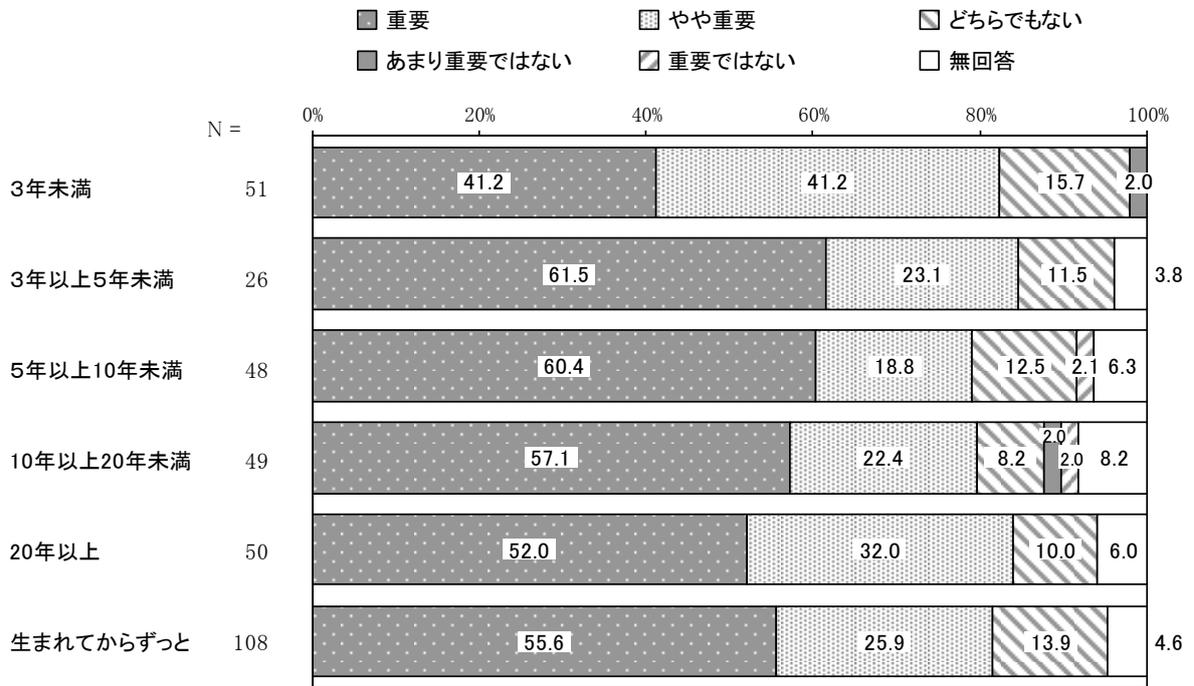
【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代と比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



【居住年数別】

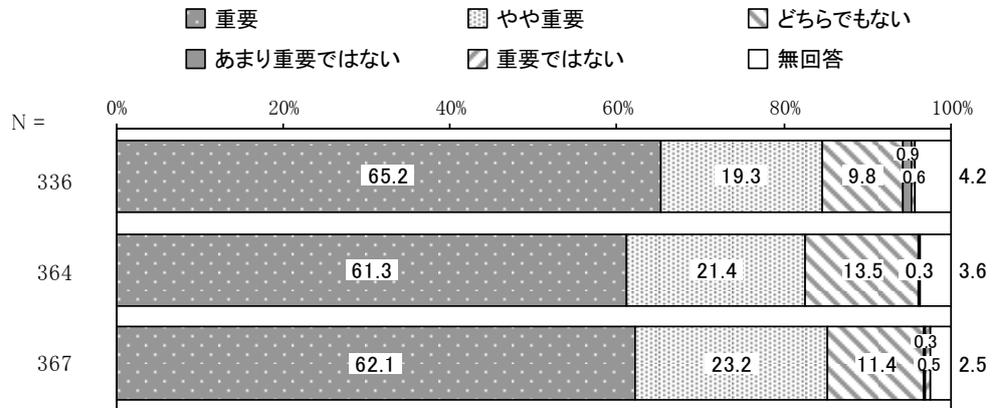
居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満、20年以上“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。また、3年未満で「重要」の割合が低く、約4割となっています。



(14) 必要な医療サービスが受けられる

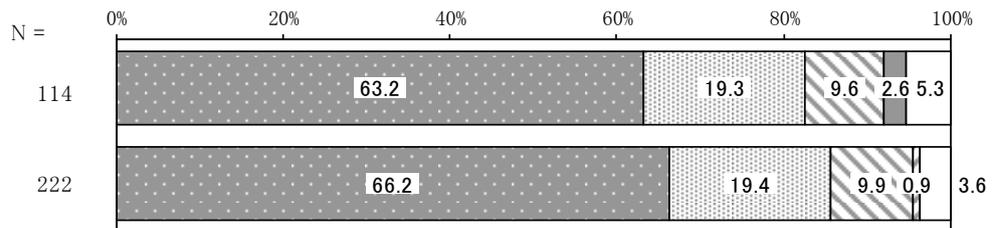
“重要”の割合が84.5%、“重要ではない”の割合が1.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



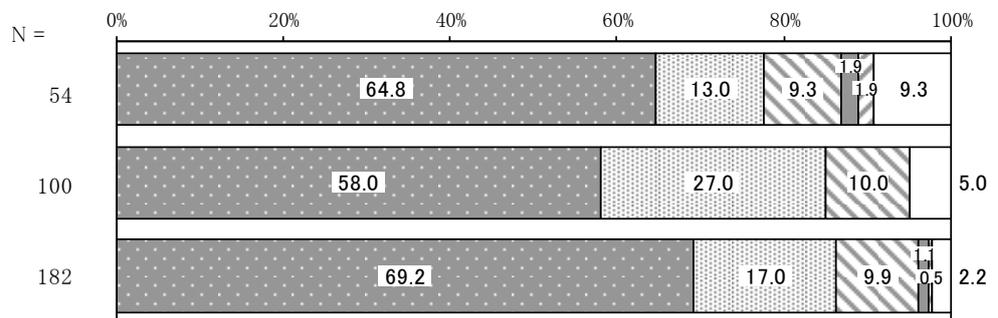
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



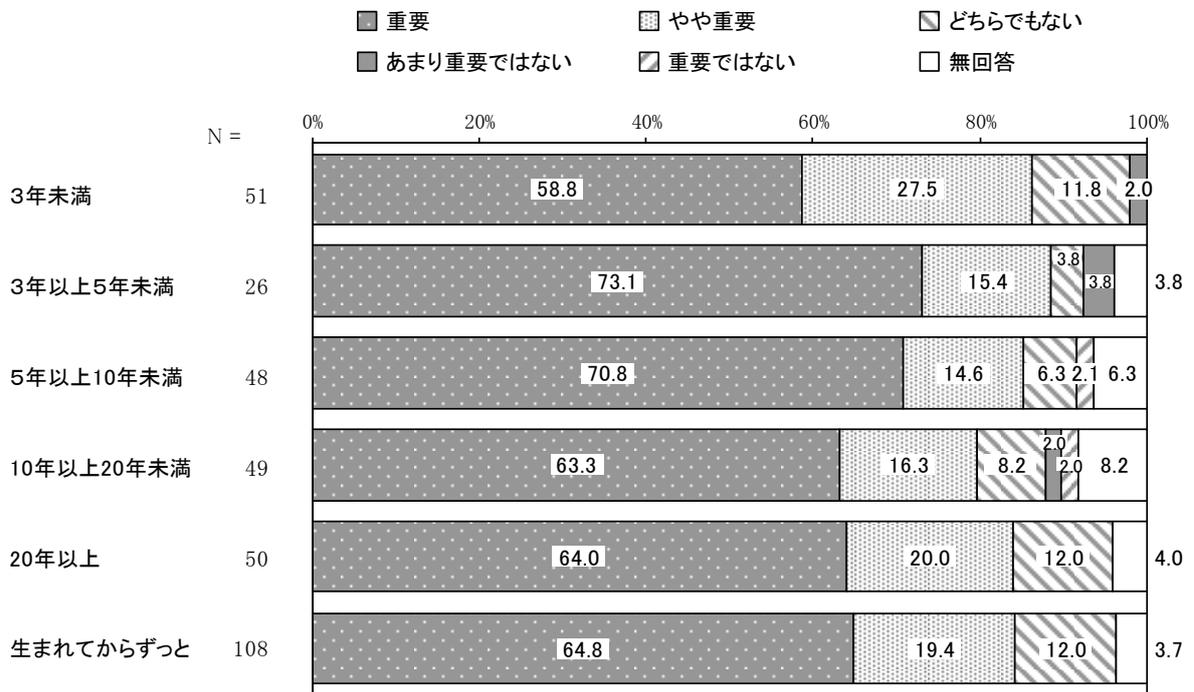
【年代別】

年代別でみると、10歳代に比べ、20歳代、30歳代で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



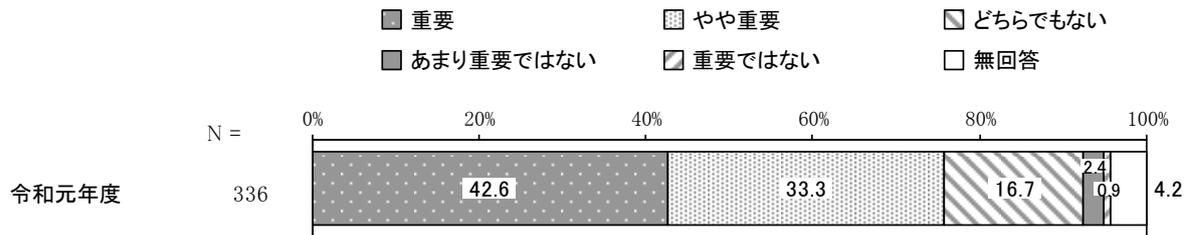
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ10年以上20年未満で“重要”の割合が低くなっています。



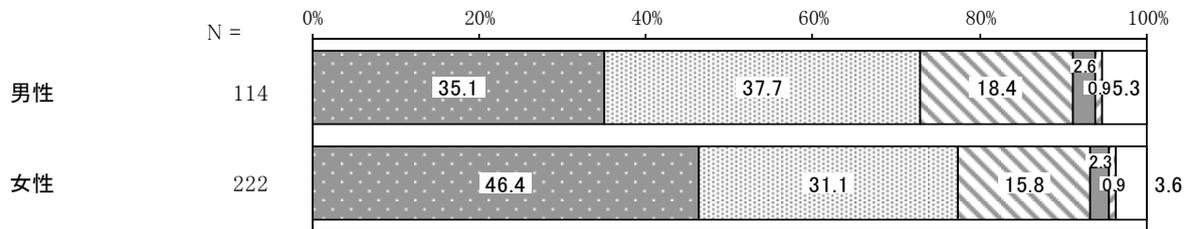
(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備

“重要”の割合が75.9%、“重要ではない”の割合が3.3%となっています。



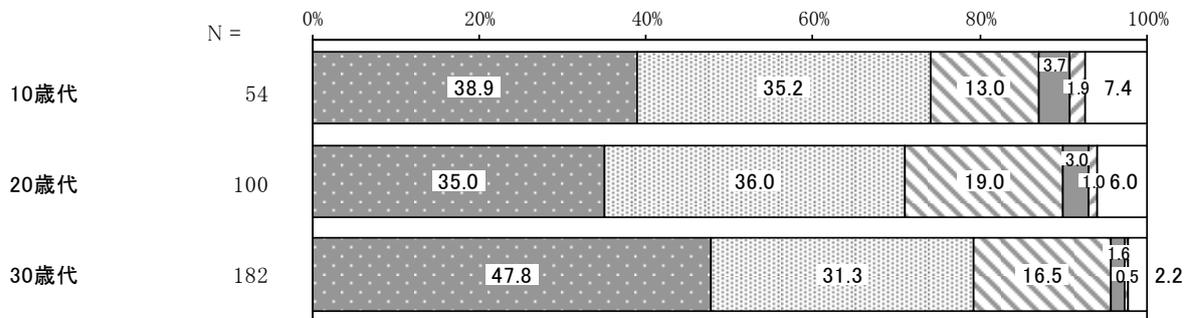
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



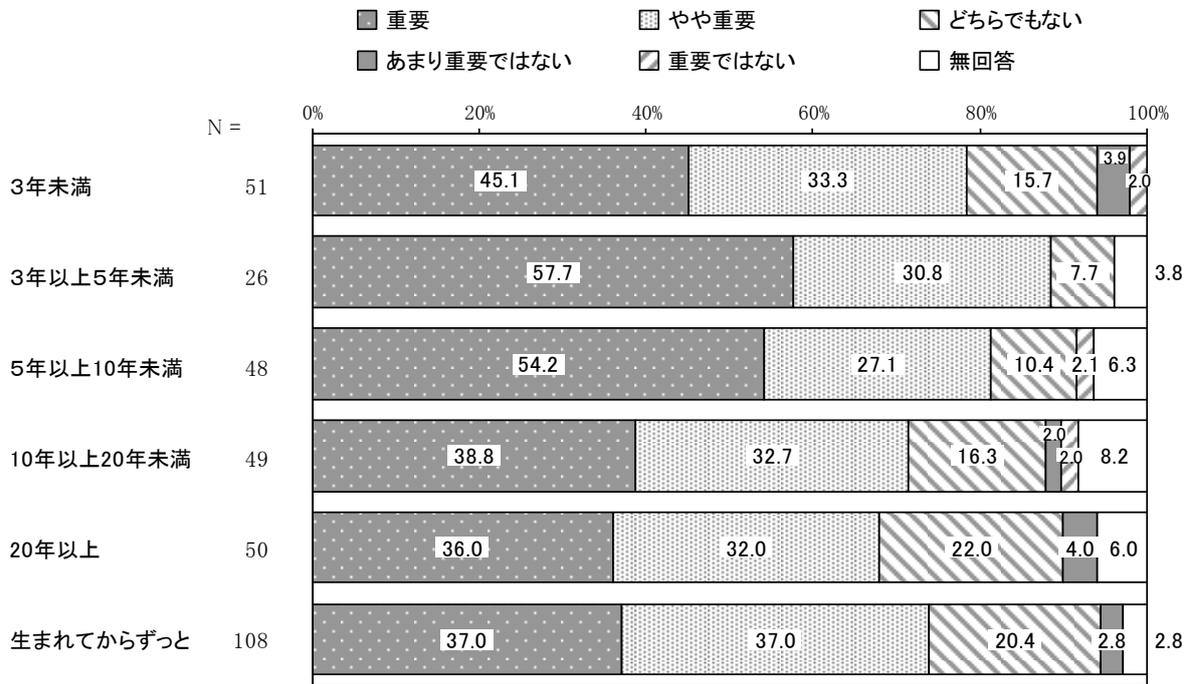
【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



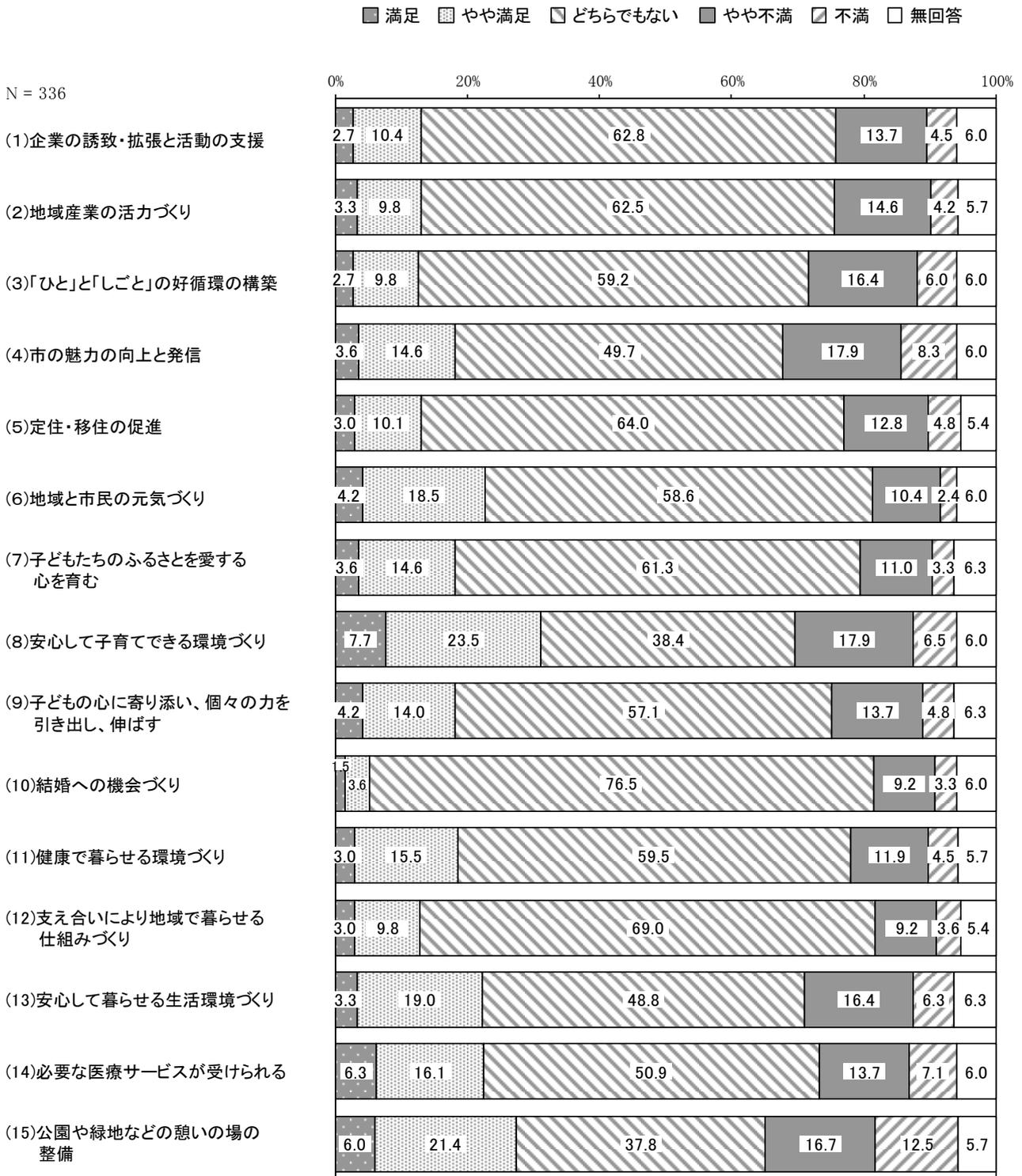
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



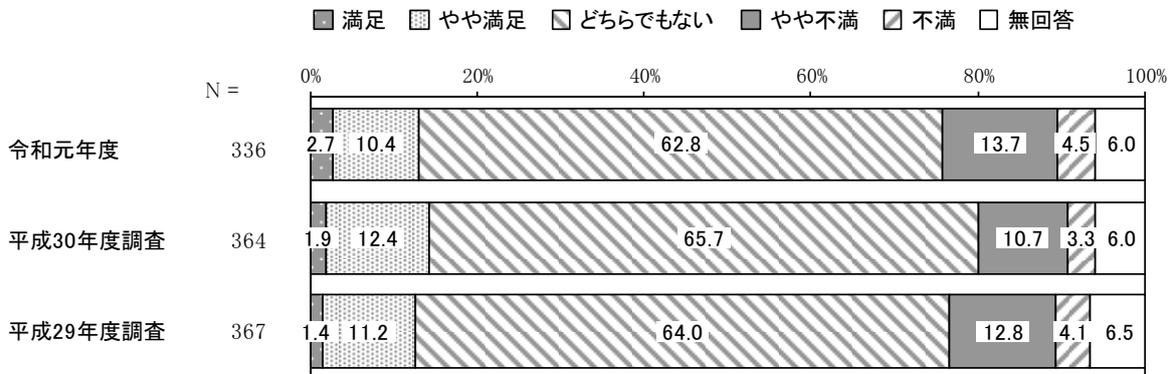
② 満足度

『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(15)公園や緑地などの憩いの場の整備』で「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合が高く、約3割となっています。また、『(15)公園や緑地などの憩いの場の整備』では「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合も高く、約3割となっています。



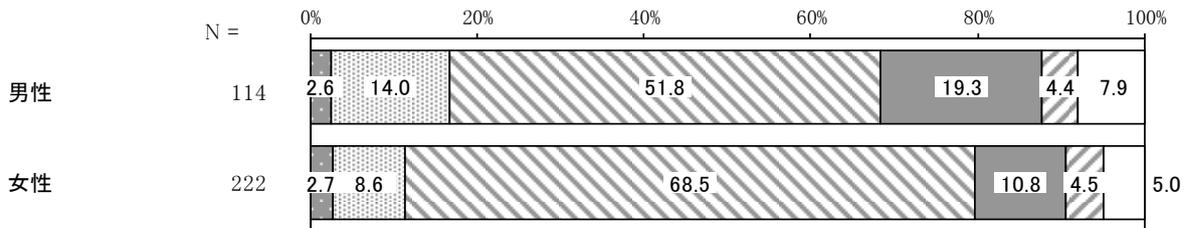
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援

“満足”の割合が13.1%、“不満”の割合が18.2%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



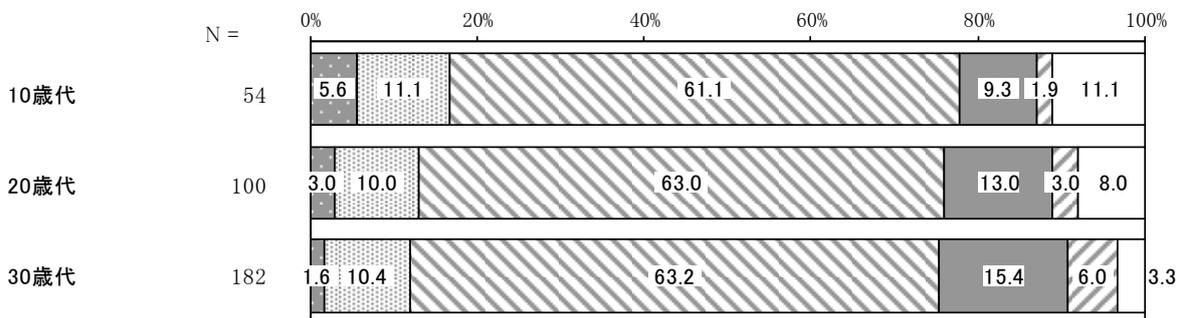
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“満足”“不満”の割合がともに高くなっています。



【年代別】

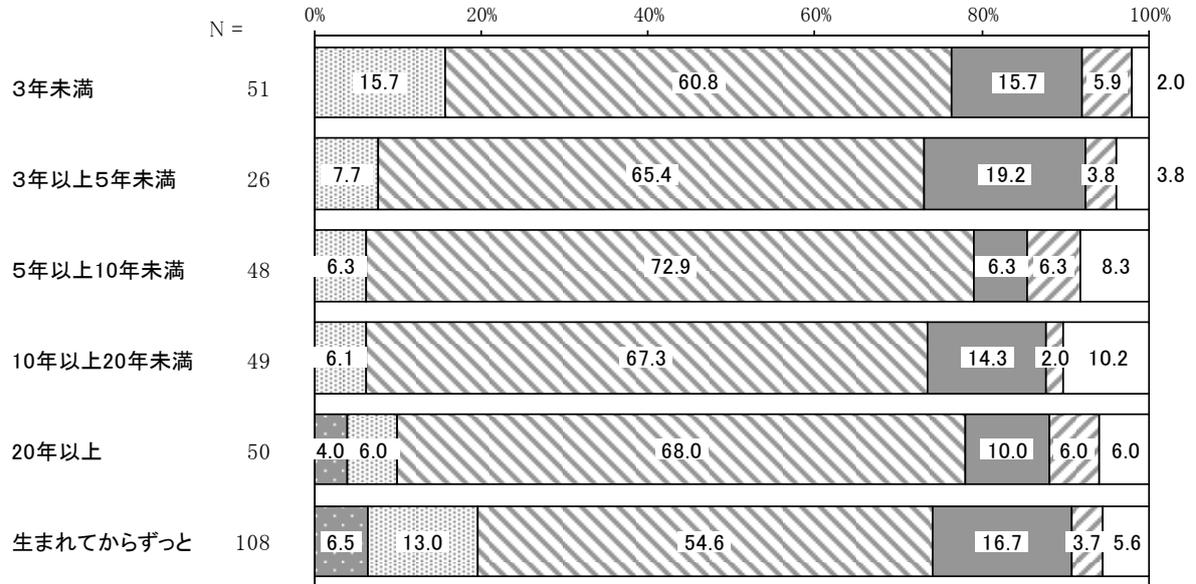
年代別でみると、年代が高くなるにつれ“満足”の割合が低くなっており、30歳代で約1割となっています。また、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっており、30歳代で約2割となっています。



【居住年数別】

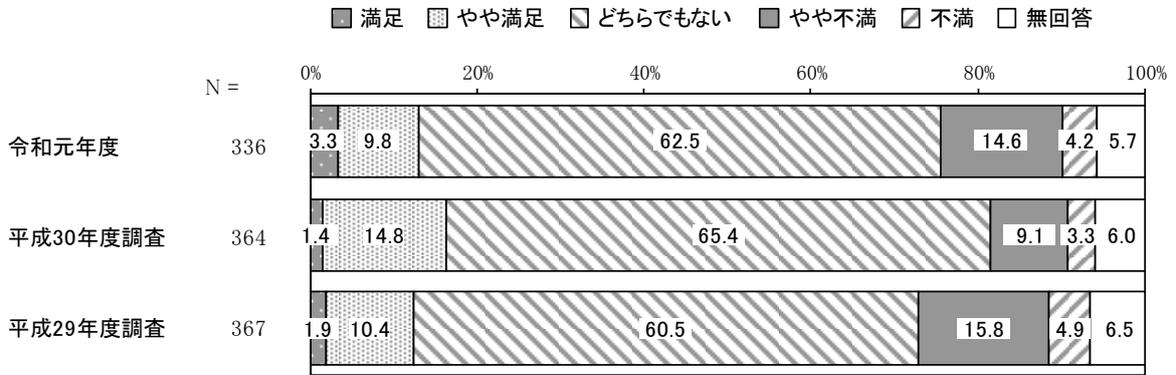
居住年数別で見ると、他に比べ、生まれてからずっとで“満足”の割合が高く、約2割となっています。また、3年未満、3年以上5年未満、生まれてからずっとで“不満”の割合が高く、約2割となっています。

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらでもない ■ やや不満 ■ 不満 □ 無回答



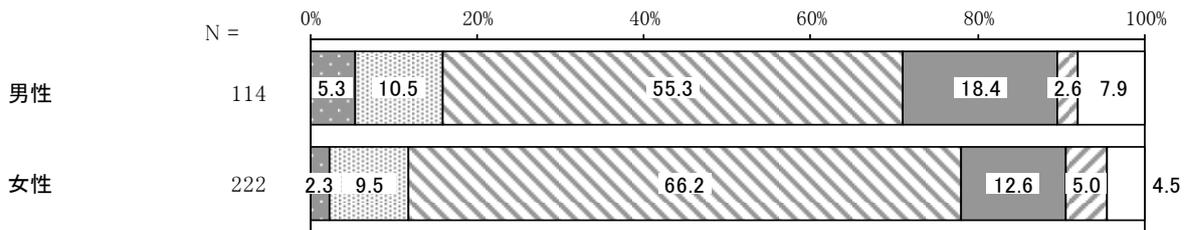
(2) 地域産業の活力づくり

“満足”の割合が13.1%、“不満”の割合が18.8%となっています。
平成30年度調査と比較すると、“不満”の割合が増加しています。



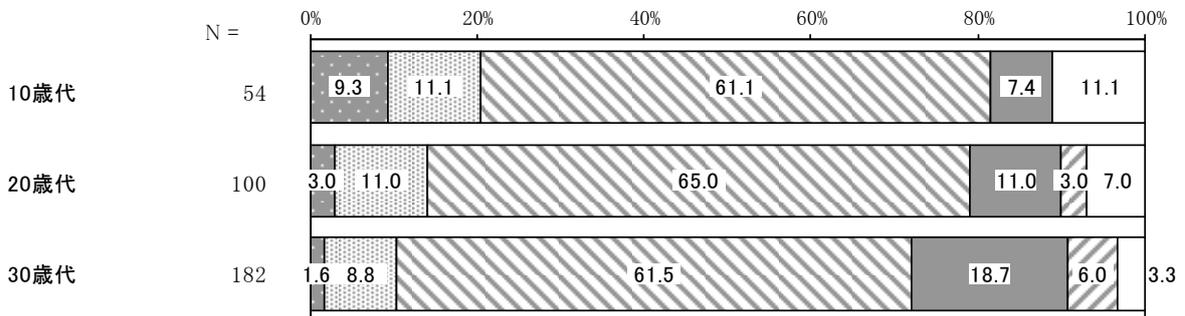
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



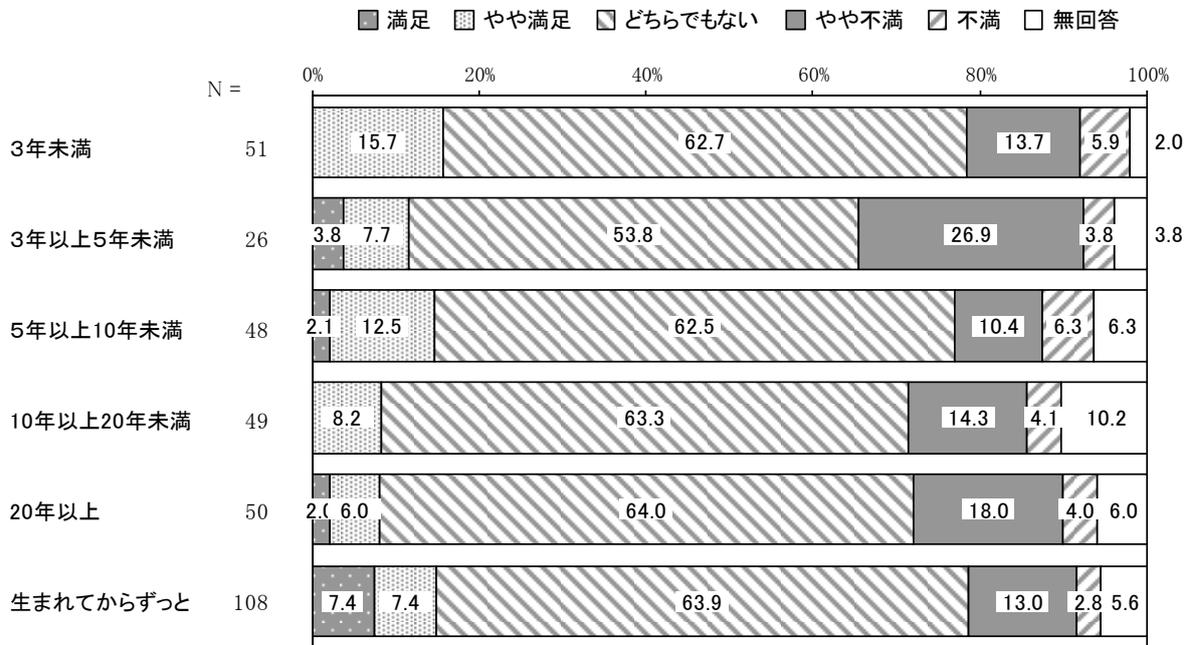
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“満足”の割合が減少し、“不満”の割合が増加しています。



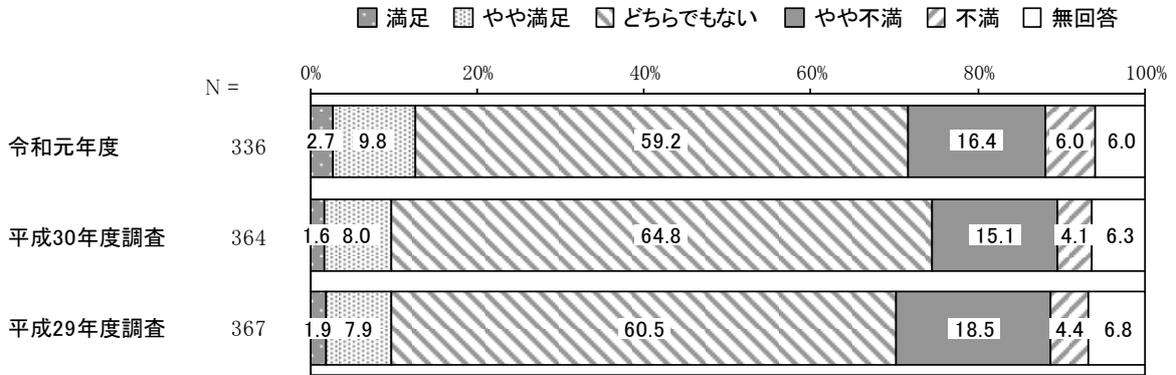
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、「3年未満」「5年以上10年未満」「生まれてからずっと」で“満足”の割合が高く、1割台半ばとなっています。また、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築

“満足”の割合が12.5%、“不満”の割合が22.4%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



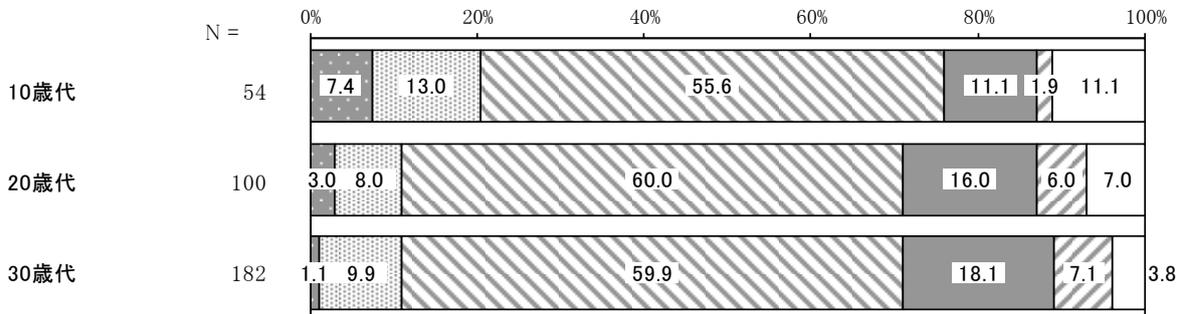
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“満足”の割合が高く、約2割となっています。また、男性に比べ、女性で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



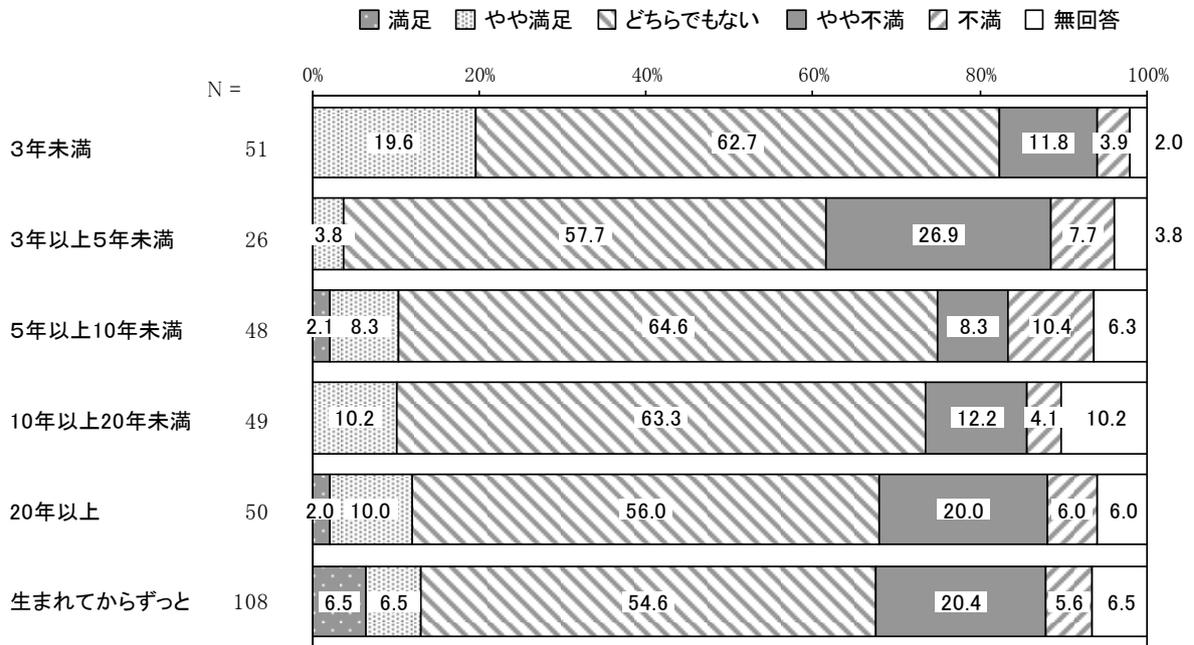
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっており、30歳代で2割半ばとなっています。



【居住年数別】

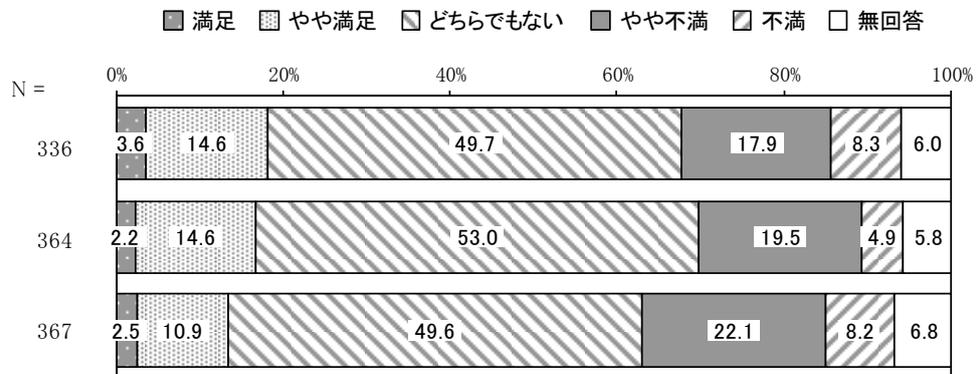
居住年数別で見ると、他に比べ、3年未満で“満足”の割合が高く、約2割となっています。また、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、3割台半ばとなっています。



(4) 市の魅力の向上と発信

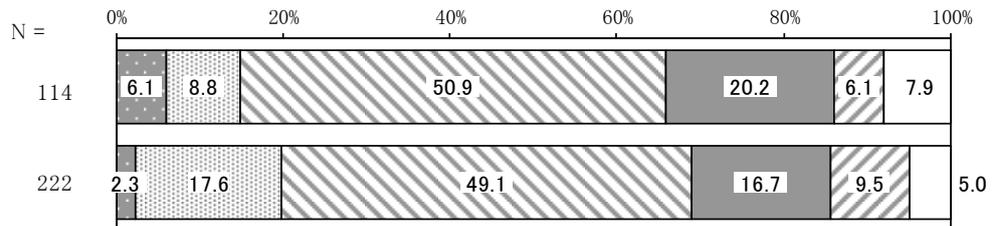
“満足”の割合が18.2%、“不満”の割合が26.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、“満足”の割合が増加しています。また、平成29年度調査と比較すると、“不満”の割合が減少しています。



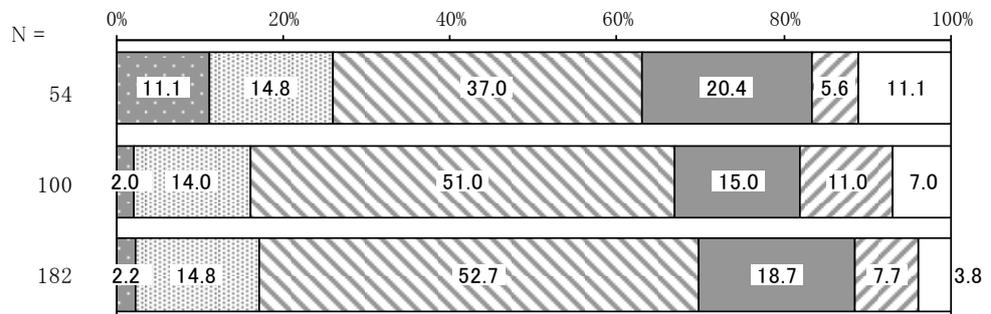
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



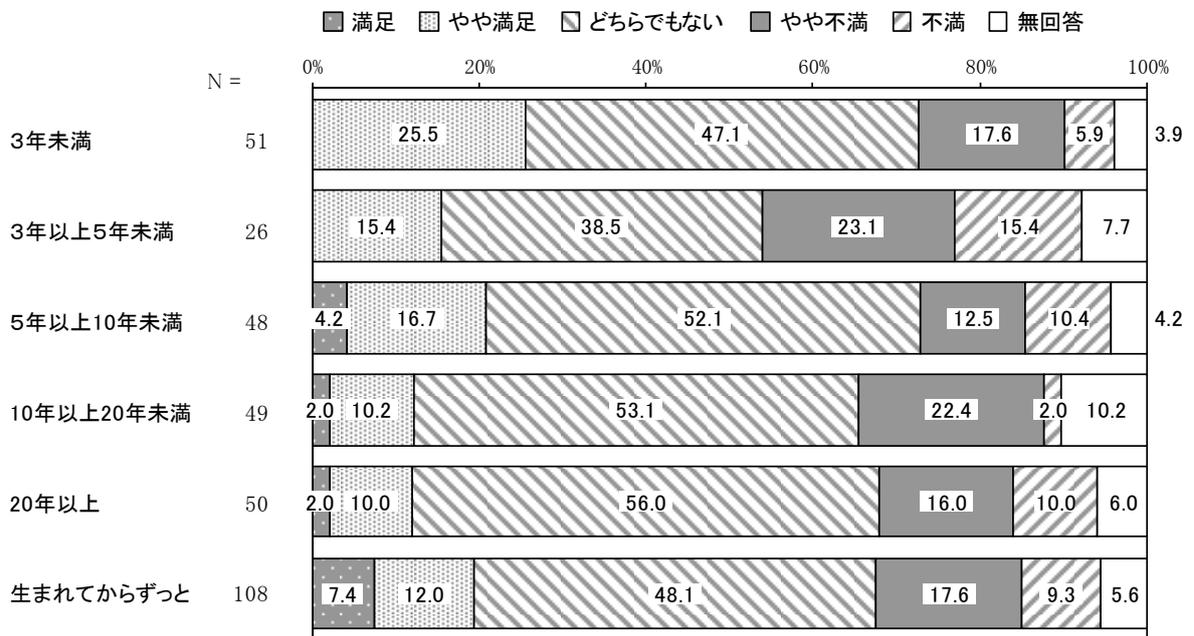
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



【居住年数別】

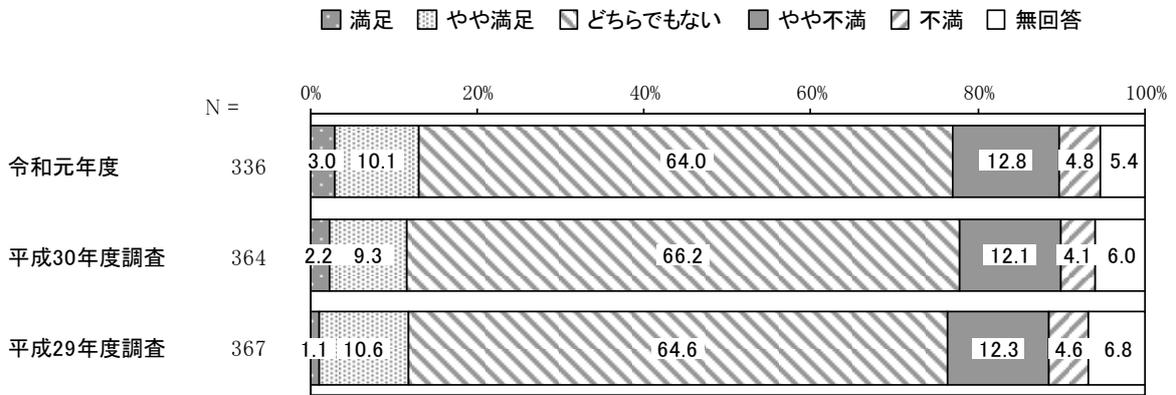
居住年数別でみると、他に比べ、3年未満で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、3年以上5年未満で”不満“の割合が高く、約4割となっています。



(5) 定住・移住の促進

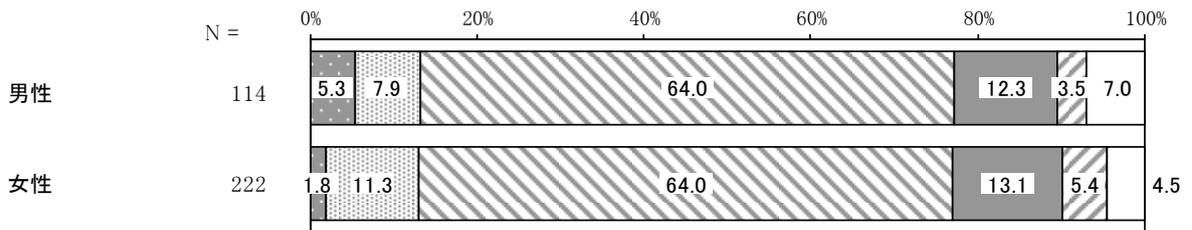
“満足”の割合が13.1%、“不満”の割合が17.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



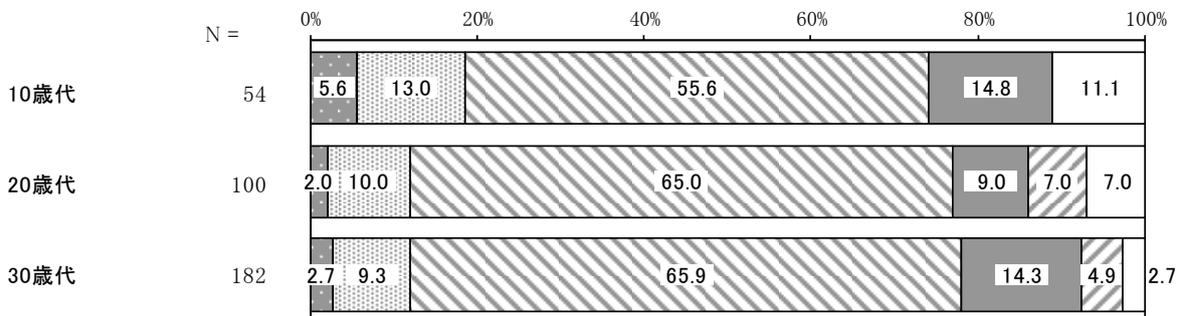
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



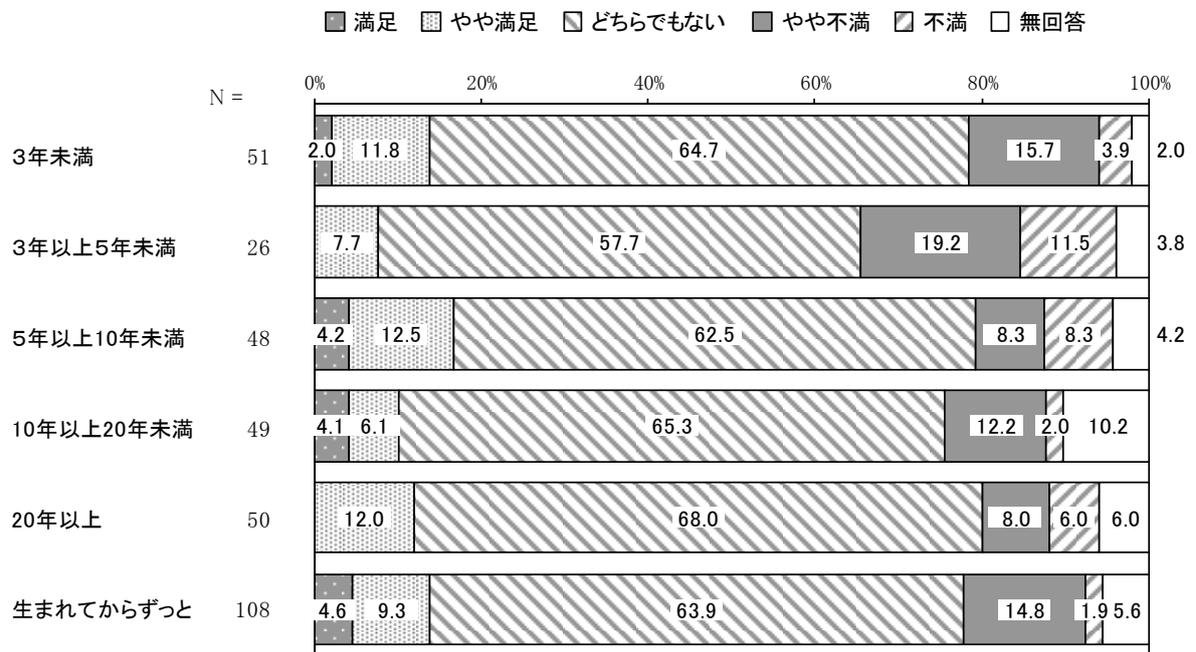
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっており、30歳代で約2割となっています。また、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



【居住年数別】

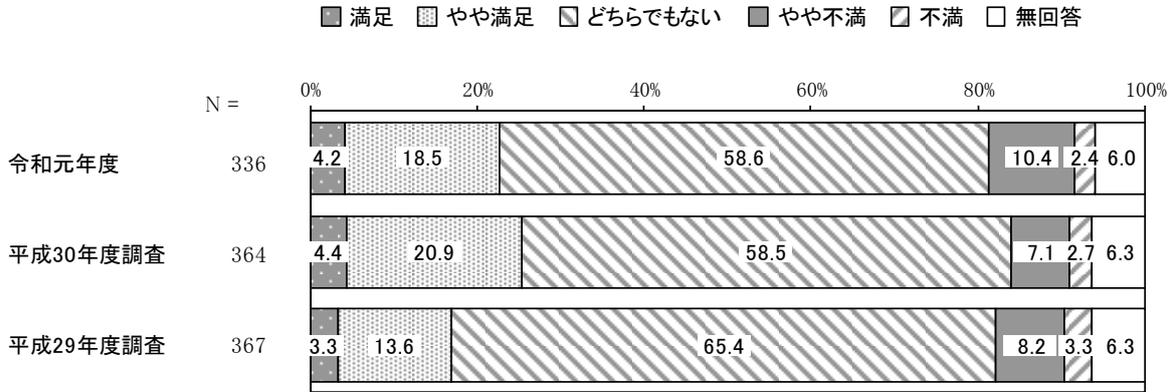
居住年数別で見ると、他に比べ、5年以上10年未満で“満足”の割合が高く、1割台半ばとなっています。また、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



(6) 地域と市民の元気づくり

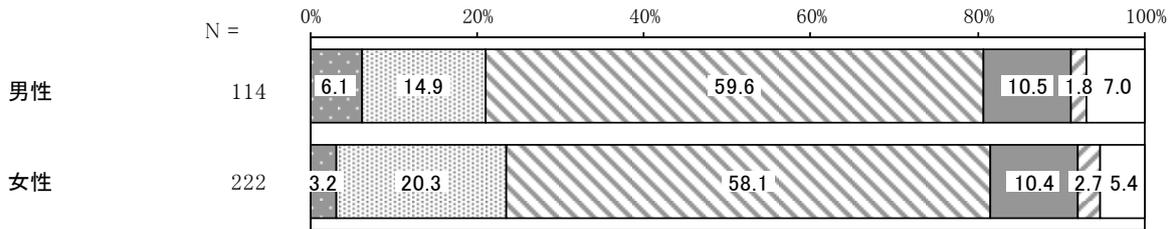
“満足”の割合が22.7%、“不満”の割合が12.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



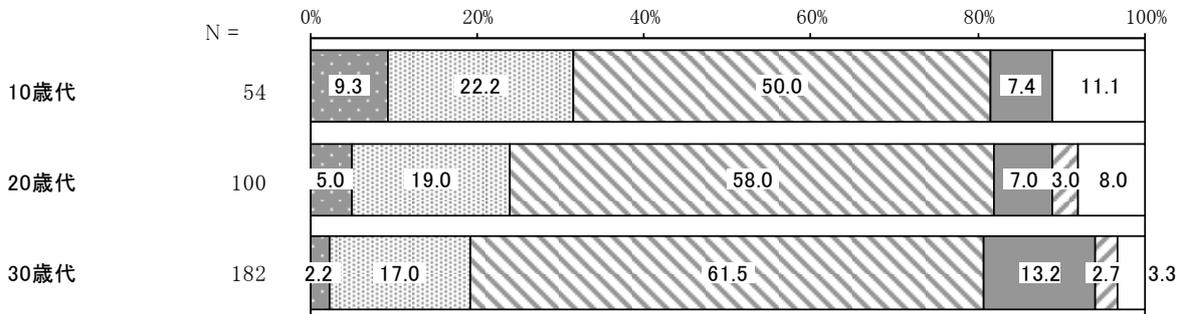
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



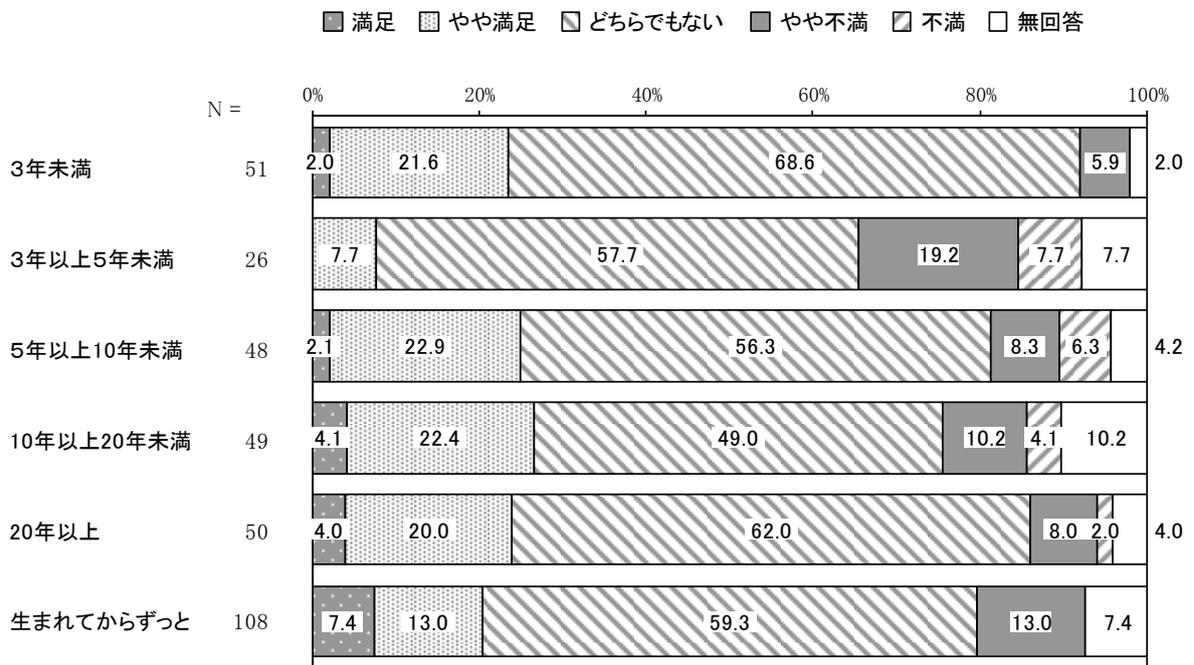
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高く、10歳代で約3割となっています。また、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっています。



【居住年数別】

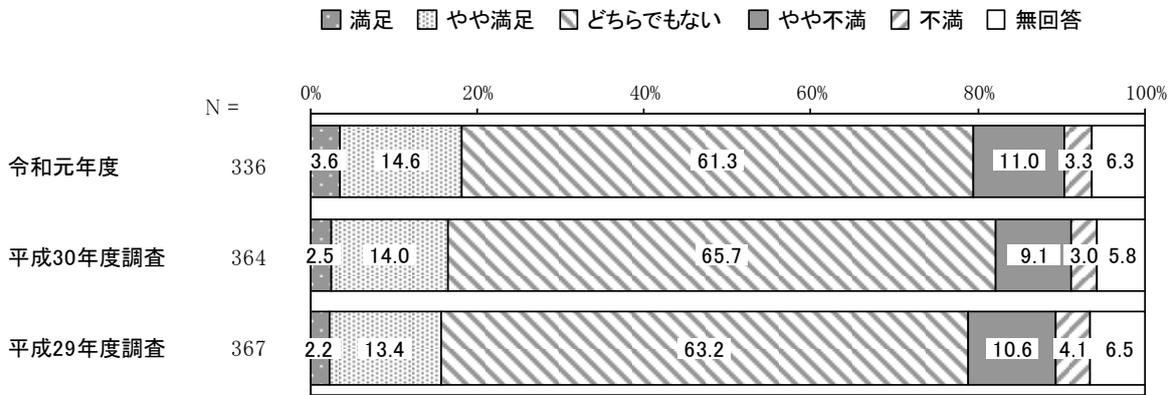
居住年数別でみると、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、“満足”の割合が低くなっています。



(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む

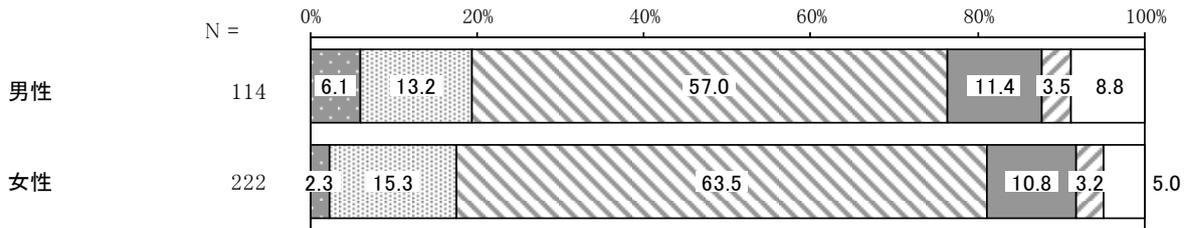
“満足”の割合が18.2%、“不満”の割合が14.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



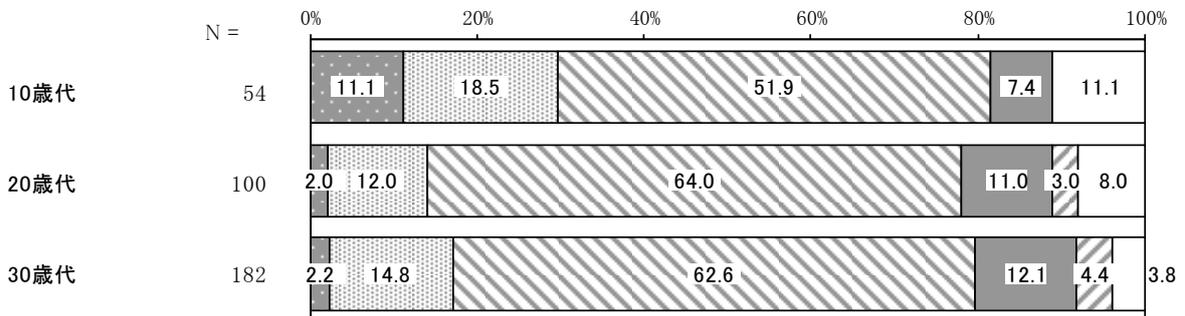
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



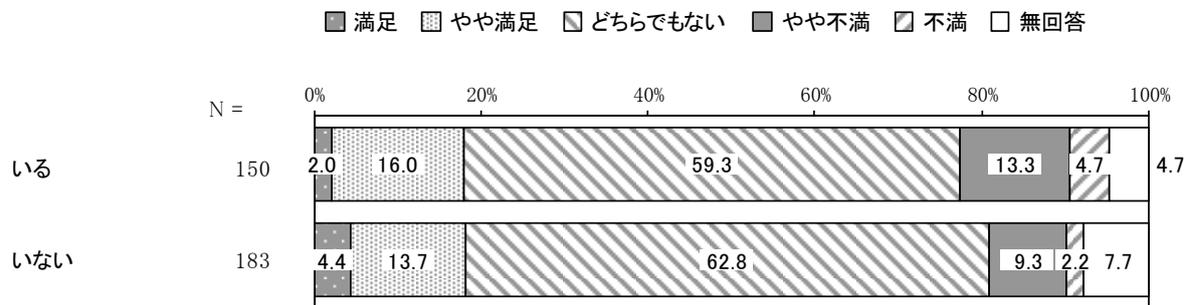
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。また、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっています。



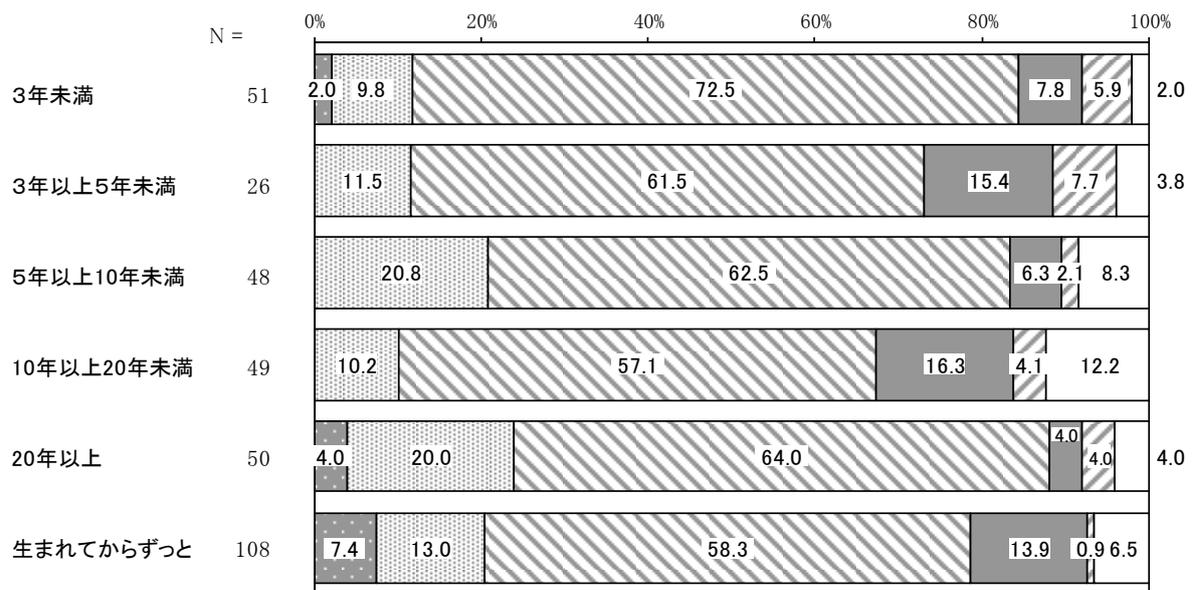
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



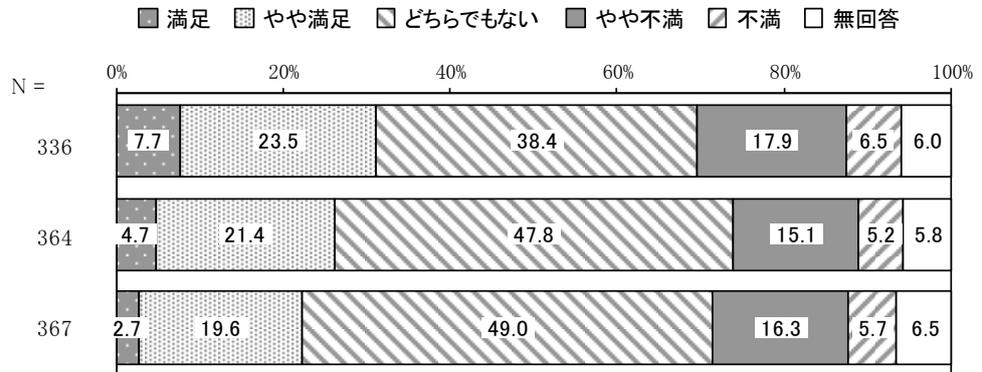
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、20年以上で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。一方、3年以上5年未満、10年以上20年未満で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



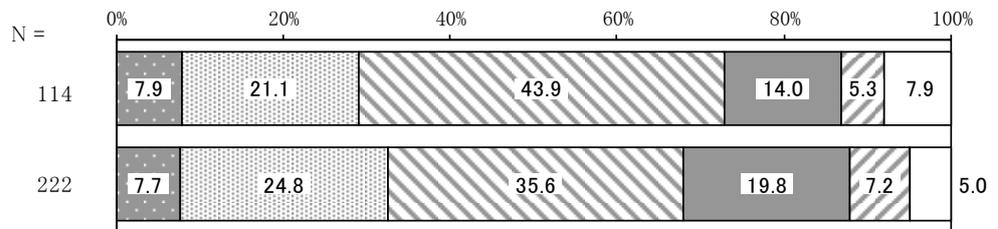
(8) 安心して子育てできる環境づくり

“満足”の割合が31.2%、“不満”の割合が24.4%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、“満足”の割合が増加しています。



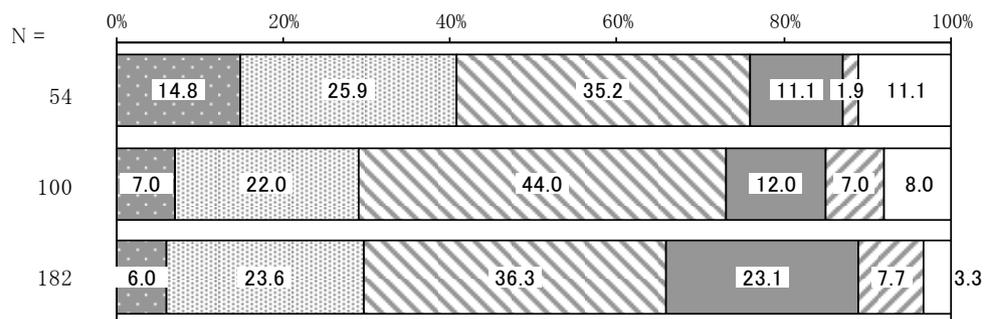
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



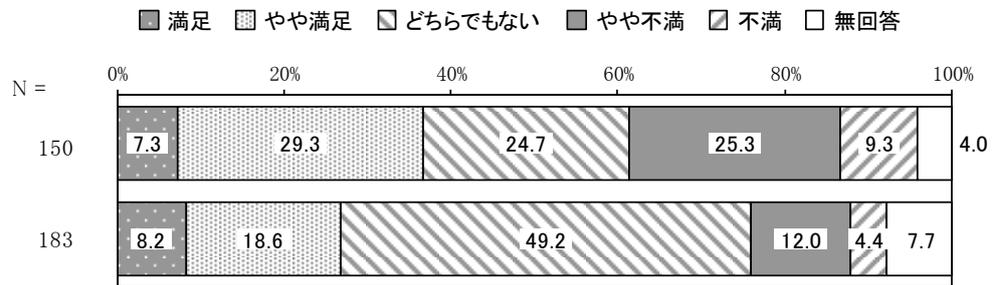
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約4割となっています。一方、30歳代で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



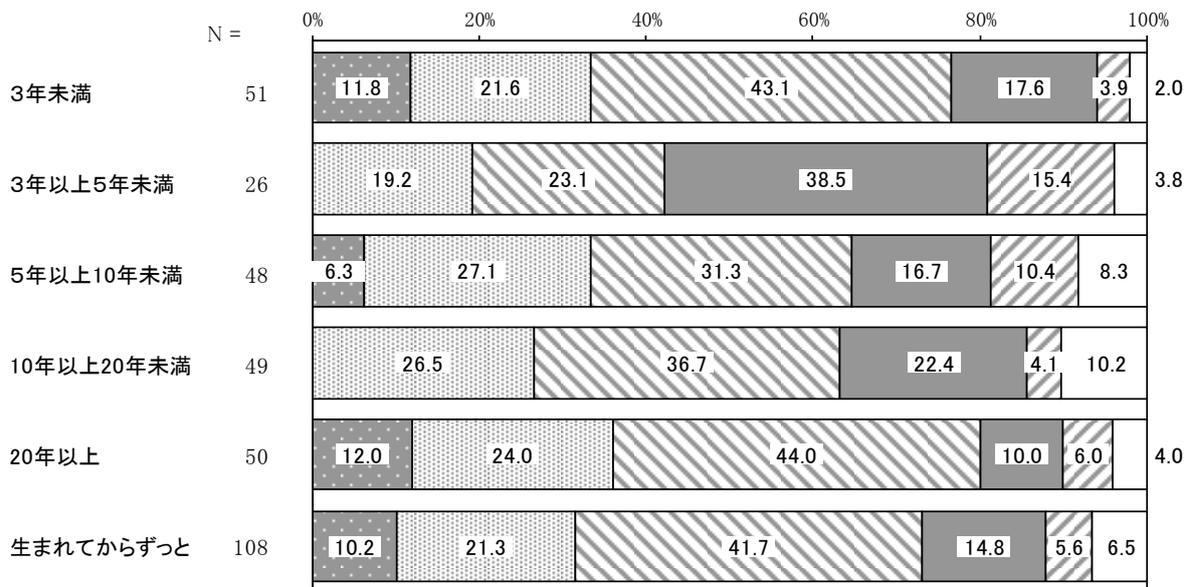
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合、“不満”の割合ともに高くなっています。



【居住年数別】

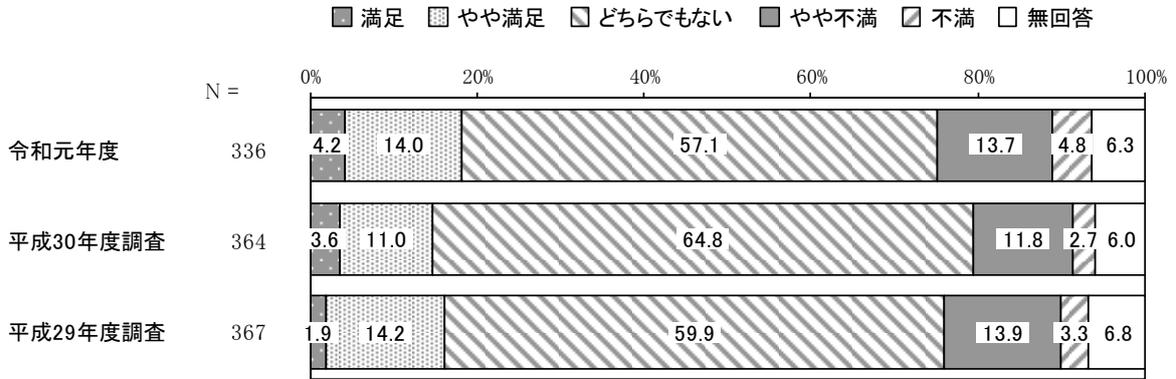
居住年数別で見ると、他に比べ、20年以上で“満足”の割合が高く、3割台半ばとなっています。一方、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、約5割となっています。



(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす

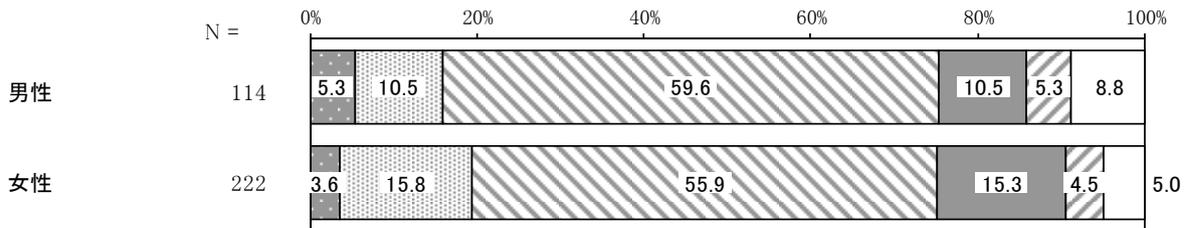
“満足”の割合が18.2%、“不満”の割合が18.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



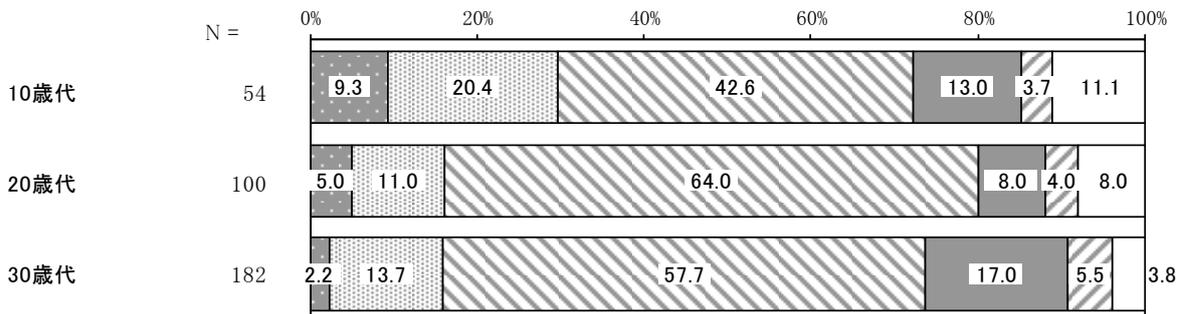
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



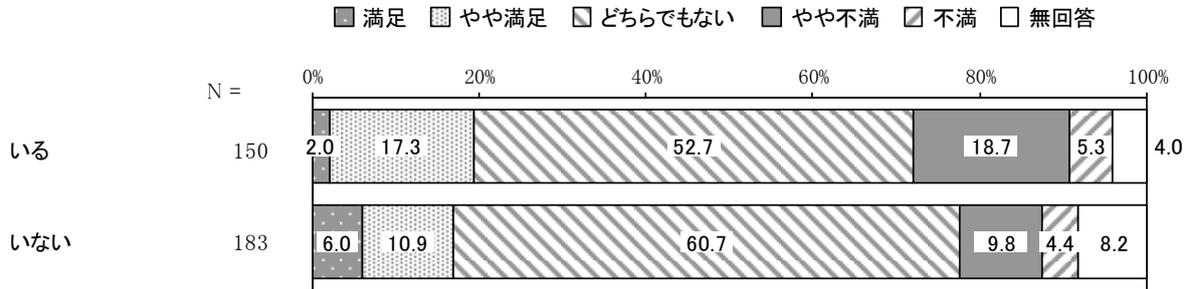
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、30歳代で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



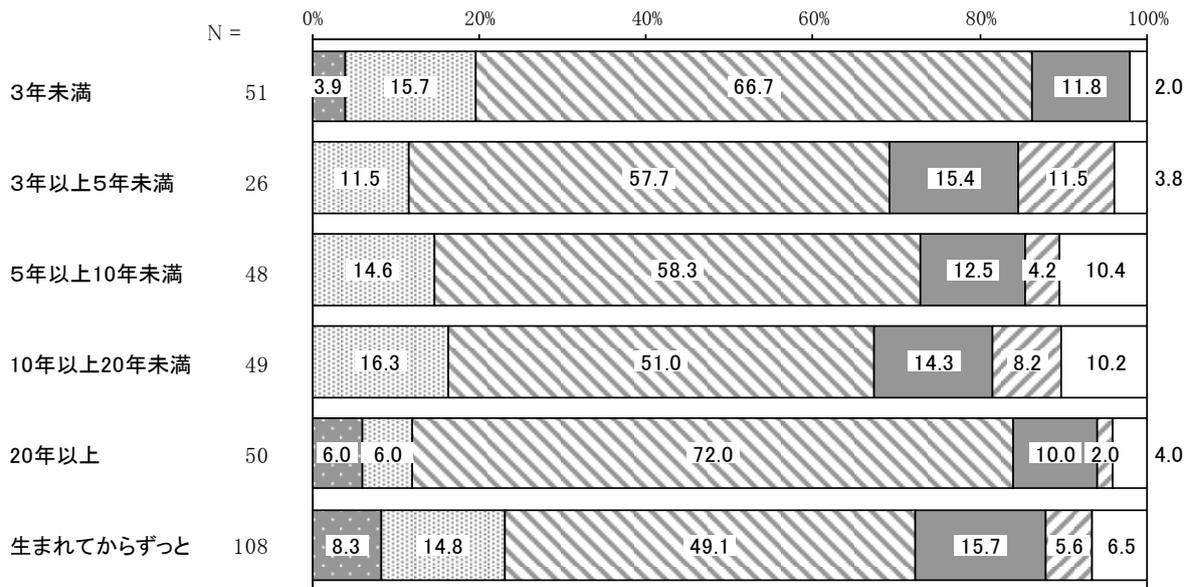
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



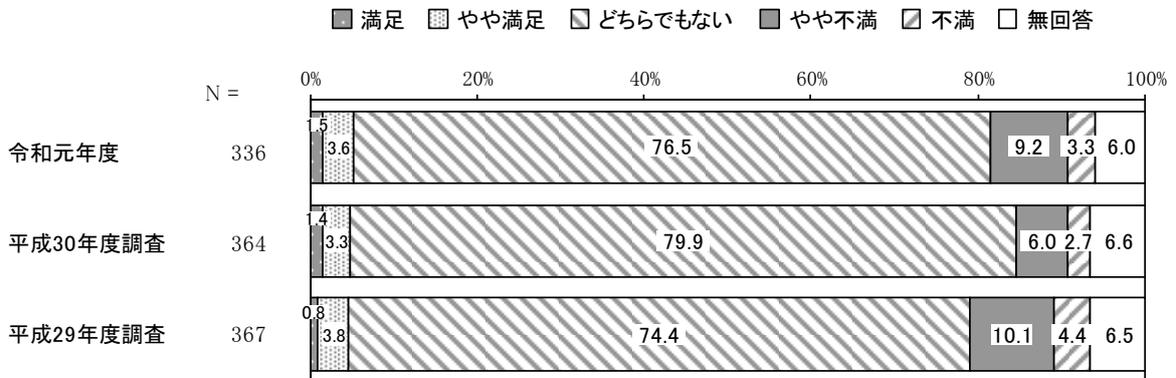
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年未満、生まれてからずっとで“満足”の割合が高く、約2割となっています。一方、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



(10) 結婚への機会づくり

“満足”の割合が5.1%、“不満”の割合が12.5%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



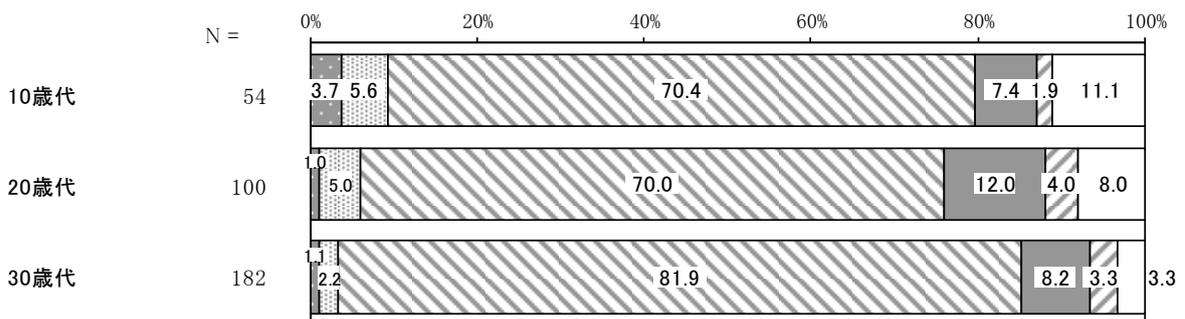
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



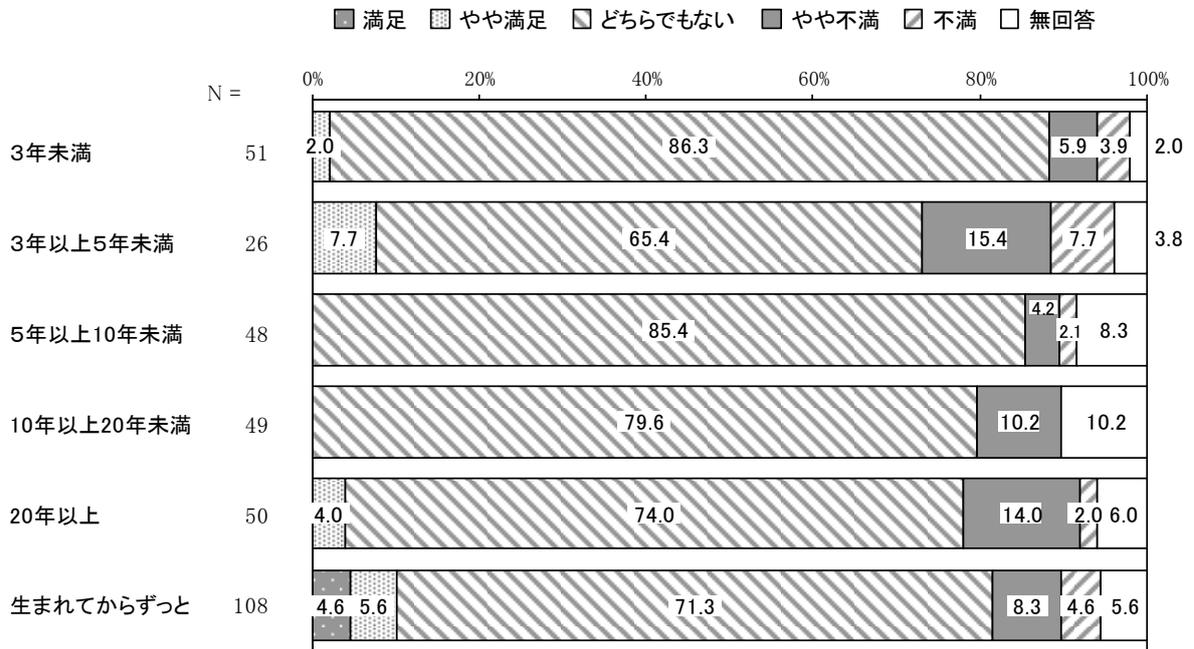
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で“不満”の割合が高く、1割台半ばとなっています。



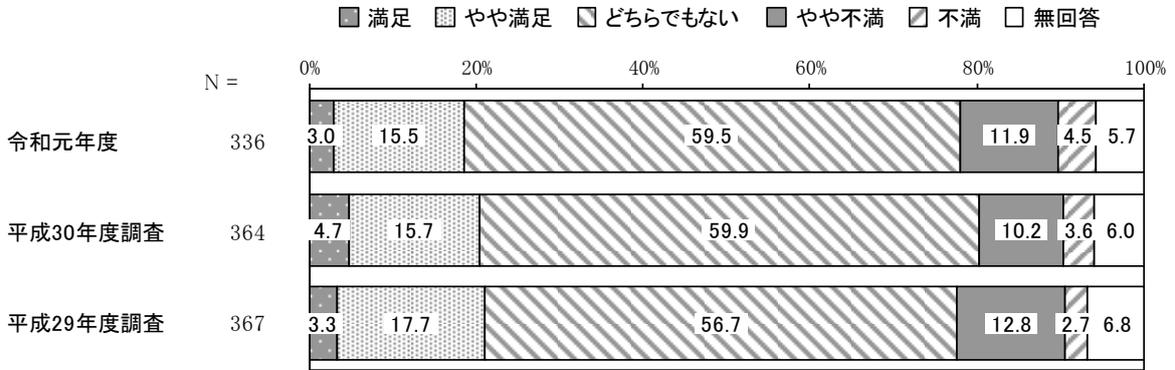
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、生まれてからずっとで“満足”の割合が高く、約1割となっています。一方、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



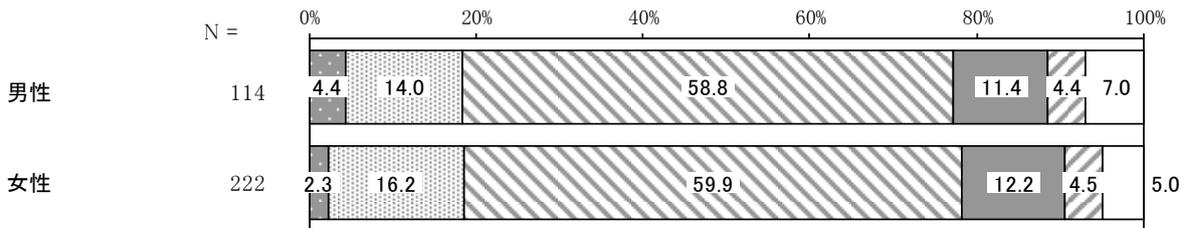
(11) 健康で暮らせる環境づくり

“満足”の割合が18.5%、“不満”の割合が16.4%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



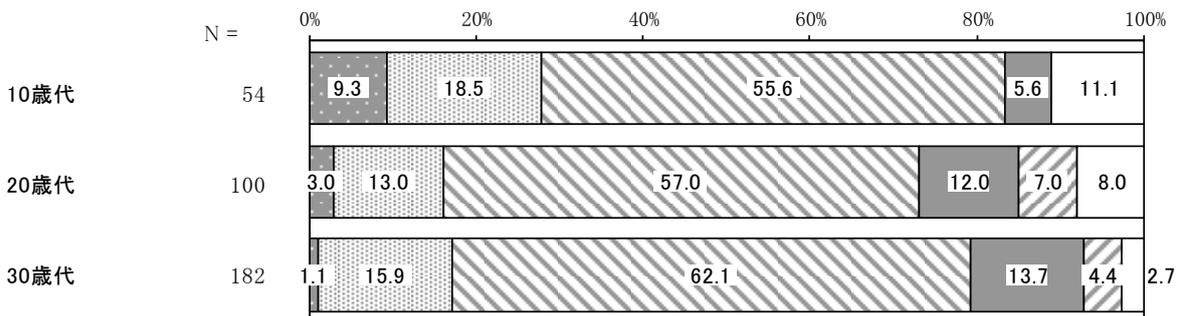
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



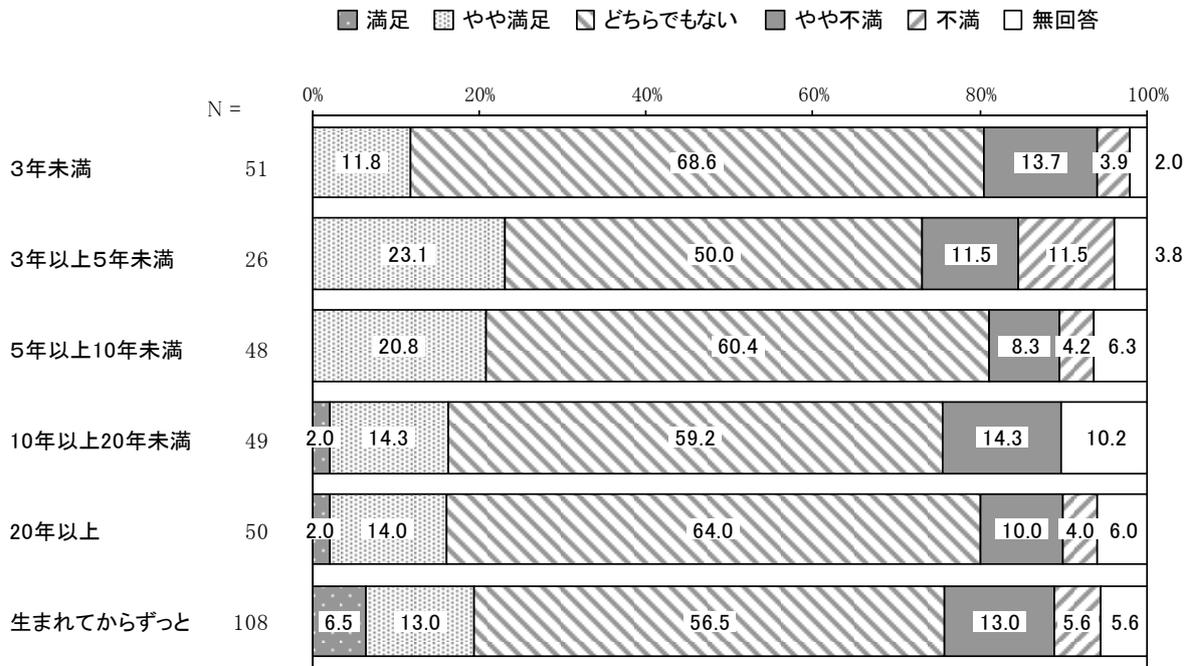
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約3割となっています。また、10歳代で“不満”の割合が低くなっています。



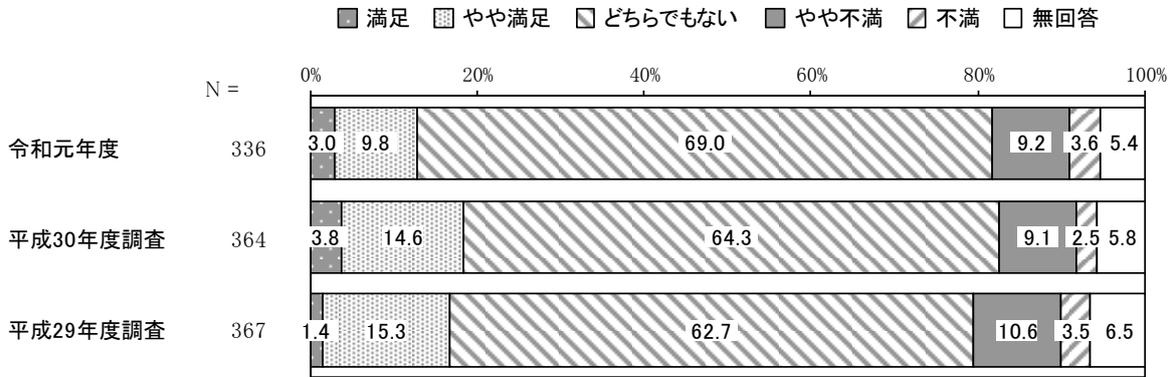
【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満と5年以上10年未満をあわせた“3年以上10年未満”で“満足”の割合が高く、約2割となっています。また、3年以上5年未満で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



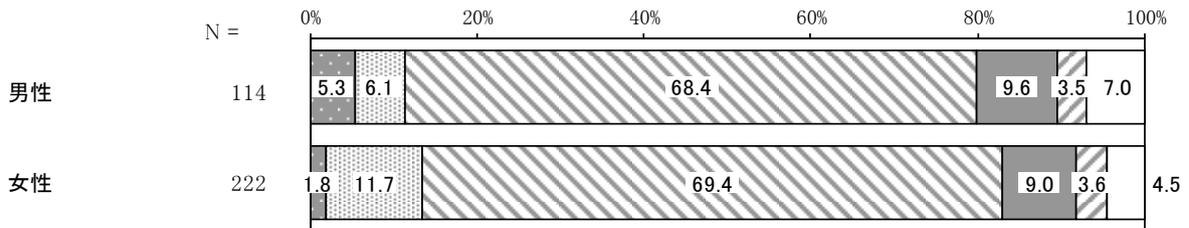
(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり

“満足”の割合が12.8%、“不満”の割合が12.8%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、“満足”の割合が減少しています。



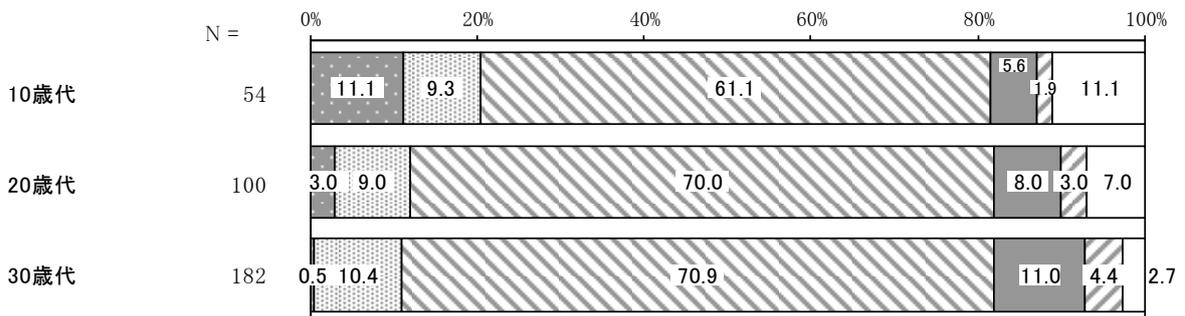
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



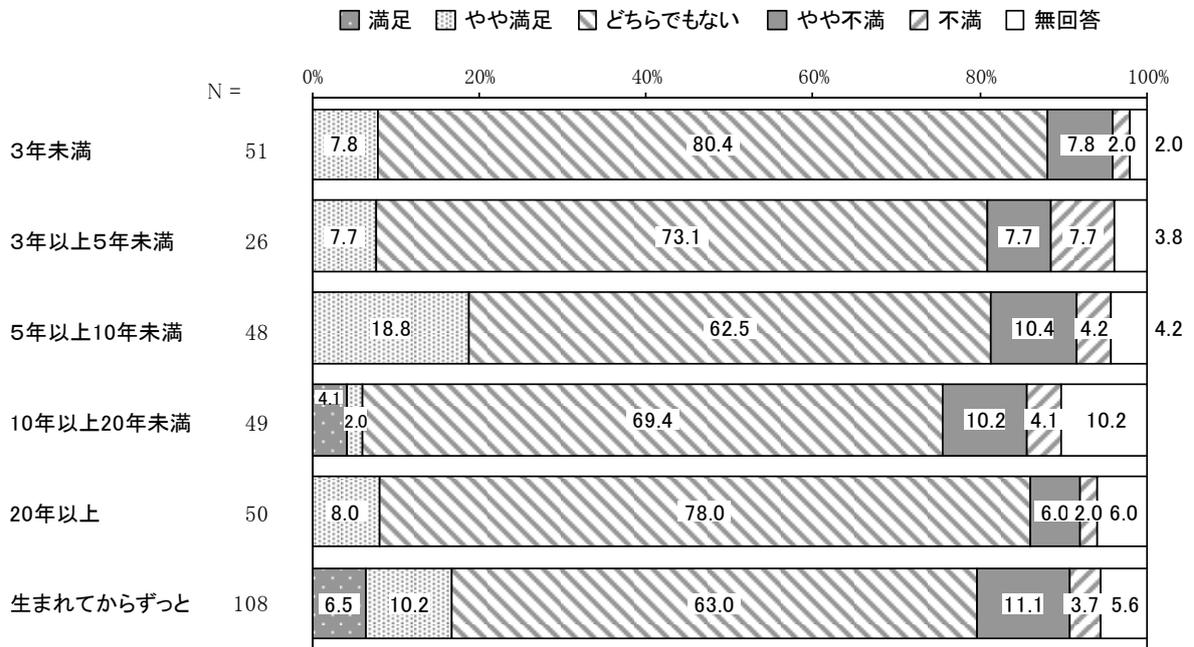
【年代別】

年代別でみると、年齢が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約2割となっています。また、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっていきます。



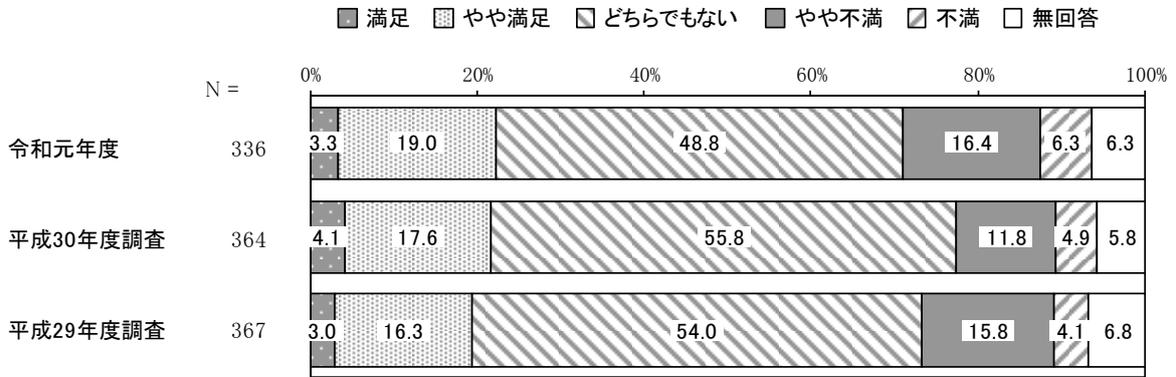
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、5年以上10年未満で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



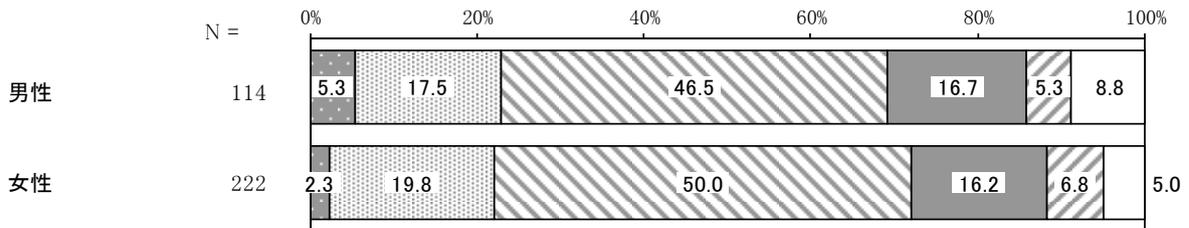
(13) 安心して暮らせる生活環境づくり

“満足”の割合が22.3%、“不満”の割合が22.7%となっています。
 平成30年度調査と比較すると、“不満”の割合が増加しています。



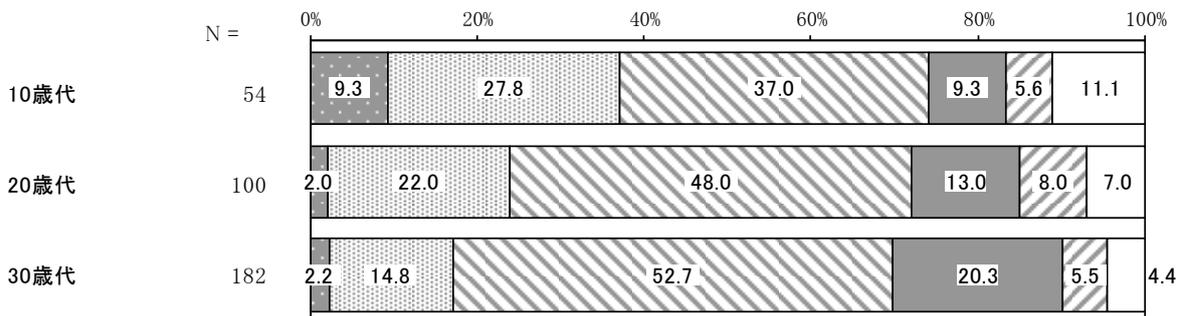
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



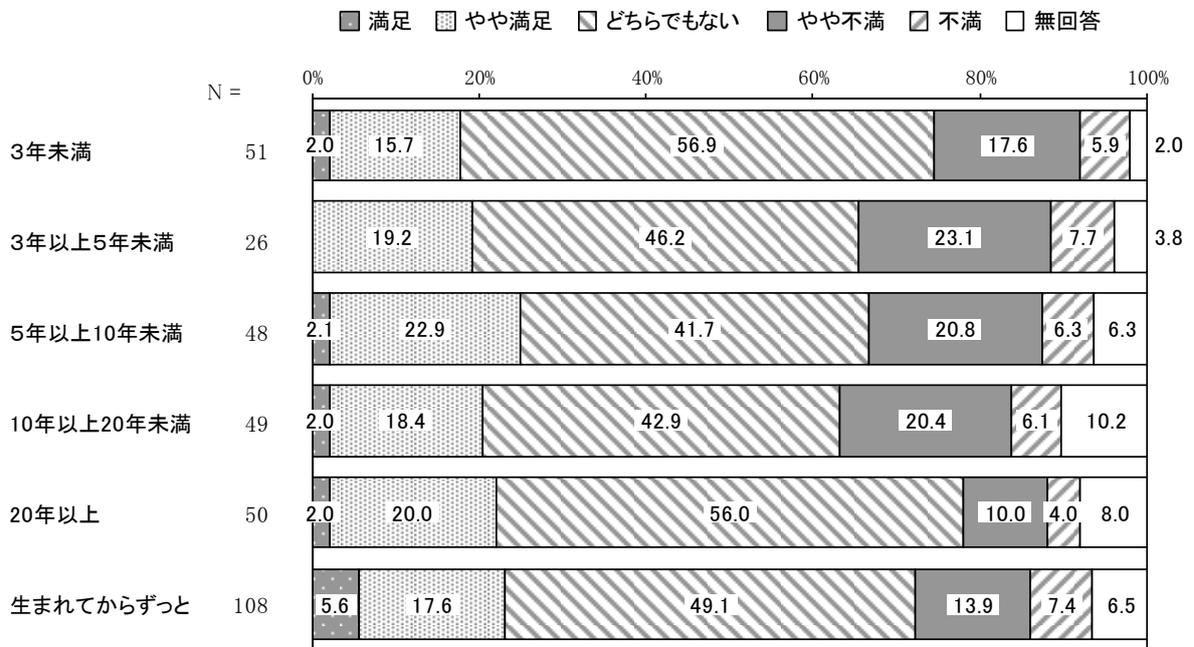
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約4割となっています。また、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっており、30歳代で2割半ばとなっています。



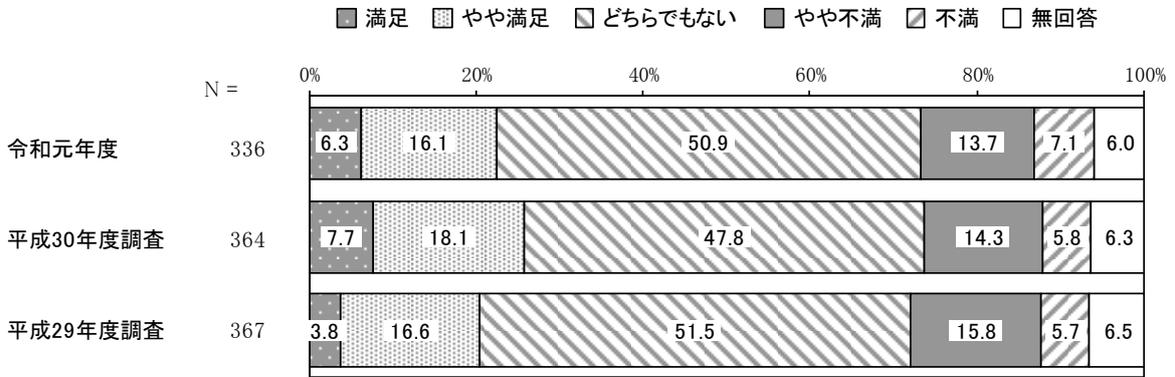
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、5年以上10年未満で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。一方、『3年以上5年未満』と『5年以上10年未満』をあわせた“3年以上10年未満”で“不満”の割合が高く、約3割となっています。



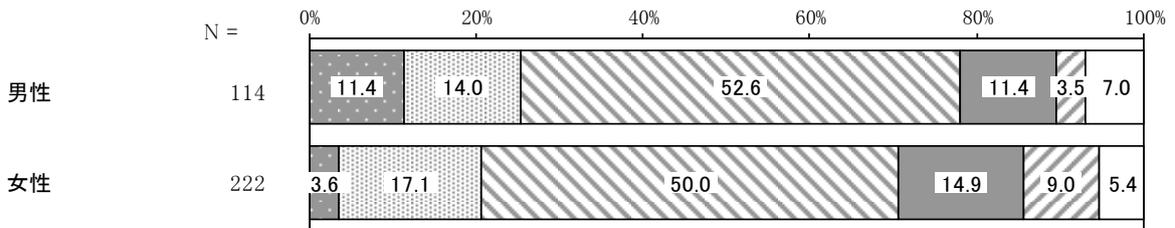
(14) 必要な医療サービスが受けられる

“満足”の割合が22.4%、“不満”の割合が20.8%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



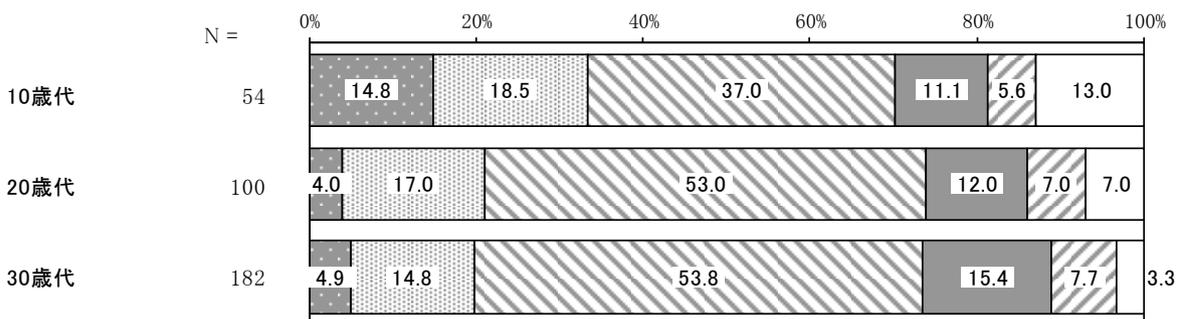
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



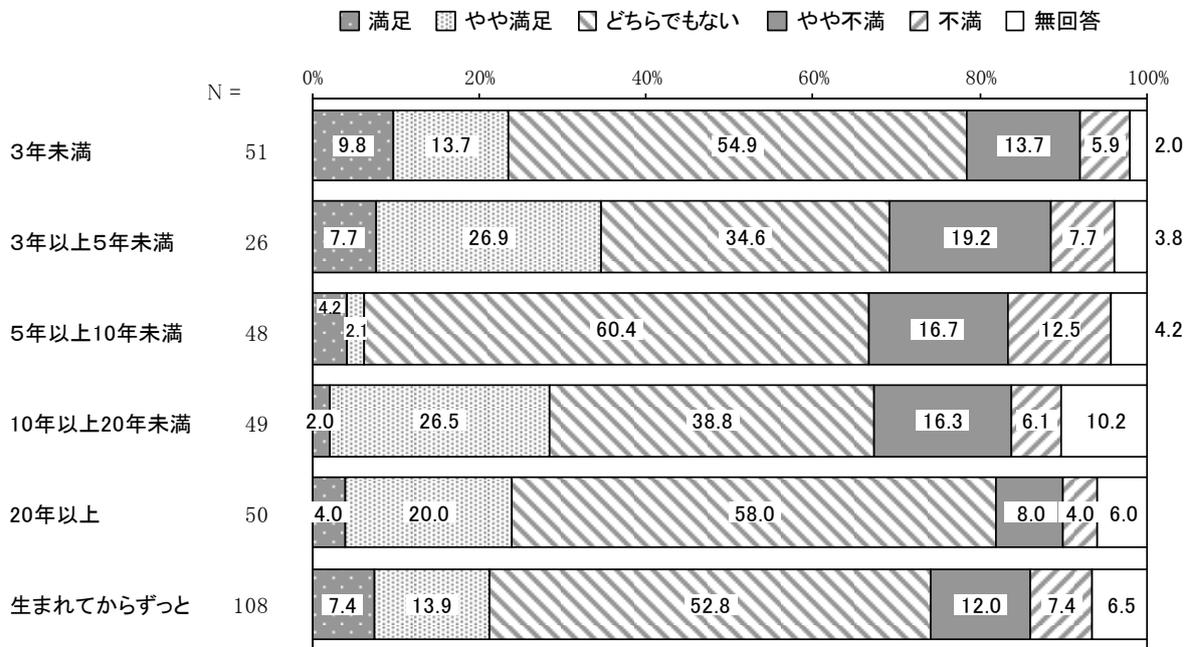
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約3割となっています。また、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっていきます。



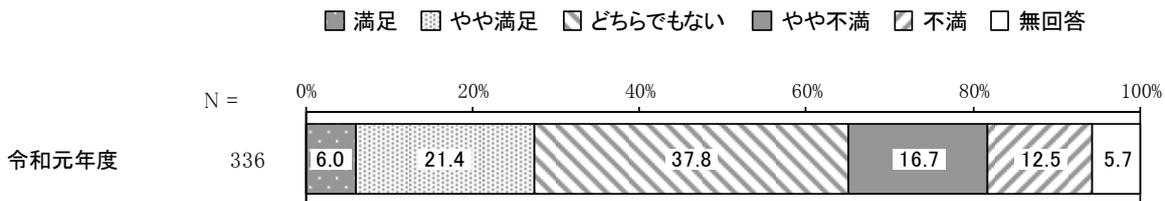
【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で“満足”の割合が高く、3割台半ばとなっています。一方、5年以上10年未満で“不満”の割合が高く、“満足”の割合が低くなっています。



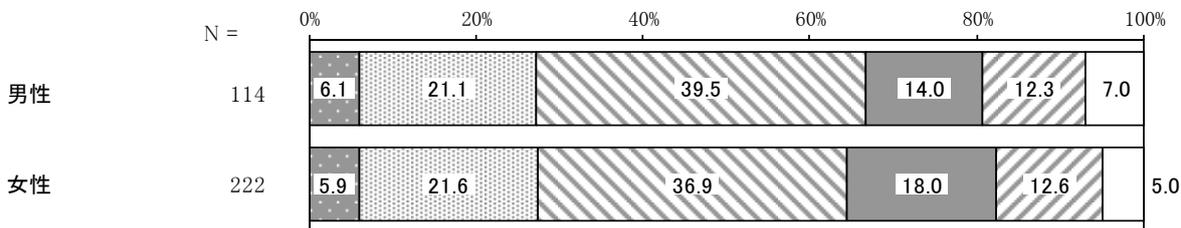
(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備

“満足”の割合が27.4%、“不満”の割合が29.2%となっています。



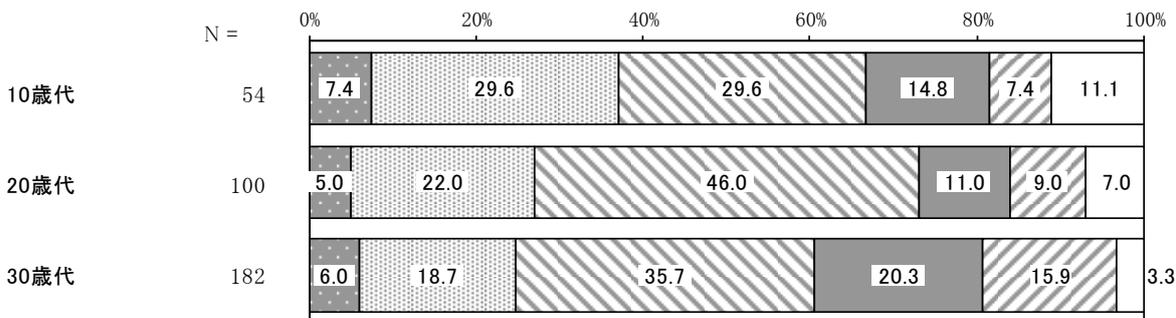
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



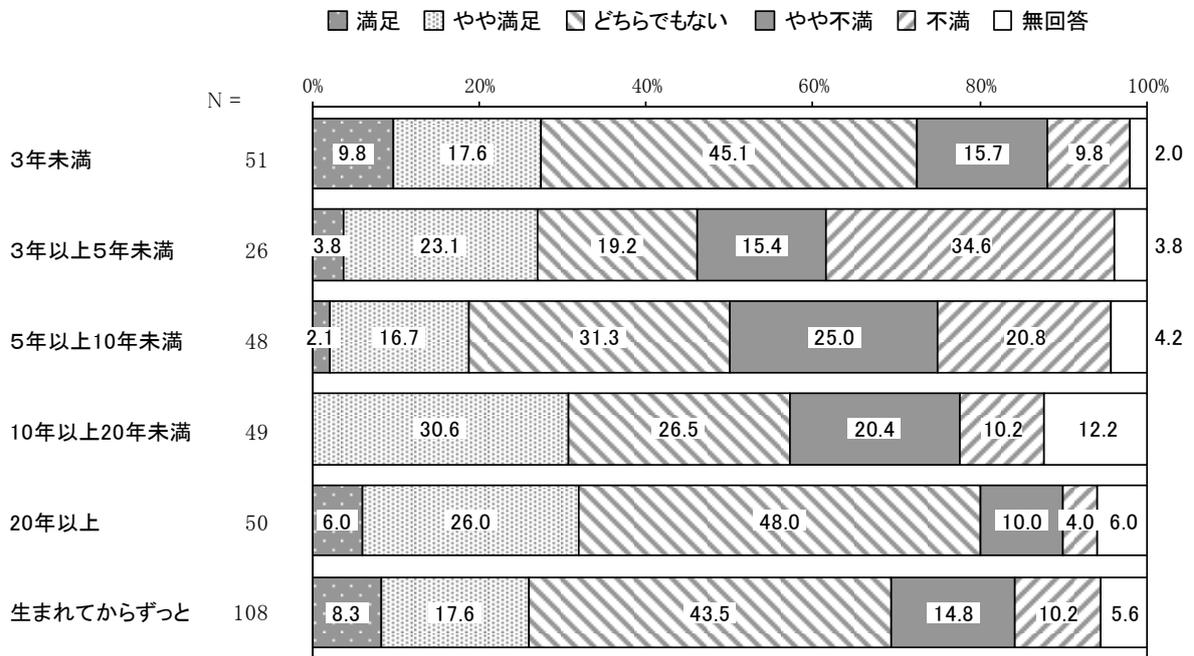
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約4割となっています。また、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で“不満”の割合が高く、3割半ばとなっています。



【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、3年以上5年未満と5年以上10年未満をあわせた“3年以上10年未満”で“不満”の割合が高く、4割台半ばとなっています。



【ポートフォリオによる分析】

(1) 満足度・今後の重要性の得点化

15項目の質問項目について、「満足度」と「重要度」を5つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■満足度・今後の重要性の得点化の手順■

満足度		得点		重要度		得点
不満	→	-2点		重要ではない	→	-2点
やや不満	→	-1点		あまり重要ではない	→	-1点
どちらでもない	→	0点		どちらでもない	→	0点
やや満足	→	1点		やや重要	→	1点
満足	→	2点		重要	→	2点
無回答	→	計算対象外		無回答	→	計算対象外

■得点の算出式■

2点×「満足(重要)」の回答数

+1点×「やや満足(やや重要)」の回答数

+0点×「どちらでもない」の回答数

-1点×「やや不満(あまり重要ではない)」の回答数

-2点×「不満(重要ではない)」の回答数／無回答を除く回答数

算出された満足度・重要度の得点をもとに、各施策の満足度・重要度別に順位付けを行いました。

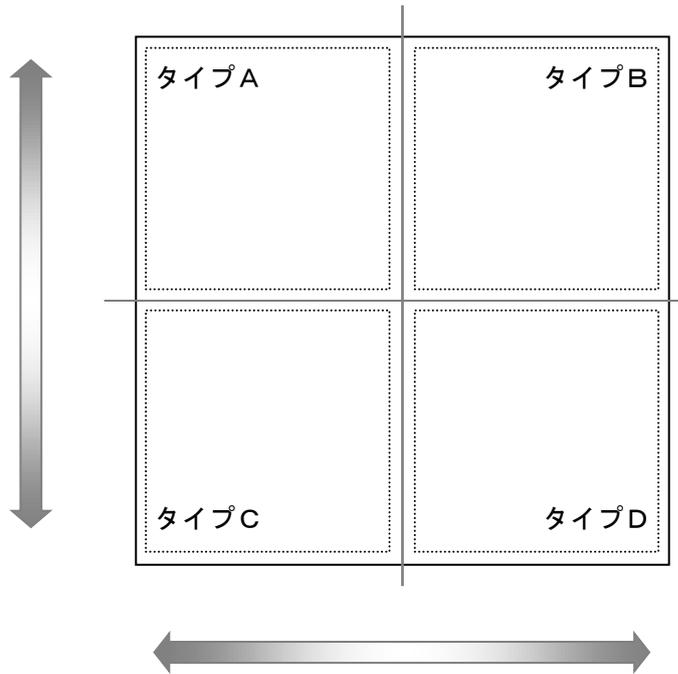
■満足度・重要度のベスト3とワースト3■

満足度		順位	重要度	
施策名	得点		得点	施策名
(6) 地域と市民の元気づくり	0.12	第1位	1.55	(8) 安心して子育てできる環境づくり
(8) 安心して子育てできる環境づくり	0.09	第2位	1.54	(14) 必要な医療サービスが受けられる
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む	0.04	第3位	1.41	(13) 安心して暮らせる生活環境づくり
(10) 結婚への機会づくり	-0.10	第13位	0.88	(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築	-0.14	第14位	0.68	(5) 定住・移住の促進
(4) 市の魅力の向上と発信	-0.14	最下位	0.35	(10) 結婚への機会づくり

(2) ポートフォリオ分析による満足度・重要度の評価

各項目の満足度・重要度の得点の関係について、満足度・重要度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。

施策は、全体的に満足度が低く、重要度が高い傾向があり、その中でも重要度および満足度が高い理由についての検証が必要なタイプBに特に分布しています。



◆タイプA

満足度は低いが、重要度は高い

→ 今後の重点課題として検討が必要なタイプ。

◆タイプB

満足度は高く、重要度も高い

→ 事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプ。

◆タイプC

満足度は低く、重要度も低い

→ 全体に比べ、重要度および満足度が低い理由についての検証が必要なタイプ。施策の縮小や廃止などを含めた検討が必要。

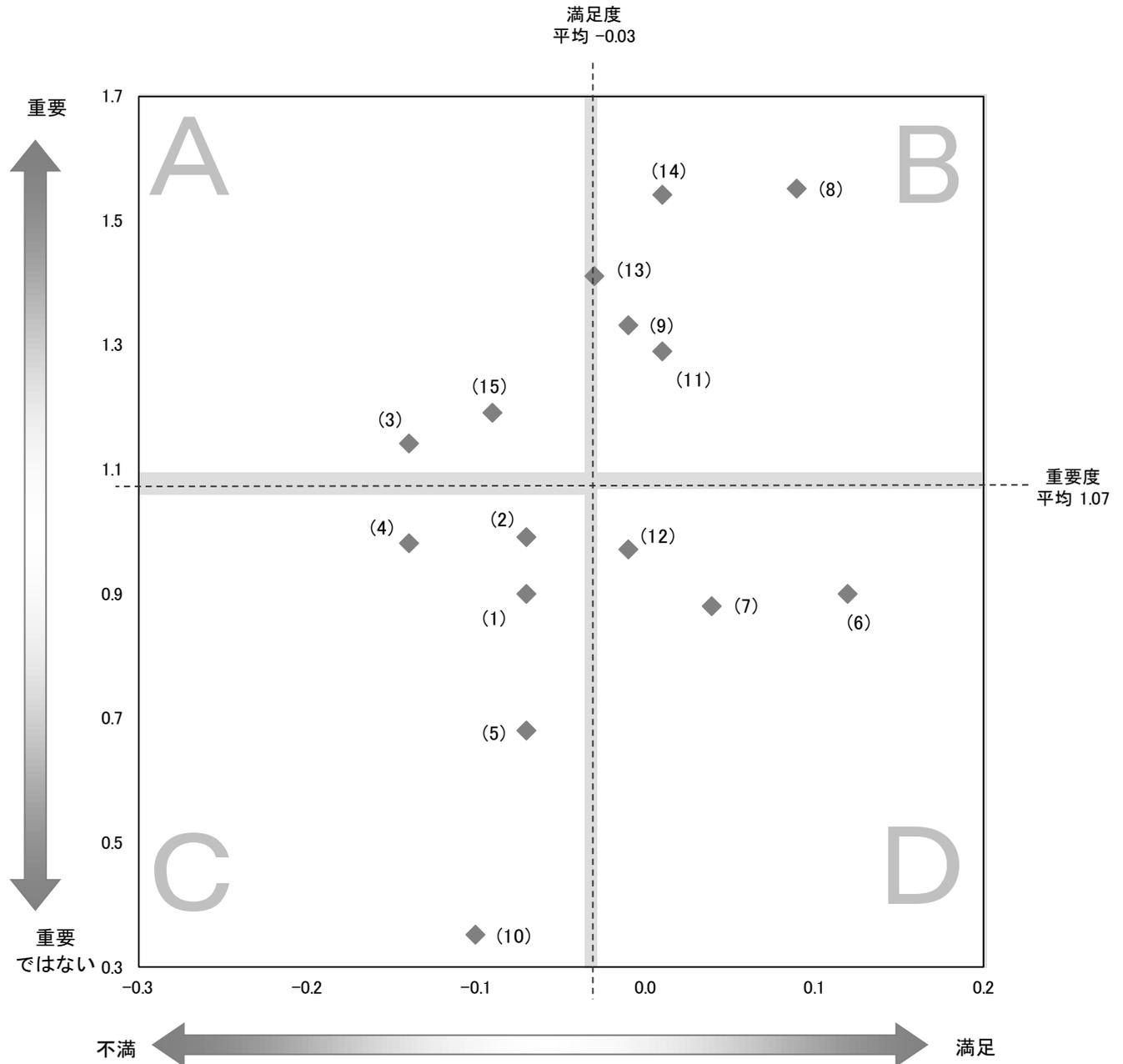
◆タイプD

満足度は高いが、重要度は低い

→ これまでの施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられるタイプ。ただし、施策が過剰になっていないか検討が必要。

●施策のポートフォリオ分析 (N = 336)

満足度が高く、重要度も高い施策(タイプB)は、『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす』『(11)健康で暮らせる環境づくり』『(13)安心して暮らせる生活環境づくり』『(14)必要な医療サービスが受けられる』となっています。

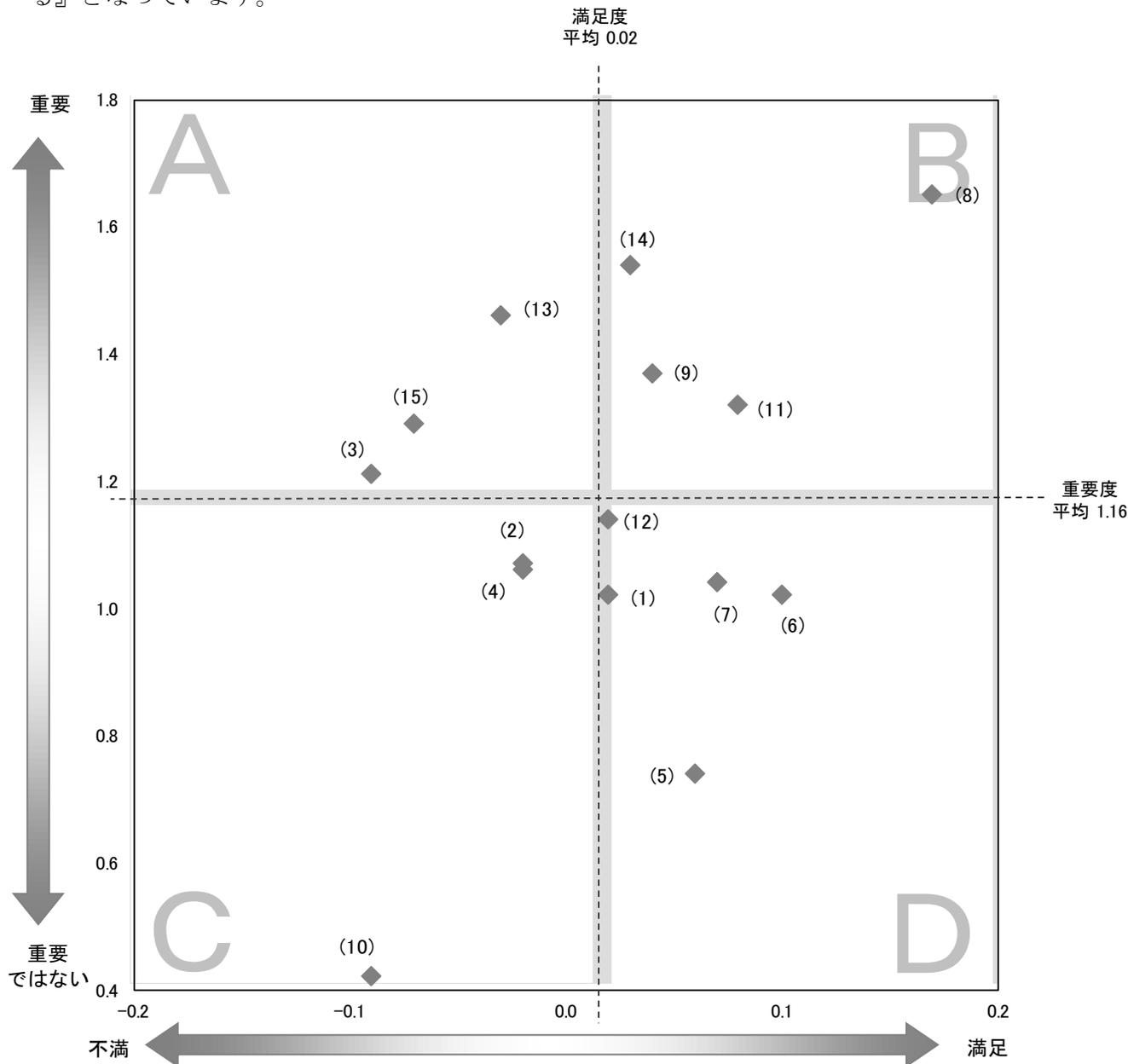


項目	
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援	(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす
(2) 地域産業の活力づくり	(10) 結婚への機会づくり
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築	(11) 健康で暮らせる環境づくり
(4) 市の魅力の向上と発信	(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり
(5) 定住・移住の促進	(13) 安心して暮らせる生活環境づくり
(6) 地域と市民の元気づくり	(14) 必要な医療サービスが受けられる
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む	(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備
(8) 安心して子育てできる環境づくり	

【問 14 ずっと可見市に住みたいと答えた人のみ】(N = 127)

満足度は低い、重要度が高い施策(タイプA)は、『(3)ひとと「しごと」の好循環の構築』『(13)安心して暮らせる生活環境づくり』『(15)公園や緑地などの憩いの場の整備』となっています。

また、満足度が高く、重要度も高い施策(タイプB)は、『(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす』『(11)健康で暮らせる環境づくり』『(14)必要な医療サービスが受けられる』となっています。

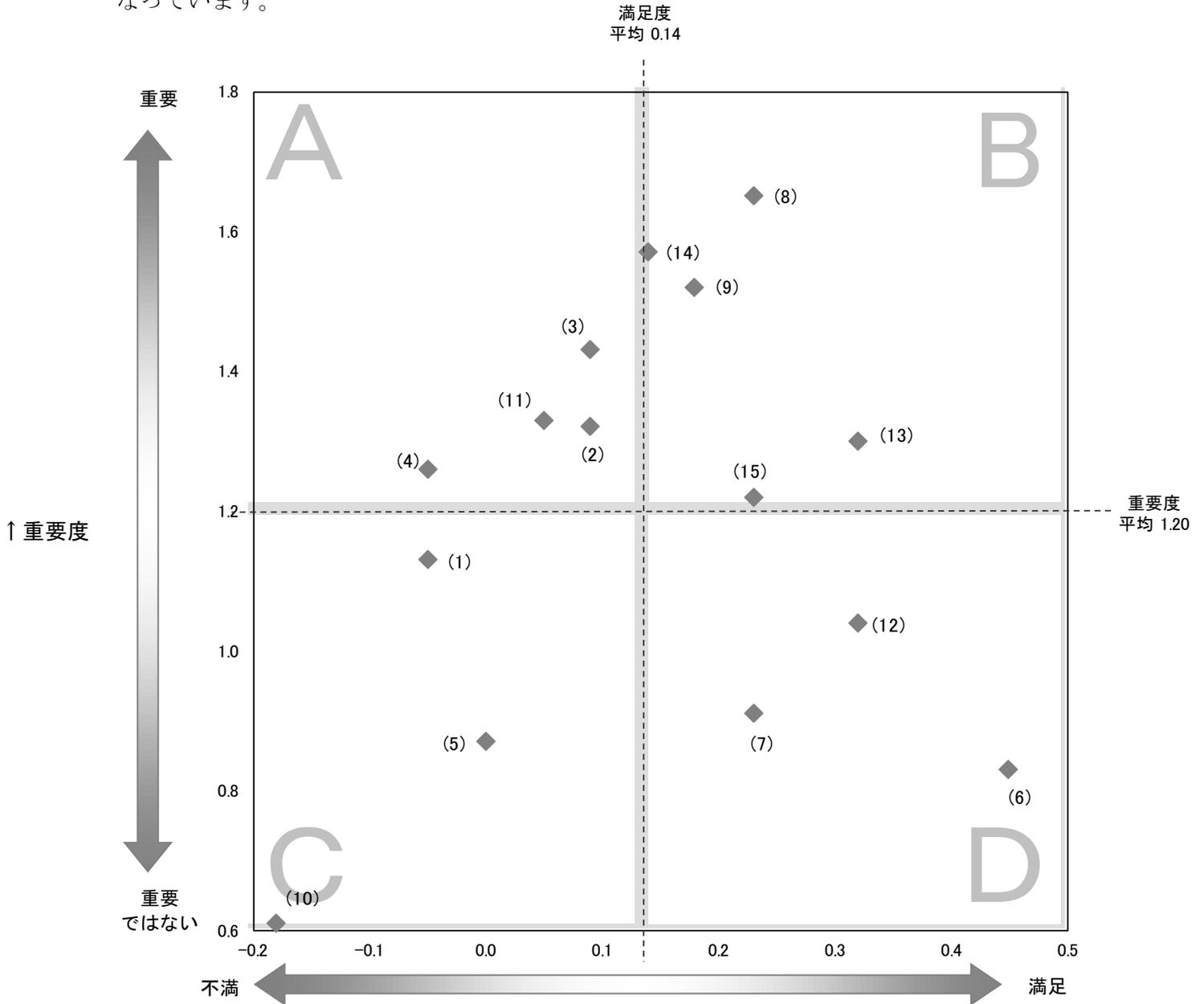


項目	
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援	(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす
(2) 地域産業の活力づくり	(10) 結婚への機会づくり
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築	(11) 健康で暮らせる環境づくり
(4) 市の魅力の向上と発信	(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり
(5) 定住・移住の促進	(13) 安心して暮らせる生活環境づくり
(6) 地域と市民の元気づくり	(14) 必要な医療サービスが受けられる
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む	(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備
(8) 安心して子育てできる環境づくり	

【問 14 可児市外へ出ても、将来的には可児市へ戻りたいのみ】(N = 26)

満足度は低いですが、重要度が高い施策(タイプA)は、『(2) 地域産業の活力づくり』『(3)「ひと」と「しごと」の好循環の構築』『(4) 市の魅力の向上と発信』『(11)健康で暮らせる環境づくり』となっています。

また、満足度が高く、重要度も高い施策(タイプB)は、『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす』『(13)安心して暮らせる生活環境づくり』『(14)必要な医療サービスが受けられる』『(15)公園や緑地などの憩いの場の整備』となっています。

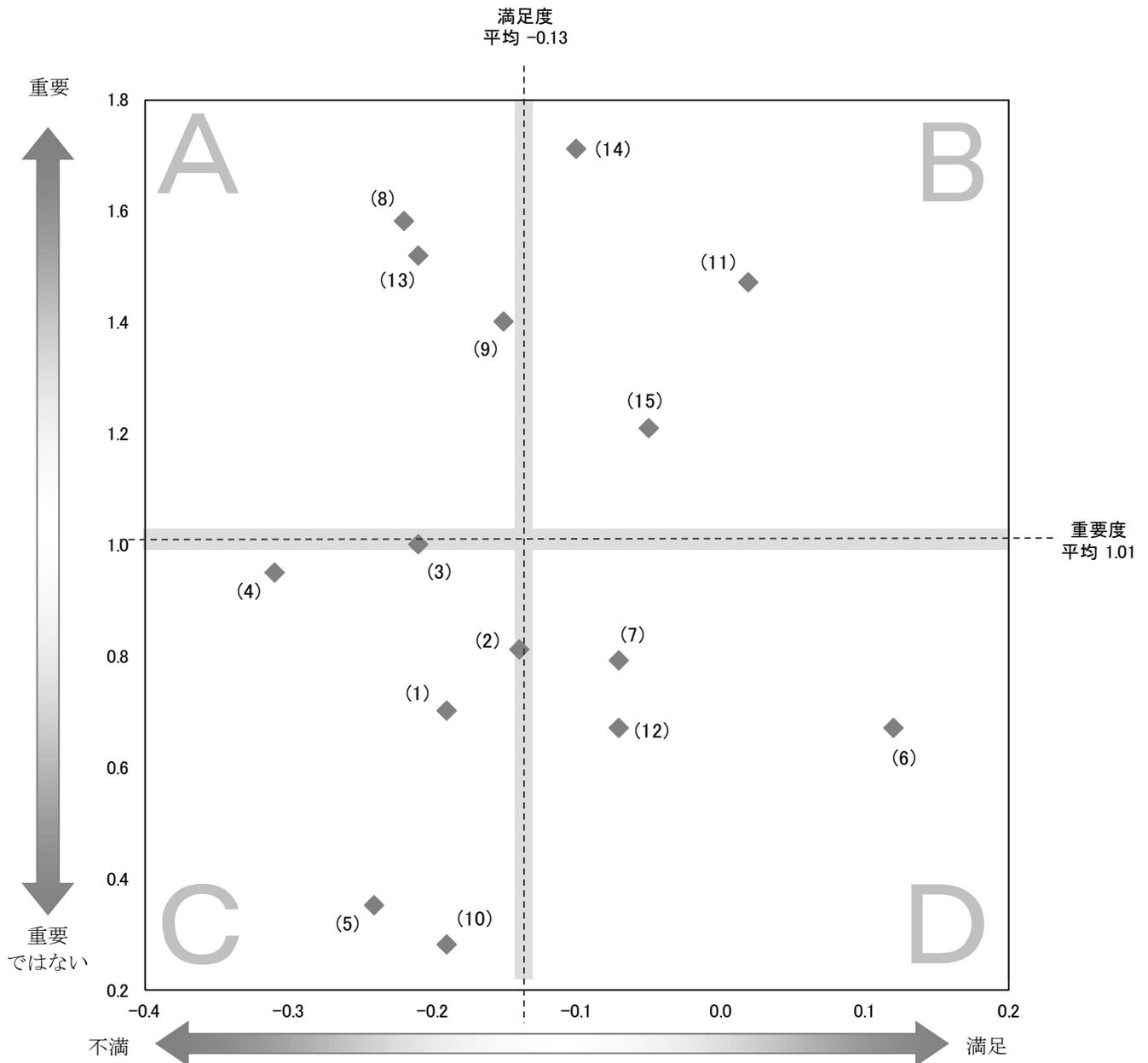


項目	
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援	(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす
(2) 地域産業の活力づくり	(10) 結婚への機会づくり
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築	(11) 健康で暮らせる環境づくり
(4) 市の魅力の向上と発信	(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり
(5) 定住・移住の促進	(13) 安心して暮らせる生活環境づくり
(6) 地域と市民の元気づくり	(14) 必要な医療サービスが受けられる
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む	(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備
(8) 安心して子育てできる環境づくり	

【問 14 できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）】（N = 43）

満足度は低い、重要度が高い施策（タイプA）は、『(8)安心して子育てできる環境づくり』『(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす』『(13)安心して暮らせる生活環境づくり』となっています。

また、満足度が高く、重要度も高い施策（タイプB）は、『(11)健康で暮らせる環境づくり』『(14)必要な医療サービスが受けられる』『(15)公園や緑地などの憩いの場の整備』となっています。

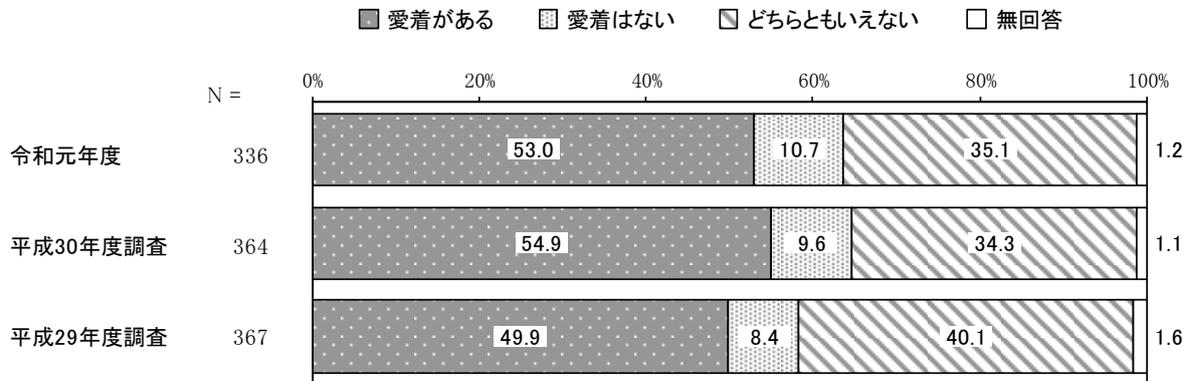


項目	
(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援	(9) 子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす
(2) 地域産業の活力づくり	(10) 結婚への機会づくり
(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築	(11) 健康で暮らせる環境づくり
(4) 市の魅力の向上と発信	(12) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり
(5) 定住・移住の促進	(13) 安心して暮らせる生活環境づくり
(6) 地域と市民の元気づくり	(14) 必要な医療サービスが受けられる
(7) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む	(15) 公園や緑地などの憩いの場の整備
(8) 安心して子育てできる環境づくり	

(4) 可児市のイメージについて

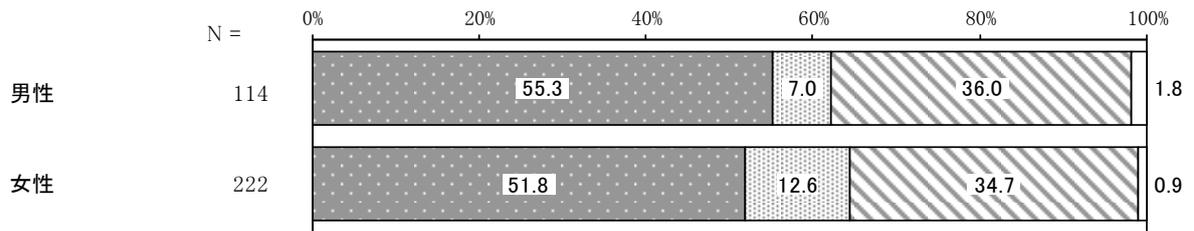
問 13 可児市に愛着はありますか。

「愛着がある」の割合が53.0%、「愛着はない」の割合が10.7%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



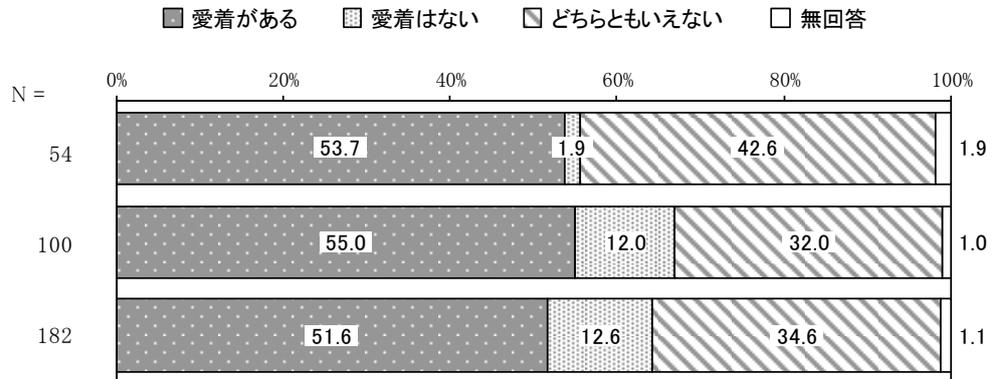
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「愛着はない」の割合が高くなっています。



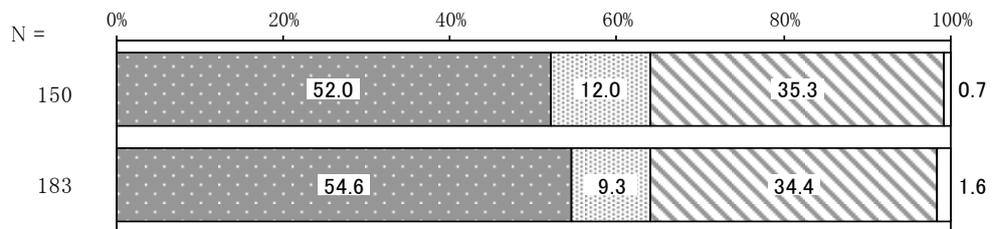
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で「どちらともいえない」の割合が高く、約4割となっています。



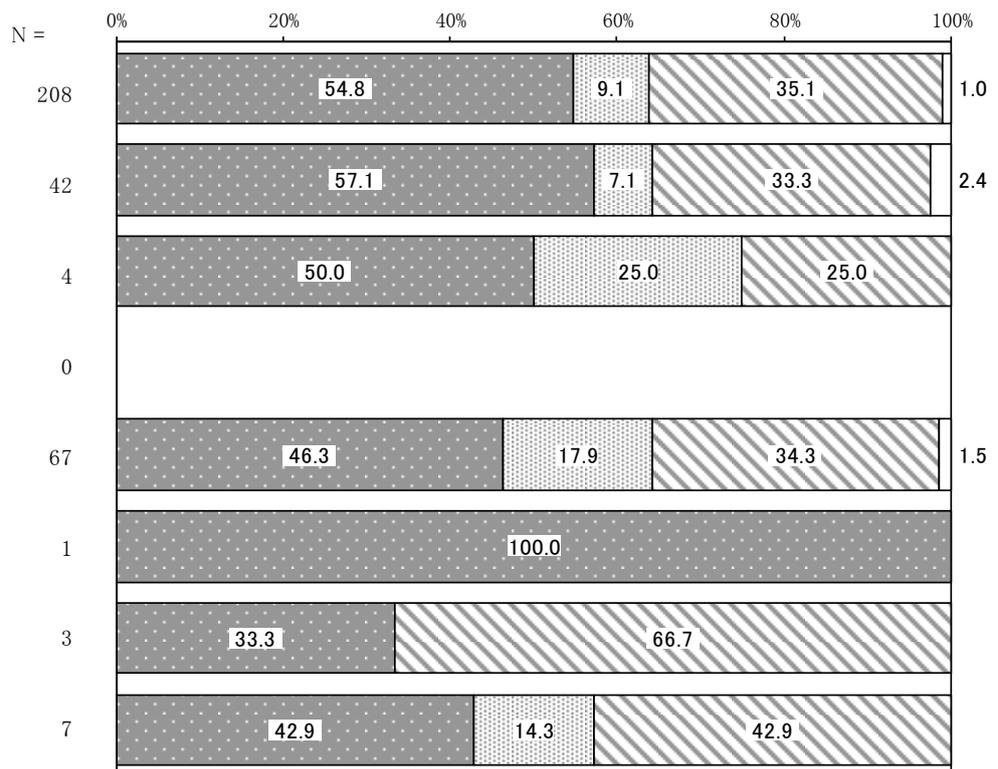
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



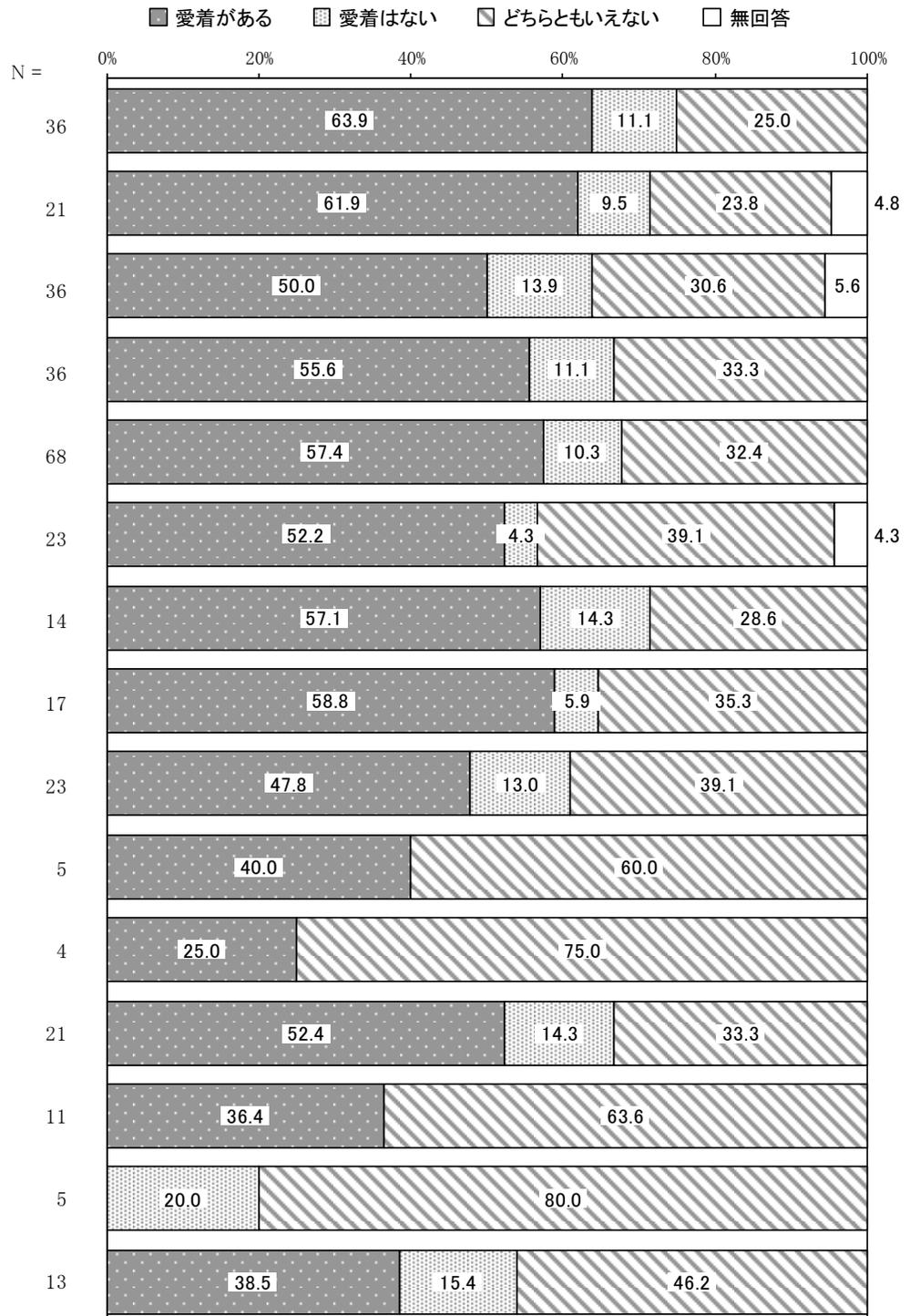
【住まいの形態別】

住まいの形態別でみると、他に比べ、戸建住宅（購入）、戸建住宅（相続）で「愛着がある」の割合が高く、5割台半ばとなっています。



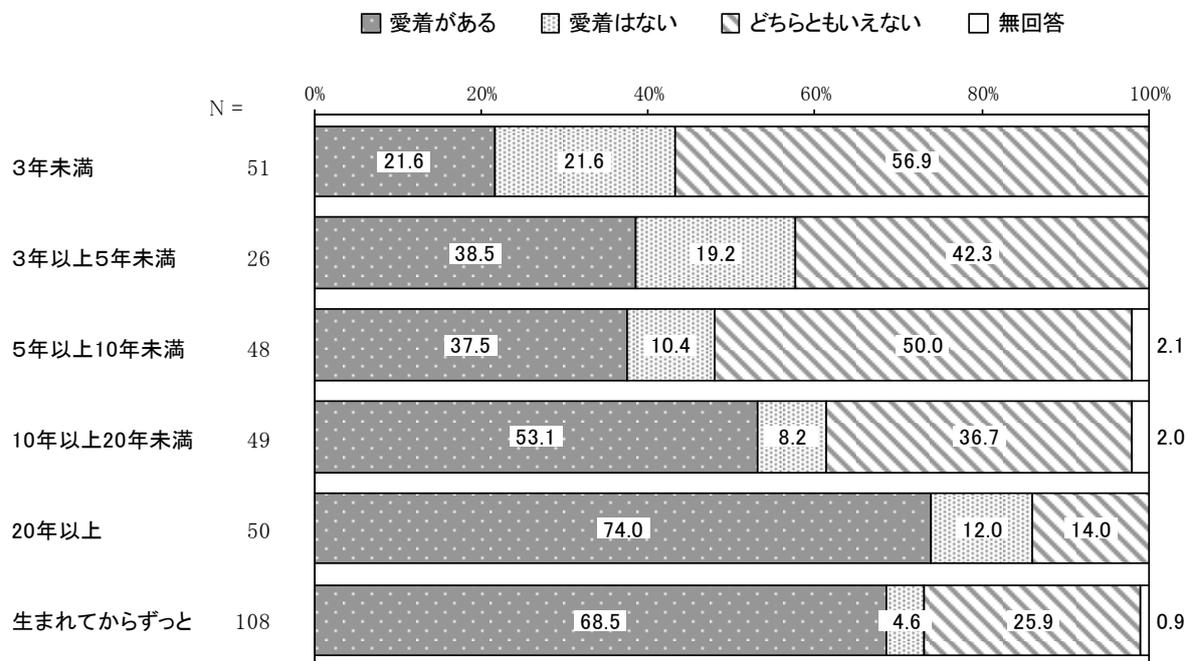
【居住地区別】

居住地区別でみると、他の地区に比べ、今渡、川合で「愛着がある」の割合が高く、約6割と
なっています。



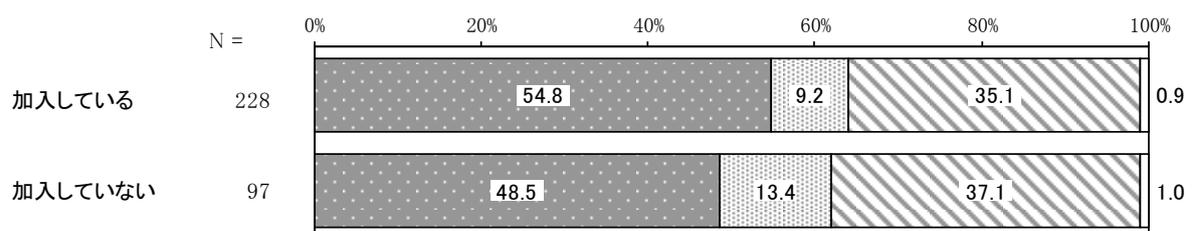
【居住年数別】

居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれ「愛着がある」の割合が高くなる傾向がみられ、20年以上で7割台半ばとなっています。また、他に比べ、3年未満と3年以上5年未満をあわせた“5年未満”で「愛着はない」の割合が高く、約2割となっています。



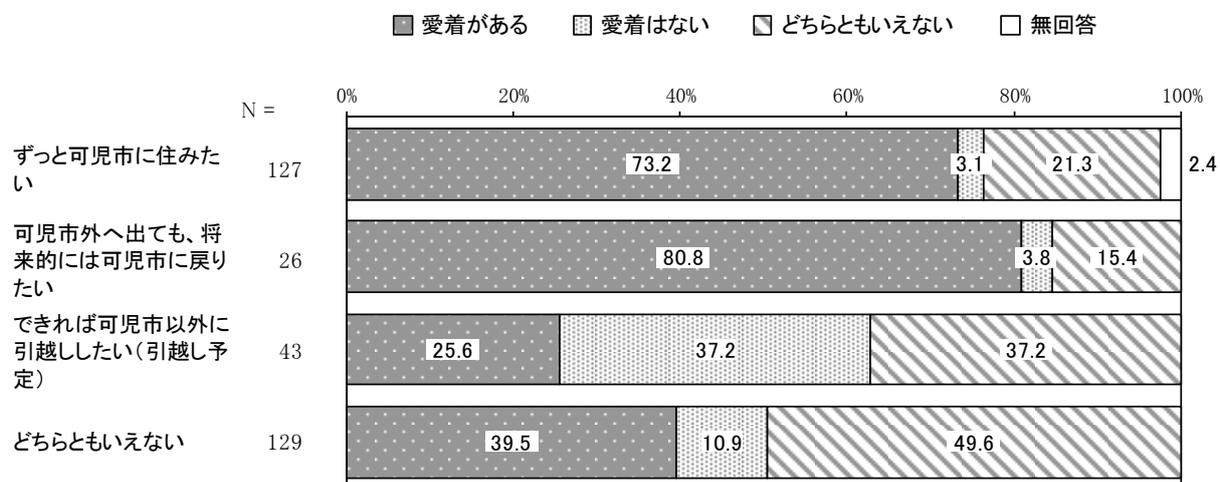
【自治会の加入の有無別】

自治会の加入の有無別でみると、加入していない人に比べ、加入している人で「愛着がある」の割合が高く、5割台半ばとなっています。



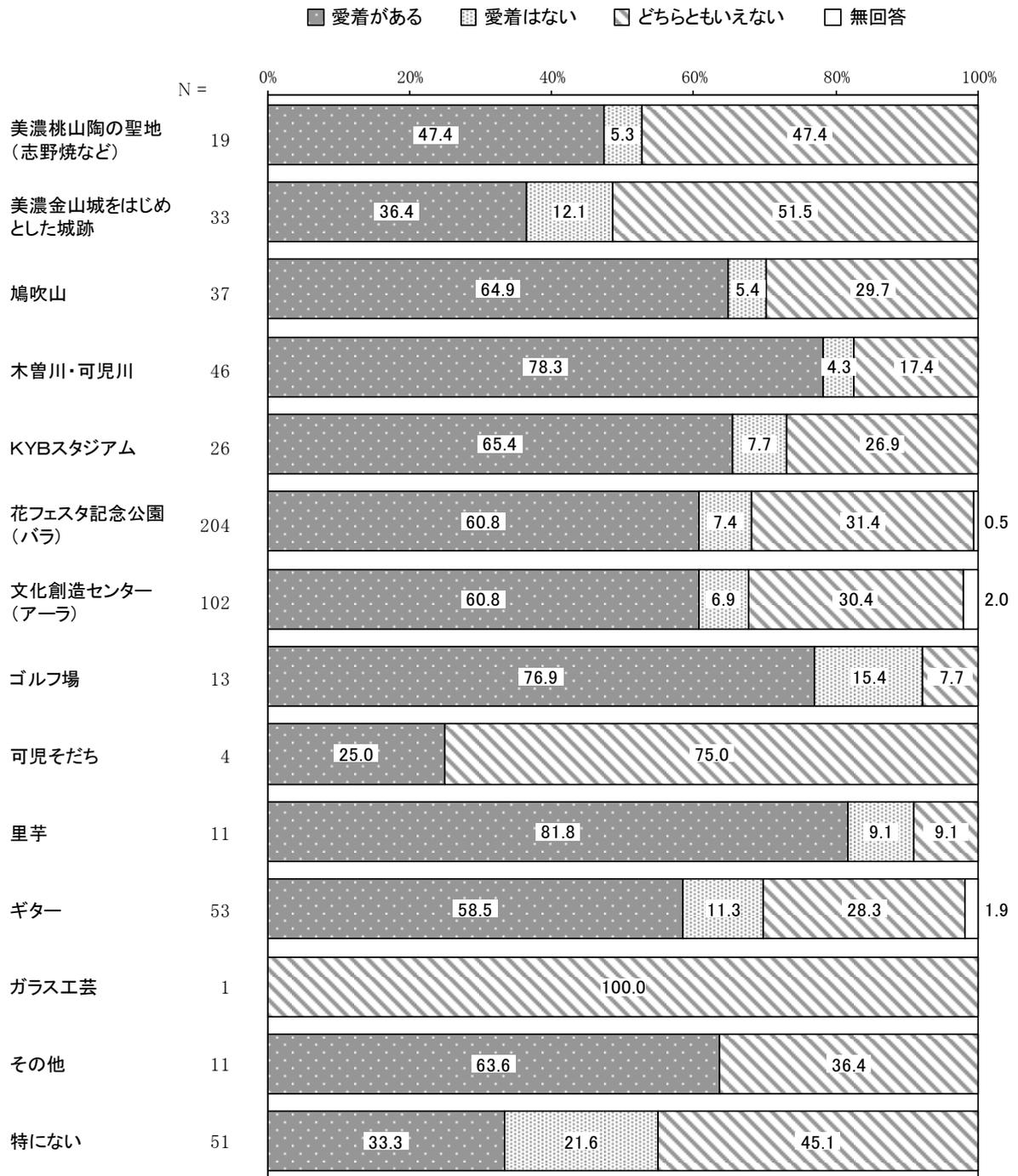
【可児市への定住意向別】

可児市への定住意向別でみると、他に比べ、可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたいで「愛着がある」の割合が高く、約8割となっています。一方、できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)、で「愛着はない」の割合が高く、約4割となっています。



【自慢できる観光資源別】

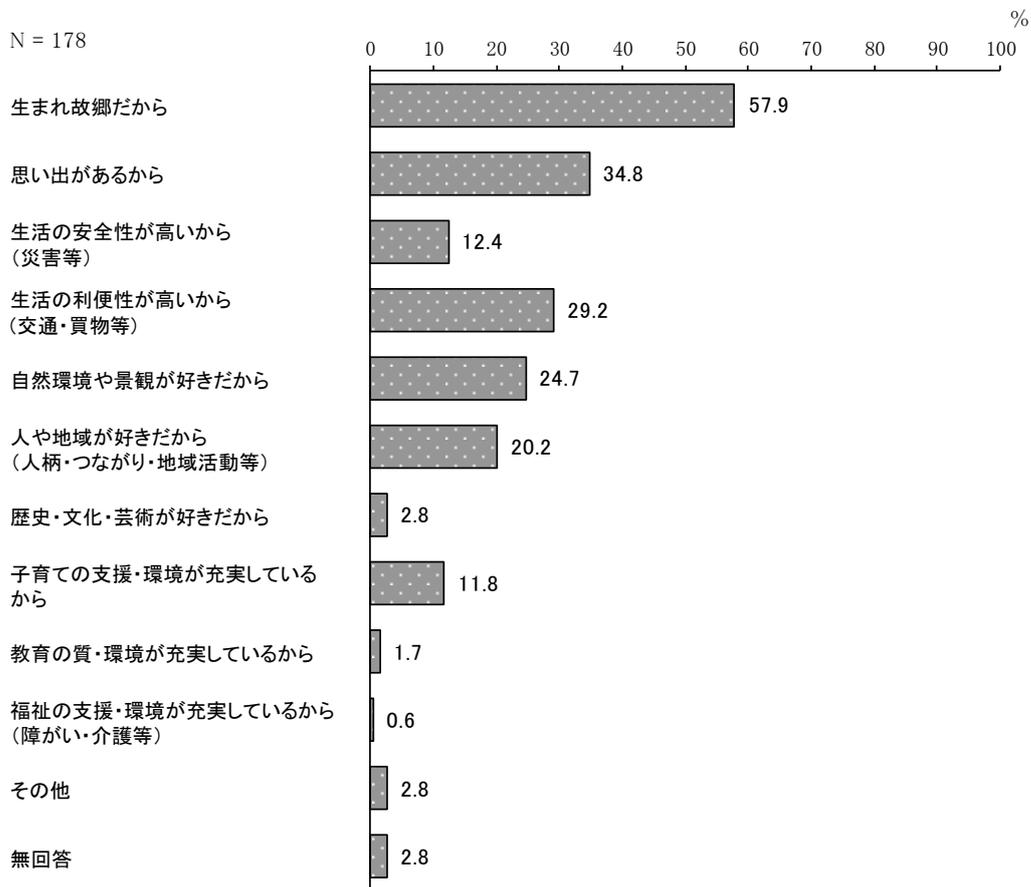
自慢できる観光資源別でみると、他に比べ、木曽川・可児川、里芋で「愛着がある」の割合が高く、約8割となっています。一方、特にないで「愛着はない」の割合が高く、約2割となっています。



【問 13 で 1 (愛着がある) を選択された方に伺います】

問 14 その理由は何ですか。(〇は3つまで)

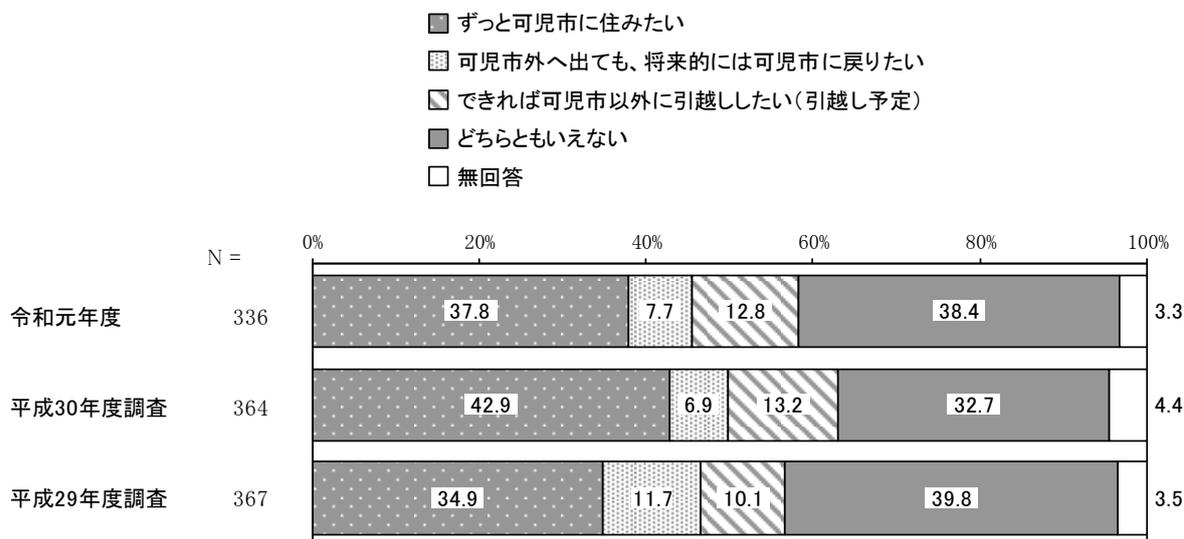
「生まれ故郷だから」の割合が 57.9% と最も高く、次いで「思い出があるから」の割合が 34.8%、
「生活の利便性が高いから(交通・買物等)」の割合が 29.2% となっています。



問 15 あなたは、可児市に今後も住み続けようと思いますか。(〇は1つだけ)

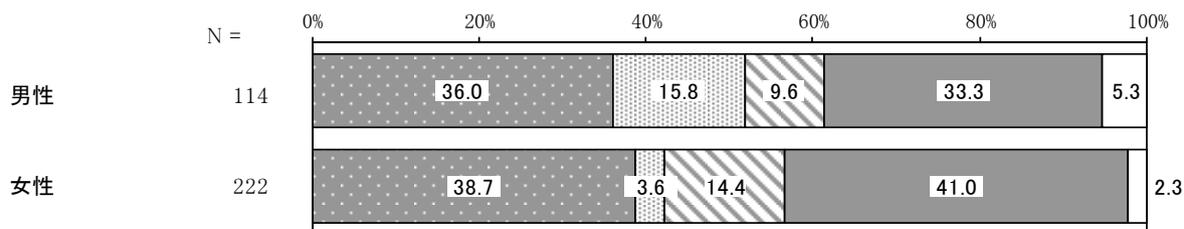
「どちらともいえない」の割合が38.4%と最も高く、次いで「ずっと可児市に住みたい」の割合が37.8%、「できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)」の割合が12.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「ずっと可児市に住みたい」の割合が減少しています。



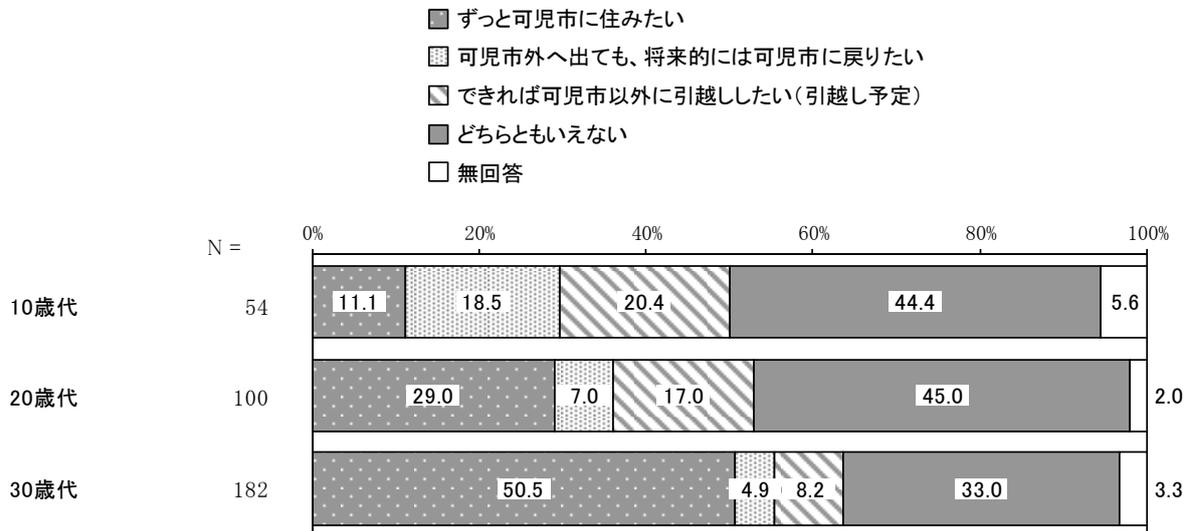
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい」の割合が高く、1割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「どちらともいえない」の割合が高く、約3割となっています。



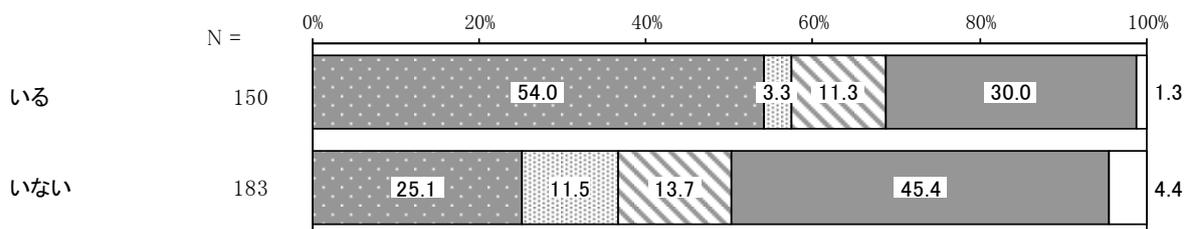
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「ずっと可児市に住みたい」の割合が高くなっており、30歳代で約5割となっています。一方、年代が低くなるにつれ「可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい」「できれば可児市以外に引越したい（引越し予定）」の割合が高くなっており、10歳代でともに約2割となっています。



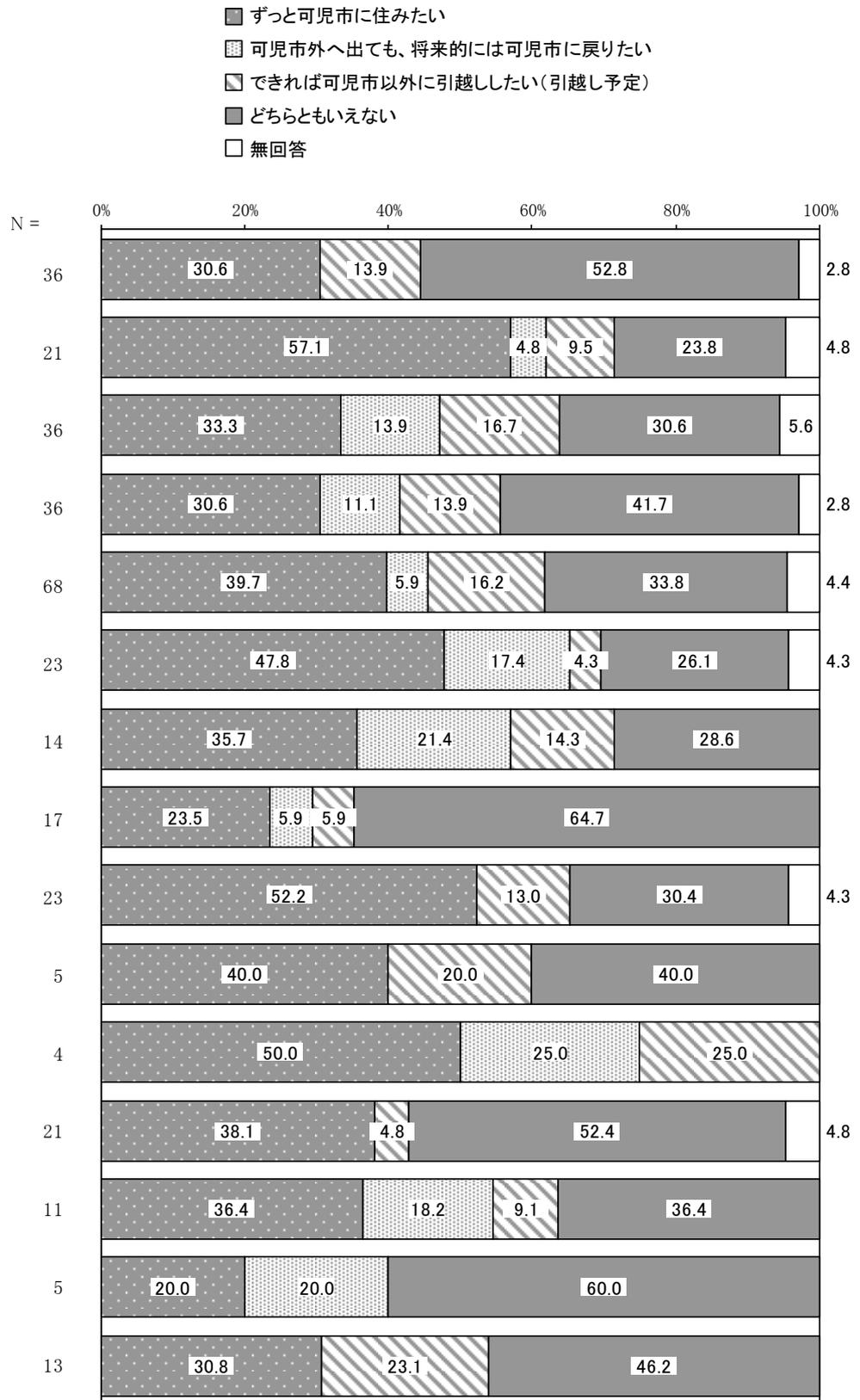
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、5割台半ばとなっています。一方、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「可児市外へ出ても、将来的には可児市へ戻りたい」「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



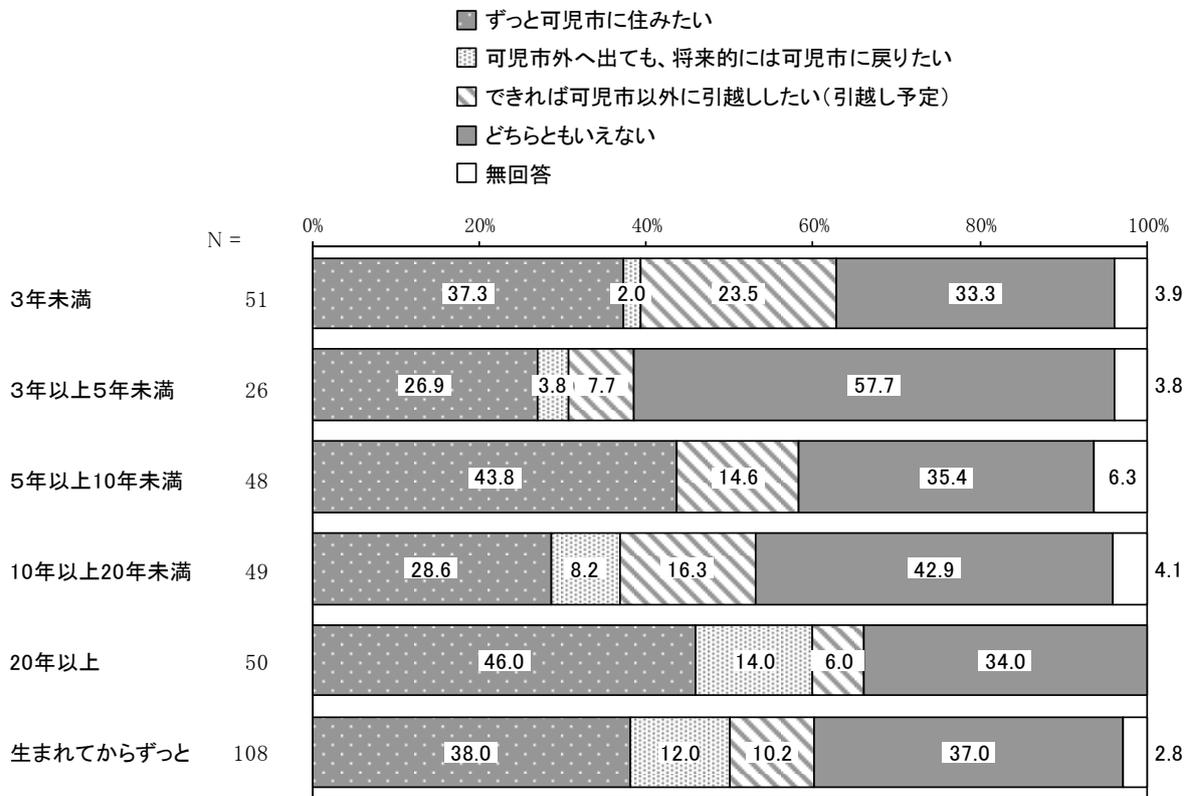
【居住地区別】

居住地区別でみると、他の地区に比べ、川合で「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、約6割となっています。



【居住年数別】

居住年数別で見ると、他に比べ、5年以上10年未満、20年以上で「ずっと可児市に住みたい」の割合が高く、4割を超えています。一方、3年未満で「できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)」の割合が高く、約2割となっています。

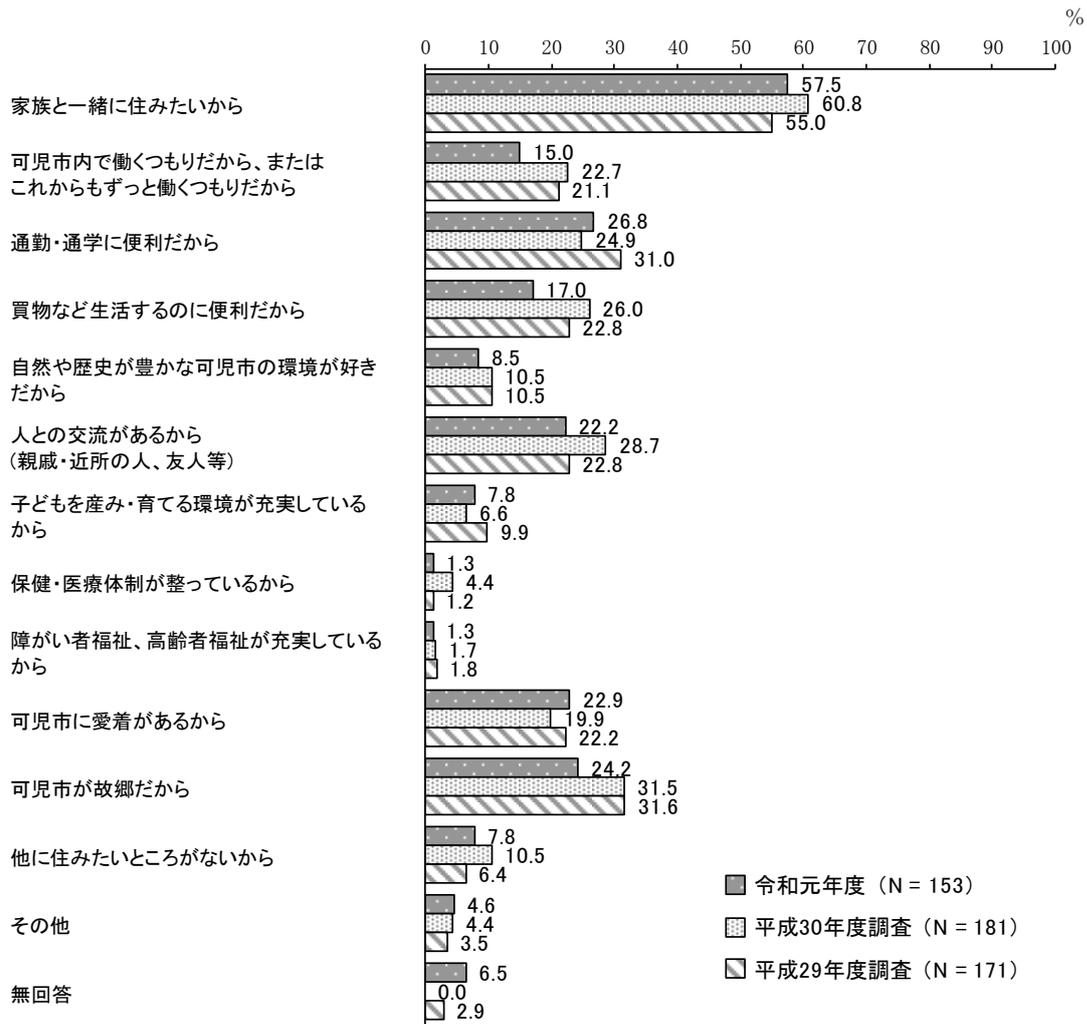


【問 15 で 1 または 2 (ずっと可児市に住みたい・可児市外へ出て、将来的には可児市に戻りたい) を選択された方に伺います】

問 16 その理由は何ですか。(〇は3つまで)

「家族と一緒に住みたいから」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「通勤・通学に便利だから」の割合が 26.8%、「可児市が故郷だから」の割合が 24.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから」「買物など生活するのに便利だから」「可児市が故郷だから」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「可児市に愛着があるから」の割合が高く、約3割となっています。また、男性に比べ、女性で「可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから」「通勤・通学に便利だから」「子どもを産み・育てる環境が充実しているから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族と一緒に住みたいから	可児市内でも働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
男性	59	55.9	10.2	23.7	15.3	8.5	20.3	—	1.7	—	27.1	23.7	10.2	6.8	11.9
女性	94	58.5	18.1	28.7	18.1	8.5	23.4	12.8	1.1	2.1	20.2	24.5	6.4	3.2	3.2

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「家族と一緒に住みたいから」「買物など生活するのに便利だから」の割合が高くなっています。また、年代が低くなるにつれ「自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから」「人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)」「可児市に愛着があるから」「可児市が故郷だから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族と一緒に住みたいから	可児市内でも働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
10歳代	16	43.8	12.5	12.5	—	12.5	31.3	—	—	—	37.5	56.3	6.3	—	6.3
20歳代	36	50.0	13.9	30.6	8.3	8.3	25.0	13.9	—	—	30.6	27.8	8.3	5.6	—
30歳代	101	62.4	15.8	27.7	22.8	7.9	19.8	6.9	2.0	2.0	17.8	17.8	7.9	5.0	8.9

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「家族と一緒に住みたいから」「買物など生活するのに便利だから」「人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）」「子どもを産み・育てる環境が充実しているから」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「可児市に愛着があるから」「可児市が故郷だから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	好きだから 自然や歴史が豊かな可児市の環境が	人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
いる	86	61.6	15.1	26.7	19.8	8.1	24.4	12.8	2.3	—	18.6	18.6	5.8	3.5	8.1
いない	67	52.2	14.9	26.9	13.4	9.0	19.4	1.5	—	3.0	28.4	31.3	10.4	6.0	4.5

【居住地区別】

居住地区別でみると、他の地区に比べ、帷子で「家族と一緒に住みたいから」の割合が高く、約8割となっています。また、土田で「可児市が故郷だから」の割合が高く、4割台半ばとなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等)	子どもを産み・育てる環境が充実しているから	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
今渡	11	81.8	18.2	27.3	9.1	9.1	27.3	18.2	—	—	45.5	18.2	—	—	—
川合	13	38.5	30.8	30.8	23.1	7.7	30.8	—	—	7.7	15.4	46.2	—	—	7.7
下恵土	17	47.1	11.8	17.6	23.5	5.9	17.6	17.6	—	—	35.3	35.3	5.9	11.8	5.9
土田	15	53.3	20.0	20.0	13.3	—	20.0	6.7	—	6.7	40.0	46.7	13.3	—	—
帷子	31	74.2	12.9	32.3	6.5	6.5	25.8	6.5	—	—	9.7	12.9	9.7	—	12.9
春里	15	53.3	13.3	40.0	20.0	20.0	20.0	—	6.7	—	13.3	26.7	13.3	—	—
姫治	8	62.5	12.5	37.5	37.5	12.5	—	—	—	—	25.0	25.0	12.5	—	—
平牧	5	40.0	—	—	20.0	—	40.0	—	—	—	20.0	40.0	—	20.0	—
桜ヶ丘ハイツ	12	33.3	8.3	16.7	16.7	8.3	33.3	25.0	8.3	—	16.7	8.3	8.3	25.0	8.3
久々利	2	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—
広見東	3	100.0	—	33.3	33.3	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—
広見	8	62.5	12.5	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	—	—	12.5	25.0	—	—	12.5
中恵土	6	50.0	33.3	16.7	—	—	33.3	—	—	—	33.3	16.7	—	—	33.3
兼山	2	100.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不明	4	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	50.0	—	25.0	25.0	—

【可児市への定住意向別】

可児市への定住意向別でみると、可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい人に比べ、ずっと可児市に住みたい人で「家族と一緒に住みたいから」「可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから」「通勤・通学に便利だから」「買物など生活するのに便利だから」の割合が高くなっています。また、ずっと可児市に住みたい人に比べ、可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい人で「人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）」「可児市に愛着があるから」「可児市が故郷だから」の割合が高くなっています。

単位：%

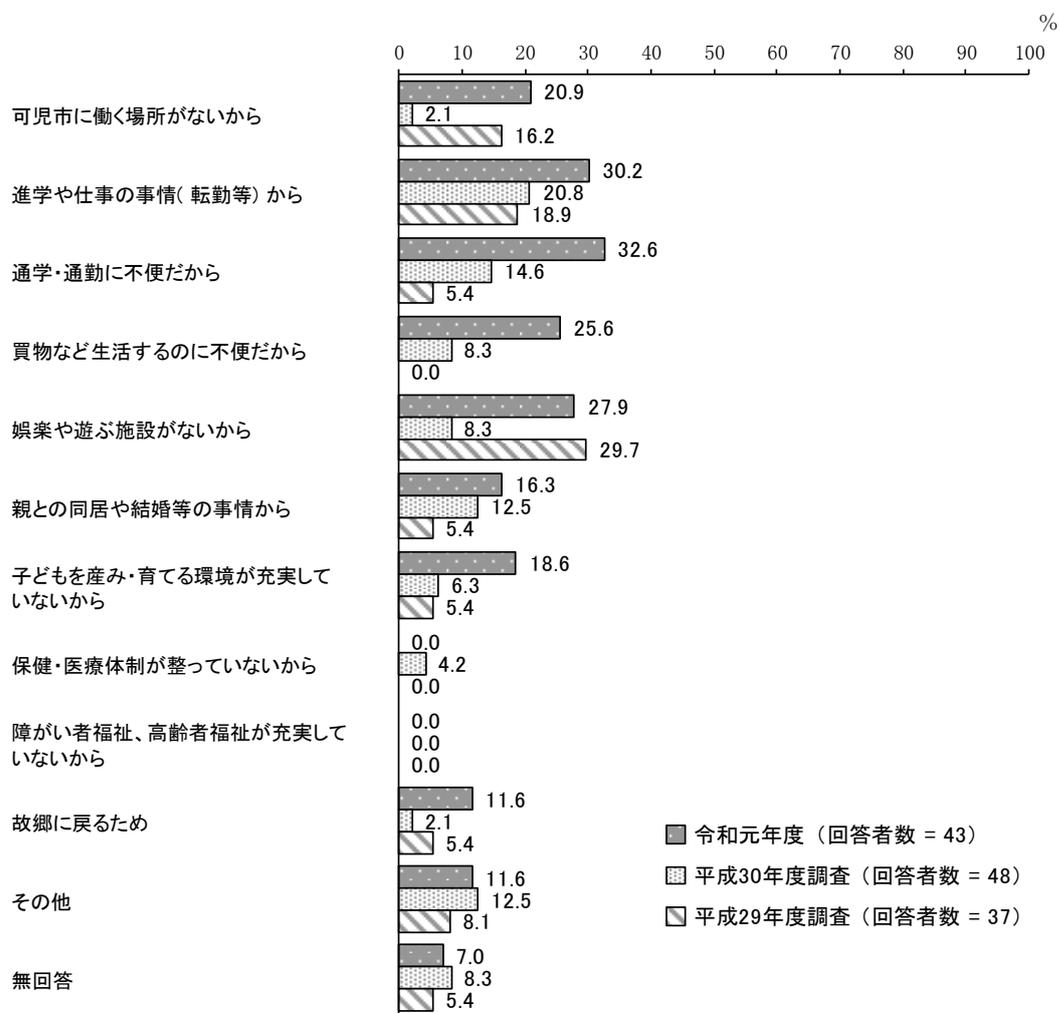
区分	有効回答数（件）	家族と一緒に住みたいから	可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから	通勤・通学に便利だから	買物など生活するのに便利だから	自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから	人との交流があるから（親戚・近所の人、友人等）	子どもを産み・育てる環境が充実しているから
ずっと可児市に住みたい	127	59.1	16.5	29.1	18.9	7.9	18.1	9.4
可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい	26	50.0	7.7	15.4	7.7	11.5	42.3	—

区分	保健・医療体制が整っているから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから	可児市に愛着があるから	可児市が故郷だから	他に住みたいところがないから	その他	無回答
ずっと可児市に住みたい	1.6	1.6	18.9	18.9	7.9	5.5	7.1
可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい	—	—	42.3	50.0	7.7	—	3.8

【問 15 で 3（できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)）を選択された方に伺います】

問 17 その理由は何ですか。(〇は3つまで)

「通学・通勤に不便だから」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「進学や仕事の事情(転勤等)から」の割合が 30.2%、「娯楽や遊ぶ施設がないから」の割合が 27.9%となっています。
 平成 30 年度調査、平成 29 年度調査では単数回答であったため、参考とします。



【性別】

性別でみると、女性で「通学・通勤に不便だから」の割合が最も高くなっています。男性は、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	回答者数(件)	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情(転勤等)から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
男性	11	18.2	45.5	18.2	27.3	18.2	9.1	36.4	—	—	18.2	9.1	—
女性	32	21.9	25.0	37.5	25.0	31.3	18.8	12.5	—	—	9.4	12.5	9.4

【年代別】

年代別では、有効回答数が少ないためコメントを控えます。

単位：％

区分	回答者数(件)	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情(転勤等)から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
10歳代	11	27.3	45.5	45.5	9.1	36.4	—	—	—	—	18.2	—	—
20歳代	17	29.4	41.2	29.4	29.4	29.4	35.3	17.6	—	—	17.6	—	—
30歳代	15	6.7	6.7	26.7	33.3	20.0	6.7	33.3	—	—	—	33.3	20.0

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、いる人で「子どもを産み・育てる環境が充実していないから」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、いない人で「可児市に働く場所がないから」「進学や仕事の事情（転勤等）から」「通学・通勤に不便だから」「娯楽や遊ぶ施設がないから」「親との同居や結婚等の事情から」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情（転勤等）から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み・育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
いる	17	11.8	11.8	23.5	23.5	17.6	11.8	29.4	—	—	11.8	23.5	17.6
いない	25	28.0	44.0	36.0	28.0	32.0	20.0	12.0	—	—	12.0	4.0	—

【居住地区別】

居住地区別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

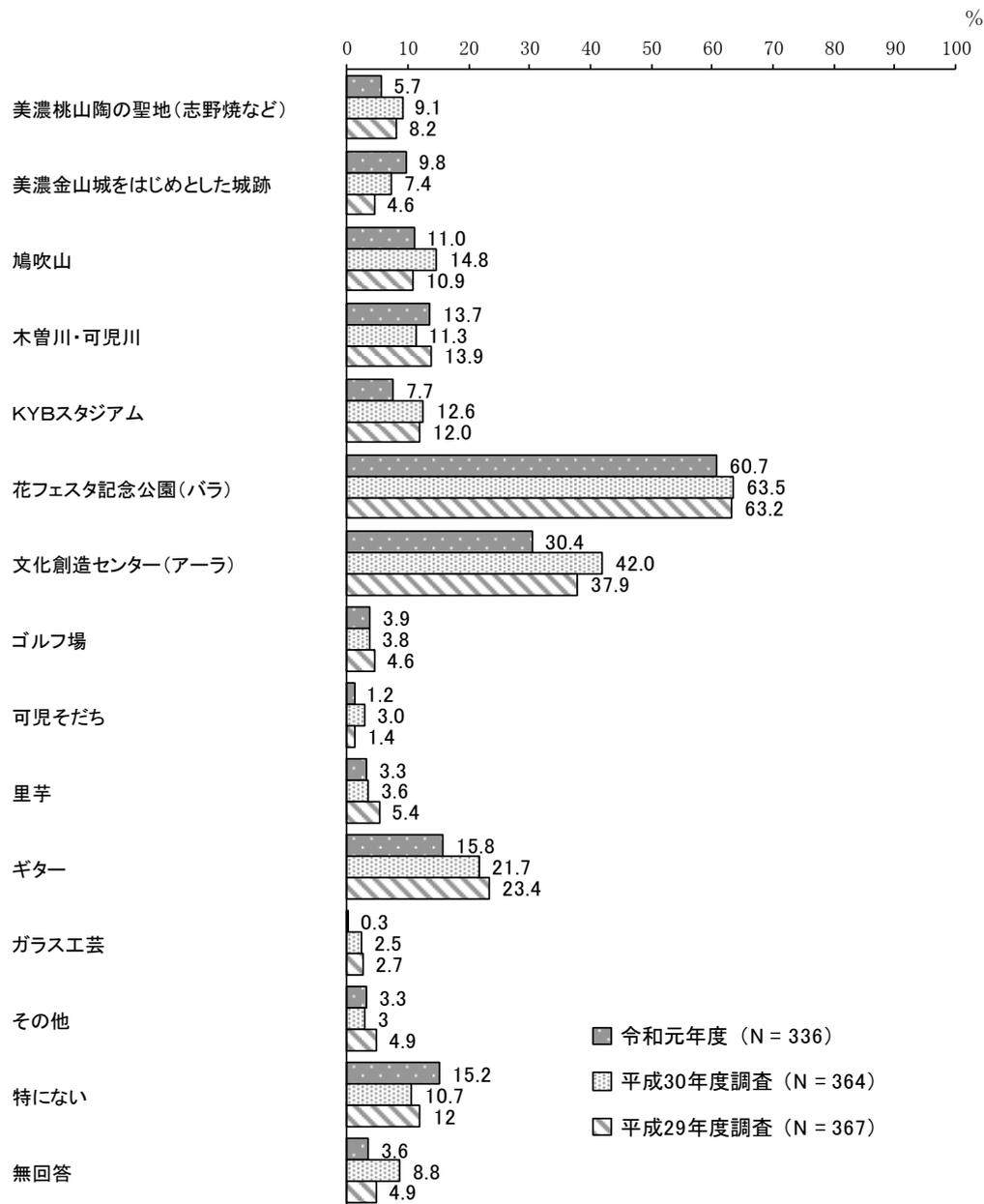
単位：％

区分	回答者数（件）	可児市に働く場所がないから	進学や仕事の事情（転勤等）から	通学・通勤に不便だから	買物など生活するのに不便だから	娯楽や遊ぶ施設がないから	親との同居や結婚等の事情から	子どもを産み・育てる環境が充実していないから	保健・医療体制が整っていないから	障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから	故郷に戻るため	その他	無回答
今渡	5	—	20.0	60.0	40.0	80.0	—	20.0	—	—	—	20.0	—
川合	2	50.0	—	—	—	—	100.0	50.0	—	—	50.0	—	—
下恵土	6	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	—	33.3	—	—	—	33.3	16.7
土田	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	—	—	—	20.0	—
帷子	11	9.1	27.3	36.4	—	9.1	18.2	9.1	—	—	27.3	9.1	9.1
春里	1	—	—	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—
姫治	2	—	50.0	—	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—
平牧	1	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
桜ヶ丘ハイツ	3	33.3	—	66.7	66.7	—	—	33.3	—	—	—	—	33.3
久々利	1	100.0	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
広見東	1	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—
広見	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中恵土	1	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
兼山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不明	3	66.7	66.7	—	66.7	33.3	—	—	—	—	—	—	—

問 18 可児市の自慢できる地域資源（観光施設・特産品など）はどれだと思いますか。
（〇は3つまで）

「花フェスタ記念公園（バラ）」の割合が60.7%と最も高く、次いで「文化創造センター（ア－ラ）」の割合が30.4%、「ギター」の割合が15.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「文化創造センター（ア－ラ）」「ギター」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「鳩吹山」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「文化創造センター（アーラ）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	美濃桃山陶の聖地（志野焼など）	美濃金山城をはじめとした城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園（バラ）	文化創造センター（アーラ）	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特になし	無回答
男性	114	8.8	12.3	15.8	15.8	9.6	60.5	26.3	6.1	0.9	1.8	15.8	—	2.6	13.2	4.4
女性	222	4.1	8.6	8.6	12.6	6.8	60.8	32.4	2.7	1.4	4.1	15.8	0.5	3.6	16.2	3.2

【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で「KYBスタジアム」「文化創造センター（アーラ）」の割合が高くなっています。また、20歳代で「花フェスタ記念公園（バラ）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	美濃桃山陶の聖地（志野焼など）	美濃金山城をはじめとした城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園（バラ）	文化創造センター（アーラ）	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特になし	無回答
10歳代	54	7.4	1.9	13.0	11.1	18.5	57.4	48.1	—	—	—	7.4	—	5.6	14.8	3.7
20歳代	100	1.0	12.0	7.0	14.0	5.0	66.0	32.0	4.0	—	5.0	18.0	—	4.0	16.0	2.0
30歳代	182	7.7	11.0	12.6	14.3	6.0	58.8	24.2	4.9	2.2	3.3	17.0	0.5	2.2	14.8	4.4

【居住地区別】

居住地区別でみると、他の地区に比べ川合で「文化創造センター（アーラ）」の割合が高く、約6割となっています。また、土田で「鳩吹山」「木曾川・可児川」の割合が、春里で「KYBスタジオ」「ギター」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	美濃桃山陶の聖地 （志野焼など）	美濃金山城をはじめと した城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジオ	花フエスタ記念公園 （バラ）	文化創造センター （アーラ）	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特にない	無回答
今渡	36	2.8	8.3	5.6	22.2	5.6	66.7	38.9	2.8	—	2.8	11.1	—	5.6	16.7	2.8
川合	21	—	4.8	14.3	9.5	—	76.2	57.1	4.8	—	—	14.3	—	4.8	9.5	4.8
下恵土	36	2.8	8.3	—	8.3	8.3	61.1	25.0	2.8	—	2.8	25.0	—	5.6	22.2	5.6
土田	36	8.3	8.3	38.9	33.3	5.6	44.4	27.8	—	—	5.6	11.1	—	2.8	11.1	5.6
帷子	68	1.5	2.9	17.6	8.8	10.3	63.2	26.5	5.9	2.9	1.5	14.7	—	2.9	14.7	4.4
春里	23	4.3	17.4	8.7	4.3	26.1	60.9	43.5	—	—	—	30.4	4.3	4.3	—	8.7
姫治	14	—	14.3	—	21.4	—	71.4	42.9	—	—	—	21.4	—	7.1	—	—
平牧	17	23.5	11.8	5.9	5.9	—	64.7	23.5	—	—	11.8	11.8	—	—	5.9	—
桜ヶ丘ハイツ	23	17.4	13.0	4.3	8.7	4.3	56.5	21.7	4.3	4.3	8.7	8.7	—	—	26.1	—
久々利	5	20.0	—	—	20.0	—	40.0	—	—	—	—	—	—	—	40.0	—
広見東	4	25.0	25.0	—	50.0	—	100.0	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—
広見	21	—	9.5	—	9.5	14.3	61.9	33.3	9.5	—	9.5	19.0	—	4.8	14.3	4.8
中恵土	11	—	9.1	—	—	—	36.4	27.3	—	9.1	—	18.2	—	—	45.5	—
兼山	5	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	—	20.0	—	—	—	—
不明	13	15.4	7.7	7.7	15.4	15.4	46.2	30.8	7.7	—	—	7.7	—	—	23.1	—

【居住年数別】

居住年数別でみると、他に比べ、3年以上5年未満で「美濃金山城をはじめとした城跡」「花フェスタ記念公園（バラ）」「可児そだち」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	美濃桃山陶の聖地 （志野焼など）	美濃金山城をはじめと した城跡	鳩吹山	木曾川・可児川	KYBスタジアム	花フェスタ記念公園 （バラ）	文化創造センター （アール）
3年未満	51	3.9	11.8	5.9	11.8	3.9	54.9	19.6
3年以上5年未満	26	3.8	19.2	11.5	3.8	7.7	76.9	26.9
5年以上10年未満	48	2.1	8.3	8.3	8.3	8.3	54.2	31.3
10年以上20年未満	49	8.2	6.1	8.2	16.3	6.1	59.2	40.8
20年以上	50	8.0	6.0	12.0	18.0	14.0	68.0	26.0
生まれてからずっと	108	6.5	11.1	14.8	16.7	6.5	59.3	31.5

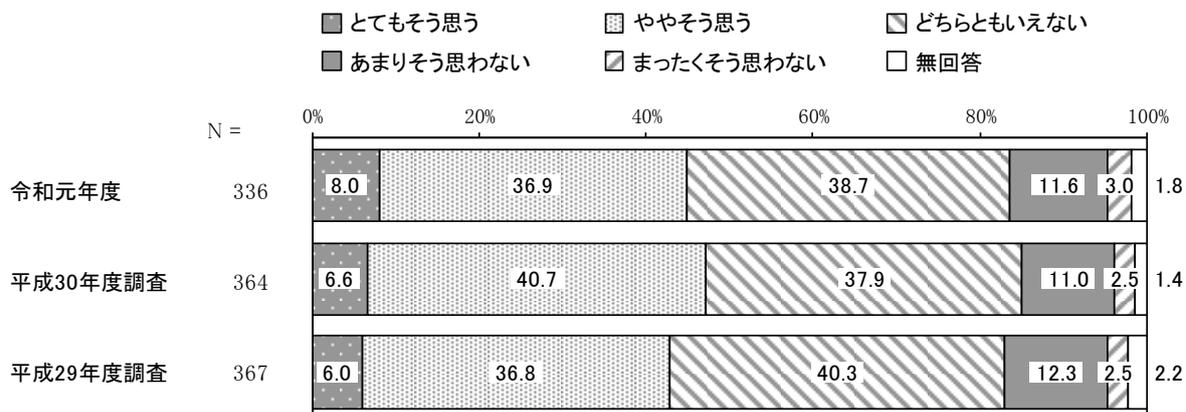
区分	ゴルフ場	可児そだち	里芋	ギター	ガラス工芸	その他	特にない	無回答
3年未満	2.0	—	2.0	11.8	—	7.8	19.6	3.9
3年以上5年未満	—	7.7	—	23.1	—	—	19.2	—
5年以上10年未満	2.1	—	6.3	10.4	2.1	2.1	16.7	8.3
10年以上20年未満	4.1	2.0	2.0	18.4	—	2.0	12.2	6.1
20年以上	6.0	2.0	4.0	24.0	—	6.0	4.0	4.0
生まれてからずっと	5.6	—	3.7	13.0	—	1.9	17.6	0.9

(5) 子育て環境について

問 19 可児市は、子育てしやすい環境だと思いますか。(〇は1つだけ)

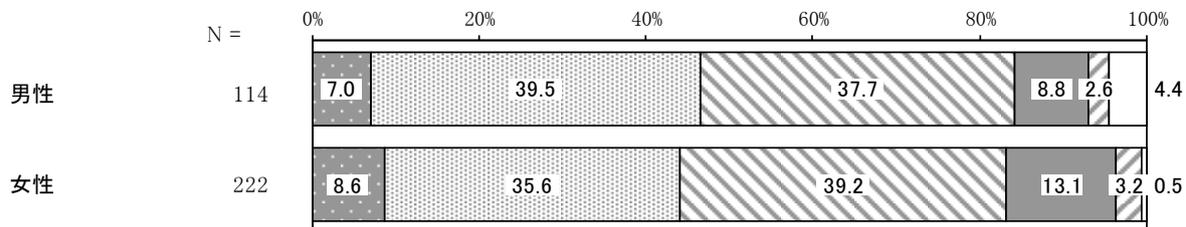
“そう思う”の割合が44.9%、「どちらともいえない」の割合が38.7%、“そう思わない”の割合が14.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



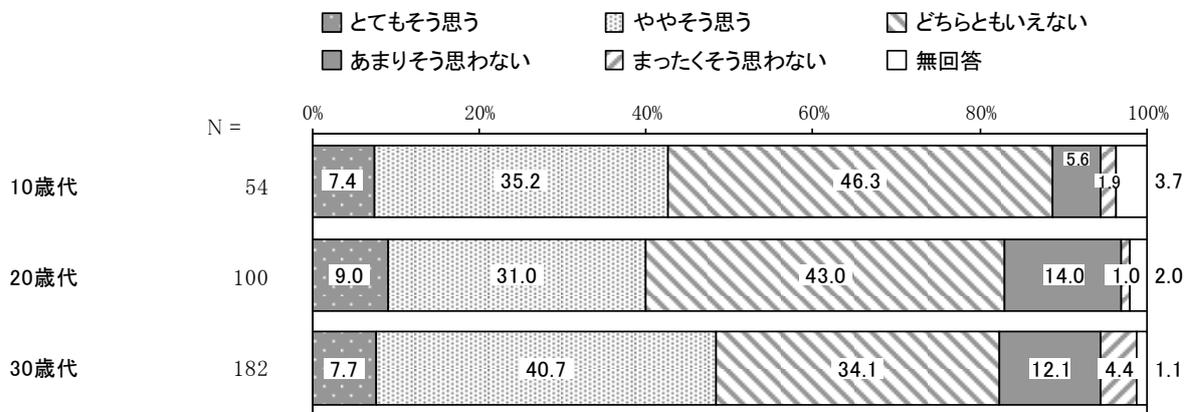
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



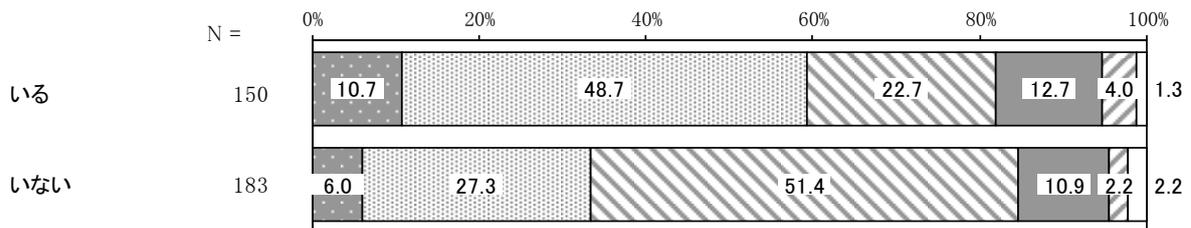
【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で“そう思う”“そう思わない”の割合がともに高くなっています。



【子どもの有無別】

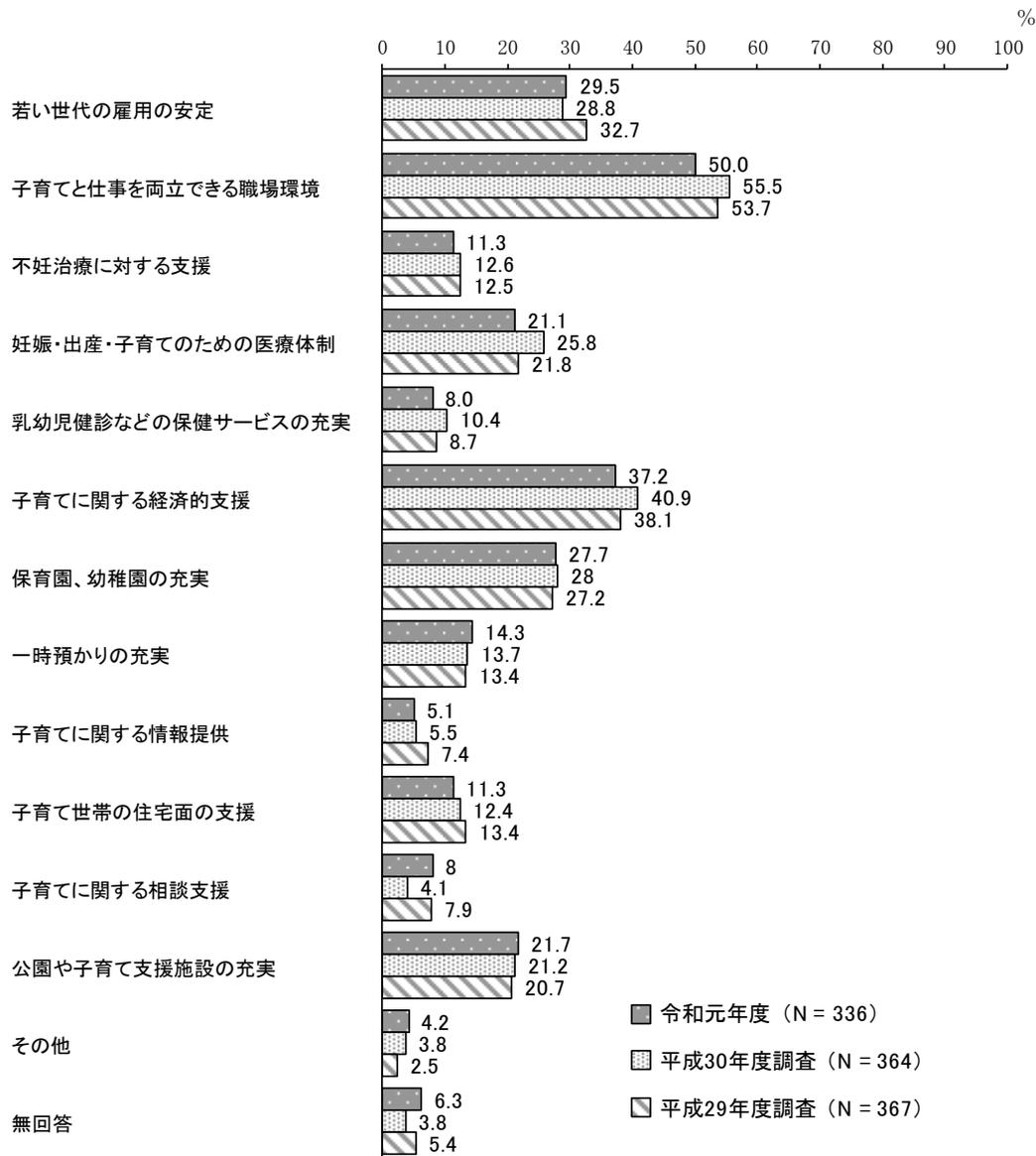
子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“そう思う”の割合が高く、約6割となっています。



問 20 妊娠・出産・子育てのために、市は今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「子育てと仕事を両立できる職場環境」の割合が50.0%と最も高く、次いで「子育てに関する経済的支援」の割合が37.2%、「若い世代の雇用の安定」の割合が29.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「子育てと仕事を両立できる職場環境」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「若い世代の雇用の安定」「子育てに関する経済的支援」「保育園、幼稚園の充実」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子育てと仕事を両立できる職場環境」「不妊治療に対する支援」「公園や子育て支援施設の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
男性	114	38.6	43.0	7.9	21.1	7.9	43.9	31.6	14.0	4.4	12.3	8.8	16.7	1.8	5.3
女性	222	24.8	53.6	13.1	21.2	8.1	33.8	25.7	14.4	5.4	10.8	7.7	24.3	5.4	6.8

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「子育てと仕事を両立できる職場環境」「不妊治療に対する支援」「公園や子育て支援施設の充実」の割合が高くなっています。また、年代が低くなるにつれ「若い世代の雇用の安定」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
10歳代	54	42.6	44.4	1.9	18.5	3.7	31.5	20.4	7.4	3.7	9.3	7.4	9.3	3.7	11.1
20歳代	100	33.0	46.0	9.0	23.0	12.0	39.0	33.0	18.0	8.0	6.0	17.0	15.0	5.0	3.0
30歳代	182	23.6	53.8	15.4	20.9	7.1	37.9	26.9	14.3	3.8	14.8	3.3	29.1	3.8	6.6

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「子育てに関する経済的支援」「子育て世帯の住宅面の支援」「公園や子育て支援施設の充実」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「若い世代の雇用の安定」「妊娠・出産・子育てのための医療体制」「保育園、幼稚園の充実」「子育てに関する相談支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
いる	150	13.3	52.0	10.7	18.0	10.0	45.3	23.3	12.7	7.3	18.0	4.0	39.3	4.0	7.3
いない	183	42.6	48.1	12.0	23.5	6.6	30.6	31.7	15.3	3.3	6.0	11.5	7.7	4.4	4.9

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、家事専業で「子育てと仕事を両立できる職場環境」「不妊治療に対する支援」「子育てに関する経済的支援」「子育てに関する情報提供」の割合が高くなっています。また、正社員・正職員で「保育園、幼稚園の充実」「乳幼児健診などの保健サービスの充実」の割合が、アルバイト・パート、家事専業で「公園や子育て支援施設の充実」の割合が、学生で「若い世代の雇用の安定」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実
正社員・正職員	141	30.5	47.5	14.9	22.0	12.1	39.7	32.6
アルバイト・パート	52	25.0	44.2	11.5	23.1	1.9	32.7	26.9
派遣社員	4	75.0	50.0	—	25.0	—	25.0	—
嘱託・契約社員	5	40.0	80.0	—	—	20.0	20.0	20.0
自営業主・家族従業員	9	—	66.7	11.1	44.4	—	44.4	44.4
内職	5	—	40.0	—	—	—	40.0	20.0
家事専業	40	7.5	60.0	22.5	15.0	7.5	52.5	22.5
学生	64	43.8	43.8	1.6	20.3	6.3	31.3	23.4
無職	11	45.5	72.7	—	27.3	9.1	9.1	9.1
その他	4	50.0	100.0	—	—	—	25.0	25.0

区分	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
正社員・正職員	15.6	2.8	8.5	7.8	18.4	4.3	5.0
アルバイト・パート	5.8	3.8	19.2	1.9	34.6	7.7	9.6
派遣社員	—	—	50.0	—	—	—	25.0
嘱託・契約社員	20.0	20.0	—	—	60.0	—	—
自営業主・家族従業員	33.3	—	22.2	11.1	11.1	—	—
内職	40.0	20.0	40.0	—	20.0	—	20.0
家事専業	15.0	12.5	10.0	5.0	35.0	2.5	7.5
学生	12.5	4.7	6.3	15.6	12.5	4.7	6.3
無職	9.1	9.1	18.2	18.2	18.2	—	—
その他	50.0	—	—	—	—	—	—

【可児市への定住意向別】

可児市への定住意向別でみると、他に比べ、ずっと可児市に住みたいで「不妊治療に対する支援」「妊娠・出産・子育てのための医療体制」「子育てに関する経済的支援」「公園や子育て支援施設の充実」の割合が高くなっています。また、可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたいで「若い世代の雇用の安定」「保育園、幼稚園の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

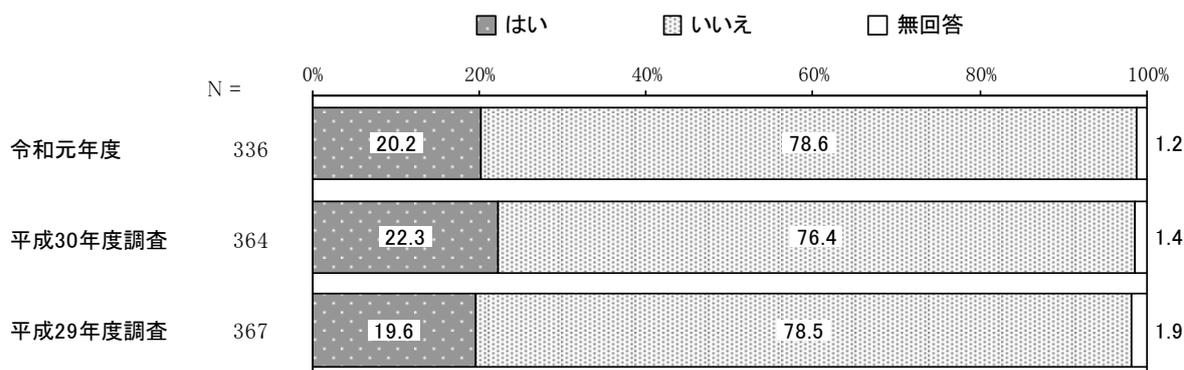
区分	有効回答数(件)	若い世代の雇用の安定	子育てと仕事を両立できる職場環境	不妊治療に対する支援	妊娠・出産・子育てのための医療体制	乳幼児健診などの保健サービスの充実	子育てに関する経済的支援	保育園、幼稚園の充実
ずっと可児市に住みたい	127	24.4	53.5	14.2	25.2	7.1	43.3	29.9
可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい	26	46.2	53.8	7.7	7.7	—	34.6	38.5
できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)	43	27.9	48.8	9.3	18.6	9.3	37.2	20.9
どちらともいえない	129	33.3	47.3	9.3	20.2	10.9	32.6	27.1

区分	一時預かりの充実	子育てに関する情報提供	子育て世帯の住宅面の支援	子育てに関する相談支援	公園や子育て支援施設の充実	その他	無回答
ずっと可児市に住みたい	13.4	5.5	10.2	4.7	29.1	3.9	2.4
可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい	15.4	—	15.4	7.7	15.4	—	3.8
できれば可児市以外に引越したい(引越し予定)	14.0	4.7	18.6	7.0	11.6	14.0	7.0
どちらともいえない	14.0	6.2	9.3	10.9	20.9	2.3	7.8

(6) 運動の推進について

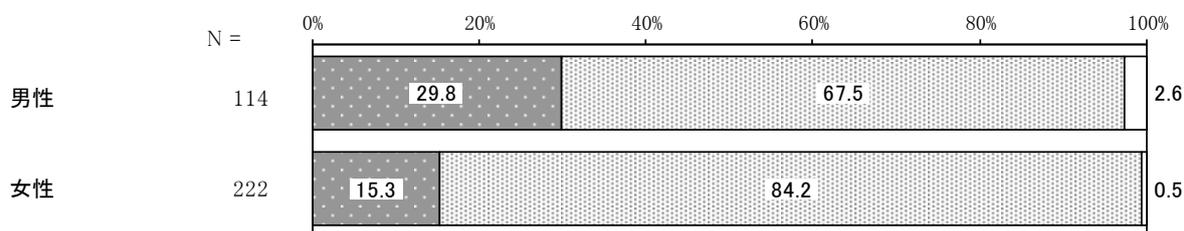
問 21 可児市では、1回 30分週 2回のウォーキングを推奨する歩こう可児 302 運動や 1人の市民が少なくとも 1つのスポーツに親しむ一市民スポーツを推進しています。あなたは、30分以上の運動を週 2回以上、1年以上続けていますか。

「はい」の割合が 20.2%、「いいえ」の割合が 78.6%となっています。
平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



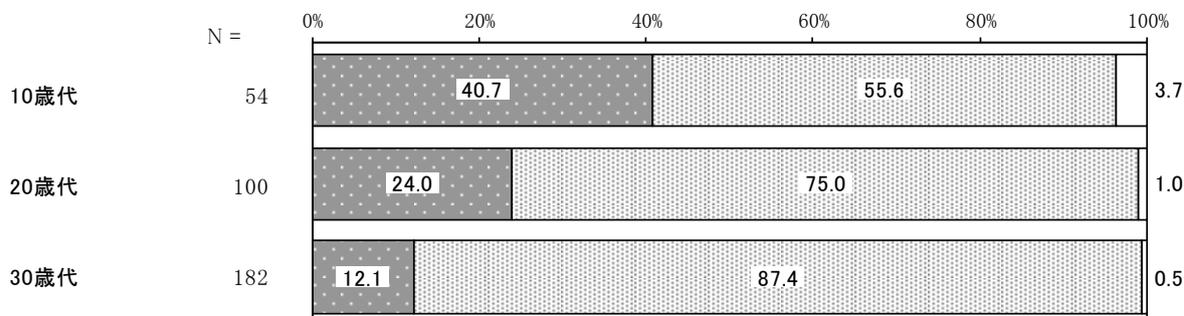
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「はい」の割合が高く、約 3 割となっています。



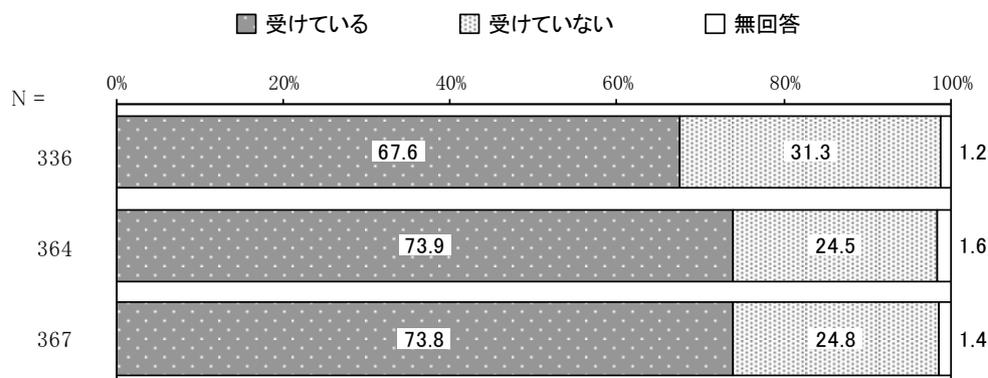
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「はい」の割合が高くなっており、10 歳代で約 4 割となっています。



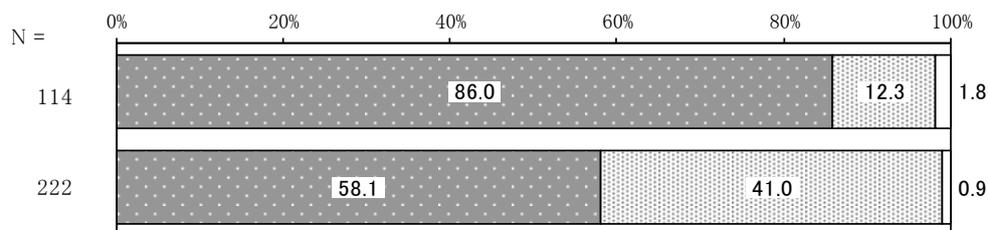
問 22 あなたは、定期的に健康診査を受けていますか。

「受けている」の割合が67.6%、「受けていない」の割合が31.3%となっています。
平成30年度調査と比較すると、「受けている」の割合が減少しています。



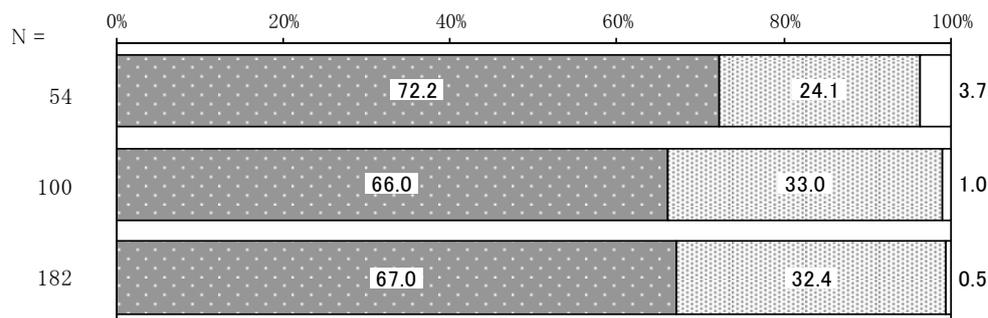
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「はい」の割合が高く、8割台半ばとなっています。



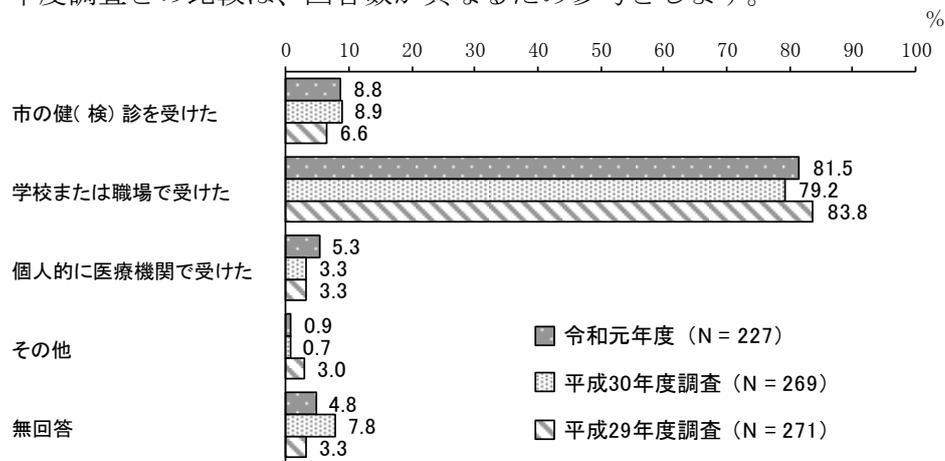
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で「受けている」の割合が高く、7割を超えています。



受診場所

「学校または職場で受けた」の割合が81.5%と最も高くなっています。
平成30年度調査との比較は、回答数が異なるため参考とします。



※平成29年度調査、30年度調査では単数回答でした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学校または職場で受けた」の割合が高く、約9割となっています。また、男性に比べ、女性で「市の健(検)診を受けた」の割合が高く、約1割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	市の健(検)診を受けた	学校または職場で受けた	個人的に医療機関で受けた	その他	無回答
男性	98	4.1	87.8	4.1	—	4.1
女性	129	12.4	76.7	6.2	1.6	5.4

【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「学校または職場で受けた」の割合が高く、10歳代で9割台半ばとなっています。

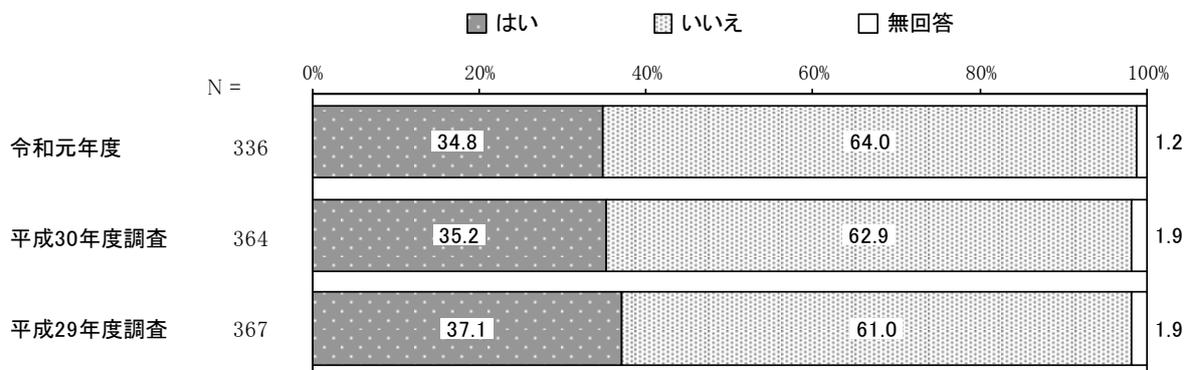
単位：％

区分	有効回答数 (件)	市の健 診を 受けた	学校または 職場で受けた	個人的に医療 機関で受けた	その他	無回答
10歳代	39	2.6	94.9	—	—	5.1
20歳代	66	10.6	84.8	1.5	—	3.0
30歳代	122	9.8	75.4	9.0	1.6	5.7

(7) 防災への取組みについて

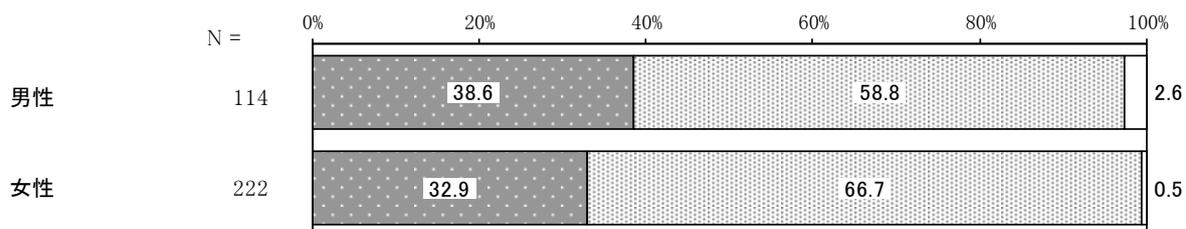
問 23 家庭で防災に関する取組みをしていますか。

「はい」の割合が34.8%、「いいえ」の割合が64.0%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



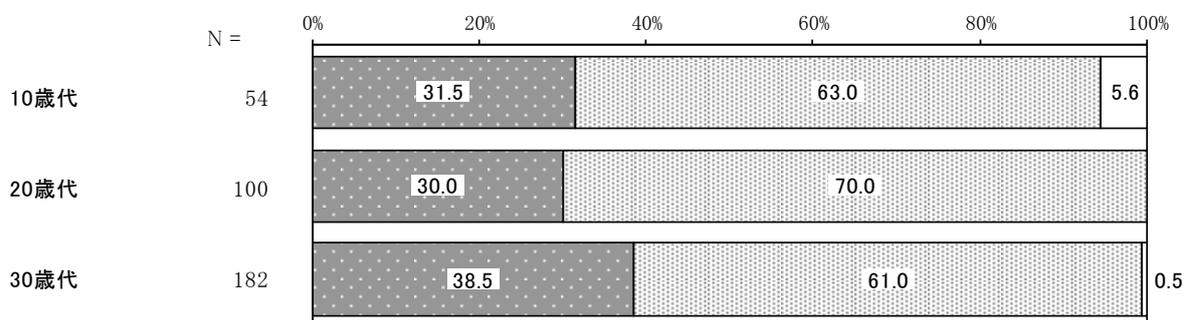
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「はい」の割合が高く、約4割となっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で「はい」の割合が高く、約4割となっています。また、20歳代で「いいえ」の割合が高く、7割となっています。

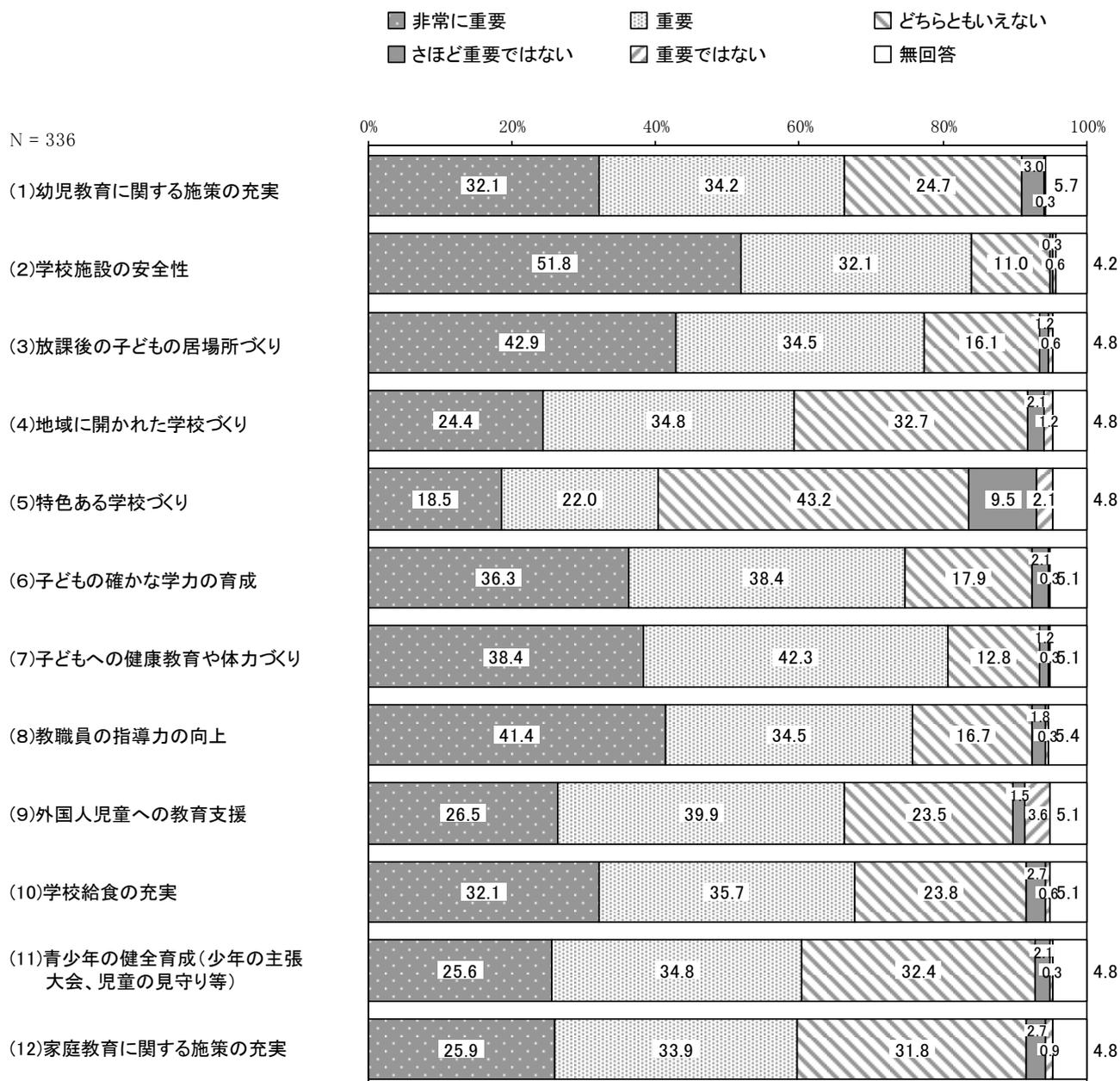


(8) 教育や学習に関する施策について

問 24 可児市の教育や学習に関する施策の「重要度」と「満足度」をおたずねします。
5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

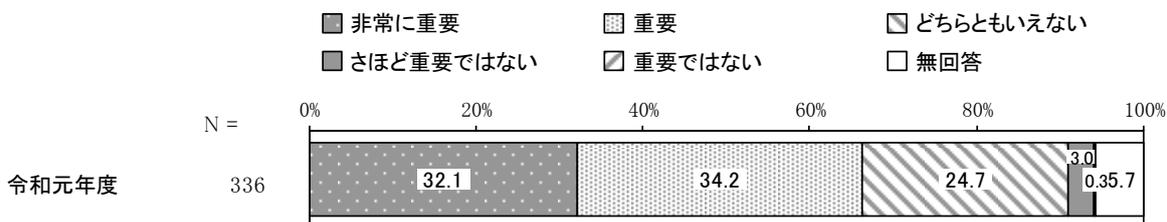
①重要度

『(2)学校施設の安全性』『(7)子どもへの健康教育や体力づくり』で「非常に重要」と「重要」をあわせた“重要”の割合が高く、約8割となっています。また、『(5)特色ある学校づくり』で「さほど重要ではない」と「重要ではない」をあわせた“重要ではない”の割合が高く、約1割となっています。



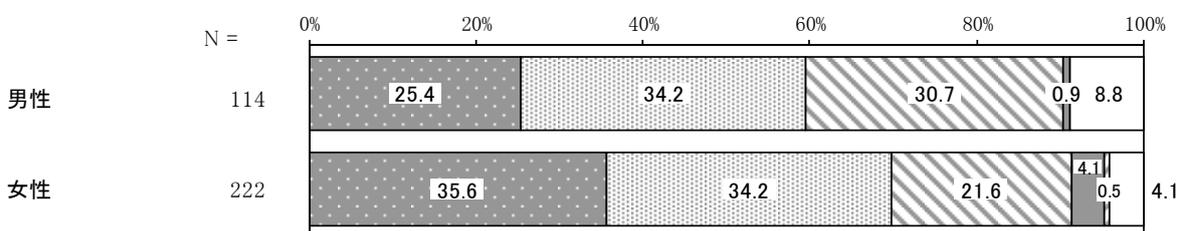
(1) 幼児教育に関する施策の充実

“重要”の割合が66.3%、“重要ではない”の割合が3.3%となっています。



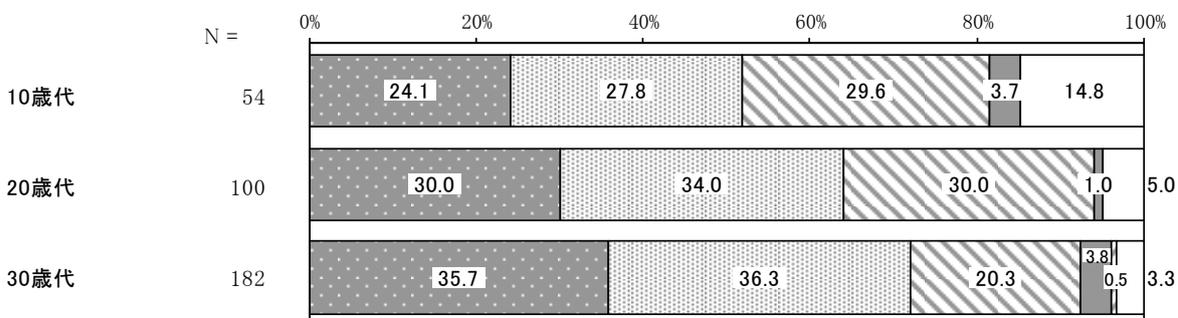
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



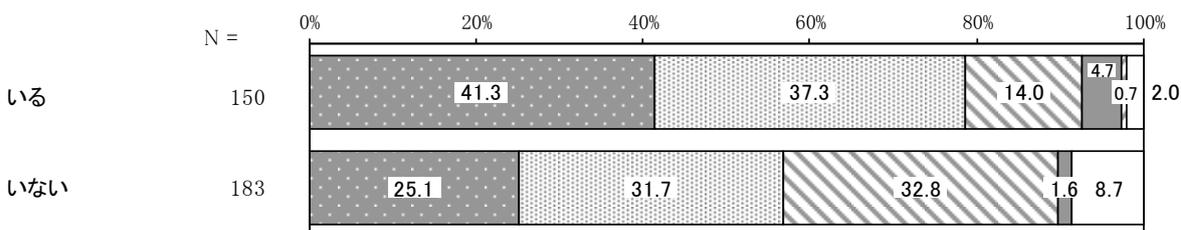
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高く、30歳代で約7割となっています。



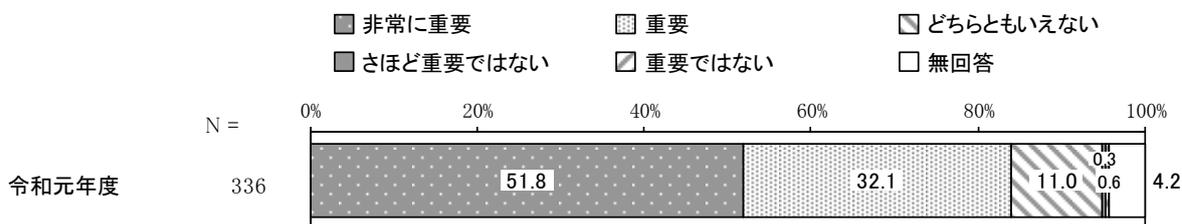
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



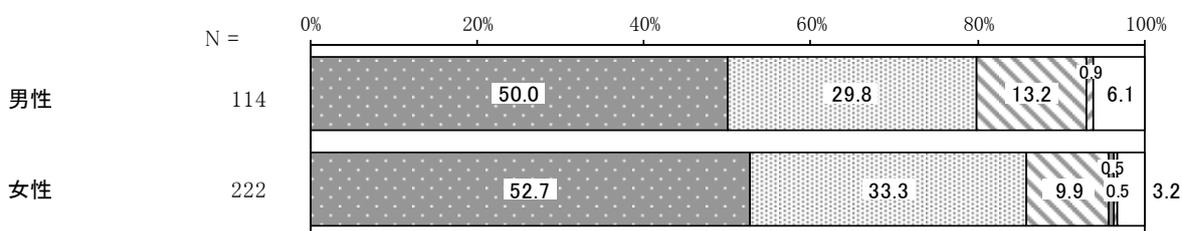
(2) 学校施設の安全性

“重要”の割合が83.9%、“重要ではない”の割合が0.9%となっています。



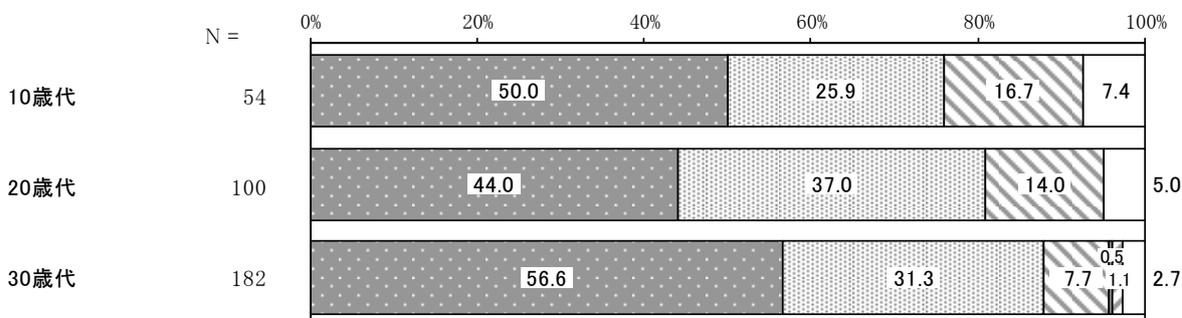
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



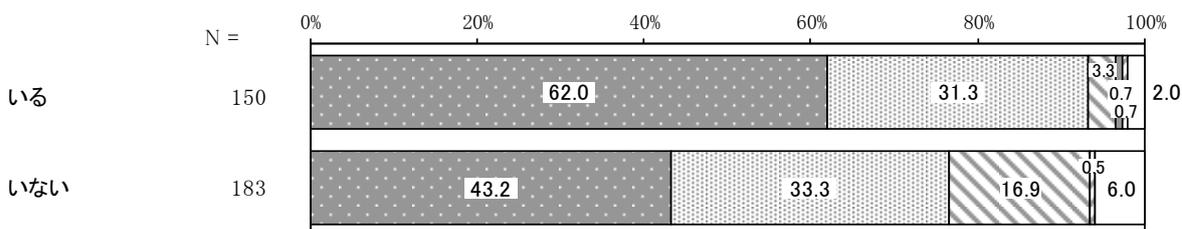
【年代別】

年代別で見ると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で約9割となっています。



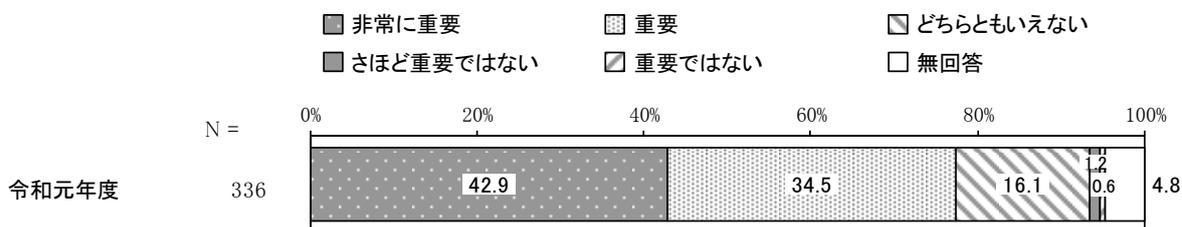
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



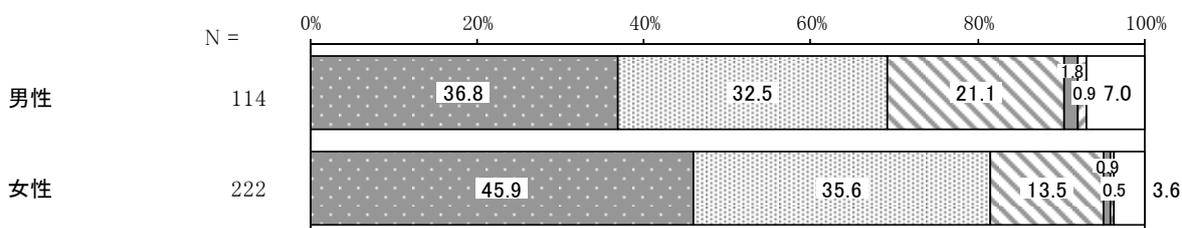
(3) 放課後の子どもの居場所づくり

“重要”の割合が77.4%、“重要ではない”の割合が1.8%となっています。



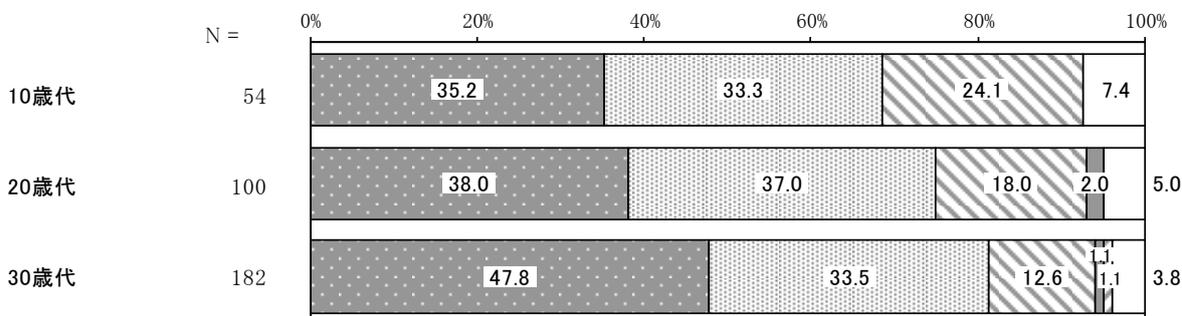
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「非常に重要」の割合が高く、約8割となっています。



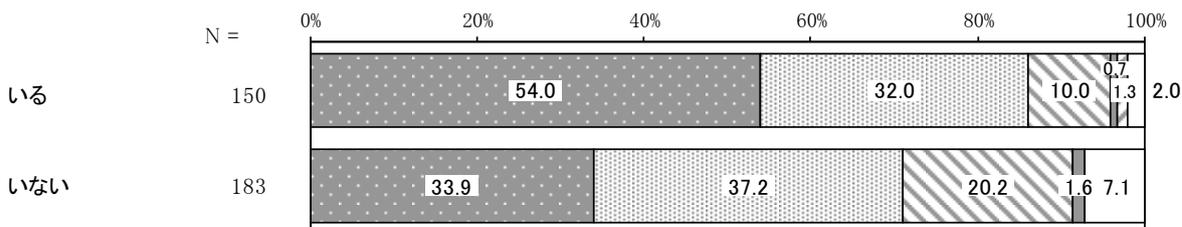
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で約8割となっています。



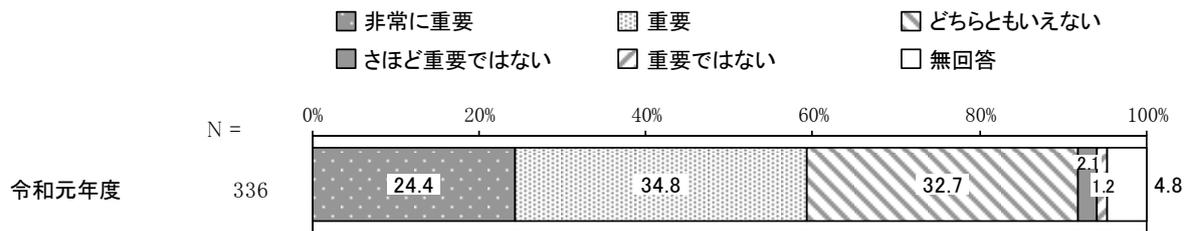
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



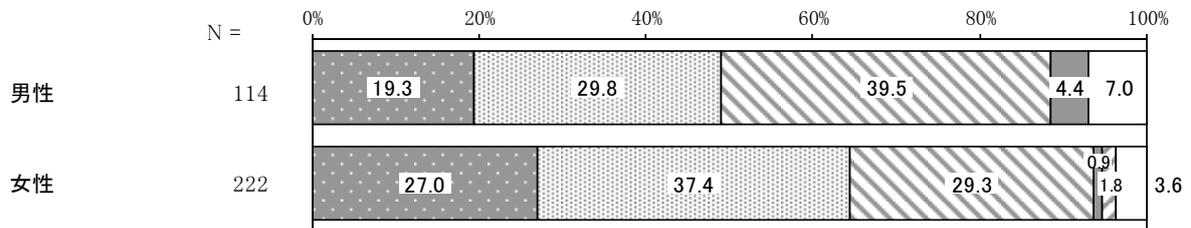
(4) 地域に開かれた学校づくり

“重要”の割合が59.2%、“重要ではない”の割合が3.3%となっています。



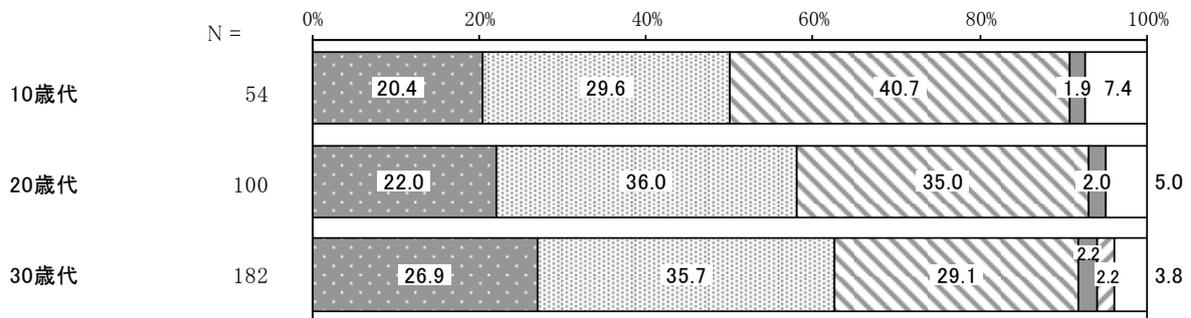
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、6割台半ばとなっています。



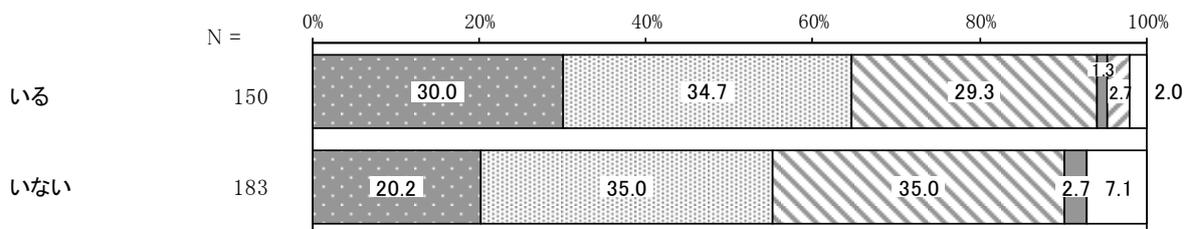
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で6割を超えています。



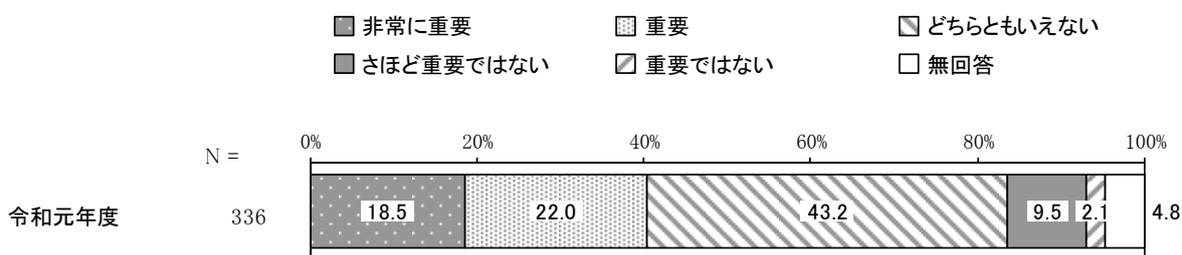
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、6割台半ばとなっています。



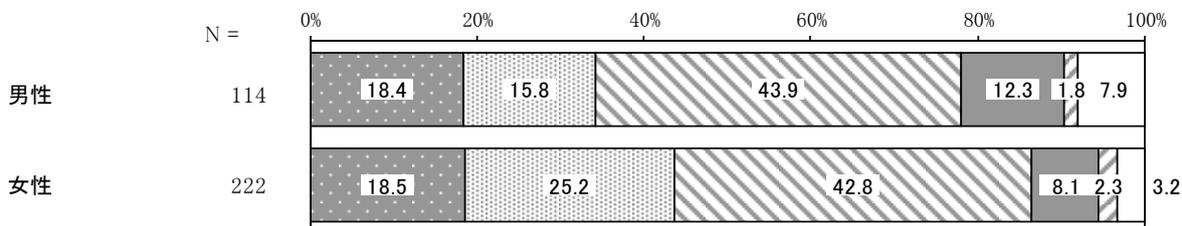
(5) 特色ある学校づくり

“重要”の割合が40.5%、“重要ではない”の割合が11.6%となっています。



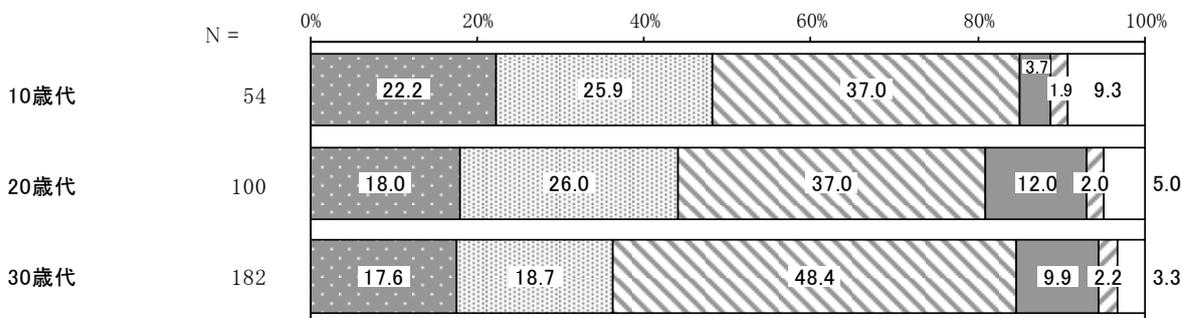
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約4割となっています。



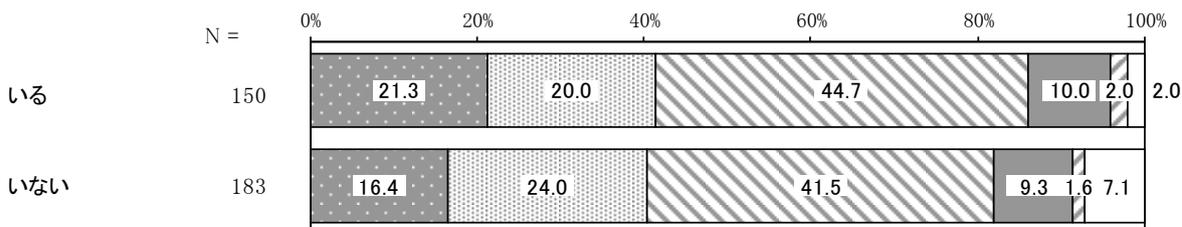
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、10歳代で約5割となっています。



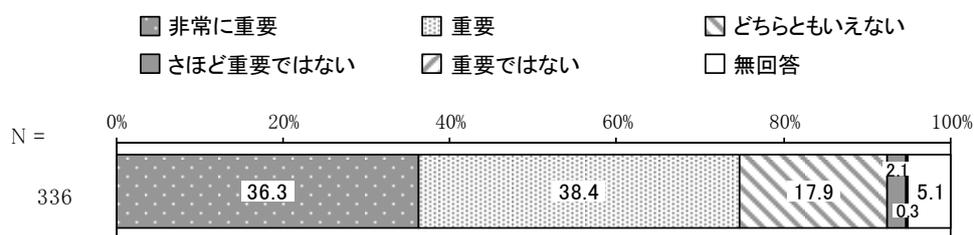
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



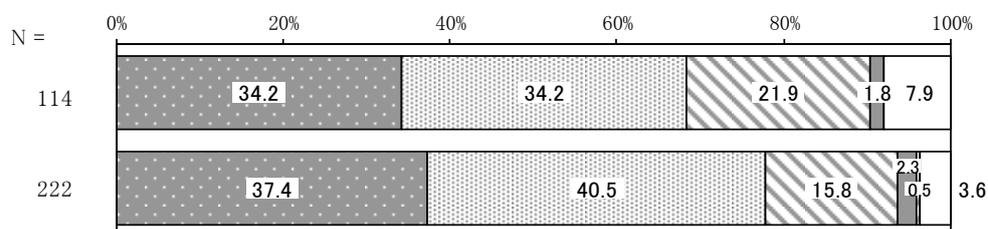
(6)子どもの確かな学力の育成

“重要”の割合が74.7%、“重要ではない”の割合が2.4%となっています。



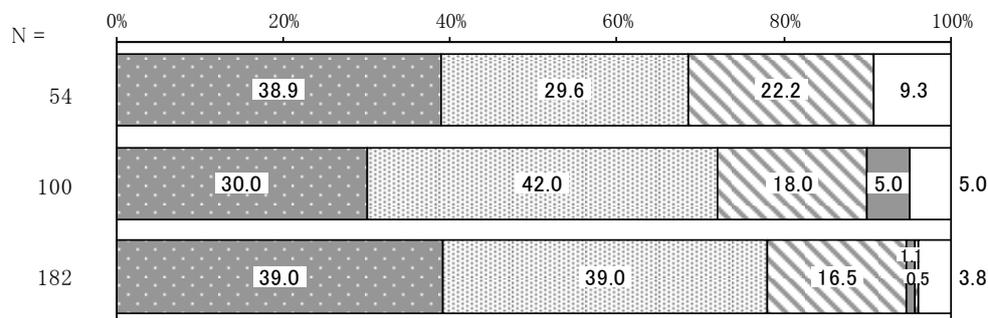
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



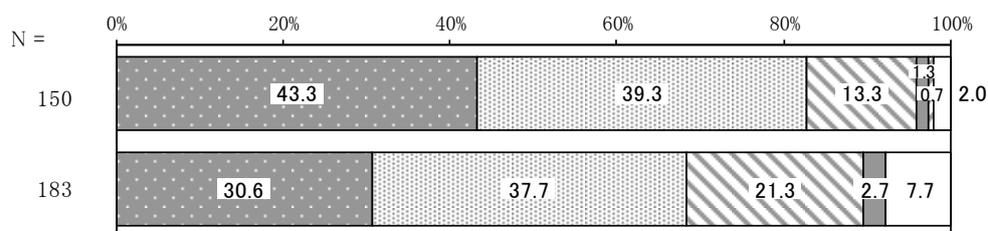
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ”重要”の割合が高くなっており、30歳代で約8割となっています。



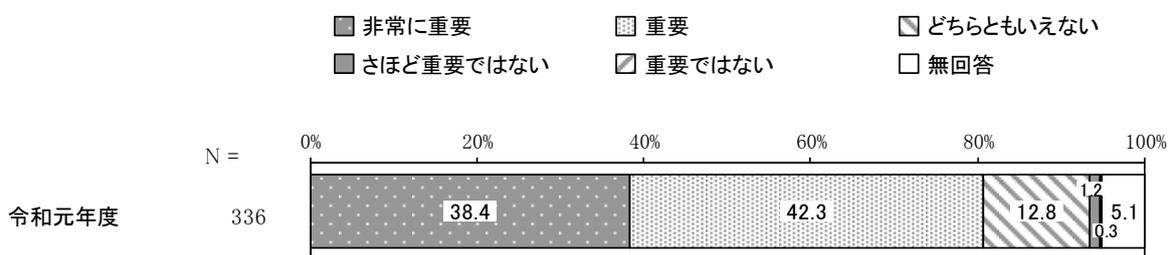
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



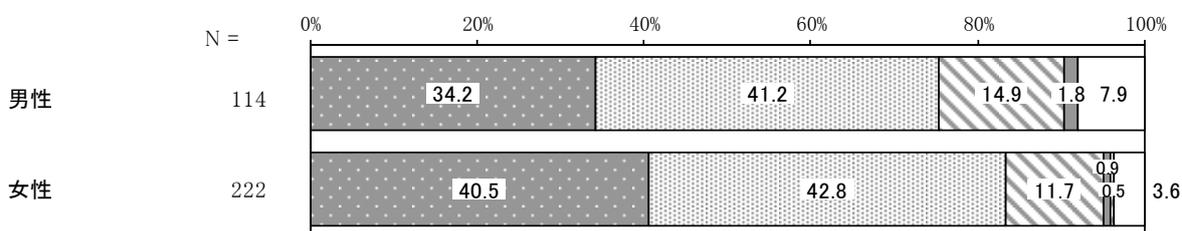
(7)子どもへの健康教育や体力づくり

“重要”の割合が80.7%、“重要ではない”の割合が1.5%となっています。



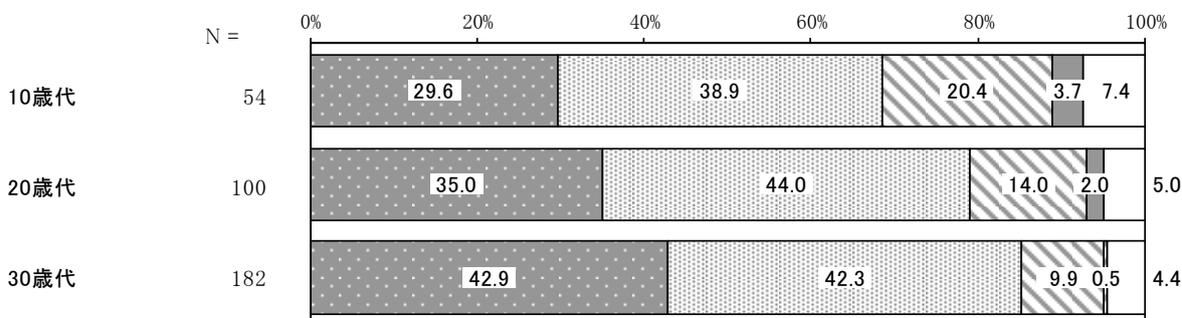
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



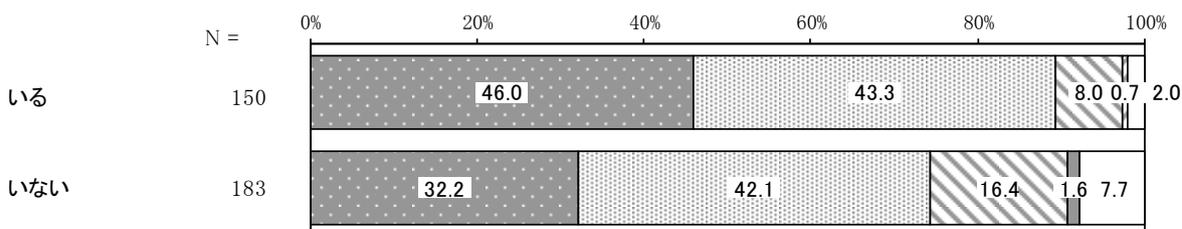
【年代別】

年代別で見ると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で8割台半ばとなっています。



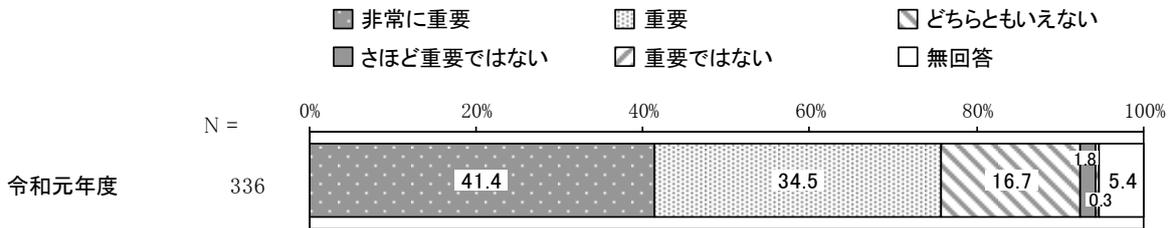
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約9割となっています。



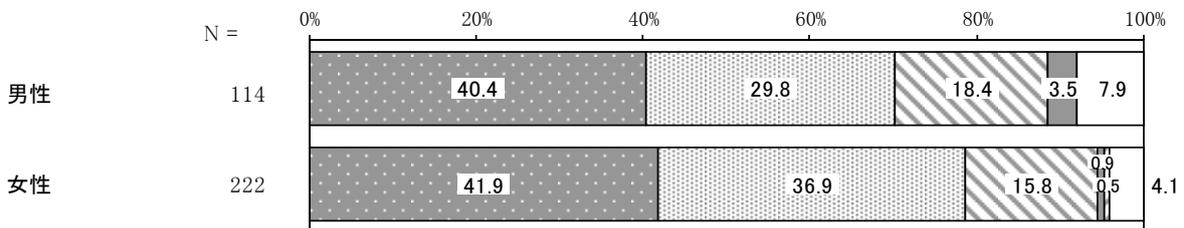
(8) 教職員の指導力の向上

“重要”の割合が75.9%、“重要ではない”の割合が2.1%となっています。



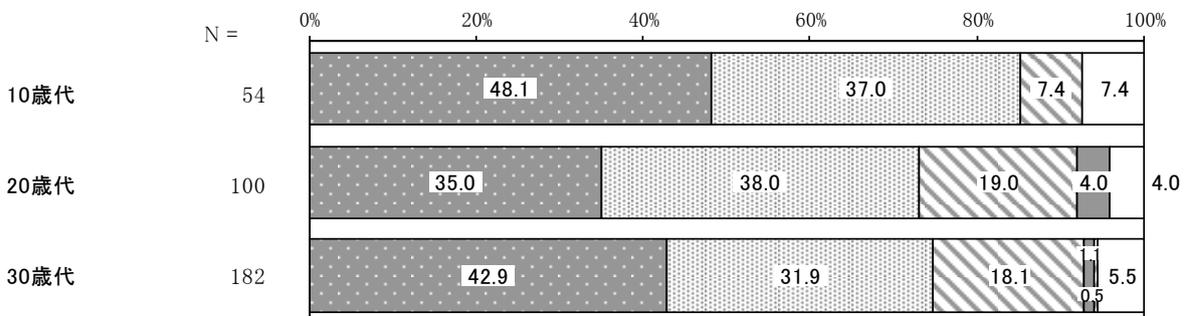
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



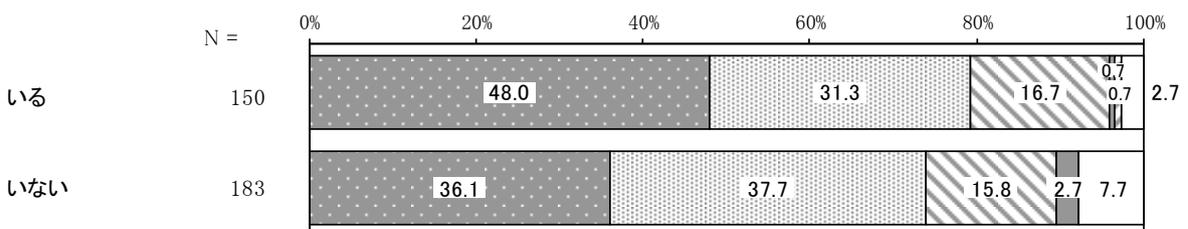
【年代別】

年代別で見ると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“重要”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



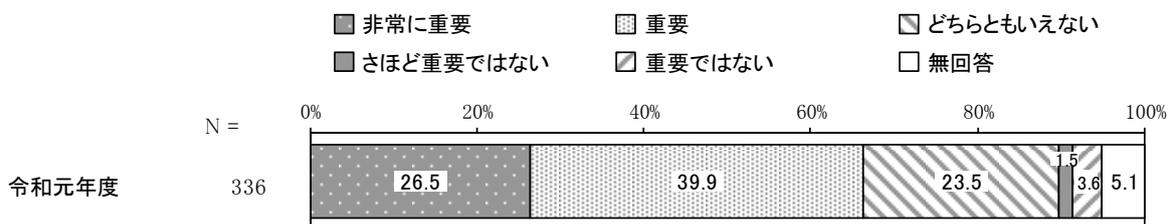
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約8割となっています。



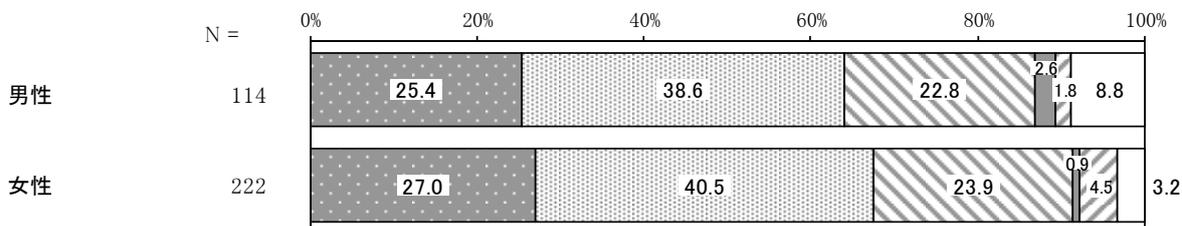
(9) 外国人児童への教育支援

“重要”の割合が66.4%、“重要ではない”の割合が5.1%となっています。



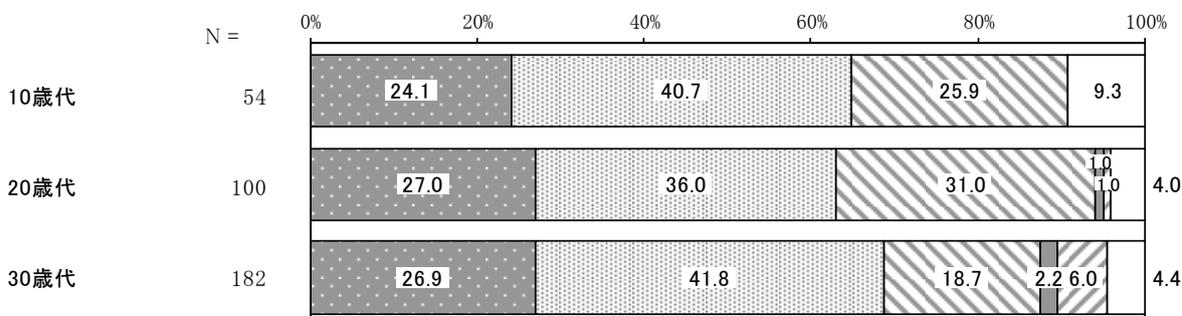
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



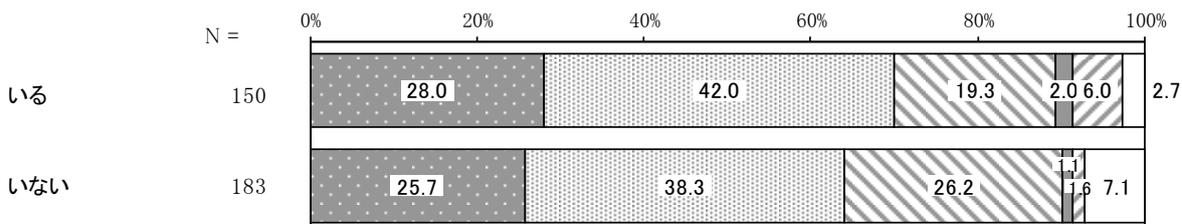
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“重要”“重要ではない”の割合がともに高くなっています。



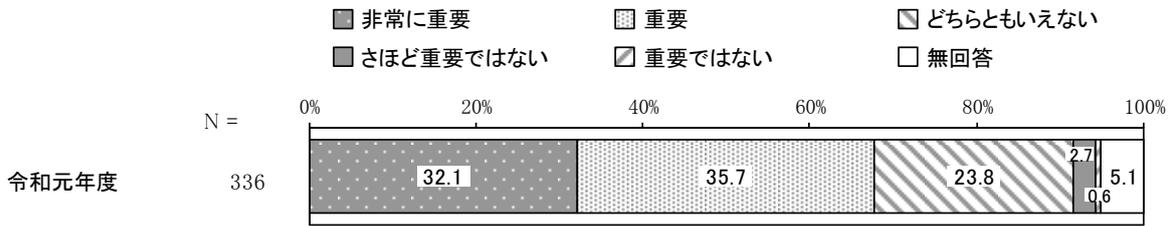
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”“重要ではない”の割合がともに高くなっています。



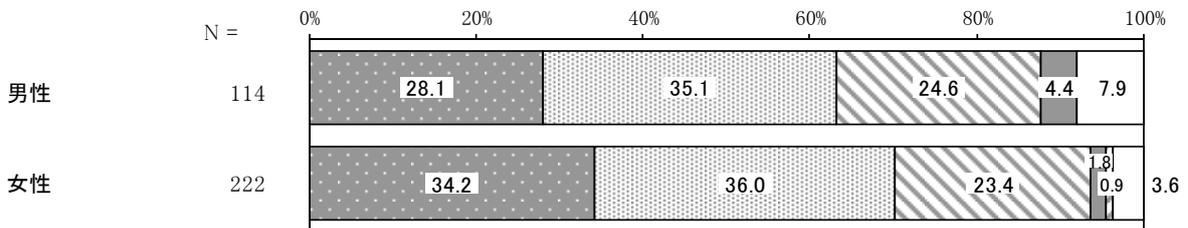
(10) 学校給食の充実

“重要”の割合が67.8%、“重要ではない”の割合が3.3%となっています。



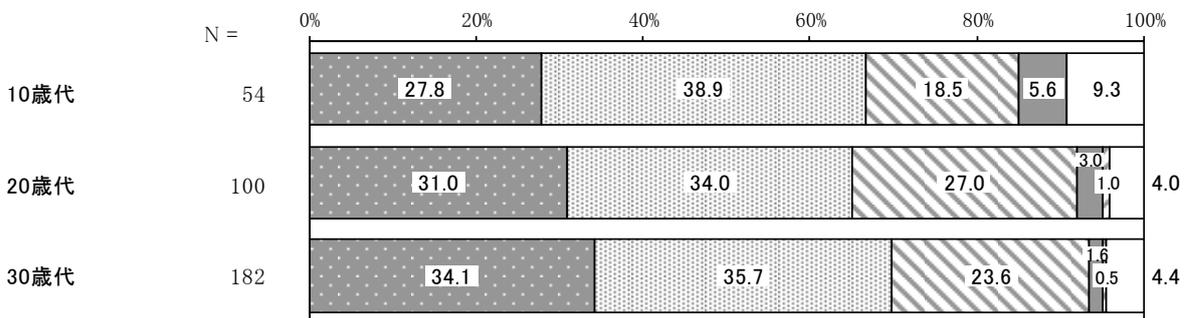
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



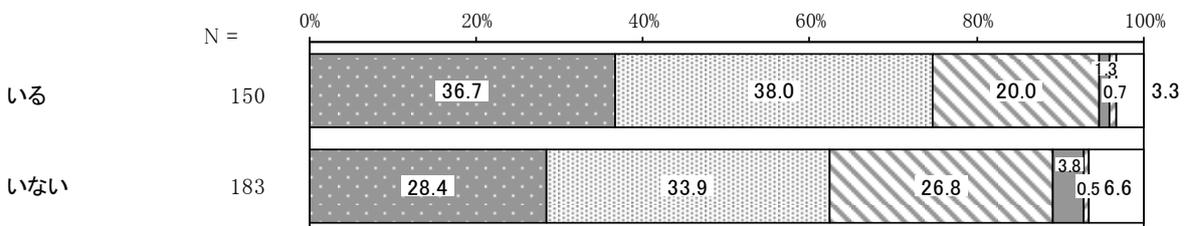
【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。



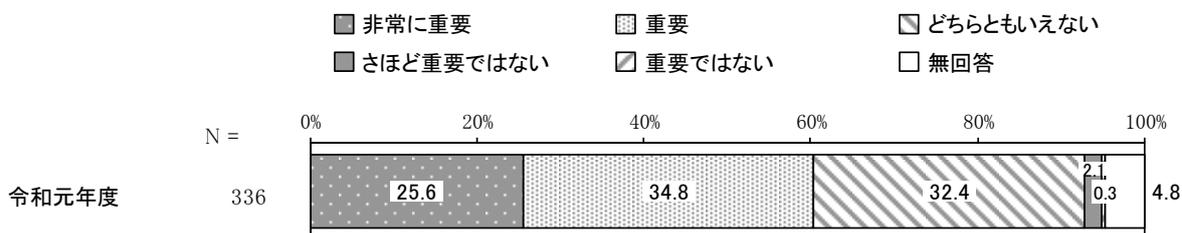
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、7割台半ばとなっています。



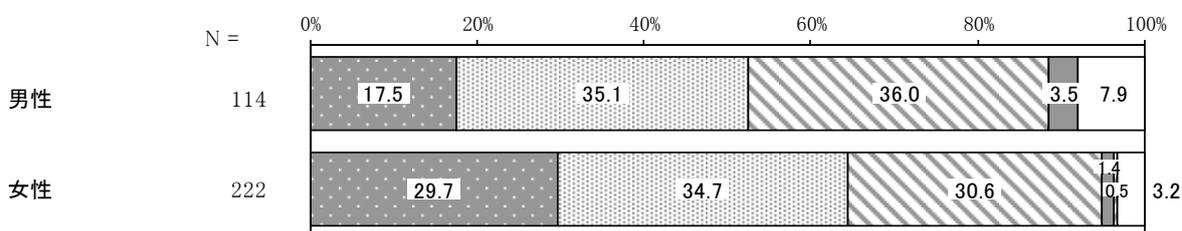
(11) 青少年の健全育成

“重要”の割合が60.4%、“重要ではない”の割合が2.4%となっています。



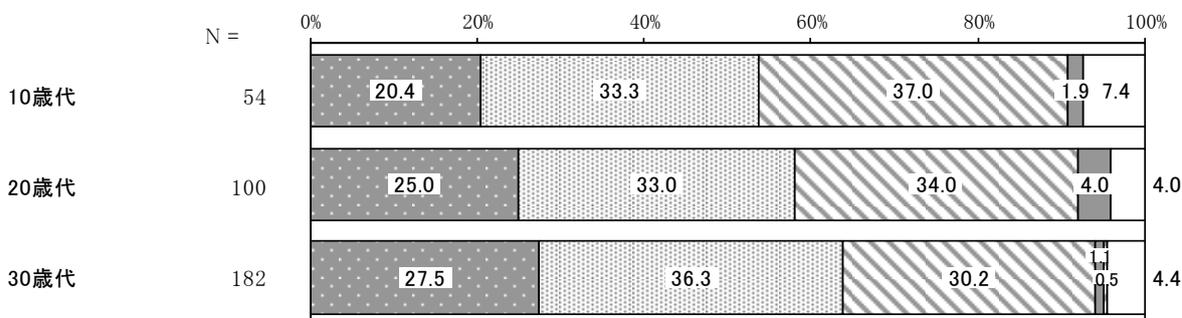
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、6割台半ばとなっています。



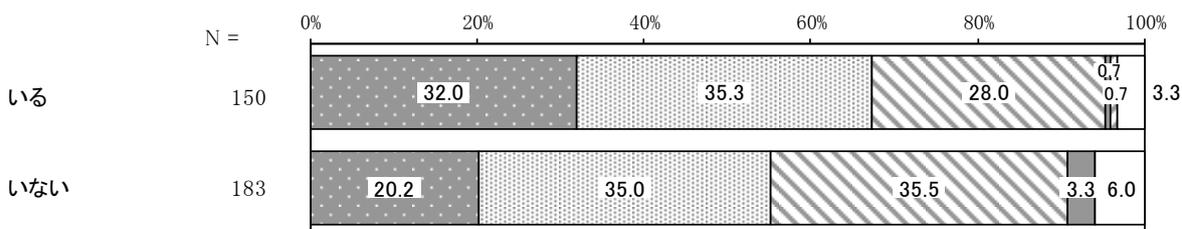
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で6割を超えています。



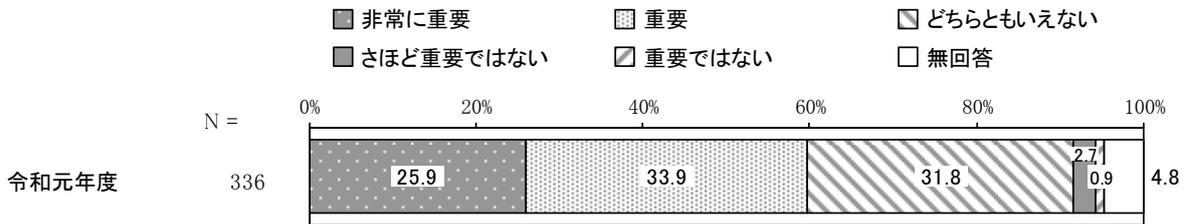
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



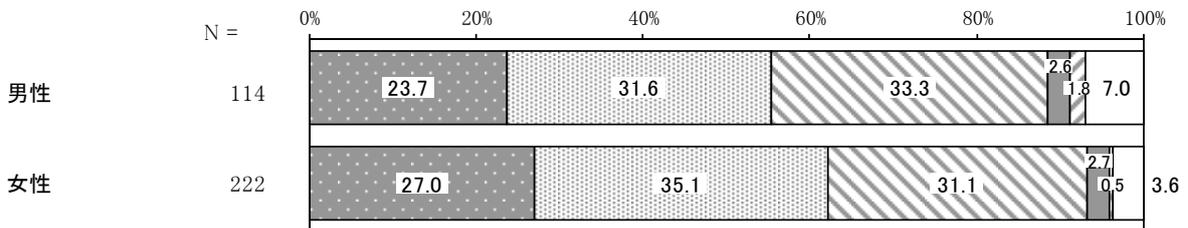
(12) 家庭教育に関する施策の充実

“重要”の割合が59.8%、“重要ではない”の割合が3.6%となっています。



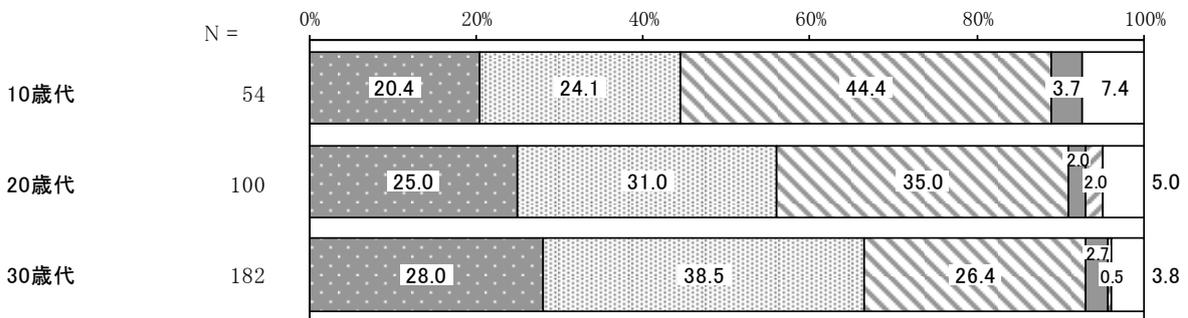
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“重要”の割合が高く、約6割となっています。



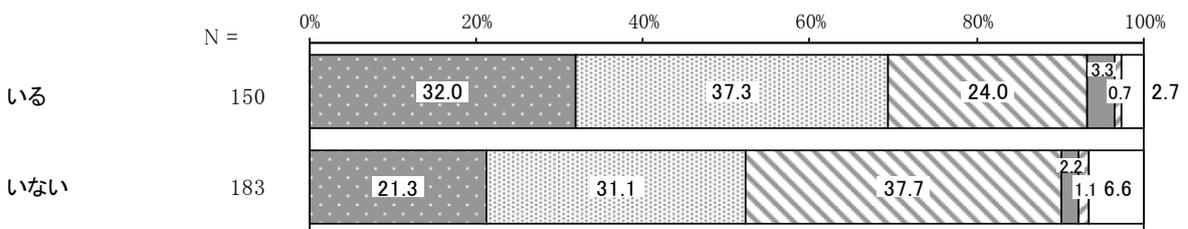
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“重要”の割合が高くなっており、30歳代で6割台半ばとなっています。



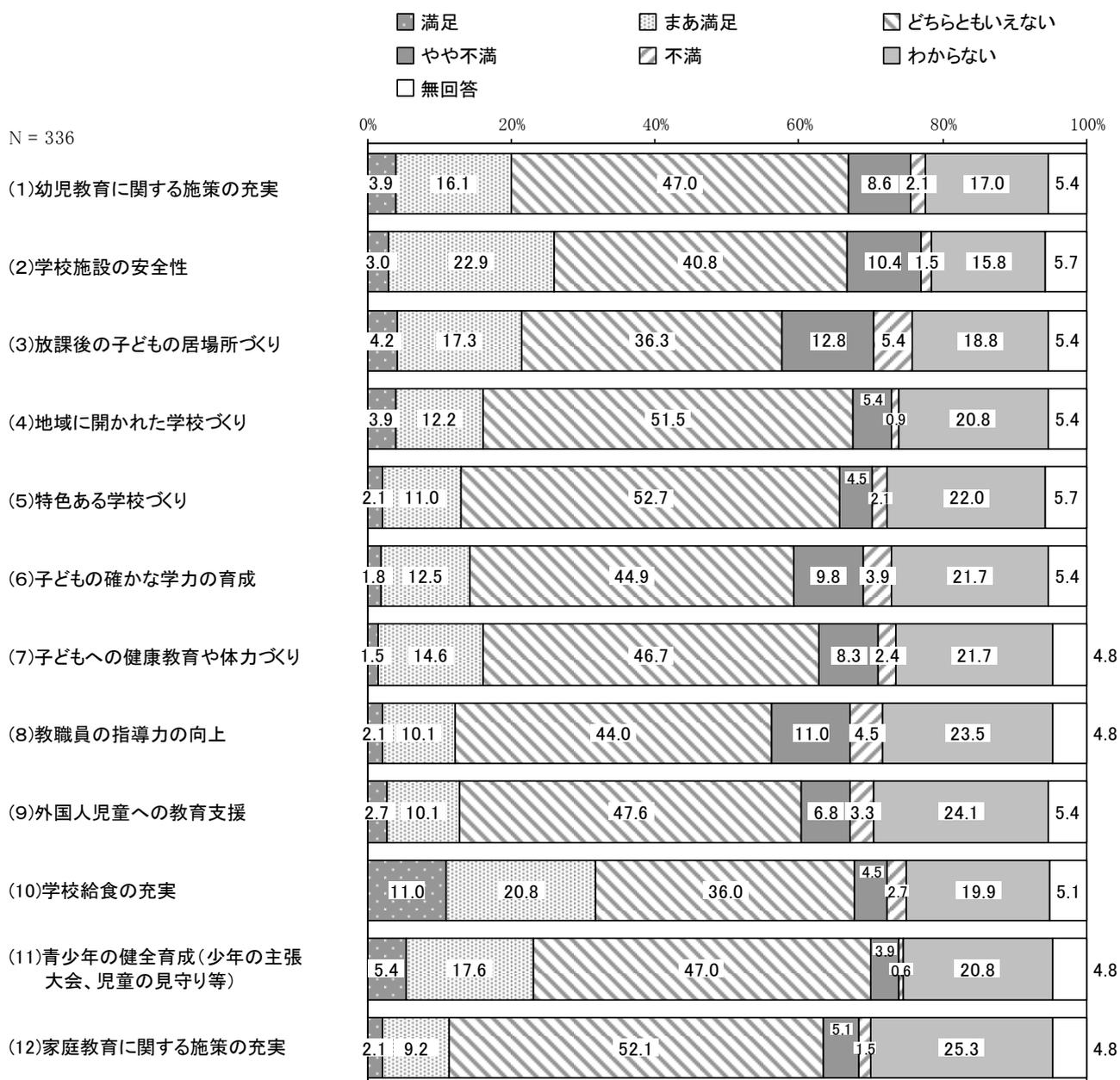
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“重要”の割合が高く、約7割となっています。



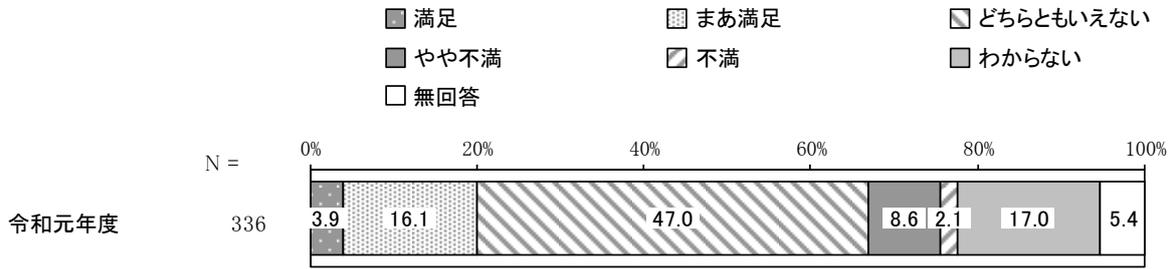
②満足度

『(10)学校給食の充実』で「満足」と「まあ満足」をあわせた“満足”の割合が高く、約3割となっています。一方、『(3)放課後の子どもの居場所づくり』で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が高く、約2割となっています。



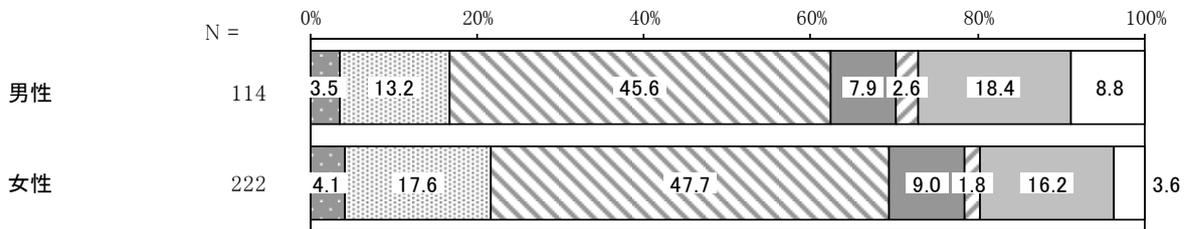
(1) 幼児教育に関する施策の充実

“満足”の割合が20.0%、“不満”の割合が10.7%となっています。



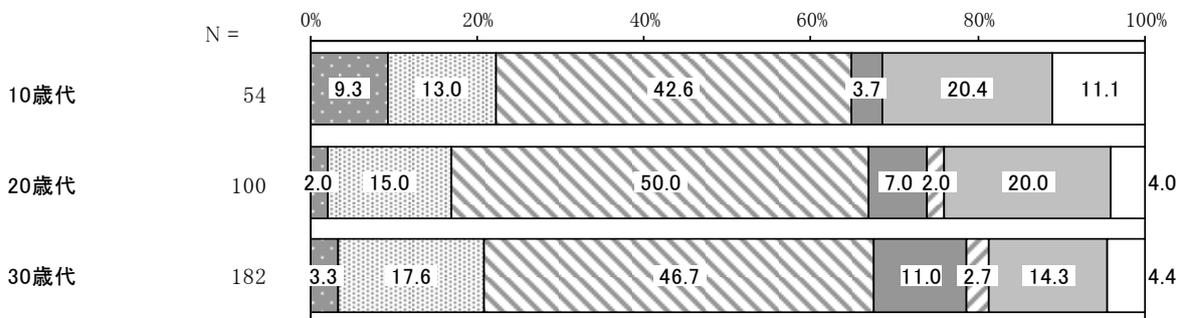
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、約2割となっています。



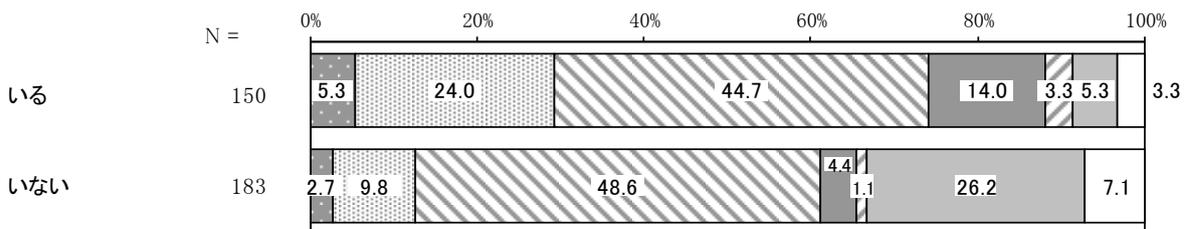
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“不満”の割合が高くなっています。



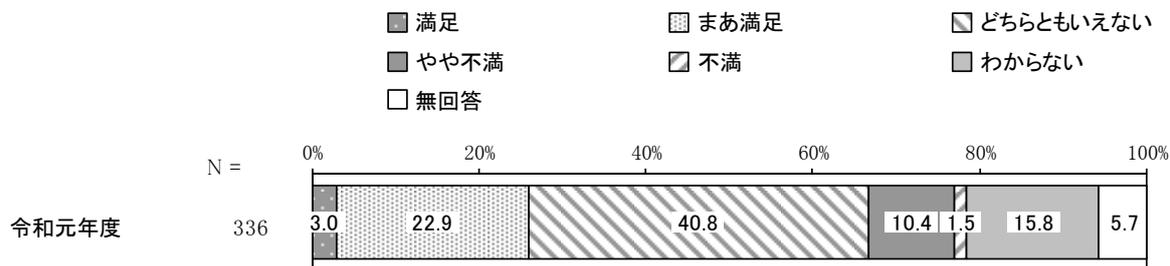
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



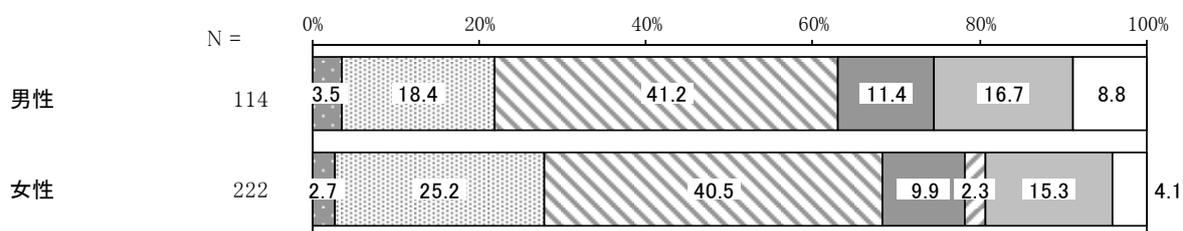
(2) 学校施設の安全性

“満足”の割合が25.9%、“不満”の割合が11.9%となっています。



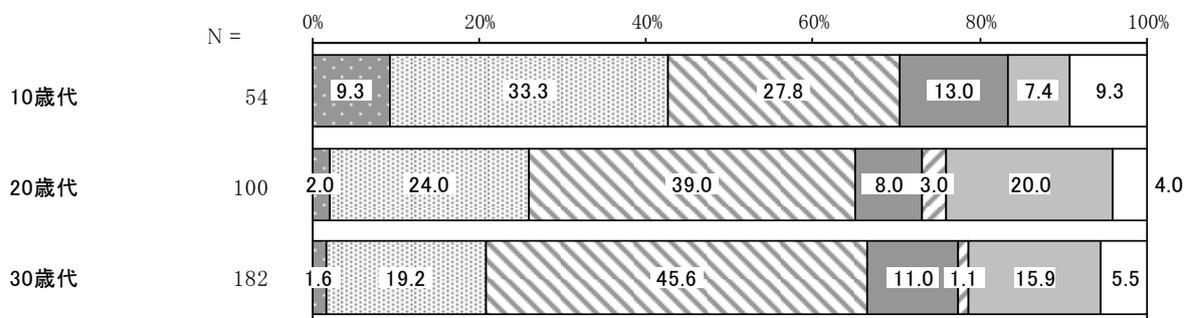
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、約3割となっています。



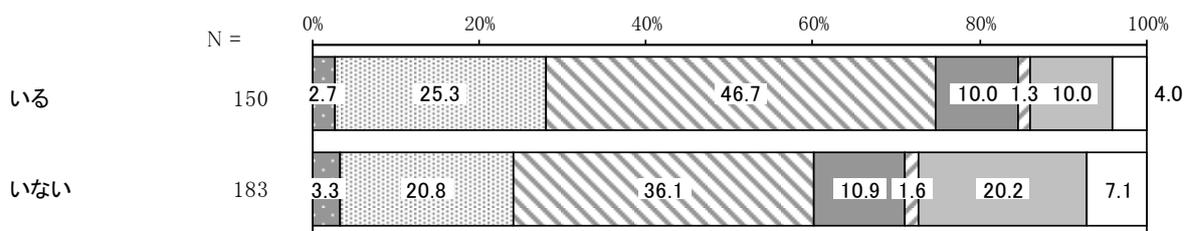
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”の割合が高く、約4割となっています。



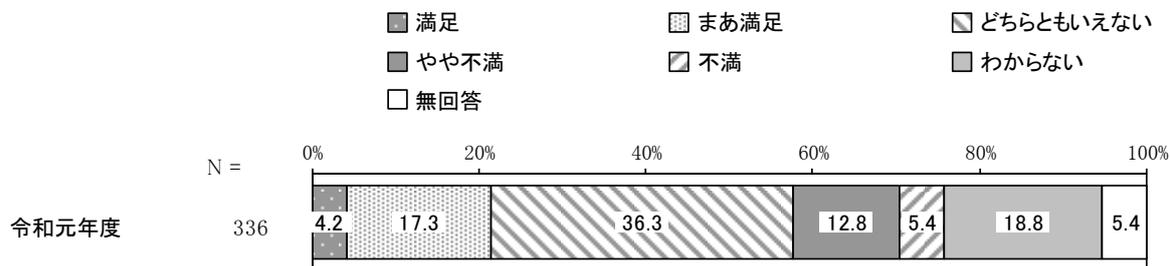
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



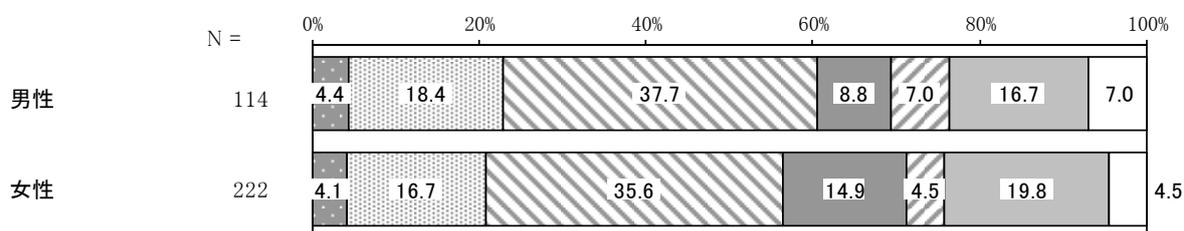
(3) 放課後の子どもの居場所づくり

“満足”の割合が21.5%、“不満”の割合が18.2%となっています。



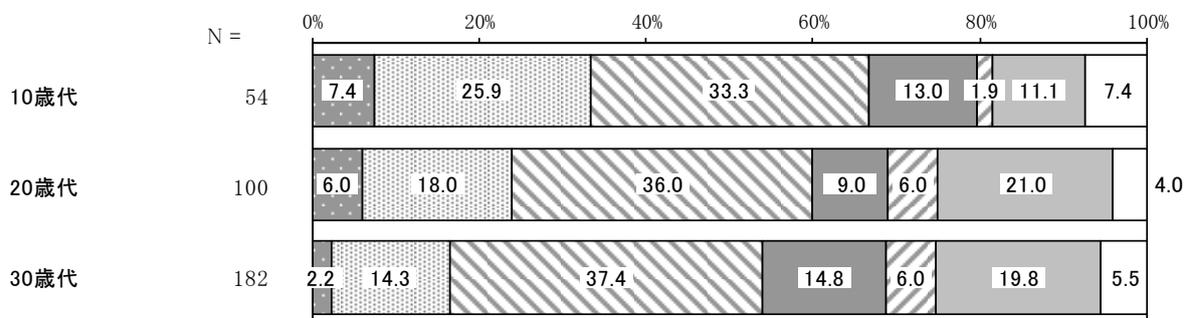
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



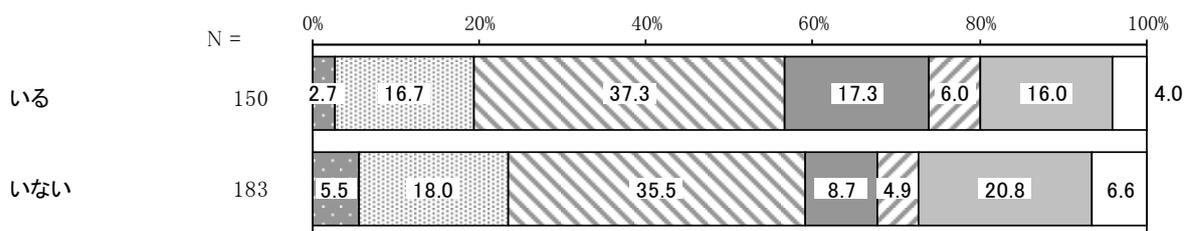
【年代別】

年代別で見ると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約3割となっています。



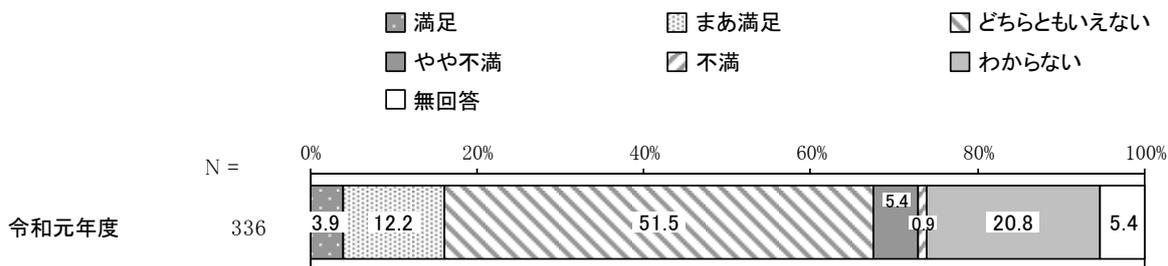
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“不満”の割合が高く、約2割となっています。



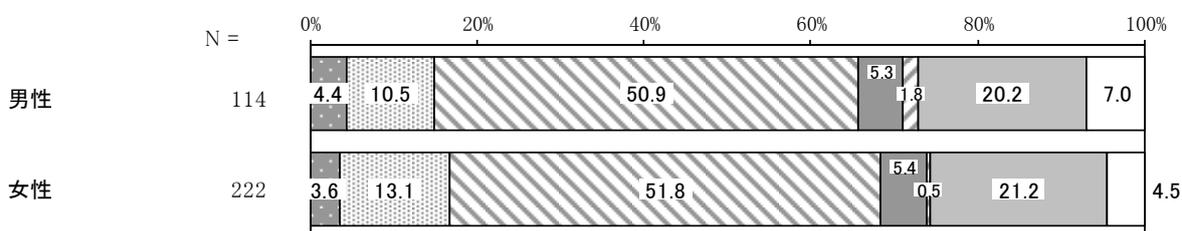
(4) 地域に開かれた学校づくり

“満足”の割合が16.1%、“不満”の割合が6.3%となっています。



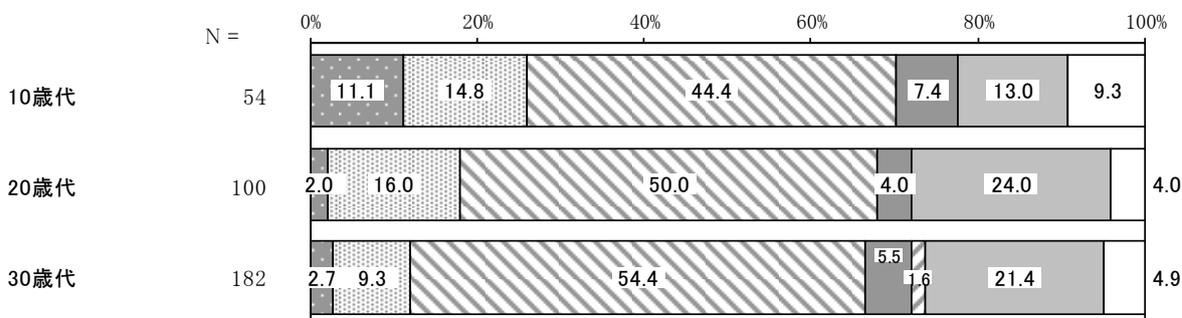
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



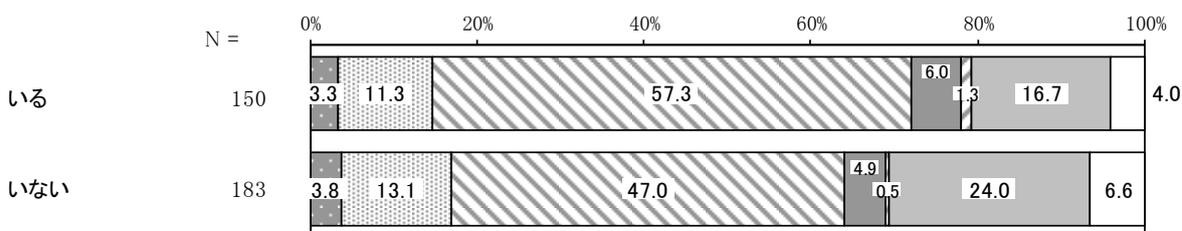
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で2割台半ばとなっています。



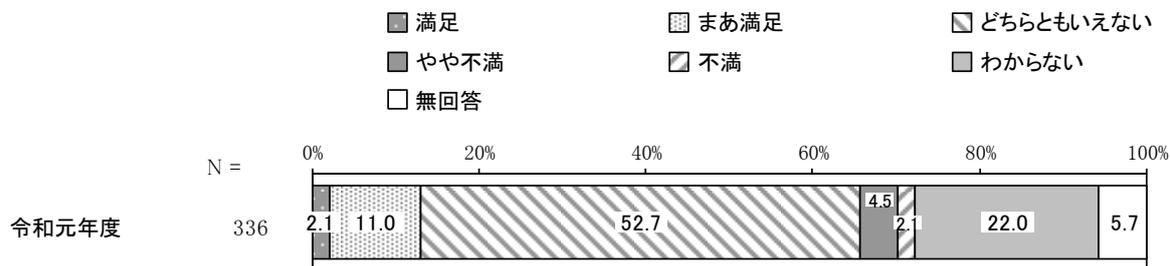
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



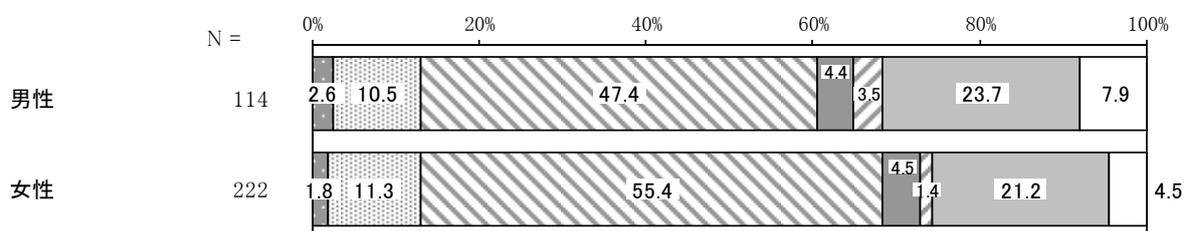
(5) 特色ある学校づくり

“満足”の割合が13.1%、“不満”の割合が6.6%となっています。



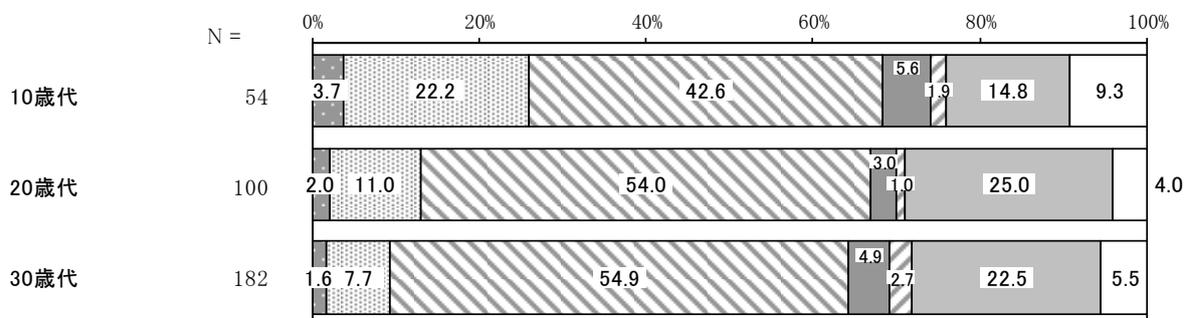
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



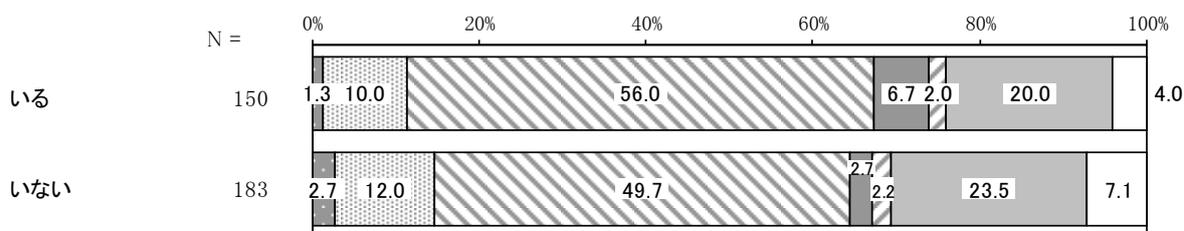
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で2割台半ばとなっています。



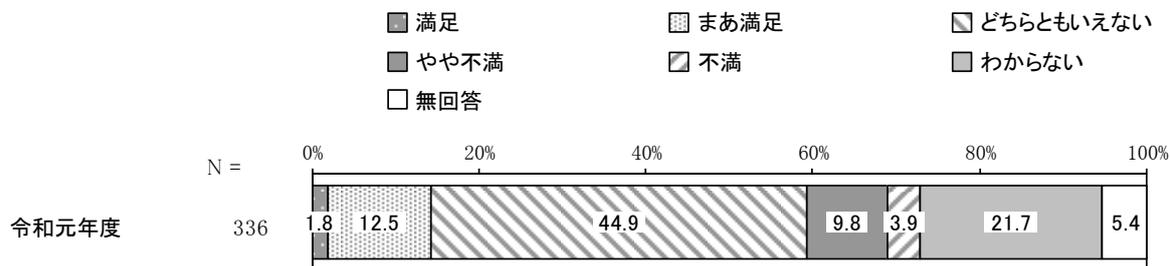
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



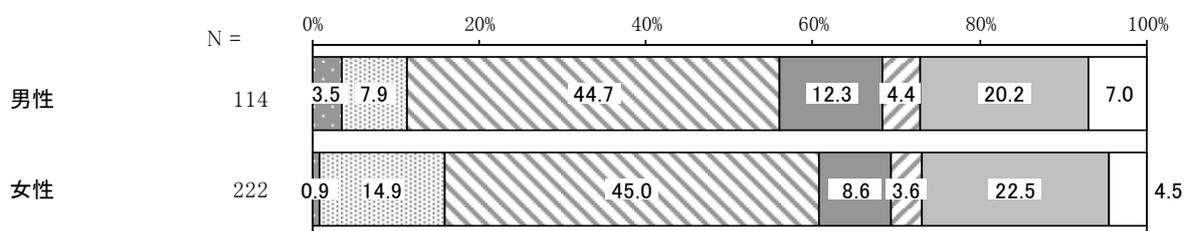
(6)子どもの確かな学力の育成

“満足”の割合が14.3%、“不満”の割合が13.7%となっています。



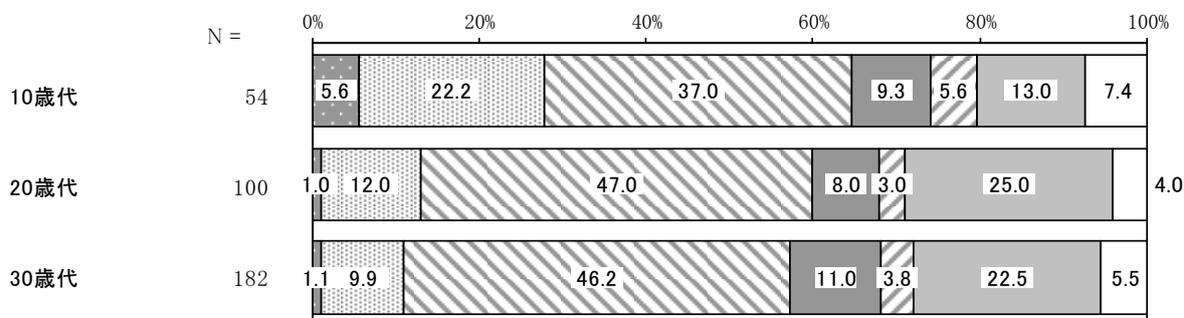
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



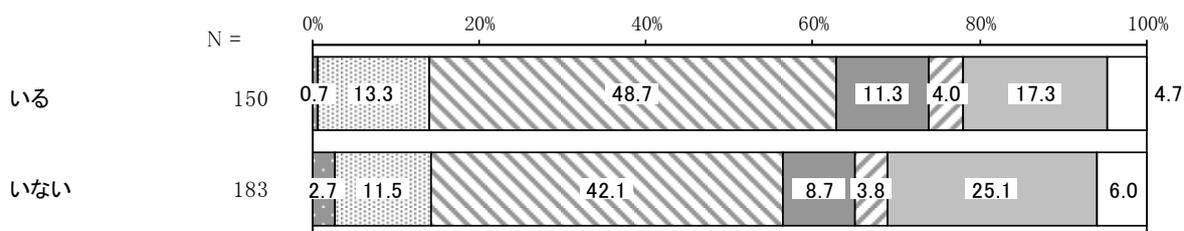
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約3割となっています。



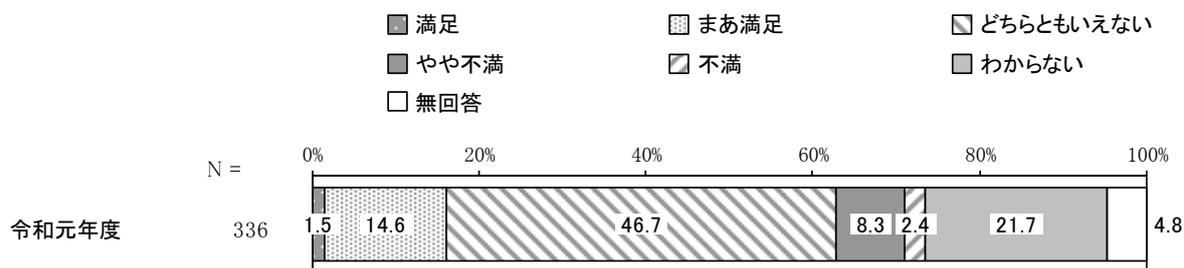
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



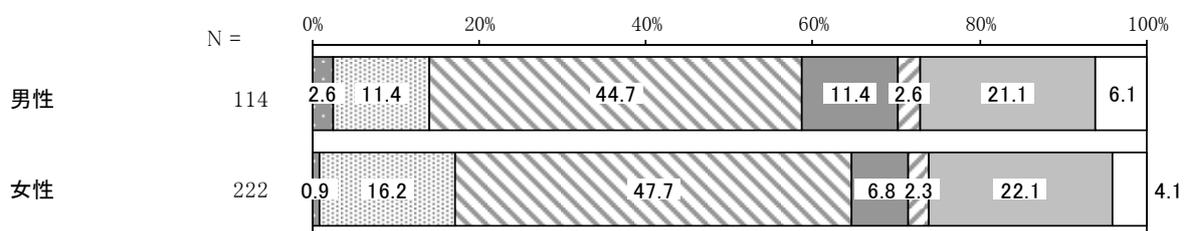
(7) 子どもへの健康教育や体力づくり

“満足”の割合が16.1%、“不満”の割合が10.7%となっています。



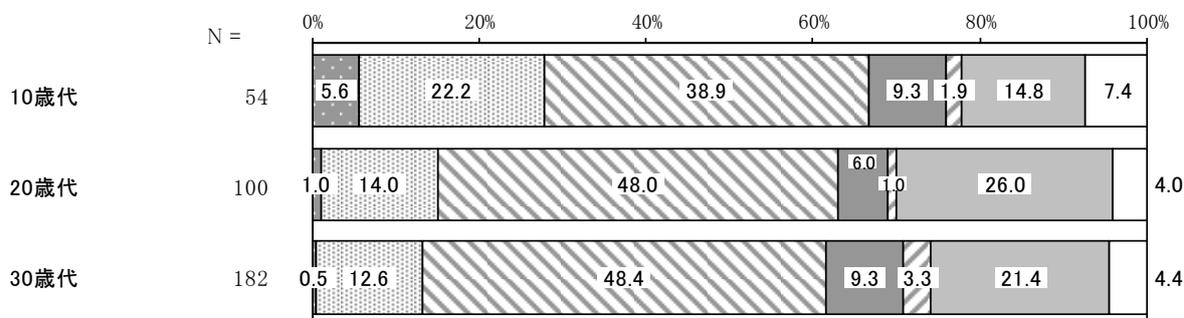
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



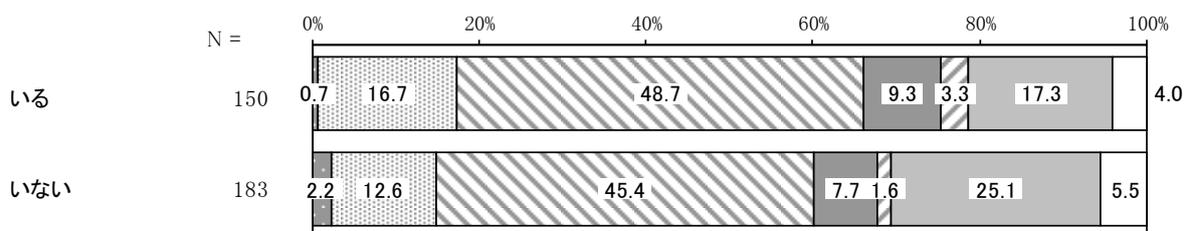
【年代別】

年代別で見ると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約3割となっています。



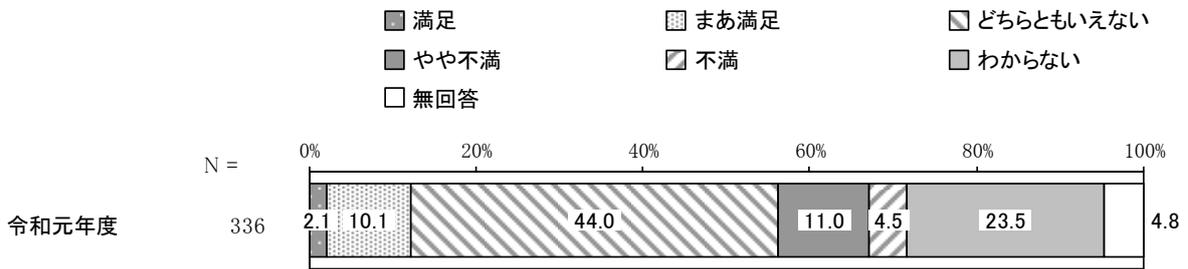
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、大きな差異はみられません。



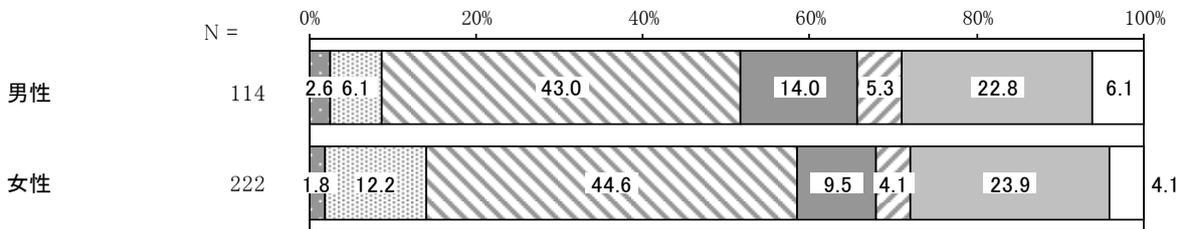
(8) 教職員の指導力の向上

“満足”の割合が12.2%、“不満”の割合が15.5%となっています。



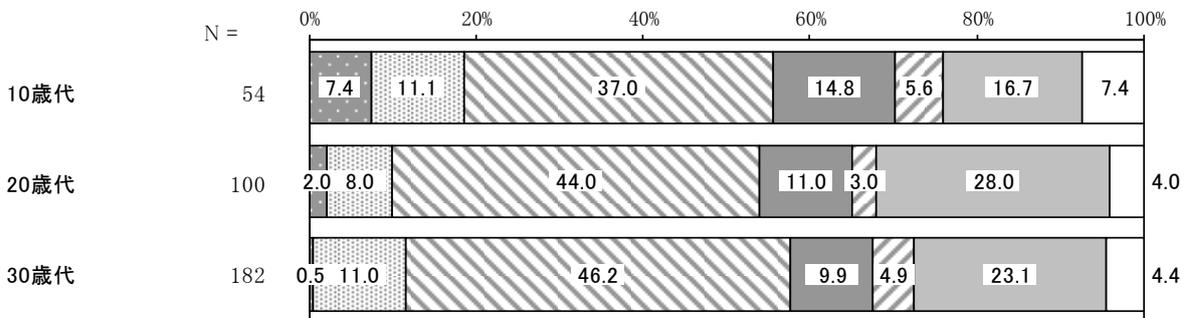
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“不満”の割合が高く、約2割となっています。また、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、1割台半ばとなっています。



【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“満足”“不満”の割合がともに高くなっています。



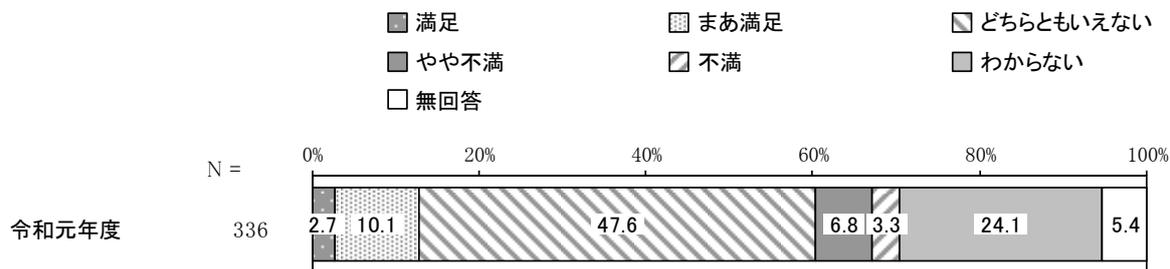
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



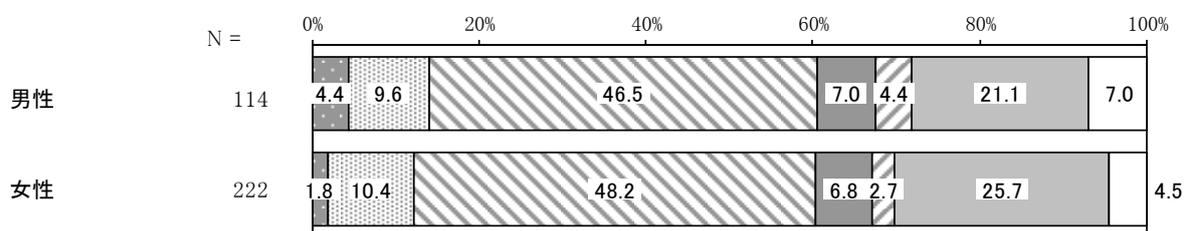
(9)外国人児童への教育支援

“満足”の割合が12.8%、“不満”の割合が10.1%となっています。



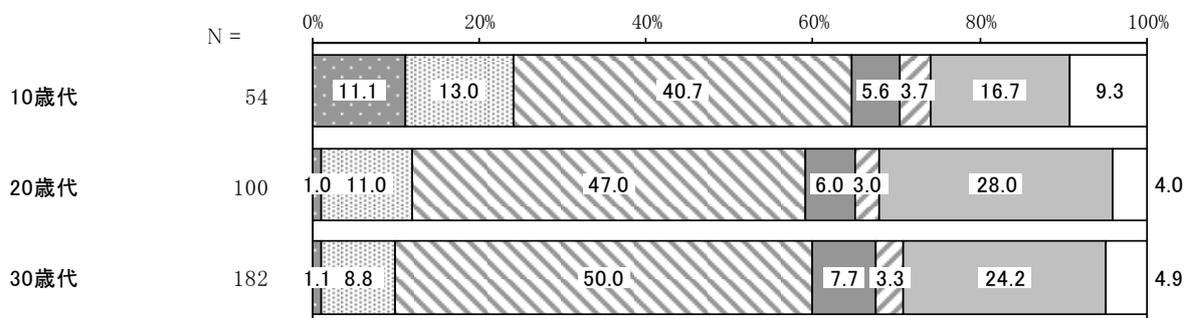
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



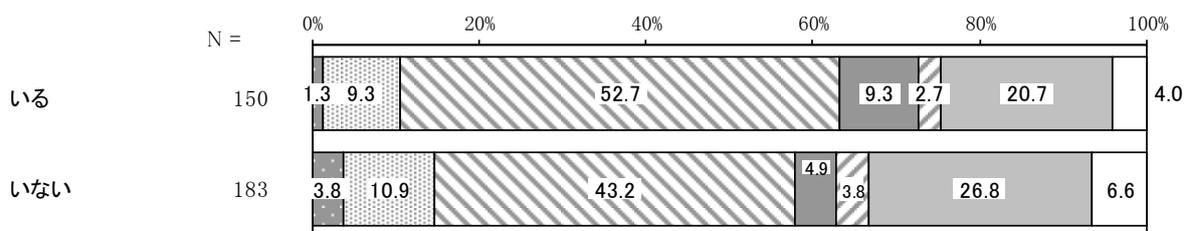
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で2割台半ばとなっています。



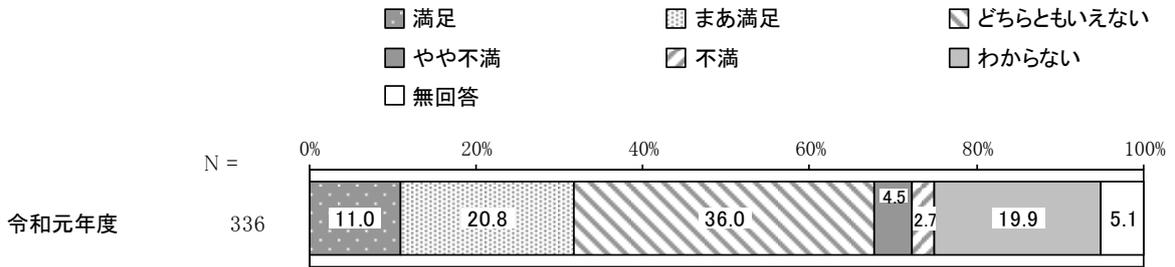
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



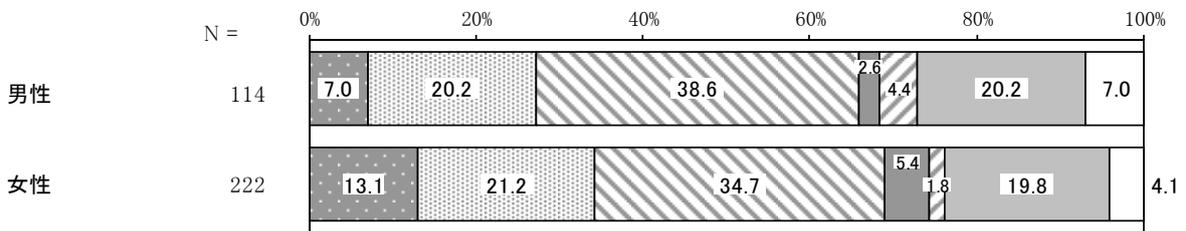
(10) 学校給食の充実

“満足”の割合が31.8%、“不満”の割合が7.2%となっています。



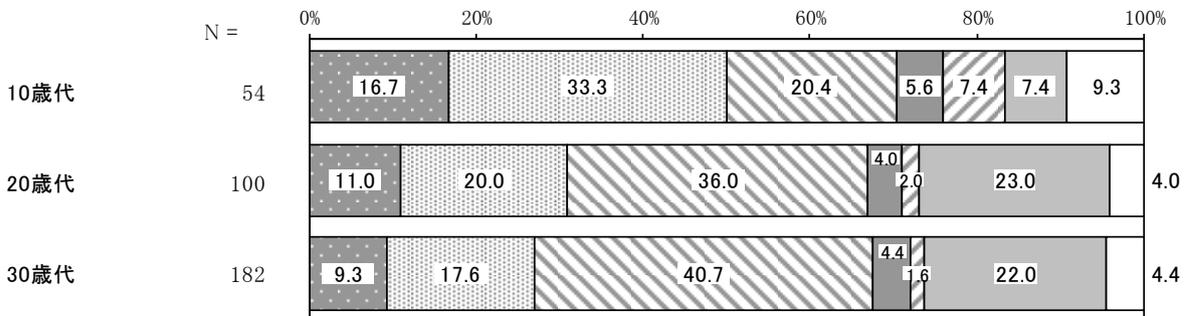
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、3割台半ばとなっています。



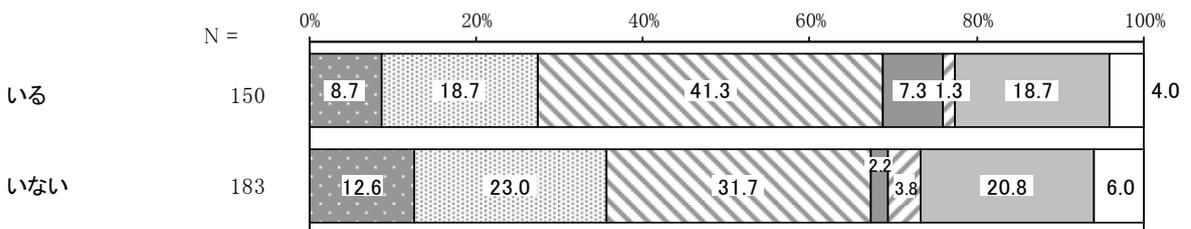
【年代別】

年代別で見ると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で5割となっています。



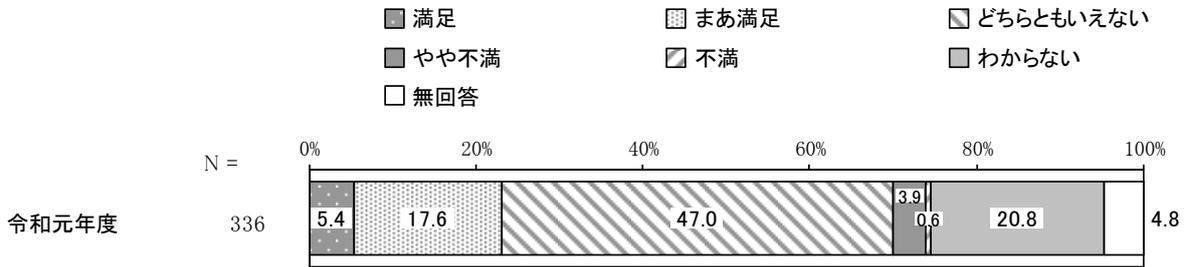
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で“満足”の割合が高く、3割台半ばとなっています。



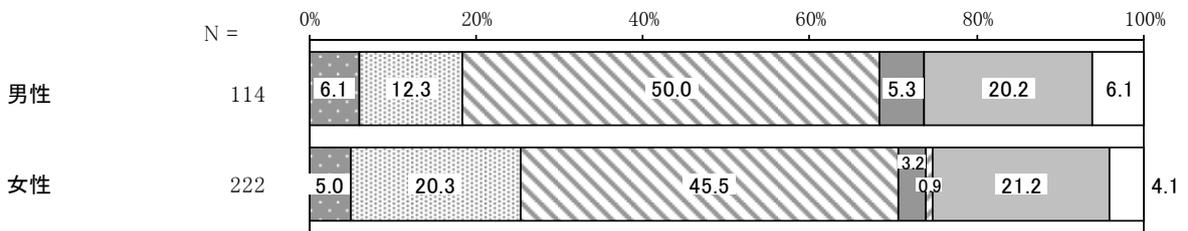
(11) 青少年の健全育成

“満足”の割合が23.0%、“不満”の割合が4.5%となっています。



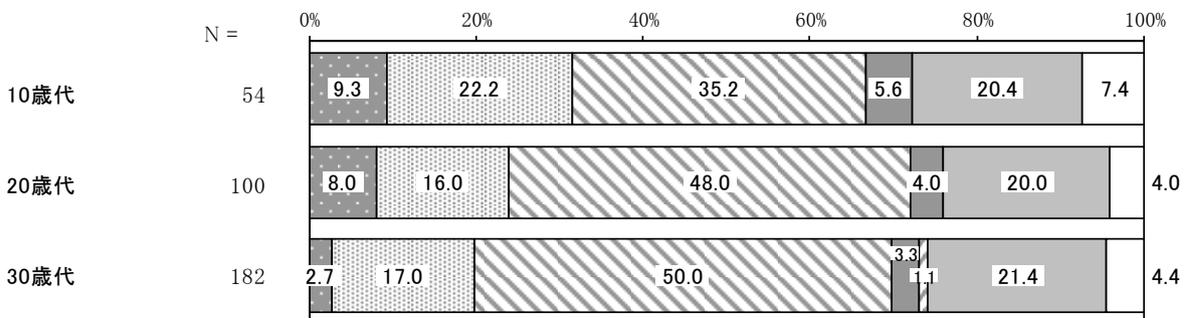
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



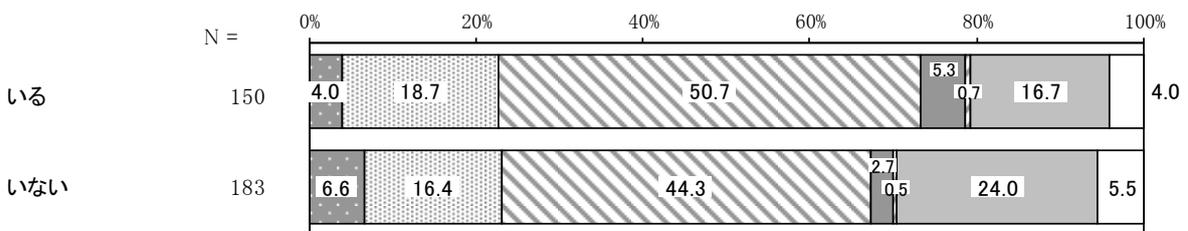
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“満足”の割合が高くなっており、10歳代で約3割となっています。



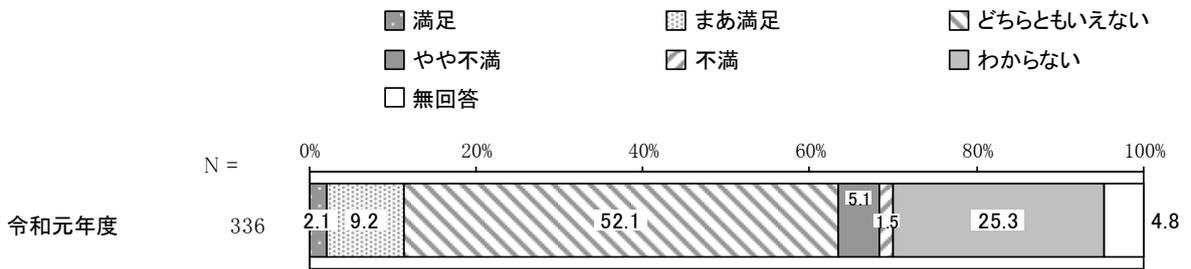
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



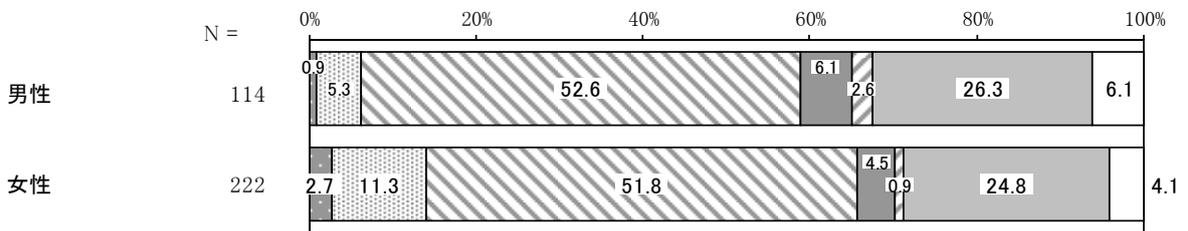
(12) 家庭教育に関する施策の充実

“満足”の割合が11.3%、“不満”の割合が6.6%となっています。



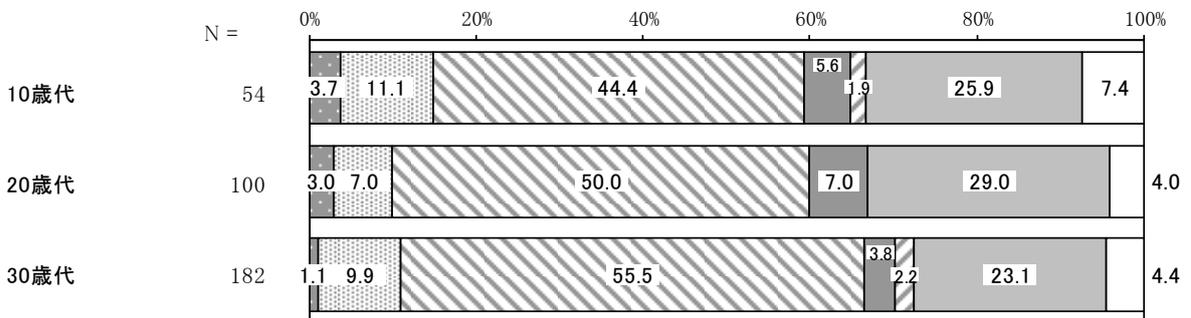
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“満足”の割合が高く、1割台半ばとなっています



【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



【ポートフォリオによる分析】

(1) 満足度・今後の重要性の得点化

12項目の質問項目について、「満足度」と「重要度」を5つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■満足度・今後の重要性の得点化の手順■

満足度	得点	重要度	得点
不満	→ -2点	重要ではない	→ -2点
やや不満	→ -1点	さほど重要ではない	→ -1点
どちらともいえない	→ 0点	どちらともいえない	→ 0点
まあ満足	→ 1点	重要	→ 1点
満足	→ 2点	非常に重要	→ 2点
わからない	→ 計算対象外	無回答	→ 計算対象外
無回答	→ 計算対象外		

■得点の算出式■

$ \begin{aligned} &2点 \times 「満足(非常に重要)」の回答数 \\ &+1点 \times 「まあ満足(重要)」の回答数 \\ &+0点 \times 「どちらともいえない」の回答数 \\ &-1点 \times 「やや不満(さほど重要ではない)」の回答数 \\ &-2点 \times 「不満(重要ではない)」の回答数 / 無回答を除く回答数 \end{aligned} $
--

算出された満足度・重要度の得点をもとに、各施策の満足度・重要度別に順位付けを行いました。

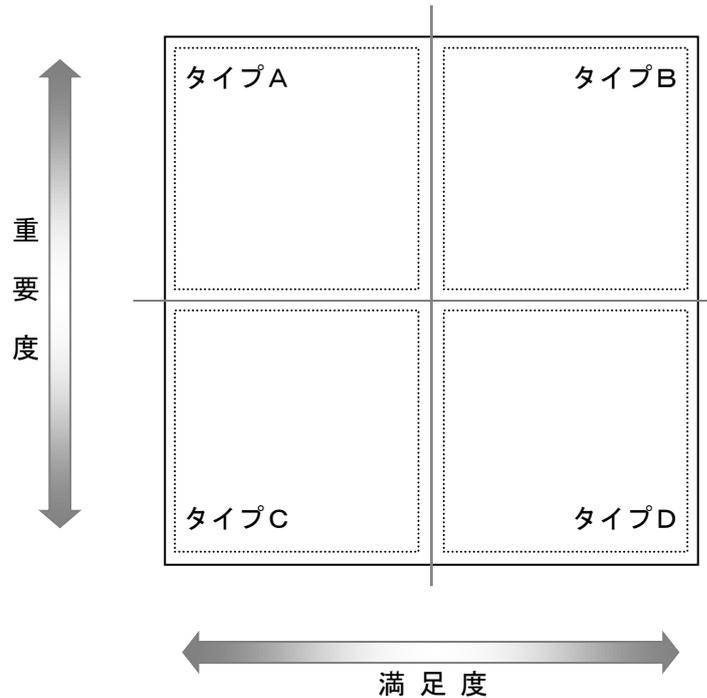
■満足度・重要度のベスト3とワースト3■

順位	満足度	得点	順位	得点	重要度
	施策名				施策名
第1位	(10)学校給食の充実	0.44	第1位	1.40	(2)学校施設の安全性
第2位	(11)青少年の健全育成(少年の主張大会、児童の見守り等)	0.31	第2位	1.24	(3)放課後の子どもの居場所づくり
第3位	(2)学校施設の安全性	0.20			(7)子どもへの健康教育や体力づくり
第10位	(9)外国人児童への教育支援	0.03	第10位	0.85	(12)家庭教育に関する施策の充実
第11位	(6)子どもの確かな学力の育成	-0.02	第11位	0.83	(4)地域に開かれた学校づくり
最下位	(8)教職員の指導力の向上	-0.08	最下位	0.48	(5)特色ある学校づくり

(2) ポートフォリオ分析による満足度・重要度の評価

各項目の満足度・重要度の得点の関係について、満足度・重要度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。

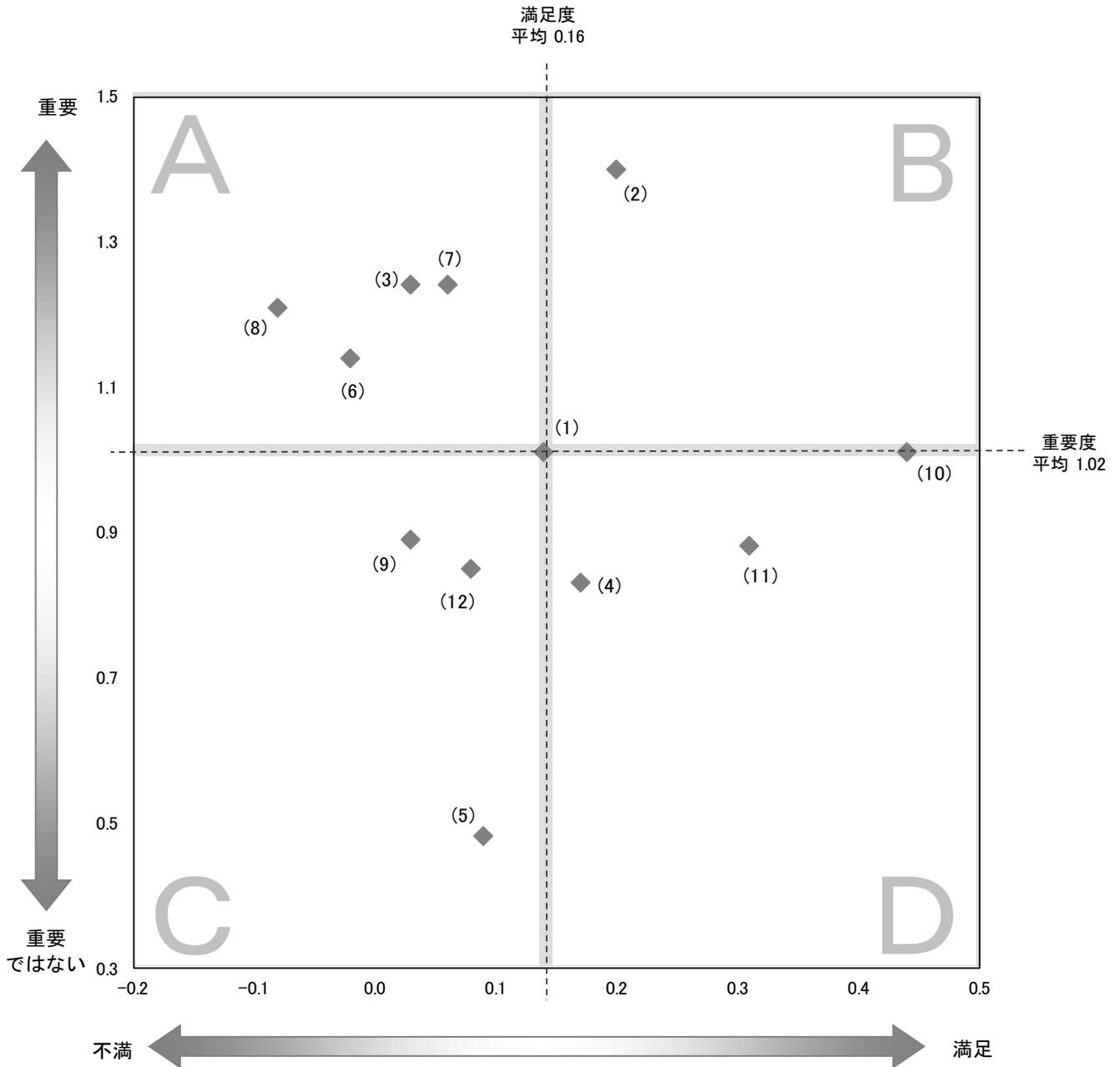
施策は、全体的に満足度が低く、重要度が高い傾向があり、その中でも重要度および満足度が高い理由についての検証が必要なタイプBに特に分布しています。



- ◆タイプA **満足度は低いが、重要度は高い**
→ 今後の重点課題として検討が必要なタイプ。
- ◆タイプB **満足度は高く、重要度も高い**
→ 事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプ。
- ◆タイプC **満足度は低く、重要度も低い**
→ 全体に比べ、重要度および満足度が低い理由についての検証が必要なタイプ。施策の縮小や廃止などを含めた検討が必要。
- ◆タイプD **満足度は高いが、重要度は低い**
→ これまでの施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられるタイプ。ただし、施策が過剰になっていないか検討が必要。

●施策のポートフォリオ分析 (N = 336)

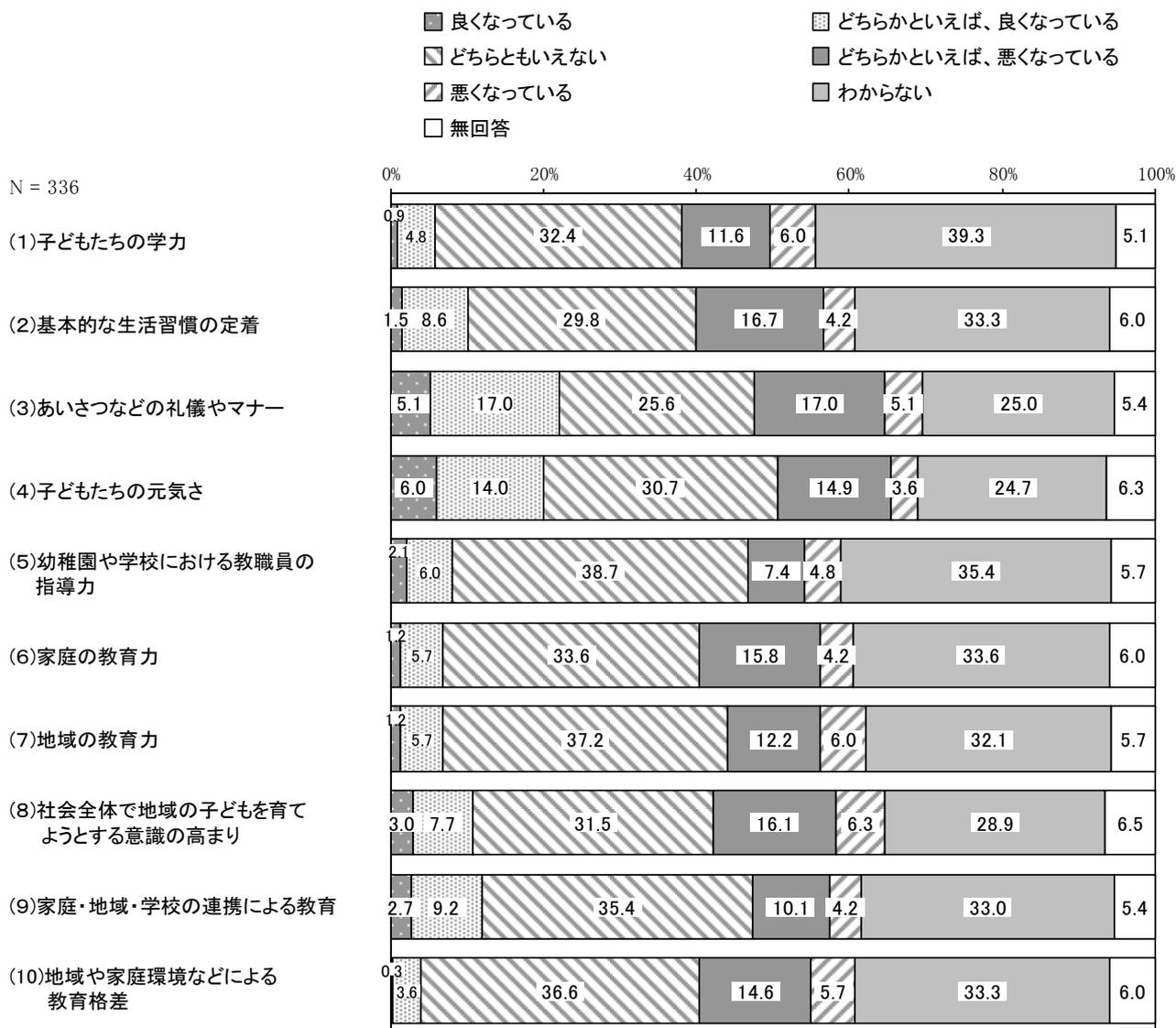
満足度が高く、重要度も高い施策(タイプB)は、『(2)学校施設の安全性』となっています。



項目	
(1) 幼児教育に関する施策の充実	(7) 子どもへの健康教育や体力づくり
(2) 学校施設の安全性	(8) 教職員の指導力の向上
(3) 放課後の子どもの居場所づくり	(9) 外国人児童への教育支援
(4) 地域に開かれた学校づくり	(10) 学校給食の充実
(5) 特色ある学校づくり	(11) 青少年の健全育成(少年の主張大会、児童の見守り等)
(6) 子どもの確かな学力の育成	(12) 家庭教育に関する施策の充実

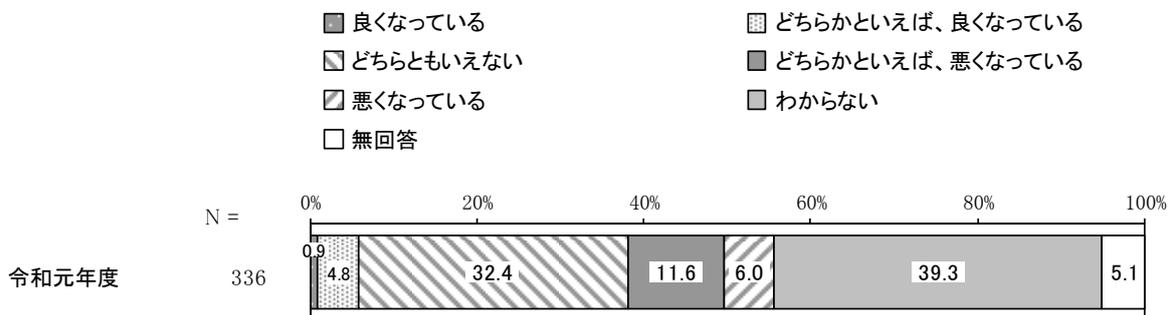
問 25 子どもたちを見て、ここ 10 年くらいの間に可児市の教育はどのようになったと感じますか。5 点満点で評価し、該当する数字を 1 つずつ○で囲んでください。

『(3)あいさつなどの礼儀やマナー』『(4)子どもたちの元気さ』で「良くなっている」と「どちらかといえば、良くなっている」をあわせた“良くなっている”の割合が高く、約 2 割となっています。一方、『(2)基本的な生活習慣の定着』『(3)あいさつなどの礼儀やマナー』『(6)家庭の教育力』『(8)社会全体で地域の子どもを育てようとする意識の高まり』『(10)地域や家庭環境などによる教育格差』で「どちらかといえば、悪くなっている」と「悪くなっている」をあわせた“悪くなっている”の割合が高く、2 割以上となっています。



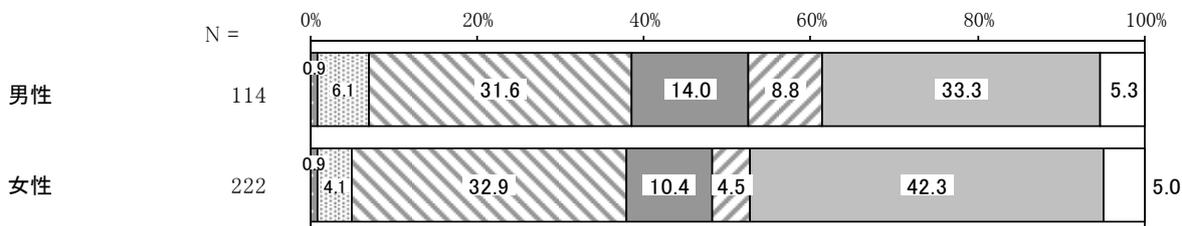
(1)子どもたちの学力

“良くなっている”の割合が5.7%、“悪くなっている”の割合が17.6%となっています。



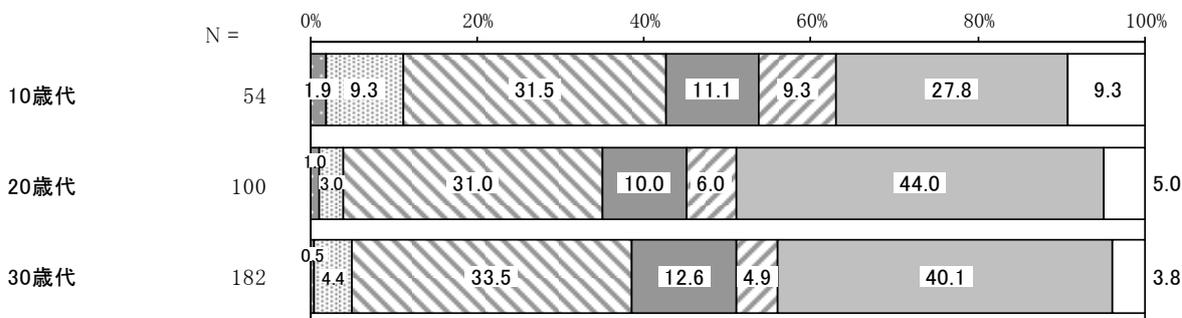
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



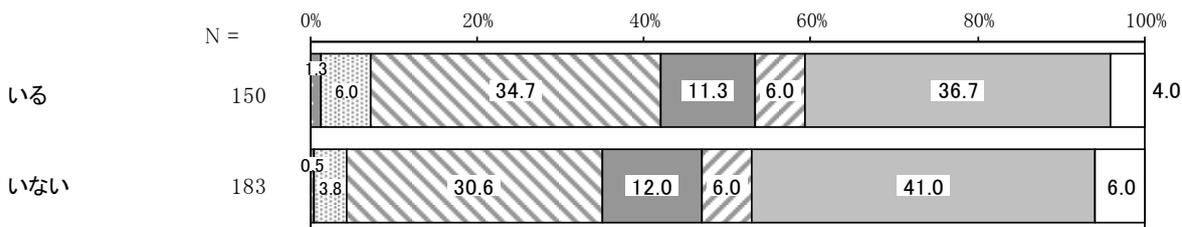
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“良くなっている”“悪くなっている”の割合がともに高くなっています。



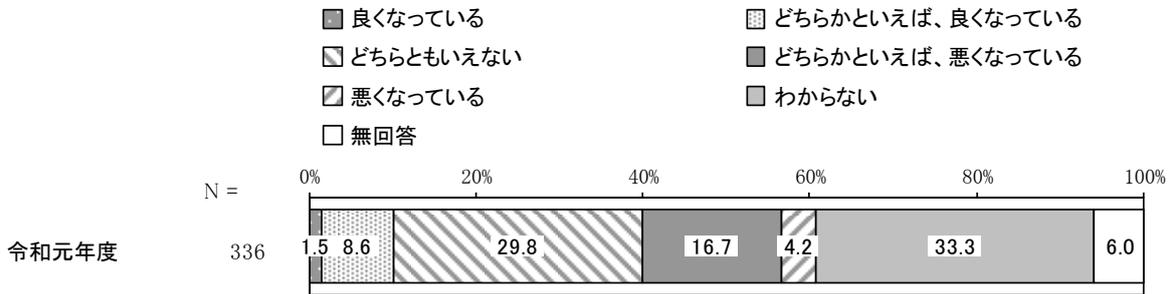
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



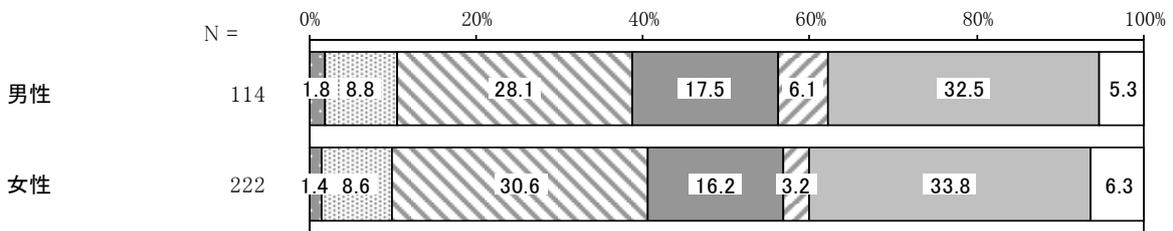
(2) 基本的な生活習慣の定着

“良くなっている”の割合が10.1%、“悪くなっている”の割合が20.9%となっています。



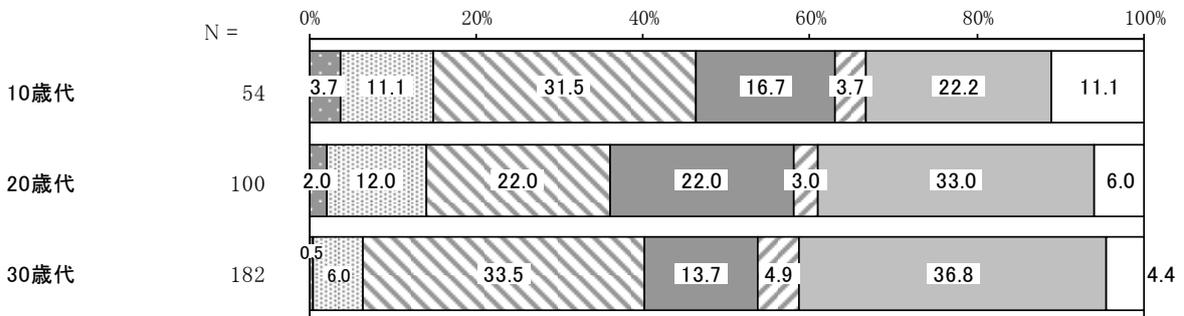
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



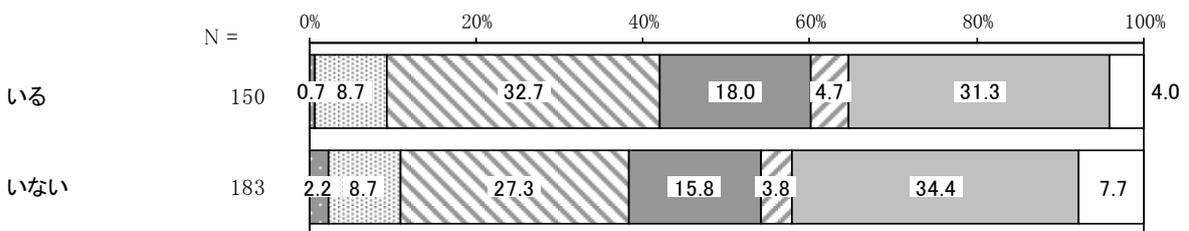
【年代別】

年代別でみると、10歳代、30歳代に比べ、20歳代で“悪くなっている”の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、30歳代で“良くなっている”の割合が低くなっています。



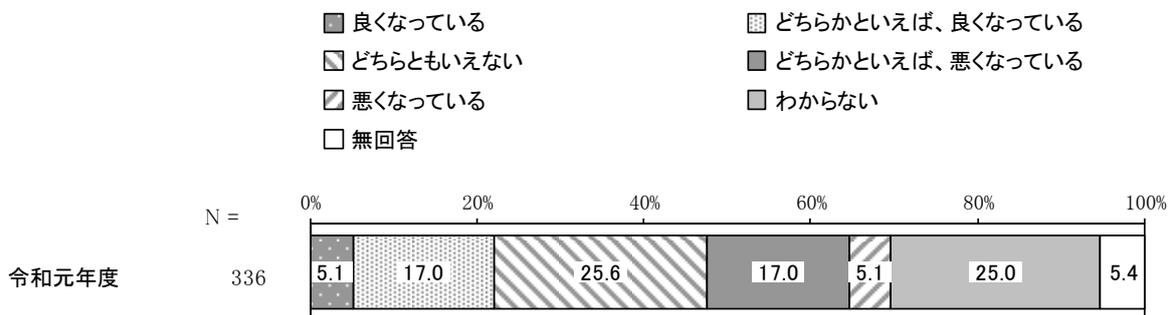
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



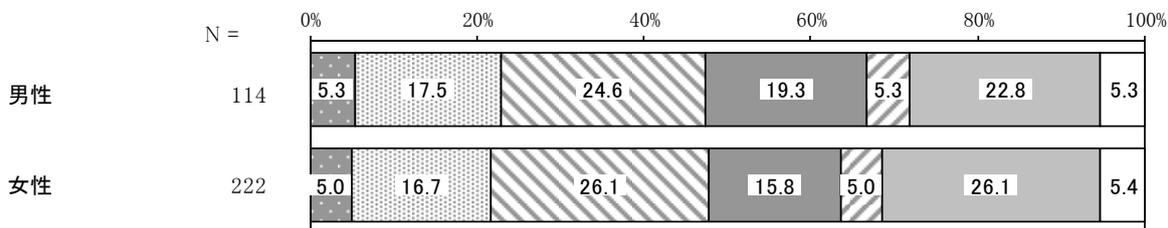
(3) あいさつなどの礼儀やマナー

“良くなっている”“悪くなっている”の割合がともに22.1%となっています。



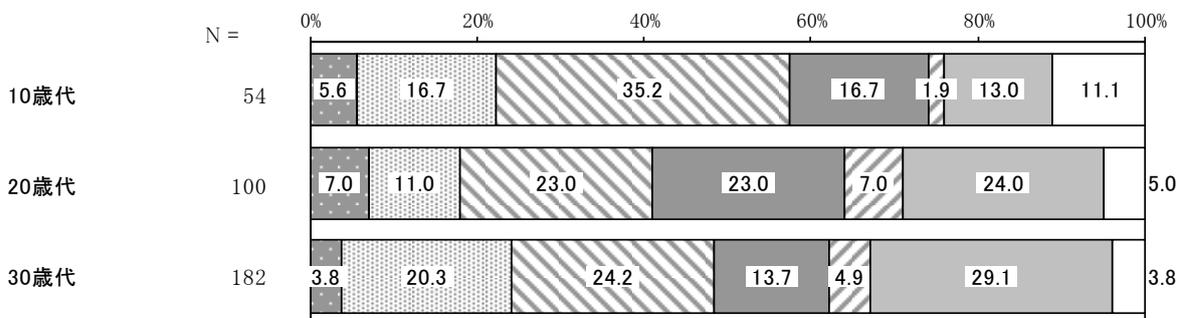
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



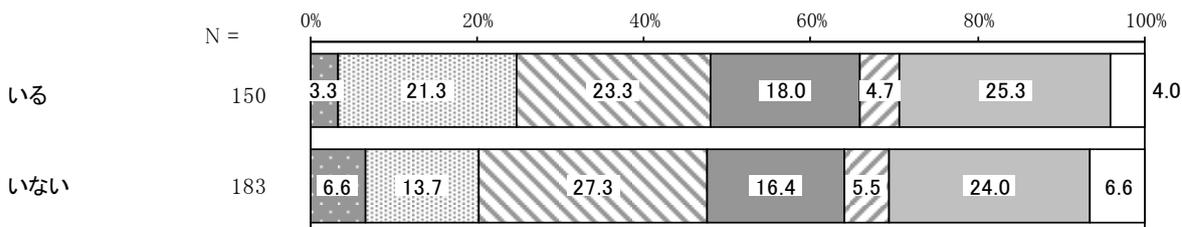
【年代別】

年代別でみると、10歳代、30歳代に比べ、20歳代で“悪くなっている”の割合が高く、3割となっています。



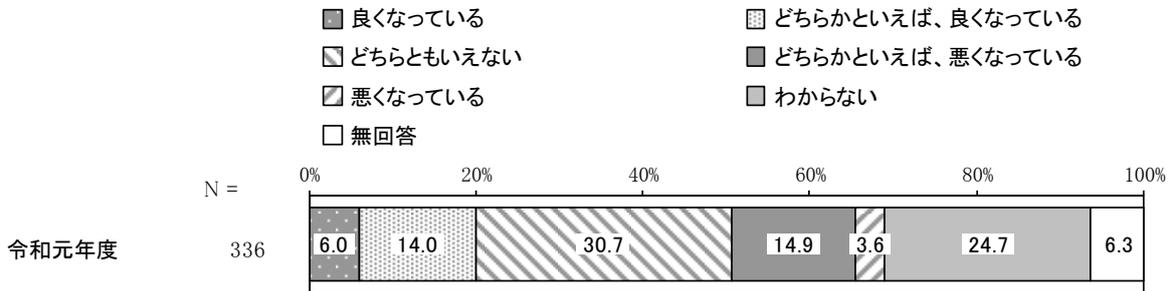
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



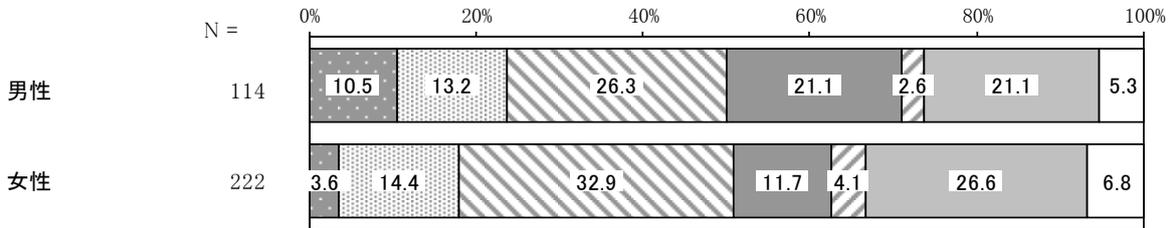
(4)子どもたちの元気さ

“良くなっている”の割合が20.0%、“悪くなっている”の割合が18.5%となっています。



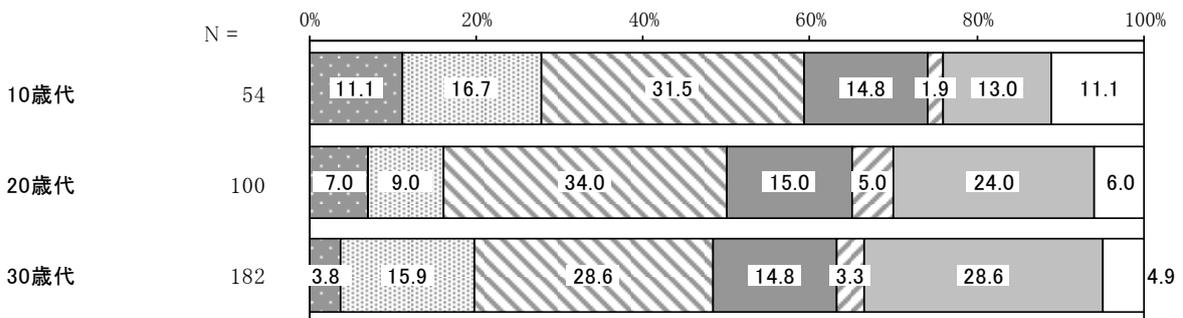
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“良くなっている”“悪くなっている”の割合がともに高くなっています。



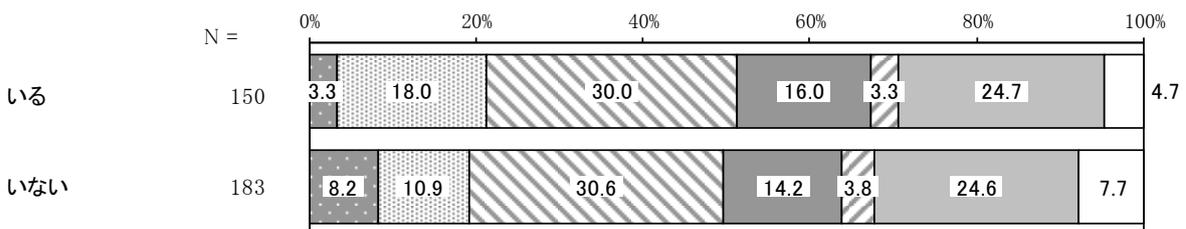
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“良くなっている”の割合が高く、約3割となっています。



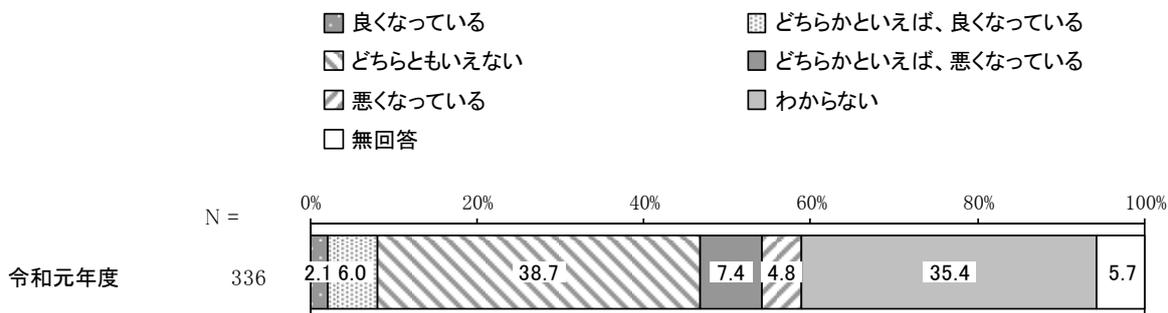
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



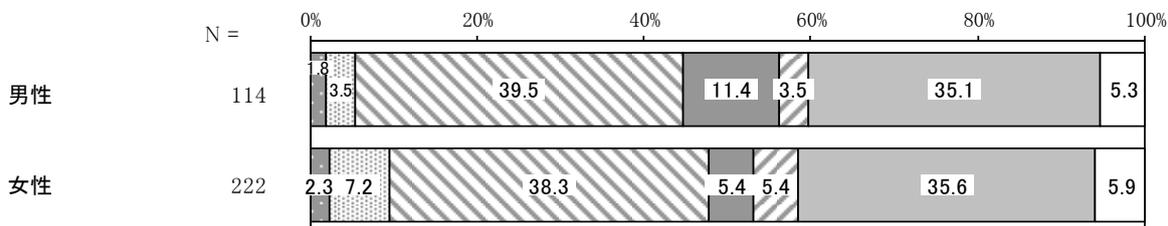
(5) 幼稚園や学校における教職員の指導力

“良くなっている”の割合が8.1%、“悪くなっている”の割合が12.2%となっています。



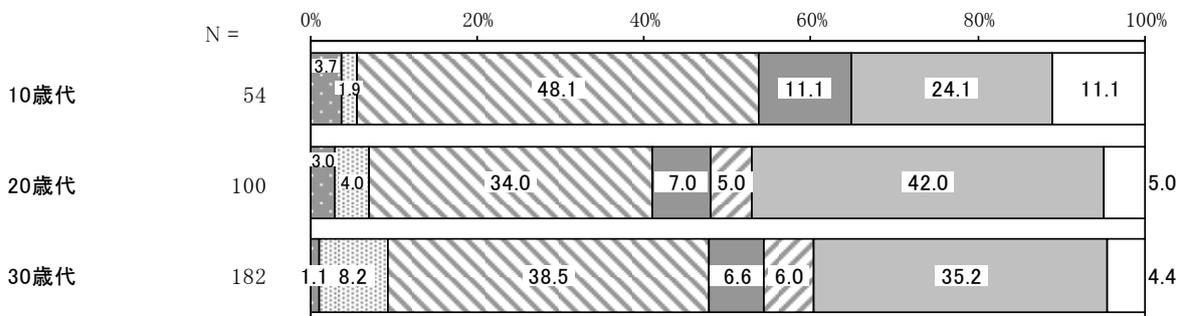
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



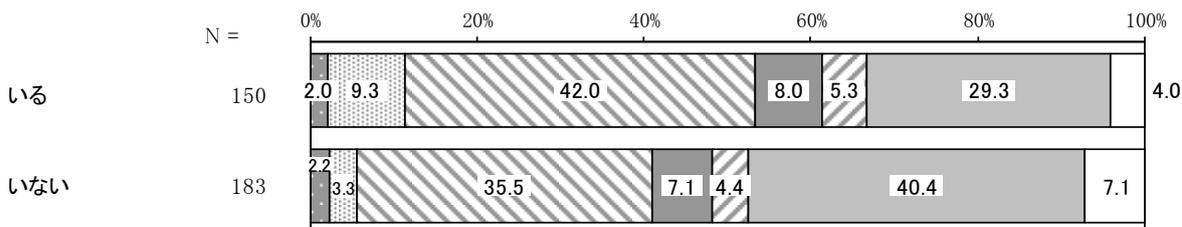
【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。



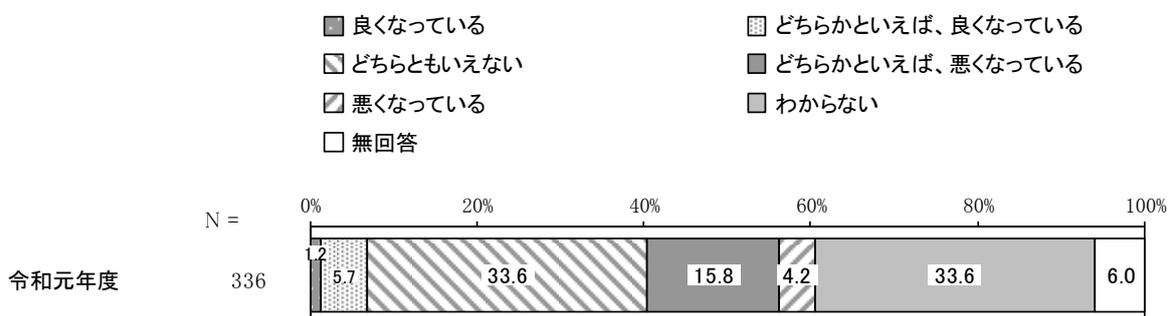
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“良くなっている”の割合が高く、約1割となっています。



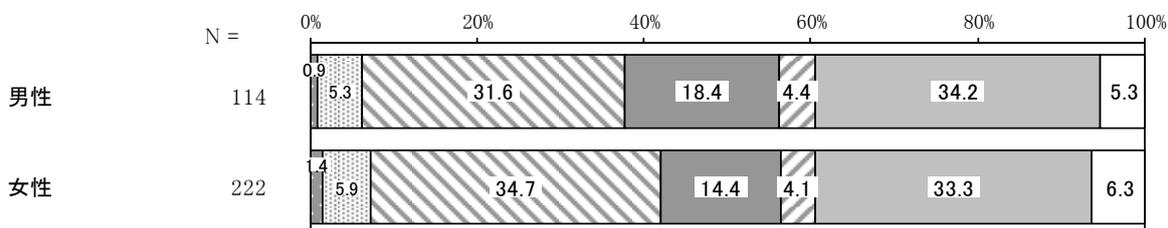
(6) 家庭の教育力

“良くなっている”の割合が6.9%、“悪くなっている”の割合が20.0%となっています。



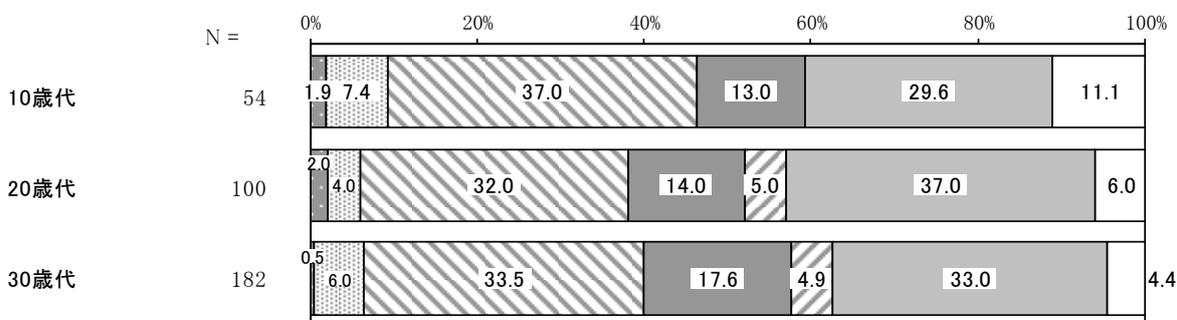
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



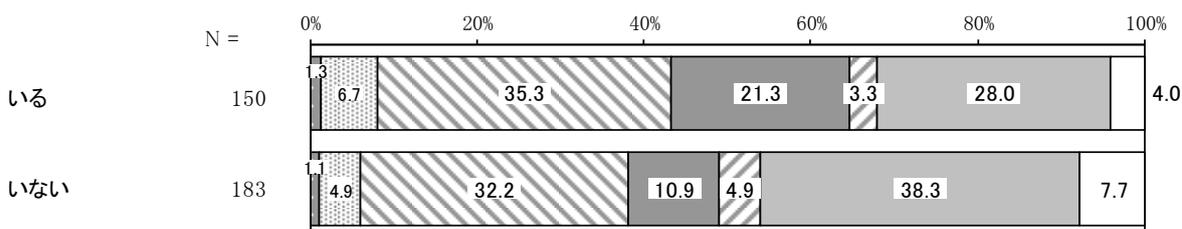
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“悪くなっている”の割合が低くなっています。



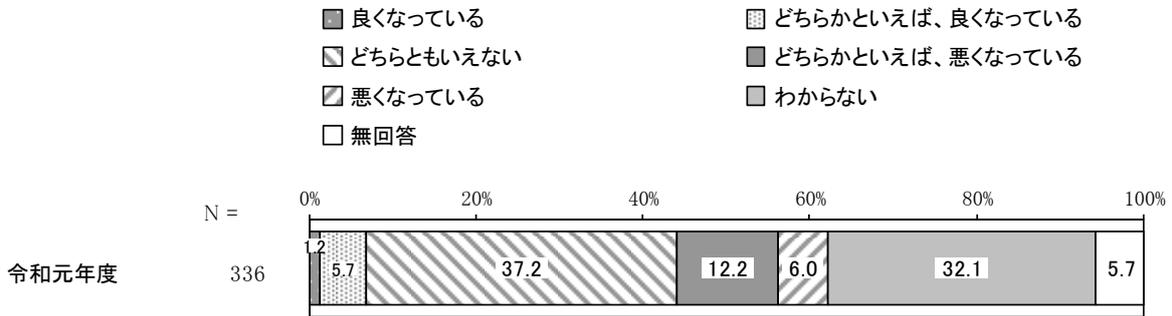
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“悪くなっている”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



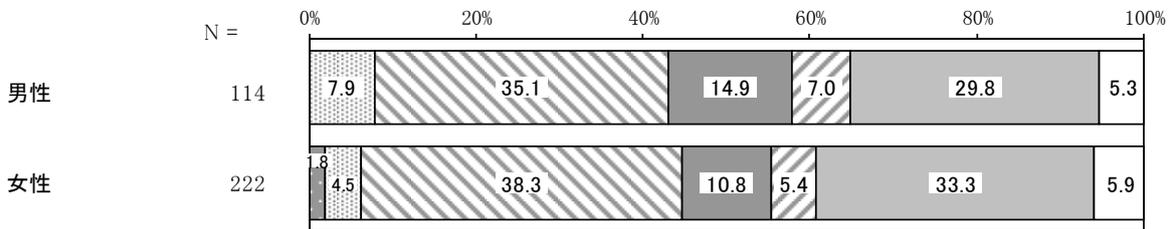
(7)地域の教育力

“良くなっている”の割合が6.9%、“悪くなっている”の割合が18.2%となっています。



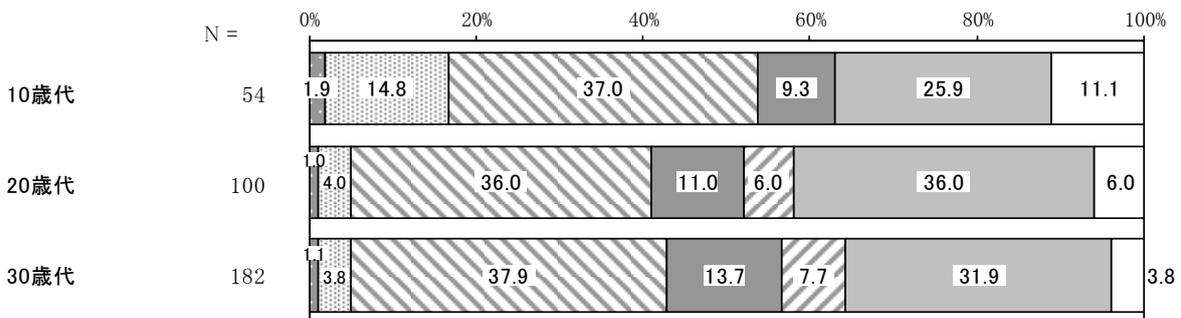
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



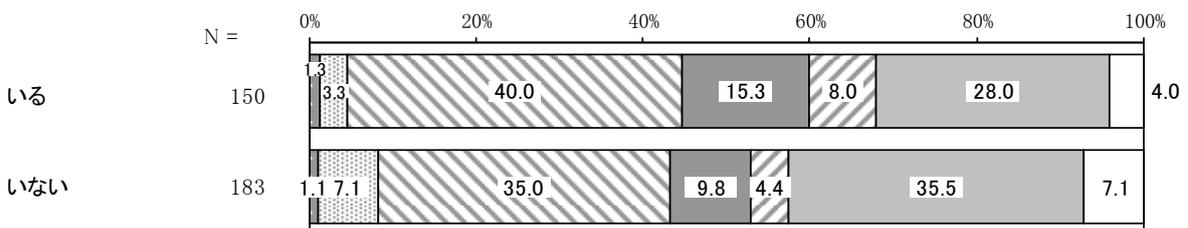
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“悪くなっている”の割合が高くなっており、30歳代で約2割となっています。また、“20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“良くなっている”の割合が高く、1割台半ばとなっています。



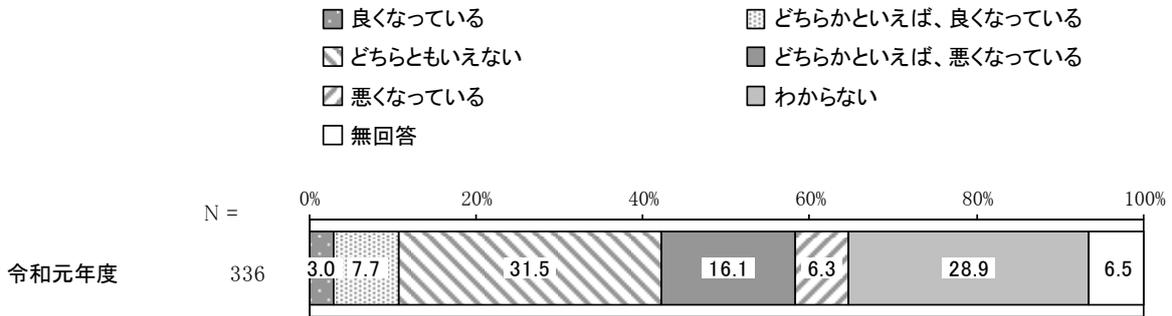
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



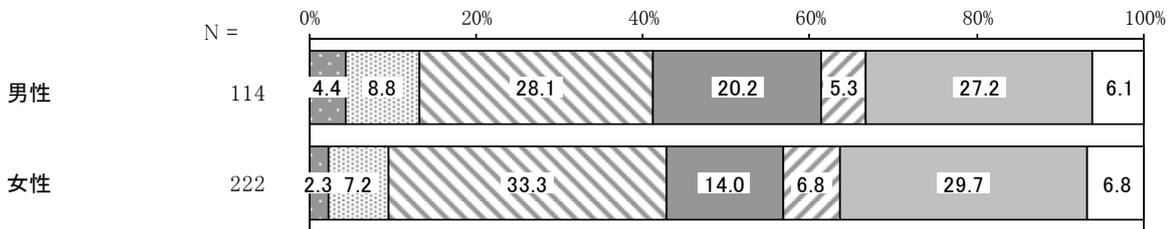
(8) 社会全体で地域の子どもの育てようとする意識の高まり

“良くなっている”の割合が10.7%、“悪くなっている”の割合が22.4%となっています。



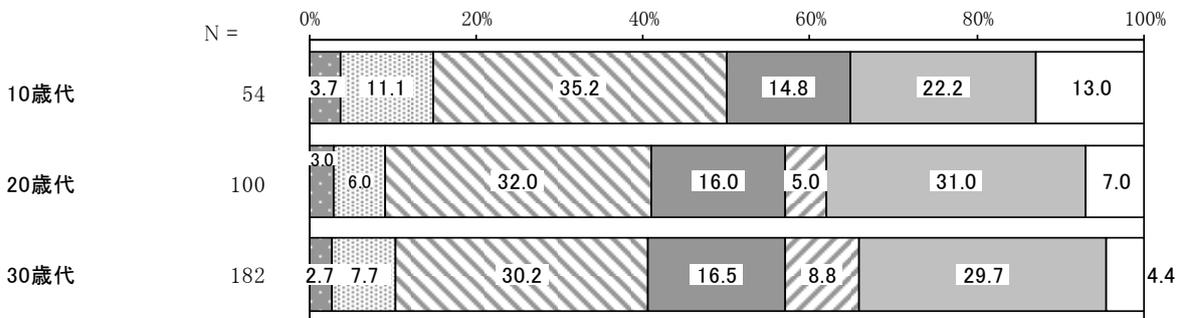
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



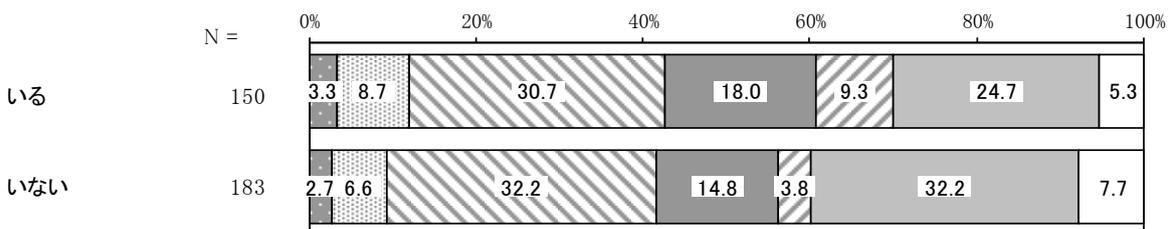
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“悪くなっている”の割合が高くなっており、30歳代で2割台半ばとなっています。



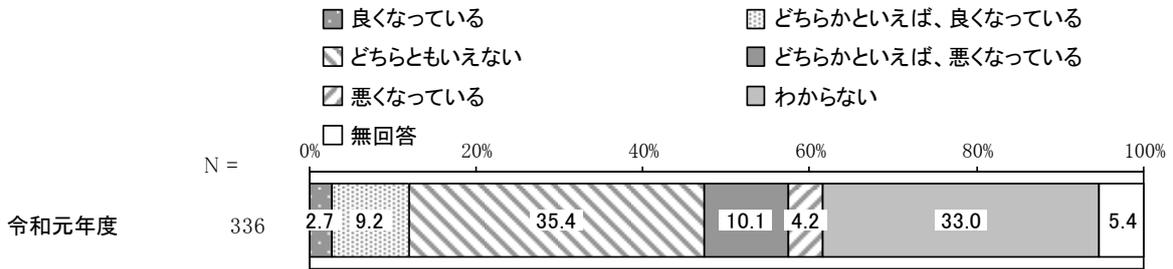
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“悪くなっている”の割合が高く、約3割となっています。



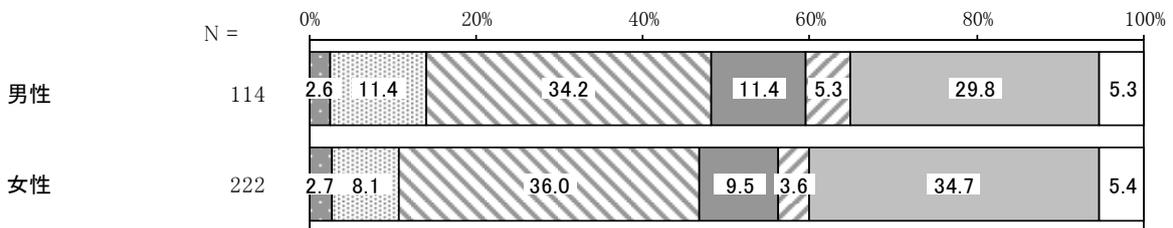
(9) 家庭・地域・学校の連携による教育

“良くなっている”の割合が11.9%、“悪くなっている”の割合が14.3%となっています。



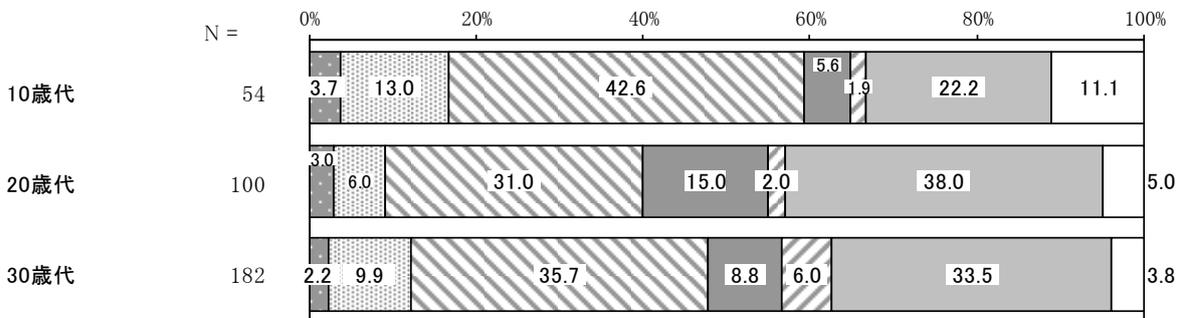
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



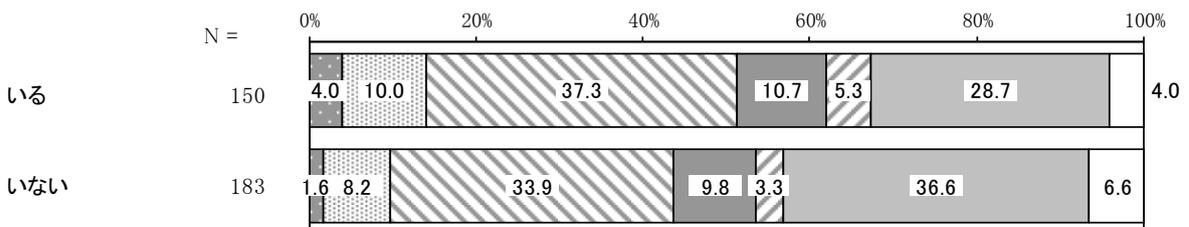
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“良くなっている”の割合が高く、1割台半ばとなっています。また、20歳代で“悪くなっている”の割合が高く、約2割となっています。



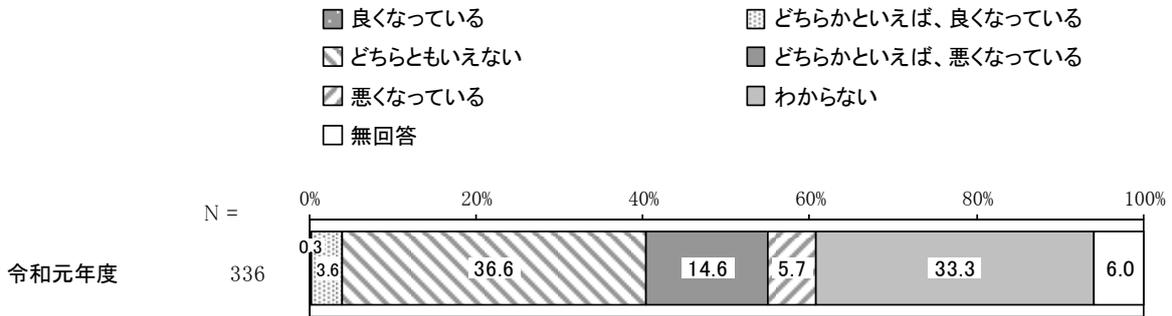
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



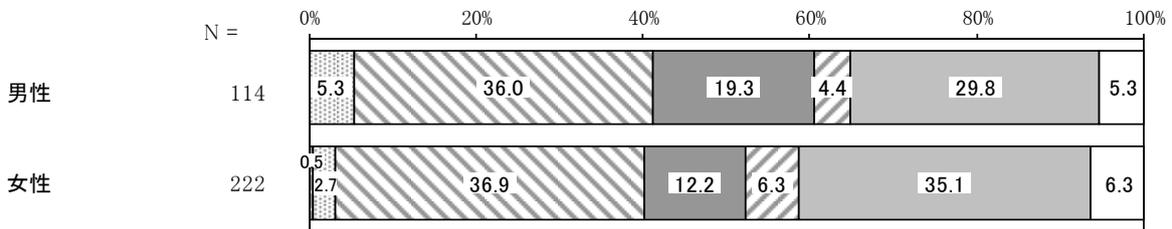
(10) 地域や家庭環境などによる教育格差

“良くなっている”の割合が3.9%、“悪くなっている”の割合が20.3%となっています。



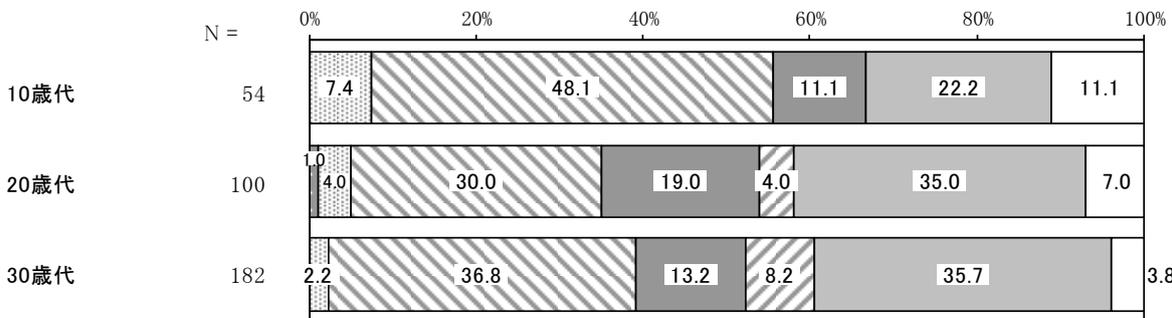
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“悪くなっている”の割合が高く、2割を超えています。



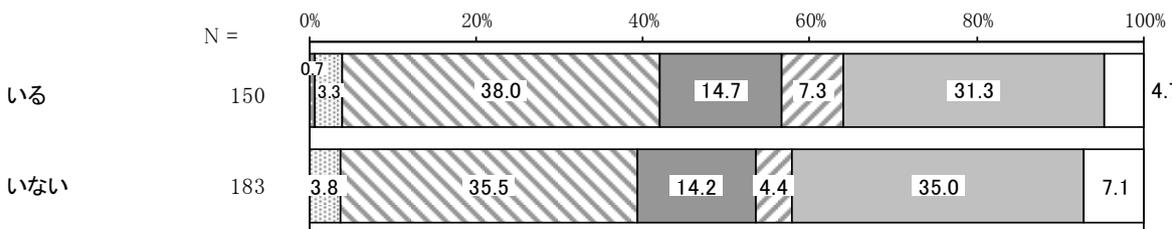
【年代別】

年代別でみると、20歳代、30歳代に比べ、10歳代で“悪くなっている”の割合が低く、約1割となっています。



【子どもの有無別】

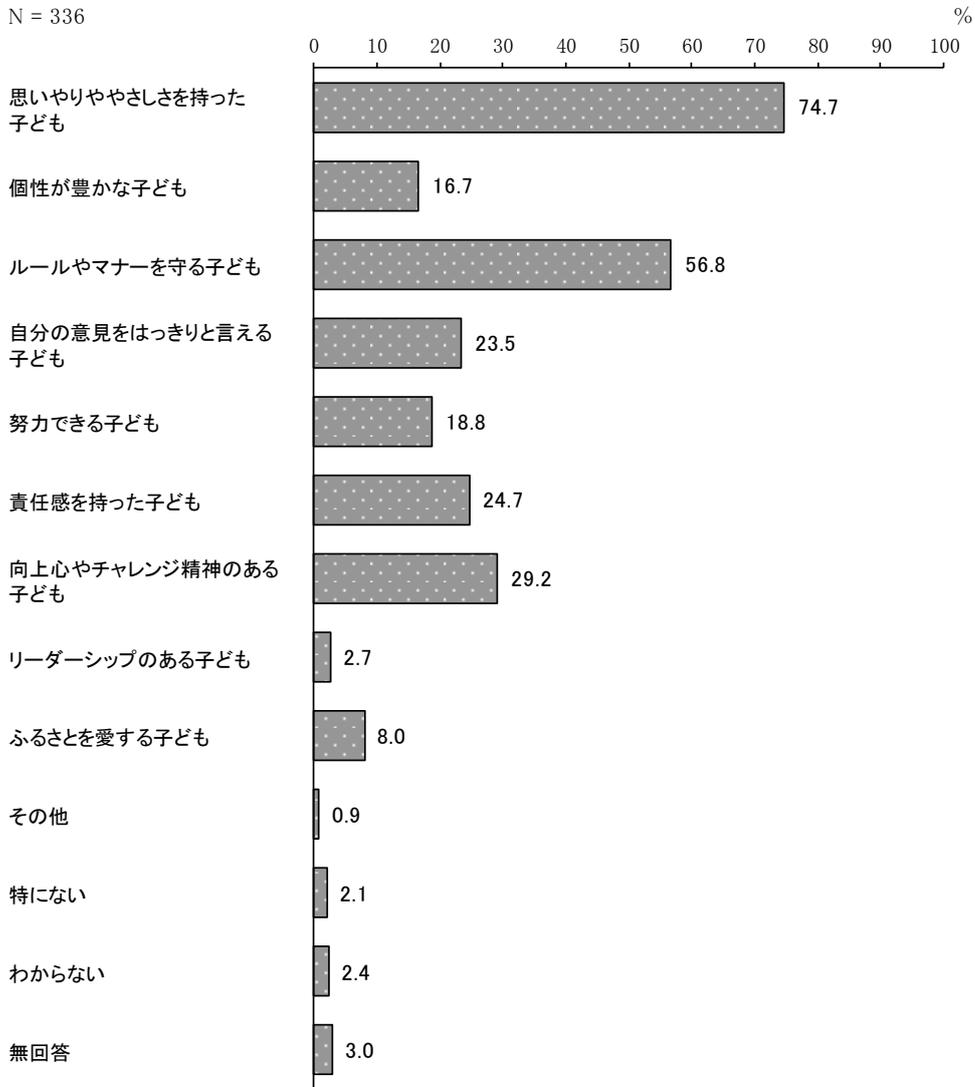
子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。



問 26 あなた、可児市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。(〇は3つまで)

「思いやりやさしさを持った子ども」の割合が74.7%と最も高く、次いで「ルールやマナーを守る子ども」の割合が56.8%、「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の割合が29.2%となっています。

N = 336



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「自分の意見をはっきりと言える子ども」「ふるさとを愛する子ども」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「思いやりやさしさを持った子ども」「努力できる子ども」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	思いやりやさしさを持った子ども	個性が豊かな子ども	ルールやマナーを守る子ども	自分の意見をはっきりと言える子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	向上心やチャレンジ精神のある子ども	リーダーシップのある子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にない	わからない	無回答
男性	114	65.8	14.0	57.9	27.2	11.4	25.4	28.1	1.8	12.3	0.9	4.4	4.4	1.8
女性	222	79.3	18.0	56.3	21.6	22.5	24.3	29.7	3.2	5.9	0.9	0.9	1.4	3.6

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「思いやりやさしさを持った子ども」「努力できる子ども」「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の割合が高くなっています。また、年代が低くなるにつれ「個性が豊かな子ども」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	思いやりやさしさを持った子ども	個性が豊かな子ども	ルールやマナーを守る子ども	自分の意見をはっきりと言える子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	向上心やチャレンジ精神のある子ども	リーダーシップのある子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にない	わからない	無回答
10歳代	54	64.8	22.2	63.0	22.2	16.7	20.4	14.8	—	7.4	—	5.6	5.6	3.7
20歳代	100	74.0	17.0	61.0	27.0	18.0	25.0	22.0	3.0	5.0	3.0	2.0	2.0	3.0
30歳代	182	78.0	14.8	52.7	22.0	19.8	25.8	37.4	3.3	9.9	—	1.1	1.6	2.7

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「思いやりやさしさを持った子ども」「努力できる子ども」「向上心やチャレンジ精神のある子ども」「ふるさとを愛する子ども」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「ルールやマナーを守る子ども」の割合が高くなっています。

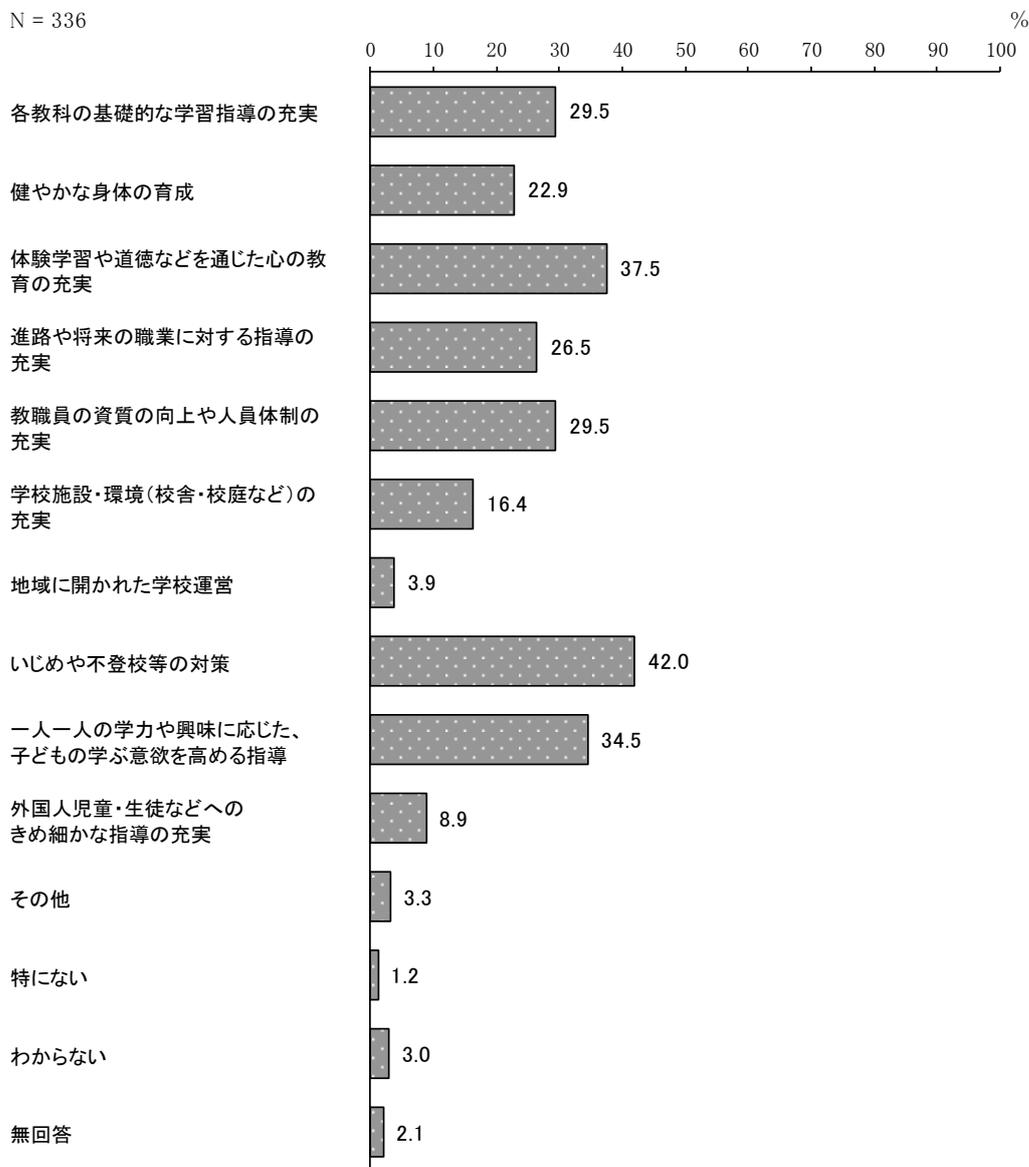
単位：％

区分	有効回答数(件)	思いやりやさしさを持った子ども	個性が豊かな子ども	ルールやマナーを守る子ども	自分の意見をはっきりと言える子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	向上心やチャレンジ精神のある子ども	リーダーシップのある子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	特にない	わからない	無回答
いる	150	79.3	14.0	54.0	22.7	23.3	23.3	38.7	3.3	12.0	1.3	0.7	0.7	4.0
いない	183	72.1	18.0	60.1	24.6	14.8	26.2	21.3	2.2	4.9	0.5	3.3	3.3	2.2

問 27 あなたは、可児市の学校教育の充実のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「いじめや不登校等の対策」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実」の割合が 37.5%、「一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」の割合が 34.5%となっています。

N = 336



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学校施設・環境（校舎・校庭など）の充実」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「各教科の基礎的な学習指導の充実」「いじめや不登校等の対策」「外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	各教科の基礎的な学習指導の充実	健やかな身体の育成	体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	進路や将来の職業に対する指導の充実	教職員の資質の向上や人員体制の充実	学校施設・環境（校舎・校庭など）の充実	地域に開かれた学校運営
男性	114	25.4	25.4	39.5	26.3	28.9	21.1	2.6
女性	222	31.5	21.6	36.5	26.6	29.7	14.0	4.5

区分	いじめや不登校等の対策	一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	その他	特にない	わからない	無回答
男性	38.6	32.5	5.3	3.5	0.9	3.5	2.6
女性	43.7	35.6	10.8	3.2	1.4	2.7	1.8

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「健やかな身体の育成」「教職員の資質の向上や人員体制の充実」の割合が高くなっています。また、10歳代、20歳代に比べ、30歳代で「体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実」「一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	各教科の基礎的な学習指導の充実	健やかな身体の育成	体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	進路や将来の職業に対する指導の充実	教職員の資質の向上や人員体制の充実	学校施設・環境(校舎・校庭など)の充実	地域に開かれた学校運営
10歳代	54	37.0	18.5	33.3	20.4	25.9	20.4	3.7
20歳代	100	21.0	23.0	32.0	31.0	28.0	22.0	2.0
30歳代	182	31.9	24.2	41.8	25.8	31.3	12.1	4.9

区分	いじめや不登校等の対策	一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	その他	特にない	わからない	無回答
10歳代	42.6	31.5	11.1	3.7	1.9	1.9	3.7
20歳代	45.0	30.0	10.0	2.0	1.0	3.0	4.0
30歳代	40.1	37.9	7.7	3.8	1.1	3.3	0.5

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「各教科の基礎的な学習指導の充実」「体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実」「一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

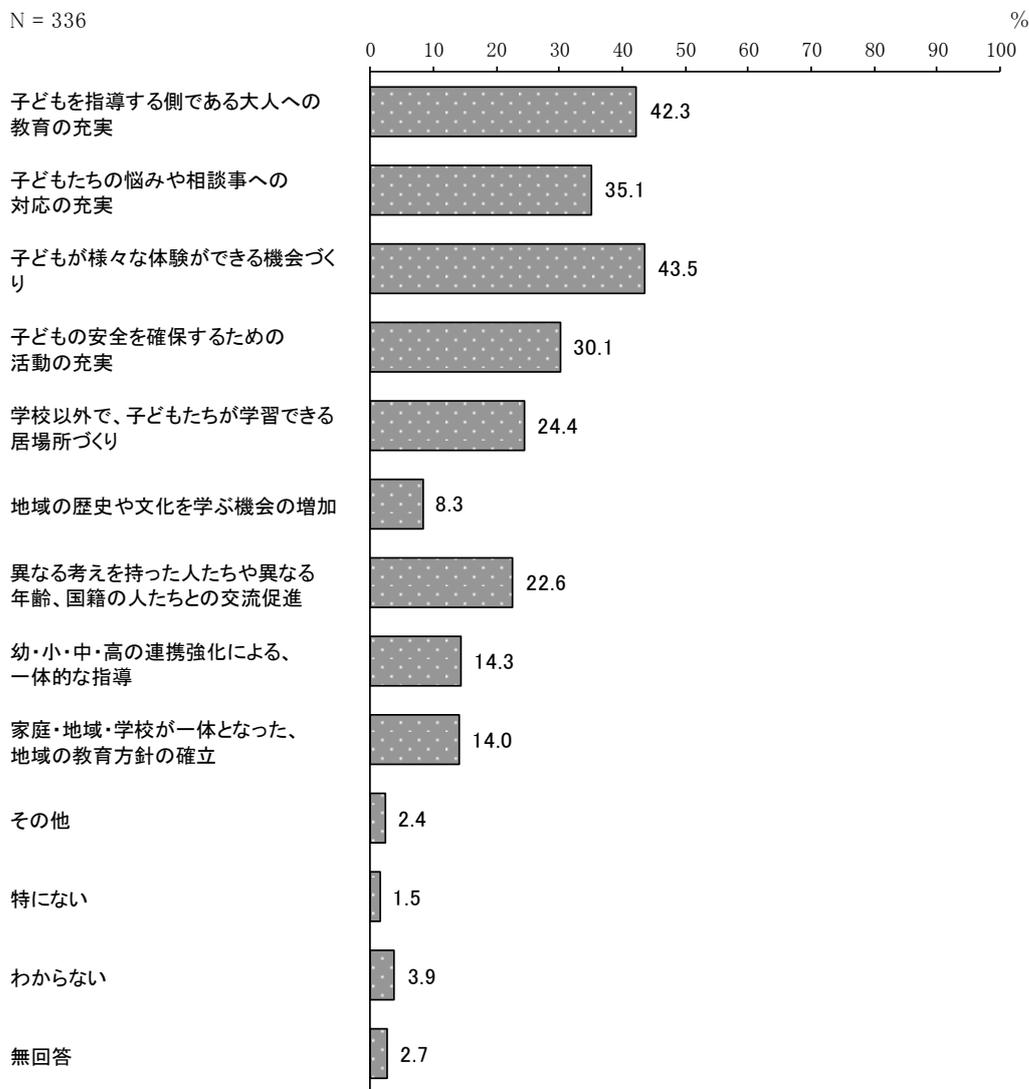
区分	有効回答数(件)	各教科の基礎的な学習指導の充実	健やかな身体の育成	体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	進路や将来の職業に対する指導の充実	教職員の資質の向上や人員体制の充実	学校施設・環境(校舎・校庭など)の充実	地域に開かれた学校運営
いる	150	34.7	24.7	43.3	27.3	31.3	16.0	3.3
いない	183	25.1	21.3	33.3	25.7	28.4	16.9	4.4

区分	いじめや不登校等の対策	一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	その他	特にない	わからない	無回答
いる	41.3	40.0	4.7	3.3	0.7	2.0	1.3
いない	42.6	30.1	12.6	3.3	1.6	3.3	2.7

問 28 可児市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことにか
を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「子どもが様々な体験ができる機会づくり」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「子どもを指導する側である大人への教育の充実」の割合が 42.3%、「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」の割合が 35.1%となっています。

N = 336



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」「学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもを指導する側である大人への教育の充実	子どもたちの悩みや相談事への対応の充実	子どもが様々な体験ができる機会づくり	子どもの安全を確保するための活動の充実	学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり	地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加
男性	114	41.2	28.9	41.2	30.7	21.1	12.3
女性	222	42.8	38.3	44.6	29.7	26.1	6.3

区分	異なる考えを持った人たちが異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進	幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導	家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立	その他	特にない	わからない	無回答
男性	22.8	13.2	15.8	1.8	0.9	7.0	2.6
女性	22.5	14.9	13.1	2.7	1.8	2.3	2.7

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「子どもの安全を確保するための活動の充実」「学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり」の割合が高くなっています。また、10歳代、30歳代に比べ、20歳代で「子どもを指導する側である大人への教育の充実」「家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立」「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	子どもを指導する側である大人への教育の充実	子どもたちの悩みや相談事への対応の充実	子どもが様々な体験ができる機会づくり	子どもの安全を確保するための活動の充実	学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり	地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加
10歳代	54	38.9	31.5	44.4	25.9	18.5	3.7
20歳代	100	46.0	43.0	37.0	29.0	23.0	10.0
30歳代	182	41.2	31.9	46.7	31.9	26.9	8.8

区分	異なる考えを持った人たちが異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進	幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導	家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立	その他	特にない	わからない	無回答
10歳代	27.8	20.4	9.3	—	1.9	7.4	5.6
20歳代	16.0	15.0	18.0	2.0	1.0	1.0	2.0
30歳代	24.7	12.1	13.2	3.3	1.6	4.4	2.2

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で「子どもが様々な体験ができる機会づくり」「子どもの安全を確保するための活動の充実」「学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり」「家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立」の割合が高くなっています。また、子どもがいる人に比べ、子どもがいない人で「子どもたちの悩みや相談事への対応の充実」「異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進」の割合が高くなっています。

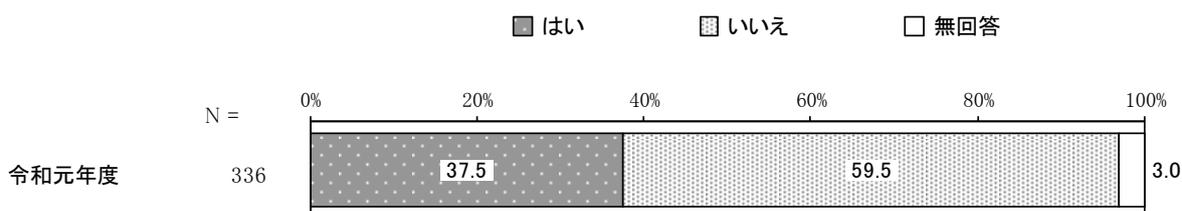
単位：％

区分	有効回答数（件）	子どもを指導する側である大人への教育の充実	子どもたちの悩みや相談事への対応の充実	子どもが様々な体験ができる機会づくり	子どもの安全を確保するための活動の充実	学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり	地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加
いる	150	40.0	30.7	51.3	37.3	27.3	8.0
いない	183	44.8	39.3	37.2	24.6	21.9	8.7

区分	異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進	幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導	家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立	その他	特になし	わからない	無回答
いる	19.3	12.7	20.0	3.3	0.7	3.3	2.0
いない	25.1	15.8	9.3	1.6	1.1	4.4	3.3

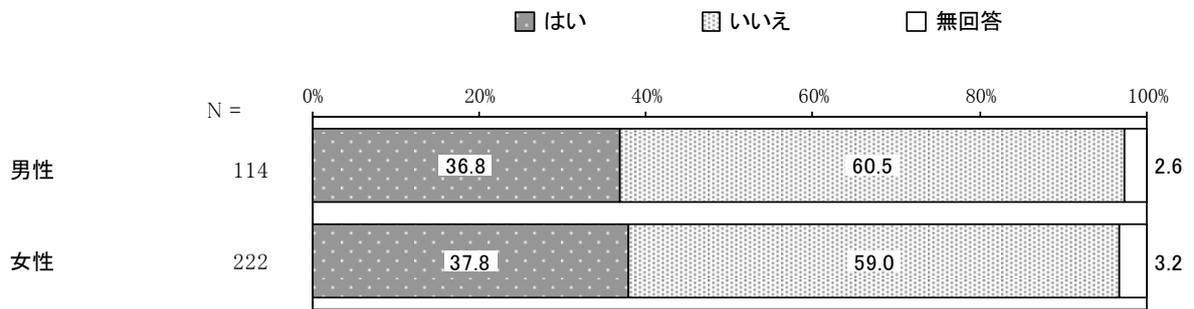
問 29 可児市では、子どものいじめの防止やいじめ問題の解消に重点的に取り組んでいます。
あなたは、学校以外にも子どものいじめに関して相談することができる次のような市の窓口があることを知っていますか。

「はい」の割合が37.5%、「いいえ」の割合が59.5%となっています。



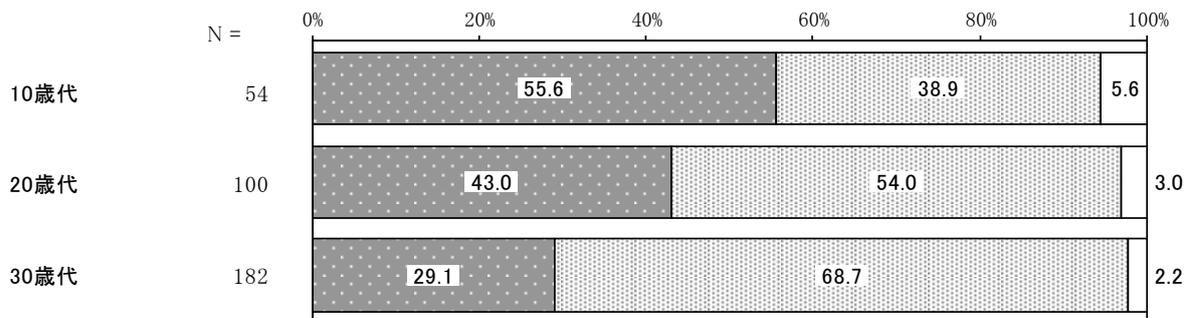
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「はい」の割合が高くなっており、10歳代で5割台半ばとなっています。



Ⅲ 調査票

1 全世代

問1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 |
| 4. 40歳代 | 5. 50歳代 | 6. 60歳代 |
| 7. 70歳代以上 | | |

問3 あなたには、子どもはいますか。(いる場合は子どもの世代も選択して下さい。)

- | | | | |
|----------------|--------|----------|------------|
| 1. いる(複数選択可) → | (1)未就学 | (2)小・中学生 | (3)高校生・大学生 |
| | (4)社会人 | (5)その他 | |
| 2. いない | | | |

問4 あなたの職業は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|------------|---------------|---------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. アルバイト・パート | 3. 派遣社員 |
| 4. 嘱託・契約社員 | 5. 自営業主・家族従業員 | 6. 内職 |
| 7. 家事専業 | 8. 学生 | 9. 無職 |
| 10. その他 | | |

問5 あなたは、どちらにお住まいですか。(自治連合会単位)

- | | | |
|---------|---------|-------------|
| 1. 今渡 | 2. 川合 | 3. 下恵土 |
| 4. 土田 | 5. 帷子 | 6. 春里 |
| 7. 姫治 | 8. 平牧 | 9. 桜ヶ丘ハイツ |
| 10. 久々利 | 11. 広見東 | 12. 広見 |
| 13. 中恵土 | 14. 兼山 | 15. 不明(地区名) |

問6 あなたは、お住まいの地区の自治会に加入していますか。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない(その理由) |
|-----------|------------------|

問7 お住まいの形態は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1. 戸建住宅(購入) | 2. 戸建住宅(相続) | 3. 戸建住宅(賃貸) |
| 4. 分譲マンション | 5. 賃貸マンション・アパート | 6. 公営住宅 |
| 7. 社宅等 | 8. その他() | |

問8 あなたは、可児市(合併前の兼山町を含む)にお住まいになって何年ですか。

- | | | |
|---------------|-------------|--------------|
| 1. 3年未満 | 2. 3年以上5年未満 | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上20年未満 | 5. 20年以上 | |
| 6. 生まれてからずっと | → 問11へ | |

【問8で1～5を選択された方に伺います】

問9 どのように可児市を転居先に選ばれましたか。(○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1. 可児市以外の選択肢はなかった |
| 2. 他の市町村と比較した
(比較した市町村を3つまで記入してください。 _____ ・ _____ ・ _____) |

【問8で1～5を選択された方に伺います】

問10 可児市を選んだ理由は何ですか。(○は1つだけ)

1. 地縁(出身地や親族がいるなど)	2. 友人や知人がいた
3. 通勤や通学に都合がよかった	
4. 暮らしやすいと感じた(該当の項目に○を記入)	
→ (1)子育てや教育環境の充実 (2)買物等の便利さ (3)医療や福祉環境の充実	
(4)手頃な住宅価格や家賃 (5)自然に恵まれた住環境 (6)文化活動・施設の充実	
5. 家族の事情(親の転勤など)	6. その他()
7. 特にない	

問11 あなたは日頃、市の情報をどのように収集していますか。

1. 広報紙	2. ケーブルテレビ
3. コミュニティFM	4. ホームページ
5. SNS(ツイッター、フェイスブック、LINEなど)	
6. 電子メール	7. 新聞
8. タウン誌(フリーペーパー)	9. 家族から
10. 知人から	11. 市職員から
12. 自治会などの集まりや回覧	
13. その他()	

問 12 可児市総合戦略の各施策について、「重要度」と「満足度」をおたずねします。
5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

可児市総合戦略の主な施策 (詳細については、別紙「案内文裏面」をご確認ください。)	重要度					満足度				
	重要ではない	あまり重要ではない	どちらでもない	やや重要	重要	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
(1)企業の誘致・拡張と活動の支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(2)地域産業の活力づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(3)「ひと」と「しごと」の好循環の構築	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(4)市の魅力の向上と発信	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(5)定住・移住の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(6)地域と市民の元気づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(7)子どもたちのふるさとを愛する心を育む	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(8)安心して子育てできる環境づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(10)結婚への機会づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(11)健康で暮らせる環境づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(12)支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(13)安心して暮らせる生活環境づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(14)必要な医療サービスが受けられる※	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(15)公園や緑地などの憩いの場の整備※	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

※可児市第四次総合計画の目標指標の評価のために作成した項目です。

問13 可児市に愛着はありますか。

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1. 愛着がある | 2. 愛着はない | 3. どちらともいえない |
|----------|----------|--------------|

【問13で1(愛着がある)を選択された方に伺います】

問14 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. 生まれ故郷だから | 2. 思い出があるから |
| 3. 生活の安全性が高いから(災害等) | 4. 生活の利便性が高いから(交通・買物等) |
| 5. 自然環境や景観が好きだから | 6. 人や地域が好きだから(人柄・つながり・地域活動等) |
| 7. 歴史・文化・芸術が好きだから | 8. 子育ての支援・環境が充実しているから |
| 9. 教育の質・環境が充実しているから | 10. 福祉の支援・環境が充実しているから(障がい・介護等) |
| 11. その他() | |

問15 あなたは、可児市に今後も住み続けようと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. ずっと可児市に住みたい | → 問16へ |
| 2. 可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい | |
| 3. できれば可児市以外に引越したい(引越し予定) | → 問17へ |
| 4. どちらともいえない | → 問18へ |

【問15で1または2(ずっと可児市に住みたい・可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい)を選択された方に伺います】

問16 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 家族と一緒に住みたいから |
| 2. 可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから |
| 3. 通勤・通学に便利だから |
| 4. 買物など生活するのに便利だから |
| 5. 自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから |
| 6. 人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等) |
| 7. 子どもを産み・育てる環境が充実しているから |
| 8. 保健・医療体制が整っているから |
| 9. 障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから |
| 10. 可児市に愛着があるから |
| 11. 可児市が故郷だから |
| 12. 他に住みたいところがないから |
| 13. その他() |

問16を答えた方 → 問18へ

【問15で3(できれば可児市以外に引越したい(引越し予定))を選択された方に伺います】

問17 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1. 可児市に働く場所がないから |
| 2. 進学や仕事の事情(転勤等)から |
| 3. 通学・通勤に不便だから |
| 4. 買物など生活するのに不便だから |
| 5. 娯楽や遊ぶ施設がないから |
| 6. 親との同居や結婚等の事情から |
| 7. 子どもを産み・育てる環境が充実していないから |
| 8. 保健・医療体制が整っていないから |
| 9. 障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから |
| 10. 故郷に戻るため |
| 11. その他() |

問 24 可児市の教育や学習に関する施策の「重要度」と「満足度」をおたずねします。
 5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。
 ※分からない場合は空欄に○を記入

教育や学習に関する施策	重要度 (今後、可児市が実施していく上での大切さの度合い)					満足度					
	重要ではない	やや重要ではない	どちらでもない	重要	非常に重要	不満	やや不満	どちらでもない	まあ満足	満足	わからない
(1) 幼児教育に関する施策の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(2) 学校施設の安全性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(3) 放課後の子どもの居場所づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(4) 地域に開かれた学校づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(5) 特色ある学校づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(6) 子どもの確かな学力の育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(7) 子どもへの健康教育や体力づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(8) 教職員の指導力の向上	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(9) 外国人児童への教育支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(10) 学校給食の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(11) 青少年の健全育成 (少年の主張大会、児童の見守り等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(12) 家庭教育に関する施策の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6

問 25 子どもたちを見て、ここ 10 年くらいの間に見え市の教育はどのように変わったと感ずますか。5 点満点で評価し、該当する数字を 1 つずつ○で囲んでください。
※分からない場合は空欄に○を記入

	悪くなつてい る	悪くなつてい るがこ とほ う	こ とほ うも こ とほ う	良 くなつてい る	良 くなつてい る	わ か ら な い
(1)子どもたちの学力	1	2	3	4	5	6
(2)基本的な生活習慣の定着	1	2	3	4	5	6
(3)あいさつなどの礼儀やマナー	1	2	3	4	5	6
(4)子どもたちの元気さ	1	2	3	4	5	6
(5)幼稚園や学校における教職員の指導力	1	2	3	4	5	6
(6)家庭の教育力	1	2	3	4	5	6
(7)地域の教育力	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体で地域の子どもを育てようとする意識の高まり	1	2	3	4	5	6
(9)家庭・地域・学校の連携による教育	1	2	3	4	5	6
(10)地域や家庭環境などによる教育格差	1	2	3	4	5	6

問 26 あなた、見え市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思ひますか。
(○は 3 つまで)

1. 思いやりややさしさを持った子ども	2. 個性が豊かな子ども
3. ルールやマナーを守る子ども	4. 自分の意見をはっきりと言へる子ども
5. 努力できる子ども	6. 責任感を持った子ども
7. 向上心やチャレンジ精神のある子ども	8. リーダーシップのある子ども
9. ふるさとを愛する子ども	10. その他 ()
11. 特にない	12. わからない

問 27 あなたは、見え市の学校教育の充実のためにどのような取り組みが必要だと思ひますか。
(○は 3 つまで)

1. 各教科の基礎的な学習指導の充実	2. 健やかな身体の育成
3. 体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	4. 進路や将来の職業に対する指導の充実
5. 教職員の資質の向上や人員体制の充実	6. 学校施設・環境(校舎・校庭など)の充実
7. 地域に開かれた学校運営	8. いじめや不登校等の対策
9. 一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	
10. 外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	
11. その他 ()	
12. 特にない	13. わからない

問 28 可児市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 子どもを指導する側である大人への教育の充実 |
| 2. 子どもたちの悩みや相談事への対応の充実 |
| 3. 子どもが様々な体験ができる機会づくり |
| 4. 子どもの安全を確保するための活動の充実 |
| 5. 学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり |
| 6. 地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加 |
| 7. 異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進 |
| 8. 幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導 |
| 9. 家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立 |
| 10. その他 () |
| 11. 特にない |
| 12. わからない |

問 29 可児市では、子どものいじめの防止やいじめ問題の解消に重点的に取り組んでいます。あなたは、学校以外にも子どものいじめに関して相談することができる次のような市の窓口があることを知っていますか。

- ・可児市いじめ防止専門委員会 相談室（可児市役所子育て支援課内、子ども相談ダイヤルTel 0120-263-115）
- ・心の電話相談室（可児市教育研究所、Tel63-2444）

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

【自由意見】

問 30 その他、可児市のこれからのまちづくりに関して、ご意見がありましたらお聞かせください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
アンケートは平成31年5月7日(火)までにご返送をお願いします。

2 若年層

問1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 |
| 4. 40歳代 | 5. 50歳代 | 6. 60歳代 |
| 7. 70歳代以上 | | |

問3 あなたには、子どもはいますか。(いる場合は子どもの世代も選択して下さい。)

- | | | | |
|----------------|--------|----------|------------|
| 1. いる(複数選択可) → | (1)未就学 | (2)小・中学生 | (3)高校生・大学生 |
| | (4)社会人 | (5)その他 | |
| 2. いない | | | |

問4 あなたの職業は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|------------|---------------|---------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. アルバイト・パート | 3. 派遣社員 |
| 4. 嘱託・契約社員 | 5. 自営業主・家族従業員 | 6. 内職 |
| 7. 家事専業 | 8. 学生 | 9. 無職 |
| 10. その他 | | |

問5 あなたは、どちらにお住まいですか。(自治連合会単位)

- | | | |
|---------|---------|-------------|
| 1. 今渡 | 2. 川合 | 3. 下恵土 |
| 4. 土田 | 5. 帷子 | 6. 春里 |
| 7. 姫治 | 8. 平牧 | 9. 桜ヶ丘ハイツ |
| 10. 久々利 | 11. 広見東 | 12. 広見 |
| 13. 中恵土 | 14. 兼山 | 15. 不明(地区名) |

問6 あなたは、お住まいの地区の自治会に加入していますか。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない(その理由) |
|-----------|------------------|

問7 お住まいの形態は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1. 戸建住宅(購入) | 2. 戸建住宅(相続) | 3. 戸建住宅(賃貸) |
| 4. 分譲マンション | 5. 賃貸マンション・アパート | 6. 公営住宅 |
| 7. 社宅等 | 8. その他() | |

問8 あなたは、可児市(合併前の兼山町を含む)にお住まいになって何年ですか。

- | | | |
|---------------|-------------|--------------|
| 1. 3年未満 | 2. 3年以上5年未満 | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上20年未満 | 5. 20年以上 | |
| 6. 生まれてからずっと | → 問11へ | |

【問8で1～5を選択された方に伺います】

問9 どのように可児市を転居先選ばれましたか。(○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1. 可児市以外の選択肢はなかった |
| 2. 他の市町村と比較した
(比較した市町村を3つまで記入してください。 _____ ・ _____ ・ _____) |

【問8で1～5を選択された方に伺います】

問10 可児市を選んだ理由は何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|---|-------------|
| 1. 地縁(出身地や親族がいるなど) | 2. 友人や知人がいた |
| 3. 通勤や通学に都合がよかった | |
| 4. 暮らしやすいと感じた(該当の項目に○を記入) | |
| → (1)子育てや教育環境の充実 (2)買物等の便利さ (3)医療や福祉環境の充実 | |
| (4)手頃な住宅価格や家賃 (5)自然に恵まれた住環境 (6)文化活動・施設の充実 | |
| 5. 家族の事情(親の転勤など) | 6. その他() |
| 7. 特にない | |

問11 あなたは日頃、市の情報をどのように収集していますか。

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. 広報紙 | 2. ケーブルテレビ |
| 3. コミュニティFM | 4. ホームページ |
| 5. SNS(ツイッター、フェイスブック、LINEなど) | |
| 6. 電子メール | 7. 新聞 |
| 8. タウン誌(フリーペーパー) | 9. 家族から |
| 10. 知人から | 11. 市職員から |
| 12. 自治会などの集まりや回覧 | |
| 13. その他() | |

問 12 可児市総合戦略の各施策について、「重要度」と「満足度」をおたずねします。
5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。

可児市総合戦略の主な施策 (詳細については、別紙「案内文裏面」をご確認ください。)	重要度					満足度				
	重要ではない	あまり重要ではない	どちらでもない	やや重要	重要	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
(1)企業の誘致・拡張と活動の支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(2)地域産業の活力づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(3)「ひと」と「しごと」の好循環の構築	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(4)市の魅力の向上と発信	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(5)定住・移住の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(6)地域と市民の元気づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(7)子どもたちのふるさとを愛する心を育む	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(8)安心して子育てできる環境づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(9)子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(10)結婚への機会づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(11)健康で暮らせる環境づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(12)支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(13)安心して暮らせる生活環境づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(14)必要な医療サービスが受けられる*	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(15)公園や緑地などの憩いの場の整備*	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

※可児市第四次総合計画の目標指標の評価のために作成した項目です。

問13 可児市に愛着はありますか。

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1. 愛着がある | 2. 愛着はない | 3. どちらともいえない |
|----------|----------|--------------|

【問13で1(愛着がある)を選択された方に伺います】

問14 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. 生まれ故郷だから | 2. 思い出があるから |
| 3. 生活の安全性が高いから(災害等) | 4. 生活の利便性が高いから(交通・買物等) |
| 5. 自然環境や景観が好きだから | 6. 人や地域が好きだから(人柄・つながり・地域活動等) |
| 7. 歴史・文化・芸術が好きだから | 8. 子育ての支援・環境が充実しているから |
| 9. 教育の質・環境が充実しているから | 10. 福祉の支援・環境が充実しているから(障がい・介護等) |
| 11. その他() | |

問15 あなたは、可児市に今後も住み続けようと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. ずっと可児市に住みたい | → 問16へ |
| 2. 可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい | → 問17へ |
| 3. できれば可児市以外に引越したい(引越し予定) | → 問18へ |
| 4. どちらともいえない | → 問18へ |

【問15で1または2(ずっと可児市に住みたい・可児市外へ出ても、将来的には可児市に戻りたい)を選択された方に伺います】

問16 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 家族と一緒に住みたいから |
| 2. 可児市内で働くつもりだから、またはこれからもずっと働くつもりだから |
| 3. 通勤・通学に便利だから |
| 4. 買物など生活するのに便利だから |
| 5. 自然や歴史が豊かな可児市の環境が好きだから |
| 6. 人との交流があるから(親戚・近所の人、友人等) |
| 7. 子どもを産み・育てる環境が充実しているから |
| 8. 保健・医療体制が整っているから |
| 9. 障がい者福祉、高齢者福祉が充実しているから |
| 10. 可児市に愛着があるから |
| 11. 可児市が故郷だから |
| 12. 他に住みたいところがないから |
| 13. その他() |

問16を答えた方 → 問18へ

【問15で3(できれば可児市以外に引越したい(引越し予定))を選択された方に伺います】

問17 その理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1. 可児市に働く場所がないから |
| 2. 進学や仕事の事情(転勤等)から |
| 3. 通学・通勤に不便だから |
| 4. 買物など生活するのに不便だから |
| 5. 娯楽や遊ぶ施設がないから |
| 6. 親との同居や結婚等の事情から |
| 7. 子どもを産み・育てる環境が充実していないから |
| 8. 保健・医療体制が整っていないから |
| 9. 障がい者福祉、高齢者福祉が充実していないから |
| 10. 故郷に戻るため |
| 11. その他() |

問 24 可児市の教育や学習に関する施策の「重要度」と「満足度」をおたずねします。
 5点満点で評価し、該当する数字を1つずつ○で囲んでください。
 ※分からない場合は空欄に○を記入

教育や学習に関する施策	重要度 (今後、可児市が実施していく上での大切さの度合い)					満足度					
	重要ではない	やや重要ではない	どちらともいえない	重要	非常に重要	不満	やや不満	どちらともいえない	まあ満足	満足	わからない
(1) 幼児教育に関する施策の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(2) 学校施設の安全性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(3) 放課後の子どもの居場所づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(4) 地域に開かれた学校づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(5) 特色ある学校づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(6) 子どもの確かな学力の育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(7) 子どもへの健康教育や体力づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(8) 教職員の指導力の向上	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(9) 外国人児童への教育支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(10) 学校給食の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(11) 青少年の健全育成 (少年の主張大会、児童の見守り等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
(12) 家庭教育に関する施策の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6

問 25 子どもたちを見て、ここ 10 年くらいの間に可児市の教育はどのように変わったと感じますか。5 点満点で評価し、該当する数字を 1 つずつ○で囲んでください。

※分からない場合は空欄に○を記入

	悪くなっている	悪くなっている どちらかといえば	どちらかといえば 悪くなっている	悪くなっている どちらかといえば	良くなっている	わからない
(1)子どもたちの学力	1	2	3	4	5	6
(2)基本的な生活習慣の定着	1	2	3	4	5	6
(3)あいさつなどの礼儀やマナー	1	2	3	4	5	6
(4)子どもたちの元気さ	1	2	3	4	5	6
(5)幼稚園や学校における教職員の指導力	1	2	3	4	5	6
(6)家庭の教育力	1	2	3	4	5	6
(7)地域の教育力	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体で地域の子どもの育てようとする意識の高まり	1	2	3	4	5	6
(9)家庭・地域・学校の連携による教育	1	2	3	4	5	6
(10)地域や家庭環境などによる教育格差	1	2	3	4	5	6

問 26 あなた、可児市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。

(○は 3 つまで)

1. 思いやりやさしさを持った子ども	2. 個性が豊かな子ども
3. ルールやマナーを守る子ども	4. 自分の意見をはっきりと言える子ども
5. 努力できる子ども	6. 責任感を持った子ども
7. 向上心やチャレンジ精神のある子ども	8. リーダーシップのある子ども
9. ふるさとを愛する子ども	10. その他 ()
11. 特にない	12. わからない

問 27 あなたは、可児市の学校教育の充実のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

(○は 3 つまで)

1. 各教科の基礎的な学習指導の充実	2. 健やかな身体の育成
3. 体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実	4. 進路や将来の職業に対する指導の充実
5. 教職員の資質の向上や人員体制の充実	6. 学校施設・環境(校舎・校庭など)の充実
7. 地域に開かれた学校運営	8. いじめや不登校等の対策
9. 一人一人の学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導	
10. 外国人児童・生徒などへのきめ細かな指導の充実	
11. その他 ()	
12. 特にない	13. わからない

問 28 可児市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを指導する側である大人への教育の充実 2. 子どもたちの悩みや相談事への対応の充実 3. 子どもが様々な体験ができる機会づくり 4. 子どもの安全を確保するための活動の充実 5. 学校以外で、子どもたちが学習できる居場所づくり 6. 地域の歴史や文化を学ぶ機会の増加 7. 異なる考えを持った人たちや異なる年齢、国籍の人たちとの交流促進 8. 幼・小・中・高の連携強化による、一体的な指導 9. 家庭・地域・学校が一体となった、地域の教育方針の確立 10. その他 () 11. 特にない 12. わからない |
|--|

問 29 可児市では、子どものいじめの防止やいじめ問題の解消に重点的に取り組んでいます。あなたは、学校以外にも子どものいじめに関して相談することができる次のような市の窓口があることを知っていますか。

- ・可児市いじめ防止専門委員会 相談室 (可児市役所子育て支援課内、子ども相談ダイヤルTel 0120-263-115)
- ・心の電話相談室 (可児市教育研究所、Tel63-2444)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

【自由意見】

問 30 その他、可児市のこれからのまちづくりに関して、ご意見がありましたらお聞かせください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
アンケートは平成31年5月7日(火)までにご返送をお願いします。

可児市市民意識アンケート調査
調査結果報告書

令和元年9月

発行：可児市 企画部 総合政策課